

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第318集

沢田 I 遺跡発掘調査報告書

三陸縦貫自動車道(山田道路)関連遺跡発掘調査

第二分冊 (四次調査)



(財) 岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

沢田 I 遺跡発掘調査報告書

三陸縦貫自動車道(山田道路)関連遺跡発掘調査

第二分冊 (四次調査)



沢田 I 遺跡全景（上方は房の沢IV遺跡）

例 言

- 1 この報告書は三陸縦貫自動車道山田道路建設に伴う沢田 I 遺跡の緊急発掘調査の報告である。
- 2 調査は四次に亘り、一～三次の調査報告が第 1 分冊に、四次調査の報告がこの第 2 分冊に収録されている。四次調査の調査面積や期間等は以下の通りである。
- 3 調査対象面積は6,200㎡（総面積11,680㎡）である。
- 4 発掘調査期間は平成9年4月7日～11月13日である。
- 5 調査担当者は千葉正彦・星雅之・川向聖子・佐藤良和である。
- 6 資料整理期間は平成9年11月1日～平成11年3月31日で、平成9年度の資料整理は千葉・星・川向が主にを行い、平成10年度は佐々木が担当した。
- 7 平成9年度の第四次調査で検出された遺構数は、縄文時代住居跡80棟、弥生時代住居跡7棟、古代住居跡9棟、竪穴状遺構6棟、建物跡1棟、土坑60基、焼土遺構4カ所、柱穴群2、溝跡1条である。
- 8 遺構の名称は一～三次に準じて行い、通し№を継承した。すなわち縄文時代住居跡はRA140から、古代住居跡はRA526から、竪穴状遺構はRE06から、土坑はRD109から、焼土遺構はRF23から、建物跡はRB01から、溝跡はRG03とした。
- 9 記載遺物は平成9年度の整理で選択したものを平成10年度にさらに数を絞り込んだ。しかし、カードに出上の記載があるにも関わらず、再確認できず掲載不可能な遺物もあった。
- 10 原稿執筆は平成9年の整理担当者の原稿をもとに、佐々木が統一して行った。特に執筆者の見解が強調されている部分は文末に名前を（ ）書きで表した。
- 11 編集は佐々木が行い、年度毎にまとめ、平成6～8年度は第1分冊、平成9年度は第2分冊にした。
- 12 火山灰の分析は古環境研究所に委託した。
- 13 炭化材の鑑定は木工舎「ゆい」に委託した。
- 14 石材の鑑定は花崗岩研究会に委託した。
- 15 埋設土器の残量濃度の分析は八戸高専の久保恵教授・千葉憲一技官の協力を得た。
- 16 黒曜石の分析は遺物分析研究所に、土器の胎土分析は奈良教育大学・三辻利一教授に、アスファルトの成分分析は北海道大学・小笠原正明教授に委託した。
- 17 図版に使用したスクリーントーンは以下の内容を示す。

焼土・赤色変化部分		炭化物	
羽口熔融部分		地山	
標 S	土器 P	鉄滓 I	方位 
- 18 この報告に使用された遺物や図面・写真等の記録は岩手県立埋蔵文化財センターに保管されている。

第四次調査の報告

野外調査 平成9年4月7日～11月13日

調査面積 6,200㎡

調査担当者 千葉正彦・星雅之・川向聖子・佐藤良和

目 次

巻頭カラー
例言

第 四 次 調 査 目 次

<p>1 基本土層9</p> <p>2 検出された遺構と遺物11</p> <p> A 北区11</p> <p> (1) 縄文時代11</p> <p> 竪穴住居跡 RA14011</p> <p> RA141～RA14314</p> <p> RA14419</p> <p> RA145～RA14820</p> <p> RA149・RA15026</p> <p> RA151・RA15232</p> <p> RA153～RA15538</p> <p> RA15641</p> <p> RA157～RA15942</p> <p> RA160～RA16348</p> <p> RA16451</p> <p> RA165～RA16761</p> <p> RA168・RA16965</p> <p> RA173・RA18067</p> <p> RA18171</p> <p> RA182・RA18372</p> <p> RA184・RA185・RA19176</p> <p> RA192～RA19480</p> <p> RA195・RA212・RA21385</p> <p> 竪穴状遺構 RE0685</p> <p> RE0889</p> <p> 土坑 RD70・RD83・RD84・RD8889</p> <p> RD103・RD10992</p> <p> 焼土遺構 RF2392</p> <p> (2) 古代94</p> <p> 竪穴住居跡 RA526・RA52794</p> <p> RA52896</p>	<p> RA52999</p> <p> RA530102</p> <p> RA531・RA544104</p> <p> (3) その他(時期不明)107</p> <p> 竪穴状遺構 RE10～RE12107</p> <p> 土坑 RD60107</p> <p> RD61～RD65111</p> <p> RD66～RD69・RD73・RD76113</p> <p> RD85・RD94・RD105115</p> <p> 溝跡 RG03115</p> <p> B 南区118</p> <p> (1) 縄文時代118</p> <p> 竪穴住居跡 RA170～RA172118</p> <p> RA175・RA176122</p> <p> RA186124</p> <p> RA188・RA189128</p> <p> RA190・RA197・RA198136</p> <p> RA199・RA201・RA202142</p> <p> RA203・RA204147</p> <p> RA205～RA207152</p> <p> RA208157</p> <p> RA209158</p> <p> RA210・RA211・RA214159</p> <p> RA215162</p> <p> RA216～RA218163</p> <p> RA219～RA223168</p> <p> RA224～RA226171</p> <p> 土坑 RD81171</p> <p> RD82・RD87・RD104・RD111174</p> <p> RD112～RD117177</p> <p> RD119179</p>
---	--

第158图 RA149·RA150造構遺物	30	第209·210图 RA526造構遺物	95
第159图 RA150遺物	31	第211图 RA527造構遺物	97
第160~163图 RA151造構遺物	33	第212·213图 RA528造構遺物	98
第164图 RA151·RA152造構遺物	37	第214~216图 RA529造構遺物	100
第165图 RA153·RA154造構遺物	39	第217图 RA530造構遺物	103
第166图 RA155造構遺物	40	第218图 RA531造構	105
第167图 RA155遺物	41	第219图 RA531·RA544造構遺物	106
第168图 RA156·RA157造構遺物	43	第220图 RE10造構	108
第169~171图 RA158造構遺物	44	第221图 RE11造構	109
第172图 RA158·RA159造構遺物	47	第222图 RE12·RD60·RD61造構	110
第173图 RA160·RA161造構遺物	49	第223图 RD62~69造構	112
第174图 RA161·RA162造構遺物	50	第224图 RD73·RD76·RD85·RD94·RD105 造構	114
第175~177图 RA163造構遺物	52	第225图 RG03造構遺物	116
第178~182图 RA164造構遺物	55	第226图 遺構配置图(市、西区)	117
第183图 RA164·RA165造構遺物	60	第227图 RA170造構遺物	119
第184·185图 RA166遺物	62	第228图 RA171·RA172造構遺物	120
第186图 RA166·RA167造構遺物	64	第229图 RA172遺物	121
第187图 RA167·RA168造構遺物	66	第230图 RA175造構遺物	123
第188图 RA168遺物	67	第231·232图 RA176造構遺物	124
第189·190图 RA169造構遺物	68	第233·234图 RA186造構遺物	126
第191图 RA169·RA173·RA180 造構遺物	70	第235~238图 RA188造構遺物	129
第192图 RA180遺物	71	第239~241图 RA189造構遺物	133
第193·194图 RA181造構遺物	73	第242·243图 RA190造構遺物	137
第195图 RA182造構遺物	75	第244·245图 RA197造構遺物	139
第196图 RA183造構	77	第246图 RA198造構遺物	141
第197图 RA183·RA184造構遺物	78	第247图 RA199造構遺物	143
第198图 RA185·RA191造構遺物	79	第248~250图 RA201造構遺物	144
第199·200图 RA192造構遺物	81	第251~253图 RA202造構遺物	148
第201图 RA192·RA193造構遺物	83	第254图 RA202·RA203造構遺物	151
第202图 RA194造構遺物	84	第255图 RA204造構遺物	153
第203图 RA195造構	86	第256·257图 RA205造構遺物	154
第204图 RA192~195造構	87	第258图 RA206·RA207造構遺物	156
第205图 RA212·RA213造構遺物	88	第259图 RA208造構	157
第206图 RE06·RE08·RD70·RD83 造構遺物	90	第260图 RA209造構	158
第207图 RD84·RD88造構遺物	91	第261图 RA210造構	160
第208图 RD103·RD109·RF23造構遺物	93	第262图 RA210·RA211造構遺物	161
		第263图 RA211造構遺物	162

写真図版157 · 158	RA151造構	353	写真図版195	RA526造構	391
写真図版159	RA152 · RA153造構	355	写真図版196	RA527造構	392
写真図版160	RA153 · RA154造構	356	写真図版197	RA528造構	393
写真図版161	RA154 · RA155造構	357	写真図版198	RA528 · RA529造構	394
写真図版162	RA156 · RA157造構	358	写真図版199	RA529造構	395
写真図版163	RA158造構	359	写真図版200	RA529 · RA530造構	396
写真図版164	RA158 · RA159造構	360	写真図版201	RA530造構	397
写真図版165	RA159 · RA160造構	361	写真図版202	RA531造構	398
写真図版166	RA161造構	362	写真図版203	RA531 · RA544造構	399
写真図版167	RA162造構	363	写真図版204	RA544 · RE10造構	400
写真図版168	RA163造構	364	写真図版205	RE11 · RE12造構	401
写真図版169	RA163 · RA164造構	365	写真図版206	RE12 · RD60~62造構	402
写真図版170 · 171	RA164造構	366	写真図版207	RD63~69 · RD73造構	403
写真図版172	RA165造構	368	写真図版208	RD76 · RD85 · RD94 · RD105 造構	404
写真図版173	RA166造構	369	写真図版209	RG03造構	405
写真図版174	RA166 · RA167造構	370	写真図版210	RA170造構	406
写真図版175	RA167造構	371	写真図版211	RA171造構	407
写真図版176	RA168造構	372	写真図版212	RA172造構	408
写真図版177	RA168 · RA169造構	373	写真図版213	RA175造構	409
写真図版178	RA169造構	374	写真図版214	RA176造構	410
写真図版179	RA173造構	375	写真図版215	RA186造構	411
写真図版180	RA180造構	376	写真図版216	RA188造構	412
写真図版181	RA180 · RA181造構	377	写真図版217	RA189造構	413
写真図版182	RA181 · RA182造構	378	写真図版218	RA190造構	414
写真図版183	RA182 · RA183造構	379	写真図版219	RA197造構	415
写真図版184	RA183 · RA184造構	380	写真図版220	RA198 · RA203造構	416
写真図版185	RA184 · RA185造構	381	写真図版221	RA199造構	417
写真図版186	RA185 · RA191造構	382	写真図版222	RA201造構	418
写真図版187	RA191 · RA192造構	383	写真図版223	RA202造構	419
写真図版188	RA193 · RA194造構	384	写真図版224	RA204 · RA205 · RA208 造構	420
写真図版189	RA195造構	385	写真図版225	RA204 · RA205造構	421
写真図版190	RA212 · RA213造構	386	写真図版226	RA206 · RA207造構	422
写真図版191	RA213 · RE06造構	387	写真図版227	RA207 · RA209造構	423
写真図版192	RE08 · RD70造構	388	写真図版228	RA209 · RA210造構	424
写真図版193	RD83 · RD84 · RD88 · RD103 造構	389	写真図版229	RA211造構	425
写真図版194	RD109 · RF23 · RA526 造構	390	写真図版230	RA211 · RA214造構	426

写真図版231	RA215遺構	427	写真図版270	RD89~91・RD93遺構	466
写真図版232	RA216・RA217・RA219 遺構	428	写真図版271	RD97~100遺構	467
写真図版233	RA217・RA218遺構	429	写真図版272	RD101・RD102・RD106・RD107 遺構	468
写真図版234	RA220・RA221遺構	430	写真図版273	RD110・RF21・RF22・RZ21 遺構	469
写真図版235	RA222・RA223遺構	431	写真図版274	RD71・RD72遺構	470
写真図版236	RA224遺構	432	写真図版275	RF20・RD74遺構	471
写真図版237	RA225遺構	433	写真図版276	RA140~143出土遺物	472
写真図版238	RA226・RD81・RD82遺構	434	写真図版277	RA144・145出土遺物	473
写真図版239	RD87・RD104・RD111・RD112 遺構	435	写真図版278	RA146・149出土遺物	474
写真図版240	RD113~RD116遺構	436	写真図版279	RA149~151出土遺物	475
写真図版241	RD117・RD119・RA174 遺構	437	写真図版280・281	RA151出土遺物	476
写真図版242	RA174遺構	438	写真図版282	RA152・RA153・RA155 出土遺物	478
写真図版243	RA177~RA179遺構	439	写真図版283	RA155・RA156・RA158 出土遺物	479
写真図版244	RA187遺構	440	写真図版284	RA158出土遺物	480
写真図版245	RA187・RA196遺構	441	写真図版285	RA158・RA160~163 出土遺物	481
写真図版246	RA196・RA200遺構	442	写真図版286	RA163出土遺物	482
写真図版247	RA200・RA532遺構	443	写真図版287	RA164出土遺物	483
写真図版248	RA532遺構	444	写真図版288	RA164~166出土遺物	484
写真図版249	250 RA533遺構	445	写真図版289	RA166~168出土遺物	485
写真図版251	RA534遺構	447	写真図版290	RA168・RA169出土遺物	486
写真図版252	RA535遺構	448	写真図版291	RA169出土遺物	487
写真図版253	RA535・RA536遺構	449	写真図版292	RA180~RA182出土遺物	488
写真図版254	RA536遺構	450	写真図版293	RA183・RA191・RA192 出土遺物	489
写真図版255	256 RA537遺構	451	写真図版294	RA192出土遺物	490
写真図版257	RA538遺構	453	写真図版295	RA194・RA213・RD83・RD88・ RD103・RD109・RF23 出土遺物	491
写真図版258	259 RA539遺構	454	写真図版296	RA526~RA528出土遺物	492
写真図版260	261 RA540遺構	456	写真図版297	RA529~RA531出土遺物	493
写真図版262	RA541遺構	458	写真図版298	RA544・RE11・RG03 出土遺物	494
写真図版263	RA542・RA543遺構	459	写真図版299	RA170~RA172出土遺物	495
写真図版264	RA543遺構	460			
写真図版265	266 RB01遺構	461			
写真図版267	RD77・RD78・RD86・RD92 遺構	463			
写真図版268	RD108・RD120・RE09遺構	464			
写真図版269	RE09・RD79・RD80遺構	465			

写真図版300	RA172・RA175・RA176 出土遺物 ……………496	写真図版314	RA174出土遺物 ……………510
写真図版301	RA186出土遺物 ……………497	写真図版315	RA174・RA177出土遺物 ……511
写真図版302	RA186・RA188出土遺物 ……498	写真図版316	RA177・RA187・RA196 出土遺物 ……………512
写真図版303	RA188出土遺物 ……………499	写真図版317	RA200・RA532~RA534 出土遺物 ……………513
写真図版304	RA188・RA189出土遺物 ……500	写真図版318	RA534~RA536出土遺物 ……514
写真図版305	RA189・RA190出土遺物 ……501	写真図版319	RA537~RA540出土遺物 ……515
写真図版306	RA190・RA197出土遺物 ……502	写真図版320	RA540・RA541・RA543・RD72 RD92・RD99・RD108・RD120 出土遺物 ……………516
写真図版307	RA197~199・201出土遺物 …503	写真図版321~333	遺構外出土遺物 (土器) ……………517
写真図版308	RA201・202出土遺物 ……………504	写真図版334	遺構外出土遺物 (土器・鉄製品) ……………530
写真図版309	RA202出土遺物 ……………505	写真図版335	遺構外出土遺物(鉄製品・ 土製品・石器) ……………531
写真図版310	RA202・RA204・RA205 出土遺物 ……………506	写真図版336~341	遺構外出土遺物 (石器) ……………532
写真図版311	RA205・RA206出土遺物 ……507		
写真図版312	RA210・RA211・RA214~217 出土遺物 ……………508		
写真図版313	RA219・RA223・RA224・ RD82・RD111~113・RD115・ RD117・RD119出土遺物 ……509		

1 基本土層

四次調査の基本土層については、二次・三次調査で設定したものを基本とし、大きく5層に大別した。ただし、一〜三次調査が中央付近から南部の範囲だったのに対し、四次調査は北部・西部を含めた広範囲となり、傾斜地と平坦部では土層の堆積状況が異なっている。また、今年度の調査では十和田中振火山灰の存在が明らかになった。十和田中振火山灰は、主に縄文時代前期前葉の竪穴住居跡の埋土上位に堆積し、同火山灰層が前期の竪穴住居跡検出の鍵層となっている。よって基本となる5層の中で、遺構の検出・精査に中振火山灰がからむⅡ層黒色土を細分し、調査を進めた。

土層観察用に設定し実測を行った土層ベルトの中から、第142図に示した部分が遺跡の土層を網羅的に把握できると判断し、基本土層設定の資料とした。基本土層を以下に示したのち、調査地北部、南部、西部の土層の状況について説明する。

- I層 表土 耕作土・礫土、層厚30~100cm
- II層 黒色〜暗褐色シルト 粘性弱、締まりやや粗、縄文〜古代の遺物混入、層厚20~50cm、a~fに細分される
 - IIa 黒褐色シルト 粘性やや弱、締まりやや密、層厚10~20cm
 - IIb 黒〜黒褐色シルト 粘性やや弱、締まり疎、層厚30~50cm、北部では古代の遺構確認面となる。
 - IIc 黒褐色シルト 粘性中、締まりやや疎、小礫少量混入、層厚10~20cm、南部では古代の遺構確認面
 - IId しぶい黄褐色〜暗褐色シルト 粘性中、締まりやや密、局所的に十和田中振テフラの小ブロックが混入、層厚10~25cm
 - IIe 黒褐色シルト 粘性やや強、締まりやや密、層厚15~25cm
 - IIf 黒褐色シルト 粘性やや強、締まりやや密、花崗岩風化小礫混入、層厚5~20cm
- III層 しぶい黄褐色シルト 粘性弱 締まりやや疎、礫少量混入、層厚10cm
- IV層 黄褐色砂質土 粘性やや弱、締まり密、小礫10%混入、層厚5~10cm、a・b層に細分される。
 - IVa 褐色粘土質土 粘性強、締まり密、小礫微量混入部、層厚5~20cm
 - IVb 黄褐色礫層 粘性中、締まり密
- V層 黄褐色粘上質土 粘性強、締まり密、a~cに細分される
 - Va 黄褐色粘上質土 粘性やや強、締まり中、粒径20~30cmの角礫多量に混入
 - Vb 明褐色砂質土 粘性弱、締まりやや密、風化花崗岩層
 - Vc 黄褐色粘上質土 粘性やや強、締まりやや密、砂土混入

調査地北部は、北西から南東方向に緩く傾斜する地形で、宅地と水田が造成された跡地となっていた。そのため削平や盛り土がなされていた。第142図1・2が調査地北部の土層断面で、上位からI、II、IIa、IIc、III、IV、V層となる。十和田中振テフラの堆積は、前期前葉の竪穴住居跡内からのみ確認され、竪穴住居はIII層上面で検出され、壁はIII〜V層となることから同テフラはIII層より新しいことは明確である。IId層は住居跡内の埋土に連続しないのでその前後関係は明確でない。

調査地南部は、北部同様に北西から南東方向に緩く傾斜する地形であるが、傾斜は北部より緩く、東側に向かうほど平坦化する。果樹園や宅地に利用されていたが大きな削平はないようである。第142図に示した3・5・6を基本7層とした。場所により表上から基盤層までの堆積土壌が異なるが、概ね上位からI、IIb、

IIc、IIe、IIf、III、IVa、IVb、V層の順に堆積する。

一次調査の際にI層とIIb層が全面除去されており、四次調査では第142図4・6で確認できた。IIc層上部付近が古代の遺構検出面となる。北部同様十和田中振火山灰が前期前葉の竪穴住居跡内からのみ検出された。南端部のベルト6の観察から十和田中振火山灰はIIf層より新しいことが把握できたが、IIe層との前後関係はつかめなかった。IIe層は調査地北部のII d層に類似し、土色が違うだけの可能性もある。II f層は南端部のR13・14～S13・14グリッド付近のみで確認されている。この層は木1～2a式の土器群だけが多量に含まれている。

調査地西部は山麓斜面部に相当し、東に急勾配で傾斜する。I・II層の層厚が厚い場所と、薄く花崗岩風化礫層が露出しかかっているところがある。標高は25～40mである。

標高30m前後の中腹付近に幅2～3mの平坦地が等高線に沿うように作り出されているが、基本土層は前後とほとんど変わらない。(里)

2 検出された遺構と遺物

平成9年度の第四次調査で検出された遺構は縄文時代住居跡80棟、弥生時代住居跡7棟、古代住居跡19棟、竪穴状遺構6棟、建物跡1棟、土坑60基、焼土遺構4カ所、柱穴群2、溝跡1条である。調査区は北・南・西の3地区に分けられているので、以下に各地区毎に時代順に記載した。時期不明とした遺構は古代より古いものから近代の可能性のあるものまで含まれる。

この中で特に注目されるのが沿岸部で数少ない弥生時代の集落跡、縄文時代前期のロングハウス形の大規模住居跡群である。両者とも南区で検出されている。

A 北区

北区で検出された遺構は縄文時代の竪穴住居跡40棟・竪穴状遺構2棟・土坑6基・焼土遺構1、古代の竪穴住居跡7棟、時期不明の竪穴状遺構3棟・土坑15基・溝跡1条である。

(1) 縄文時代

竪穴住居跡

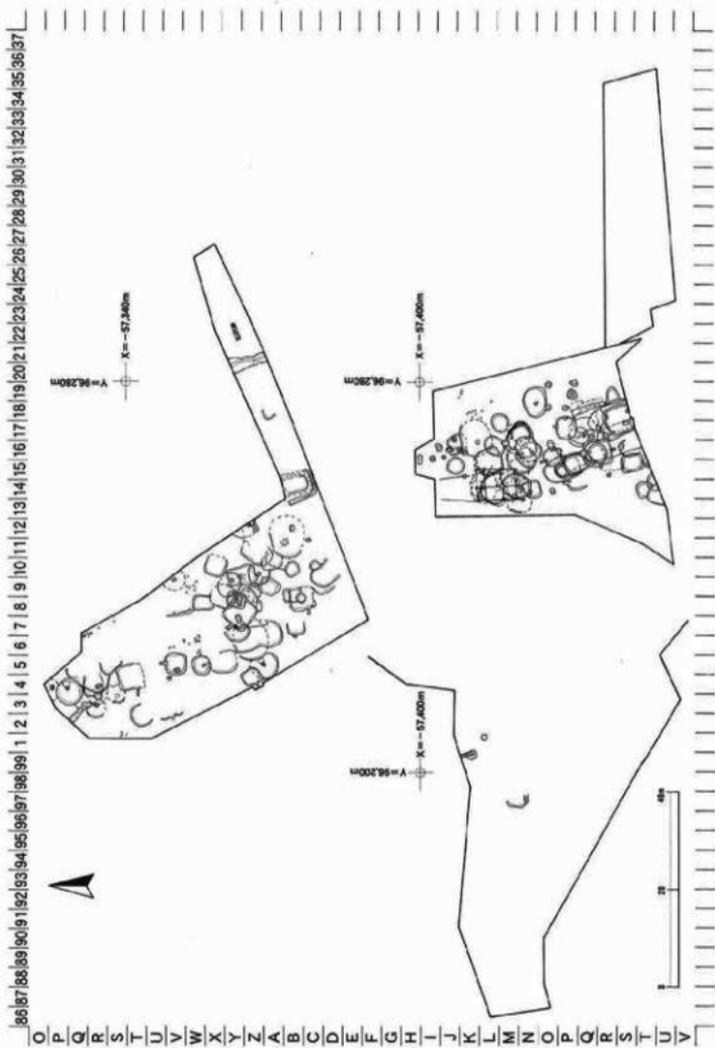
RA140 (図版: 145, 写真図版: 143・144・276)

北寄りのT2グリッド付近に位置し、V層で検出した。開田時の削平で南側は消失している。平面形は円形を呈していたようで、規模は直径4m前後と推定される。残存部の壁は直立気味に外傾して立ち上がり、壁高は最大50cmである。床面はほぼ平坦で北西に一段高いベッド状の高まりがある。壁は削平された部分にあったようで、残存しない。柱穴は6基確認されているが、そのうちのpp1～pp3の3基と削平部分にあったと推定される1基が配置や深さから主柱穴だったと考えられる。主柱穴の規模は開口部径20～30cm、深さ50～60cmである。北側の壁際には深さ10～15cmの壁溝が断続的に巡っている。ベッド状の高まりは壁のカーブと平行で長さ2.5m・幅80cmに作られ、床からの高さは10cmほどである。

埋土は主に黒褐色土で構成され、床面近くは砂礫が混入し、締まりはやや密である。

出土遺物は床面や埋土から縄文土器が約0.8kg得られており、中期後葉の木9式期に相当するものが主となる。

遺構の時期も縄文時代中期後葉と思われる。



第 143 圖 第四次調査遺構配置圖

RA141 (図版: 146, 写真図版: 144・146・276)

北部調査地北寄りのR1グリッドに位置し、RA140住居跡の北東にある。南側を古代のRA526住居跡に切られている。IIbからIII層で検出したが、地山と埋土の区別がつかず北側の壁の範囲が不明瞭で、東から南側の壁の一部のみが残存する。残存部から推定し、直径3mほどの円形を呈していたようである。残存部の壁高は最大5cmである。床面はほぼ平坦で中央付近に地床炉がある。柱穴はpp1~pp4の4基が該当するようであるがpp1は壁際にある。柱穴の規模は開口部径20~30cm・深さ40cm前後である。

埋土は炭化物を少量含む黒褐色土で構成されている。

炉は径50cmほどの浅いくぼみに形成され、焼土は最大厚4cmである。

出土遺物は検出面付近と床面付近からあわせて約3.2kgの土器片と磨製石斧2点が得られている。中期中葉の大木8b式期や後葉の大木9式期のものが主体となる。146-1~3が床面上出の上器片である。磨製石斧は1点は基部が、もう1点は刃部が破損している。

遺構の時期は縄文時代中期後葉と思われる。

RA142 (図版: 147, 写真図版: 145・146・276)

調査地北端のP2グリッドに位置している。遺構の北側は調査地外に続き、南側をRA144住居跡に切られている。西側の壁の一部と石組み炉が検出されている。残存部から平面形は直径4.5~5mの円形と推測される。壁の立ち上がりは明瞭でないが直立気味で、西端の上層断面部分では高さ30cmほどある。埋土は主に黒褐色土で構成され、締まりはやや密である。

床面はほぼ平坦で、締まりはやや密である。柱穴状の土坑pp1~pp3が検出されており、北側の調査地外に対応する土坑があると思われる。規模は開口部径30~40cm・深さ20~30cmである。

炉は板状の花崗岩礫を長方形に組み合わせ、二つ重ねて作られている。石組みの大きさは幅50cm・長さ80cmほどで中央寄り西側で仕切られた感じである。焼土は床面と同じレベルに形成されており、炉を埋め戻してから使用したようである。焼土の厚さは最大3cmである。

遺物は、埋土から大木9式相当の土器片を主に約0.2kgと磨石1点が得られている。147-3は大木9式期、147-4は大木8b式期相当である。147-5はやや扁平な磨石である。平らな面に磨面が形成され、周縁を破損している。

遺構の時期は縄文時代中期後葉と思われる。

RA143 (図版: 148・149, 写真図版: 147・148・276)

北寄りのR2~3グリッドに位置している。複数の遺構と重複しており、東側でRA152を切っており、北東側はRA148に切られている。そのため西側の壁と炉が残存する。残存部から平面形は直径4.5mの円形だったと推測される。壁は内湾気味に外傾して立ち上がり、西側の高さは20cmほどである。埋土は小礫を微量に含む暗褐色土で構成され、締まりはやや疎である。

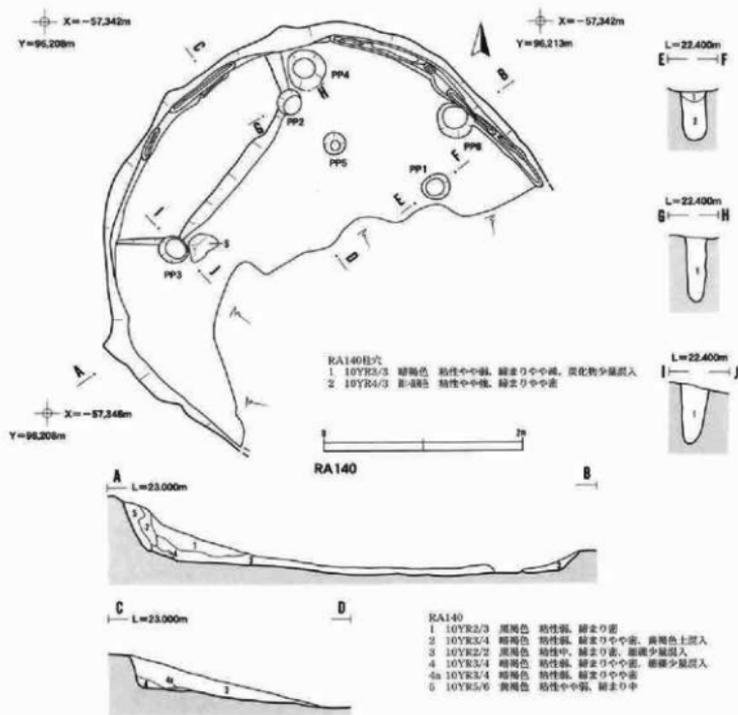
床面は平坦で、締まりはやや密である。中央に板状の礫を方形に組み合わせた石囲炉があり、そこから東側に前庭部と思われる浅い掘り込みが扇形に広がる。石組みの大きさは外寸で一辺70cm。前庭部は先端で幅1.1m・長さ1.4mである。石組みは掘り込んできちっと埋め込まれているが、焼土の形成は痕跡程度である。

炉を中心に南北と西に柱穴状土坑が検出されている。また北西にも柱穴状の土坑が2基並んでいる。これ

らのうちpp3～pp5と東側にあったと思われる柱穴が対になっていた可能性がある。柱穴の規模は開口部径20～30cm・深さ20～30cmである。

出土遺物は、約3.7kgの縄文土器片と磨製石斧1点が得られている。148-1は炉に埋設されていたもので、1～9は埋土からの出土である。器形は深鉢が主のようである。大木9式期相当のものと8b式期相当のものがある。149-10は薄く細長い形状の磨製石斧で、完形品である。

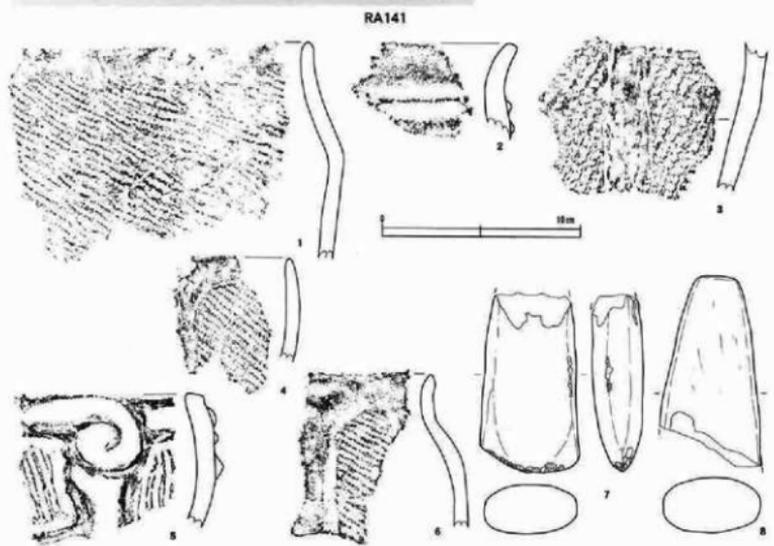
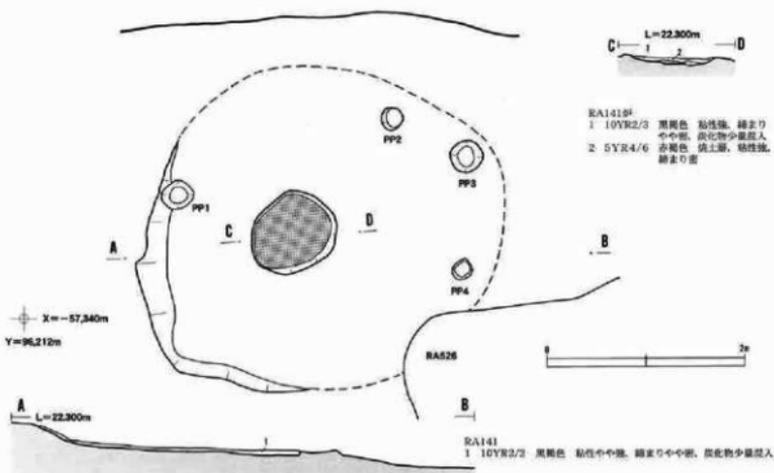
遺構の時期は縄文時代中期後葉と思われる。



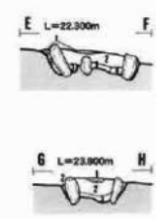
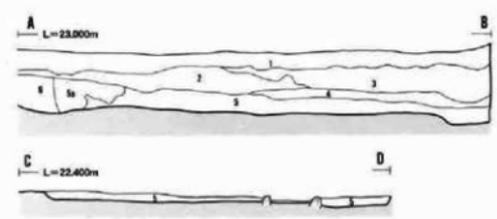
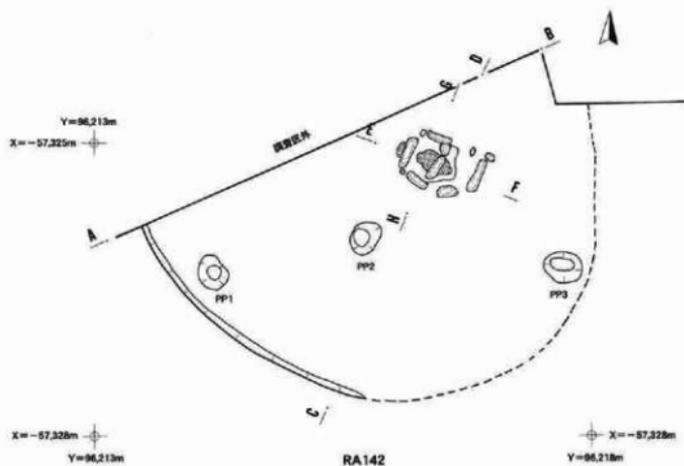
第145図 RA140住居跡

X=-57,336m
Y=96,212m

X=-57,336m
Y=96,218m

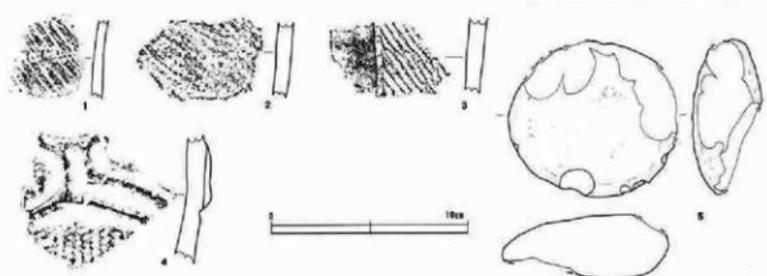


第146図 RA141住居跡

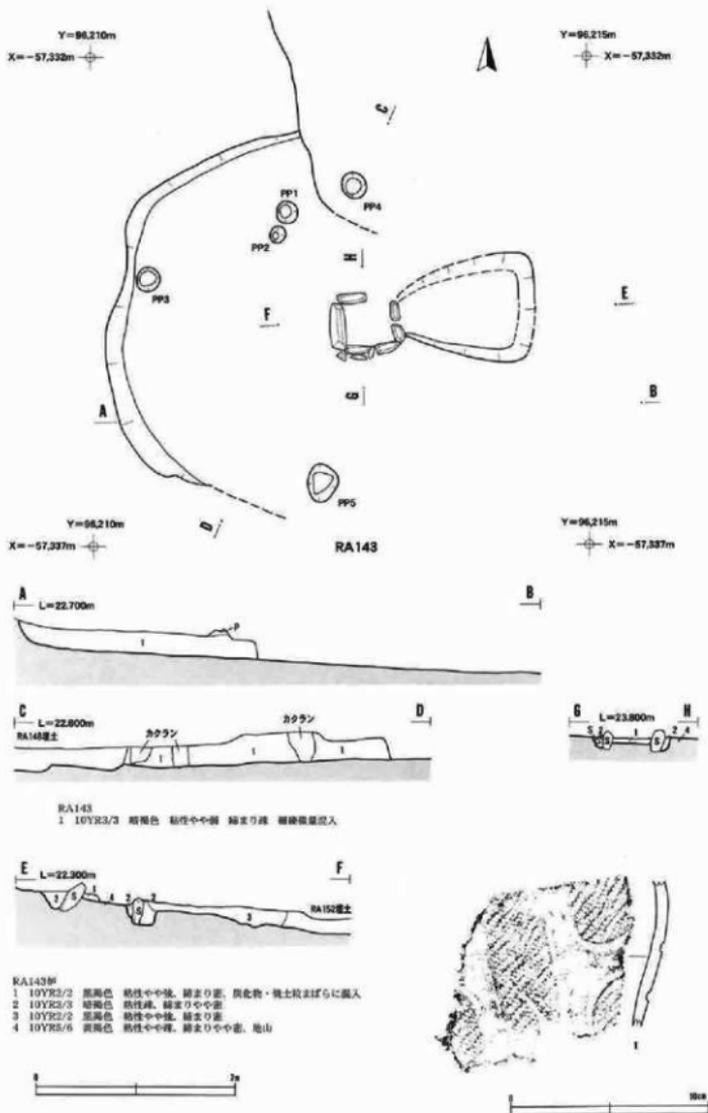


- RA142
- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性やや弱、締まりやや密
 - 2 10YR2/2 黒褐色 黄褐色土との混合層、粘性中、締まりやや密
 - 3 10YR6/7 赤褐色 粘性中、締まり中、砂礫多量に混入
 - 4 10YR3/2 黒褐色 粘性中、締まり中、小礫少量混入
 - 5 10YR2/3 黒褐色 粘性中、締まりやや密
 - 6a 10YR3/2 黒褐色 粘性やや弱、締まりやや密
 - 6 10YR3/1 黒褐色 粘性中、締まりやや密

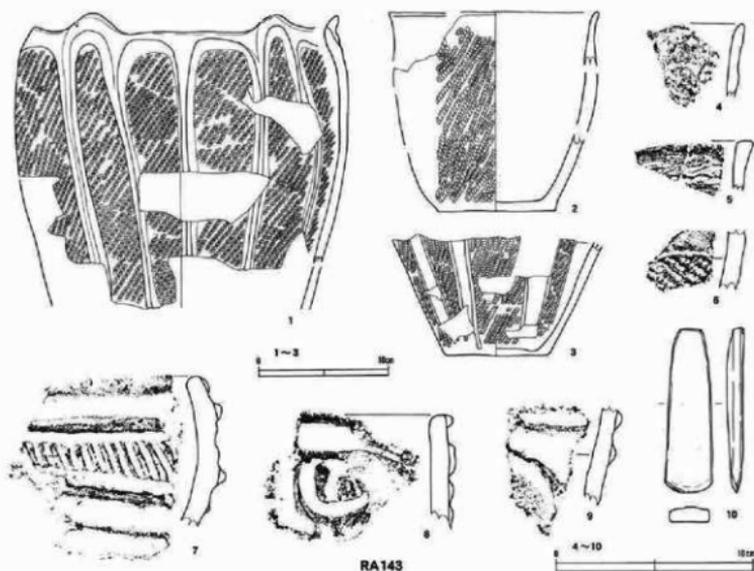
- RA142B
- 1 10YR4/6 赤褐色 粘土層
 - 2 10YR3/3 黒褐色 粘性強、締まりやや密
 - 3 10YR5/4 赤褐色 粘性やや強、締まり密
 - 4 10YR1/2 黒褐色 粘性やや強、締まりやや密



第147図 RA142住居跡



第148図 RA143 (1) 住居跡



第149図 RA143 (2) 住居跡出土遺物

RA144 (図版：150～152, 写真図版：148・149・277)

北部調査地北端のQ2グリッド付近に位置し、Ⅱb層中に検出された。平面形は直径約5.5mの円形を呈し、壁は内湾気味に外傾して立ち上がり、西側で高さ約50cmである。埋土は炭化物や繊維が混入する暗褐色土で構成され、締まりは中である。床面は平坦で西寄りには巨礫が露出している。中央付近は貼り床されており、東寄りに複式炉がある。断続する壁溝が4条巡り、検出の状況は内側の壁溝ほど古いので、4時期の拡張があったようである。壁溝は幅10～20cm・深さ5～20cmである。南と西寄りに柱穴状の小土坑が4基あるが、浅いことや対応する土坑が確認されなかったことから柱穴の可能性は少ない。

複式炉は70cm×80cmの石組みと幅1.7m・長さ1.2mの扇形の前庭部からなる。炉内に焼土の形成は見られない。また、石組みの北側に直径40cmほどの薄い焼土がある。貼り床の上である。

出土遺物は床面上や埋土から約13.5kgの土器片と石礫2点が得られている。151-1～5は炉からの出土、6～9は床面から、他は埋土からの出土遺物である。胴部上位が膨らむキャリバー形の深鉢が多い。文様は沈線と磨消帯で「O」字形や「U」字形に区画する中期後葉の大木9式期に相当する。152-5・6は無茎石礫で、ほぼ二等辺三角形に作られている。

遺構の時期は縄文時代中期後葉と思われる。

RA145 (図版: 152, 写真図版: 150・277)

北部調査区中央のX7グリッド付近に位置し、IV層上部で検出した。土層断面を見るとIII層上面から掘り込まれていたようである。南側をRA158住居跡に切られている。平面形は長方形を呈し、規模は長さ3.7～4.2m・幅2.6～2.7mである。壁は外傾し、壁高は西側40cm・東側50cmである。埋土上位には鈍い黄褐色の十和田中礫浮石がレンズ状に堆積し、床面付近は暗褐色土で構成され、締まりは密である。

床面はほぼ平坦で、東側に傾斜する。壁際に径10cm・深さ20cmほどの柱穴状土坑が断続的に検出され、特に東壁には7つ確認された。また中央と東寄りに径20cm・深さ25cmほどの柱穴状土坑が2基ある。炉は検出されていない。

出土遺物は縄文時代前期前葉の大木1式や大木2a式に相当する土器を主体に約0.4kgの土器片と石鏃1点が出土している。

遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

RA146 (図版: 153, 写真図版: 151・152・278)

東寄りのW10グリッド付近に位置し、IV層上で検出した。開田時の造成で削平を受けており、石囲炉と西側壁の一部のみの検出である。残存部から推定し、直径約3.4mの円形状の平面形を呈していたようである。残存部の壁高は5cmほどで、外傾して立ち上がる。埋土は暗褐色土で構成され、締まりは密である。

石囲炉は板状の花崗岩塊を組み合わせ埋め込み、65×80cmの長方形に作られている。炉内及び周辺には焼土の形成は見られない。

出土遺物は中期後葉の大木9式期に相当する土器片が約1.8kgと磨製石斧1点が出土している。器形は深鉢で、キャリバー形を呈するものもある。磨製石斧は刃部が破損している。

遺構の時期も中期後葉と思われる。

RA147 (図版: 154, 写真図版: 152・153)

南西側斜面部B5グリッド付近に位置し、表上除去後に検出された。西側でRD83土坑を切っている。斜面部のせいか東側の壁は残存しない。平面形は隅丸方形で、残存する壁は直立気味に立ち上がる。規模は軸長約3.7m、壁溝は西側で30cmである。埋土は主に黒褐色土で構成され、締まりは中である。

床面はほぼ平坦で、中央付近に柱穴状土坑が1基ある。規模は開口部径25cm・深さ40cmである。炉は検出されていない。

出土遺物は重複するRD83土坑付近から約0.3kgの縄文時代中期の土器片が得られている。

時期は中期と推定されている。

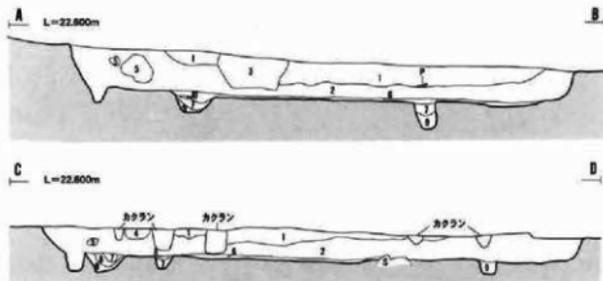
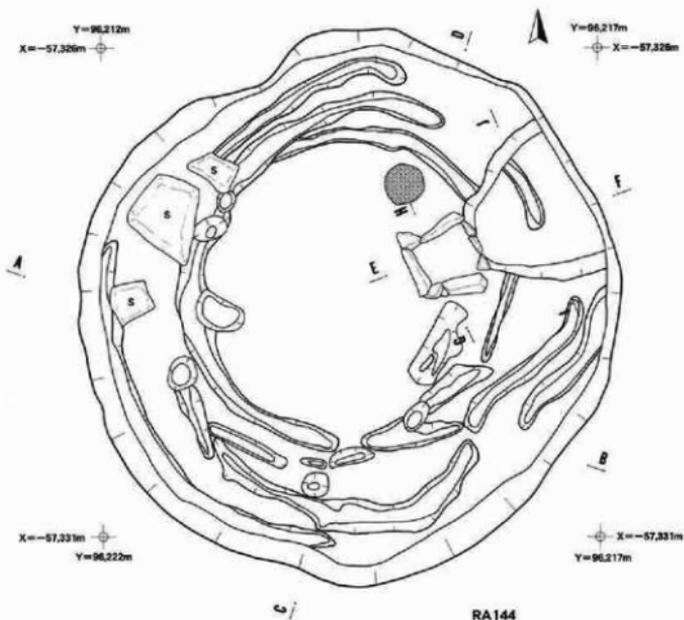
RA148 (図版: 154, 写真図版: 153)

北端寄りのR3グリッド付近に位置している。RA143住居の東側を切って構築され、さらに東側をRA144住居跡に切られている。そのため西側壁のみが残る。平面形は隅丸方形と推定され、西側の壁は外傾して立ち上がる。規模は軸長約3.8m、壁高は10～20cmである。埋土は不明。

床面はほぼ平坦で、南西寄りに柱穴状土坑が1基ある。炉は検出されていない。

出土遺物は無い。

遺構の時期は縄文時代中期後葉のRA143住居跡を切り、同じく中期後葉のRA144住居に切られていることが



RA144

- | | | | | |
|----|----------|------|-------------------------|------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒 | 褐色 | 粘性やや強、締まり強 |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 粘性やや強、締まり中、腐殖・炭化物少量混入 | |
| 3 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 粘性強、締まりやや強 | |
| 4 | 10Y2.5/5 | 黄褐色 | 暗褐色土との混合層、粘性やや強、締まりやや強 | |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 粘性やや強、締まりやや強、黄褐色土粒少量混入 | |
| 6 | 10YR2/3 | 暗褐色 | 褐色土との混合層、粘性やや強、締まり強、結核層 | |
| 7 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 粘性強、締まり強 | |
| 8 | 10YR5/4 | 灰褐色 | 粘性やや強、締まりやや強 | |
| 9 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 粘性強、締まりやや強 | |
| 10 | 10YR4/4 | 褐色 | 粘性強、締まりやや強 | |



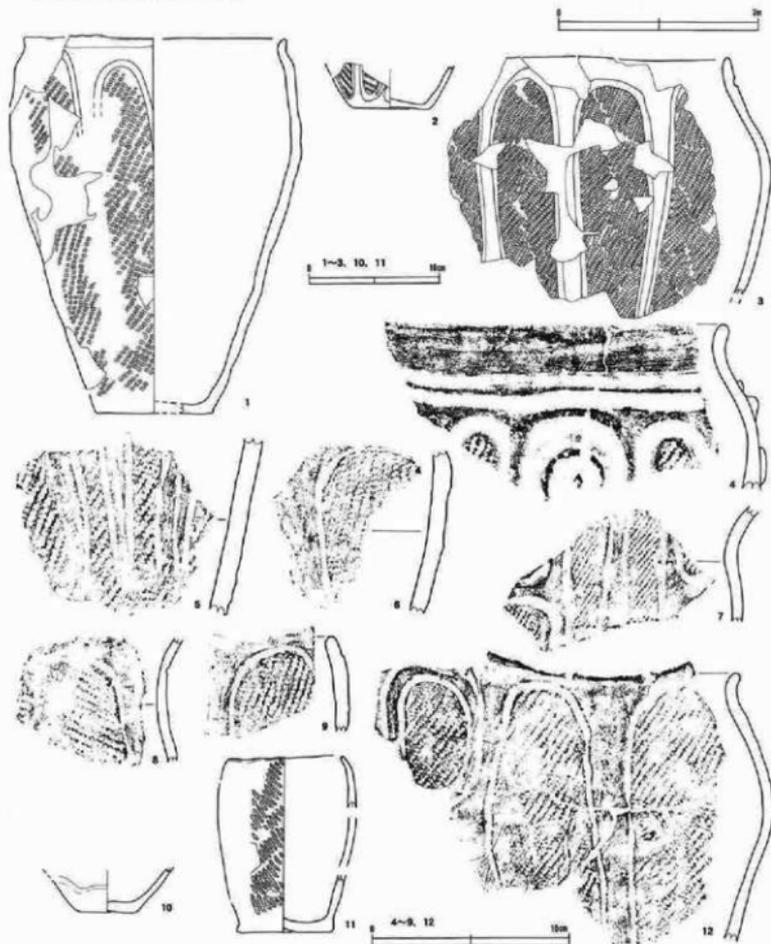
第150図 RA144 (1) 住居跡



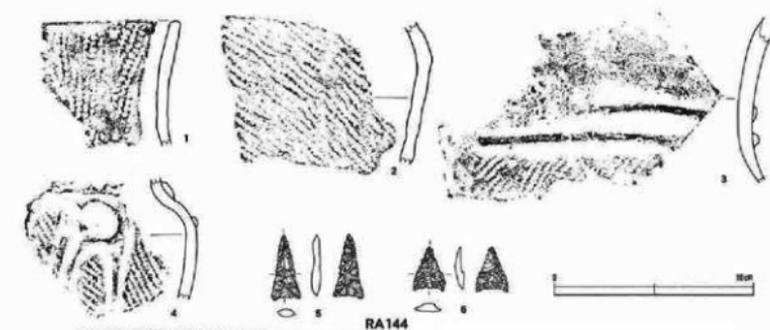
RA144B

- 1 10YR5/3 暗褐色 褐色土との混合層、粘性やや強、締まり密、足床層
 2 10YR5/5 暗褐色 粘性中、締まりやや密
 3 10YR4/6 褐色 粘性強、締まり密、炭化物極少量混入
 4 10YR4/6 褐色 粘性強、締まり密、炭化物少量混入
 5 10YR5/6 黄褐色 粘性強、締まりやや密

- 6 10YR5/4 暗褐色 粘性中、締まりやや密
 7 10YR5/3 暗褐色 粘性やや強、締まり密、炭化物少量混入
 8 10YR4/4 褐色 粘性中強、締まりやや密
 9 10YR4/3 暗褐色 粘性中、締まりやや密



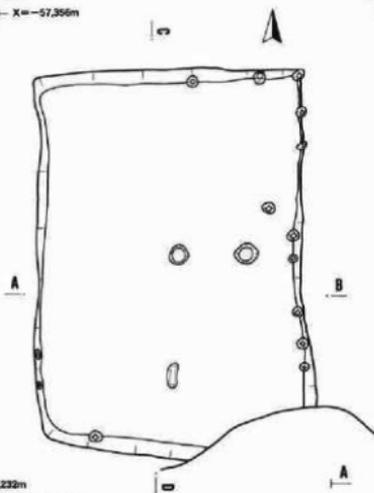
第151図 RA144 (2) 住居跡



RA144

Y=96,232m
X=-57,356m

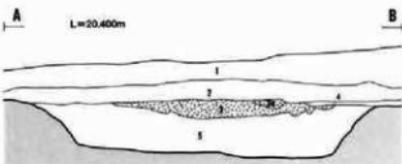
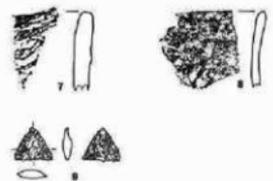
Y=96,236m
X=-57,356m



Y=96,232m
X=-57,356m

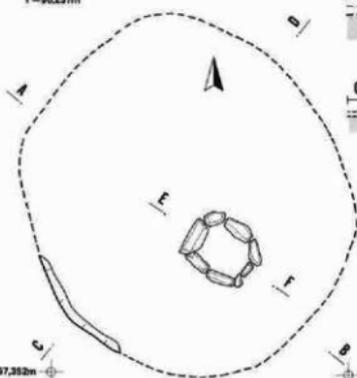
RA145

- RA145
- 1 2SVR2/2 黒褐色 粘板中、粘まり中
 - 2 10VR2/2 黒褐色 粘板中、粘まり中
 - 3 2SVR7/6 明灰褐色 粘板中、粘まり中
 - 3a 10VR2/4 黒+黄褐色 粘板中、粘まり中
 - 4 10VR2/6 黄褐色 粘板中、粘まり中
 - 5 10VR2/4 緑褐色 粘板中、粘まり中



第152図 RA144 (3)・145住居跡

X=-57,248m
Y=96,237m



X=-57,352m
Y=96,237m

RA146



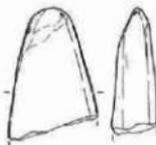
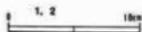
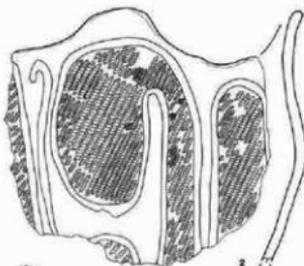
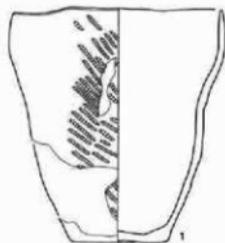
RA146

1 10YR3/2 暗褐色 粘性やや強、締まり密

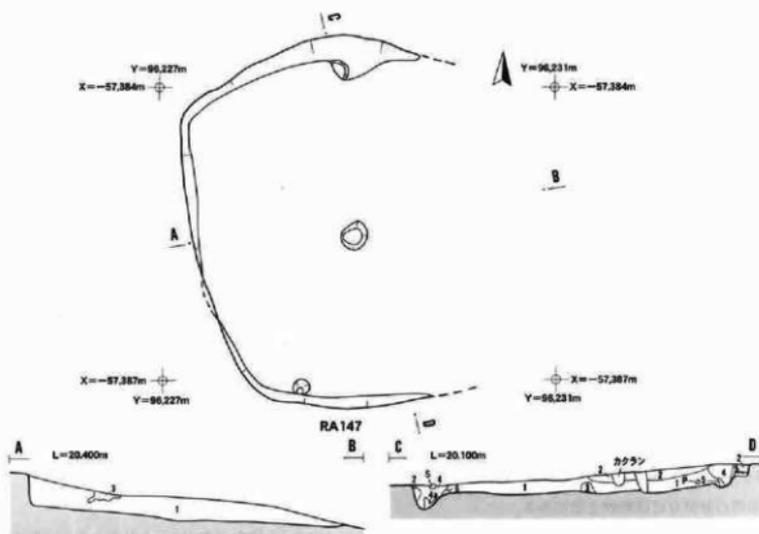


RA146P

- 1 10YR6/8 明褐色 粘性弱、締まり密、褐色土を少量含む
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 粘性弱、締まり密
- 3 10YR6/6 明褐色 暗褐色土との混合層、粘性弱、締まり中

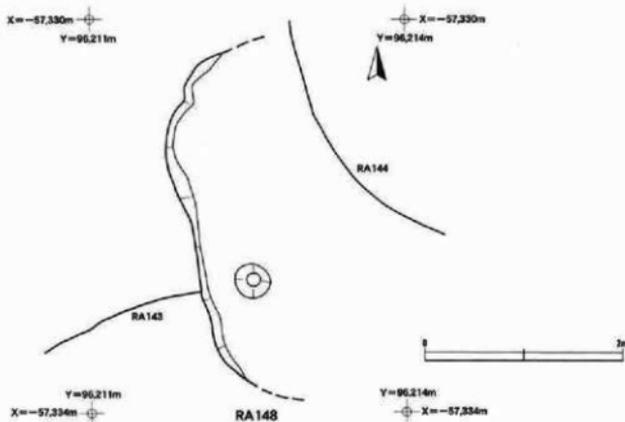


第153図 RA146住居跡



RA147

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性强、締まり中
- 2 10YR3/2 黒褐色 粘性强、締まりやや少、炭化物少量混入
- 3 10YR5/4 黒い硬褐色 中硬火山灰との混入層、粘性强、締まりやや中
- 4 10YR2/1 黒色 粘性强、締まりやや中
- 4a 7.5YR6/6 褐色 粘性强、締まり中
- 5 10YR3/4 暗褐色 粘性强、締まり中
- 6 10YR4/4 黒色 粘性强、締まり中
- 7 10YR4/3 黒い硬褐色 粘性强、締まり中、明黄褐色土混入



第154図 RA147・148住居跡

ら、縄文時代中期後葉の可能性がある。

RA149 (図版：155～158, 写真図版：154・155・278・279)

中央西端付近のZ4～A5グリッドに位置している。北西を平安時代のRA530住居跡に、東側を縄文時代のRA156住居跡に切られている。焼失家屋で、円形に広がる炭化物の広がりで検出された。遺構の重複で北東側の壁は残存しないが、平面形は径5mの円形状を呈し、北東寄りに石組み炉がある。主軸方向はN53°Eである。壁は直立気味ないしは外傾して立ち上がり、残存部の高さは30～40cmである。埋土は灰黄褐色土や黒褐色土で炭化物や焼土が混入し、床面近くほど多く混入する。

床面はほぼ平坦で締まりは密である。東側は貼り床されている。中央から北東側に広がる複式炉があり、その両側と壁際に柱状土坑が数基検出されている。その中でpp8とpp10、pp6とpp11、pp5とpp12が対になって主柱穴を構成していたと思われる。また炉の両脇にあるpp1とpp2、pp3とpp4も対となり何らかの施設を支えていたと思われる。主柱穴の規模は開口部径20～30cm・深さ40～50cmである。炉の両側の柱状土坑は深さ20cmほどで浅い。

炉の付近は貼り床部分である。炉は板状の襷を組み合わせて埋めて、長さ1.2m・中央寄り幅0.4m・壁寄り幅0.7mの台形状にし、内部を横長の石で3つに区切っている。前庭部は長さ1m・幅1.1mの楕円形状に広がっている。炉内には焼土が形成されており、最大厚10cmである。この複式炉は目黒吉明分類のF型4類「梯子形副炉付石組複式炉」に比定される。

南西の壁寄りには埋設土器がある。

出土遺物は埋設土器や炉内から出土土器片、北寄り床面出土にふ7土器など約6kgの土器片と炉石に転用された台石2点、磨石1点がある。156-1は炉内からの出土遺物、156-2～7は床面からの出土遺物、157-1～22は埋土からの出土遺物である。炉内出土の遺物は中期の粗製深鉢である。床面出土の土器片は中期中葉～後葉にかけてのもので、大木8bや9式期に相当するものがある。主体となるのは中期後葉の大木9式期に相当するものである。埋土出土の遺物は中期の粗製深鉢の破片が多く、沈線と隆線や磨消帯で施された床面出土と同時期の破片も見られる。158-1・2は炉石に転用されていた磨石や台石である。台石の一部は図示していない。

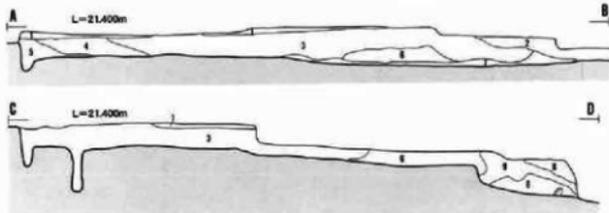
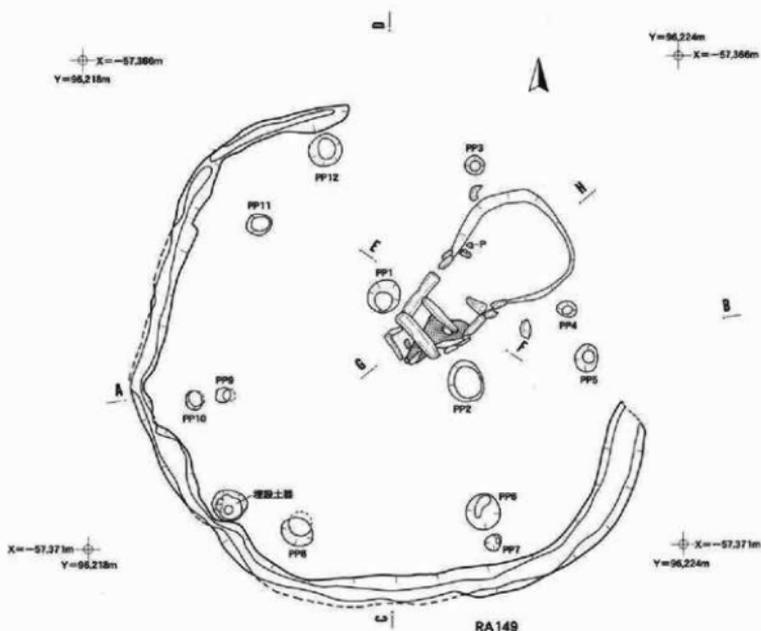
遺構の時期は、縄文時代中期後葉と思われる。

RA150 (図版：158・159, 写真図版：156・279)

北端に近いR4グリッド付近にあり、RA144の南に位置する。IIb層を掘り込んで構築されており、下位にはRA151住居跡がある。埋土と地山の境界が不明瞭である。西側をRD60土坑に切られている。東側は開田時の削平を受けている。わずかに検出された壁から、楕円形の平面形をしていたようである。壁は直立気味に外傾するようである。規模は長軸5.3m・短軸4m、残存壁高5～10cmである。埋土は主に黒褐色土で構成され、締まりは疎である。

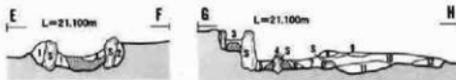
床面は東側に緩く傾斜するが、ほぼ平坦である。炉や柱穴は検出されていない。

出土遺物は埋土から中期後葉の大木9式期を主とし、約3.6kgの土器片と円盤状土製品1点、石鏝1点、石匙1点が得られている。土器の器種は深鉢でキャリパー形を呈するものもあるようである。沈線と隆線による渦巻きの施文をする大木8b式期相当のものや沈線と磨消帯で「O」字形に文様を構成する大木9式期のものがある。159-13は土器片を加工して作った円盤状土製品である。159-14は小型であるが、石鏝の破損品



- RA149
- 1 10YR2/6 暗褐色 赤褐色土を混入する腐植土、粘性强、締まり密
 - 2 10YR2/2 黒褐色 粘性強、締まり密
 - 3 10YR5/2 灰褐色 粘性やや弱、締まり密、灰化物層混入
 - 4 10YR2/2 黒褐色 粘性中、締まり密、明黄褐色土ブロック・灰化物混入
 - 5 10YR2/2 黒褐色 粘性中、締まり密、明黄褐色土ブロック・灰化物混入
 - 6 10YR2/2 黒褐色 粘性中、締まり密、灰化物・焼土混入
 - 7 10YR7/6 暗褐色 粘性中、締まり密、灰黄褐色土混入

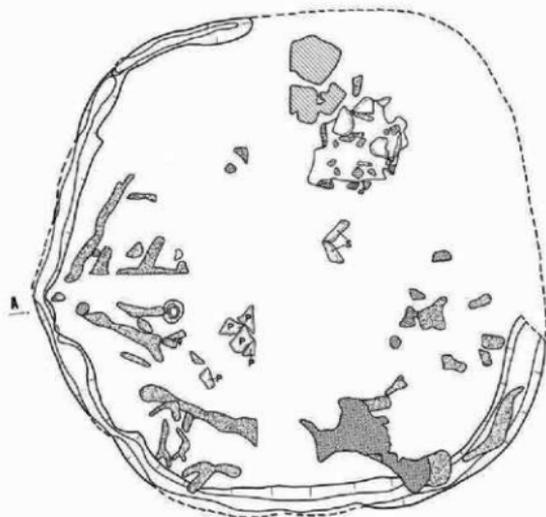
- RA149 跡
- 1 10YR6/8 暗褐色 粘性弱、締まり密
 - 2 10YR4/8 褐色 粘性強、締まり密
 - 3 10YR2/4 暗褐色 粘性強、締まり密
 - 4 5YR5/8 灰褐色 硬土層、粘性弱、締まり密
 - 5 10YR5/2 灰褐色 粘性強、締まり密
 - 6 10YR4/8 褐色 粘性強、締まり密
 - 7 10YR3/1 黒色 粘性強、締まり密、小礫・灰化物少量混入
 - 8 10YR3/2 灰褐色 粘性中、締まり密、灰化物少量混入
 - 9 10YR3/4 暗褐色 粘性中、締まり密、焼土・灰化物少量混入
 - 10 10YR3/2 暗褐色 粘性中、締まり密
 - 11 10YR3/2 暗褐色 粘性強、締まり密
 - 12 10YR3/3 暗褐色 黄褐色土との混合層、粘性強、締まり密



第155図 RA149 (1) 住居跡

Y=96,219m
X=-57,366m

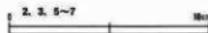
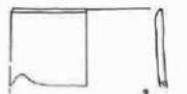
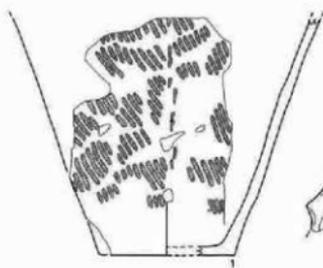
Y=96,224m
X=-57,366m



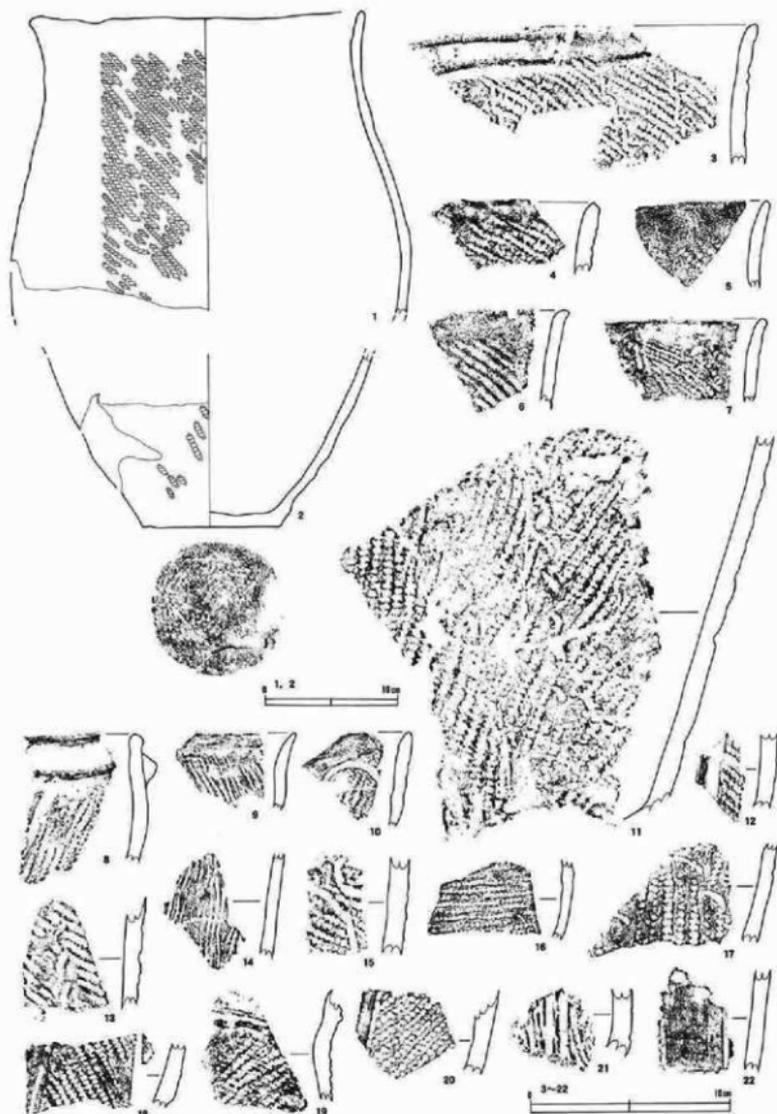
Y=96,219m
X=-57,372m

RA149炭化材出土状況

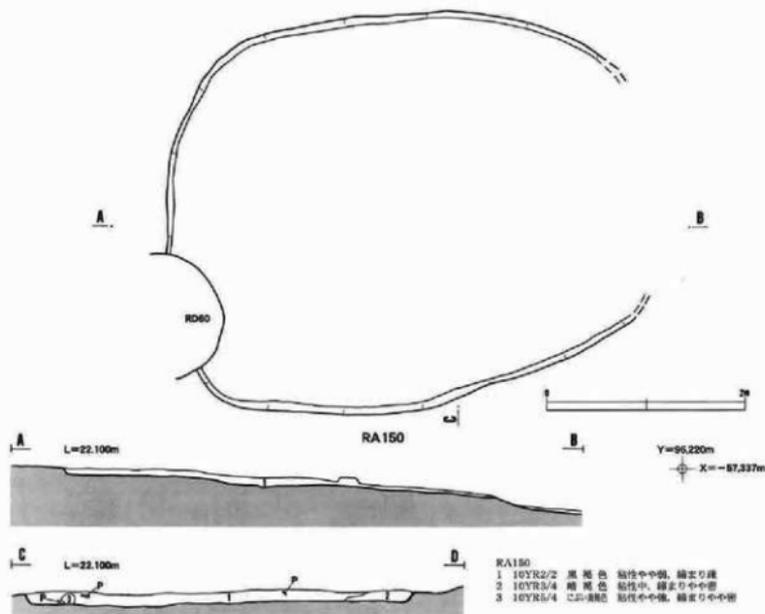
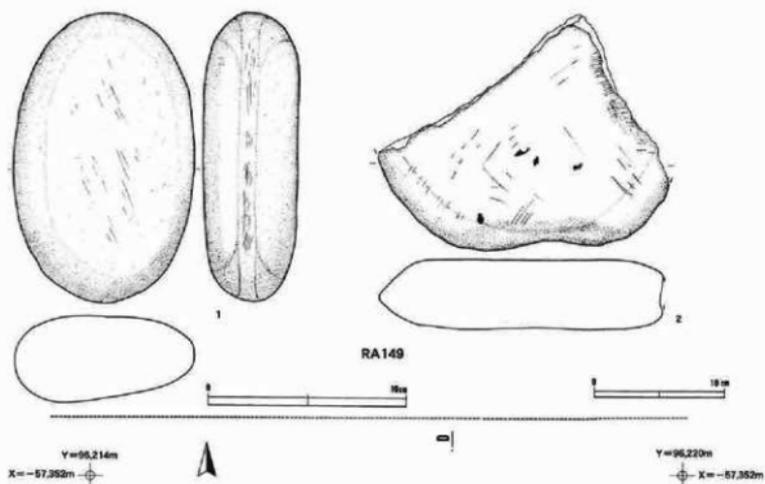
Y=96,224m
X=-57,372m



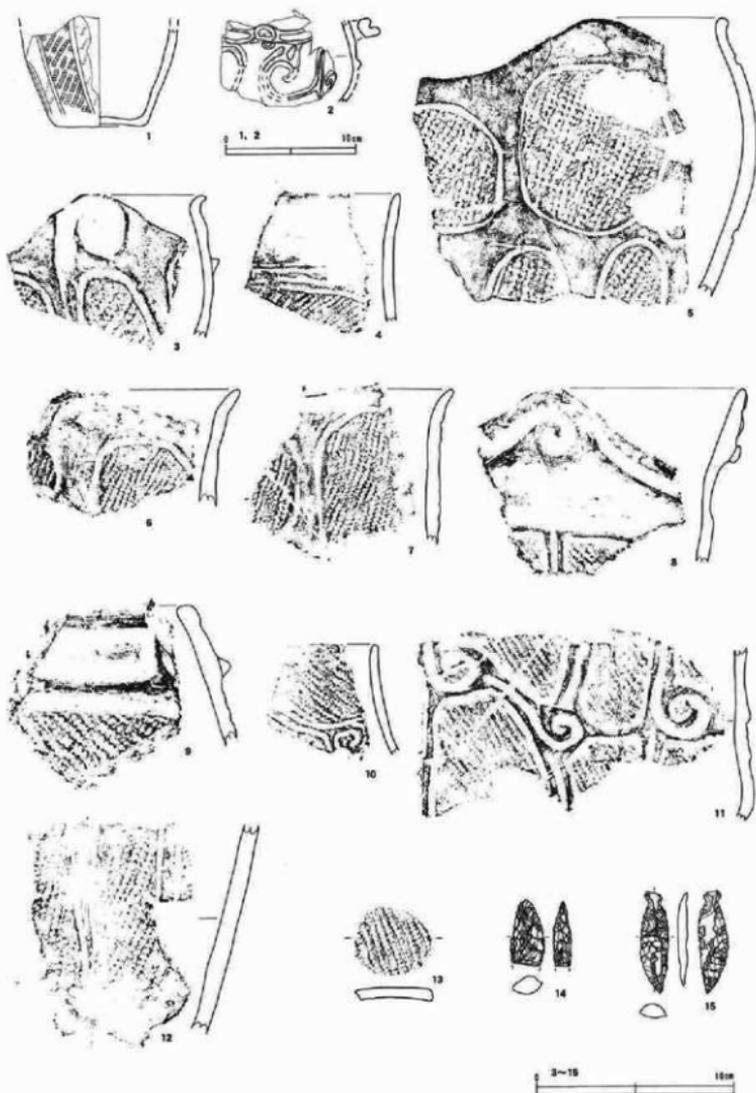
第156図 RA149 (2) 住居跡



第157图 RA149 (3) 住居跡出土遺物



第158図 RA149 (3) - 150 (1) 住居跡



第159圖 RA150 (2) 住居跡出土遺物

と思われる。15は縦長で先端が尖り石楕にも似るが、つまみが作り出されているので石楕である。
遺構の時期は縄文時代中期後葉と思われる。

RA151 (図版：160・164, 写真図版：157・158・280・281)

北端に近いR3グリッドにあり、RA150住居跡の下位に検出された。南東側はRE08竪穴状遺構に切られている。東側の壁は明瞭でない。残存部から平面形は長軸6.5m・短軸5.5mの楕円形を呈していたと思われる。壁は内湾気味に外傾して立ち上がり、残存部で20～40cmの高さがある。埋土上位は黒褐色土で構成され、土器片や炭化物が混入している。下位は暗褐色土で構成され、締まりは密である。

床面は東側に緩く傾斜するが、ほぼ平坦で締まりは密である。中央の南東寄りに石囲炉があり、柱穴状土坑が十数基検出されている。その中でpp1とpp4、pp16とpp9、pp12とpp10が対になる。pp3とpp7、pp2とpp8も対になり出入口口の施設になる可能性もある。中央の柱穴状土坑はこの遺構に伴わない可能性がある。この土坑の上には浅い皿状のくぼみがあり、それは住居に付属するようである。柱穴状土坑の規模は開口部径30～40cm、深さ30～50cmである。

炉は板状の角礫を長方形に組み合わせて埋め込んで作られている。長さ1m・幅60cmである。焼上の形成はわずかである。

出土遺物は多く、土器片約22.5kgと石器2点が得られている。床面出土のものは161-1で、他は埋土からの出土であるが、主体となる時期は大木8b式期相当のものである。沈線と隆線による溝巻き文や平行線や轆状の突起が施文されたものが多い。器形は胴部上位が少し膨らむ深鉢形が多く、平口縁のものと波状口縁のものがある。163-9は沈線と磨消帯で「O」字形の施文がされた大木9式期相当のものである。164-4は平行沈線の間に波状の沈線が施文される。大木8b式期と思われる。石器は、164-5の石匙と164-6の基部を欠損した磨製石斧である。

遺構の時期は、縄文時代中期中葉と思われる。

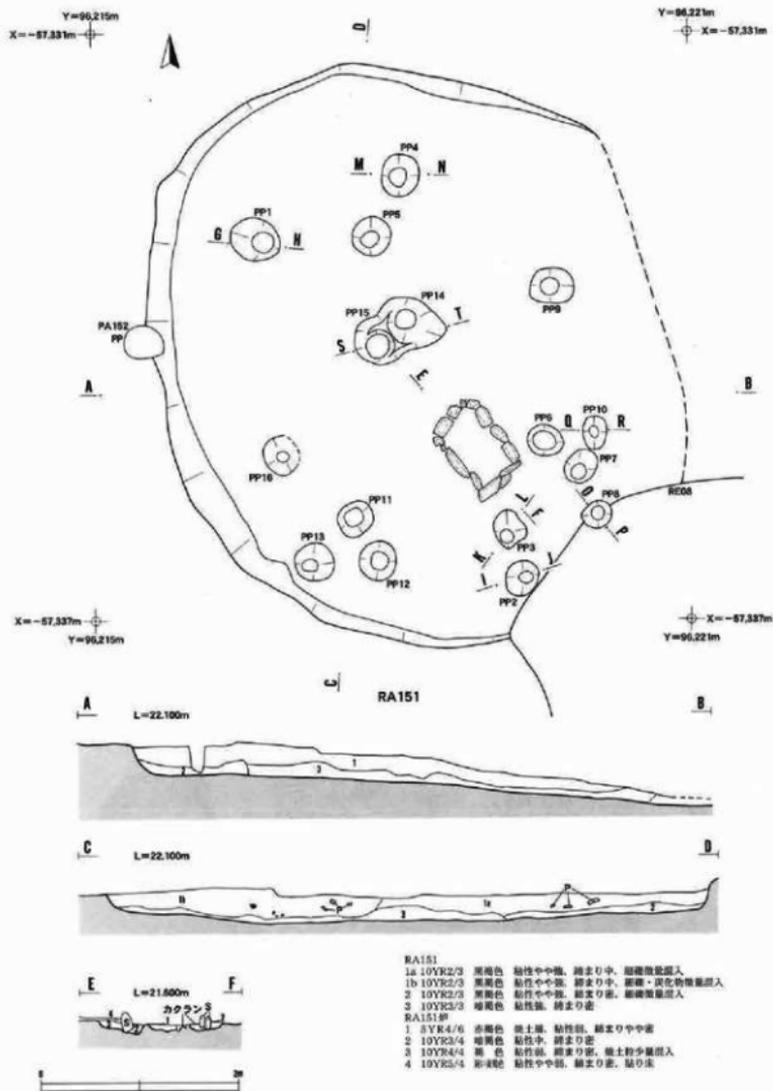
RA152 (図版：164, 写真図版：159・282)

北端よりのR2グリッドに位置し、RA143住居跡の床面に検出された。またRA151の埋土上面を切っている。新旧関係は(旧)RA151→RA152→RA143(新)となる。また中央西側はRD60土坑に切られている。重複により壁や床面が残存しないところもあるが、平面形は直径4.5mほどの円形を呈していたようである。西側にわずかに残存する壁は内湾気味に外傾し、高さは10cmである。埋土は黒褐色土で構成され、締まりはやや密である。

床面は東側に緩く傾斜し、ほぼ平坦である。炉は残存していない。柱穴状土坑が4基検出されている。開口部径30～40cm・深さ20cmほどである。

出土遺物は少なく、0.1kgの土器片と石楕1点が得られている。土器片は縄文時代中期の粗製深鉢の破片である。石楕は正三角形に整形されているが、主要剥離面が残り、粗雑な造りである。

遺構の時期は縄文時代中期と思われる。



第160図 RA151 (1) 住居跡



RA151柱穴G-H

- 1 10YR2/3 黒褐色 跡残り中、粘性やや強
- 2 10YR3/3 黒褐色 跡残り強、粘性中
- 3 10YR3/3 黒褐色 褐色土との混合層 跡残りやや強、粘性やや強

- 4 10YR4/5 黒色 跡残り中、粘性やや強

RA151柱穴J

- 1 10YR3/3 黒褐色 跡残りやや強、粘性中
- 2 10YR4/6 黒色 跡残り強、粘性中

RA151柱穴K-L

- 1 10YR3/3 黒褐色 跡残りやや強、粘性やや強

- 2 10YR4/4 黒色 暗褐色土との混合層 跡残りやや強、粘性やや強

- 3 10YR5/6 黄褐色 跡残りやや強、粘性やや強

RA151柱穴M-N, O-P, Q-R

- 1 10YR3/3 黒褐色 跡残り中、粘性やや強

- 2 10YR4/6 黒色 跡残りやや強、粘性やや強

RA151柱穴S-T

- 1 10YR2/3 黒褐色 跡残りやや強、粘性強

- 2 10YR5/3 赤褐色 跡残りやや強、粘性中、褐色土ブロック混入

- 3 10YR4/3 赤褐色 跡残り中、粘性中、褐色土ブロック少量混入

- 4 10YR5/6 黄褐色 跡残りやや強、粘性中

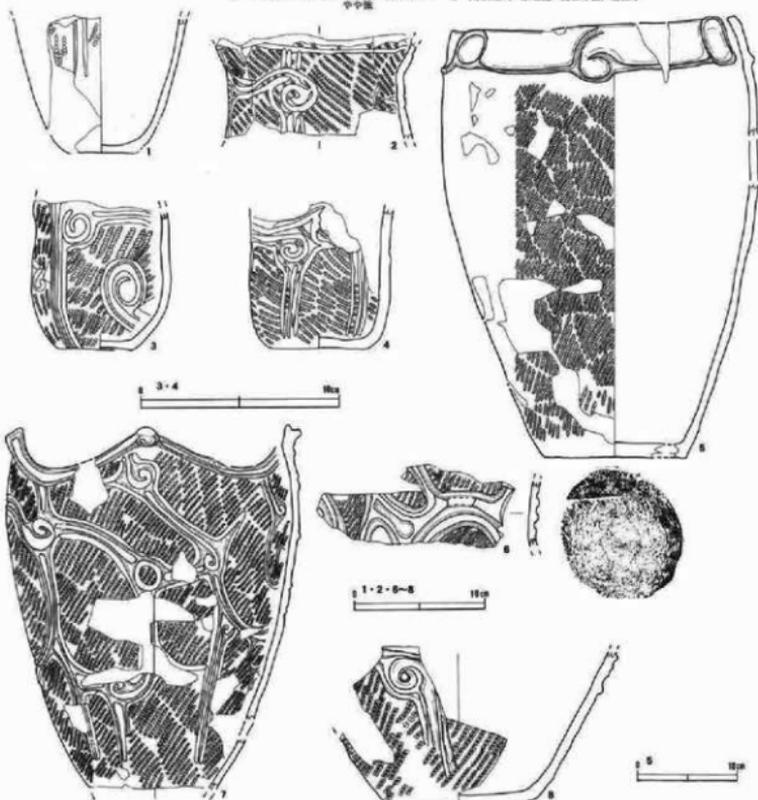
- 5 10YR4/6 黒色 跡残りやや強、粘性やや強、黄褐色ブロック少量混入

- 6 10YR4/6 黒色 跡残りやや強、粘性やや強、黄褐色土ブロック少量混入

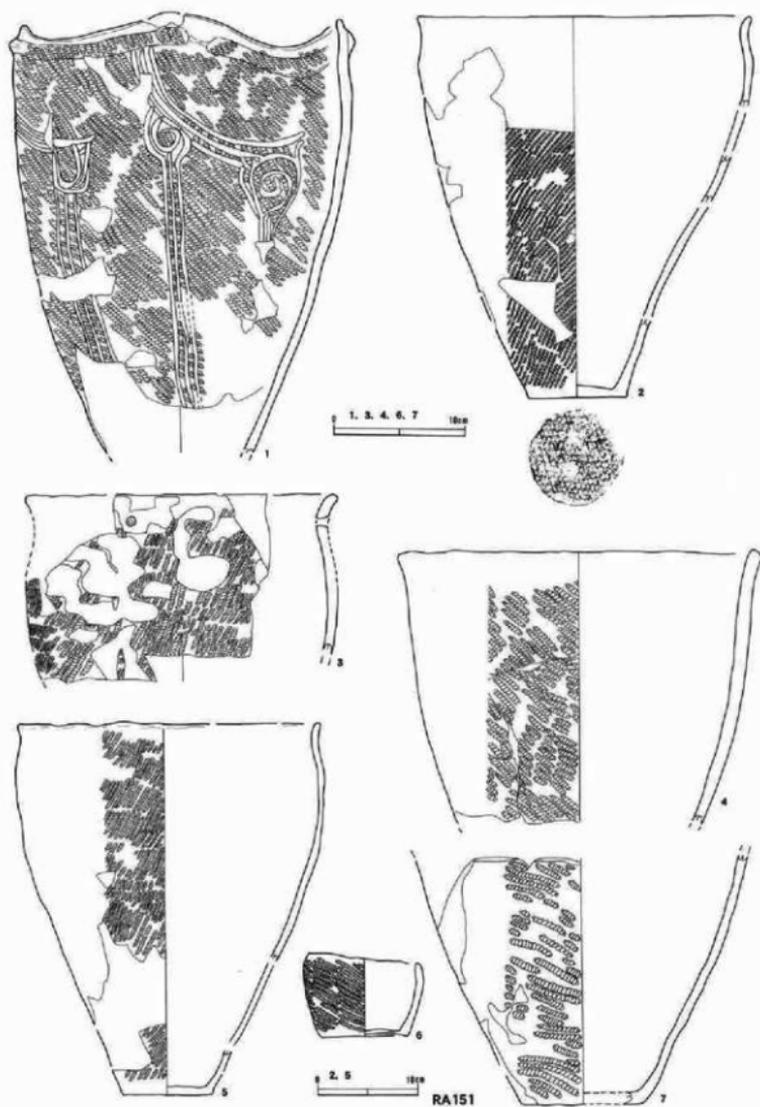
- 7 10Y2/3 黒褐色 跡残り強、粘性やや強

- 8 10YR4/3 赤褐色 跡残りやや強、粘性やや強

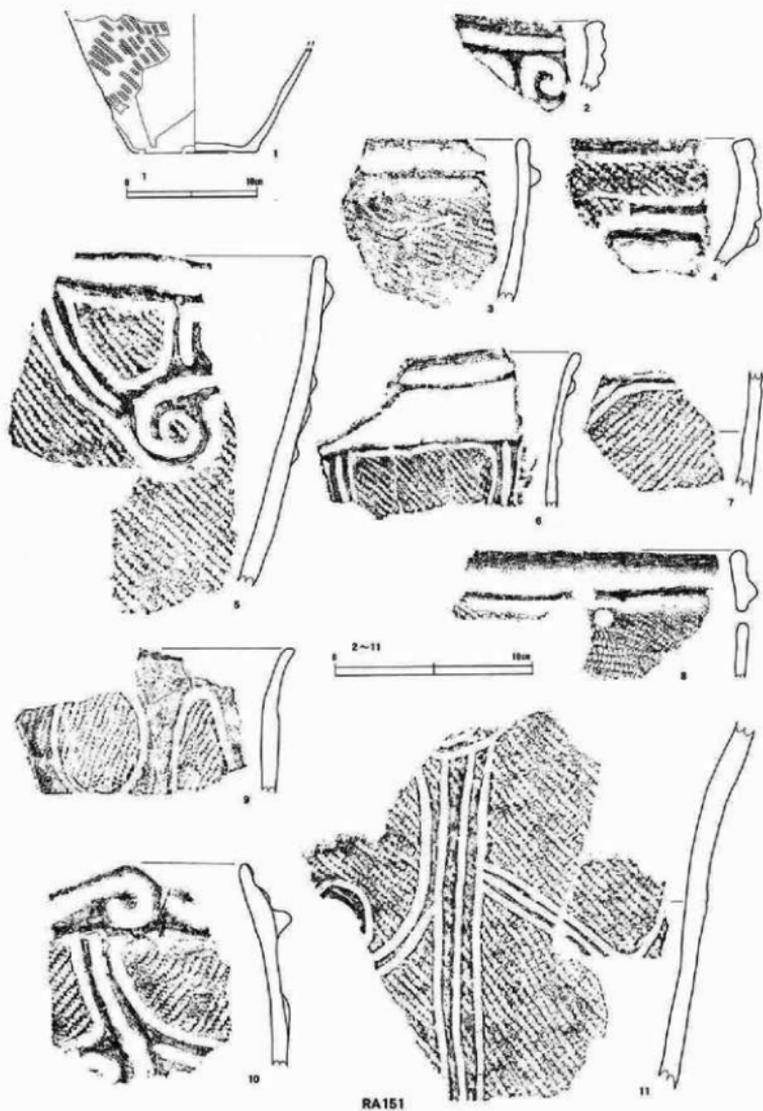
- 9 10YR5/4 赤褐色 跡残り強、粘性中



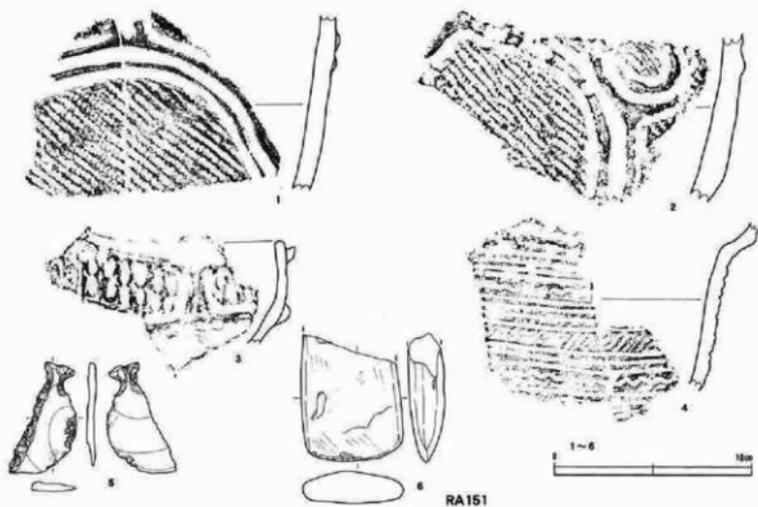
第161図 RA151 (2) 住居跡



第162圖 RA151 (3) 住居跡出土遺物



第163圖 RA151 (4) 住居跡出土遺物

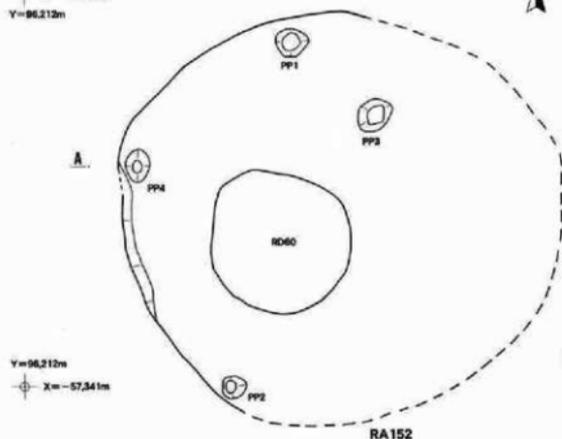


RA151

X = -57,337m
Y = 96,212m

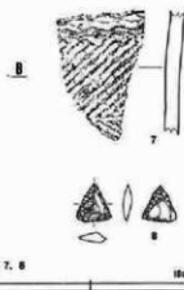


X = -57,337m
Y = 96,212m



Y = 96,212m
X = -57,341m

RA152



A L = 22,200m

RA152

1 10YR2/2 黒褐色 緑斑0.5cm未満、粒径4.0未満
2 10YR3/2 黒褐色 緑斑0.5cm未満、粒径4.0

0 2m

第164図 RA151 (5)・152住居跡

RA153 (図版:165, 写真図版:159・160・282)

南寄りのA10グリッドに位置する。RA168住居跡の下位に検出され、同様に東側を削平されている。残存部から平面形は隅丸長方形と推測される。壁は直立気味に立ち上がる。規模は長軸5.2m・短軸2.5m以上、西側の壁高は20cmである。埋土はおもに黒褐色土で構成され、締まりはやや密である。

床面はほぼ平坦で、北寄りに地床炉と思われる焼土がある。柱穴状土坑や盛溝はない。

地床炉は長径30cmの不整楕円形状に広がり、厚さは板跡程度である。

出土遺物は、約0.4kgの土器片が得られている。165-1は縄文時代前期前葉の上器片で胎土にセシイが混入している。2は中期の粗製深鉢の破片、3・4は中期後葉の上器片である。

遺構の時期は縄文時代中期後葉と思われる。

RA154 (図版:165, 写真図版:160・161)

北端東寄りのQ4グリッドに位置し、Ⅲ層で検出された。重複や攪乱で北西側の壁と床しか残存しない。楕円形か隅丸の矩形の平面形だったようである。壁はほぼ直立し、壁高は15cmほどである。埋土は黒褐色土で構成されている。

床面はほぼ平坦だったようである。柱穴状土坑は検出されていない。炉跡は残存しない。

出土遺物は少なく、埋土中から早期の土器片が0.1kg得られたとカードの記録にはある。

遺構の時期は縄文時代早期以降と思われる。

RA155 (図版:166・167, 写真図版:161・282・283)

中央付近のW4～X5グリッド付近のⅡ層下部で検出された。南側でRA159住居跡を切っている。南東側の壁は不明瞭だが平面形は楕円形状を呈している。壁は内湾気味に外傾して立ち上がる。規模は長軸3.7m・短軸3.4m壁高は約20cmである。埋土は主に黒褐色土で構成され、砂礫や炭化物が微量に混入する。

床面は南側に向かって緩く傾斜する。全体に非常に固く締まっている。中央南寄りに石囲炉があり、4某の柱穴状土坑も確認されている。柱穴状土坑の規模は、開口部径15～35cm・深さ40～50cmである。

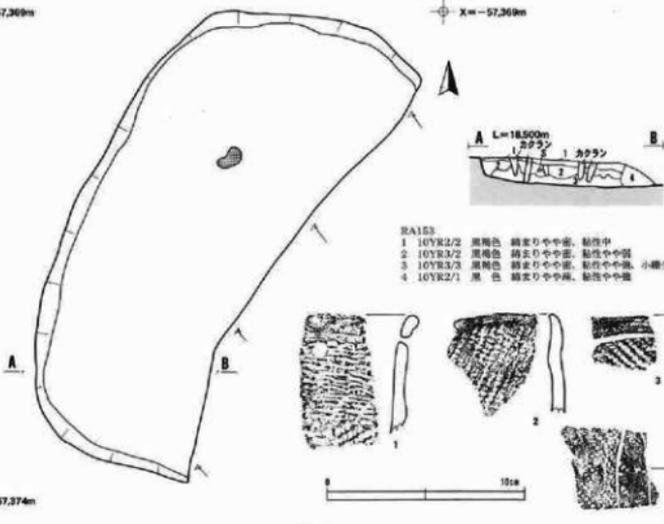
石囲炉は浅く掘った土坑に角礫を埋めて1辺60cmほどの方形に組んでいる。焼土は最大4cmの厚さで形成されている。

出土遺物は埋土から得られた大木9式期相当の上器を始め約8kgの土器片と炉に転用された台石2点、削掻器2点、石匙・石鏃各1点が得られている。166-1～7は床面から、それ以外は埋土から出土している。166-6・7には沈線と磨消帯による文様が施文され、大木9式期に相当するようである。166-8は胴部が膨らむ深鉢、166-9は鉢である。166-9の口縁部には波状口縁に沿って沈線が2本平行し、胴部には沈線と磨消帯により「の」字状の施文がなされている。大木10式期相当のようである。166-10は輪状の土器で、底部には木葉痕がある。167-3・4も同時期の破片と思われる。167-6・9・10は中期中葉の土器片、167-7は前期前葉の上器片、167-1・2は弥生時代の上器片である。167-11は石鏃、12は石匙、13・14は削掻器である。

遺構の時期は、その形態や出土遺物から縄文時代中期後葉と思われる。

Y=96,240m
X=-57,369m

Y=96,245m
X=-57,369m



RA153

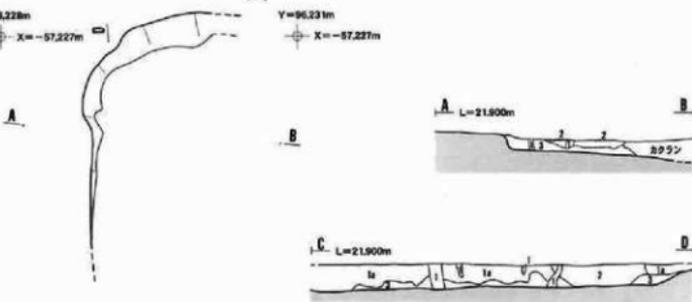
- 1 10YR2/2 黒褐色 縄まりやや中、粘付中
2 10YR3/2 黒褐色 縄まりやや中、粘付やや中
3 10YR3/3 黒褐色 縄まりやや中、粘付やや中、小堀少量混入
4 10YR2/1 黒色 縄まりやや中、粘付やや中

Y=96,240m
X=-57,374m

RA153

Y=96,228m
X=-57,227m

Y=96,231m
X=-57,227m



RA154

- 1 10YR2/1 黒色 粘付やや中、縄まり中、小堀少量混入
1a 10YR3/2 黒褐色 粘付やや中、縄まり中、小堀少量混入
2 10YR3/1 黒褐色 粘付中、縄まりやや中
3 10YR3/3 黒褐色 粘付やや中、縄まりやや中

Y=96,228m
X=-57,332m

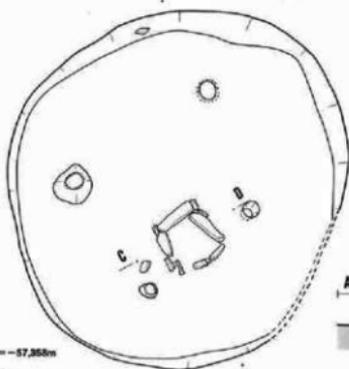
Y=96,231m
X=-57,332m

RA154

第165図 RA153・154住居跡

X=-57,354m
Y=96,210m

X=-57,354m
Y=96,223m



X=-57,355m
Y=96,210m

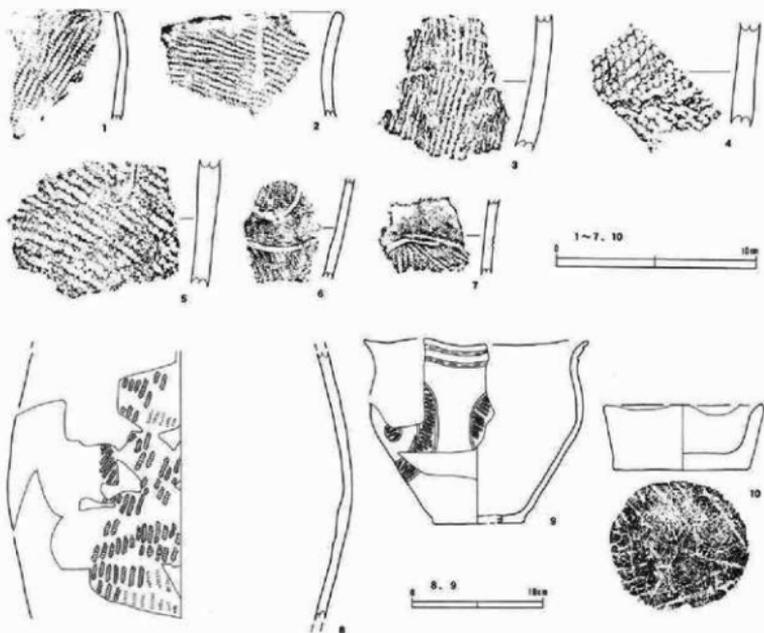
RA155

RA155 C-D

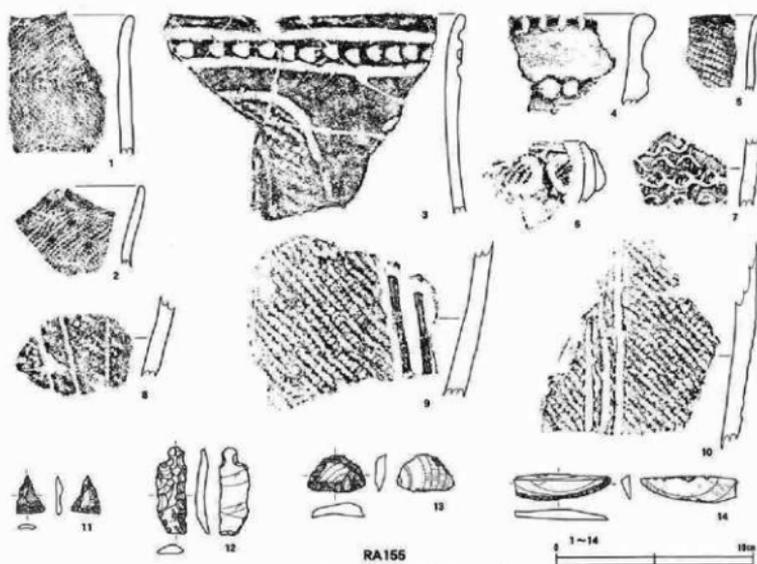
- 1 10YR3/1 黑褐色 粘性強、結土り中、炭化物少量混入
- 2 10YR3/2 黑褐色 粘性強、結土り密
- 3 5YR3/4 暗褐色 粘性強、結土り密
- 4 10YR5/6 黄褐色 粘性強、結土り密
- 5 10YR4/4 褐色 粘性強、結土りやや中密、小礫少量混入
- 6 10YR4/4 褐色 粘性強、結土り密、中礫少量混入

RA155 A-B

- 1 10YR3/2 黑褐色 粘性中弱、結土り中、小礫・炭化物少量混入
- 2 10YR3/4 暗褐色 粘性弱、結土り密



第166圖 RA155 (1) 住居跡



第167図 RA155 (2) 住居跡出土遺物

RA156 (図版: 168, 写真図版: 162・283)

中央やや西南よりのZ4～A5グリッド付近の緩斜面に立地する。Ⅱ層上面除去後に石囲炉が検出され、遺構が明らかになった。西側でRA149住居跡、東側でRE10・RE12竪穴状遺構を切っている。残存状態は悪く、西側壁と炉跡・柱穴状土坑が残存する。平面形は円形状と思われ、壁は外傾する。規模は直径7m前後と思われる。壁高は15cmほどである。埋土は主に黒褐色土で構成される。

床面はほぼ平坦で、東寄りに石囲炉、柱穴状土坑が沢山ある。遺構の大きさにくらべ柱穴状土坑は小さいが、pp3・pp4・pp9・pp20・pp2が主となるとと思われる。規模は開口部径20～30cm・深さ25～30cmである。

他の柱穴状土坑も別の遺構に伴う可能性がある。

炉は角礫を直径70cmほどの円形状に並べていたようであるが、北東側は破損を受けて残存しない。炉内には攪乱を受けたような焼土が残る。

出土遺物は、中央付近の床面から縄文時代中期末葉の土器片がまとまって出土しているとカードに記載がある。168-1は深鉢形のミニチュア土器で、沈線と磨消帯による曲線文が施文されている。大木10式期に相当するようである。168-2は沈線と隆線による渦巻文等が施文され、大木8b式期に相当するようである。

遺構の時期は縄文時代中期末葉と推測されている。

RA157 (図版:168, 写真図版:162)

中央東寄りのV7~W7グリッドに位置する。南側にRA145住居跡が隣接するが重複関係は不明である。残存状況が悪く西側壁付近しか残存しない。平面形は長方形と推測され、壁は外傾する。規模は長軸6m以上である。壁高は約20cmである。

床面は平坦で、南北の壁寄りに柱穴状土坑が2基、壁際に杭孔状の小土坑が6基連続して検出されている。杭孔状土坑は、開口部径20cmと50cm・深さ20cmである。炉は検出されていない。

出土遺物は約0.4kgの上器片が得られているとカードに記載されているが、現物は行方不明である。

遺構の時期は縄文時代前期と思われる。

RA158 (図版:169~172, 写真図版:163・164・283~285)

中央南寄りY8グリッド付近、古代のRA529住居跡と縄文時代のRA154住居跡の間に位置し、IIb層で検出された。東側の壁は不明瞭で、南東側はRA163に切られている。西側をRA529に切られ、北側のRA145を切っている。北西側と南側に壁と壁溝が断続的に巡る。平面形は隅丸形状を呈するようで、壁は外傾して立ち上がりがあったようである。規模は一辺4.5mほど、壁高は西側で20cmである。埋土は暗褐色土で構成され、細砂が少量混入している。南側の床面付近には中礫火山灰のブロックが混入する。

床面はわずかに起伏があり、柱穴状土坑が西側に3基、東側に1基検出されている。柱穴状土坑の規模は開口部径30~40cm・深さ50~70cmである。また西側壁寄りには埋設土器が検出されている。埋設土器は倒立した形状で、床から上にも10cmあまり出しており、この住居よりも上位の住居跡に伴った可能性もある。炉跡は検出されていない。

出土遺物は大木8b式を主とした土器片が約18.4kgと石器が出土している。169-1~3は床面からの出土、他は埋土からの出土である。床面上の3点は中期の粗製深鉢の一部である。埋土出土の遺物も深鉢の一部がほとんどで、波状口縁と平口縁がある。文様は陸線と沈線で渦巻状や平行線・棘状突起等が施文され、大木8b式期に相当するようである。171・12・15・16・19・20のように地文の上に平行沈線で文様が施文されたものもあるが、中期中葉に属するものと思われる。石器は171・22が石匙の破損品、172-1が軽石製品、172-2は縁辺部に磨面の形成された磨石の破損品、172-3は四石の破損品である。

遺構の時期は縄文時代中期中葉と思われる。

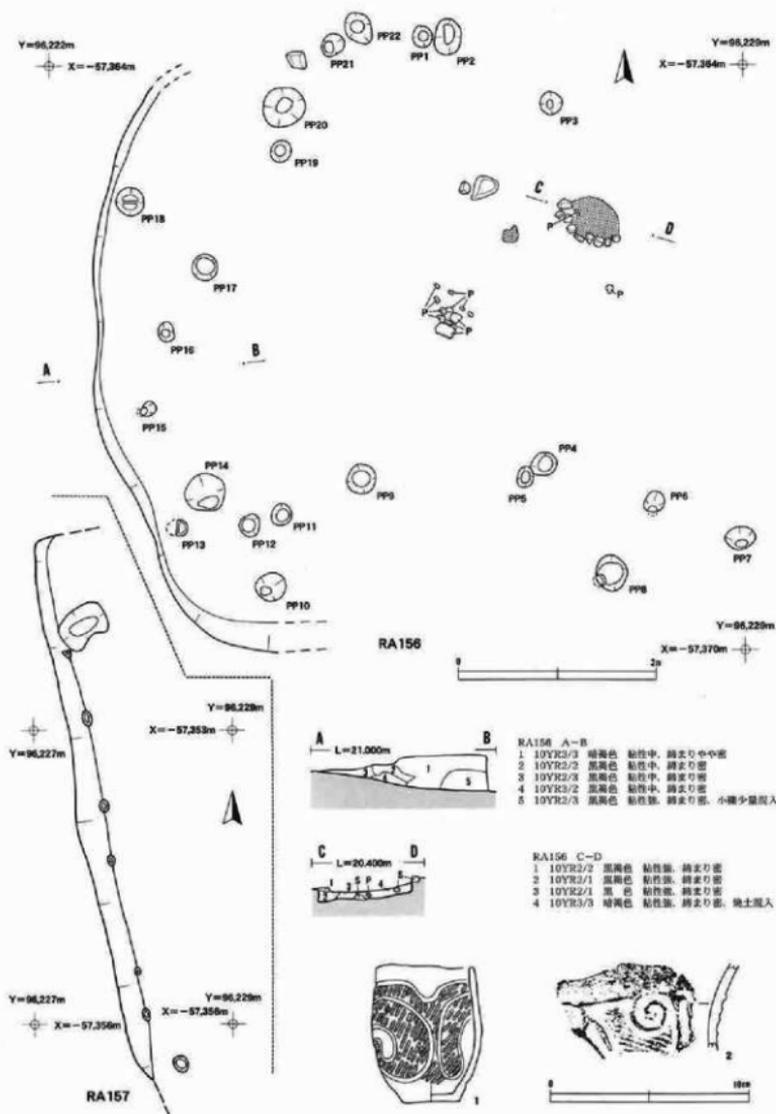
RA159 (図版:172, 写真図版:164・165)

中央西寄りのX4~Y6グリッド付近に位置し、IIa層で検出された。北側を縄文時代中期のRA155住居跡に切られる。北東や南側の壁は残存しないが、平面形は隅丸長方形を呈するようである。壁は外傾して立ち上がる。規模は長軸約5.5m・短軸約4m、壁高20cmほどである。埋土は中礫火山灰と思われる黄褐色土や黄褐色土で構成され、締まりは密である。

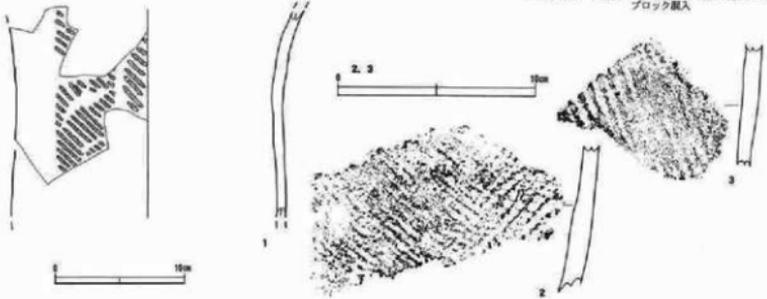
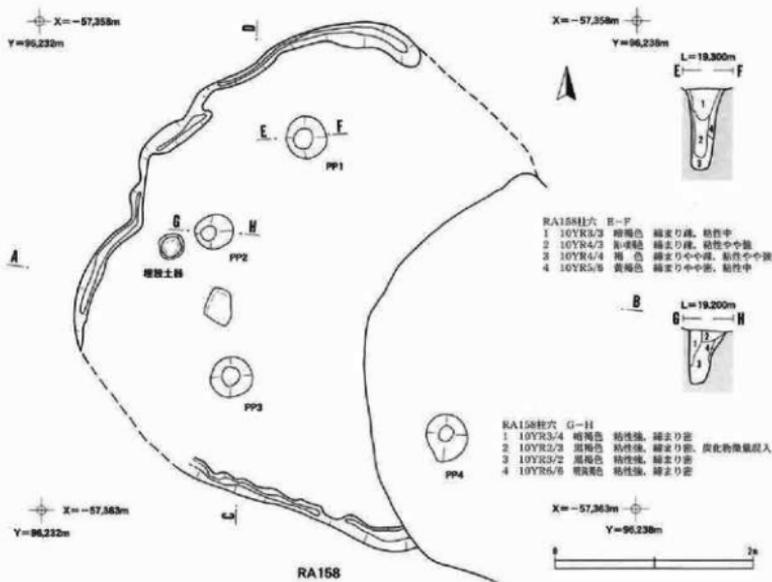
床面は南東に向かって緩やかに傾斜する。壁際に杭孔状の小土坑が断続的に巡る。炉はない。

出土遺物は縄文前期の上器片など約1.2kgが得られているとカードに記載があるが、現物は行方不明である。

遺構の時期は縄文時代前期前葉と推定されている。



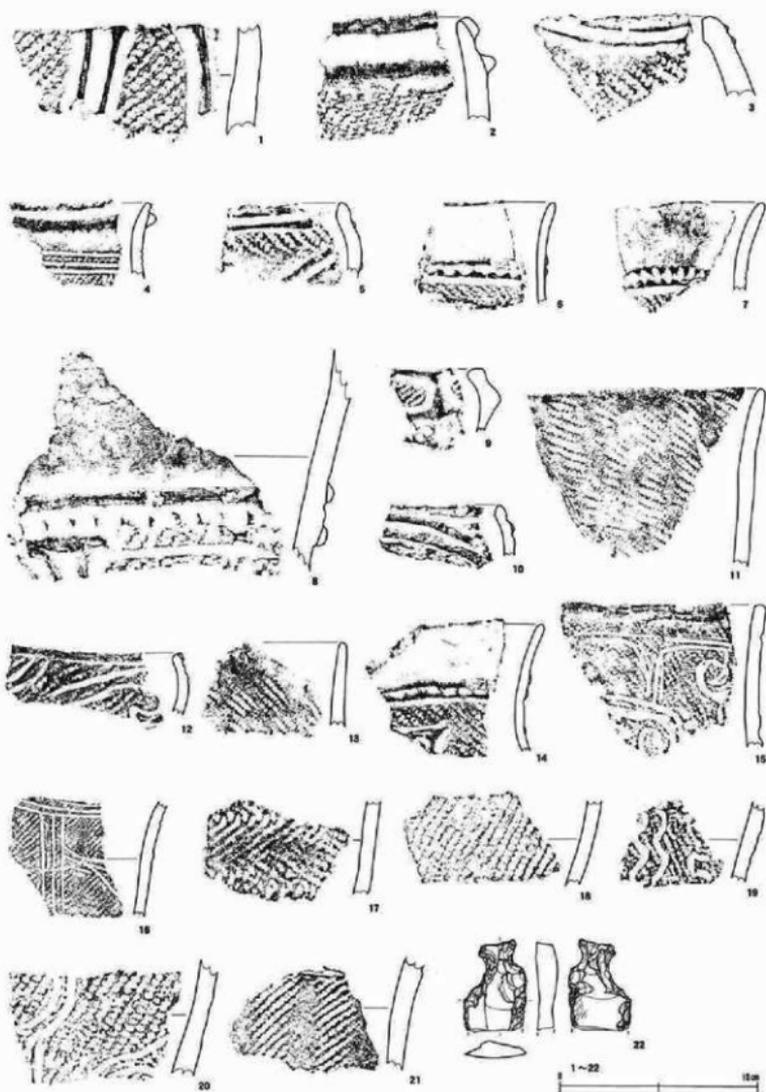
第168図 RA156・157住居跡



第169図 RA158 (1) 住居跡

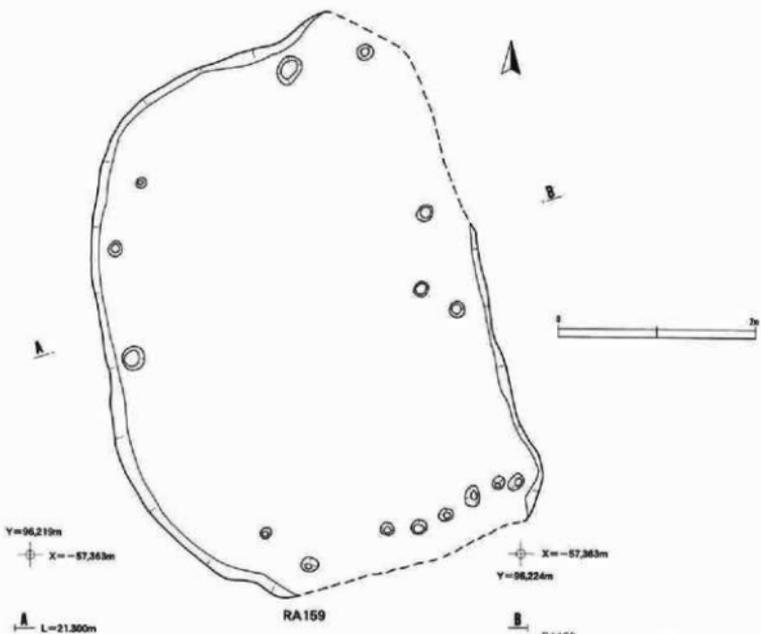
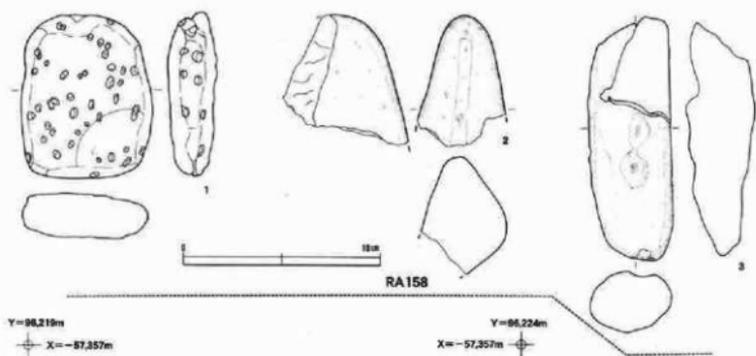


第170图 RA158 (2) 住居跡出土遺物



RA158

第171圖 RA158 (3) 住居跡出土遺物



- RA159
- 1 10YR4/2 赤褐色 軟性中、硬さ口中心部
 - 2 10YR4/2 赤褐色 軟性中心部、硬さ口中心部
 - 3 5YR5/6 黄褐色 軟性強、硬さ口中



第172圖 RA158 (4)・159住居跡

RA160 (図版: 173, 写真図版: 165・285)

中央南西寄りのZ7グリッド付近に位置し、Ⅲ層上面で検出された。周囲のRA529・RA156住居跡やRE12竪穴状遺構に切られている。東側は削平を受け、西側の壁と床面が残る。平面形は円形ないしは楕円形状と思われる。壁は外傾して立ち上がる。規模は直径または長軸3.7m前後と思われる。壁高は約20cmである。埋土は暗褐色土や黒褐色土で構成され、中礫火山灰のブロックが混入する。

床面はほぼ平坦で、不整形な杭穴状土坑が3基ある。規模は開口部の長径15～30cm・深さ10～15cmである。炉はない。

出土遺物は前期前葉の土器片など0.2kgが得られている。173-1は深鉢の口縁部破片で、胎土にセガイが混入している。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

RA161 (図版: 173・174, 写真図版: 166・285)

中央付近のY6～Z7グリッドに位置し、東側を奈良時代のRA529住居跡やRE10竪穴状遺構に切られている。西側部分しか残らないようであるが、平面形は隅丸形状を呈するようである。壁は外傾して立ち上がる。規模は1辺約3.8mである。壁高は約20cmである。埋土は黒褐色土や暗褐色土で構成され、褐色土が混入している。

床面はほぼ平坦で、中央付近に地床炉がある。焼土は長径35cmの不整楕円形状に広がり、厚さは最大20cmである。

出土遺物は前期と見られる約0.4kgの土器片と石匙1点が得られている。174-1～3は深鉢の破片で、胎土にセガイが混入している。174-4は横長の石匙である。

遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

RA162 (図版: 174, 写真図版: 167・285)

中央南寄りY8～Z8グリッドに位置する。RA526住居跡とRA158住居跡の下位に検出された。平面形は長方形で、壁は直立気味である。規模は長軸3.9m・短軸3mで壁高40～60cmである。埋土は上位に中礫火山灰がレンズ状に堆積し、下位は主に暗褐色土や黒褐色土で構成される。

床面はほぼ平坦で、中央に柱穴状土坑が1基、壁際には杭孔状土坑が連続して巡る。また東側壁寄りには60×35cm・深さ10cmの浅い土坑がある。柱穴状土坑は開口部径25cm・深さ60cmである。炉はない。

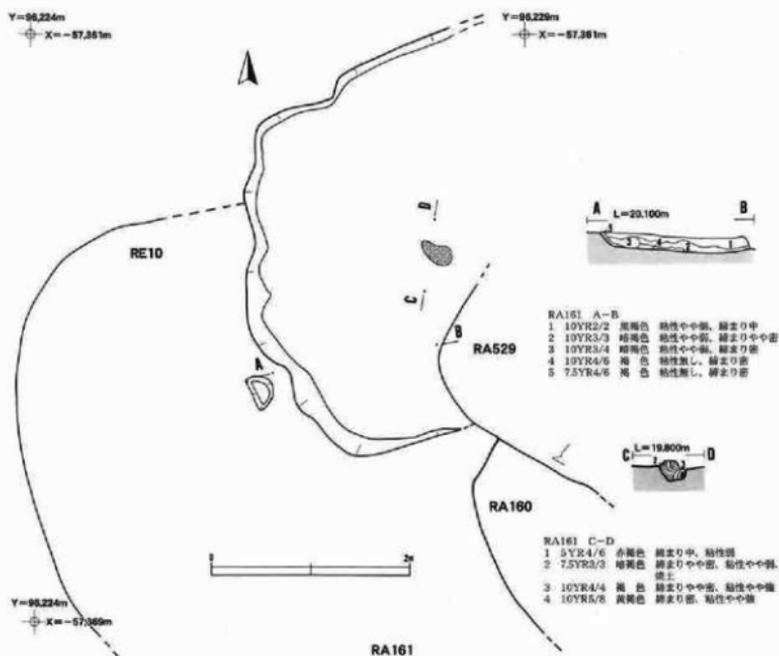
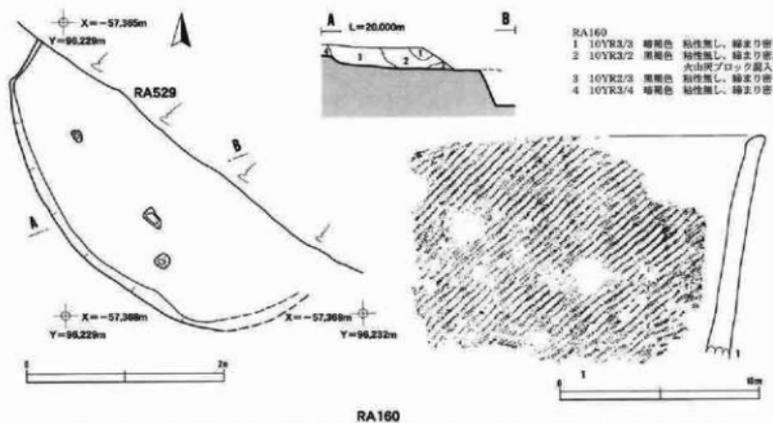
出土遺物は約0.4kgの土器片が得られている。174-5～9は深鉢の破片で胎土にセガイが多く混入する。

遺構の時期は埋土に1和団中礫火山灰が混入することや出土遺物から前期前葉と思われる。

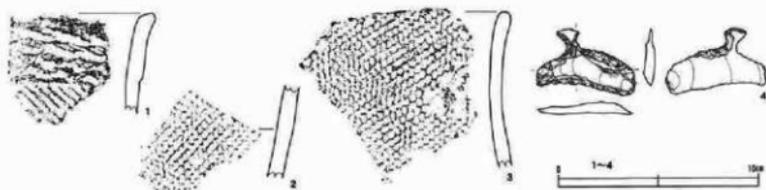
RA163 (図版: 175～177, 写真図版: 168・169・285・286)

中央東寄りのY8グリッドに位置し、RA158の東側を切って構築されている。東側や西側の下位には縄文時代前期のRA162やRA183住居跡などがある。北東側の壁が欠損するが、ほぼ円形状を呈する。壁は外傾ないしは直立気味である。規模は直径約4.5m・壁高20～35cmである。埋土は黒褐色土や小礫の混じる暗褐色土で構成され、締まりは密である。

床面は貼り床され、平坦になり、締まりは密である。中央南東寄りに石囲炉(1号)があり、その少し北には作り替えられたと思われる炉跡(2号)がある。柱穴状土坑が4基確認されている。規模は開口部径20

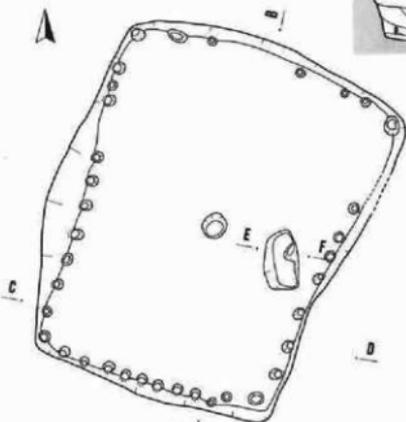


第173図 RA160・161 (1) 住居跡



RA161

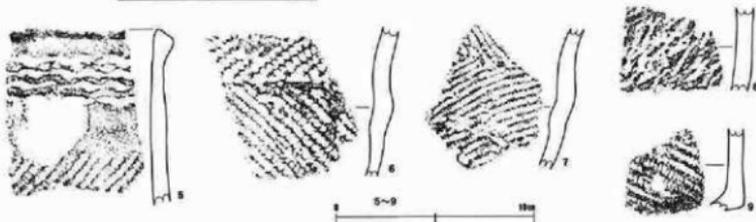
Y=96,234m
X=-57,360m



RA162

X=-57,365m
Y=96,234m

Y=96,237m
X=-57,365m



第174図 RA161 (2)・162住居跡

～40cm・深さ30～40cmである。炉や貼り床から、改築されたようである。

1号石囲炉は角礫を五角形になるように組み合わせて埋め込んでおり、長さ90cm・幅70cmである。焼土は最大8cmの厚さで形成されている。2号炉は、一辺約80cm方形の石組みだったようであるが、礫の抜き取り痕がくぼんで確認された。残存する焼土の厚さは最大6cmほどである。

出土遺物は、大木8b式相当の土器を主体に約17.1kgの土器片と石器5点が出土している。175-1～176-2が床面出土で、他は埋土からの出土遺物である。床面出土の遺物は隆線と沈線による渦巻文や平行線文が施文され、大木8b式期に相当する。176-3は有孔の波状突起を持つ深鉢で、平行沈線による施文がなされているが、大木8b式期に相当するようである。176-4は前期前葉の土器片で、胎土にセシイが混入する。177-15は有茎の石甌、177-16は無茎の石甌である。177-17は基部の破損した磨製石斧、177-18・19は磨石で、18は平たい面だけでなく側縁にも磨面が形成されている。

遺構の時期は縄文時代中期中葉と思われる。

RA164 (図版：178～183、写真図版：169～171・287・288)

南寄りA10～C11グリッドに位置している。東側は宅地跡の造成時に削平されたようで残存しない。中央付近をRD88土坑に切られている。西側ではRA153・168住居跡を切るようだが、斜面のため明瞭でない。断続する壁溝が二重に巡ることや柱穴状土坑が二組あることから、建て替えられて二時期の重葺である。

最初の時期は長軸5.3m・短軸3.5mの楕円形状を呈していたようで、柱穴はpp9～pp12の4基が対になるようである。規模は開口部径30～50cm・深さ30～50cmである。炉と思われる焼土が南東寄りにある。掘乱を受けているが直径1mほどの広がりだったようで、厚さは最大10cmほどである。

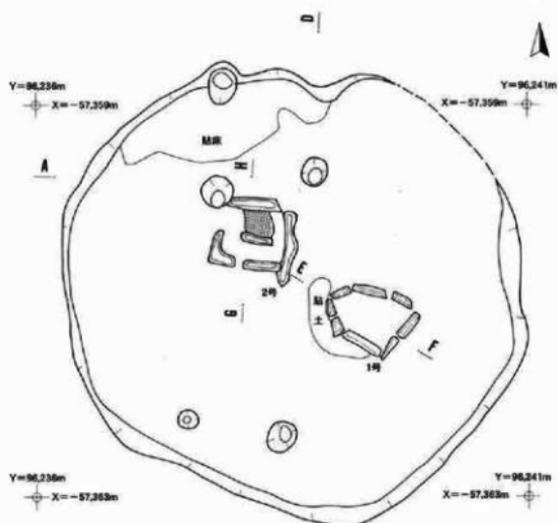
二時期目は西側の壁の残る時期で、楕円形ないしは卵形を呈する。壁は直立気味ないしは外傾して立ち上がる。規模は、長軸8m・短軸6.5m、壁高は西側で30cmほどである。埋土は小礫を含む黒褐色土などで構成され、締まりは密である。床面は貼り床されて平坦になっている。南東寄りに石囲炉、中央付近に地床炉があり、PP1～PP8の柱穴状土坑が検出されている。柱穴状土坑は開口部径30～50cm・深さ40～70cmである。また、石囲炉の北に埋設土器がある。

石囲炉は角礫を一端が広い台形状に並べて作られている。短辺40cm・長辺80cm・長さ1mほどに掘りくぼめて、礫を埋め込んでおり、礫と礫の間隔は広い。焼土はくぼみの底に最大5cmの厚さで形成されている。中央の地床炉はRD88に切られているが、やくぼんで長軸60cm・短軸40cmの楕円形状に広がり、厚さは最大3cmである。

埋設土器は石囲炉の北側に直径・深さともに50cmの上坑を掘り、最大径43cm・高さ50cmの大型深鉢を倒立させて埋設していた。土器の底部は床面と同レベルで、穿孔された底部が確認された。土器内の埋土は下位が黒色土で、上位は穿孔部から落下してきた暗褐色土等で構成されていた。土器内の土壌は脂質分析を行いその結果は胎児の埋葬を想定している。

遺物は埋設土器を始め大木8b式相当のものが多く、約10.5kgの土器片と石器が得られている。180-1から181-4は床面出土の遺物で、181-8は埋設土器、それ以外は埋土からの出土である。床面出土の遺物にも180-3のように胎土にセシイを混入する前期前葉の土器片もある。181-3は横長の石甌、181-4は磨石の破損品である。埋設土器は粗製の深鉢であるが、胴部上位が膨らむキャリパー形を呈し、大木8b式期相当の土器と同様の形状をしている。

遺構の時期は、縄文時代中期中葉と思われる。



B

RA163号1号

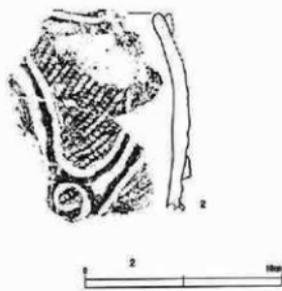
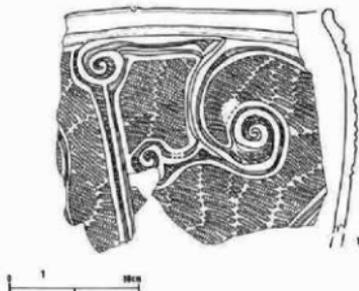
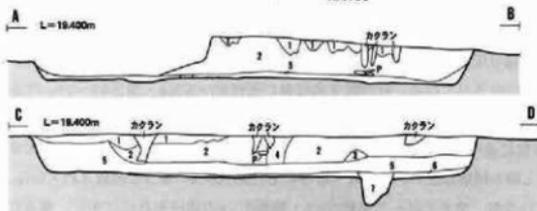
- 1 72YR3/3 暗褐色 粘性やや中密、跡残り疎、炭化物・灰土粒少量混入
- 2 5YR4/6 赤褐色 粘性弱、跡残り中、灰土混
- 3 10YR5/6 濃褐色 粘性やや中密、跡残り密、暗褐色土多量・凝塊少量混入
- 4 10YR3/3 暗褐色 粘性やや中密、跡残り密
- 5 10YR2/3 暗褐色 粘性中、跡残り中



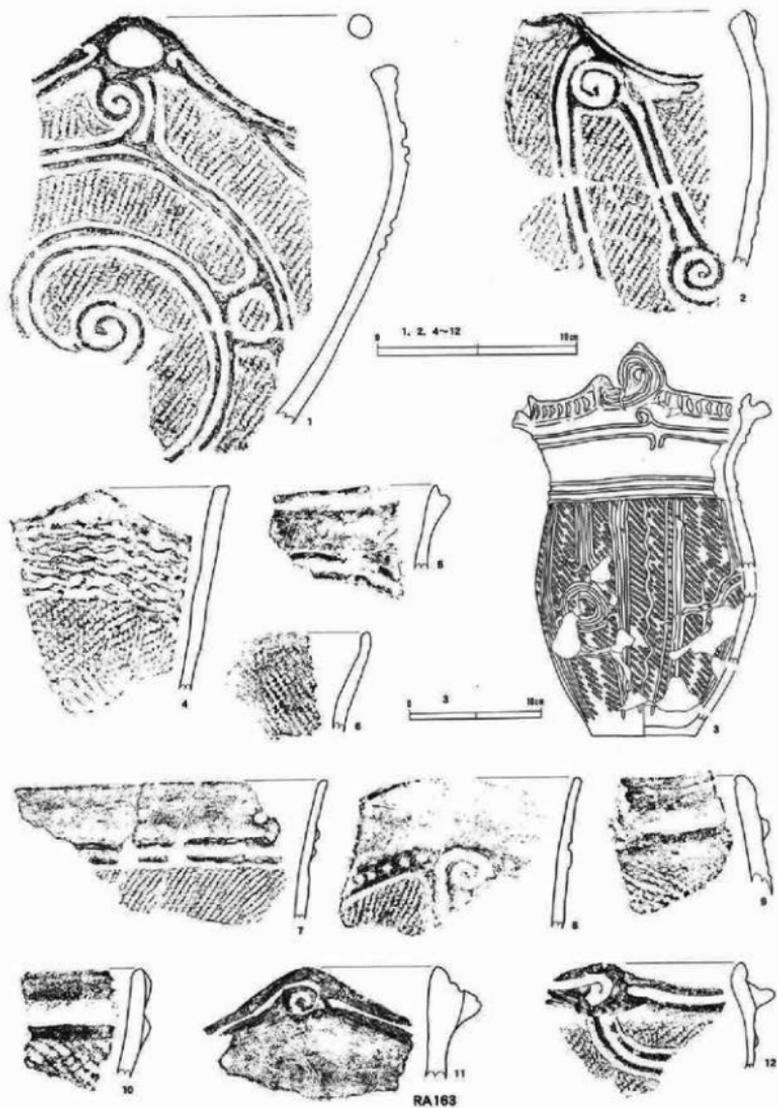
RA163号2号

- 1 10YR4/6 褐色 粘性中、跡残りやや中密、脆り疎
- 2 5YR4/6 赤褐色 粘性弱、跡残り密
- 3 10YR3/3 暗褐色 粘性やや弱、跡残り密
- 4 10YR4/6 褐色 粘性中、跡残り密
- 5 10YR2/3 暗褐色 粘性中、跡残りやや中密

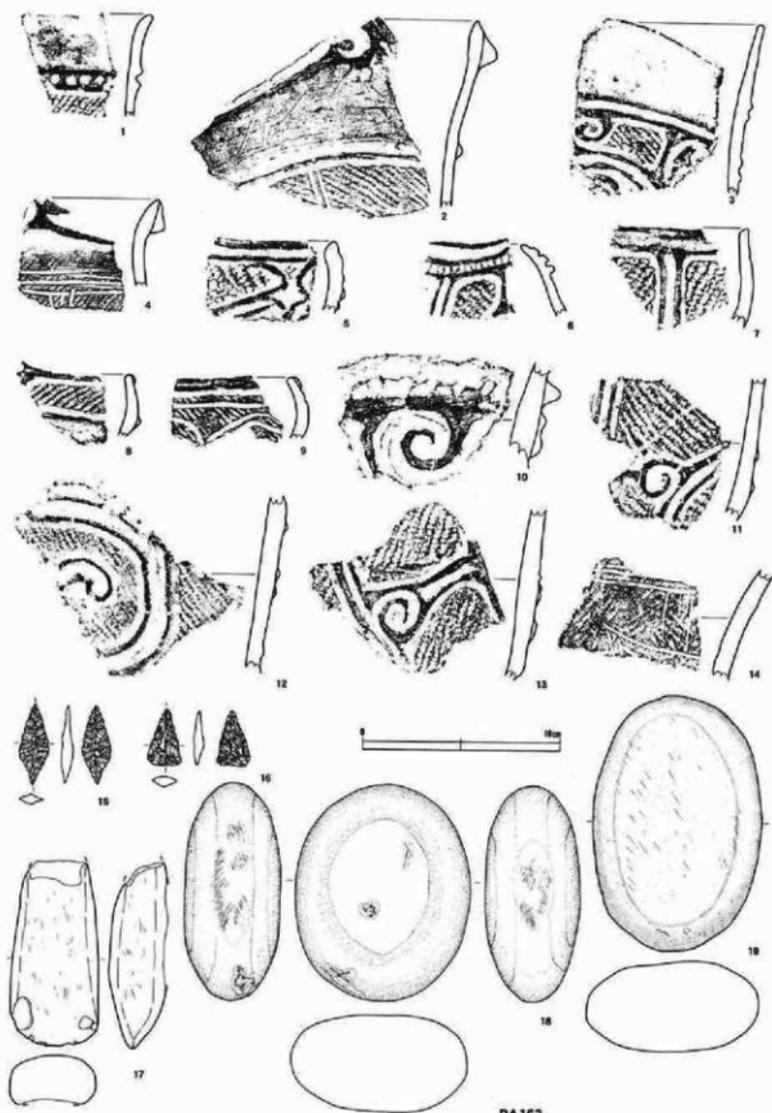
RA163



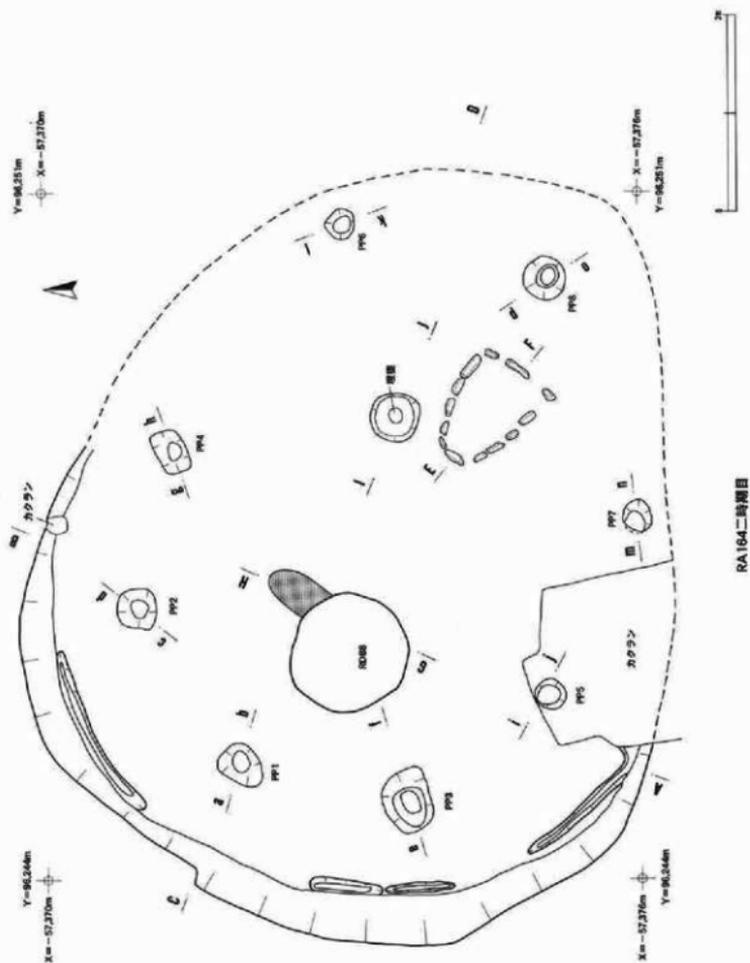
第175図 RA163 (1) 住居跡



第176圖 RA163 (2) 住居跡出土遺物

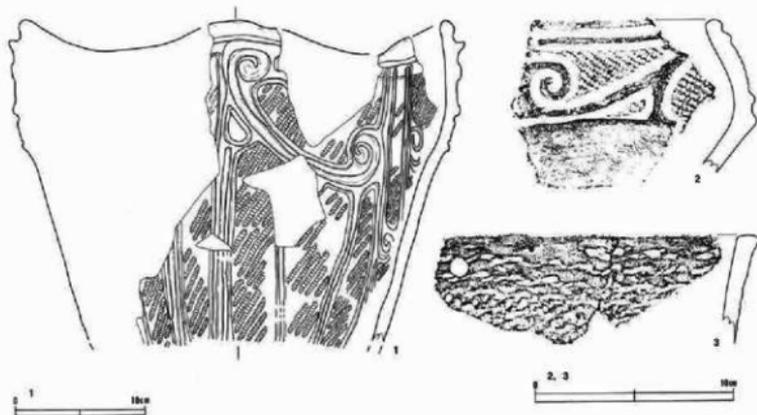
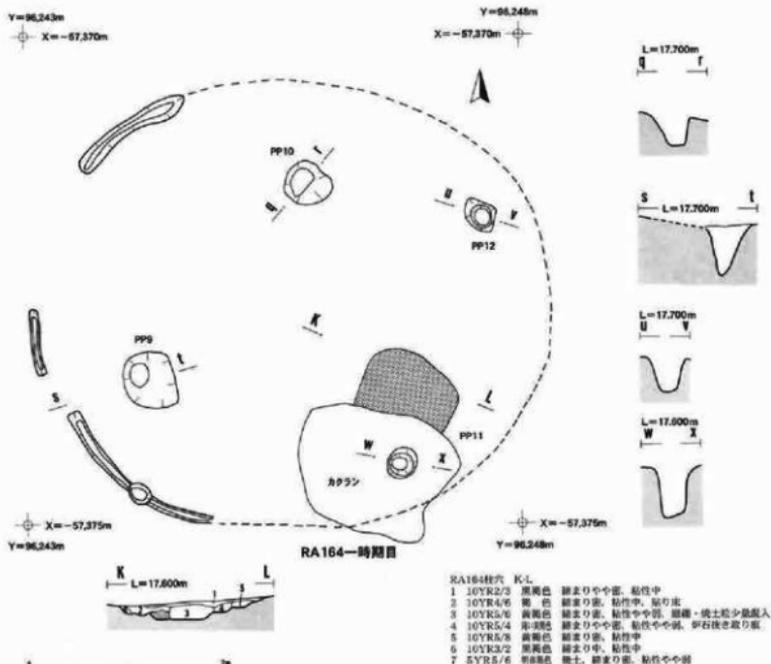


第177圖 RA163 (3) 住居跡出土遺物

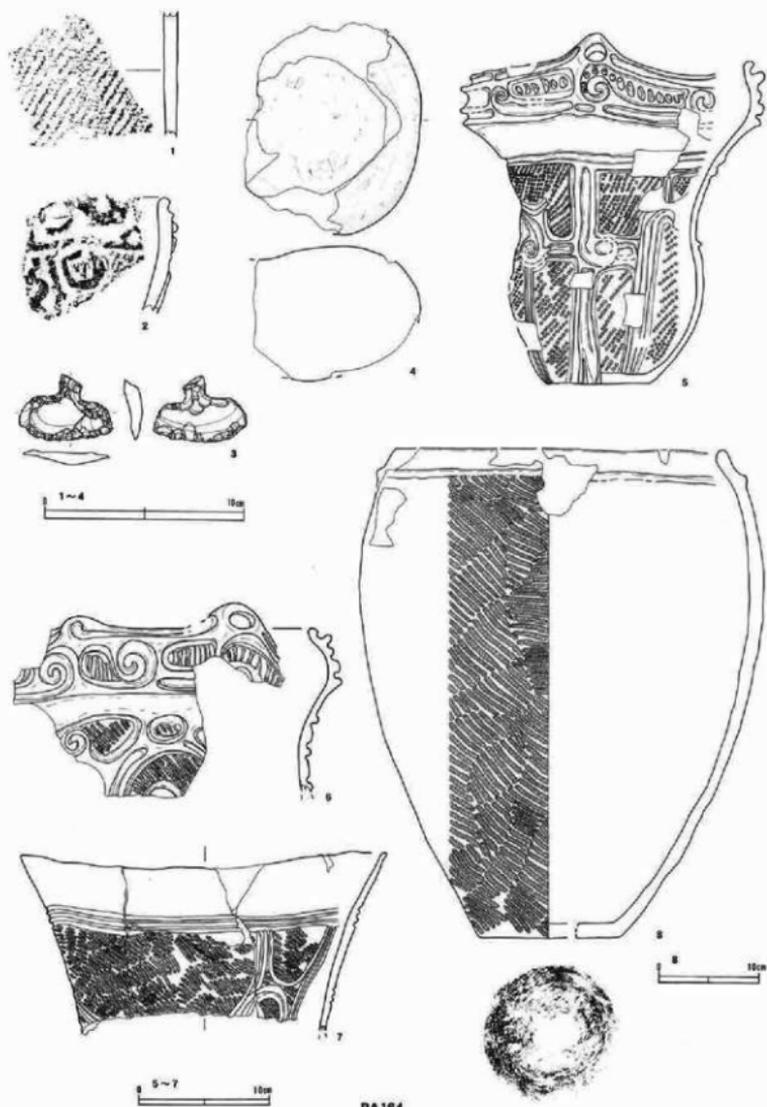


RA164二輪掘削

第178図 RA164 (1) 住居跡

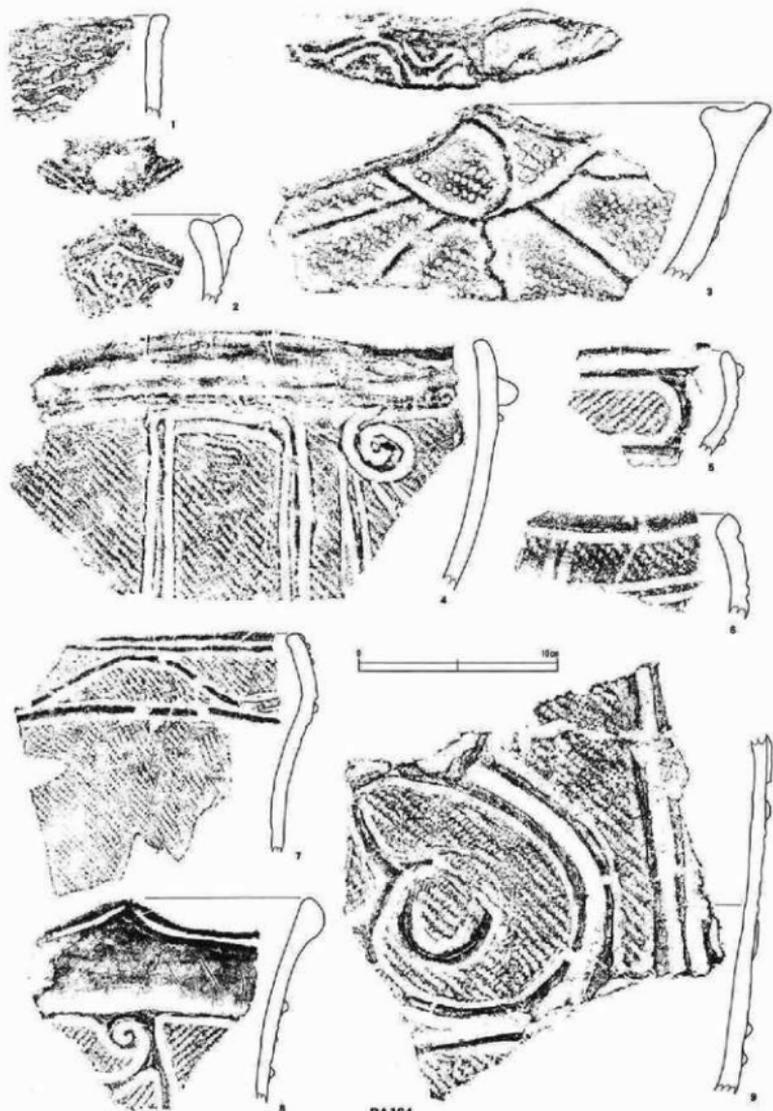


第180図 RA164 (3) 住居跡



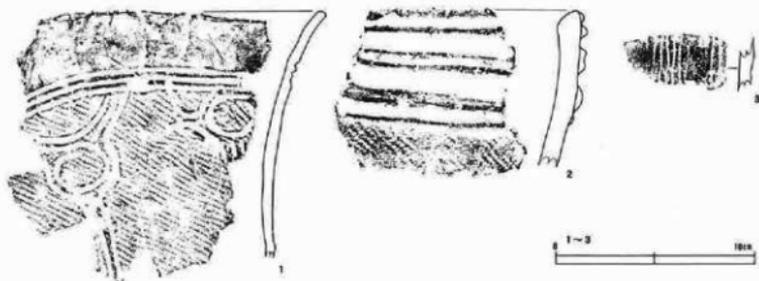
RA164

第181圖 RA164 (4) 住居跡出土遺物

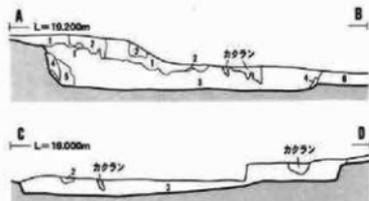
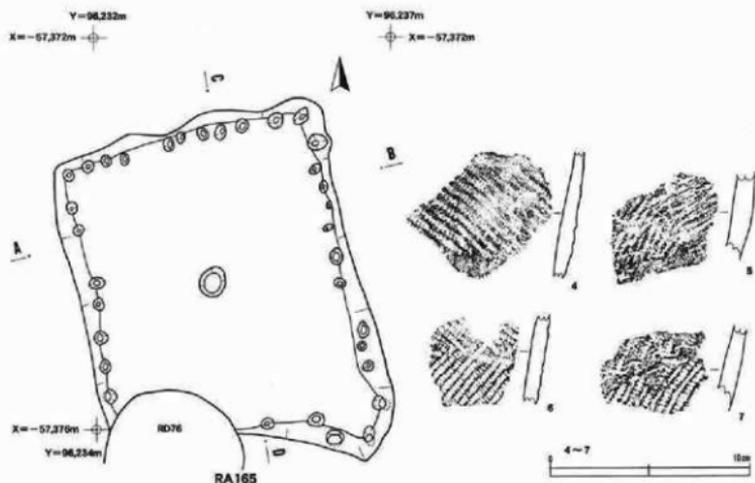


RA164

第182図 RA164 (5) 住居跡出土遺物



RA164



- RA165
- 1 10Y23/1 灰褐色 粘性泥、跡まじりや中継、中継火山灰小ブロック混入
 - 2 10Y23/0 黄褐色 粘性泥、跡まじり泥、中継火山灰
 - 3 10Y23/4 暗褐色 粘性泥、跡まじり泥、跡跡少量混入
 - 4 10Y25/6 黄褐色 粘性中、跡まじり泥、火山灰混入
 - 5 10Y24/2 灰褐色 粘性泥、跡まじり泥、跡跡少量混入
 - 6 10Y25/4 非凝結 粘性泥、跡まじり中



第183図 RA164 (6)・165住居跡

RA165 (図版: 183, 写真図版: 172・288)

南西寄りB18グリッドに位置し、RA531住居跡やRD76土坑の下位に検出された。南側をRD76土坑に切られているが、北東隅がやや突出する長方形を呈するようである。壁は外傾して立ち上がる。規模は3.3m(最長3.7m)・短軸2.8m、壁高は15~40cmである。埋土は上位に中振火山灰がレンズ状に堆積し、下位は主に暗褐色土で構成される。

床面は南に向かって傾斜する。中央に柱穴状土坑が1基あり、壁際に杭孔状の小土坑が連続して巡る。柱穴状土坑の規模は開口部径25cm・深さ35cmである。炉はない。

出土遺物は、埋土から土器片約0.6kgが得られている。土器片の胎土にはセシイが混入しており、前期前葉と思われる。

遺構の時期は、埋土に十和田中振火山灰が混入することや出土遺物から、縄文時代前期前葉と思われる。

RA166 (図版: 184~186, 写真図版: 173・174・288・289)

南端西寄りのC9~D10グリッド付近に位置し、RE11竪穴状遺構の床面下で検出した。北東側をRD85土坑に切られている。南東側の壁の状況が不明瞭であるが、長方形を呈するようである。ただし、北西側と西側に一段高い張り出し部分があり、そこを壁や床とするような遺構が重複していた可能性もある。壁は直立気味の所もあるが内湾ぎみに外傾して立ち上がる。規模は長軸8m以上・短軸約4m(張り出し部分を含めると約5m)である。壁高は西側で30~40cmである。埋土は上位が褐色土や黄褐色土の中振浮心層、下位が黒褐色土で構成される。張り出し部分は門の一部が断ち切られたような形状である。床面からの高さが北西で30cm・西側で20cmで、ほぼ平坦になっている。

床面は南東に緩く傾斜するがほぼ平坦である。北西寄りと南寄りに地床炉が検出され、中央より北西には柱穴状土坑が数基検出されている。

北西寄りの地床炉は70cm×50cmの範囲に楕円形状に広がり、不明瞭な焼上が最大6cmの厚さで形成されている。南寄りの焼土は1辺40cmの隅丸方形に広がり、やはり不明瞭な焼土が最大6cmの厚さで形成されている。柱穴を探して床面を下げたため、やや浮いたかたちになっている。

柱穴状土坑のうち、pp1・pp3・pp5・pp7は張り出し部分の所に想定される遺構に伴うという見方もできる。

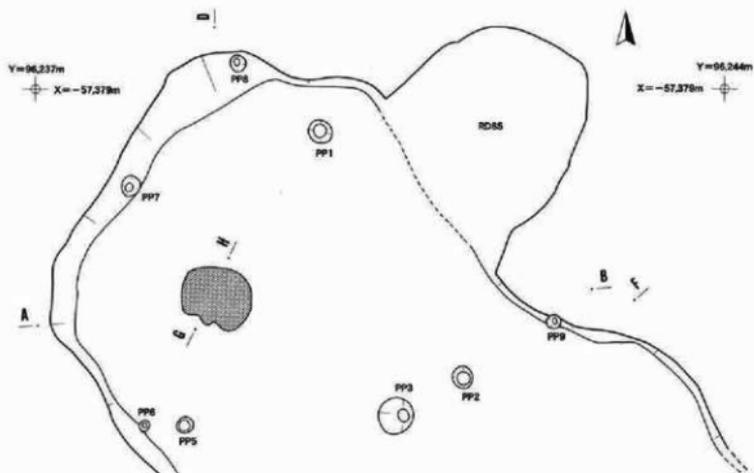
出土遺物は、埋土から約7.8kgの土器片や石器が得られている。胎土にセシイを混入する深鉢の破片が多く平口縁のものと波状口縁のものがある。羽状縄文や不整然糸文が多く用いられている。大木1式期から2b式期に相当するものが多いようである。186-3は装飾突起の下に隆線で曲線文様が施された中期中葉の土器片である。186-6は古代の紡錘車である。後世の混入物と思われる。186-7は無蓋の石炭で、二等辺三角形を呈している。

遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

RA167 (図版: 186・187, 写真図版: 174・175・289)

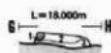
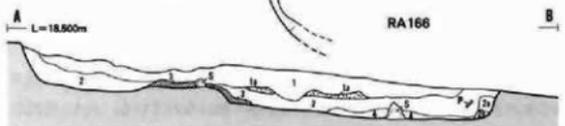
中央南寄りのZ9グリッド付近に位置し、RA529の下位に検出された。そのため北西側の壁は不明瞭である。また北側はRA162やRA529住居跡・RD84土坑に切られている。南側下位にはRA213住居跡がある。平面形は楕円形状を呈し、残存部の壁は直立気味である。規模は長軸4.5m・短軸4m・壁高30cmほどである。埋土は黒褐色土や暗褐色土で構成され、床面付近には褐色土のブロックも混じる。

床面はほぼ平坦で、締まりは密である。中央付近に石囲炉があり、炉を挟んで北東と南西の壁寄りに柱穴



Y=96,237m
X=-57,384m

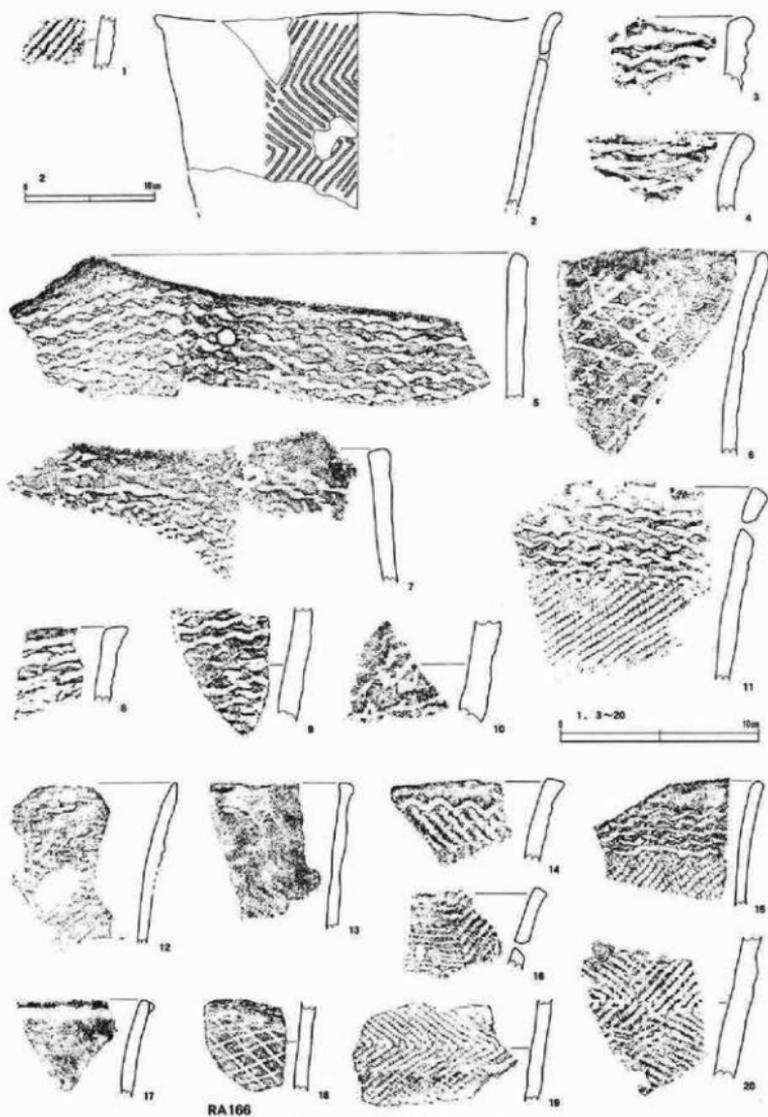
- RA166 A-B C-D E-F
- | | | | | | |
|----|----------|-----|-------|--------|---------------|
| 1 | 10YR4/3 | 赤褐色 | 粘性强 | 締まり中 | 深褐色土ブロック中量混入 |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色 | 粘性强 | 締まり中 | 中厚火山灰ブロック混入 |
| 2a | 10YR3/8 | 黄褐色 | 粘性無し | 粘性强し | 締まり密 |
| 2b | 10YR5/4 | 赤褐色 | 粘性强 | 締まり中 | 中厚火山灰ブロック少量混入 |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 粘性中 | 締まりやや密 | 小礫少量混入 |
| 3a | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘性中 | 締まりやや密 | 小礫少量混入 |
| 3b | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘性中 | 締まりやや密 | 鈍い黄褐色土混入 |
| 4 | 7.5YR4/3 | 褐色 | 粘性やや弱 | 締まり中 | 黄土 |
| 5 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | 粘性中 | 締まりやや密 | 小礫少量混入 |
| 6 | 10YR3/3 | 緑褐色 | 粘性弱 | 締まり密 | |



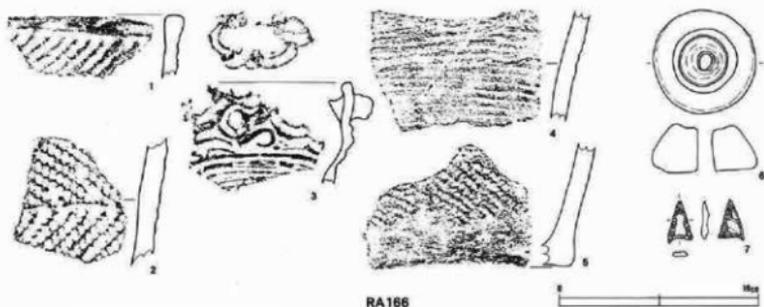
- RA166 G-H
- | | | | | | |
|---|---------|-----|-----|--------|---------------|
| 1 | 10YR4/4 | 褐色 | 粘性强 | 締まり密 | 中厚火山灰ブロック少量混入 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 粘性中 | 締まりやや密 | 小礫少量混入 |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘性中 | 締まりやや密 | 鈍い黄褐色土混入 |



第184図 RA166 (1) 住居跡



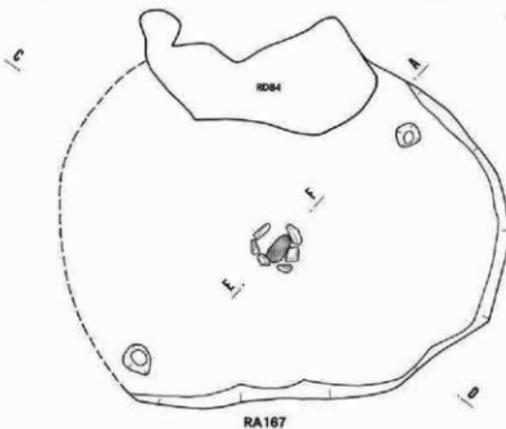
第185圖 RA166 (2) 住居跡出土遺物



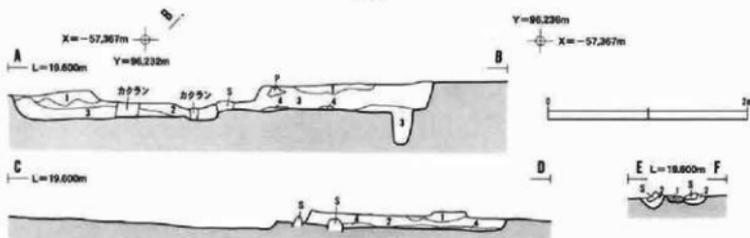
RA166

Y=96.232m
X=-57.362m

Y=96.236m
X=-57.362m



RA167



RA167

- 1 10YR2/2 黒褐色 緑まりや中密、粘性やや強
- 2 10YR3/2 黒褐色 緑まりや中密、粘性やや強、繊維少量混入
- 3 10YR2/3 黒褐色 緑まりや中密、粘性強
- 4 10YR/3 暗褐色 緑まり密、粘性やや強、褐色土ブロック少量混入

RA167 跡

- 1 5YR3/6 暗褐色 粘性弱、緑まりや中密、塊土
- 2 10YR3/2 黒褐色 粘性弱、緑まり密、褐色土ブロック混入

第186図 RA166 (3) - 167 (1) 住居跡出土遺物

状土坑が2基検出されている。柱穴状土坑は径30～40cm・深さ40cmほどである。南東側から入れ子になった鉢形土器が出土している。

かば角礫を径50cmほどの円形に並べて埋めて作られている。焼上の厚さは最大6cmである。

出土遺物は床面から出土した土器を始め約2.3kgが得られている。粗製の深鉢であるが、器形や地文の特徴は中期中葉の時期と思われる。187-1・2は4単位の波状口縁である。

遺構の時期も縄文時代中期中葉と思われる。

RA168 (図版：187・188, 写真図版：176・177・289・290)

南寄りのA10グリッド付近に位置し、IIb層とV層の漸移層中で検出された。下位にはRA153・181住居跡がある。東及び南東側は攪乱や削平を受けている。残存部から平面形はほぼ円形だったと推定される。壁は外傾して立ち上がる。規模は直径約3.5m・壁高10cmである。埋土は暗褐色土で構成され、締まりはやや密である。

床面はほぼ平坦で、一部に貼り床があるが締まりはやや疎である。中央付近に角礫を並べた石組が見られる。南東側の石組は失われているが長さ50cm・幅40cmほどと思われる。焼土は痕跡程度にしか認められなかった。

出土遺物は埋土から約0.7kgの土器片や石器が得られている。平行沈線と磨消帯による文様が施文される大木9式相当の上器片が多いようである。188-6・11は細い平行沈線が施文され、中期中葉の土器片のようである。188-15は基部の破損した石版のようである。

遺構の時期は縄文時代中期後葉と思われる。

RA169 (図版：189～191, 写真図版：177・178・290・291)

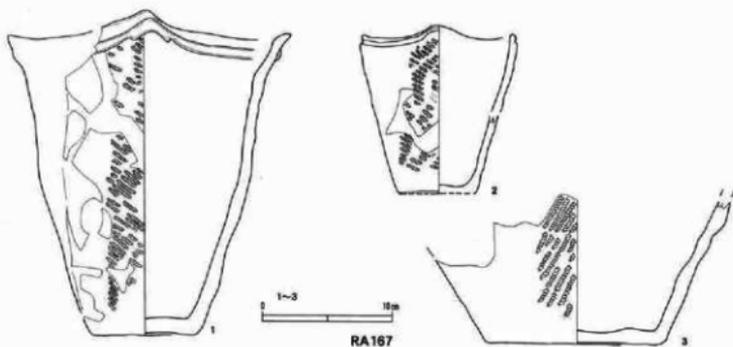
南寄りのZ9～A10グリッド付近、RA168の西に位置し、RA168に切られている。また南西下位には前期のRA182住居跡が、北側下位にはRA183住居跡が重複する。平面形は楕円形状で、壁は直立ないしは外傾する。規模は長軸5m・短軸4m・壁高25～40cmである。埋土は細礫や炭化物を含む黒褐色土を主に構成され、締まりはやや密である。

床面は平坦で、締まりは密である。中央付近に石囲炉があり、その周囲にも焼土がある。柱穴状土坑は炉を中心に南北と西側の壁際に4基検出されているがpp2～pp4の3基が組合わさるようである。土坑の規模は開口部径20～30cm・深さ40～50cmである。

かば角礫を1辺60cm位の方形に浅く埋め込んで作られている。周囲には長径30～40cmの焼土が見られる。炉内には痕跡程度の焼土しか見られないが西側の焼土は厚さ5cmほどに形成されている。

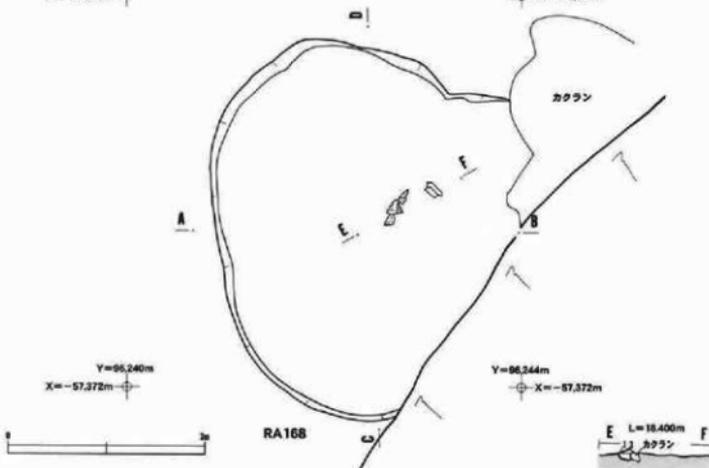
出土遺物は埋土から大木8b式期相当のものを主に、約15kgの土器片と石器・アスファルト塊・動物遺骸が得られている。189-1は大木8b式期相当の深鉢で、4単位の波状口縁の一つが穿孔されている。189-2は大木9式期相当の深鉢である。190-1は大木8b式期の壺形土器で、頸部に4単位の裝飾突起がつき、そこから垂下する蔭帯で4単位の文線区画帯が作られ、蔭帯による渦巻き文が多く施文されている。他の土器片も平行沈線と隆線による渦巻き文が施文されたものが多い。191-1は円盤状土製品で、表面に黒色の樹脂状物質が付着している。191-2は石匙の破損品、191-3は削刮器、191-4は先端が欠損した石槍のようである。191-5は磨石の破損品で、縁辺に磨面が形成されている。

アスファルト塊は20cm×15cm×5cmほどの大きさで、重量約495gであったが、出土後崩壊が進み小プロ



Y=95,240m
X=-57,368m

Y=95,244m
X=-57,368m



Y=95,240m
X=-57,372m

Y=95,244m
X=-57,372m

A L=16.800m

B



C L=16.800m

D

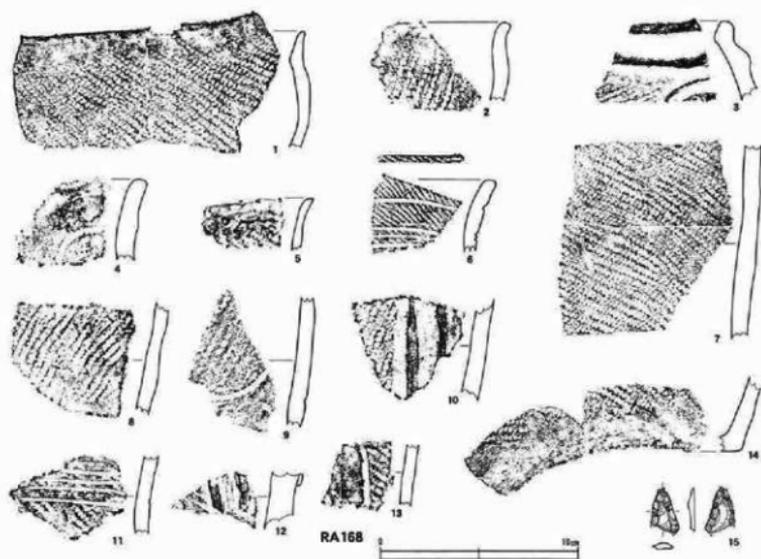


RA168 部 E-F
1 10YR2/2 黒褐色 粘性强、締まり度、粘土質少量混入
3 5YR4/6 赤褐色 締まりやや弱、粘性弱、橋上

RA168 部 A-B C-D

- 1 10YR3/1 黒褐色 粘性强、締まり強
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘性强、締まりやや弱
- 3 10YR2/2 黒褐色 粘性强、締まりやや弱
- 4 10YR2/6 黄褐色 粘性强、締まり中

第187図 RA167 (2)・168 (1) 住居跡



第188図 RA168 (2) 住居跡出土遺物

ック状になってしまった。アスファルトの同定には北海道大学小笠原正明教授の協力を得た。動物遺骸は7cm×3cm・厚さ1mm～痕跡程度の破片で、種や部位は不明である。

遺構の時期は、縄文時代中期中葉と思われる。

RA173 (図版：191, 写真図版：179)

東側拡張部中央付近のA18グリッドに位置し、Ⅲ層中で検出された。東側と南側の壁が残存しないが、平面形は不整な方形状を呈するようである。残存部の壁は外傾して立ち上がる。規模は1辺2.2～2.5m、壁高は西側で約10cmである。埋土は砂礫を含む暗褐色土で構成されている。

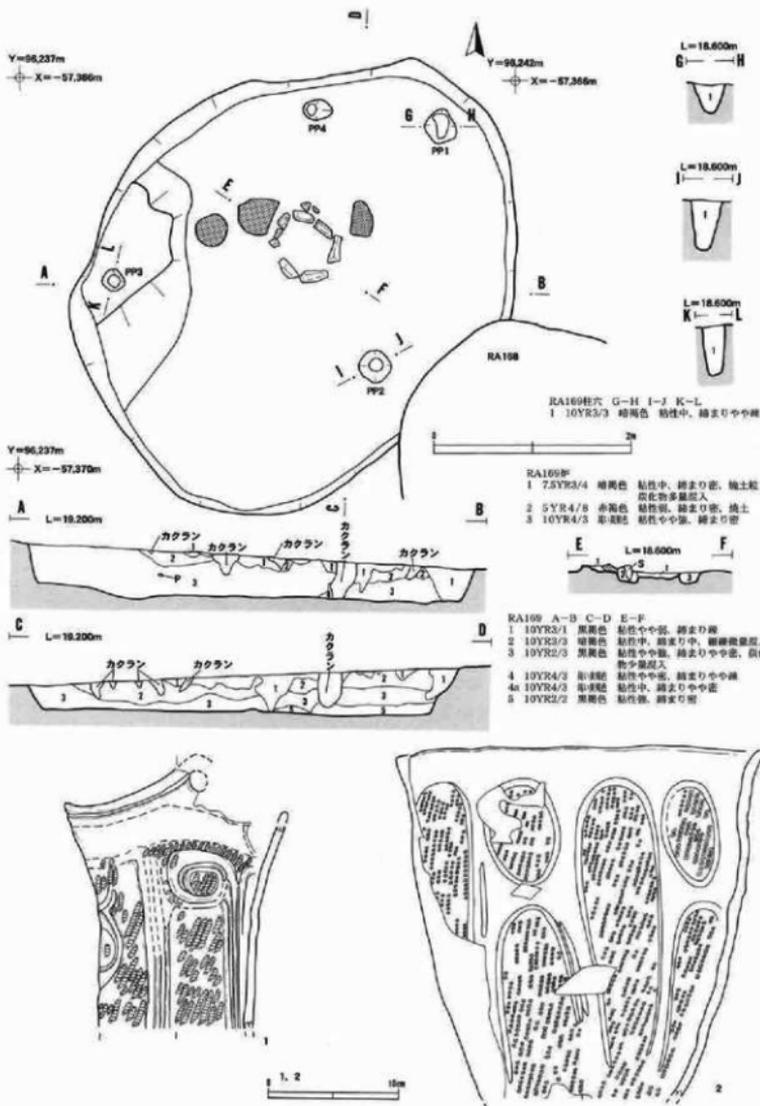
床面は一部に巨礫が露出しているが、ほぼ平坦である。中央付近に70×30cm・深さ10cmの浅い土坑があり、壁際には杭孔状の小土坑が巡る。炉はない。

出土遺物は無い。

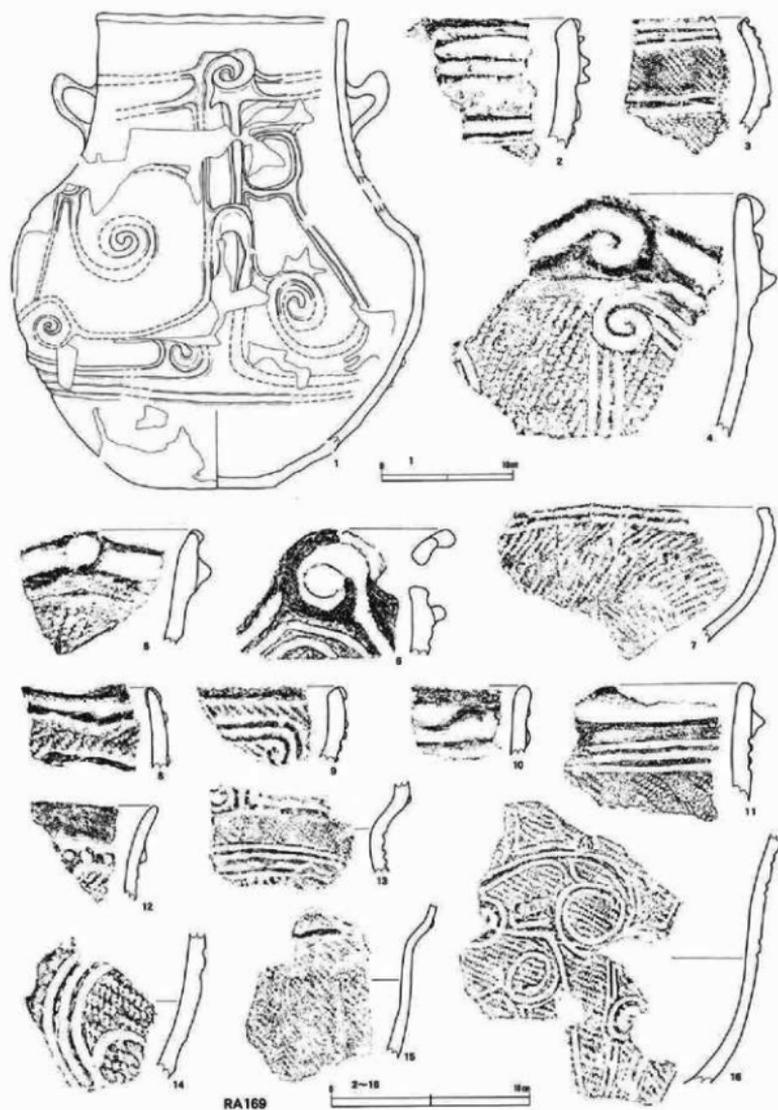
遺構の時期は、検出層位や形態から縄文時代前期前葉と思われる。

RA180 (図版：191・192, 写真図版：180・181・292)

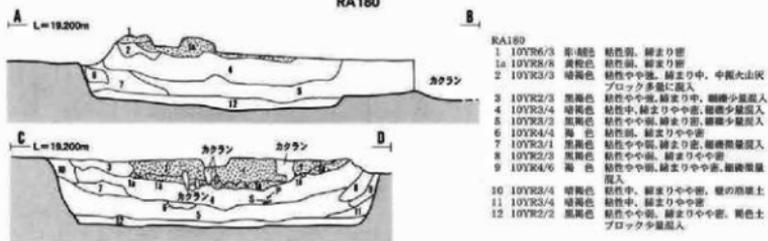
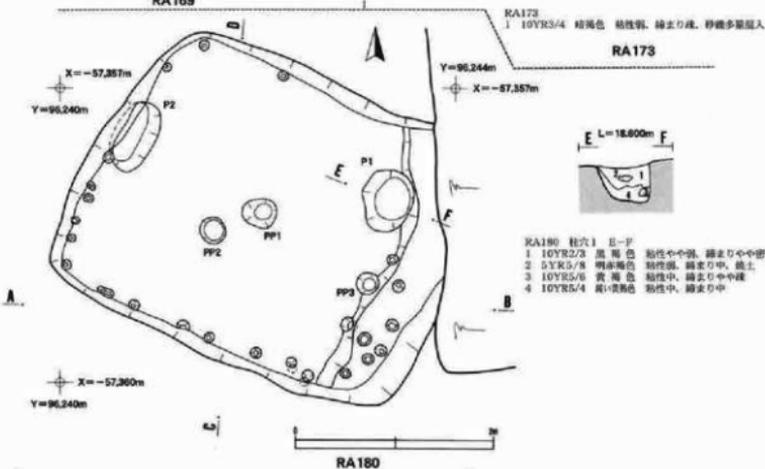
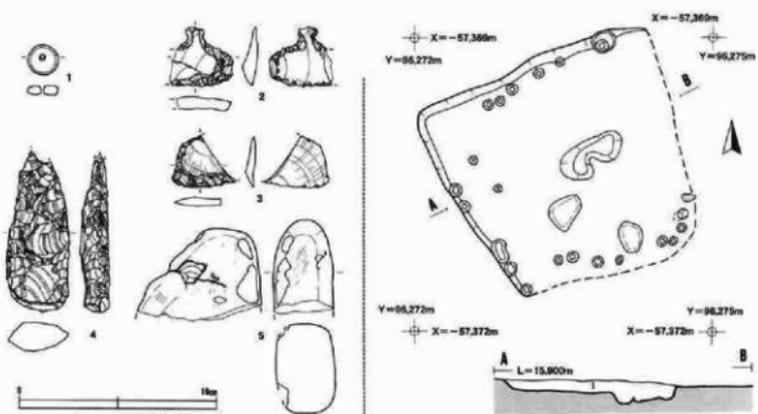
中央南寄りのX10グリッドに位置する。重複はないようだが、東側で後世の攪乱を受けている。平面形は長方形状で、壁は直立ないしは外傾して立ち上がる。規模は長軸4m・短軸3.1mで、壁高は最大70cmであ



第189図 RA169 (1) 住居跡



第190图 RA169 (2) 住居跡出土遺物



第191図 RA169 (3)・173・180 (1) 住居跡

る。埋土は上位に黄褐色の中掘火山灰がレンズ状に堆積し、中位～下位は小礫の混入する暗褐色土や黒褐色土で構成されている。

床面は貼り床され、平坦であるが、貼り床の下にもう1種の住居跡があり、貼り床して建て替え拡張したようである。西側壁際と東寄りに楕円形の土坑（P1,P2）があり、中央付近に柱穴状土坑、壁際に杭孔状小土坑が連続して通っている。土坑P1は長軸60cm・短軸50cm・深さ40cmである。P2は長軸75cm・短軸45cm・深さ35cmで一部壁の内部に入り込んでいる。主柱穴はpp1で、壁際の小柱穴がそれに伴うと思われる。主柱穴の規模は開口部径30cm・深さ40cmである。炉はない。

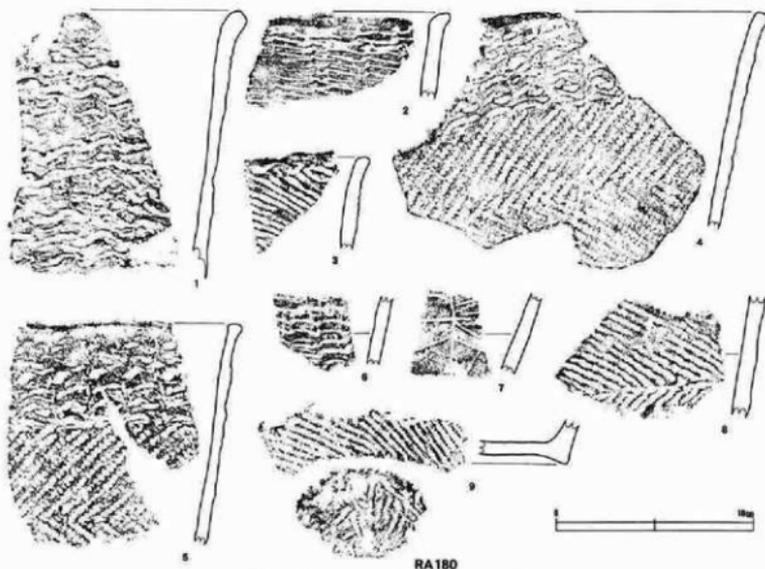
拡張前の東壁は段差になったところで、pp2を主柱穴とし、pp3などの壁柱穴を伴っていたと予測される。主柱穴の規模は開口部径25cm・深さ30cmである。

出土遺物は大木1～2式相当の土器を主に約1.8kgの土器片が得られている。192-1・4・5は不整燃糸文、192-2・3は葺瓦状燃糸文、192-7は沈線文、192-8は羽状縄文、192-9の底部にも縄文が施文されており、いずれの土器片の胎土にもセシイが混入している。

遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

RA181（図版：193・194、写真図版：181・182・292）

南東寄りZ8グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側をRA544住居跡に切られ、また近・現代の攪乱も受けている。南西側はRA168住居跡に切られ、南側下位にはRA153住居跡がある。拡張された二時期の住居跡である。平面形は二時期とも長方形で、壁は直立ないしは外傾する。拡張前の一時期目の規



第192図 RA180 (2) 住居跡出土遺物

横は長軸5.3m・短軸4.2mほどで、壁高は約50cmである。二時期目の規模は長軸6.3m・短軸4.5mで、壁高は同じく約50cmである。短軸の長さはほとんど変わらず、長軸方向に南西に拡張したようである。壁上は上位から中位黄褐色の中礫火山灰をレンズ状に含み、下位は主に暗褐色土で構成される。

底面は平坦で、同一レベルで拡張したようである。一時期目の住居の主柱穴は中央にあり、南側の壁柱穴と思われる小柱穴のほかに二時期目の北や西の壁柱穴が利用されていたと思われる。主柱穴の大きさは、開口部径30cm・深さ50cmである。二時期目の主柱穴も中央付近にあり、開口部径20cm・深さ50cmである。この時期の壁柱穴の中で中線に近いところにある2基がやや大きく、また南側の両隅の2基もやや大きい。炉はない。

遺物は、埋土から約1.8kgの土器片と石器が得られている。いずれも深鉢の破片で、不整摺糸文や羽状縄文が施文され、胎上にはセイが混入している。前期前葉の上器片である。石器は削搔器と磨石各1点である。磨石は小判形の円礫の平らな面と両側の側縁に磨面が形成されている。

遺構の時期は、一時期目と二時期目の時間差は明らかではないが、両者とも埋土に十和田中礫火山灰が堆積することや出土遺物から、縄文時代前期前葉と思われる。

RA182 (図版:195, 写真図版:182・183・292)

南寄りのA9グリッド付近に位置し、RA169住居跡の下位で検出された。平面形は隅丸長方形を呈し、壁は直立気味に外傾する。規模は長軸3.5m・短軸3.2m・壁高50~80cmである。埋土は上位から床面近くまで明黄褐色の中礫火山灰がレンズ状に堆積し、床面付近は褐色上や黒褐色上で構成され、縮まりは密である。

床面は貼り床され、平坦である。中央に柱穴状土坑1基があり、壁際には杭孔状の小土坑が連続して巡る。中央の土坑の規模は開口部径20cm・深さ40cmほどである。炉はない。

出土遺物は、埋土下位から前期前葉の土器を主体に約0.6kgの土器片と石器が得られている。土器片は深鉢の破片で、胎上にセイが混入している。石器は、縦長の石匙1点である。

遺構の時期は、埋土に十和田中礫火山灰が堆積することや出土遺物から縄文時代前期前葉と思われる。

RA183 (図版:196・197, 写真図版:183・184・293)

中央南東寄りのY9~Z10グリッドに位置する。北側をRA163住居跡に、南側をRA169住居跡に切られている。中央付近の埋土の一部をRD103土坑が切っている。平面形は隅丸長方形で、壁は直立気味に外傾する。規模は長軸5.5m・短軸4.3m、壁高は最大80cmほどである。北西の壁の一部は棚状の段になる。埋土は上位から中位に黄褐色の中礫火山灰がレンズ状に堆積し、下位は細礫を含む黒褐色土で構成され、縮まりは密である。

床面は平坦で北西隅に土坑が1基ある。中央に柱穴状土坑、壁際には杭孔状小土坑が連続して巡るほか、内側にも柱穴状の土坑が巡り、建て替えがなされたようである。北西隅の土坑は、長軸1.1m短軸0.7mの楕円形状で、深さ30cmほどである。中央の柱穴状土坑の規模は開口部径30cm・深さ35cmである。

その他内部に検出された柱穴状土坑pp1~pp9は建て替え前の遺構に伴うようである。炉はない。

出土遺物は、前期前葉の土器を主体に約2.2kgの土器片と石器が得られている。197-1~11は埋土下位から出土した深鉢の破片で、羽状縄文や不整摺糸文が施文され、胎上にはセイが混入している。前期前葉の土器片である。197-12は埋土上位から出土した鉢の破片で、外面に幅の広い平行沈線が三条、口唇部直下の内面にも一条の沈線が巡っている。晩期の土器片である。石器は縦長の石匙の破損品である。やや厚めの

X=-57,364m
Y=96,241m

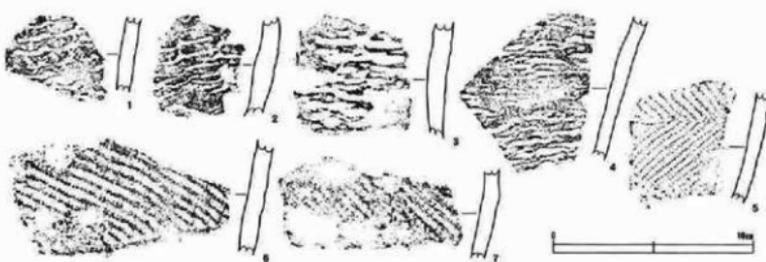
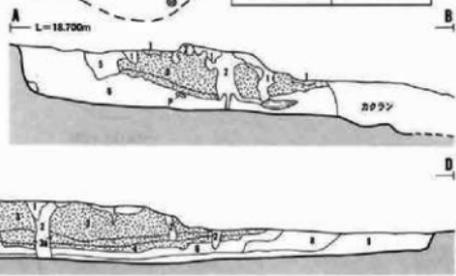
X=-57,364m
Y=96,247m

X=-57,369m
Y=96,241m

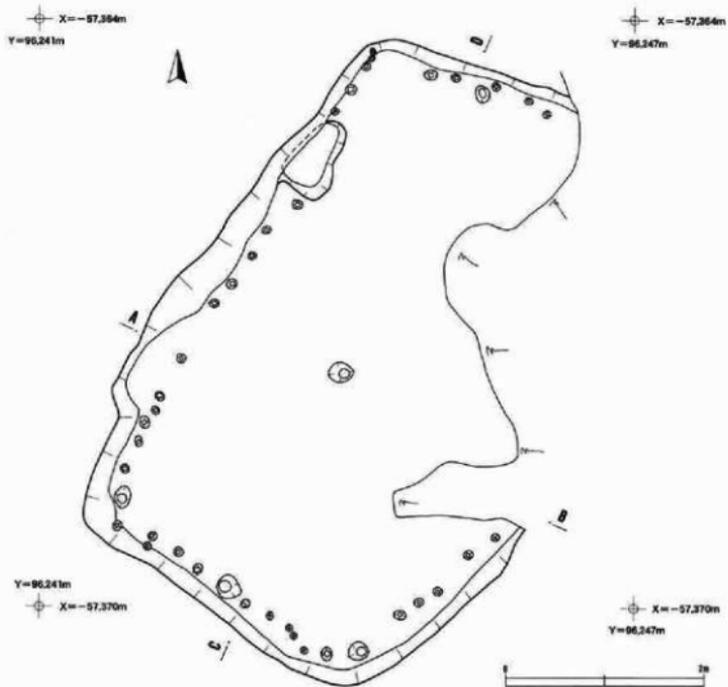
X=-57,369m
Y=96,247m

- RA181
- 1 10YK2/1 黒色 粘性や中泥、締まりや中密
 - 2 10YR4/4 褐色 粘性中、締まりや中密
 - 3 10YR5/4 赤褐色 粘性泥、締まり密
 - 3a 10YR5/6 黄褐色 粘性泥、締まり密
 - 4 10YR7/6 暗褐色 粘性泥、締まり密
 - 5 10YR4/4 褐色 粘性中、締まり中
 - 6 10YR2/3 黄褐色 粘性やや中泥、締まりや中泥、細砂・炭化物少量混入
 - 7 10YR4/6 褐色 粘性やや中泥、締まりや中密
 - 8 10YR3/3 緑褐色 粘性やや中泥、締まりや中密、黄褐色土ブロック少量混入
 - 9 10YR5/2 黄褐色シルト 粘性強、締まりやや密

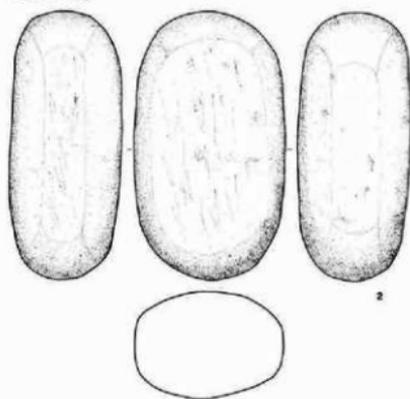
RA181-1号



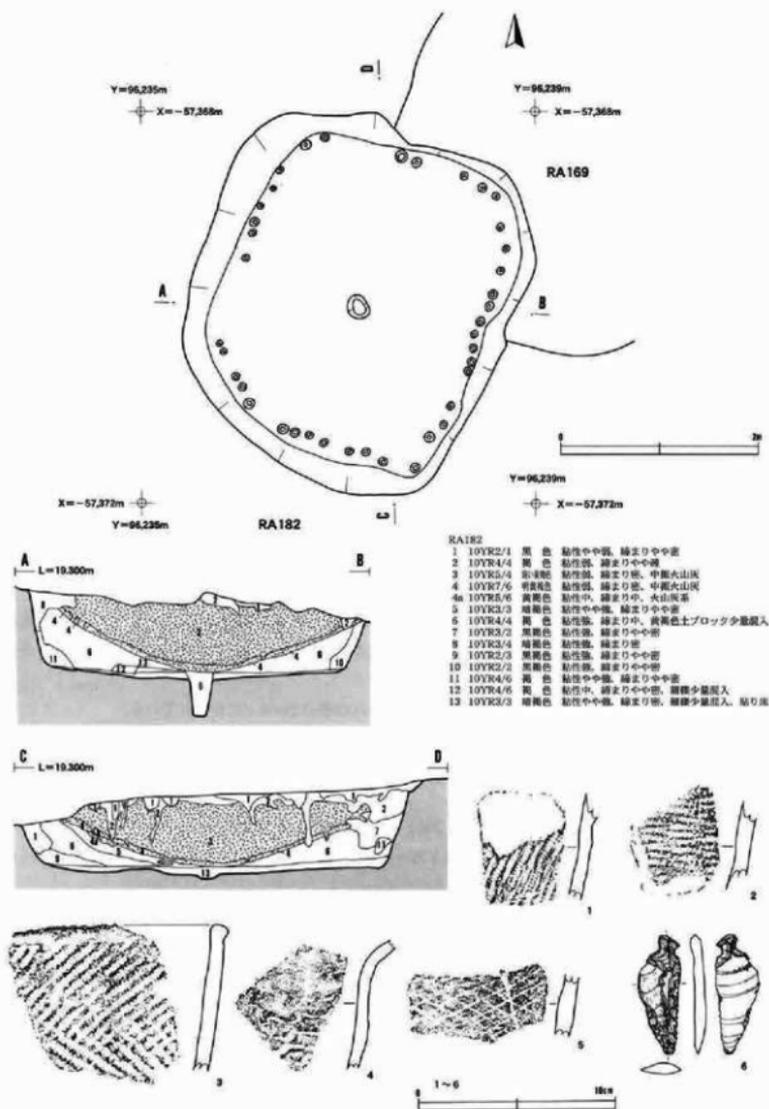
第193図 RA181 (1) 住居跡



RA181-2号



第194图 RA181 (2) 住居跡



第195図 RA182住居跡

剥片で、両側縁に両刃の刃部加工がなされている。

遺構の時期は、埋土に十和田中振火山灰が堆積することや出土遺物から縄文時代前期前葉と思われる。

RA184 (図版：197, 写真図版：184・185)

中央南寄りのZ7～A8グリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出された。北半分を奈良時代のRA529住居跡や縄文時代のRA169住居跡に切られている。平面形は隅丸長方形ないしは楕円形状を呈していたようである。壁は外傾して立ち上がる。残存する規模は長軸3.6m・短軸2.9mで、壁高は西側で15cmである。埋土は主に黒褐色土で構成され、締まりはやや密である。

床面はほぼ平坦で、中央付近に柱穴状土坑が1基、壁際に杭孔状の小土坑が連続して巡る。柱穴状土坑の規模は開口部径20cm・深さ20cmほどである。炉はない。

出土遺物はほとんどない。

遺構の時期は、遺構の形態から縄文時代前期前葉と思われる。

RA185 (図版：198, 写真図版：185・186)

南東寄りのZ18グリッド付近に位置し、RA542住居跡の下位に検出された。南側はRA544住居跡や新しい攪乱に切られている。焼失住居である。南西側の壁は残存せず、東側は調査区外に続く。残存部から推定し平面形は円形状だったようである。北側の壁は外傾して立ち上がる。規模は直径5～5.5m・壁高25cmである。埋土は主に暗褐色土で構成され、締まりはやや密である。

床面は南東方向に緩く傾斜する。南東寄りに複式炉が検出され、北西にはベッド状遺構があり、その壁際には断続的に盛溝が巡る。また中央付近から南方向に約1m間隔で3基の柱穴状土坑が検出されている。柱穴状土坑の規模は開口部径20～40cm・深さ20～50cmである。

複式炉は80cm×70cmの長方形の石組みと長軸1.2mほどの楕円形の前庭部からなるようである。石組みは板状の角礫を20～40cm埋め込んで作られ、焼上は底部付近と上位に厚さ4cmで形成されている。前庭部は深さ5cmほど掘りくぼめられている。

北側壁のベッド状遺構は床面から10cmほど高く、幅約70cm長さ2mほどに作られている。

出土遺物は、重複遺構の精査時に掘り上げたと思われ、残存しない。

遺構の時期は、遺構や炉の形態から縄文時代中期後葉～末葉と思われる。

RA191 (図版：198, 写真図版：186・187・293)

南寄りのB10グリッド付近に位置し、Ⅱb層下部～Ⅲ層上面で検出した。北東側でRA153住居跡に切られているようである。

平面形は隅丸長方形形状を呈し、壁は外傾する。規模は長軸2.7m・短軸2.5m、壁高は北側で35cmである。埋土は小礫の混じる黒褐色土が主で、床面付近に鈍い黄褐色土も見られ、締まりはやや密である。

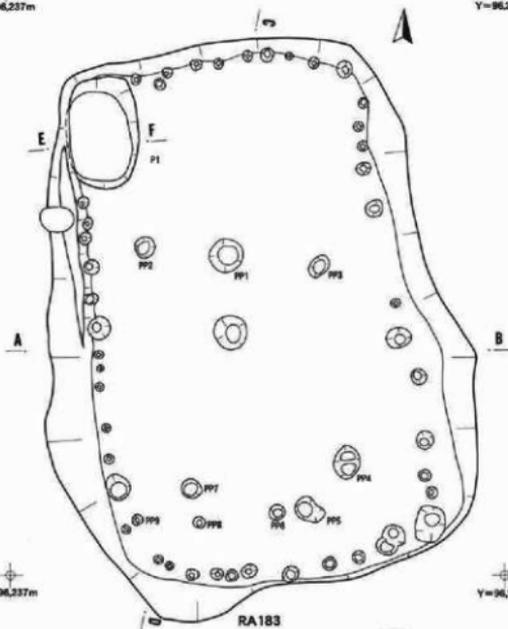
床面は南側に傾斜し、少し起伏がある。中央西側に柱穴状土坑が1基、壁際には杭孔状の小土坑が巡る。柱穴状土坑は開口部径・深さとも25cmほどである。炉はない。

出土遺物は、埋土から大木1から2a式期の土器を主に約0.1kgの土器片が得られている。土器片の胎上にはセナイが混入している。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

X=-57,361m
Y=96,237m

X=-57,361m
Y=96,242m



X=-57,367m
Y=96,237m

X=-57,367m
Y=96,242m

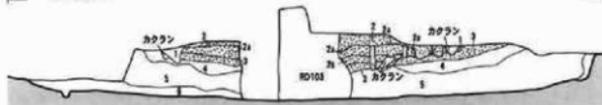
A L=18,300m



B

- RA183
- 1 10YR2/1 黒色 粘性弱、締まりやや弱
 - 2 10YR4/2 灰小黒褐色 粘性弱、締まり密
 - 2a 10YR5/2 灰小黒褐色 粘性弱、締まり密
 - 3 10YR6/6 明黄褐色 粘性弱、締まり密
 - 4 10YR3/4 暗褐色 粘性中、締まり中
 - 4a 10YR3/4 暗褐色 粘性やや弱、締まり中、中層のほたて/ゴツゴツ少量混入、縦溝跡混入
 - 5 10YR3/2 灰褐色 粘性やや弱、締まりやや密、縦溝跡混入
 - 6 10YR2/3 黒褐色 粘性中、締まり密
 - 7 10YR4/4 褐色 粘性やや弱、締まり中

C L=18,300m



D

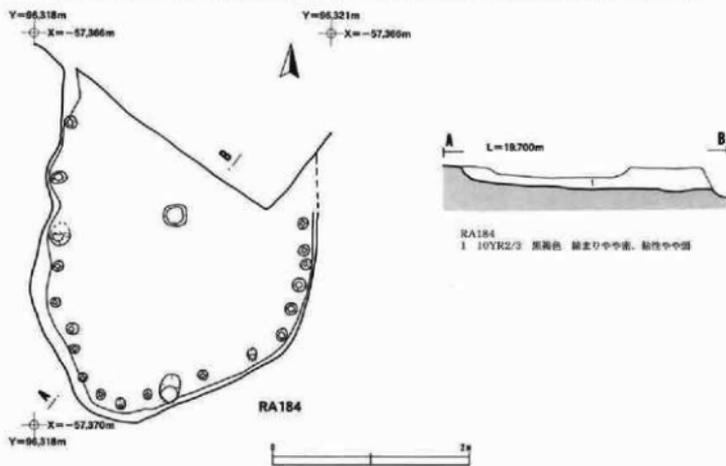
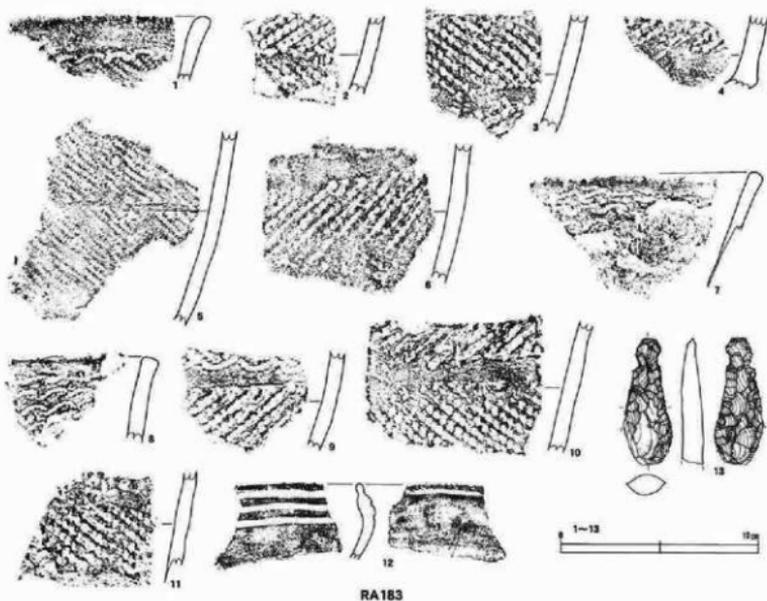
E L=18,800m F



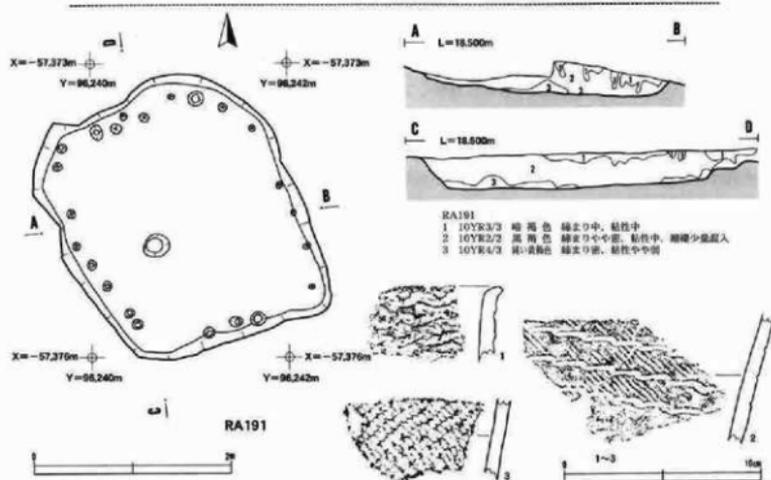
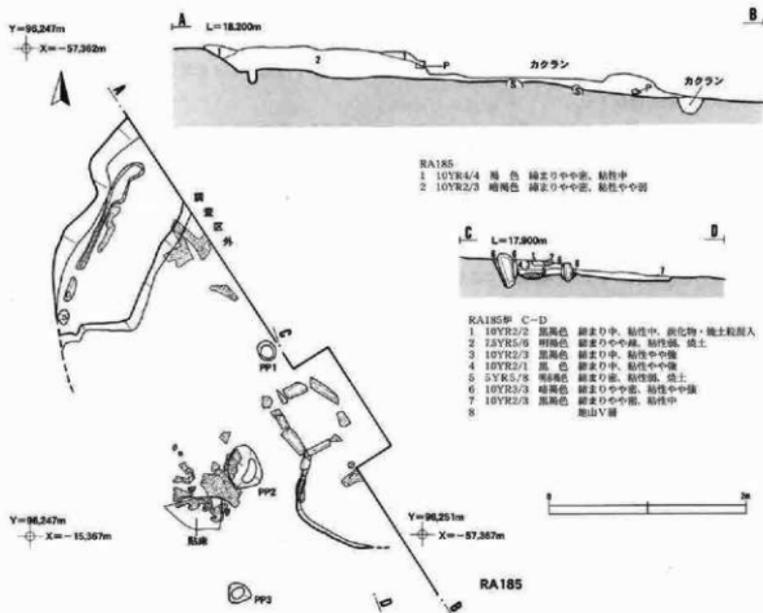
- RD183
- 1 10YR3/3 灰褐色 締まりやや弱、粘性やや弱、小礫少量混入
 - 2 10YR4/4 褐色 締まり中、粘性やや弱



第196図 RA183 (1) 住居跡



第197図 RA183 (2)・184住居跡



第198図 RA185・191住居跡

RA192 (図版:199~201, 写真図版:187・293・294)

東側拡張部付近のB14~C14グリッドに位置し、Ⅲ層中で検出された。RA193・194・195住居跡と重複しており、それらよりも新しい。東側や北側は宅地造成時の削平や攪乱を受けており、西寄りの壁と連続する杭孔状小土坑が残存する。

平面形はややいびつな長方形と推測され、西側の壁は外傾する。規模は長軸4.7m・短軸3.2mで、西側の壁高は30cmである。埋土は上位から中位に黄褐色の中振火山灰層が入り、下位は主に小礫混じりの暗褐色土で構成される。埋土下位には炭化物が少量混入し、焼失家屋の可能性もあるが、床面には炭化材や焼上痕跡は見られない。

床面はほぼ平坦で、南西隅に楕円形の小土坑が1基ある。規模は長軸59cm・短軸35cm・深さ約25cmである。壁際には杭孔状の小土坑が連続して巡る。炉は検出されていない。

出土遺物は、約4.6kgの土器片・石匙3点・石斧2点・石鏃5点・磨石1点が得られている。いずれも埋土からの出土で、土器片は深鉢の破片のようである。深鉢は口縁部に向かって開きながら立ち上がり、口縁がやや広がるものが多いようである。口縁は平口縁と波状口縁がある。不整態糸文や瓦状態糸文、S字状沈文、羽状縄文等が施文され、胎土にはセイが混入している。口縁部に粘土紐を貼り付けたり、口唇部にも刺突を加えたものもある。大木1式から2a・2b式に相当する前期前葉の土器群である。

石器も埋土中位~下位で検出されている。石鏃の1点は基部が欠損しているが、他は無茎鏃で、二等辺三角形形状に作られている。石匙の内20110は槍先状に両側縁が両刃加工されている。石槍としての機能があったようである。磨製石斧は2点とも基部が破損している。磨石の破損品(201-11)は棒状礫の縁面に磨面が形成されている。

遺構の時期は、埋土に十和田中振火山灰層が堆積することや出土遺物から縄文時代前期前葉と思われる。

RA193 (図版:201, 写真図版:188)

東側拡張部付近のB14~C15グリッドに位置する。RA192住居跡の下位に位置し、RA194・195住居跡の上位に位置する。4棟の新旧関係は(旧)RA195→RA194→RA193→RA192(新)となる。壁はほとんど残存せず、杭孔状小土坑が長方形に連続して巡る。上位のRA192住居跡の壁の外側で、一回り大きかったようである。規模は長軸5m・短軸3.7mほどである。杭孔状小土坑は開口部径10~20cmとほかの住居跡にくらべて大きい、深さは10~20cmと同程度である。埋土は礫混じりの鈍い黄褐色土で構成される。

床面は大部分がRA192に壊されているが、平坦だったと思われる。炉は検出されていない。

出土遺物は埋土から土師器片1点が得られている。後世の混入と思われる。

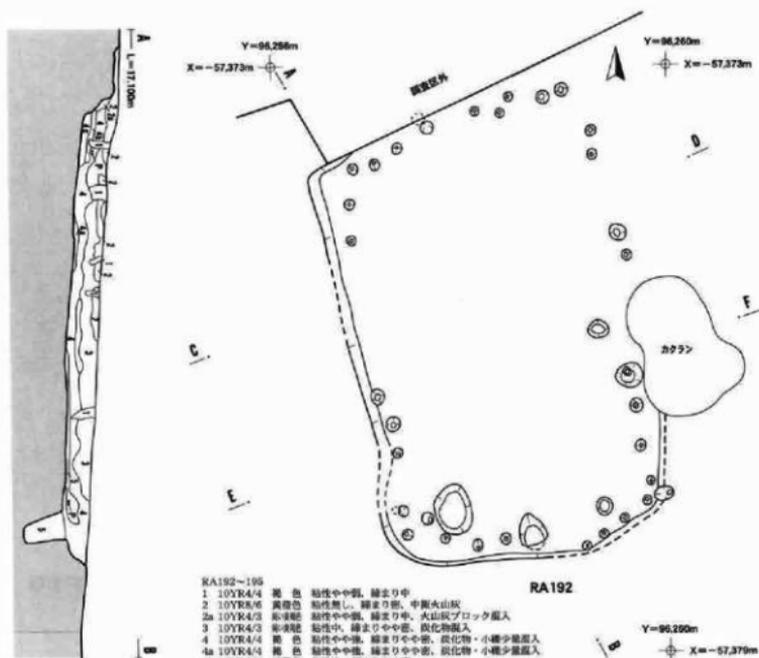
この遺構の時期は上位・下位の住居跡の時期などから縄文時代前期前葉と思われる。

RA194 (図版:202, 写真図版:188・295)

東側拡張部付近のB14~C15グリッドに位置する。RA193住居跡の外側に検出され、RA193住居跡より古く、RA195住居跡よりは新しい。北東側は削平や攪乱を受け、北側は調査区外に続く。平面形は長方形状と思われ、残存する壁は外傾する。規模は長軸5.6m以上・短軸5.2mで、壁高は30cmほどである。埋土は鈍い黄褐色土で構成され締まりはやや密である。

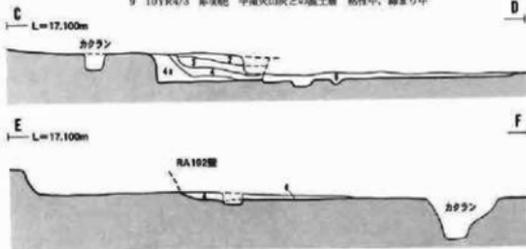
床面はほぼ平坦で西及び南の壁際に直径10cm以下の杭孔状小土坑が連続して巡る。

出土遺物は、埋土から約0.3kgの土器片が得られている。深鉢の破片で、羽状縄文や不整態糸文、瓦状

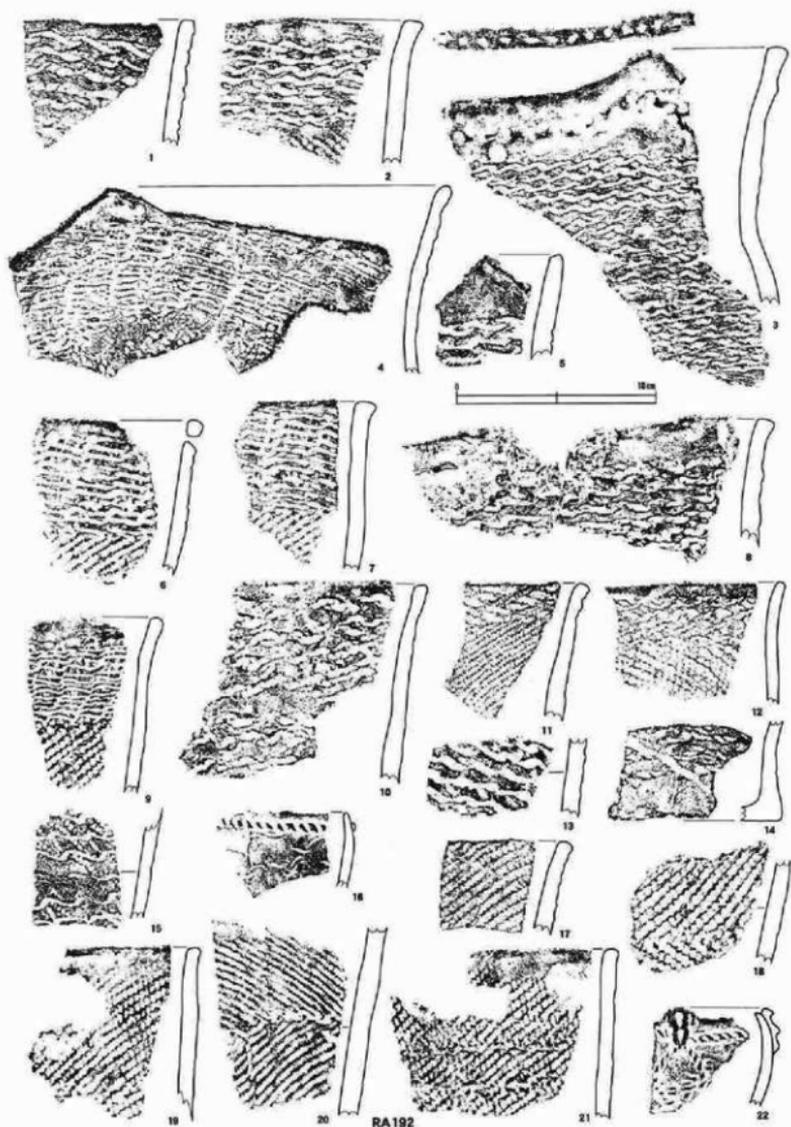


- RA192-196
- | | | | |
|----|---------|-----|-------------------------|
| 1 | 10YR4/4 | 褐色 | 粘性や中硬、締まり中 |
| 2 | 10YR6/6 | 黄褐色 | 粘性無し、締まり密、中層火山灰 |
| 2a | 10YR4/3 | 赤褐色 | 粘性や中硬、締まり中、火山灰ブロック混入 |
| 3 | 10YR4/2 | 赤褐色 | 粘性中、締まりや中密、炭化物混入 |
| 4 | 10YR4/4 | 褐色 | 粘性や中硬、締まりや中密、炭化物・小礫少量混入 |
| 4a | 10YR4/4 | 褐色 | 粘性や中硬、締まりや中密、炭化物・小礫少量混入 |
| 4b | 10YR2/4 | 暗褐色 | 粘性中、締まりや中密 |
| 4c | 10YR4/3 | 赤褐色 | 粘性中、締まりや中密、小礫微量混入 |
| 5 | 10YR2/3 | 暗褐色 | 粘性中、締まりや中密 |
| 9 | 10YR4/3 | 赤褐色 | 中層火山灰との凝土層 粘性中、締まり中 |
- RA192

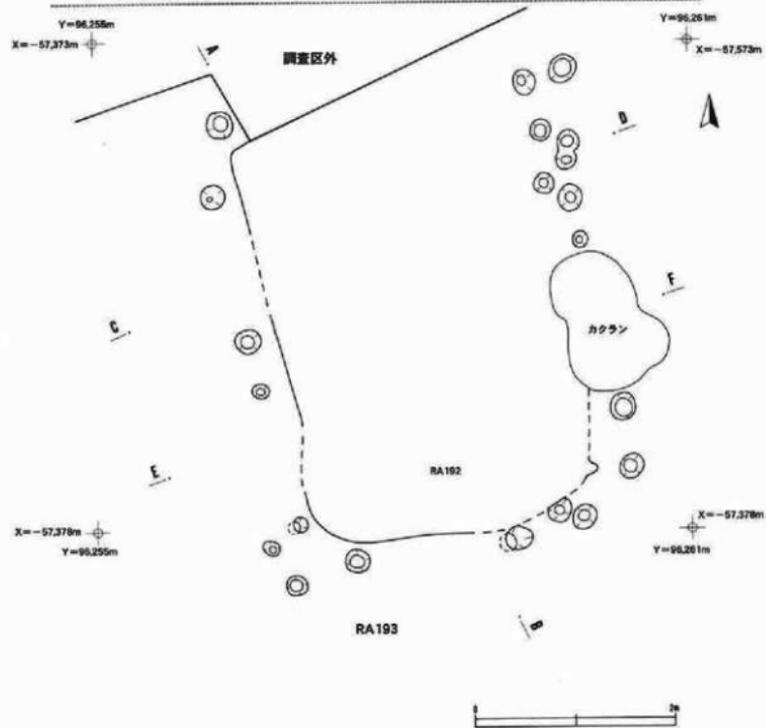
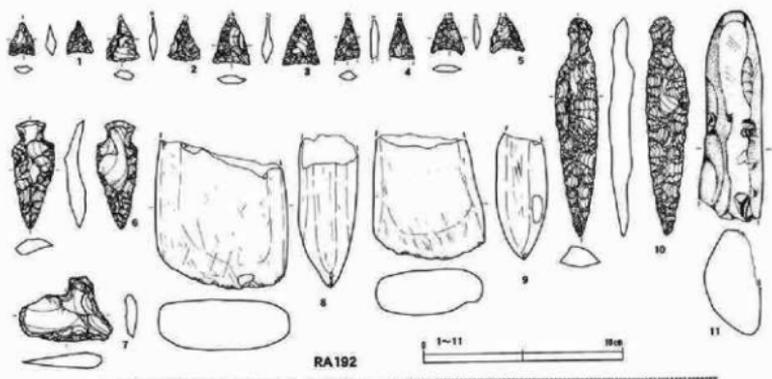
Y=96,260m
X=-57,373m



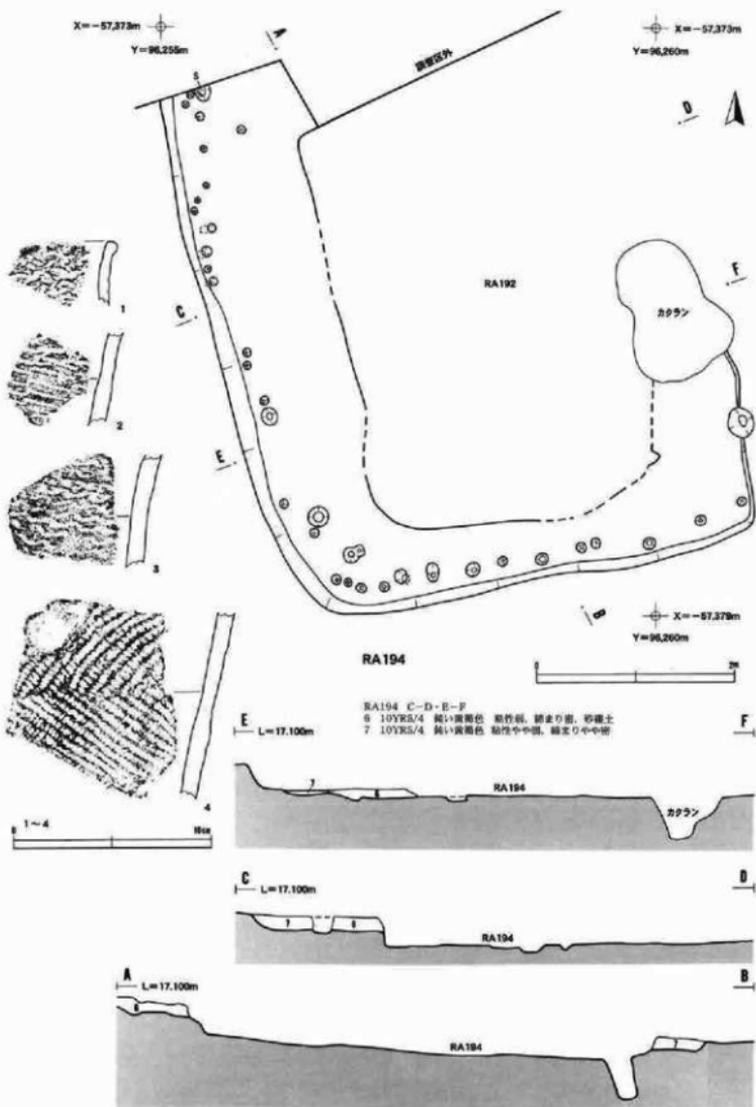
第199図 RA192 (1) 住居跡



第200圖 RA192 (2) 住居跡出土遺物



第201図 RA192(2)・193住居跡



第202図 RA194住居跡

燃糸文などが施文され、胎土にはセシイが混入している。前期前葉の土器片である。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

RA195 (図版：203, 写真図版：189)

東側拡張部付近のB14～C15グリッドに位置する。RA194住居跡の下位に検出され、重複する4棟の住居跡の中でもっとも古い。また規模はもっとも大きいようである。北東側は削平され、北側は調査区域外に続くが、平面形は長方形を呈していたようである。壁は外傾して立ち上がる。規模は長軸5.7m以上・短軸5m、壁高は30cmである。西側の北端付近には住居の輪郭から張り出す段差がある。段差部分は長さ2.1m・幅15～25cmの弧状で、東側に傾斜している。埋土は砂礫混じりの黄褐色土で構成される。

床面は先の3遺構に切られているが、残存部はほぼ平坦で、壁際に直径10cm以下の杭孔状小土坑が巡る。

出土遺物として表裏縄文の土器片1点が得られているが、現物は行方不明である。

遺構の時期は縄文時代前期初頭か早期の可能性はある。

RA212 (図版：205, 写真図版：190)

南端西寄りのD9グリッド付近に位置する。東側をRA166住居跡やRE11竪穴状遺構に切られているようである。残存部から平面形は隅丸長方形と予測される。残存する壁は外傾する。規模は長軸4.5m以上・短軸約3mと思われる。西側の壁高は25cmである。埋土は主に黒褐色土や暗褐色土で構成される。

床面は東側に緩く傾斜する。西側と北側の壁際に杭孔状の小土坑がほぼ30cm間隔で連続して巡っている。出土遺物はない。

遺構の時期は、平面形が隅丸長方形で、壁際に柱穴状土坑が巡ることから縄文時代前期前葉の可能性はある。

RA213 (図版：205, 写真図版：190・191・295)

中央南寄りのZ8～Z9グリッドに位置する。東側をRA143住居跡に切られている。平面形は不整な楕円形を呈し、壁は外傾して立ち上がる。規模は長軸2.8m・短軸2.3mで、壁高は20～40cmである。埋土は暗褐色土や黒褐色土で構成され、上位に中叢火山灰を含む。

床面はほぼ平坦で、壁際や中央付近に杭孔状の小土坑がある。炬はない。

出土遺物は埋土から少量の縄文土器片が得られている。深鉢の破片で、羽状縄文や不整燃糸文が施文され、胎土にはセシイが混入している。前期前葉の上器片である。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

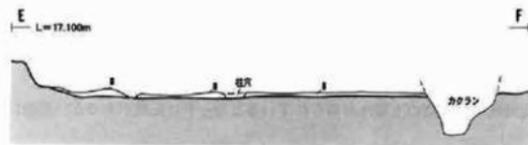
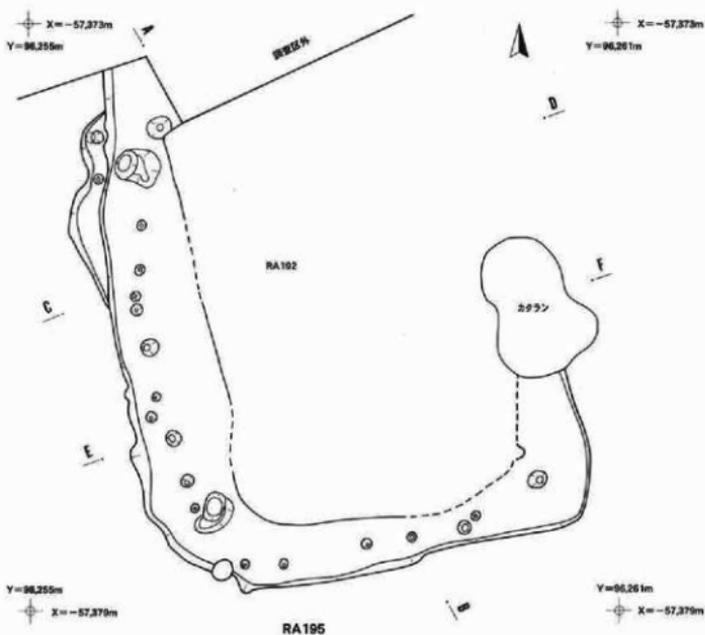
竪穴状遺構

RE06 (図版：206, 写真図版：191)

北端よりのR1グリッド付近に位置する。東側をRA143住居跡に切られている。西側壁の一部と柱穴状土坑が検出されたが、全体の形状や規模は不明である。埋土は暗褐色土上だったようである。

出土遺物は、埋土から縄文時代中期中葉の上器片が得られているとカードに記載があるが、現物は行方不明である。

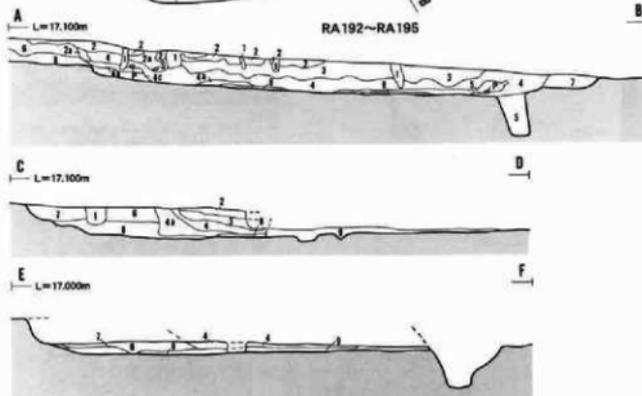
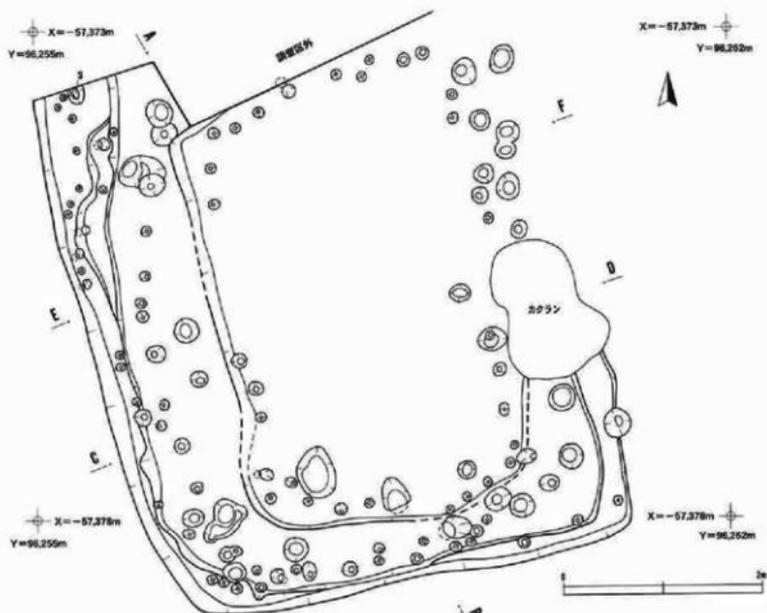
この遺構の時期も縄文時代中期中葉の可能性はある。



RA195 A-B・C-D・E-F
 8 10YR4/3 薄い灰褐色 粘性强、硬まりやや硬、砂礫土



第203図 RA195住居跡

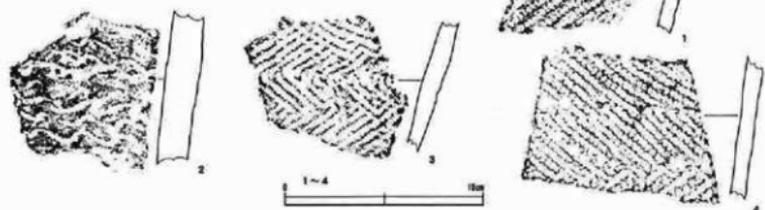
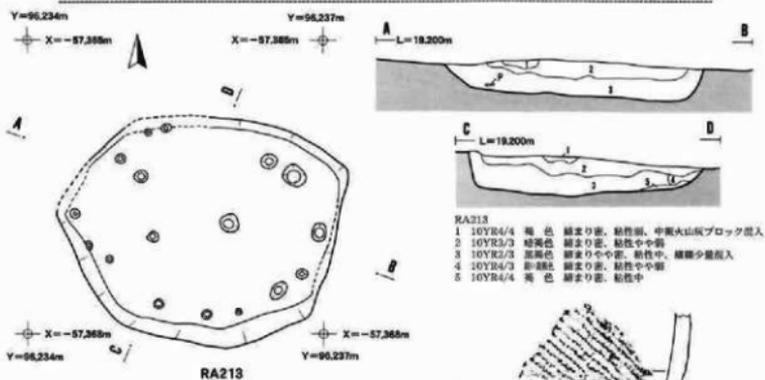
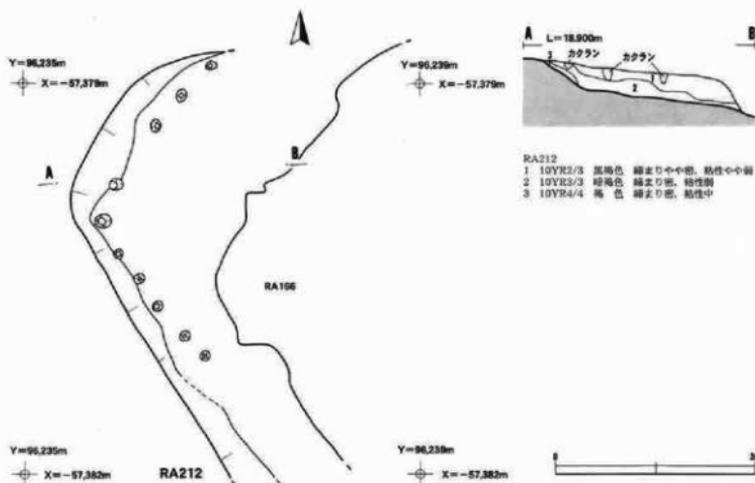


RA192~195

- 1 10YR4/4 緑色 粘性やや強、締まり中
- 2 10YR5/6 黄褐色 粘性無し、締まり中、中層火山灰
- 2a 10YR4/3 赤褐色 粘性やや強、締まり中、火山灰ブロック混入
- 3 10YR4/3 赤褐色 粘性中、締まりやや強、炭化物混入
- 4 10YR4/4 緑色 粘性やや強、締まりやや強、炭化物・小礫少量混入
- 4a 10YR4/4 緑色 粘性やや強、締まりやや強、炭化物・小礫少量混入

- 4b 10YR2/4 暗褐色 粘性中、締まりやや強
- 4c 10YR4/3 赤褐色 粘性中、締まりやや強、小礫少量混入
- 5 10YR2/3 暗褐色 粘性中、締まりやや強
- 6 10YR5/4 赤褐色 粘性弱、締まり中、砂礫土
- 7 10YR5/4 赤褐色 粘性やや強、締まりやや強
- 8 10YR4/3 赤褐色 粘性弱、締まりやや強、砂礫土
- 9 10YR4/3 赤褐色 中層火山灰との混土層 粘性中、締まり中

第204図 RA192~195住居跡



第205図 RA122・213住居跡

RE08 (図版: 206, 写真図版: 192)

北寄りのS4グリッドに位置し、RA151住居跡の床面下に検出された。西側をRA526住居跡に切られている。平面形は隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈しているようである。壁は外傾して立ち上がる。規模は長軸約5m・短軸3.5mと思われる。残存する西側の壁高は10cmである。埋土は暗褐色土や黒褐色土で構成され、黄褐色土ブロックや小礫が混入している。

床面はほぼ平坦で、中央付近と東側に浅い柱穴状土坑が3基検出されている。壁溝や炉跡はない。

出土遺物はない。

この遺構の時期は、RA151住居跡に切られることから縄文時代と思われる。

土坑

RD70 (図版: 206, 写真図版: 192)

北寄りのR3グリッドに位置し、RA151住居跡の床面下に検出された。一部をRA151住居跡の柱穴できられるが、平面形は長方形を呈する。壁は直立気味に外傾する。規模は開口部で1.1m×0.7m、底部で1m×0.6m、深さ35cmである。埋土は暗褐色土や黄褐色土・鈍い黄褐色土などで構成され、締まりは密である。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はない。

遺構の時期は、RA151住居跡に切られていることから縄文時代と思われる。

RD83 (図版: 206, 写真図版: 193・295)

南西寄りのB6グリッドに位置し、V層上部で検出された。RA147住居跡の西壁に検出され、同住居跡に切られているようである。よって西側部分しか残存しないが、平面形は円形状を呈していたようである。壁は外傾して立ち上がる。規模は開口部径1.2m・底部径0.8m前後と推測され、深さは45cmである。埋土は黒褐色土や暗褐色土・黄褐色土で構成され、下位ほど締まりは密である。底面はほぼ平坦である。

出土遺物は縄文土器少量と石匙1点が得られている。土器片は深鉢の破片で、平行沈線による施文がなされ、中期中葉と思われる。石匙は縦長で、両側縁が両刃状に剥離加工がなされ、槍先状を呈している。

この遺構の時期は、重複遺構や出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

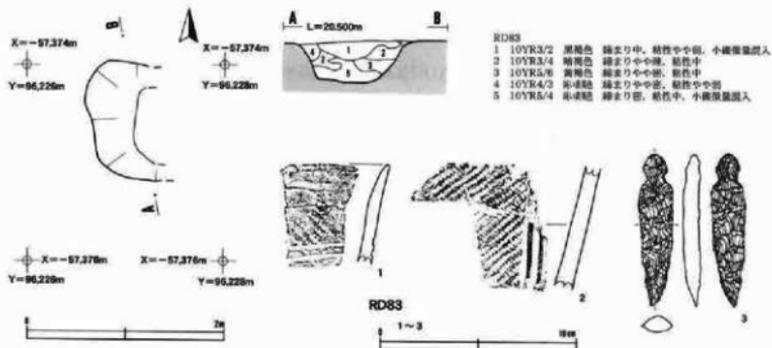
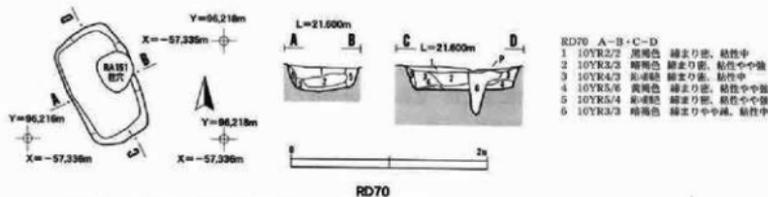
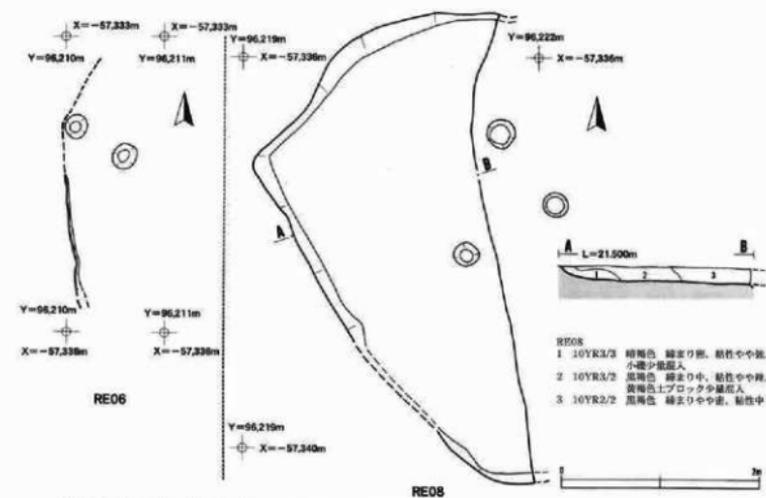
RD84 (図版: 207, 写真図版: 193)

中央南寄りのY8グリッド付近に位置し、RA167住居跡の埋土の一部を切って作られている。平面形は勾玉状の不整形を呈し、壁は直立ないし外傾する。規模は開口部で長軸2.5m・短軸1.2m、底部で長軸2.3m・短軸0.9m、深さは10cmほどである。埋土は主に黒褐色土で構成され、鈍い褐色土や中硬火山灰ブロックが混入する。底面はかなり凹凸がある。

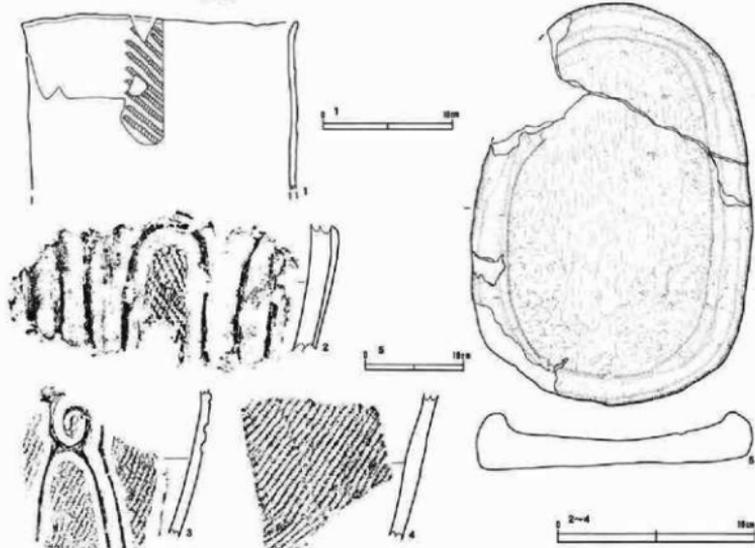
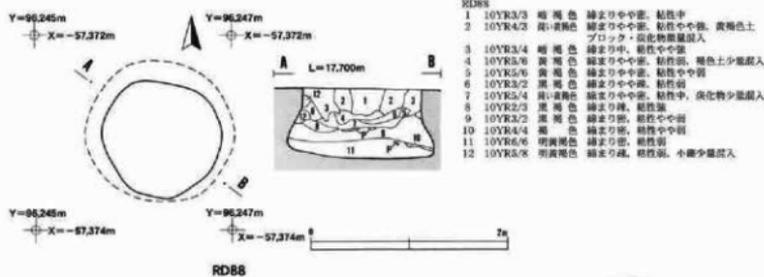
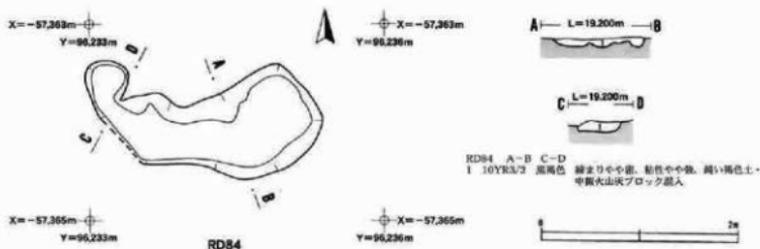
出土遺物は不明。縄文時代中期中葉のRA167住居跡より新しいが、縄文時代の可能性が高い。

RD88 (図版: 207, 写真図版: 193・295)

南東寄りのB11グリッドに位置し、RA164住居跡の埋土下部で検出された。平面形は円形状で、断面形は、底部付近が広がる袋状を呈する。規模は開口部径約1.2m、底部径1.5m、深さ70cmである。埋土は上位が暗褐色土や黒褐色土・鈍い黄褐色土等からなり、下位は明黄褐色土から構成されている。底面は丸底風



第206図 RE06・08竪穴状遺構、RD70・83土坑



第207図 RD84・88土坑

である。

出土遺物は、埋土から縄文土器片と石皿が出土している。207-1は粗製深鉢で、胸部下半は欠損している。207-2～4も深鉢の破片で、2・3は平行する沈線と隆帯による文様が施文されている。石皿は破損品であるが、長さ41.2cm・幅28.6cm・厚さ5.8cmの平たい磯の一面を削り込んで1.5～2cmの縁を作り出している。大きく割れて破損した部分の他に、縁は数カ所で破損しているため、使用に耐えなくなるまで使って廃棄したものと思われる。

遺構の時期は、中期中葉と思われる。

RD103 (図版: 208, 写真図版: 193・295)

南寄りのZ9グリッドに位置し、RA183住居跡の埋土中に構築されている。平面形は円形状で、壁は底部付近が奥に広がる袋状を呈する。規模は開口部径・底部径ともに約1.1mである。深さは80cmである。埋土は主に黒褐色土からなり、火山灰ブロックや炭化物が混入している。底面は平坦である。

出土遺物は埋土から土器片1点が出土している。深鉢の破片で、沈線による渦巻き文が施文されている。中期中葉と思われる。

この遺構の時期は、縄文時代前期の住居跡の埋土を掘り込んでいることや出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

RD109 (図版: 208, 写真図版: 194・295)

南寄りのZ12グリッドに位置しRA185住居跡の貼り床の下位に検出された。平面形はほぼ円形で、壁は底部付近が一部広がるがほぼ直立する。規模は開口部径・底部径とも約1.6m・深さ85cmである。埋土は主に暗褐色土で構成され、黄褐色土が混入する。底面は平坦である。

出土遺物は、埋土から縄文土器片少量と磨石1点が出土している。縄文土器片は深鉢の破片で、平行する沈線と隆帯による文様が施文されている。中期中葉に相当する。磨石は破損品であるが、扁平で細長い磯の縁辺に磨面が形成されている。

この遺構の時期は、縄文時代中期のRA185住居跡の下位にあることや出土遺物から、縄文時代中期中葉と思われる。

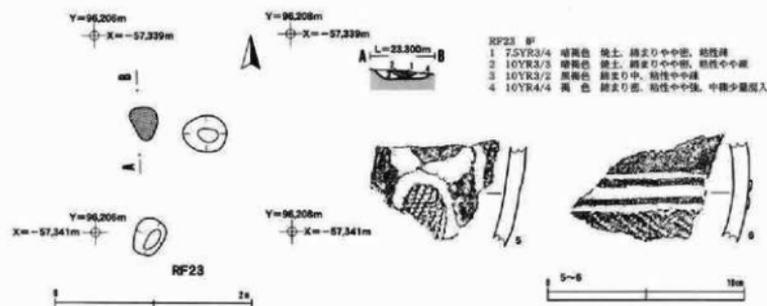
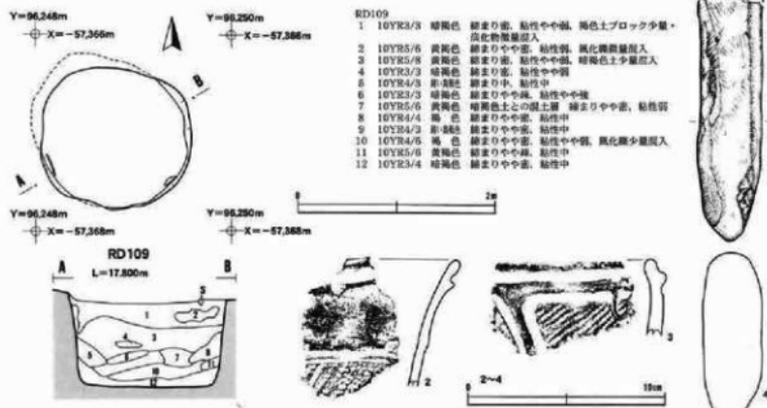
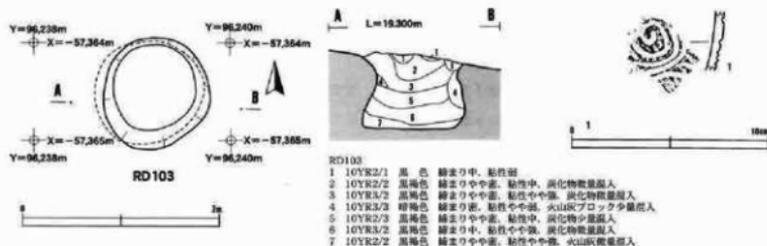
焼土遺構

RF23 (図版: 208, 写真図版: 194・295)

北西端のS99～T99グリッド付近の傾斜変換線近くに位置し、V層で検出した。長軸35cm・短軸25cmの楕円形状に広がり、厚さは最大10cmである。焼土の東や南に柱状土坑が隣接するが、同遺構に伴うかどうか不明である。他に貯溝や杭孔状土坑は検出されていない。

出土遺物は、焼土の周囲から縄文土器片が少量得られている。深鉢の破片で沈線と磨消帯や隆帯による文様が施文されている。中期中葉～後葉に相当する。

この遺構は、縄文時代と思われるが、中期かどうかは明瞭でない。



第208図 RD103・109土坑、RF23焼土遺構

(2) 古代

竪穴住居跡

RA526 (図版:209・210, 写真図版:195・296)

北寄りのT4グリッドに位置し、IIa層下部で検出した。北側でRA141住居跡やRE08竪穴状遺構を切る。南側の壁は残存しないが、隅丸方形の平面形を呈し、西壁の南寄りにかまどがある。壁は直立ないしは直立気味に外傾する。規模は1辺約5m、壁高は最大40cmである。埋土は主に黒褐色土や暗褐色土で構成され、黄褐色土も混入する。

床面は貼り床されているが、東側に緩く傾斜している。北側と西側の壁際に壁溝が連続して巡る。南東を除き対角線上に柱穴状土坑があり、北西と南西は2基づつあるので、建て替えの可能性もある。柱穴状土坑の規模は開口部径30~50cm・深さ25~40cmである。いずれも浅く、柱穴とするには心細い。

かまどは袖の一部と煙道が残っている。煙道はくり貫き式で緩く傾斜して1mほど下がり、ほぼ垂直の煙出し穴に連続する。燃焼部の焼土は厚さが約8cmである。

出土遺物は土師器・須恵器片・鉄製品・石器がある。210-1・2はかまど出土である。1は土師器の甕で、口縁部は横ナデ整形され、体部調整は不明瞭である。2は須恵器の破片である。210-3・4の鉄製品は床面から出土している。両者とも幅8mm・厚さ3mmほどの板状で、3は三角形、4は折り曲げて「し」字状を呈している。210-5・6・8は埴土出土である。7は南西の柱穴機の土坑から出土している。5・6は土師器の甕で、6には輪積痕が残る。7は須恵器の大甕の破片である。8は縄文時代の石匙である。9は砥石で、砥面はかなり磨り減って湾曲している。

遺構の時期は、かまどの位置や出土遺物から平安時代と推測される。

RA527 (図版:211, 写真図版:196・296)

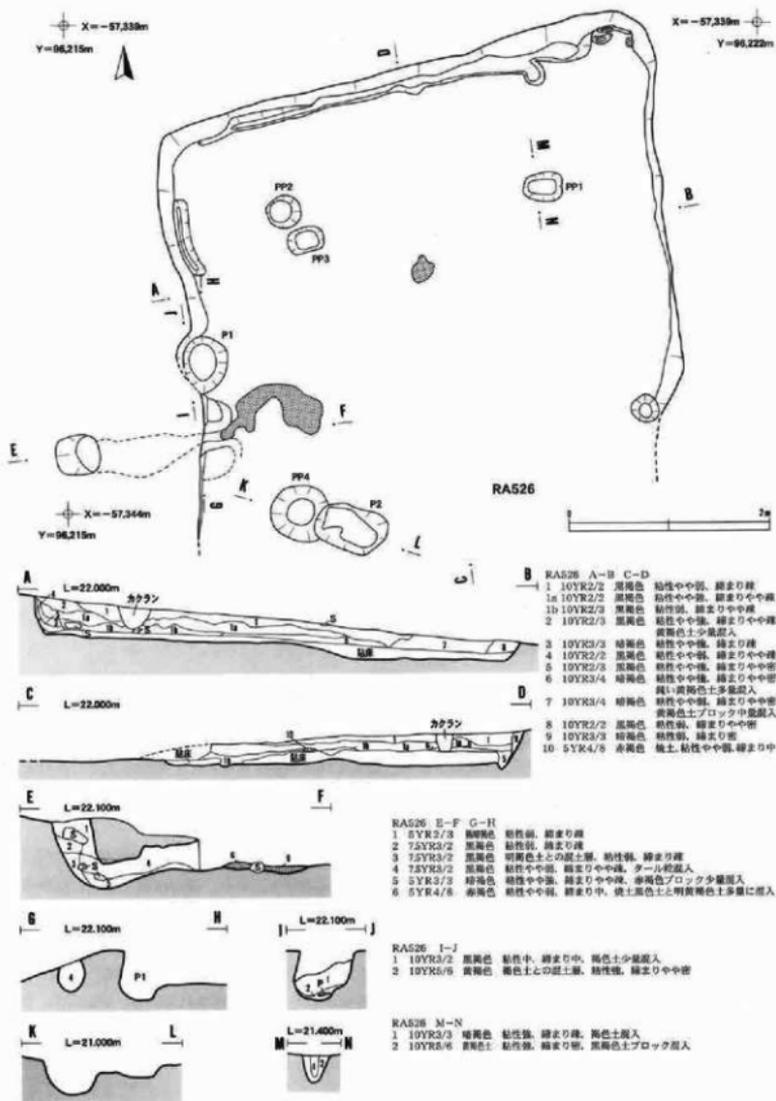
北西寄りのV1グリッドに位置する。V層上面で検出された。開出時に削平され、西側の壁とかまど付近が残存する。平面形は方形状と思われる。壁は直立気味に外傾する。規模は西壁が4.5m残存する。壁高は約45cmである。

床面は一部貼り床されている。

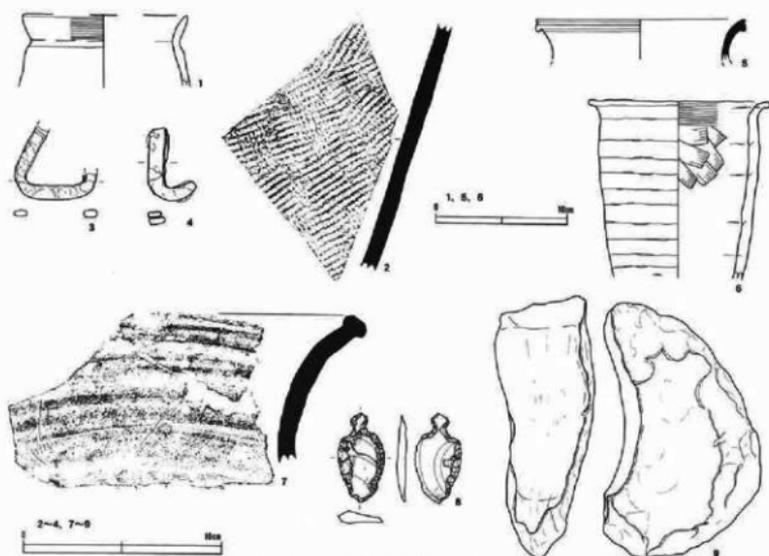
かまどは袖も削平されている。右側の袖の芯に使用された礎が1点残る。煙道はくり貫き式で、ほぼ水平に1mほど掘られ、ほぼ垂直に掘られた煙出し穴と接続する。かまどの西側の壁にはポケット状の小土坑が挟り込んで作られている。

出土遺物は、土師器と須恵器が得られている。1・2・4はかまどから出土している。1・2は坏で、内面が磨かれ、黒色処理がなされている。3は甕の破片で外面はケズリ、内面はハケメ調整がなされている。4~7は埴土出土である。4は坏でロクロ使用痕や回転糸切り痕が残る。5~7は須恵器の破片である。

遺構の時期は、かまどの位置や出土遺物から平安時代と推測される。



第209図 RA526 (1) 住居跡



第210図 RA526 (2) 住居跡出土遺物

RA528 (図版: 212・213, 写真図版: 197・198・296)

中央北寄りのV4~W4グリッドに位置し、IIb層で検出した。RD62土坑が西側床面下に検出されている。平面形は隅丸形状を呈し、北壁中央付近にかまどがある。壁は外傾して立ち上がる。規模は1辺約4.5m、壁高は最大35cmほどである。埋土は主に黒褐色土で構成され、上位に焼土粒や炭化物を混入する。

床面はほぼ平坦で、西壁際に断続する壁溝がある。かまど付近や中央南寄りに土師器が土圧で潰れた状態で出土している。北西を除く各隅付近に柱穴状土坑pp1~pp3の3基が検出されている。柱穴状土坑の規模は開口部径25~40cm・深さ20cmほどである。

かまどは北壁中央に作られている。袖の一部と煙道の下が残存する。袖は花崗岩の板状礫を芯とし、褐色土を貼って構築されている。燃焼部の焼土は最大10cmほどの厚さである。煙道は緩く傾斜しながら上がり、1mほど残存するが、くり貫き式か掘り込み式かは不明である。

出土遺物は、かまど周辺の埋土から土師器と紡錘車、埋土上位から縄文土器片が得られている。土師器はすべて甕で、2~4は長胴・5は球胴形状を呈するようである。2は胴部下位だけなので不明であるが、頸部には小さな段がある。外面はハケメやミガキ、内面はハケメやナデ調整がなされている。4は外面を丁寧に磨いている。また底部には木炭痕がある。6は紡錘車である。

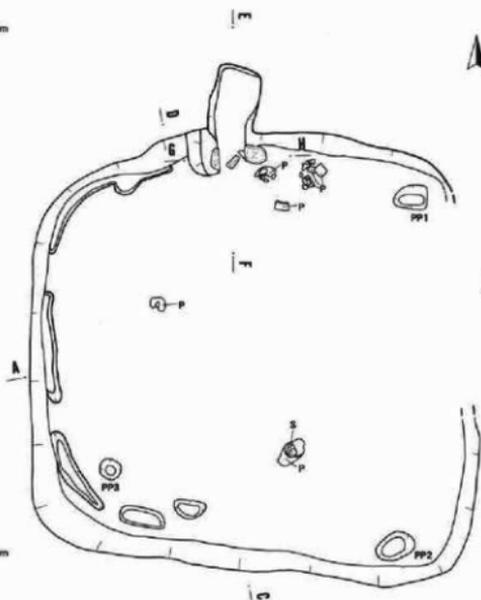
遺構の時期は、かまどの位置や出土遺物から奈良時代と推測される。

Y=96,219m
X=-87,348m

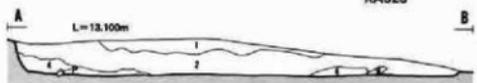
Y=96,229m
X=-87,348m

X=-87,353m
Y=96,219m

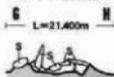
X=-87,353m
Y=96,226m



RA528

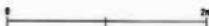


カマド燃焼部

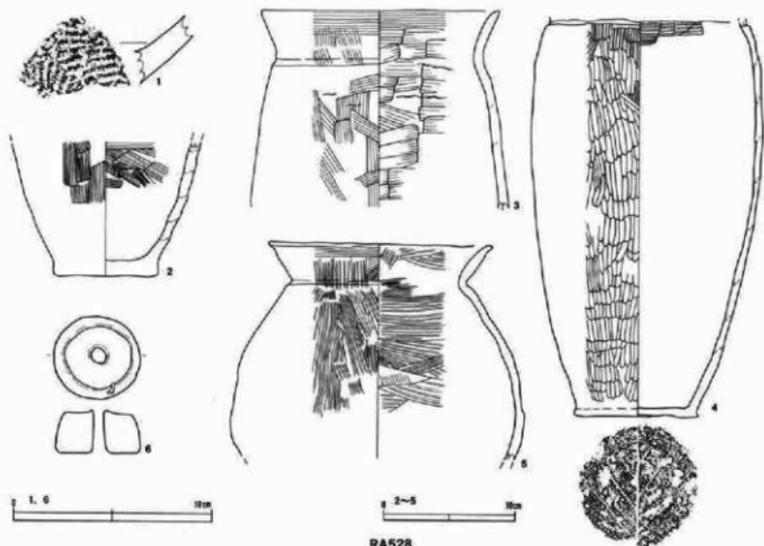


- RA528 A-B C-D
- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性やや弱、締まりやや弱
 - 2 10YR2/3 黒褐色 粘性弱、締まりやや弱、粘土粒凝結
量減少
 - 3 10YR3/2 黒褐色 粘性やや強い、締まりやや弱、黄褐色土ブロック少量混入
 - 4 10YR2/3 黒褐色 粘性弱、締まりやや弱、炭化物少量混入
 - 5 10YR3/3 暗褐色 粘性強、締まりやや密
 - 6 10YR3/4 暗褐色 粘性やや強、締まりやや密
 - 7 10YR2/1 黒色 粘性やや強、締まりやや密

- RA528 E-F G-H
- 1 10YR3/3 暗褐色 粘性中、締まり中
 - 2 10YR5/6 黄褐色 硬土、粘石質、締まりやや密



第212図 RA528 (1) 住居跡



第213図 RA528 (2) 住居跡出土遺物

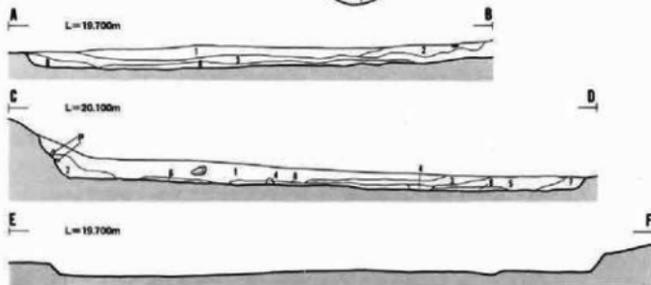
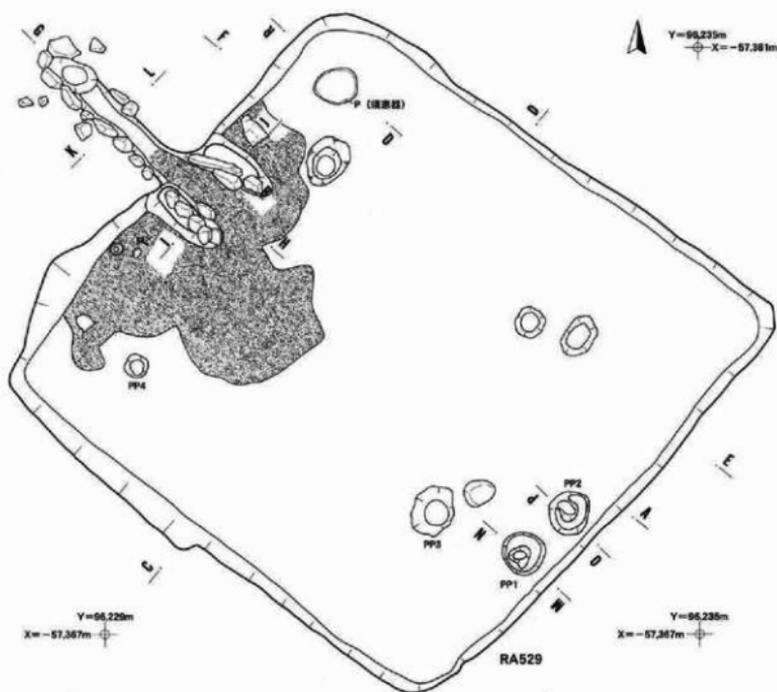
RA529 (図版：214～216, 写真図版：198～200・297)

中央南寄りのY6～Z7グリッドに位置し、IIa層下部で検出された。東側でRA158・162住居跡を切っているほか、かまど付近の貼り床の下から縄文時代の土坑が数基検出されている。平面形は隅丸長方形で、北西壁中央付近にかまどがある。重複は不明。壁は外傾して立ち上がる。規模は長軸5.8m・短軸5.4m、壁高は最大40cmほどである。主軸方向はN-49°-Wである。埋土は主に黒褐色土で構成され、明黄褐色土のブロックが混入する。

床面は一部に貼り床があり、ほぼ平坦に作られている。貼り床はかまどの周囲を主として行われている。各隅から約1mのほぼ対角線上に柱穴状土坑pp1～pp4がある。かまどよりの北西壁際から須恵器や土師器・鉄製品が得られている。柱穴状土坑の規模は開口部径20～50cm・深さ30～50cmで径10cmほどの柱痕跡の残るものもある。

かまどは北西壁中央にあり、袖と煙道が残る。袖は角礫を芯とし、褐色土を貼って作られている。燃焼部の焼土は約10cmの厚さがある。煙道は掘り込み式で、煙道に沿って角礫が並べられている。煙道の傾斜は、燃焼部から少し上がった後緩く傾斜して下り、煙出し穴直下は土坑状に少し深くなる。

出土遺物はかまど近くから得られた鉄製紡錘車1点・土師器坏・甕・須恵器大甕・石蔵1点がある。215-1は鉄製の紡錘車である。215-2は外面に段のある坏で、内外面とも丁寧に磨かれ、内面は黒色処理が施されている。215-3～216-1は甕で、3・5は長胴、216-1は球胴の形状を呈するようである。3は口縁部が横ナ



- RA529 A-B C-D E-F
- 1 10YR2/2 黒褐色 黏性中、締まりや中密、明褐色土ブロック散見・小塊少量混入
 - 2 10YR2/3 黒褐色 黏性中、締まり中、明褐色土ブロック中量混入
 - 3 10YR3/2 黒褐色 黏性中、締まりや中密、明褐色土ブロック少量混入
 - 4 10YR3/3 暗褐色 黏性弱、締まりや中密、明褐色土ブロック多量混入
 - 5 10YR3/3 暗褐色 黏性弱、締まり中、小塊少量混入
 - 6 10YR7/6 黄褐色 黏性強、締まり中、黒褐色土中量混入
 - 7 10YR2/3 黒褐色 黏性中、締まりや中密
 - 8 10YR4/3 赤褐色 黏性や中密、締まりや中密



第214図 RA529 (1) 住居跡



RA529 G-H I-J K-L

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性強、締まり中、砂礫多量混入
- 2 10YR4/4 褐色 粘性中、締まり密
- 3 5YR4/8 赤褐色 硬土、粘性無し、締まり密、黒褐色土少量混入
- 4 5YR3/8 赤褐色 硬土、粘性無し、締まり密
- 5 10YR4/4 褐色 粘性中、締まり中
- 6 10YR4/6 褐色 粘性中、締まり中、炭化物多量混入

- 7 2.5YR4/6 赤褐色 塊土、粘性弱、締まり稀
- 8 10YR3/3 黒褐色 粘性強、締まり中～強、黒土少量混入
- 9 10YR5/6 黄褐色 粘性強、締まり密
- 10 10YR2/2 黒褐色 粘性強、締まり密
- 11 10YR2/2 黒褐色 粘性強、締まり密
- 12 10YR2/3 黒褐色 粘性中、締まり密
- 13 5YR4/6 赤褐色 硬土、粘性中、締まり密

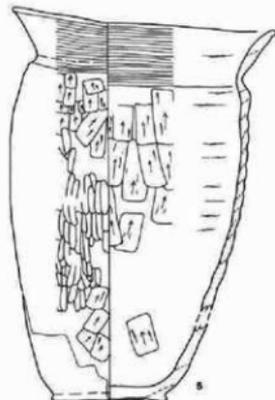
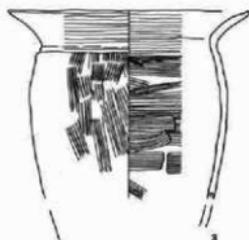
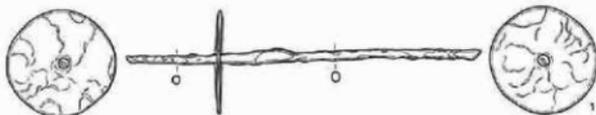


RA529 M-N O-P

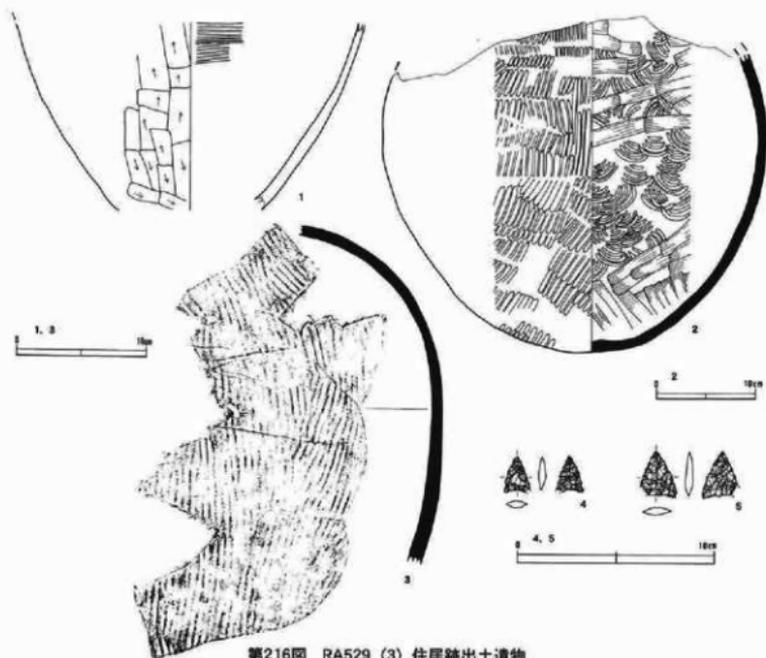
- 1 10YR2/1 黒色 粘性強、締まり密
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘性中～強、締まり密
- 3 10YR3/3 暗褐色 粘性中～強、締まり密
- 4 10YR2/2 黒褐色 粘性中～強、締まり密、黄褐色土少量混入

RA529 Q-R

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性中～強、締まり中～強
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘性中～強、締まり中
- 3 10YR3/2 黒褐色 粘性中～強、締まり中



第215図 RA529 (2) 住居跡



第216図 RA529 (3) 住居跡出土遺物

デ、体部は内外面ともハケメ調整である。4は短い口縁部が少し広がり、体部には輪積み痕が残る。5は口縁部が横ナデ、体部は内外面ともケズリの後外面はミガキ調整がなされている。216-2・3は須恵器の壺の破片である。石蔵2点は、縄文時代の遺物で混入品と思われる。

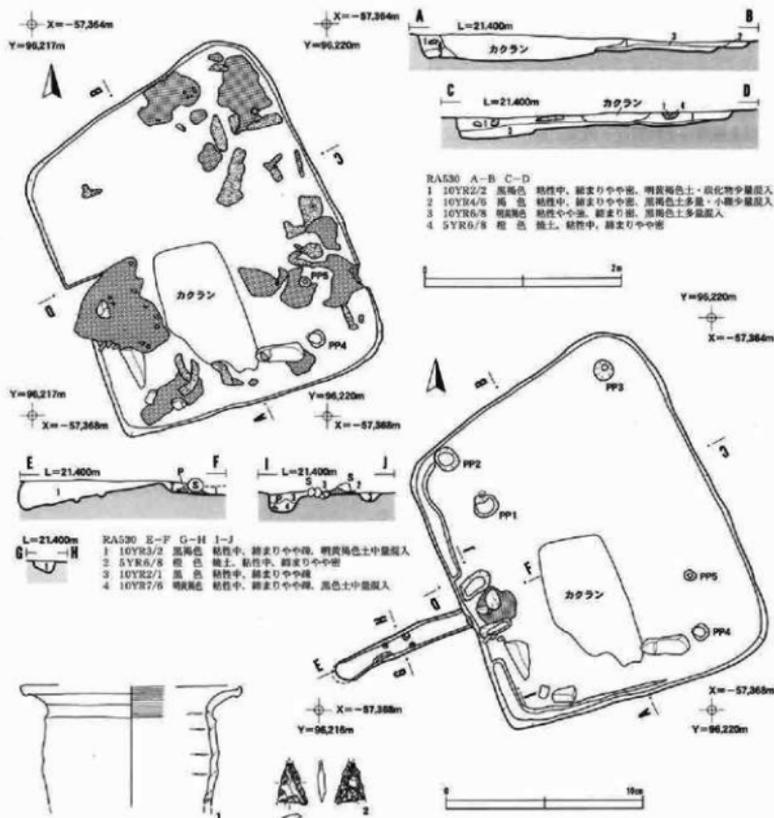
遺跡の現地指導をお願いした高橋信雄氏からは、土師器のうち坏は奈良時代だが、壺は平安時代の様相を呈している。また須恵器は奈良時代？というご教示を受けた。

遺構の時期は奈良時代から平安時代にかけての過渡期という可能性がある。

第四次調査で検出された古代の住居のうちこの遺構のみが主軸を北西に向けて構築されている。立地は南東側に傾斜する斜面の傾斜変換線付近である。主軸方向は奈良時代の遺構は北側、平安時代の遺構は西側を向く例が多いが、構築時期に由来するかどうか不明である。

RA530 (図版：217, 写真図版：200・201・297)

中央西寄りのZ3～Z4グリッドに位置し、耕作土直下で検出された。開田時に削平を受けたようで、床面近くだけが残存している。中央南寄りには新しい擾乱があり、南側下位には縄文時代RA149住居跡がある。



第217図 RA530住居跡

焼失家屋である。平面形は1辺が短い台形状で、西側壁にかまどがある。壁は直立気味に外傾して立ち上がる。規模は西側壁2.8m・東側壁3.5m、東西方向約2.8mである。壁高は最大30cmほどである。主軸方向はS68°Wである。埋土は主に黒褐色土で構成され、炭化物や焼土が多量に混入する。

床面は貼り床され、ほぼ平坦に作られている。西側と南側の壁際に壁溝が作られている。南西隅を除く各隅から30～80cmの所に柱穴状土坑pp1・pp3・pp4が検出されている。また南壁よりに大きな角礫がある。柱穴状土坑の規模は開口部径20～25cm・深さ25～30cmである。

かまどは西壁中央付近にあり、袖の痕跡と煙道が残っている。袖は角礫を立てて褐色土を貼り付けて作

られていたようだが、開田時に抜き取られたようで、その痕跡しか残存しない。燃焼部の焼土は最大8cmの厚さで形成されている。煙道は長さ1.5mで、壁際で10cm上がったのち、緩く傾斜して下がる。上半が削平されており、くり貫き式か掘り込み式か不明であるが、煙道の中央付近に杭孔状の小土坑が4基検出されており、煙道の天井部分を支える施設だった可能性がある。

出土遺物は土師器片・縄文土器片・石炭1点がある。土師器は甕で、口縁部は大きく広がった後、口唇部付近で小さく立ち上がる。口縁部は横ナデ調整で、体部には輪積痕が残る。石炭も縄文土器同様混入品と思われる。

遺構の時期は、かまどの位置や出土品から平安時代と思われる。

RA531 (図版：218・219, 写真図版：202・203・297)

南寄りのC8グリッドに位置する。北側床面下位に縄文時代前期のRA165住居跡が、中央付近に縄文時代の時期不明のRD76土坑がある。東側壁は残存しないが、平面形は方形状を呈し、西側壁の南寄りにかまどがある。規模は1辺約4.5mで、壁高は最大30cmほどである。埋土は主に黒色土や黒褐色土で構成され、床面に中環火山灰のブロックが見られるところもある。

床面は緩く起伏する。北東を除き壁溝が巡っているようである。柱穴状土坑が4基検出されている。北西と南東のものは対角線上にあるが北東南西のものはだいたいぶずれている。特に南西のものは壁際にある。規模は開口部径20～30cm・深さ20～50cmである。また南西隅にはかまどに付属すると思われる土坑が作られている。大きさは開口部で、1.4m×1.2m深さ15cmである。

かまどは袖が取り壊されているようで、袖の芯材の礎と煙道が残る燃焼部の焼土は最大10cmの厚さで形成されている。煙道は水平に1mほどくり貫かれ、煙出し部分に垂直に掘られた穴に接続する。煙出し直下は40cm下まで垂直に掘られている。また、煙道部や袖に一部に作り替えられた痕跡が残っている。

出土遺物は焼きの悪い土師器や須恵器片・石器が得られている。219-1は甕で、口縁部は横ナデ、体部はハケメ調整がなされ、輪積痕が残る。底部には木葉痕が残る。2は小型の甕の底部と思われる、木葉痕が残る。4はロクロ使用の坏で、内面は磨かれた後、黒色処理されている。底部には回転糸切り痕が残る。3は須恵器の壺。5・6は須恵器の大甕の破片と思われる。7は縄文時代の石匙である。

遺構の時期は、かまどの位置や出土遺物から平安時代と思われる。

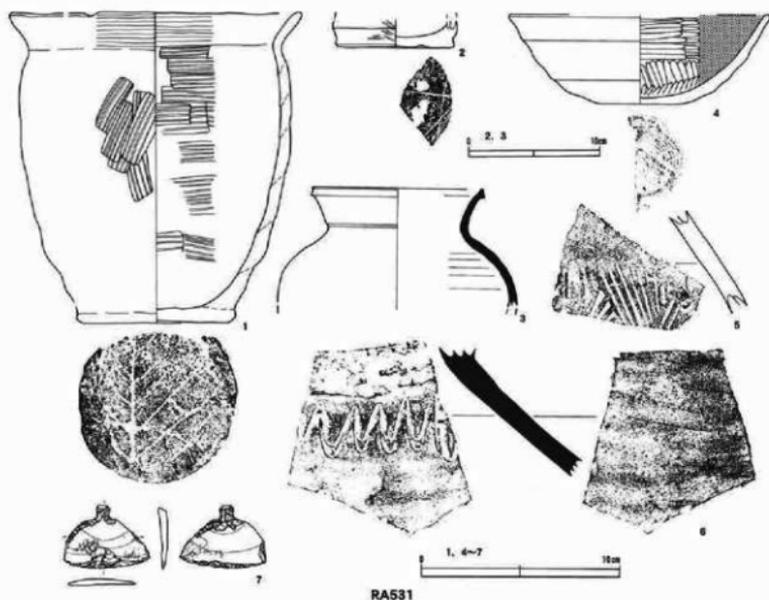
RA544 (図版：219, 写真図版：203・204・298)

南側東寄りのB11グリッドに位置する。東側にRA185、西側にRA181という縄文時代の住居跡があり、それらを切っている。後世の掘削等で、かまど付近しか残存しない。よって形状や規模は不明であるが北側壁にかまどが作られていることは確実である。

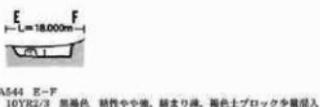
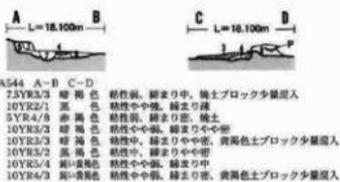
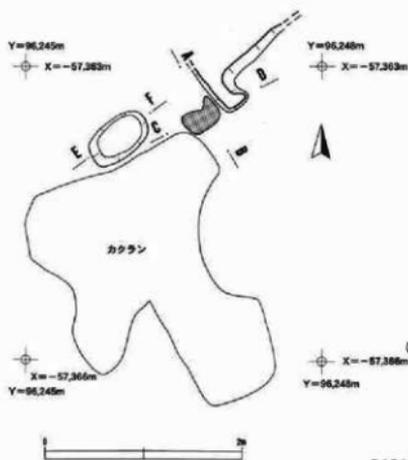
かまどの袖は住居の構築時に削り出して作ったようである。燃焼部の焼土は最大5cmの厚さで残っている。煙道は壁際で10cmほど高くなっているようだがその先は残存せず不明である。また、かまどの西には長輪65cm・短輪40cm・深さ10cmの小土坑がある。

出土遺物は床面から土師器甕が出土している。口縁部外面上位に段があり、内外面ともハケメ調整がなされている。

遺構の時期は、かまどの位置や出土遺物から奈良時代と思われる。



RA531



RA544

第219図 RA531 (2)・544住居跡

(3) その他(時期不明)

竪穴状遺構

RE10(図版:220,写真図版:204)

中央南寄りのY5~Z6グリッドに位置し、縄文時代のRA156・161住居跡の床面下位で検出した。また、東側は古代のRA529住居跡によって切られている。南側にはRE12竪穴状遺構が重複するようだが前後関係は不明瞭である。西側の壁と床面しか残存しないが、平面形は楕円形状を呈するようである。壁は外傾する。規模は長軸5.5m前後である。壁高は最大35cmである。埋土は主に暗褐色土からなり、締まりは密である。床面は東側に緩く傾斜している。北寄りに柱穴状の浅い土坑が1基ある。壁溝や炉はない。

出土遺物はない。

時期は重複遺構の関係から縄文時代中期の可能性が高い。

RE11(図版:221,写真図版:205・289)

南端付近のC9~D9グリッドに位置し、V層上面で検出した。RA166住居跡の西と北の壁を切って構築している。他にもRA212住居跡・RD85土坑とも重複し、後者を切っている。東側や南側の壁は欠損するが、平面形は楕円形状を呈するようである。壁は外傾する。規模は長軸5.9m・短軸4.7mほどで、残存する壁高は10cmである。埋土は黒褐色土のブロックが大量に混じる鈍い黄褐色土で構成されている。

床面は小さな起伏があり、全体として南東に緩く傾斜している。炉跡はないが、北壁中央に焼土の痕跡があった。壁溝や柱穴状土坑も検出されていない。

出土遺物は、埋土から須恵器片1点が得られている。

時期は、北壁中央に検出された焼土がかまどの痕跡とすれば、古代の可能性もある。

RE12(図版:222,写真図版:205・206)

中央南西寄りのA5~A7グリッドに位置する。北側のRA156・160住居跡の下層に検出され、北側でRE10竪穴状遺構と重複している。RE10との前後関係は不明である。

北東側は欠損するが、平面形は円形状を呈していたようである。壁は直立ないしは外傾して立ち上がる。規模は直径5.3m・壁高東側で約20cmである。埋土は黒褐色土や暗褐色土からなり、黄褐色土が混入する。

床面は南東側に緩く傾斜し、締まりはやや密である。炉はない。柱穴状土坑が中央と南寄りに11基ある。規模は開口部径20~40cm・深さ20~30cmである。

出土遺物はない。

遺構の時期は、RA156住居跡との重複関係から、縄文時代中期と思われる。

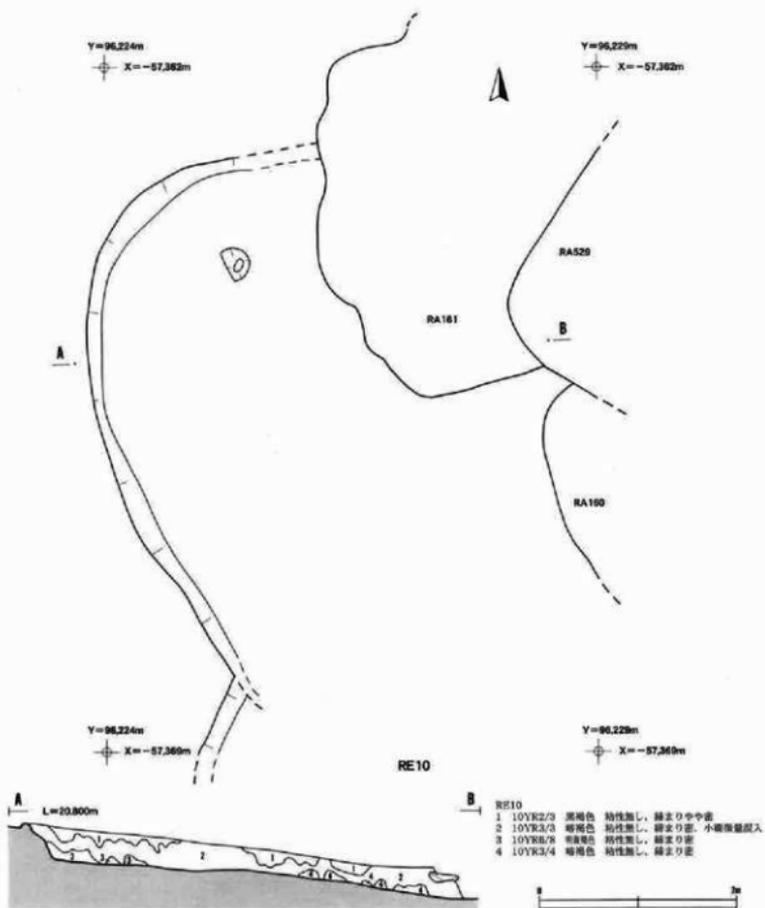
土坑

RD60(図版:222,写真図版:206)

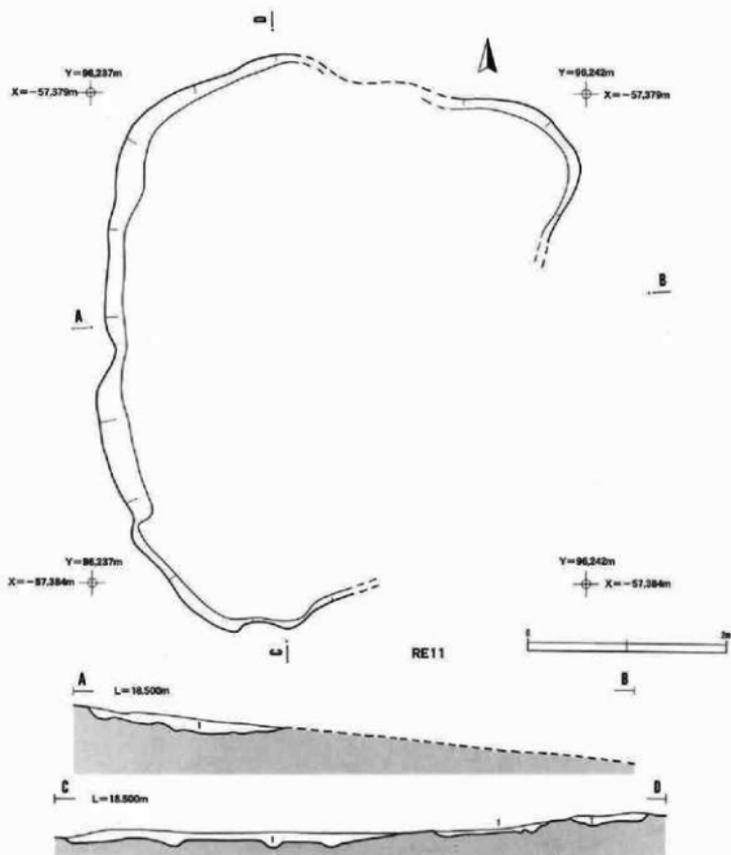
北端寄りのR2グリッドに位置する。RA150住居跡の床面で検出され、RA150・152住居跡を切っているようである。平面形は円形状を呈し、壁はほぼ直立する。規模は開口部径約1.4m、底部径1.3m、深さ65cmである。埋土は黒褐色土や暗褐色土で構成される。底面は緩やかな凹凸がある。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。



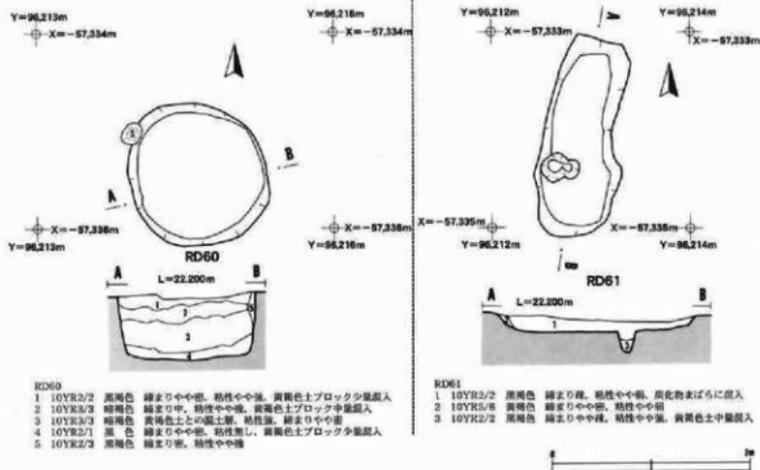
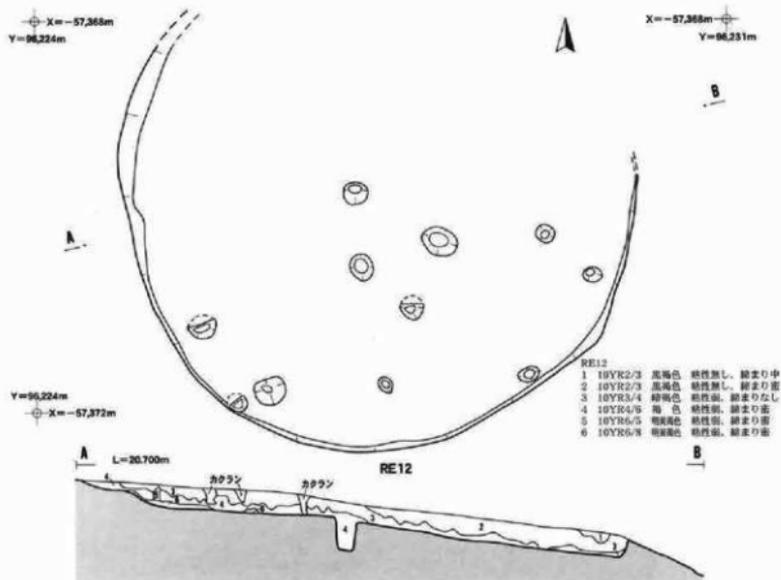
第220図 RE10竪穴状遺構



RE11
 1 10YR4/3 黄褐色 粘土質、締まり中、黒褐色土ブロック多量混入



第221図 RE11竪穴状遺構



第222図 RE12竪穴状遺構、RD60・61土坑

RD61 (図版: 222, 写真図版: 206)

北端よりのR2グリッドに位置している。RA148住居跡の床面を切って構築されている。平面形は長方形状を呈し、壁は外傾する。規模は開口部で2.1m×0.7m、底部で1.7m×0.5m、深さ15cmである。埋土は土に黒褐色土で構成される。底面はほぼ平坦で、南西寄りに柱穴状土坑が1基ある。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD62 (図版: 223, 写真図版: 206)

中央北寄りのV4グリッドに位置し、RA528住居跡の床面下から検出された。

東側壁の一部をRA528住居跡の柱穴に切られている。平面形は長方形状で、壁は外反気味に立ち上がる。規模は開口部で1.6m×0.6m、底部で1.2m×0.2m、深さ45cmである。埋土は暗褐色土で構成され、礫が少量混入している。底部は凹凸のある丸底風である。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD63 (図版: 223, 写真図版: 207)

北端のQ1グリッドに位置する。北西側の一部が遺構外に続くが、溝状を呈し、規模は開口部で長軸3.6m・短軸約1m、底部で長軸3.5m・短軸10~60cm、深さ35cmである。埋土は黒褐色土や暗褐色土で構成され、礫が混入する。底面は幅が不定であるが、平坦である。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD64 (図版: 223, 写真図版: 207)

中央南寄りのY6グリッドに位置し、西側に隣接するRD68土坑と共にRA529住居跡の床面下で検出された。平面形は楕円形状で、壁は内湾気味に外傾する。規模は開口部で長軸95cm・短軸70cm、底部で長軸80cm・短軸55cm、深さ20cmである。埋土は不明。底部は丸底状である。

出土遺物はない。

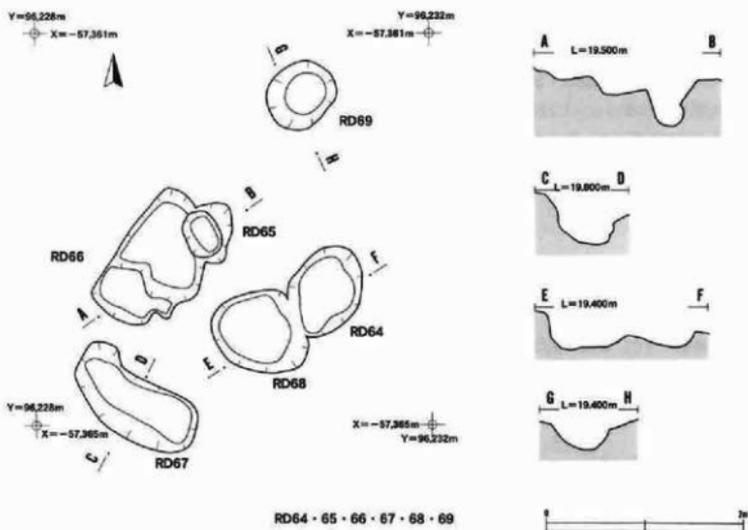
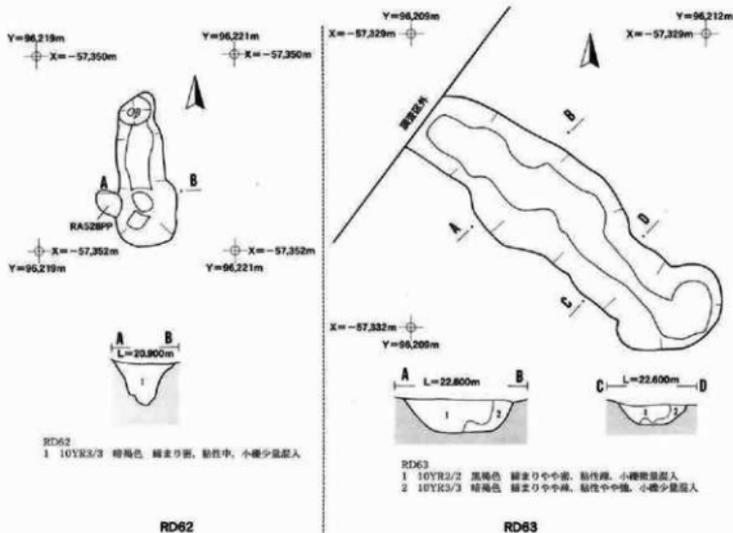
遺構の時期も不明である。

RD65 (図版: 223, 写真図版: 207)

中央やや南寄りのY6グリッドに位置し、RA529住居跡のかまど西側の床面下で検出された。RD66土坑の東側に重複するが、新旧関係は不明である。西側壁の上位は残存しないが、平面形は楕円形状を呈していたようだ。壁は一部オーバーハングするが、概ね外傾して立ち上がる。規模は開口部で長軸65cm・短軸60cm²、底部で長軸35cm・短軸20cm、深さ50cmである。埋土は不明。底部は丸底である。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。



RD66 (図版：223, 写真図版：207)

中央やや南寄りのY6グリッドに位置し、RA529住居跡のかまど西側の床面下で検出された。RD65土坑が東側に重複するが、新旧関係は不明。平面形は不整な長方形で、壁は外傾する。規模は開口部で1.45m×0.95m、底部で1.2m×0.75m、深さ20cmである。埋土は不明。底部は2段の階段状になっている。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD67 (図版：223, 写真図版：207)

中央やや南よりZ6グリッドに位置し、RA529住居跡の北西隅付近の床面下に検出された。RD66土坑の南30cmの所にある。平面形は楕円形状を呈し、壁は凹凸しながら外傾して立ち上がる。規模は開口部で長軸1.4m・短軸0.6m、底部で長軸1.3m・短軸0.35m、深さ50cmである。埋土は不明。底部は丸底風になる。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD68 (図版：223, 写真図版：207)

中央やや南寄りのY6グリッドに位置し、RA529住居跡のかまど西側の床面下で検出された。RD66の東30cmにある。RD64土坑が東側に重複するが新旧関係は不明。平面形は円形状、壁は直立気味である。規模は開口部径85cm、底部65cm、深さ40cmである。埋土は不明。底面はやや凹凸がある。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD69 (図版：223, 写真図版：207)

中央南寄りのY6グリッドに位置し、RA529住居跡のかまど東側の床面下で検出された。RD65土坑の北東1mの所にある。平面形は楕円形状で、壁は内湾する。規模は開口部で長軸70cm・短軸60cm、底部で径40cm、深さ25cmである。埋土は不明。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD73 (図版：224, 写真図版：207)

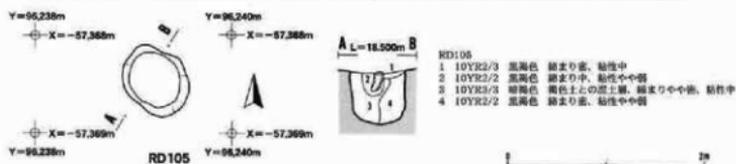
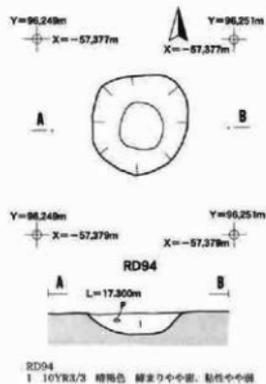
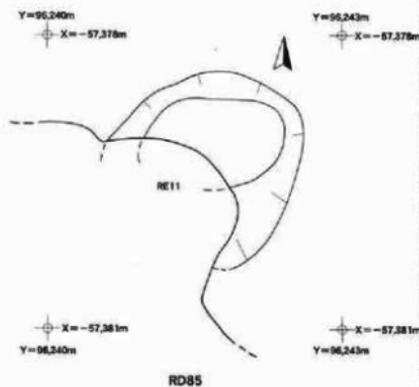
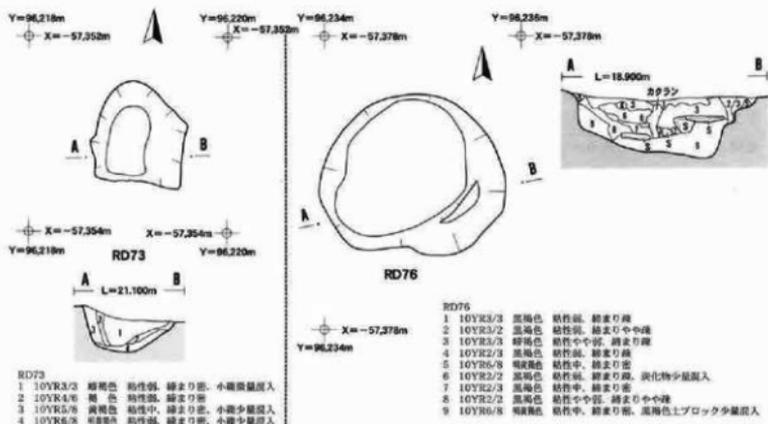
中央北寄りのV3グリッドに位置し、RA528住居跡の西側にある。平面形は楕円形を基本とするようである。壁は直立気味の所と外傾するところがある。規模は開口部で長軸1m・短軸0.9m、底部で長軸0.7m・短軸0.4m、深さ40cmである。埋土は暗褐色土や褐色土・黄褐色土・明黄褐色土で構成され、小礫が混入する。締まりは密である。底面は丸底風である。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD76 (図版：224, 写真図版：208)

南寄りのC7グリッドに位置し、RA531住居跡の中央付近床面上で検出した。住居跡の付属施設ではない



第224図 RD73・76・85・94・105土坑

ようである。平面形は楕円形状を呈し、壁は直立気味に外傾して立ち上がる。規模は開口部で長軸・短軸ともに1.7m、底部で長軸1.6m・短軸1.2m、深さ65cmである。埋土は上位が黒褐色土や暗褐色土で構成され、明黄褐色土や火熱を受けた大小の礫が混入している。底面は起伏があり、東側に向かって傾斜している。

出土遺物は、埋土上位より土師器片・縄文土器片が得られているとカードに記載されているが、実物は行方不明である。

時期は古代と思われるが、住居跡の付属施設かどうか不明である。

RD85 (図版：224, 写真図版：208)

南端付近C9グリッド、RE11竪穴状遺構の東に位置し、同遺構に切られている。平面形は楕円形状を呈し、壁は内湾気味に外傾する。規模は開口部で2.3m×2m、底部で1.5m×1m、深さ30cmである。埋土は主に黒褐色土で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD94 (図版：224, 写真図版：208)

南端付近のC11グリッド、RA164住居跡の南に位置する。平面形は円形状を呈し、壁は外傾して丸底風の底部に接続する。規模は開口部径約1m、底部径45cm、深さ20cmである。埋土は暗褐色土で構成される。

出土遺物は、埋土中に土器片があるとカードに記載があるが現物は行方不明である。

遺構の時期も不明である。

RD105 (図版：224, 写真図版：208)

南寄りのA8グリッドに位置し、RA105住居跡を切って作られているようである。平面形は楕円形状、壁はほぼ直立する。規模は開口部で長軸75cm・短軸60cm、底部で長軸55cm・短軸50cm、深さ50cmである。埋土は黒褐色土や暗褐色土で構成される。底部は中央がくぼむ丸底となる。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

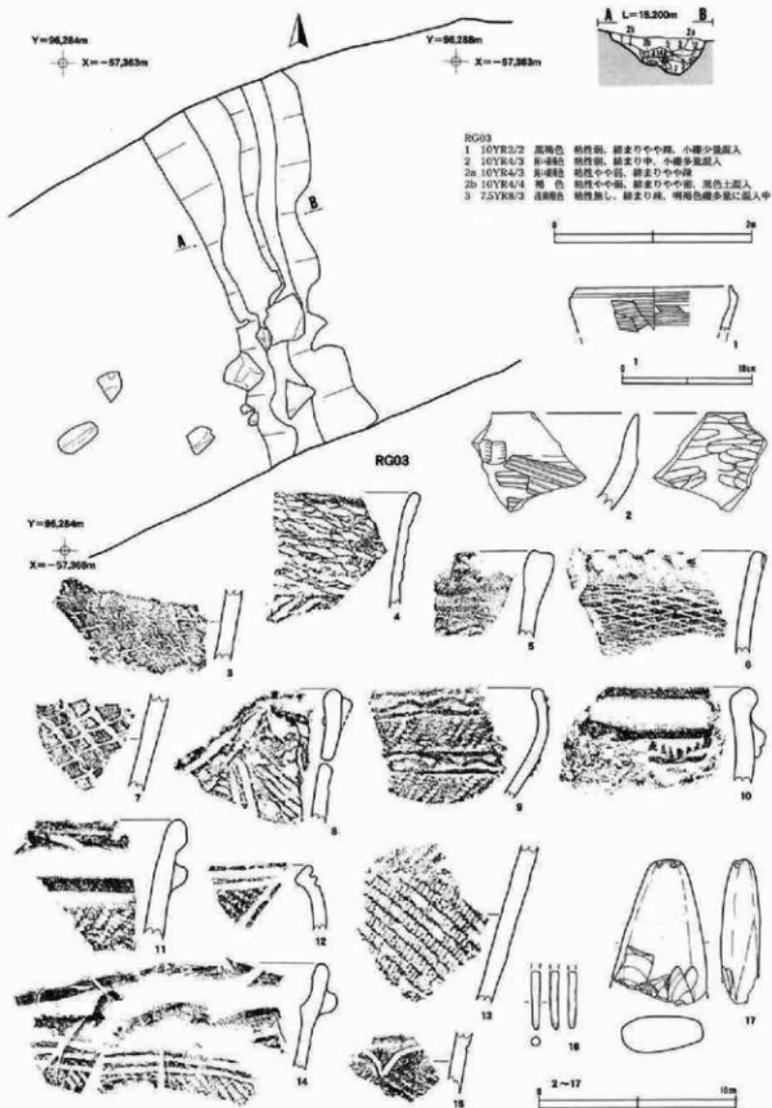
溝跡

RG03 (図版：225, 写真図版：209・298)

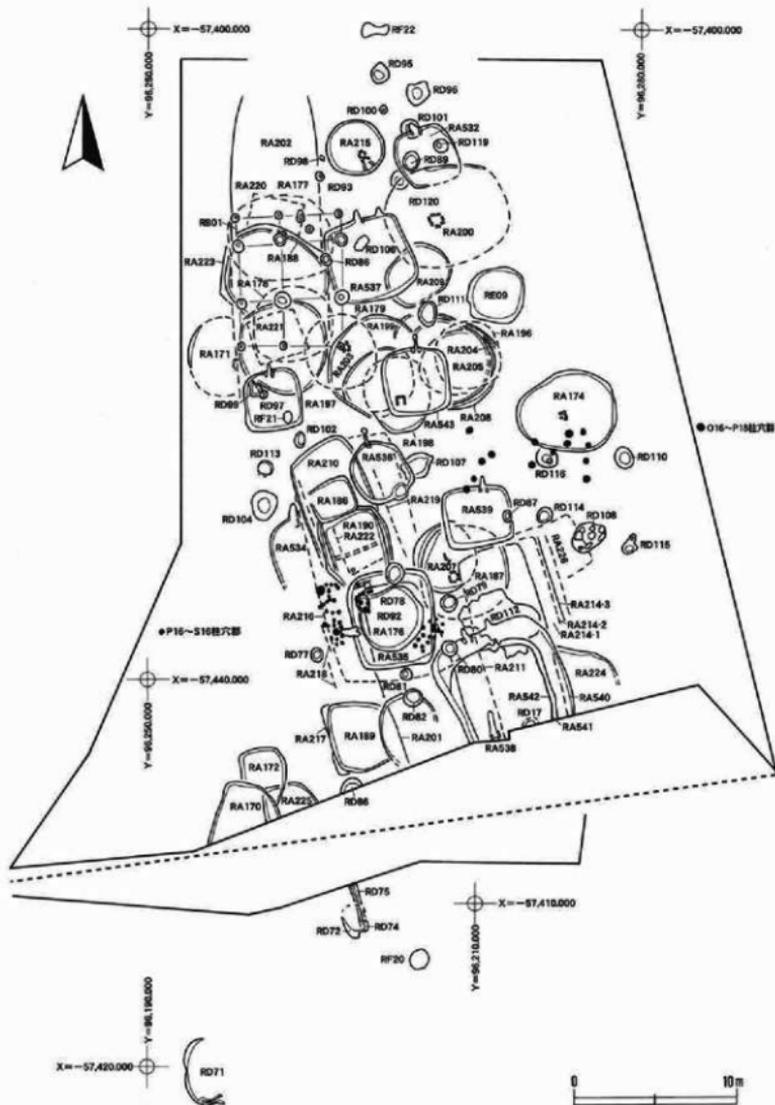
東側の拡張部分のB20グリッドに位置し、IV～V層上面で検出された。宅地造成等の攪乱も受けている。ほぼ南北方向に向かう沢状で、調査区内で長さ約3.5m・幅0.7～1.6m、深さ35～45cmである。埋土は主に黒褐色土からなるが、黄褐色土や明褐色土・砂礫等が多く混入する。水流があった時期が2・3度あったようである。

遺物は、埋土から縄文土器片や土師器片・石器が少量得られている。土師器は225-1が甕の破片、2が杯の破片と思われる。1は内外面ともハケメ調整、2は内面ナデ、外面ハケメやナデ調整が行われている。3～7は縄文前期前葉の土器片で、胎上にセシイが混入している。8～15は中期中葉の土器片である。16は円柱状で一端が尖った石製品破損品である。17は磨製石斧で刃部が破損している。

時期は検出面や伴出遺物から縄文時代の可能性もあるが、水流による混入の可能性もあり、不明である。



第225図 RG03遺構



第226图 遗址配置图(南·西区)

B 南区

南区で検出された遺構は縄文時代の竪穴住居36棟・土坑12基・柱穴群2、弥生時代の竪穴住居跡7棟、古代の竪穴住居跡12棟・建物跡1棟・土坑6基、時期不明の竪穴状遺構1棟・土坑17基・焼土遺構2である。

(1) 縄文時代

竪穴住居跡

RA170 (図版：227, 写真図版：210・299)

南端西寄りのT12～U13グリッド付近に位置し、Ⅱ層中で検出した。東側でRA172・225住居跡を切っている。南側は調査区外に続く。平面形は隅丸長方形を呈すると思われる。壁は東側が外傾する他は直立気味である。規模は長軸4.5m以上・短軸3.5m以上で、壁高は20～40cmある。埴土は主に黒褐色土で形成されるが、上位に火山灰ブロックや焼土を混入する。

床面は起伏があり、全体的に南東に緩く傾斜する。中央北寄りに地床炉と思われる焼土があり、壁際には杭孔状土坑が巡る。焼土の周囲にも杭孔状の土坑pp1～pp3があるが、開口部径10～20cm・深さ20～30cmで柱穴になるかどうか不明である。焼土は直径60cmの円形状に広がるが、厚さは痕跡程度である。

出土遺物は前期前葉の土器を主に約2.7kgの土器片と石器1点が得られている。土器片は不整盤糸文や羽状縄文・斜縄文などが施文され、胎土にセイが混入している。石器は横長の石匙である。

遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

RA171 (図版：228, 写真図版：211・299)

西寄りのM12グリッドに位置し、Ⅱ層下部で検出した。東側や南西側で古代のRA533住居跡や縄文時代のRA221・197住居跡等と重複しているようだが、縄文時代の遺構との前後関係は不明である。西側の壁と石囲炉から推定し平面形は円形だったと思われる。壁は外傾している。規模は直径約4.5m、残存部の壁高10cmほどである。埴土は不明。

床面はほぼ平坦で、南東寄りに石囲炉、中央と北寄りに柱穴状土坑が2基ある。床面上には他にも小規模な焼土1カ所があり、角礫が散在する。中央の柱穴状土坑は開口部径25cm・深さ65cmである。北寄りのものは開口部径・深さともに35cmほどである。

石囲炉は角礫を径70cmの円形状に並べていたようだが、東側は破損している。如内に形成された焼土は最大4cmほどの厚さで形成されている。

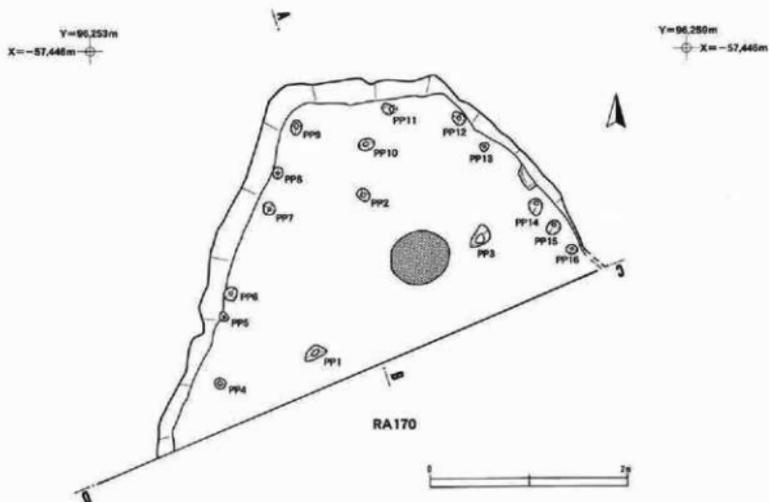
出土遺物は約3kgの土器片や石器4点が得られている。1～5は床面出土、他は埴土からの出土である。1は沈線による歯状の施文がなされている。2～4は無基の石礫で、二等辺三角形を呈している。5は幅広い縦長の石匙である。6は不整盤糸文が施文され、胎土にセイが混入している。8は沈線と磨消による施文がなされている。

遺構の時期は、石囲炉の形状や、出土遺物から縄文時代中期と思われる。

RA172 (図版：228・229, 写真図版：212・299・300)

南端西寄りのT13グリッドに位置する。RA225住居跡を切っており、RA170住居跡に切られている。南西壁を欠損するが、平面形はD字状を呈する。壁は直立ないしは外傾する。規模は長軸3.6m・短軸最大2.8m、壁高5～10cmである。埴土は主に黒褐色土からなり、上位に焼土ブロックが多く混じる。

床面は南東側に緩く傾斜し、壁際の一部に杭孔状の小土坑が5基検出されている。炉はない。



X=-57,451m
Y=96,253m

X=-57,451m
Y=96,250m

A L=14,200m



B

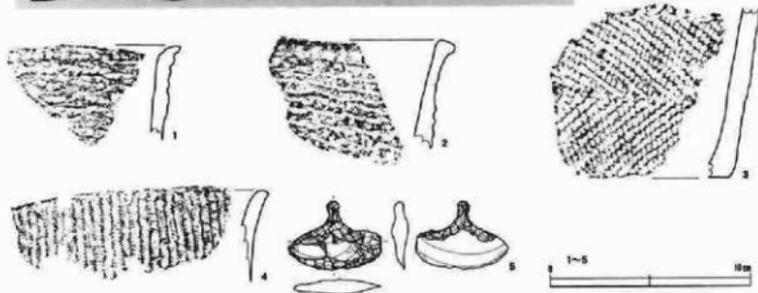
RA170

- | | | | | |
|----|----------|-----|-----|-------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黑褐色 | 粘性土 | 雜草中 |
| 1a | 10YR2/2 | 黑褐色 | 粘性土 | 雜草中、火山灰・燒土中雜草入 |
| 1b | 10YR3/2 | 黑褐色 | 粘性土 | 雜草中不勻面、火山灰・燒土少量混入 |
| 2 | 7.5YR2/1 | 黑褐色 | 粘性土 | 雜草中不勻面 |
| 2a | 7.5YR2/2 | 黑褐色 | 粘性土 | 雜草中 |
| 2b | 7.5YR3/1 | 黑褐色 | 粘性土 | 雜草中、砂礫少量混入 |
| 3 | 10Y2/2 | 黑褐色 | 粘性土 | 雜草中 |
| 4 | 10Y5/6 | 褐色 | 粘性土 | 雜草中不勻面 |

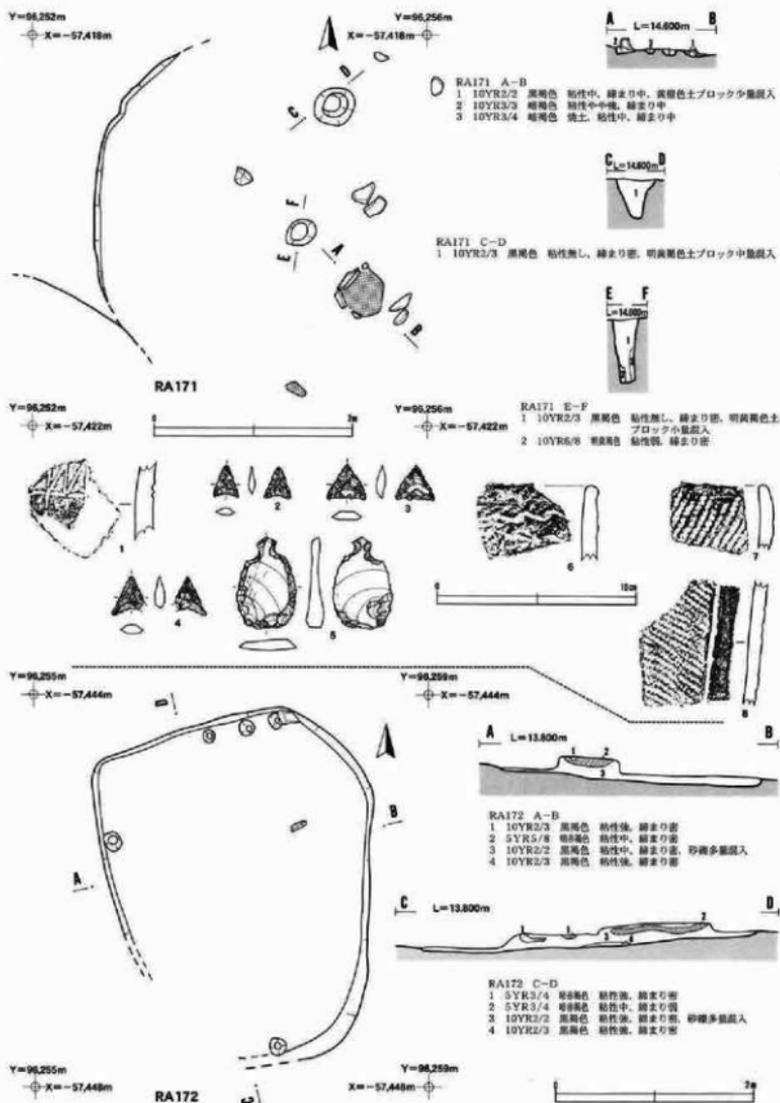
C L=14,400m



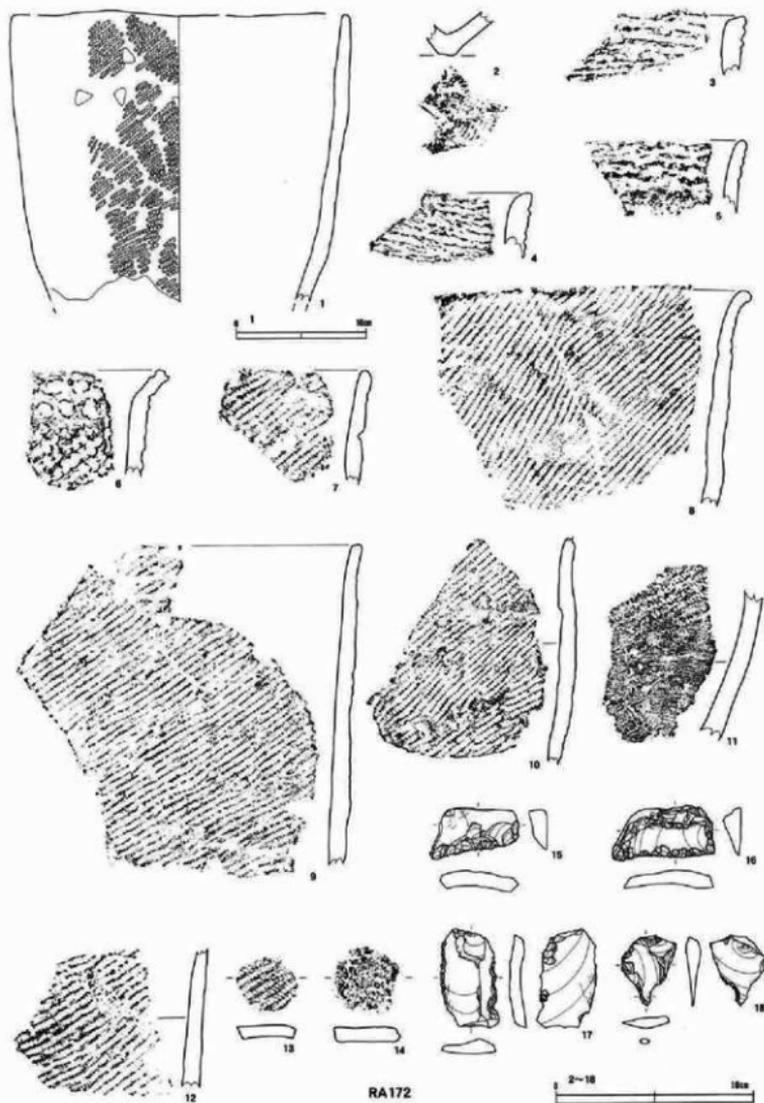
D



第227圖 RA170住居跡



第228図 RA171・172 (1) 住居跡



第229圖 RA172 (2) 住居跡出土遺物

出土遺物は約7.6kgの上器片と石器4点が得られている。すべて埋土からの出土である。1は深鉢で、斜縄文が施文され、胎土にセシイが混入している。2は尖底土器の破片で、胎土にセシイが混入している。3～12は深鉢の破片で不整燃糸文や刺突・磨消などが行われているが、胎土にセシイが混入している。15～17は削搔器、18は石錐である。

遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

RA175 (図版: 230, 写真図版: 213・300)

南端のS15グリッドに位置し、Ⅱ層下部～Ⅲ層上部で検出された。西側のRA189住居跡を切っている。北側はRD82上坑に切られている。平面形は楕円形状と思われ、壁は外傾して立ち上がる。規模は長軸約4.3m・短軸約3.6mで、壁高は西側で20cmである。埋土は主に黒色土で構成され、小礫が少量混入している。

床面はほぼ平坦で、北西寄りに土圧で潰れた土器1個体がある。また柱穴状上坑が8基。壁際には断続する壁溝と杭孔状小土坑が連続的に巡る。柱穴状上坑のうちpp1とpp4またはpp1とpp2・pp3が主になるようである。柱穴状上坑の規模は開口部径20～40cm・深さ20～40cmである。また遺構の外側にも開口部径20cm・深さ30cmほどの柱穴状上坑が1～2m間隔で巡る。炉はない。

出土遺物は床面の土器の他に弥生や縄文前期の土器が得られている。現場で作成の図面や写真・フィールドカードには記載があるが、整理時には掲載した土器片1点と石1点しか見つからなかった。2点とも埋土からの出土品である。土器片は深鉢の破片で柄上紐が口辺部外側や口唇部から内側まで、鋸歯状や梯子状に貼り付けてある。大木5式期平行の前期中葉と思われる。磨石は楕円形の円礫の平たい面に磨面が形成されている。

遺構の時期は床面出土の上器が行方不明なので断言できないが、炉を伴わない遺構の形状から縄文時代前期と思われる。

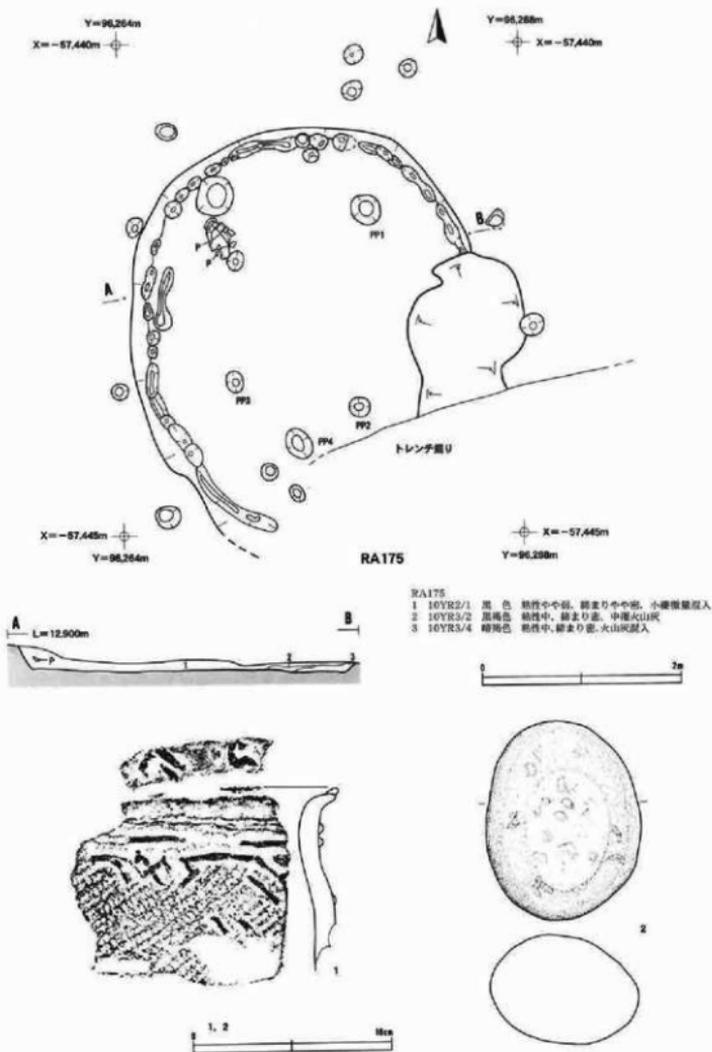
RA176 (図版: 231・232, 写真図版: 214・300)

南寄りのQ14～R15グリッド付近に位置し、古代のRA535住居跡の床面下で検出された。さらに下位には縄文時代のRA201住居跡がある。平面形はほぼ隅丸形状を呈し、北西隅に半円状の張り出しがある。壁は外傾して立ち上がる。規模は軸長約4m・壁高10～20cmである。埋土は主に黒色土からなり、褐色土や黄褐色土が混入している。

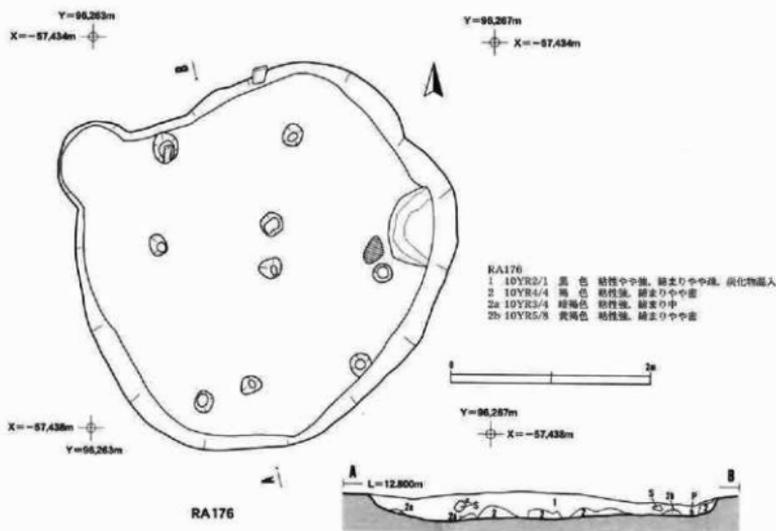
床面は緩く起伏する。東側に土礫が露出し、その横に小さな焼土の痕跡がある。柱穴状上坑が9基検出されているが、開口部径20cm前後・深さ10cmと小規模である。焼土は長径30cmの楕円形状で、厚さは痕跡程度である。

出土遺物は約5kgの土器片と磨石4点が得られている。232-1～4は床面から、他は埋土からの出土遺物である。床面出土の上器片は深鉢の破片で、不整燃糸文や羽状縄文が施文され、胎土にはセシイが混入している。埋土出土の遺物も深鉢やその破片が多く不整燃糸文やS字状沈文粘上紐の貼り付けなどがあり、胎土にセシイが混入するものが多いが、5・14・16のように平行沈線と隆線による施文がなされた中期中葉の土器片も混じる。11は中期のミニチュア土器の破片で擦痕でV字状の施文がなされている。磨石は4点とも円礫の平たい面に磨面が形成され、敲打によるくぼみも形成されているものもある。

この遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。



第230図 RA175住居跡



第231図 RA176 (1) 住居跡

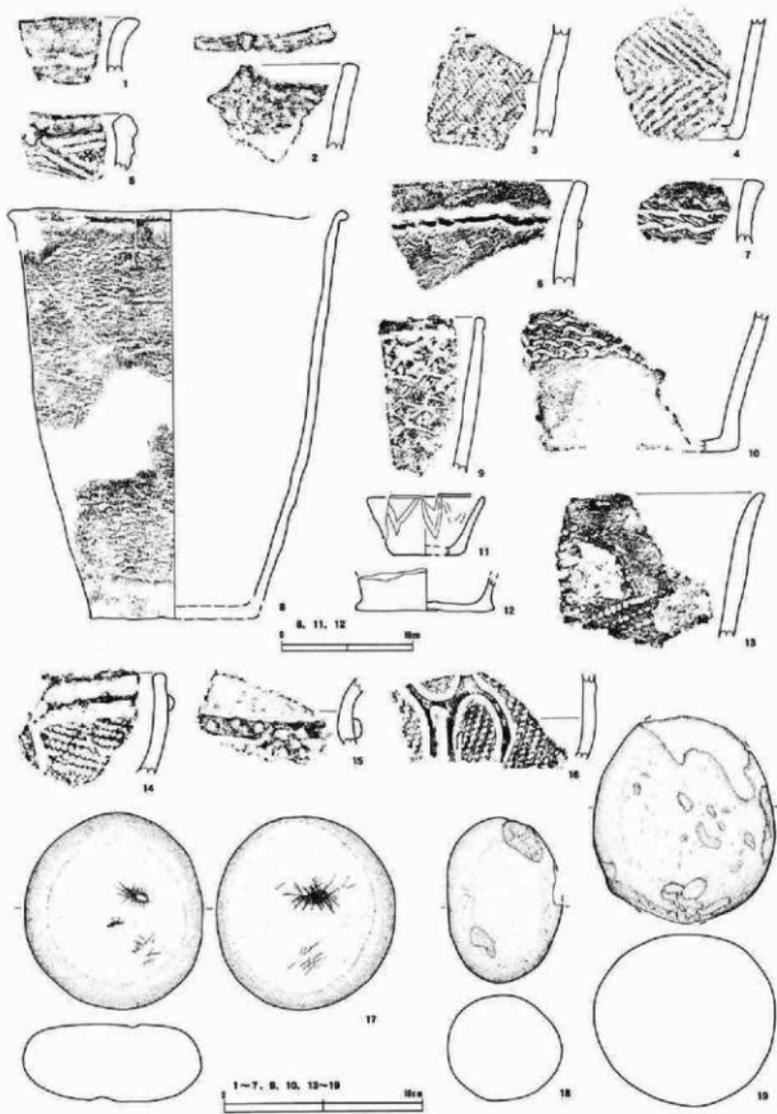
RA186 (図版：233・234, 写真図版：215・301・302)

中央やや西寄りのP14グリッドに位置し、RA536住居跡の西側、Ⅲ層上面で検出した。下位にはRA210・RA216・RA219住居跡が重複する。平面形は方形状を呈し、壁は直立気味ないし外傾して立ち上がる。規模は1辺約2.5m・壁溝30cmである。埋土は上位が暗褐色土で構成され中層浮石のブロックが混入し、下位は小礫の混入する褐色土で構成される。

床面には巨礫が露出し、東側が一段低くなる。巨礫とその周囲は焼けており、下位の遺構の焼土のようである。壁際には杭孔状の小柱穴が巡る。

出土遺物は前期前葉の土器を主に約6.1kgの土器片と石器4点が得られている。233-1~3が床面出土で、他は埋土からの出土である。1は深鉢の破片で、S字状沈文を施文し、胎土にはセシイが混入している。233-2の石鏝は無茎鏝で、二等辺三角形形状を呈している。233-3の磨石は角柱状の礫の側面に磨面が形成されている。磨石の他に箆打によるくぼみも見られる。埋土出土の土器片も深鉢の破片で、不整撫糸文やS字状沈文・網目状撫糸文・羽状繩文が施文され、胎土にセシイが混入している。234-18は粘土紐による駱齒文が貼り付けられ、胎土にセシイは混入していない。18は前期中葉、それ以外は前期前葉と思われる。234-21・22は無茎の石鏝で、二等辺三角形形状を呈している。

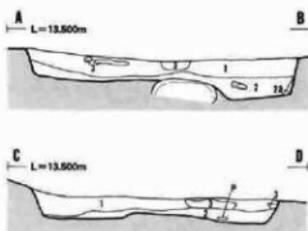
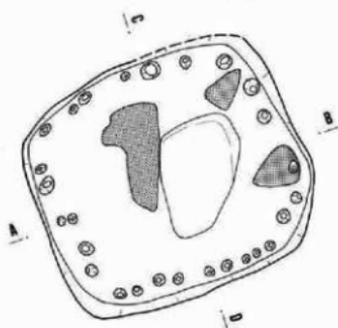
遺構の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉と思われる。



第232図 RA176 (2) 住居跡出土遺物

Y=96,259m
X=-57,427m

Y=96,263m
X=-57,427m

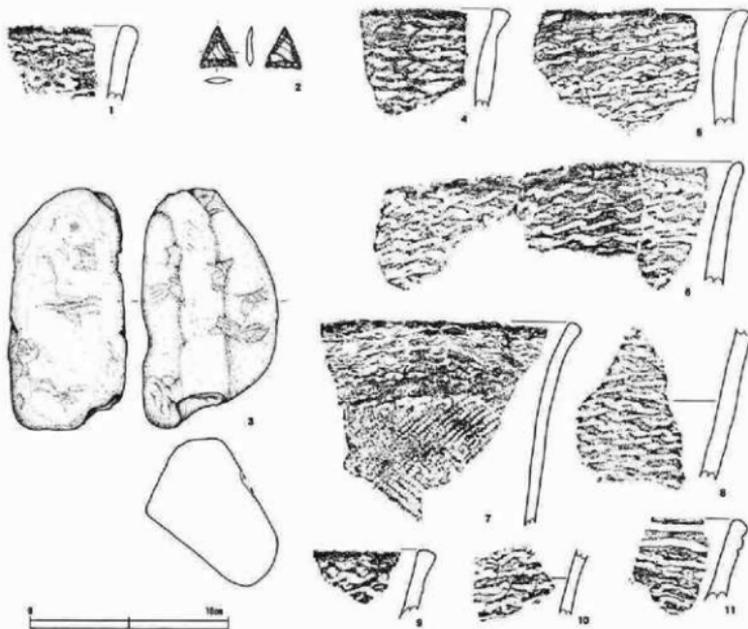


- RA186
 1 10YR5/3 暗褐色 粘性強、締まりやや重、炭化物少量混入
 2 10YR4/4 褐色 粘性強、締まりやや重、少量炭化物混入
 3 10YR6/8 暗黄褐色 粘性弱、締まり中、中程火山灰ブロック

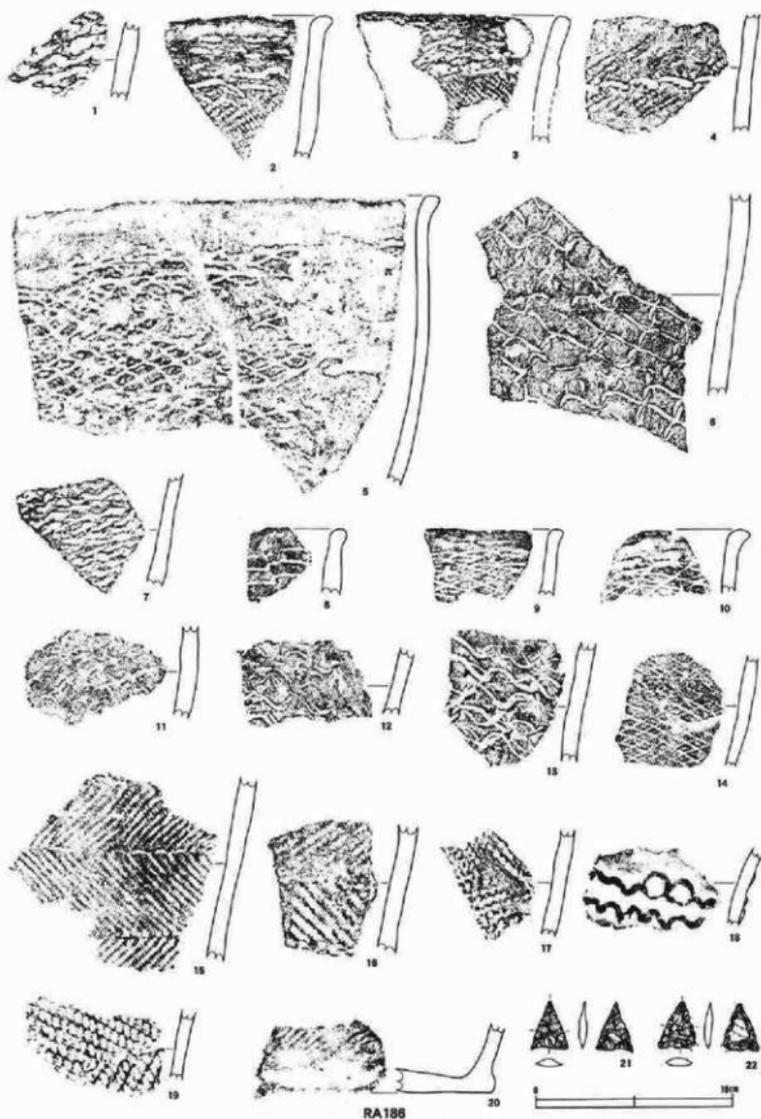
Y=96,259m
X=-57,431m

RA186

X=-57,431m
Y=96,263m



第233図 RA186 (1) 住居跡



第234图 RA186 (1) 住居跡出土遺物

RA188 (図版: 235~238, 写真図版: 216・302~304)

北寄り西側のL13グリッド付近に位置し、Ⅲ層上面で検出された。南側をRA197住居跡に切られているほか、RB01建物跡の柱穴等に切られている。そのため南側は残存しないが、平面形は楕円形状と思われ、壁は直立気味に外傾して立ち上がる。規模は長軸6.5m・短軸6m・壁高は残存部で30cmほどである。埋土は主に黒褐色土で構成され、締まりはやや密である。

床面は南に向かって緩く傾斜するが、ほぼ平坦である。中央付近に地床炉があり、壁際には壁溝が断続的に巡る。壁溝と壁溝の間に柱穴状の小土坑が検出されたほかは柱穴状土坑は検出されていない。

地床炉は90cm×70cmの長方形の焼土の広がり、厚さは痕跡程度である。

出土遺物は約15kgの上器片と石器18点が得られている。重量のせいから床面から出土したのは236-1~4の磨石3点である。それ以外は埋土からの出土である。1~3は縁辺に磨面が形成され、4は平らな面に磨面が形成されている。いずれも磨面の他に敲打痕が多く見られる。土器片は深鉢の破片で、236-5~14は不整燃糸文や葺瓦文・S字状沈文などが施文され、胎土にセンイが混入する。236-15~237-11は粘土紐が波状や格子状に添付されている。大木4~5式期相当の土器片で、この種の土器片がもっとも多い。237-2~19は平行沈線による渦巻き文や曲線文を主とするグループである。刺突や隆帯、立体的な口縁部突起を持つものもある。中期中葉と思われる。237-20~22は円盤状土製品で、土器片を円盤状に加工したものである。23~25は無葉の石鏝で、二等辺三角形形状を呈している。26は削搔器、27は石匙である。238-1~7は磨石で、1~3は円盤の平らな面に、4・5は棒状礫の縁辺に磨面が形成されている。6・7は棒状礫の平らな面に磨面が形成され、6は敲打によるくぼみも見られる。8は磨製石斧の破損品である。9は脚の造り出された石皿の破損品で既行に転用されたようで、糸痕がある。

遺構の時期は、地床炉と出土遺物が前期中葉のものが多くことから、調査者は縄文時代前期中葉と推測している。

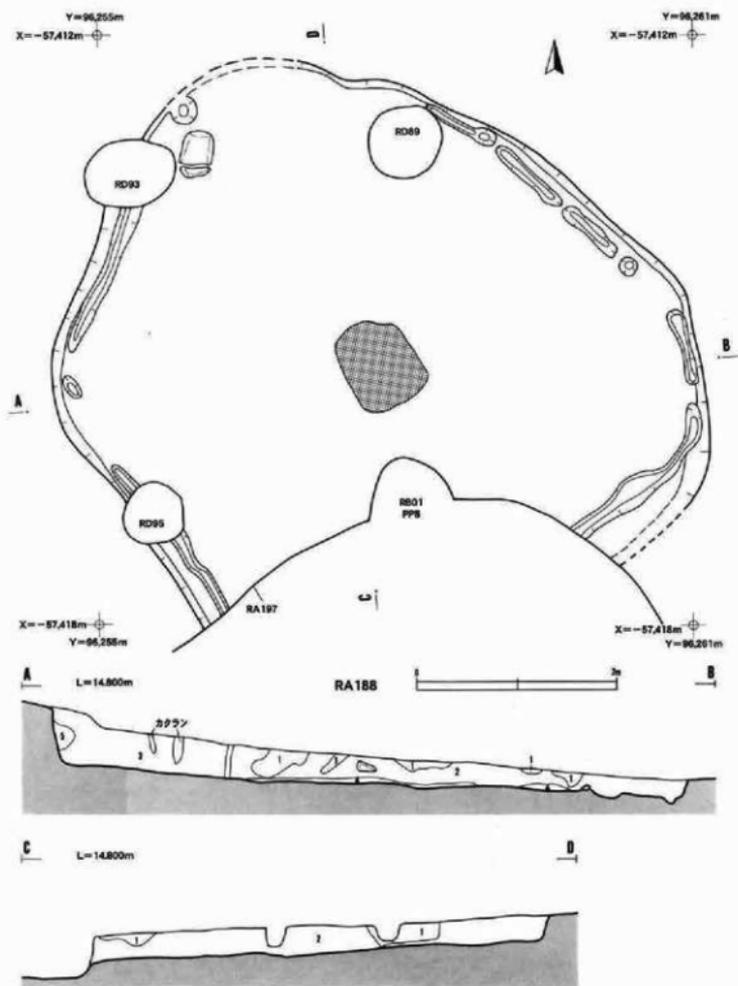
RA189 (図版: 239~241, 写真図版: 217・304・305)

南端中央付近のS14グリッド付近、RA175住居跡の東側に位置し、Ⅱ層下部で検出された。西側のRA217住居跡を切っている。東側の壁は残存しないが、平面形は楕円長形状で、壁は直立ないしは外傾して立ち上がる。規模は長軸4.3m・短軸3.5mほど、壁高は残存部で30~40cmである。埋土は暗褐色土や黒褐色土で構成され、上位には中梗火山灰のブロックが混入する。

床面は一部に段差があるが、ほぼ平坦で、締まりは密である。東側に壁高が断続して巡り、杭孔状小土坑も北側壁を除いて壁際に連続して巡っている。東側の壁高の位置と実際に残存していたと推定される壁との間に20~50cmの開きがあり、建て替えた可能性もある。炉はない。

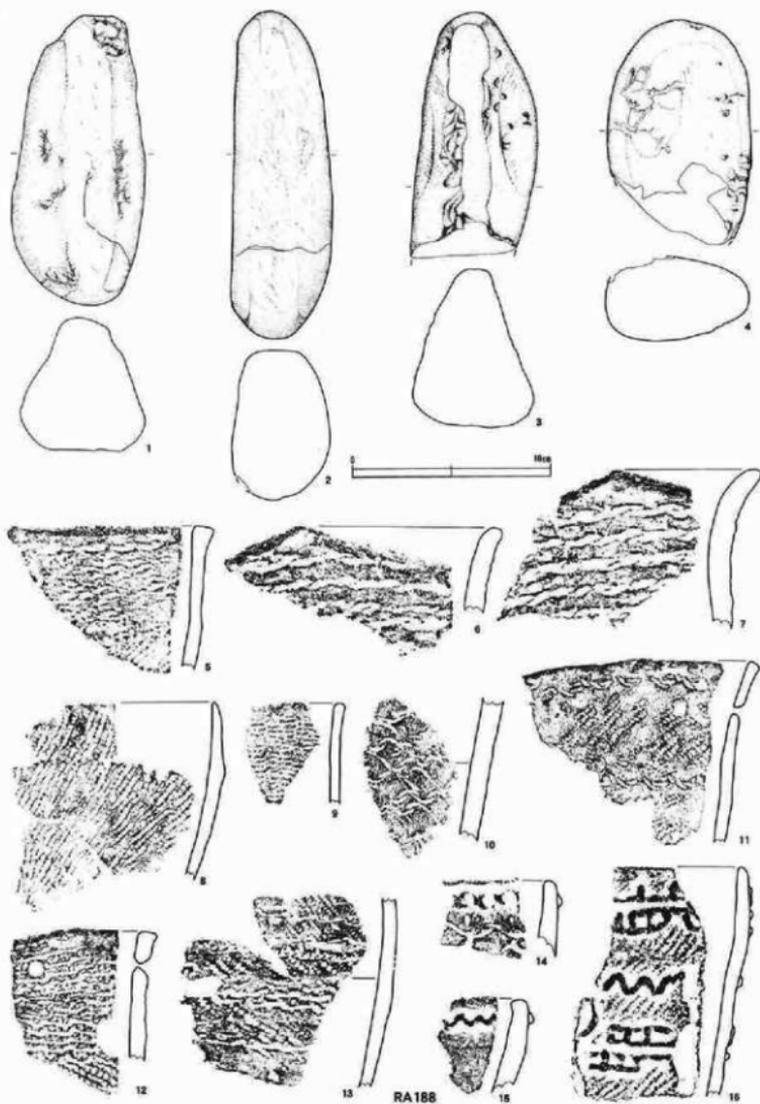
出土遺物は大木1~2a式期の土器を主に約20.2kgの土器片と石器6点が得られている。239-1~240-9が床面出土の遺物で、それ以外は埋土出土の土器群である。床面出土の土器は深鉢やその破片で、不整燃糸文や羽状縄文が施文され、胎土にはセンイが混入している。石器は石鏝1点・石槍の破損品1点・削搔器1点・磨石1点である。石槍と磨石は破損品である。埋土出土の土器片も深鉢の破片で240-10~241-9は不整燃糸文・羽状縄文・葺瓦文・網目状文・S字状沈文が施文され、胎土にセンイが混入する。前期前葉の土器群である。241-10・11は粘土紐が波状に貼付された、前期中葉の土器群である。12・13は棒状礫の縁辺に磨面が形成された磨石である。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。



- RA188
- 1 10YR2/1 黒色 締まり中、粘液中中弱
 - 2 10YR2/2 黒褐色 締まり中中弱、粘液中
 - 3 10YR3/4 暗褐色 締まり中中弱、粘液中
 - 4 10YR4/4 褐色 締まり中中弱、粘液中
 - 5 10YR5/6 黄褐色 締まり中、粘液中中弱、褐色土多量に混入

第235図 RA188 (1) 住居跡



第236圖 RA188 (2) 住居跡出土遺物

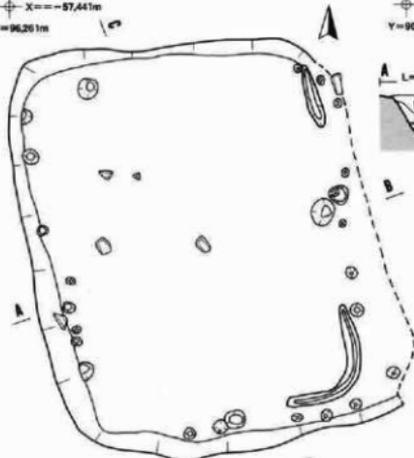


第237圖 RA188 (3) 住居跡出土遺物

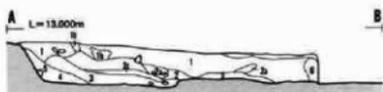


第238圖 RA188 (4) 住居跡出土遺物

X=-57,44m
Y=96,26m



X=-57,44m
Y=96,26m

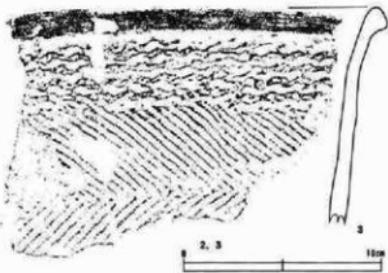
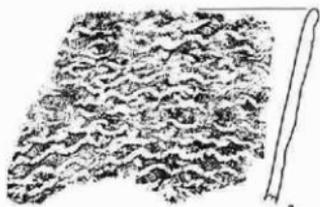
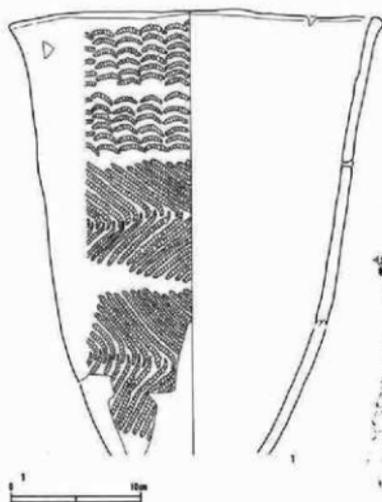
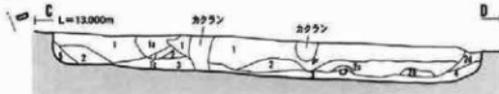


- RA189
- | | | | |
|----|---------|-----|------------------------|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 粘性やや強、締まり中、中層火山灰ブロック混入 |
| 1a | 10YR2/1 | 黒色 | 粘性やや強、締まりやや強 |
| 1b | 10YR4/4 | 褐色 | 粘性中、締まり中、中層火山灰ブロック混入 |
| 1c | 10YR2/2 | 黒褐色 | 粘性やや強、締まりやや強 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 粘性やや強、締まりやや強、炭化物少量混入 |
| 2a | 10YR3/3 | 暗褐色 | 粘性やや強、締まり中 |
| 2b | 10YR2/3 | 黒褐色 | 褐色土との混入層、粘性やや強、締まり中 |
| 2c | 10YR2/3 | 黒褐色 | 粘性やや強、締まり中 |
| 2d | 10YR2/3 | 暗褐色 | 粘性やや強、締まり中 |
| 3 | 10YR2/4 | 暗褐色 | 粘性やや強、締まりやや強、小礫中量混入 |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 粘性やや強、締まりやや強 |
| 5 | 10YR4/6 | 褐色 | 粘性中、締まりやや強、砂礫土、炭化物混入 |
| 6 | 10YR4/3 | 黄褐色 | 粘性強、締まり強 |

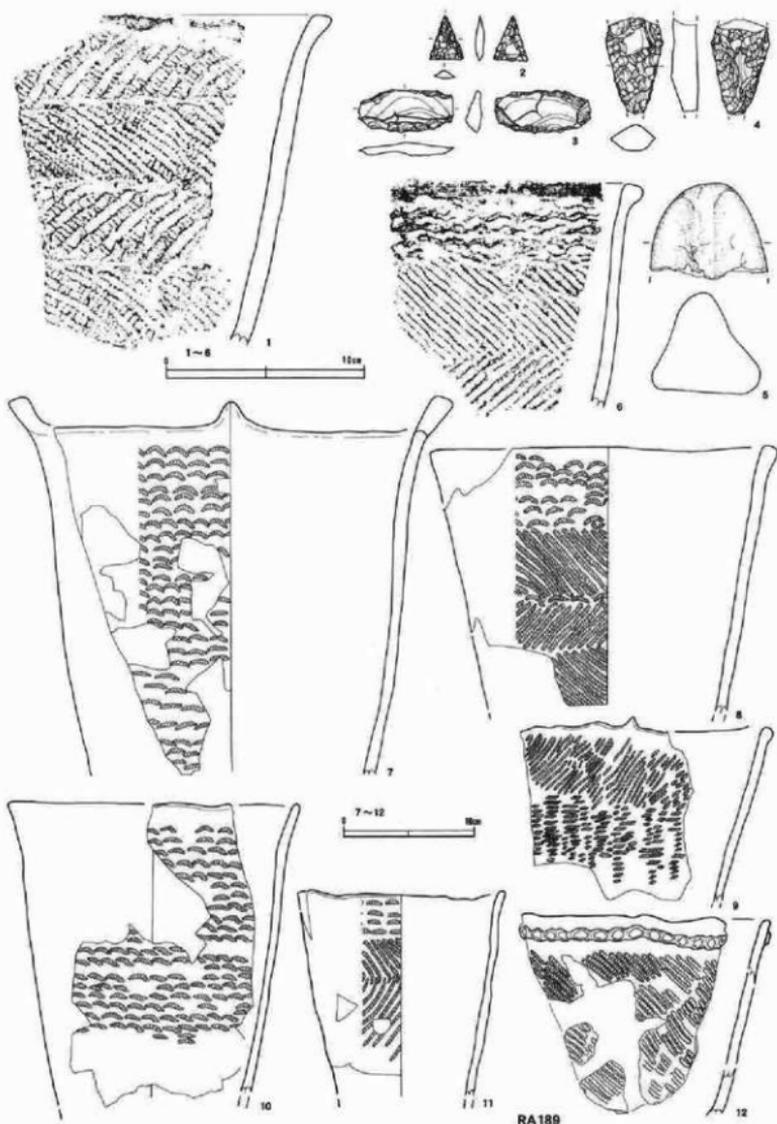
0 2m

X=-57,446m
Y=96,261m

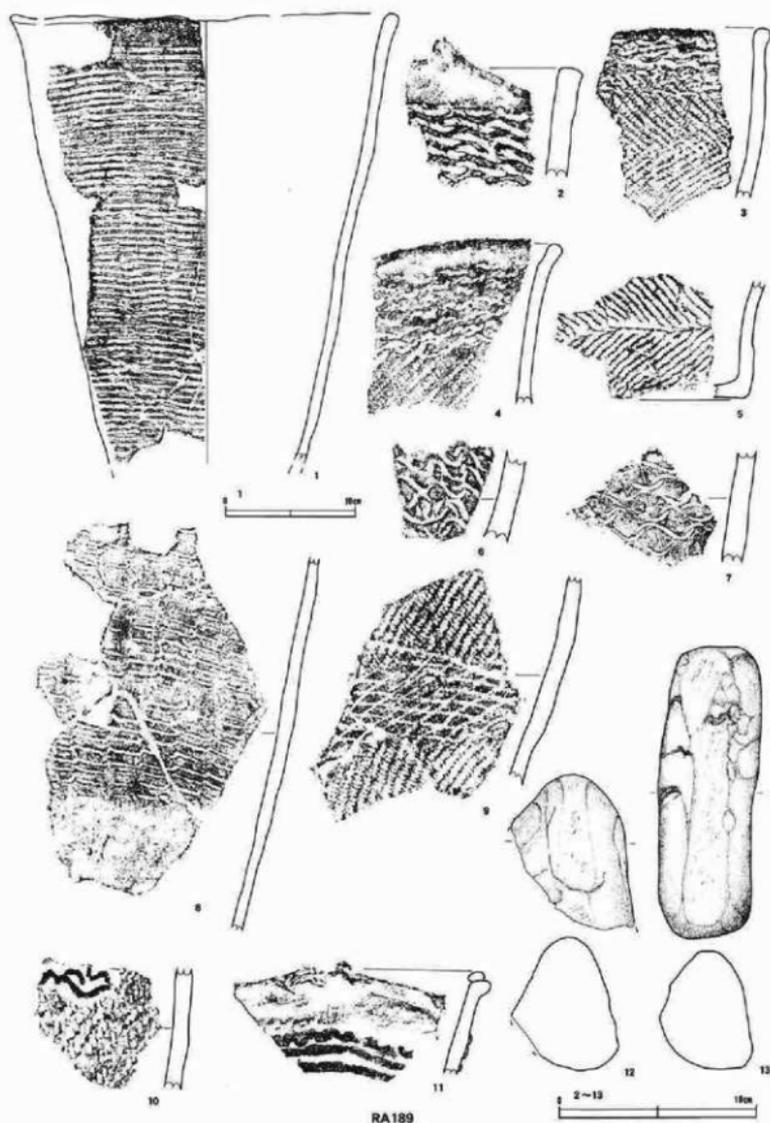
RA189



第239図 RA189 (1) 住居跡



第240圖 RA189 (2) 住居跡出土遺物



RA189

第241圖 RA189 (3) 住居跡出土遺物

RA190 (図版: 242・243, 写真図版: 218・305・306)

中央南西寄りのP14グリッドに位置する。RA186住居跡に切られ、RA222住居跡の上位にある。南北の壁は残存しないが、平面形は隅丸長方形を呈するようで、壁は直立気味に外傾する。規模は長軸4.3mほど・短軸3.7m、壁高最大20cmである。埋土は主に鈍い暗褐色土で構成され、締まりは中である。

床面は起伏がある。中央付近と壁際の一部に柱穴状土坑が3基、壁際と東側壁よりに杭孔状の小土坑が連続して巡る。東側の杭孔状土坑は2列になるので、建て替えの可能性もある。杭孔状土坑の規模は開口部径・深さともに20cmほどである。南寄りに長径45cmと20cmの焼土の広がり方が2カ所見られるが、厚さは痕跡程度である。焼土家屋ではないので、地床炉の可能性もある。

出土遺物は約2.7kgの上器片と石器1点が得られている。土器片は深鉢の破片で、不整擦糸文や羽状縄文・S字状沈文などがあり、粘土紐を貼り付けて押圧施文したものもある。胎土にはセシイが混入する。石器は磨石で、長方形の円錐の平たい面に磨面が形成されている。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

RA197 (図版: 244・245, 写真図版: 219・306・307)

中央西寄りのM13グリッドに位置する。南西をRA533住居跡に切られ、RA171・203・221住居跡などを切っている。またRB01建物の柱穴に中央や北と西の壁の一部が切られている。

平面形は円形状を呈し、壁は直立気味である。規模は直径5.6m、壁高15～55cmである。埋土は黒褐色土や暗褐色土で構成され、締まりはやや密である。

床面はいくらか起伏があるがほぼ平坦で、締まりは密である。中央から東壁にかけて複式炉があり、柱穴状土坑が6基検出されている。壁際には壁溝や壁柱穴が断続的に巡る。主柱穴はpp1～pp6の6基で、規模は開口部径35～60cm、深さ40～60cmである。中には柱痕跡が残っているものもある。pp1は東側を新しい土坑に切られている。その上坑は長軸1m・短軸90cm、深さ45cmほどで、埋土は暗褐色土や黒褐色土などで、やや締まっているが、遺構に伴うかどうか不明である。

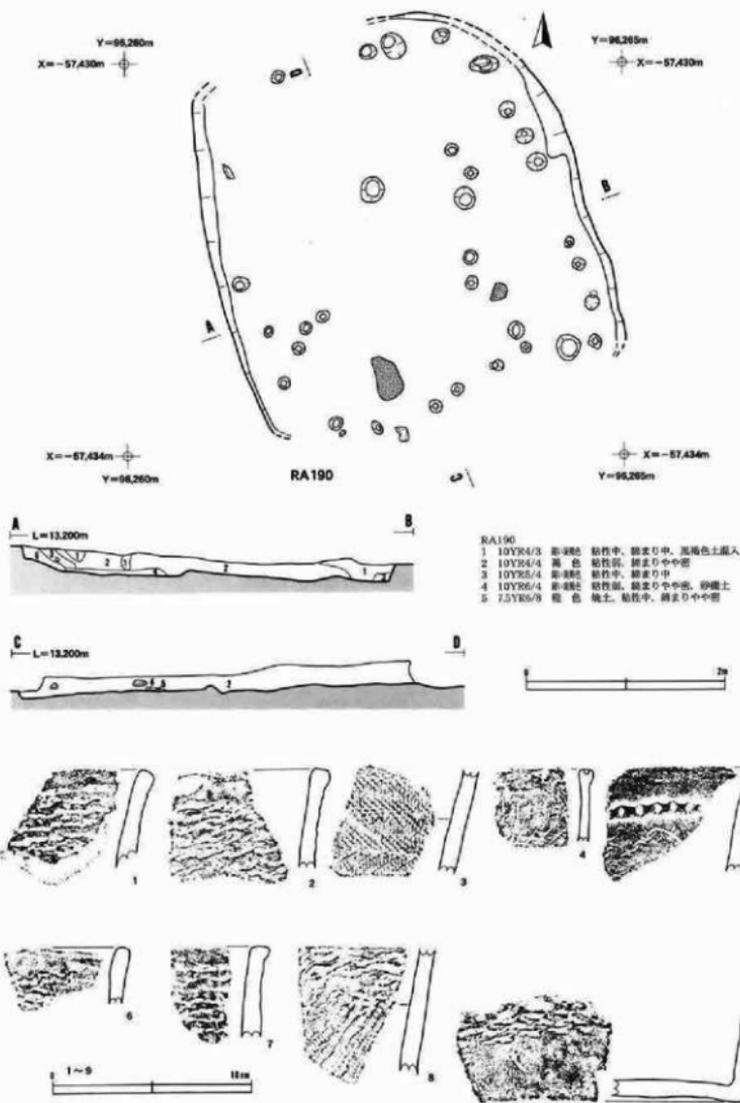
複式炉は角礫を埋め込んで80cmの方形に作られた石組み部と、そこから東側の壁まで続く前庭部からなる。石組みの中には土器が埋設されているが、焼土はその下に形成されている。焼土の厚さは最大5cmである。前庭部は床面から10cmほど低く掘り込まれて、締まりは密であるが、扇形には広がらず、石組みの幅ではほぼ並行に壁まで続く。

出土遺物は木9式期相当のものなど約5.5kgの土器片と石器4点が得られている。245-1は床面出土で、それ以外は埋土の出土遺物である。1は土器の底部で、胴部が割かれた痕跡が残る。埋土出土の土器または土器片も深鉢の破片である。3・4は不整擦糸文やS字状沈文が施文され、胎土にセシイが混入する。4・5・7・8は平行沈線や隆帯・磨消帯で施文されている。中期中葉～後葉の土器片である。石器は石鏃1点と削搔器1点・磨製石斧2点である。12の磨製石斧は破損品で、表裏の中央に縦溝が作られており、再生・転用が予定されていたものかもしれない。

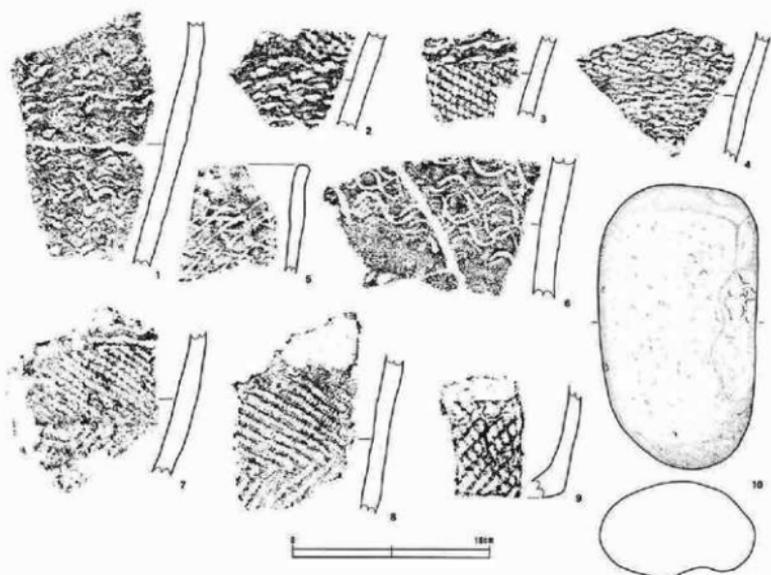
遺構の時期は炉の形態や出土遺物から縄文時代中期後葉と思われる。

RA198 (図版: 246, 写真図版: 220・307)

中央付近のN15グリッドに位置する。RA199住居跡やRA203住居跡の南側を切って構築されている。また上位には古代のRA543住居跡がある。北側と南側の壁は確認できたがそれ以外は不明瞭である。平面形



第242図 RA190 (1) 住居跡



第243図 RA190 (2) 住居跡出土遺物

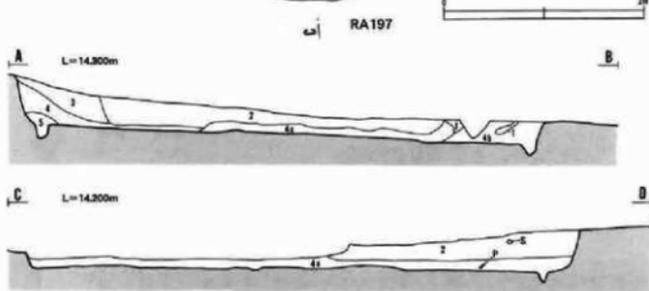
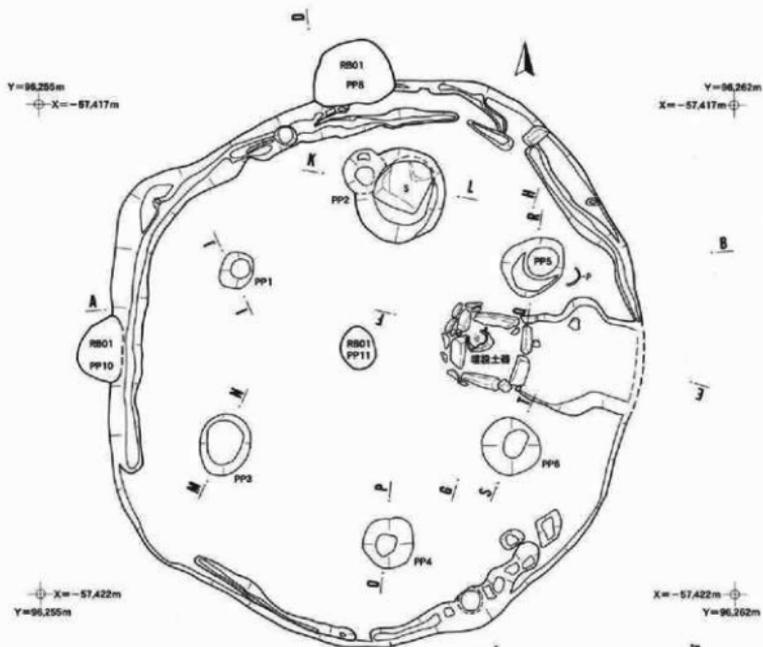
は楕円形状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。規模は長軸5.3m・短軸4.3mほどで、壁高は残存部で最大20cmである。埋土は主に砂礫を混入する黄褐色土で構成される。

床面はやや起伏があり、南寄りに複式炉、中央や壁寄りに柱穴状土坑が13基確認されている。柱穴状土坑はpp2・pp3・pp7・pp12が主となるようである。規模は開口部径20cm・深さ30~40cmである。また壁際のpp4・pp5も対になり、出入口状の施設を形成していた可能性がある。

複式炉は角礫を埋め込んで80cm×70cmの長方形状に組んだ石組みと、そこから壁まで長さ1.4m・幅1.3mで扇形に広がる前庭部からなっている。石組み内の北側に焼土は形成されているが、他遺構に伴う柱穴に切られている。最大厚2cmの焼土が見られる。

出土遺物は約1.4kgの土器片が得られている。すべて埋土からの出土で、鉢または深鉢の破片である。246-1は鉢の破片で、胴部上位や口縁部内面に粘土紐貼り付けによる波状文等が施文されている。前期中葉の土器片である。2・3はやや太い沈線と磨消帯や隆線を主とした施文がなされている。中期後葉~末葉の土器である。

遺構の時期は炉の形態や出土遺物から縄文時代中期後葉~末葉と思われる。



RA197

- 1 10YR2/1 黒色 粘性中砂質、締まり中
- 2 10YR3/2 黒褐色 粘性中、締まり中砂質
- 3 10YR2/3 暗褐色 粘性中、締まり中砂質、微細少量混入
- 4 10YR3/3 暗褐色 粘性中、締まり中砂質、微細少量混入
- 4a 10YR3/3 暗褐色 粘性中、締まり中砂質
- 4b 10YR4/4 褐色 粘性中砂質、締まり中砂質
- 5 10YR4/4 褐色 粘性中砂質、締まり中砂質

第244図 RA197 (1) 住居跡



I-J
1 10YR3/3 暗褐色 締まりや中密、粘性や中強

K-L
1 10YR2/3 黒褐色 締まりや中密、粘性中
2 10YR3/3 暗褐色 締まりや中密、粘性や中弱、黄褐色土ブロック混入
3 10YR4/3 赤褐色 締まりや中密、粘性や中弱
4 10YR4/6 褐色 締まりや中密、粘性や中弱
5 10YR4/4 褐色 締まりや中密、粘性中

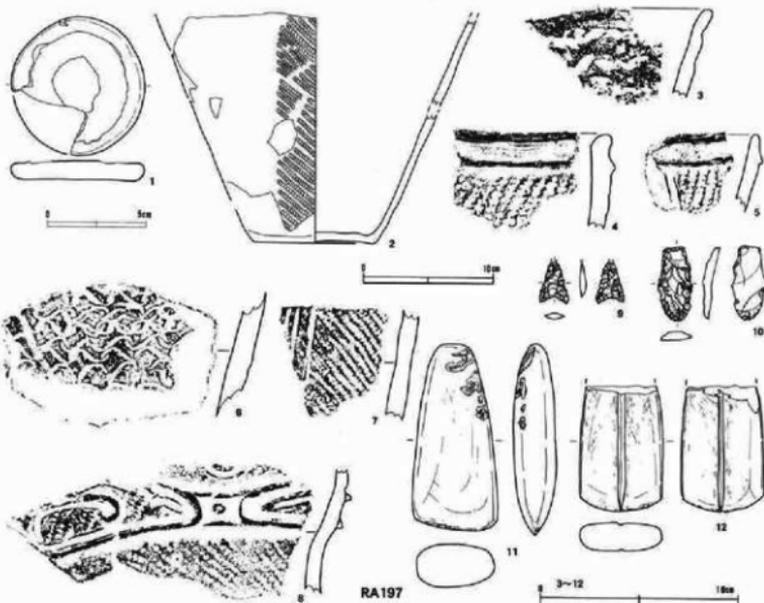
M-N
1 10YR2/3 黒褐色 締まりや中密、粘性や中強

RA197F E-F G-H
1 10YR2/3 暗褐色 締まりや中密、粘性や中弱、褐色土ブロック混入
2 10YR4/4 褐色 締まりや中密、粘性中、小砂少量混入
3 10YR4/3 暗褐色 締まりや中密、粘性や中弱
4 10YR6/6 明黄褐色 締まり密、粘性や中弱、風化花崗岩砂少量混入
5 10YR8/8 黄褐色 締まり密、粘性弱、風化花崗岩砂
6 10YR2/2 黒褐色 締まり中、粘性や中弱
7 10YR6/2 深黄褐色 締まり密、粘性弱
8 10YR2/3 暗褐色 締まり中、粘性や中弱
9 5YR5/8 明赤褐色 粘土
10 5YR5/6 赤褐色 締まり密、粘性弱、粘土
11 10YR4/4 褐色 締まり中、粘性中
12 10YR4/4 褐色 暗褐色土との層上層、締まり中、粘性や中強
13 10YR2/3 暗褐色 締まり中、粘性や中強

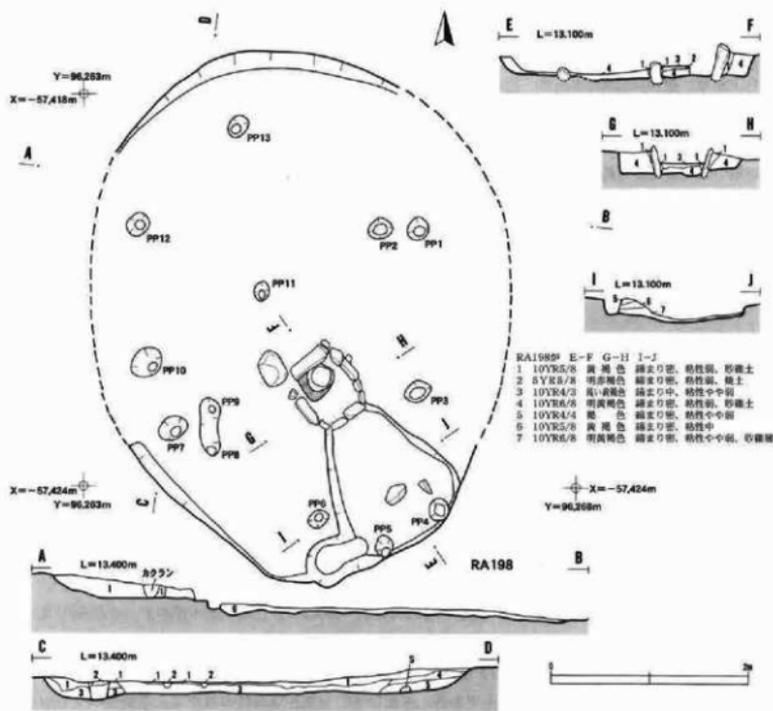
O-P
1 10YR2/3 暗褐色 締まりや中密、粘性や中強
2 10YR4/4 褐色 締まりや中密、粘性中

Q-R
1 10YR2/3 暗褐色 締まりや中密、粘性中
2 10YR3/4 暗褐色 締まり中、粘性や中弱
3 10YR3/1 黒褐色 締まり中、粘性や中強

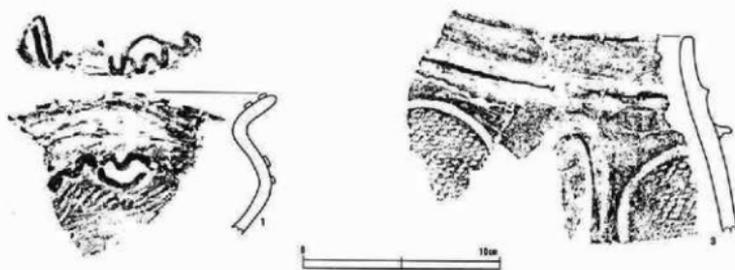
S-T
1 10YR3/3 暗褐色 締まりや中密、粘性中



第245図 RA197 (2) 住居跡



- RA198 A-B C-D
- | | | | |
|---|---------|------|-------------------------|
| 1 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 粘性中、締まり中、小礫少量混入 |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | 粘性中、締まり中強 |
| 3 | 10YR5/3 | 紅褐色 | 粘性中、締まり中強、小礫少量混入 |
| 4 | 10YR4/3 | 紅褐色 | 粘性中強、締まり中、小礫少量混入 |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 粘性中強、締まり密、中礫少量混入 |
| 6 | 10YR2/1 | 黒色 | 粘性中強強、締まり密、黒褐色土・明黄褐色土混入 |



第246図 RA198住居跡

RA199 (図版：247, 写真図版：221・307)

中央付近のM14～N15グリッドに位置する。RA543住居跡に東側を切られている他、RA198住居跡等に南側を切られている。残存部から平面形は楕円形状を呈していたようである。壁は直立ないしは外傾して立ち上がる。規模は長軸約6mで、短軸約5mと推定される。残存する壁高は5～10cmである。地上は主に褐色土で構成され、小礫や暗褐色土を混入する。

床面は南東に緩く傾斜するが、中央付近が一段低くなる。柱穴状土坑が十数基あり床面の段差とも関わり数時期の建て替えの可能性がある。しかし各柱穴状土坑とも開口部径20～40cm・深さ10～30cmと浅く組み合わせは不明である。炉は検出されていない。

出土遺物は約3.4kgの上器片が得られている。すべて埋土から出土しており、深鉢の破片のようである。平行沈線と降線や磨消帯による文様が施文されており、中期中葉～後葉の遺物である。

遺構の時期は、炉が検出されていないので詳細は不明瞭だが、縄文時代中期中葉と思われる。

RA201 (図版：248～250, 写真図版：222・307・308)

南端中央のQ15～S15グリッドにあり、RA540住居跡の西側、RA175住居跡の東側に位置し、RA175・176・535住居跡の直下に検出されている。割張り長方形のロングハウス形の大規模住居で、南側は調査区外に続く。壁は直立気味である。規模は長軸11m以上・短軸5m、壁高は20～40cmである。埋土は上位に灰黄褐色の中礫火山灰がレンズ状に堆積し、床面近くは炭化物の少量混入する暗褐色土で構成される。

床面はわずかに起伏しながら南側に緩く傾斜する。壁際には壁溝が連続して巡る。壁から60～70cmの所に柱穴状土坑が東西に各1列並び、その内側に焼土と炭化物の集中部が並ぶ。北東側の床面には巨礫がある。柱穴状土坑は開口部径20～30cm・深さ40～60cmで約1m間隔で並び、東西が対になるところが多い。

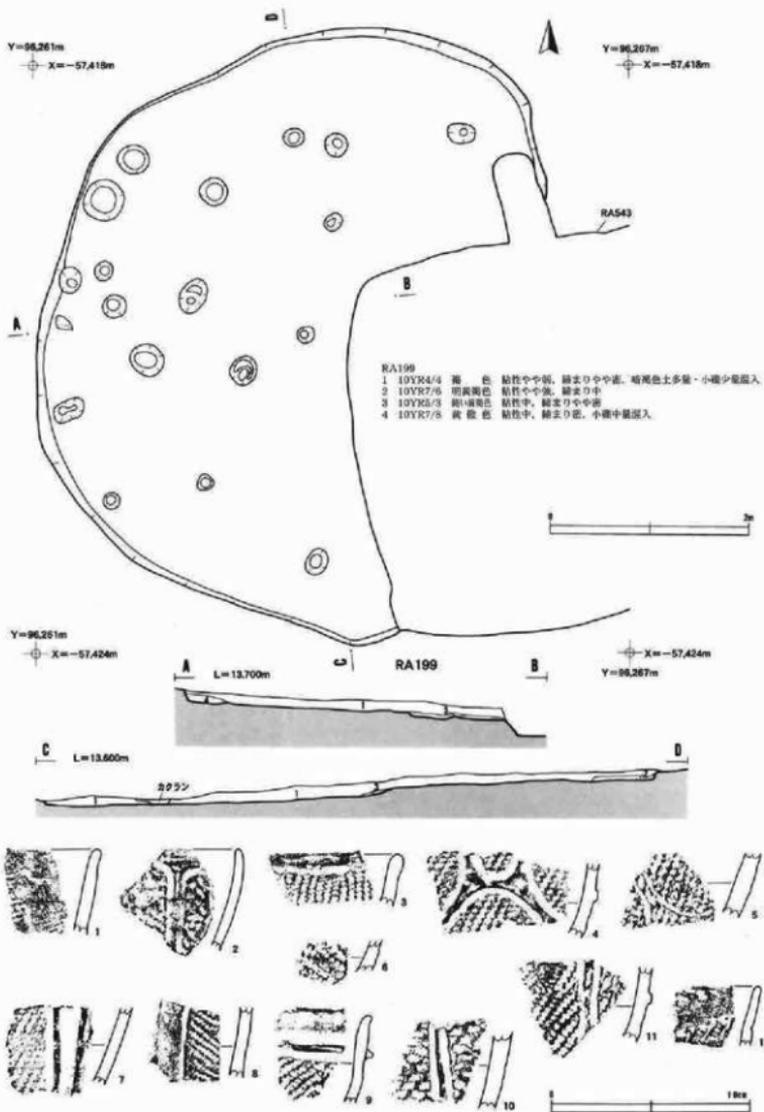
焼土は東寄りに長径1mほどの不整形な広がり、約2m間隔で作られ、厚さは最大5cmに形成されている。地床炉と思われる。西側には痕跡程度の焼土を含む径20～90cmの炭化物の集中部が2～3m間隔で見られる。地床炉の可能性もあるが、柱穴状土坑と重なるものもある。

出土遺物は大木1～2a式期相当の上器を主に約3.8kgと石器4点が得られている。249-1～12は床面からの出土遺物で、それ以外は埋土からの出土である。床面出土の上器片は深鉢の破片で、不整燃系文や羽状縄文・網目状燃系文・S字状沈文などが施文され、胎土にセイが混入する。前期前葉の上器群である。11は石鏃、12は楔状石器である。埋土出土の土器も深鉢の破片で、不整燃系文や羽状縄文が施文され、胎土にセイが混入するものが多いが、250-9～12のように沈線や磨消帯・隆帯と刺突が施文された中期中葉～後葉の土器片も混入している。13・14は磨石で棒状礫の縁辺に磨面が形成されている。磨面の他に敲打によるくぼみも形成されている。

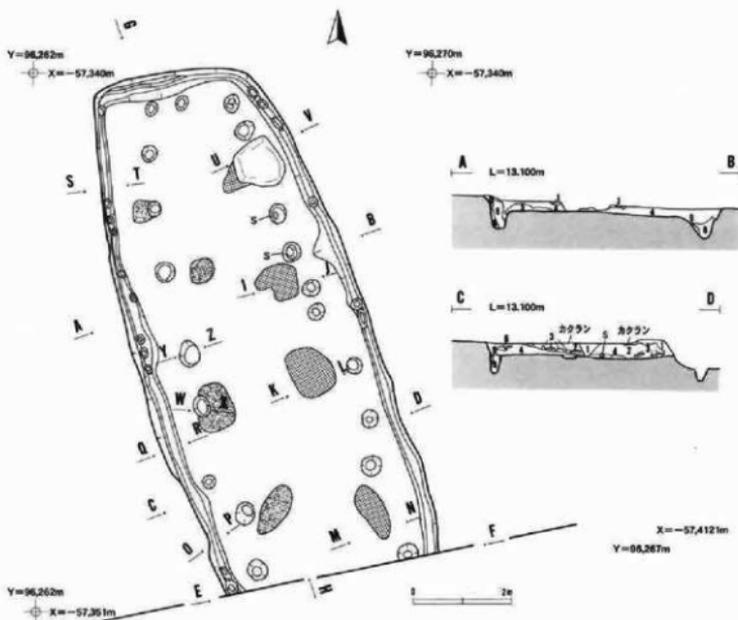
遺構の時期は床面から出土した土器片等から縄文時代前期前葉と思われる。

RA202 (図版：251～254, 写真図版：223・308～310)

北西寄りのJ13～K13グリッドに位置し、Ⅲ層中で検出した。南及び西壁をRA188住居跡に切られている。またRB01建物の柱穴状土坑の一部を切られている。南側は壁溝のみが残存し、南端は不明である。壁溝や柱穴状土坑が複数組あり、数時期の建て替えのようである。平面形は長方形のロングハウスと呼ばれる大型住居跡である。壁は直立ないしは外傾する。規模は長軸19m以上・短軸約5mで、残存部の壁高は50cmほどである。埋土は上位が黒褐色土、中～下位が黄褐色土や褐色土で構成されている。



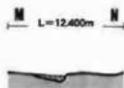
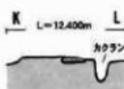
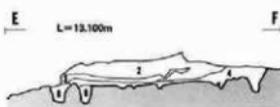
第247図 RA199住居跡



RA201

RA201

- | | | | |
|---|----------|------|-------------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 締まり硬、粘性やや弱、灰黄色火山灰ブロック層入 |
| 2 | 10YR4/3 | 黄褐色 | 締まり硬、粘性強、中層火山灰 |
| 3 | 10YR8/6 | 黄褐色 | 締まり硬、粘性弱 |
| 4 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 締まり硬、粘性やや強、炭化物少量混入 |
| 5 | 10YR6/8 | 明黄褐色 | 締まり硬、粘性やや強、暗褐色土層入 |
| 6 | 10YR4/6 | 褐色 | 締まり硬、粘性やや強、砂礫土 |
| 7 | 7.5YR4/6 | 明褐色 | 締まり硬、粘性やや強 |
| 8 | 10YR4/4 | 褐色 | 締まりやや硬、粘性中、黄褐色土層入 |
| 9 | 10YR6/6 | 明黄褐色 | 締まりやや硬、粘性やや強、マサ土層入 |



I-J

- 1 5YR4/6 赤褐色 締まり硬、粘性強、焼土

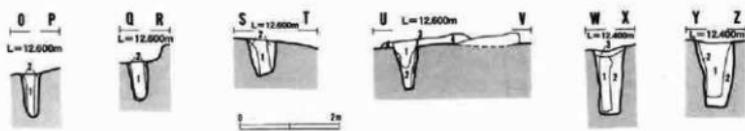
K-L

- 1 5YR4/6 赤褐色 締まり硬、粘性強、焼土

M-N

- 1 5YR4/6 赤褐色 締まり硬、粘性強、焼土

第248図 RA201 (1) 住居跡



O-P
 1 10YR3/3 暗褐色 粘まり中、粘性中、炭化物少量混入
 2 10YR5/4 灰褐色 粘まり中、粘性中

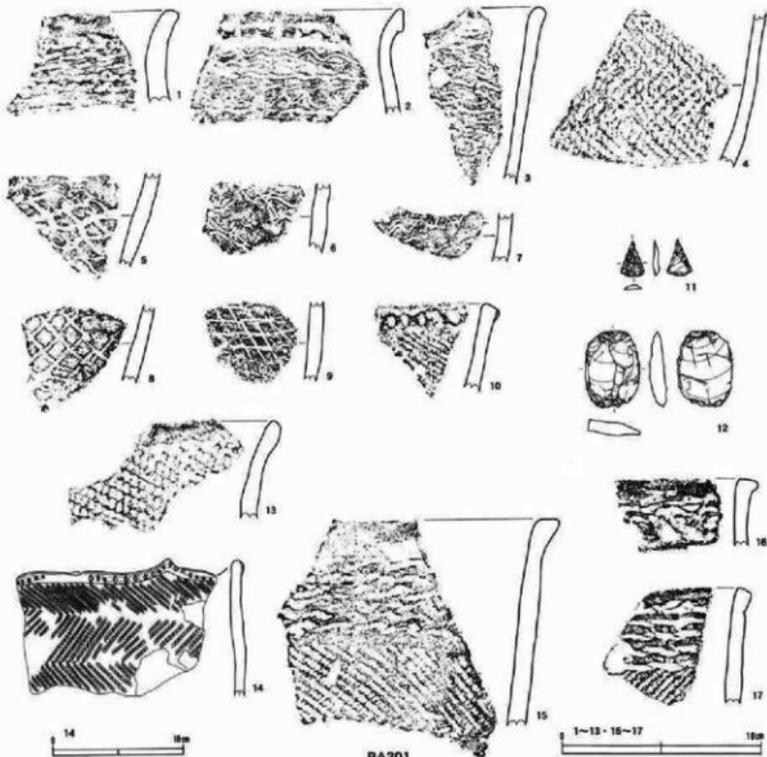
Q-R
 1 10YR4/3 黄褐色 粘まり中、粘性中、炭化物少量混入

S-T
 1 10YR4/4 褐色 粘まり中、粘性中、炭化物少量混入
 2 10YR5/8 黄褐色 粘まり中、粘性中、炭化物少量混入

U-V
 1 10YR4/4 褐色 粘まり中、粘性中、炭化物少量混入
 2 10YR5/6 黄褐色 粘まり中、粘性中
 3 10YR5/9 黄褐色 粘まり中、粘性中、砂礫土
 4 10YR4/4 褐色 粘まり中、粘性中、炭化物少量混入

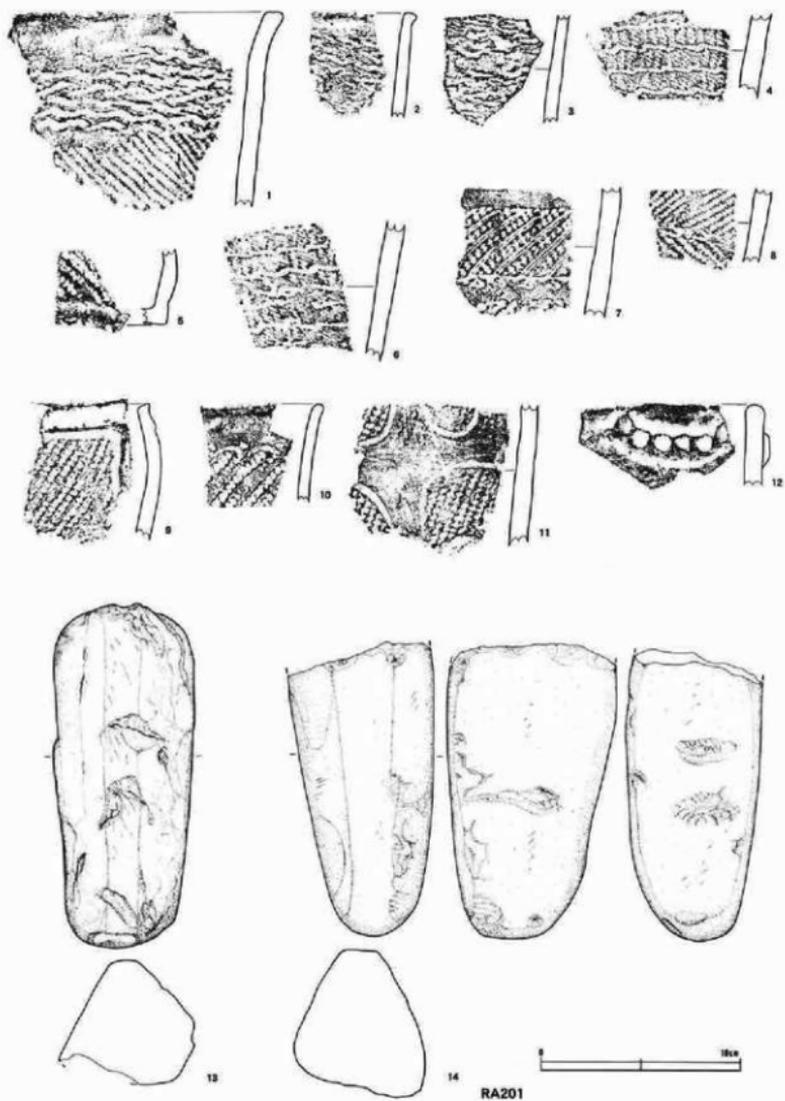
W-X
 1 10YR4/4 褐色 粘まり中、粘性中
 2 10YR5/6 黄褐色 粘まり中、粘性中

Y-Z
 1 10YR5/4 黄褐色 粘まり中、粘性中
 2 10YR5/6 黄褐色 粘まり中、粘性中
 3 10YR5/4 黄褐色 粘まり中、粘性中



RA201

第249图 RA201 (2) 住居跡



第250圖 RA201 (3) 住居跡出土遺物

床面は南側に向かって緩く傾斜している。東側と西側の壁際に壁溝が連続あるいは断続的に走り、50～100cm内側に柱穴状土坑が対になって約2m間隔で配置する。少なくとも二期の建て替えて、古い時期ほど小規模だったようである。北側の壁際から尖頭器5点と石筵1点・磨製石斧1点がまとまって出土している。炉は北側の西寄りと東寄りに長径50～100cmの地床炉が3基ある。焼土の厚さは痕跡程度である。

出土遺物は北壁際から出土した石器群の他に約3.5kgの土器片や石器が得られている。252-1～10は床面から、他は埋土からの上出遺物である。しかし252-16～253-3のように床面に近い埋土下位からの出土品がほとんどである。床面出土の土器は深鉢の破片で、不整燃糸文や羽状縄文・S字状沈文等が施文され、胎土にはセシイが含まれている。床面出土の石器は3点とも磨石で、楕円形の円礫の平たい面に磨面が形成されている。

埋土出土の土器片も深鉢の破片で、不整燃糸文や羽状縄文・網口状燃糸文・S字状沈文等が施文され、胎土にはセシイが混入している。一括出土した石器以外の埋土出土石器は石籐3点と磨石1点である。石籐は3点とも無茎で、二等辺三角形形状をしている。磨石は三角柱状の礫の一端辺に磨面が形成されている。

一括出土した石器は、253-16～254-3の石筵1点・石槍5点・磨製石斧1点の7点である。石槍の1点は破損しているが東西方向に重なって出土している。北側の石匙と石槍に4点の切っ先は東を向き、磨製石斧を含む残る3点の切っ先は西を向いていた。石匙は両側縁両刃加工の槍先形をし、長さ10.3cmである。石槍は長さが21.3cm・17.8cm・17.9cm・18.4cm・16.6cmである。磨製石斧は長さ7.4cmで、刃部に研ぎ減り痕がある。

この遺構の時期は、縄文時代前期前葉で、二次・三次調査で調査されたRA116住居跡と同時期と思われる。

RA203 (図版：254、写真図版：220)

中央付近N14～N15グリッドに位置し、RA199住居跡の床面下に検出された。また南東側はRA198・543住居跡に切られている。そのため西寄りの壁しか残存しない。残存部から平面形は楕円形状で、壁は外傾する。規模は長軸4.8m・短軸3m以上、壁溝は西側で30cmである。埋土は不明。

床面は平坦である。南西壁際に柱穴状土坑が1基検出されている。東側にはRA198住居跡の炉跡らしい石組みがある。

出土遺物はない。

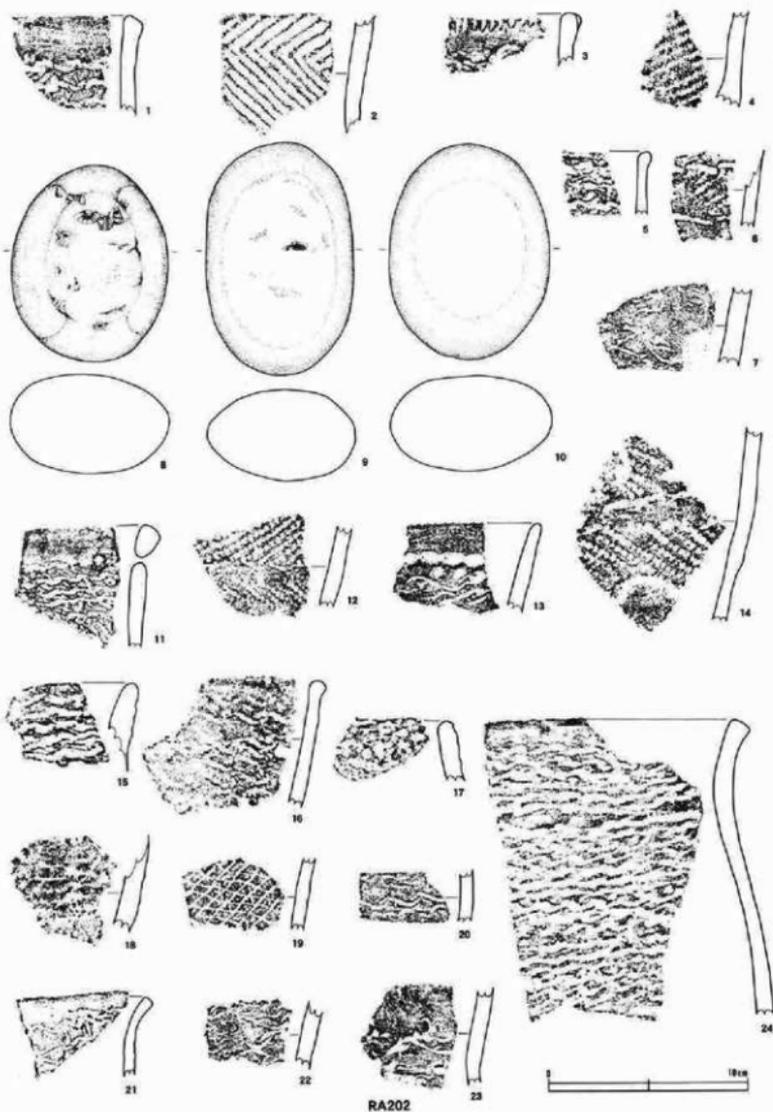
遺構の時期は縄文時代中期と推測されるRA199の下位に検出されていることから、それ以前と思われる。

RA204 (図版：255、写真図版：224・225・310)

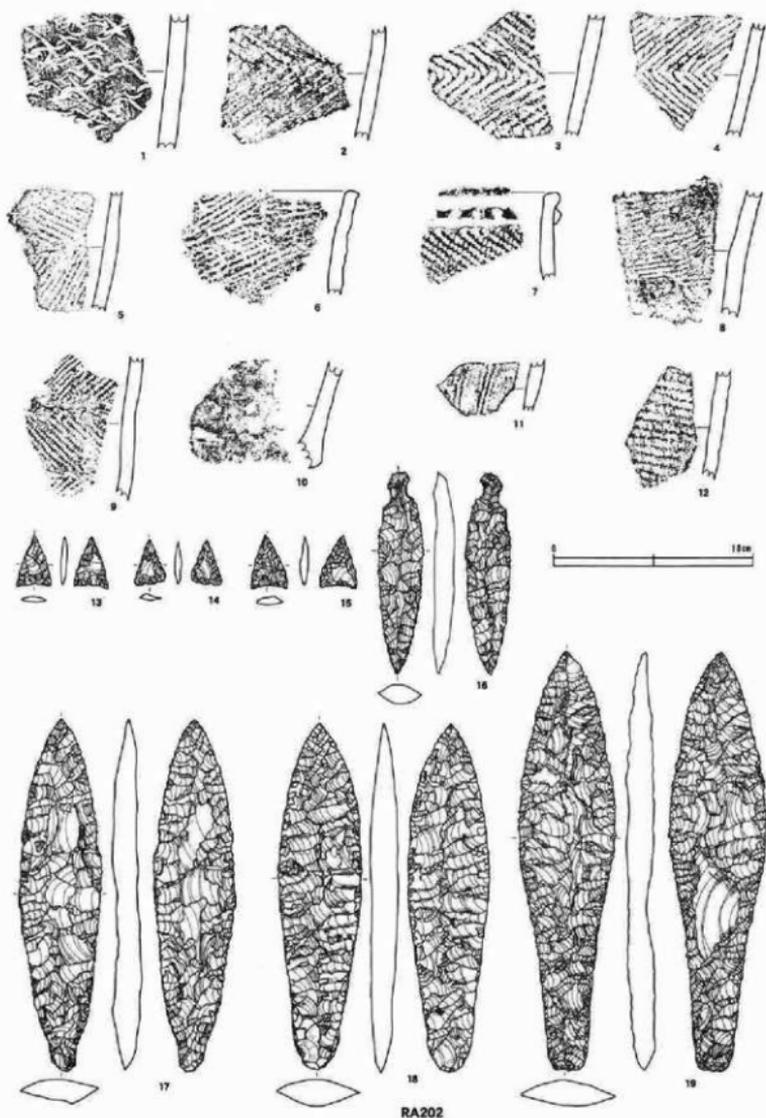
中央付近のM15からN16グリッド付近に位置する。RA208・205住居跡と重複している。新旧関係は(旧) RA208→RA204→RA205(新)となる。重複の影響等で壁や炉が破損を受けている。平面形はほぼ円形状で、壁は外傾して立ち上がる。規模は直径5.2m・壁高20cmである。埋土は主に炭化物の混入する黒褐色土で構成される。

床面は一部に円礫が露出し、やや凹凸がある。東寄りに複式炉があり、壁際には壁高が断続して走る。柱穴状土坑が7基確認されている。柱穴状土坑は中央のpp6と周囲のpp1・pp4・pp5・pp7が主となるようである。

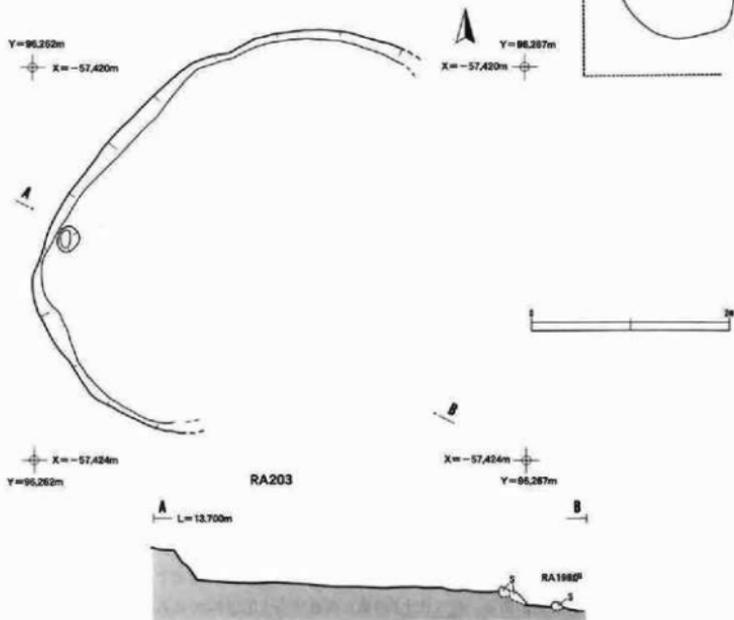
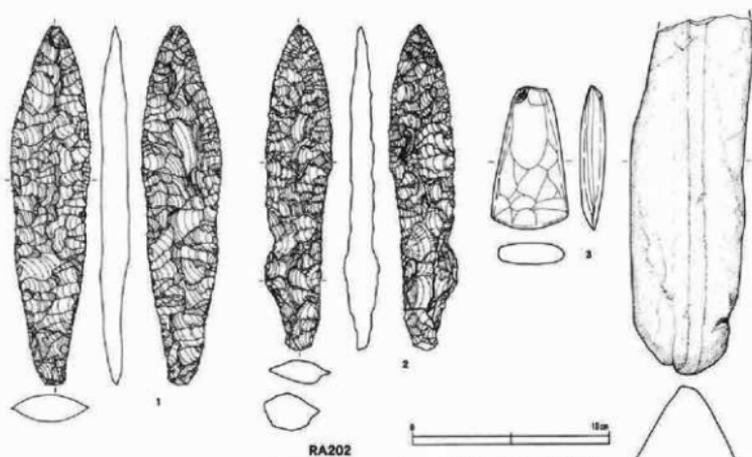
複式炉は石組みの一部と東側の壁際まで広がる前庭部の一部が残る。石組みは角礫を埋設して方形に並べていたようである。内部の焼土は直径30cmの範囲で、最大6cmの厚さで形成されていた。前庭部は長さ1.3m・幅約1mの扇形に広がっていたようであるが、壁まで接続しない可能性がある。東側の壁溝が壁から40～50cm離れて走ることから、この遺構も拡張されている可能性がある。



第252図 RA202 (2) 住居跡出土遺物



第253圖 RA202 (3) 住居跡出土遺物



第254图 RA202 (4)・203住居跡

出土遺物は大木9式期相当をはじめとし、約0.4kgの土器片が得られているとカードにはある。残存する遺物は、255-1・2の前期前葉の上器片と255-3のような中期の土器片である。

この遺構の時期は、復式炉と思われるがの形態から、縄文時代中期後葉と思われる。

RA205 (図版: 256・257, 写真図版: 225・310・311)

中央のM15～N16グリッド付近に位置する。RA208・204住居跡と重複している。新旧関係は(旧)RA208→RA204→RA205(新)となる。重複部分の壁は不明瞭で、東寄りの部分の壁が残存する。平面形は隅丸方形だったようで、壁は外傾して立ち上がる。規模は軸長約4mで、壁は東側で10cmである。埋土は主に鈍い黄褐色土で構成され、締まりは密である。

床面はほぼ平坦で、東寄りに石囲炉、壁際に壁溝が断続して巡る。炉の東側の壁に土坑があり、柱穴状土坑も4基検出されている。西寄りの壁溝は壁の40cmほど内側に箱形に巡り、しかも柱穴状土坑の一部にかかるところから、建て替え等による古い時期の遺構のようである。

柱穴状土坑4基の内pp1・pp2・pp3が主となるようである。規模は開口部径20～30cm・深さ20～40cmである。炉は角機を埋めて50cm×40cmの長方形に組んでいる。焼土は最大4cmの厚さで形成されている。東側の壁際の土坑は直径90cm・深さ10cmほどで浅く炉から連続する前庭部のようにも感じられる。

出土遺物は約6.7kgの土器片や石器5点が得られている。遺物はすべて埋土からの出土である。256-1～257-12のように平行沈線と隆線による渦巻き文や曲線文が主に施文され、棘状の突起も表現されている。また256-1のように立体的な口縁部装飾もある。257-14は平行沈線だけの施文だが、257-13の粗製土器片同様に同時期と思われる。15は前期前葉の深鉢の破片で、胎土にセンイが混入する。257-16は粘土紐を波状に貼り付けた前期中葉の土器片である。17・18は無茎の石鉢、19は縦長の石甕、20・21は磨石である。20は平たい面にだけ磨面が、21は平たい面と側縁に磨面が形成されている。

遺構の時期は炉の形態や出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

RA206 (図版: 258, 写真図版: 226・311)

中央南西寄りのP14グリッドに位置し、RA190住居跡の下位に検出された。北側をRA186住居跡に切られている。平面形は隅丸長方形を呈し、壁は直立気味に外傾する。規模は長軸約4.8m・短軸約3.2m、残存する壁高は20cmほどである。埋土はほとんど残っておらず不明。

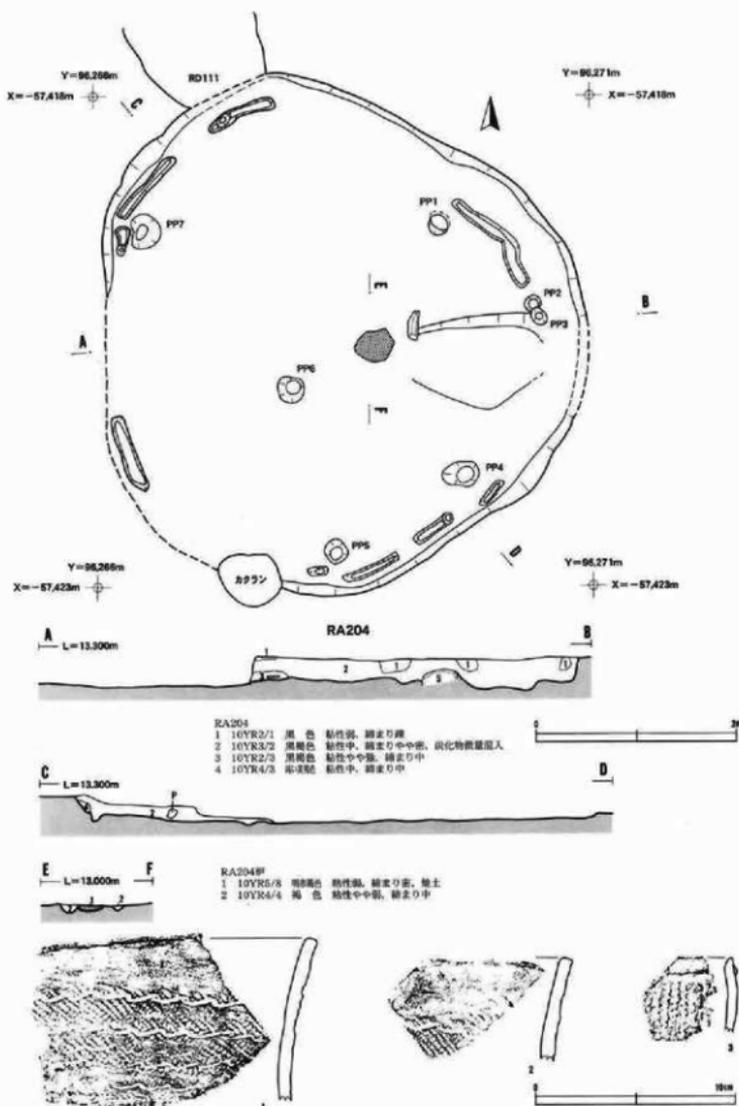
床面は南東側に緩く傾斜し、壁寄りに柱穴状土坑が5基、壁際に杭孔状小土坑が連続して巡る。柱穴状土坑はpp1～pp4が主となるようである。規模は開口部径・深さともに30～40cmである。如はない。

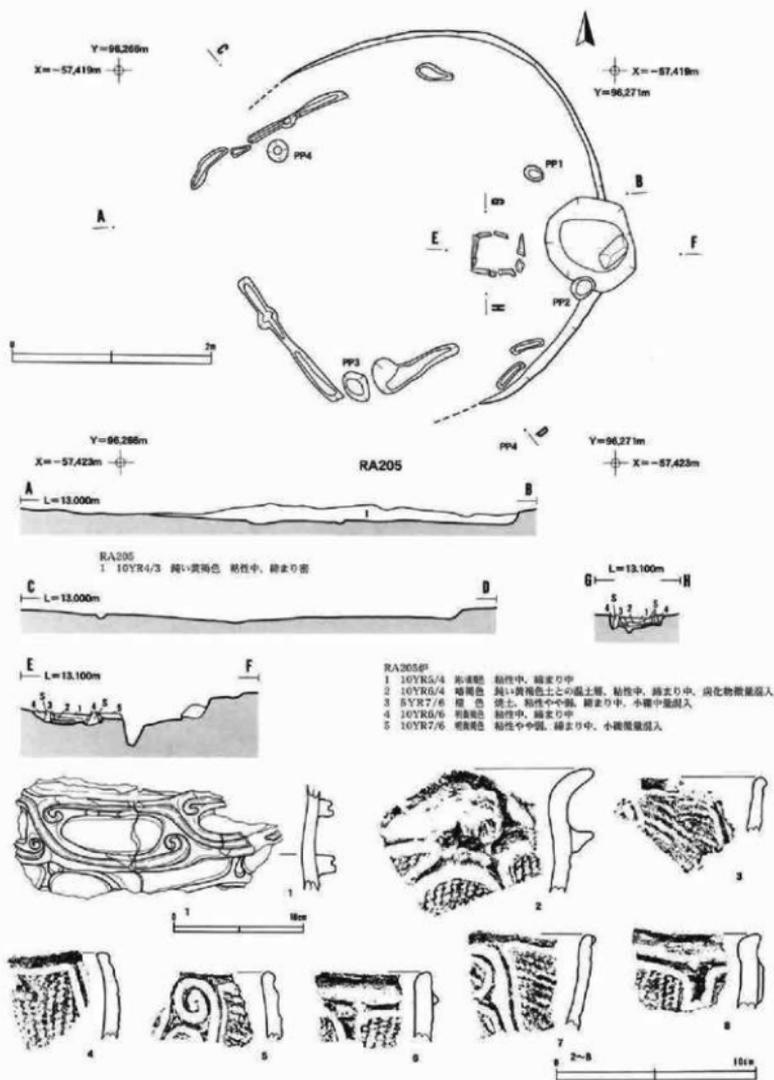
出土遺物は約0.2kgの土器片が得られている。いずれも深鉢の破片で、不整擦糸文や羽状縄文が施文され、胎土にはセンイが混入している。

遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

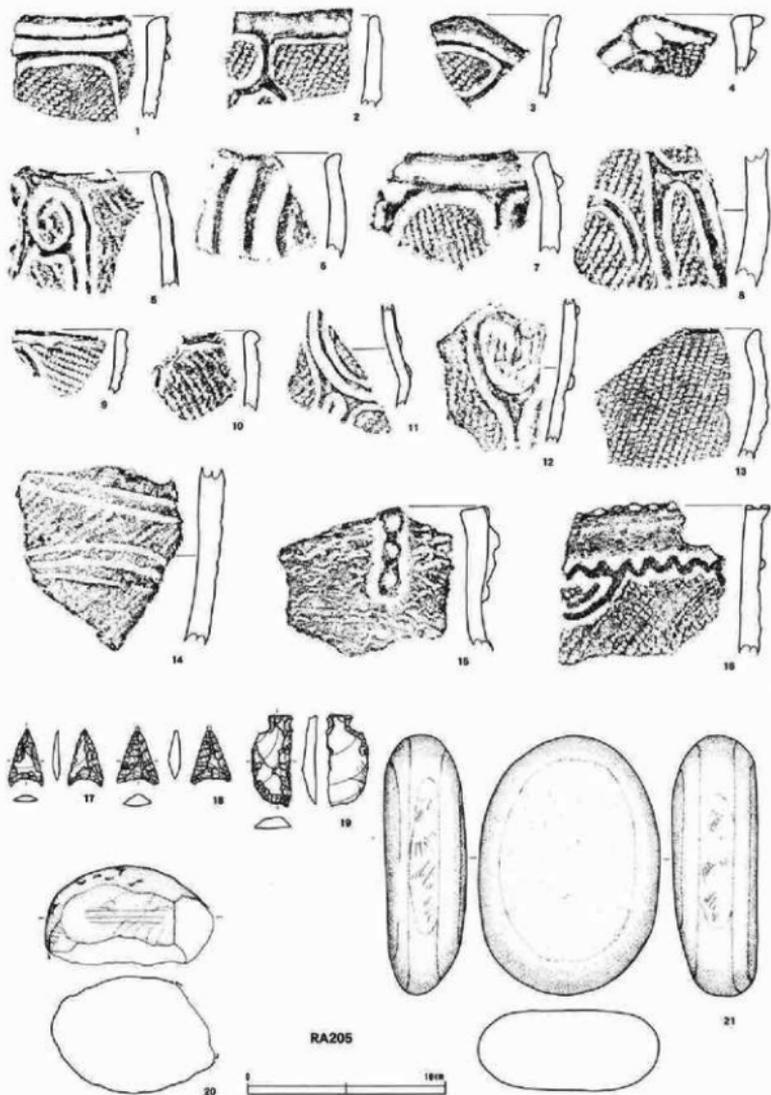
RA207 (図版: 258, 写真図版: 226・227)

南寄りのQ16グリッド付近に位置する。RA539住居跡に北東側をRA535住居跡に南西側を切られている。東側はRA187住居跡に切られている。西側の壁と西から南にかけての壁溝が残る。平面形は楕円形だったと思われ、残存部の壁は外傾する。規模は長軸4.2m・短軸3.4m、壁高30cmほどである。埋土は不明。床面は平坦で、北東寄りに石囲炉がある。柱穴状土坑4基と杭孔状小土坑が約20基ある。柱穴状土坑のうち

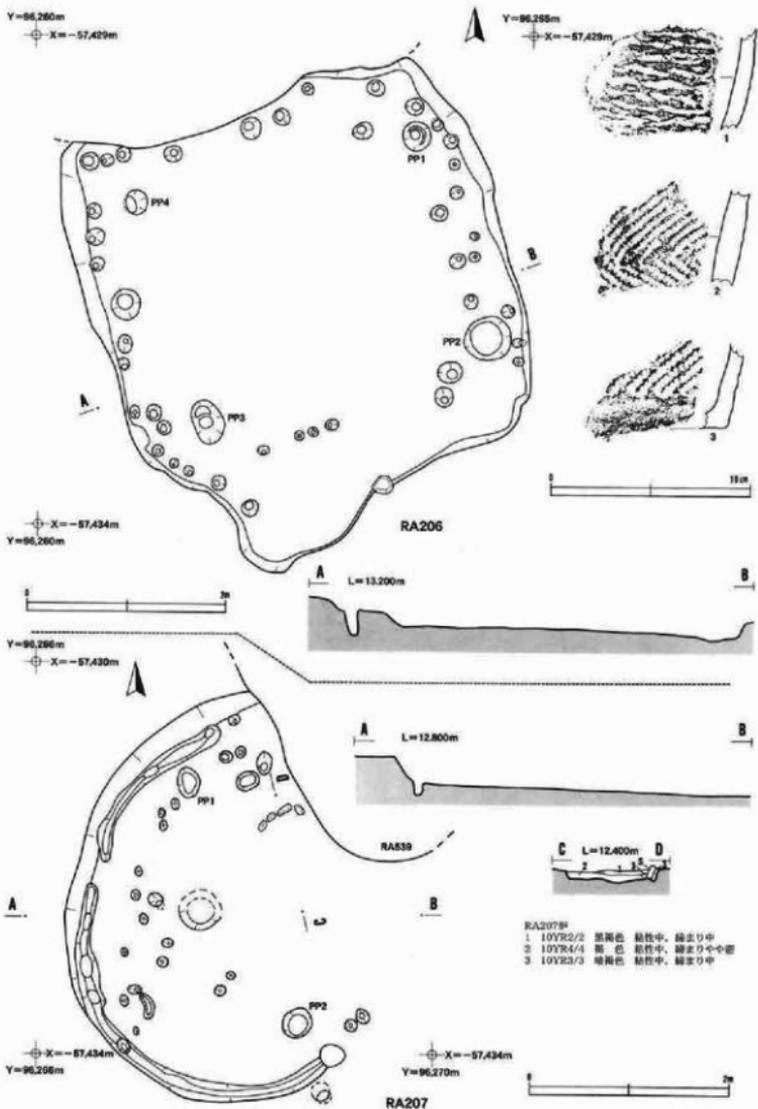




第256図 RA205 (1) 住居跡



第257圖 RA205 (2) 住居跡出土遺物



第258図 RA206・207住居跡

pp1とpp2が対になるようである。開口部径25cm・深さ40cmほどである。杭孔状小土坑は南側と北側に方形状に巡るようなので、重複する別遺構のものと思われる。

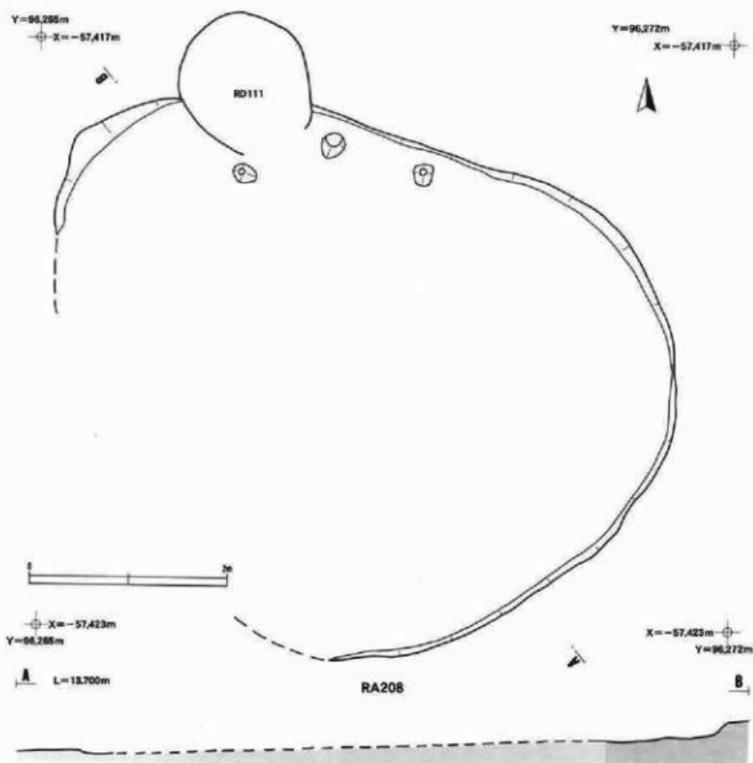
石囲炉は北側部分しか残っていない。浅い土坑を掘り込んで角礫を長方形に配置していたようである。残存部の長軸約50cmである。焼けた痕跡は少なく、焼土も残存しない。

出土遺物は無い。

遺構の時期は弥生時代のRA187住居跡に切られていることから、それ以前で縄文時代中期頃と思われる。

RA208 (図版：259, 写真図版：224)

中央のM15～N16グリッドに位置する。RA208・204・205住居跡と重複している。新旧関係は(旧)RA208→RA204→RA205(新)となる。また北側壁をRD111土坑に切られている。残存部から平面形は楕円形状で、壁は外傾して立ち上がる。規模は長軸6.5m・短軸5.5m、壁高は10～20cmである。埋土は不明。床面は重複により凹凸があるが、本来は平坦だったようである。北側に柱穴状土坑が3基確認されている



第259図 RA208住居跡

が、対応するものは検出されていない。炉は検出されていない。

出土遺物はない。

遺構の時期は重複遺構のRA204・205が縄文中期なので、それ以前と思われる。

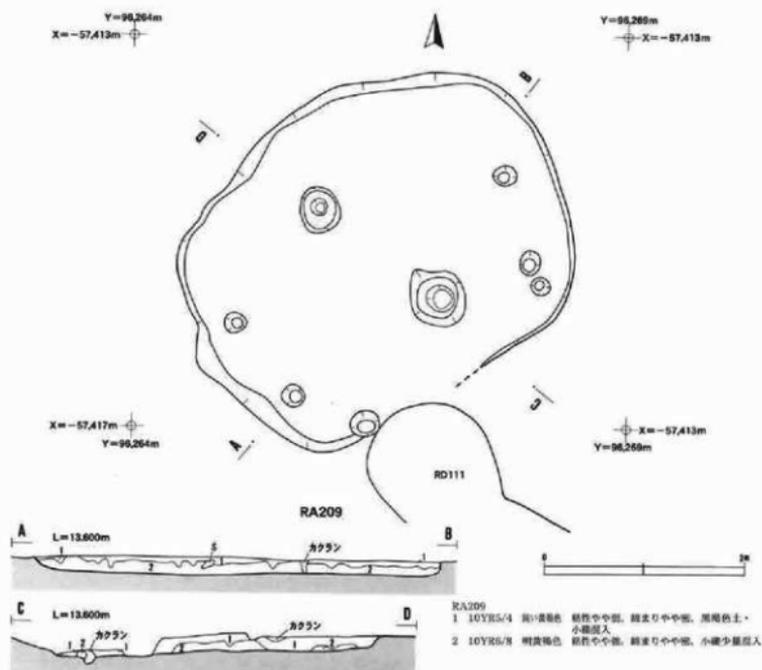
RA209 (図版：260, 写真図版：227・228)

やや北寄りのL15グリッド付近に位置している。北西をRA537住居跡に北側をRA200住居跡に切られている。南東側の壁の一部は欠損するが、平面形は隅丸長方形形状を呈する。壁は直立ないしは外傾する。規模は長軸約4.2m・短軸3.2m、壁高10~20cmである。埋土は上位が鈍い黄褐色土、下位が明黄褐色土とともに小礫を混入する。

床面はほぼ平坦で中央寄りに2基、壁寄りに6基の柱穴状土坑がある。中央寄りの2基は開口部径50~60cmと広いが深さ20cmと浅く、壁際は開口部径20cm・深さ20cmほどである。炉はない。

出土遺物はない。

遺構の時期は、縄文時代中期と推測されるRA200住居跡に切られていることからそれ以前と考えられる。炉がないことや埋土に砂礫が混入していることなどから前期の可能性もある。



第260図 RA209住居跡

RA210 (図版：261・262, 写真図版：228・312)

中央やや西寄りのO14→P14グリッドに位置する。RA186・190・206住居跡の下位にあり、それらの住居跡に切られている。南端の壁は欠損するが、平面形は南側がやや広がる長方形形状を呈し、残存する壁は直立気味である。規模は長軸約7.5m・短軸4.5m、壁高は15～20cmである。

床面は平坦であるが、他の遺構に切られ壁際に段差が見られる。中央付近に巨礫が露出し、その両側に地床跡らしい焼土が2カ所ある。壁寄りには杭孔状土坑が巡るが、その外側で10cmほどの段差となるので、内側に新しい時期の住居跡があったようである。その遺構の規模は長軸約6m・短軸約4mである。また床面は、全体として南に向かって緩く傾斜する。

地床が状の焼土は長径約50cmの楕円形状に広がるが、厚さは痕跡程度である。

出土遺物は約2kgの土器片と石鏃1点が得られている。すべて埋土からの出土で、土器片は深鉢の破片である。口縁部は平口縁と波状口縁があり、不整燃系文や羽状縄文・S字状沈文が施文され、胎土にはセインが混入する。石鏃は無茎で二等辺三角形形状を呈している。

この遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

RA211 (図版：262・263, 写真図版：229・230・312)

南端付近のR16→S17グリッドに位置している。RA540・541・542住居跡の下位に位置している。北寄りにはRD112土坑に切られている。また東側でRA214住居跡を切っている。南側は調査区外に続く。平面形は長方形形状を呈し、壁は直立気味である。規模は長軸11m以上・短軸約4mで、ロングハウスと呼ばれる大型住居跡となる。壁高は20～30cmである。埋土は鈍い黄褐色土を主として、黄褐色土や黄褐色土が混入する。

床面はほぼ平坦で、壁溝が巡り、柱穴状土坑が中央と両壁寄りに直線状に検出されている。柱穴状土坑は開口部径20～40cm・深さ20～30cmで、一部複数個並列することや、南東側の壁溝が二重になることから、建て替えの可能性もある。また壁溝の底部にも杭孔状の小土坑が連続するところもある。

炉かどうか不明だが北寄りに長径60cmほどの焼土の広がりがあるが、柱穴状土坑に切られている。

出土遺物は約0.1kgの土器片が得られている。遺物は埋土下位からの出土で、深鉢の破片である。不整燃系文や羽状縄文等が施文され、粘土緋の貼り付けや押しながされているものもある。

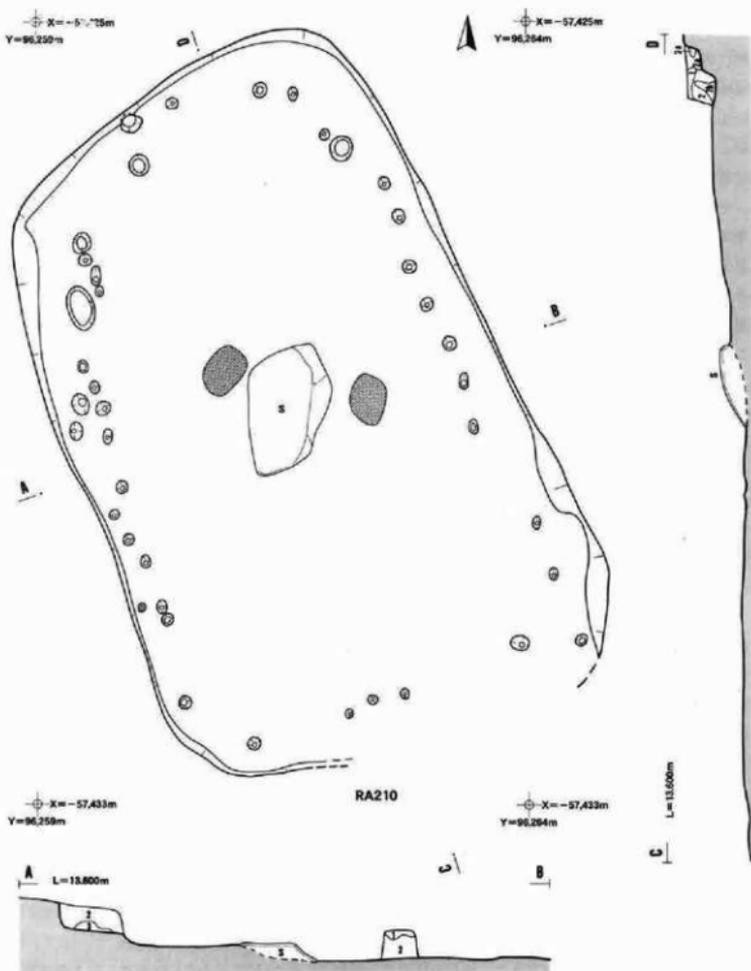
遺構の時期は、埋土に土和出中飯火山灰が堆積することや出土遺物から、前期初頭から前葉にかけての時期と思われる。

RA214 (図版：264, 写真図版：230・312)

南寄りのQ17グリッドに位置する。西側のRA187やRA541住居跡に切られている。杭孔状の小土坑列が2列検出され、後に内側の小土坑列の下位に壁溝状の溝が1条検出されている。埋土断面には壁は検出されないが、二つの柱穴列の間に5cmほどの段差がある。そのため二時期の遺構の重複と思われる。二時期とも隅丸長方形形状を呈していたようで、規模は長軸7.5m以上と思われる。

柱穴列付近の床面はほぼ平坦である。内側の柱穴列と西側のRA211住居跡の間に半月状の焼土の痕跡が2カ所残り、外側の柱穴列に伴う地床跡の可能性もある。これら三時期の住居跡は古い方から、壁溝の時期→外側の柱穴列→内側の柱穴列となり、それらをRA211住居跡が切っているということになるようである。

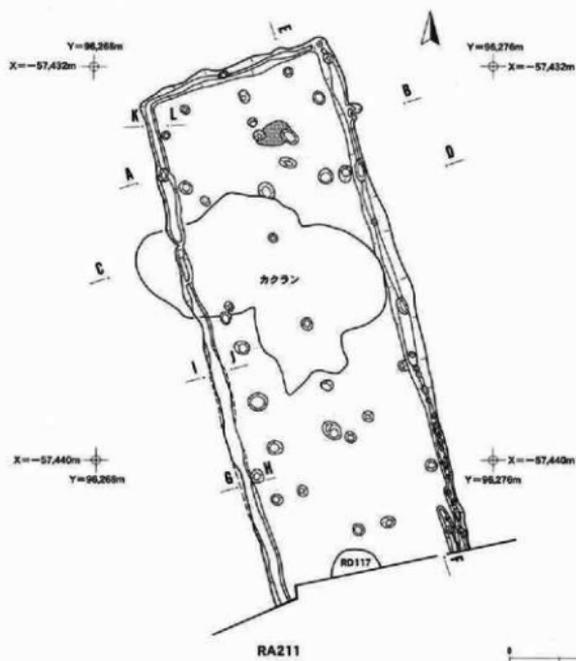
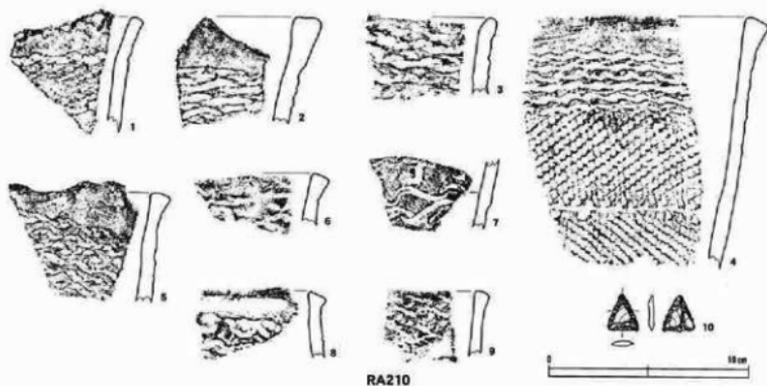
出土遺物は約0.4kgの土器片が得られている。遺物は深鉢の破片で、斜縄文や不整燃系文が施文されている。胎土にはセインが混入している。



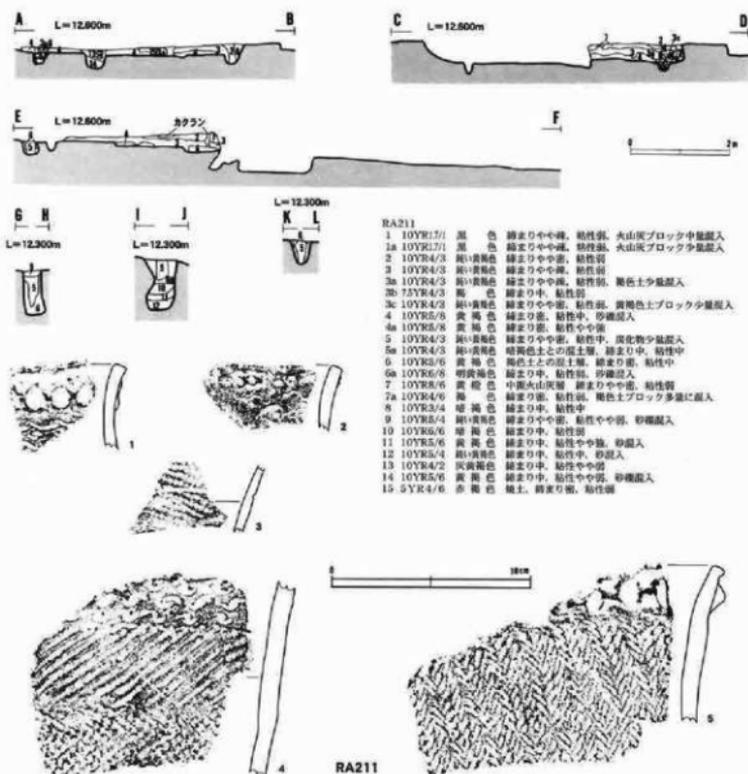
- RA210
- 1 10YR3/3 暗褐色 粘性弱、結成り中
 - 2 10YR4/2 灰褐色 粘性弱、結成り中、灰?少混入
 - 2a 10YR4/4 褐色 粘性弱、結成り弱
 - 2b 10YR5/5 黄褐色 粘性弱、結成り中程度、炭化物混入
 - 3 10YR5/6 黄褐色 粘性弱、結成り中程度、砂混入
 - 3a 10YR4/6 褐色 粘性中、結成り中



第261図 RA210 (1) 住居跡



第262図 RA210 (2)・211 (1) 住居跡



第263図 RA211 (2) 住居跡

この遺構の時期は、胎土に十和田中振火山灰が混入することや出土遺物からRA211住居跡同様縄文時代前期初頭から前葉と思われる。

RA215 (図版: 265・266, 写真図版: 231・312)

北寄りのJ14グリッドに位置し、V層で検出した。重複はない。焼失家屋である。平面形はほぼ楕円形状を呈し、壁は直立ないしは外傾して立ち上がる。規模は長軸3.5m・短軸3.2mで、壁高は20~40cmである。埋土は主に黄褐色土や明黄褐色土で構成されるが、焼失家屋で、多量の炭化物が混入する。

床面はほぼ平坦で中央から南東壁にかけて複式炉が作られている。また、中央に1基と壁際に斜めに掘り

込まれた柱穴状土坑6基が検出されている。柱穴状土坑はいずれも開口部径・深さとも20～25cmである。柱痕跡は残存しない。

複式炉は2つの石組み炉と前底部からなっていたようだが、石組み炉の1つは石が抜かれている。角礫を浅く埋め込んで、60cm×50cmと50cm×60cmの2つの長方形の石組みの連なりとしていたようだが、後者の石は抜き取られている。前底部は床面から約10cm掘り込まれて、石の抜かれた石組みから壁まで扇形に広がる。焼土の形成は痕跡程度である。

出土遺物は木大8b式期～9式期相当の土器など約1.3kgの土器片が得られている。266-1・2は床面出土の遺物で、深鉢の破片である。沈線と磨削によるO字状の施文がなされている。木大9式期に相当する。

遺構の時期は炉の形態や出土遺物から縄文時代中期後葉と思われる。

壁内に柱穴を有する住居の例として、零石町熊野橋遺跡の縄文時代後期初頭の竪穴状遺構がある。柱穴は細く、住居中心上方に向かうように傾斜しており、垂木状のもので書き下ろされていた可能性が高い。当遺構も同様と思われるが、pp5と擾乱部分にあったと思われる柱穴状土坑がほぼ直立しており、出入口状施設を形成していたと思われる（千葉）。

RA216（図版：266，写真図版：232・312）

中央西寄りのO14～R15グリッドに位置する。大小複数の住居跡が重複している部分に検出されている。縄文時代の遺構では上位に検出されているが、壁側の杭孔状小土坑列のみの検出で、壁や炉は検出されていない。長軸の両端付近では柱穴列が数列になり、数時間の建て替えも予測される。RA186・218・222住居跡が拡張された可能性もある。平面形は長方形を呈していたようで、ロングハウスと呼ばれる大型住居跡だったようである。規模は長軸約14m・短軸6.5mほどである。

出土遺物は約0.1kgの土器片が得られている。遺物は深鉢の破片で、不整然糸文や羽状縄文が施文され、胎土にセイが混入している。

遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

RA217（図版：267，写真図版：232・233・312）

南端のS14グリッドに位置し、RA189住居跡の下位に検出された。平面形は隅丸の長方形を呈し、壁は直立気味である。規模は長軸4.8m・短軸3.8mほどで壁高は西側で60cmほどである。埋土は主に褐色土で構成され、花崗岩風化礫が混入する。

床面はほぼ平坦で、中央付近に柱穴状土坑が1基、壁際に杭孔状の小土坑が連続して巡る。柱穴状土坑は開口部径25cm・深さ70cmほどある。炉はない。

出土遺物は約0.8kgの土器片が得られている。遺物はすべて埋土の出土で、深鉢の破片である。不整然糸文や網目状燃糸文・羽状縄文が施文され、胎土にはセイが混入する。

この遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

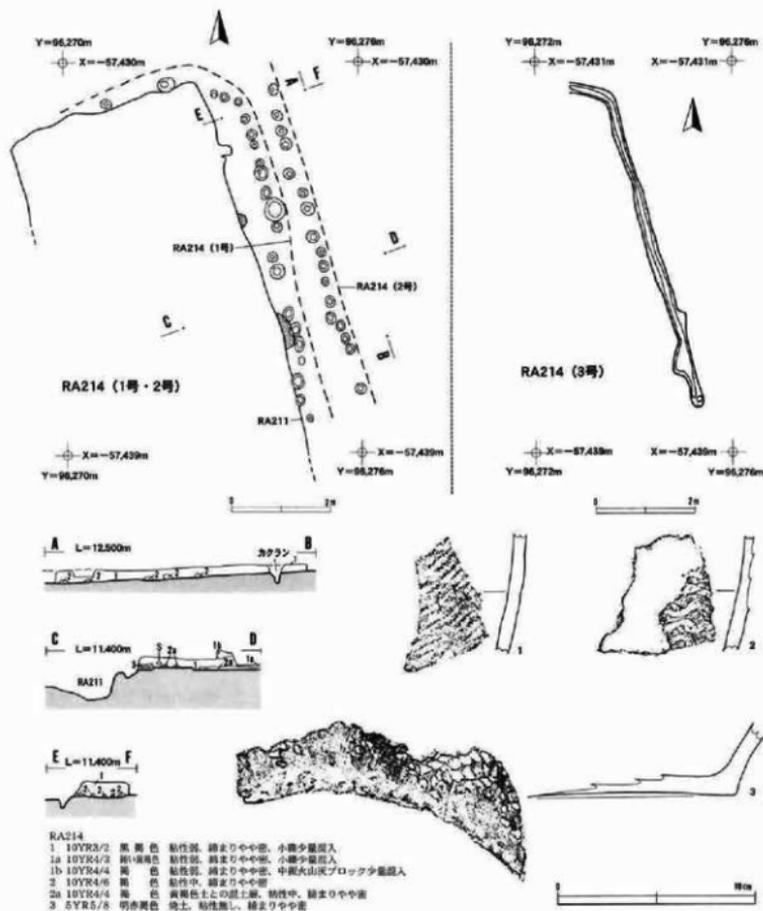
RA218（図版：268，写真図版：233）

南西寄りのR14グリッドに位置する。RA206住居跡の下位に検出されたようだ。壁はなく杭孔状の小土坑列のみの検出である。対応する小土坑列は検出されず、形状は不明である。北側の4基の土坑群と南側の6基の土坑群で分かれる可能性もあるが、調査者は連続した一つの遺構に伴うものとしている。両端の小土

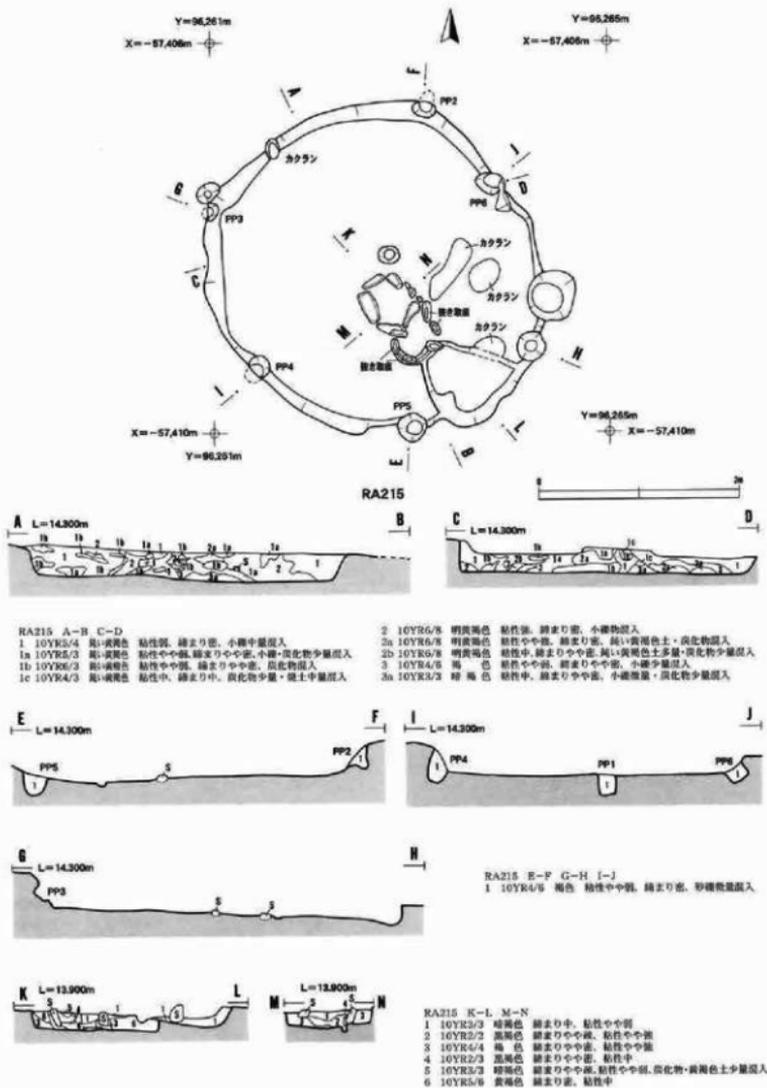
坑間の距離は3.5mである。また、柱穴列の周辺はほぼ平坦である。

出土遺物はない。

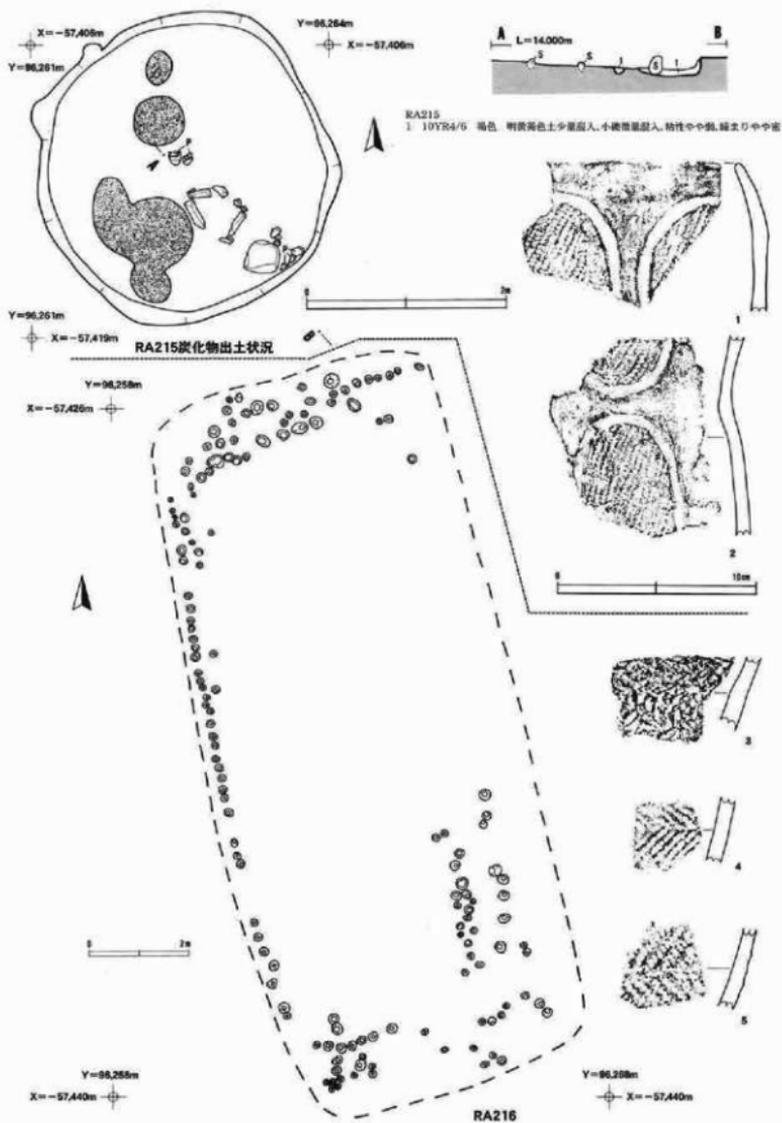
遺構の時期は、検出層位や壁際の柱穴列から縄文時代前期前葉の可能性が高い。



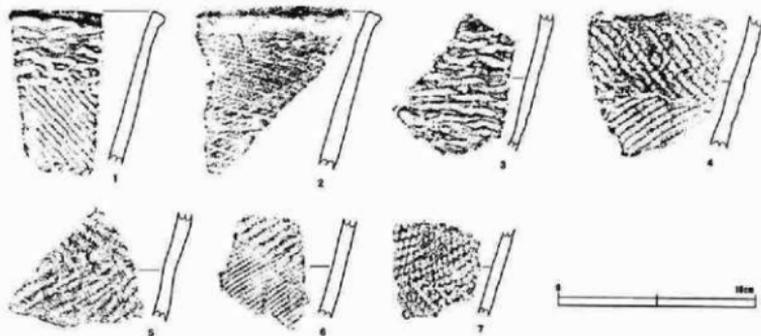
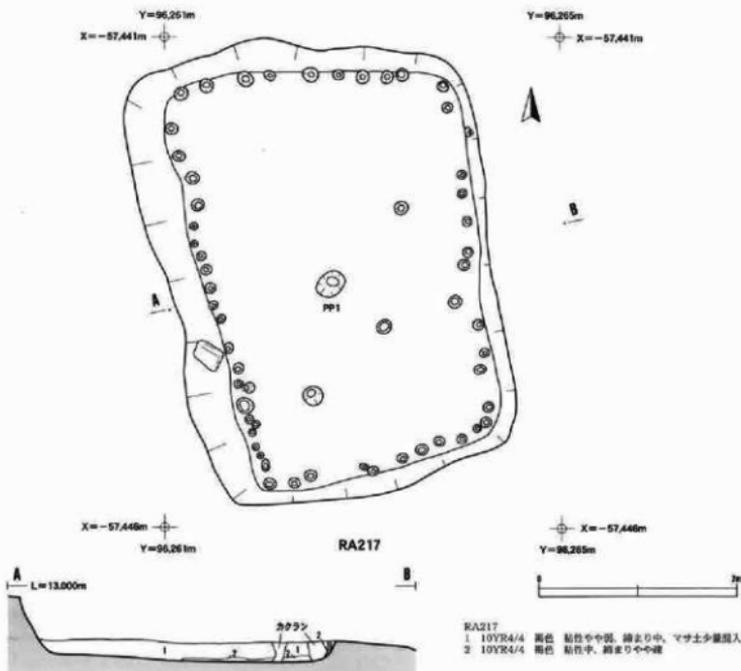
第264図 RA214住居跡



第265図 RA215 (1) 住居跡



第266図 RA215 (2)・216住居跡



第267図 RA217住居跡

RA219 (図版: 268, 写真図版: 232・313)

南西寄りのO14～P15グリッドに位置し、RA186・190・206・210住居跡の下位から検出された。柱穴状土坑のみの検出である。ほぼ南北に2列に配置し、長軸の両端は不明だが7m以上あり、短軸は柱穴列間には約4m、推定壁まで5.5mほどと思われる。いわゆるロングハウスと呼ばれる大型住居跡となると思われる。この付近の住居跡の新旧関係は以下になるようである。(旧) RA219→RA218→RA210→RA206→RA190→RA186・RA218・RA222→RA216 (新)

床面の状況や炉については不明である。

出土遺物は柱穴状土坑から約1kgの上器片や石筴1点が得られている。縄文土器片は深鉢の破片で、不整燃糸文が施文され、胎土にセシを混入する。石匙は縦長で、片刃状の刃部加工がなされている。

遺構の時期は縄文時代前期初頭～前葉と思われる。

RA220 (図版: 268, 写真図版: 234)

北西寄りのK13グリッド付近に位置し、RA202住居跡の下位に検出された。杭孔状の土坑列のみの検出である。平面形は長方形を呈していたと思われる。規模は長軸3.3m・短軸1.5m以上である。

床面付近はほぼ平坦である。中央付近には柱穴状土坑の一部が残る。規模は開口部径25cm・深さ20cmほどである。炉は検出されていない。

出土遺物はない。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉のRA202の床面から検出されていることから、それ以前と思われる。

RA221 (図版: 269, 写真図版: 234)

西寄りのM13グリッドに位置し、RA178・197・202住居跡の下位に検出されたようだ。小土坑群の検出である。柱穴状土坑がほぼ中央にあり、その周囲を杭孔状あるいは柱穴状小土坑が長方形に巡るように配置している。規模は長軸約3m・短軸約2.6mである。中央の柱穴状土坑は開口部径30cm・深さ10cmと浅い。

床面はほぼ平坦である。炉は検出されていない。

出土遺物は無い。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉の住居跡の下位から検出されていることから、それ以前と思われる。

RA222 (図版: 269, 写真図版: 235)

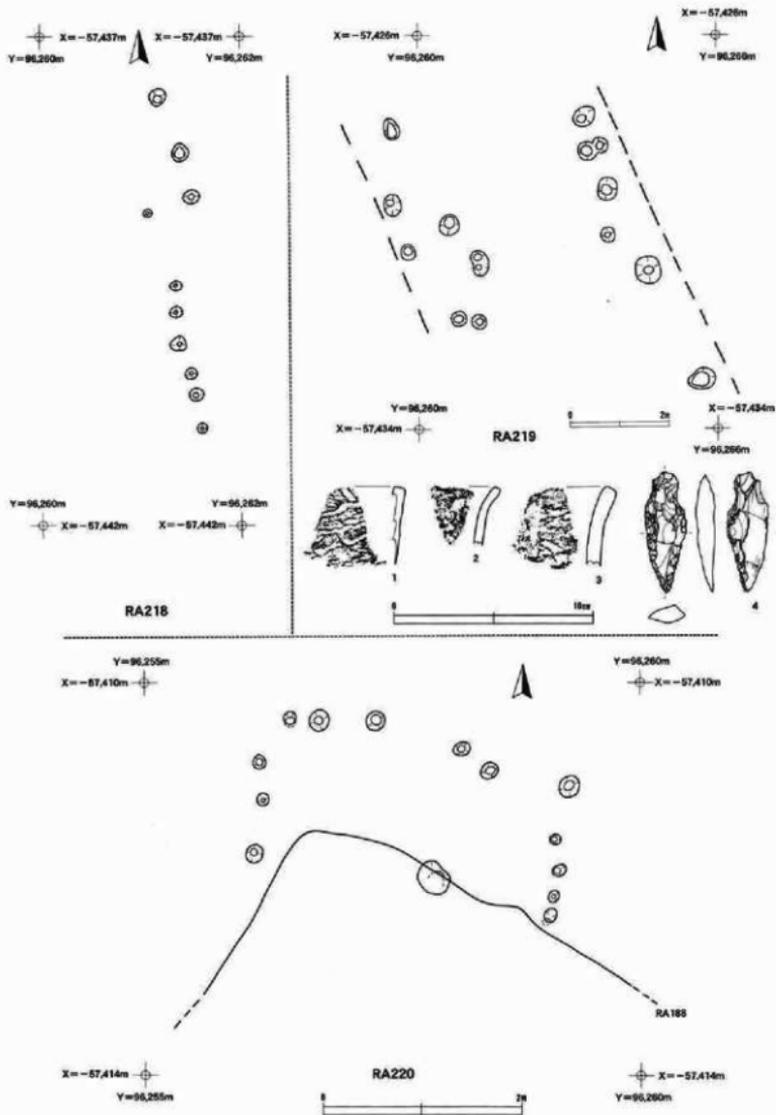
南西寄りのP14グリッド付近に位置し、RA190住居跡の下位に検出されたようである。杭孔状小土坑あるいは柱穴状の小土坑群のみの検出である。規模は主柱穴として対応するようなものはないが、全体として長方形に配列する。南東側は2列になるようである。規模は長軸5m以上・短軸3.5mほどと思われる。柱穴群の周辺はほぼ平坦である。

出土遺物はないようである。

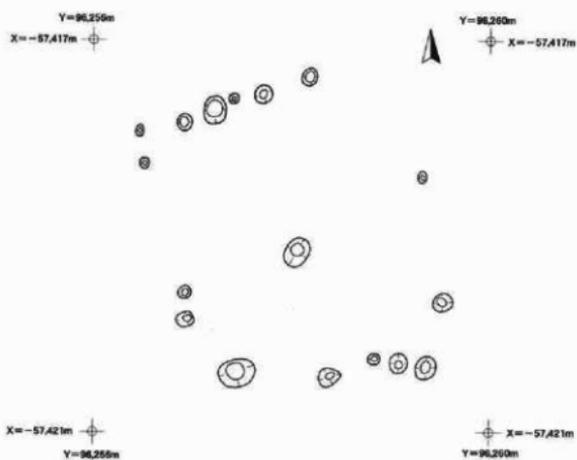
遺構の時期は、縄文時代前期前葉の住居跡の下位から検出されていることから、それ以前と思われる。

RA223 (図版: 270, 写真図版: 235・313)

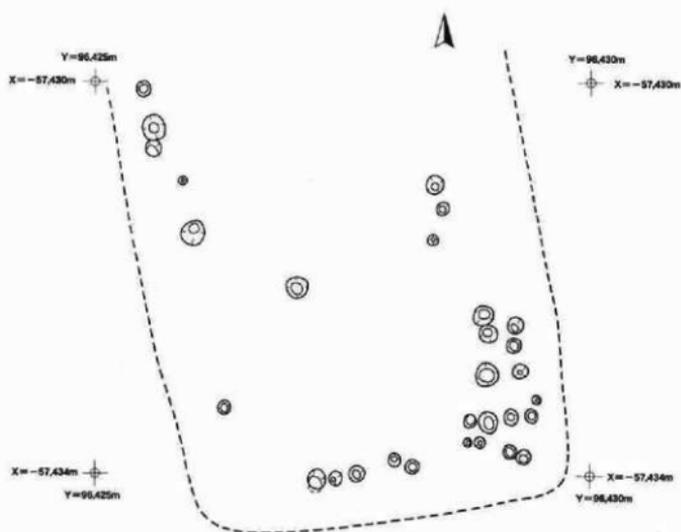
北西寄りのL12～L13グリッド付近に位置する。南側をRA197住居跡に、西側や中央の一部をRA202住居跡やRB01建物跡に切られている。北東側の壁や床は不明瞭である。平面形は南側がやや広い隅丸長方形



第268図 RA218~220住居跡



RA221



RA222



第269图 RA221・222住居跡

状と思われる。壁は外傾して立ち上がる。規模は長軸・短軸ともに6m以上のものである。埋土は不明。

床面は南東側に緩く傾斜する。壁際とその内側に壁溝が系統的に二重に巡るので建て替えが行われたようである。柱穴や炉跡は検出されていない。

出土遺物は埋土から少量の土器片が得られている。深鉢の破片で、不整縞系文や斜縄文が施文され、胎土にセシイが混入している。

この遺構の時期は縄文時代前期初頭から前葉と思われる。

RA224 (図版: 271, 写真図版: 236・313)

南端のR18グリッド付近に位置し、V層上面にて検出した。RA211やRA540住居跡の東側に検出され、同住居跡に切られている。北東側の壁しか残っていない。平面形は隅丸長方形状になるようである。壁は外傾する。規模は長軸・短軸ともに3m以上あり、東側壁高は10cmほどである。埋土は上位が鈍い黄褐色土、下位が褐色土で構成されている。

床面はほぼ平坦なようで、中央寄りに柱穴状土坑が3基、壁際に杭孔状小土坑が連続して巡る。柱穴状土坑は開口部径25cm・深さ10cmほどで浅い。炉は検出されていない。

出土遺物は埋土から石匙1点が得られている。破損品であるが、縦長で両側縁刃加工である。

遺構の時期は、検出面から縄文時代前期前葉と推定されている。

RA225 (図版: 271, 写真図版: 237)

南端のT13グリッドに位置する。RA170・172住居跡に切られている。南側は調査区外に続く。残存部から平面形は円形状ないしは隅丸形状を呈していたと思われる。壁は直立気味である。規模は直径あるいは長軸約3.2mで、残存する壁高は15cmほどである。埋土は主に黒褐色土で構成され、小礫を少量含む。

床面はほぼ平坦で、中央付近に2基と壁際に連続して巡る杭孔状小土坑がある。炉は検出されていない。

出土遺物はない。

遺構の時期は、検出面や形状から縄文時代前期前葉と思われる。

RA226 (図版: 272, 写真図版: 238)

南東寄りのP17グリッドに位置し、RA214住居跡の東側に検出された柱穴群の一部である。北西と南東に対応するように柱穴状あるいは杭孔状の小土坑が配置する。西側はRA214住居跡の柱穴列と重複する可能性もあるが、長方形の配置となる。一部二重に配列するところもあるので二時期の可能性もある。外側の小土坑列の規模は長軸約5m・短軸約3mである。小土坑の大きさは開口部径15~30cm・深さ10~30cmである。

小土坑群の間はわりと平坦である。炉は検出されていない。

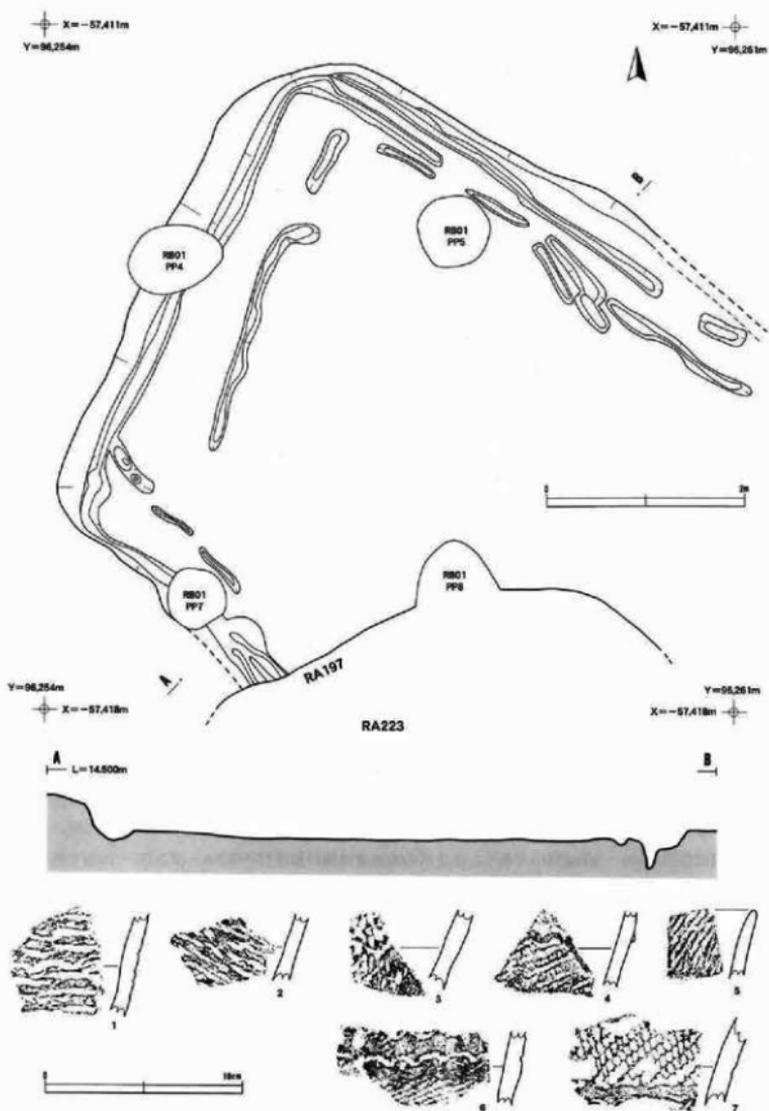
出土遺物はない。

遺構の時期は、検出層位から縄文時代前期前葉と思われる。

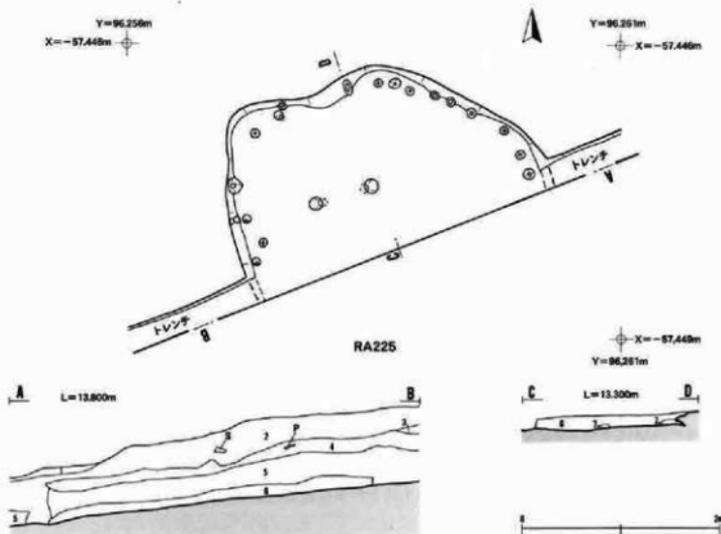
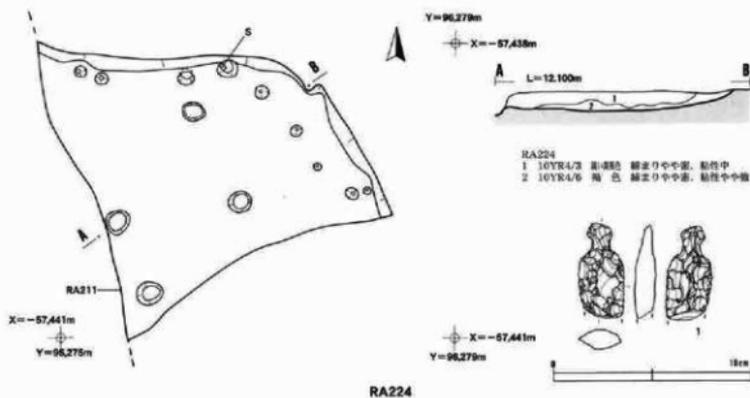
土坑

RD81 (図版: 272, 写真図版: 238)

南寄りのS15グリッドに位置し、II層下部で検出した。RA216住居跡を切っているようである。平面形は円形状で、壁は直立気味である。規模は開口部径約70cm・底部径55cm・深さ25cmである。埋土は上位が



第270图 RA223住居跡



- RA225
- 1 10YR4/4 褐色 粘在中, 締まり中, 明黄褐色土多量混入
 - 2 10YR3/2 黄褐色 粘在中や中密, 締まり中, 黄褐色土・中密少量混入
 - 3 10YR2/1 赤色 粘在中, 締まり中, 灰白色の硬土ブロック多量混入
 - 4 10YR3/2 黄褐色 粘在中, 締まりや中密, 小礫少量混入
 - 5 10YR3/1 黄褐色 粘在中, 締まり中, 小礫中量混入
 - 6 10YR3/4 黄褐色 粘在中, 締まり中, 黄褐色土・小礫少量混入
 - 7 10YR5/6 黄褐色 粘在中や中密, 締まりや中密

第271図 RA224・225住居跡

黒色土、下位が黒褐色土で構成される。底面は平坦である。

出土遺物は、埋土から縄文時代前期・中期の土器が得られているとカードにある。しかし整理時には行方不明になっている。

遺構の時期は、縄文時代中期と思われる。

RD82 (図版: 272, 写真図版: 238・313)

南端よりのS15グリッドに位置し、Ⅱ層下部で検出された。RD81土坑の南1mの所にある。RA175住居跡の北壁を切っている。平面形はほぼ円形で、壁は内湾気味に外傾して立ち上がる。規模は開口部径約1.2m・底部径1m、深さ20cmである。埋土は主に黒褐色土で構成され、締まりは密である。底面は平坦である。

出土遺物は、埋土から縄文時代前期と中期の土器片数点と石器1点が得られている。272-1は胎土にセシイの混入する前期の土器片、2は中期の土器片である。3は土器片を加工した円盤状土製品である。4は無茎の石鏃で二等辺三角形を呈する。

この遺構の時期は、縄文時代中期と思われる。

RD87 (図版: 273, 写真図版: 239)

南寄りのP16グリッド付近に位置し、Ⅱ層下部で検出した。RA539住居跡が上位に重複する。平面形は円形状を呈し、壁は外傾する。規模は開口部径約90cm、底部径約70cm、深さ30cmである。埋土は黒褐色土や暗褐色土で構成される。底面は丸底風である。

出土遺物はない。

遺構の時期は、縄文時代に属すると思われる。

RD104 (図版: 273, 写真図版: 239)

西寄りのP13グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。平面形は円形状を呈し、壁は上位が外傾し、下位は直立する。規模は開口部径1.7m・底部径0.9m・深さ90cm前後である。埋土は上位が暗褐色土、下位が黄褐色土を主に構成される。底部は中央が少しくぼむ丸底風である。

出土遺物はない。

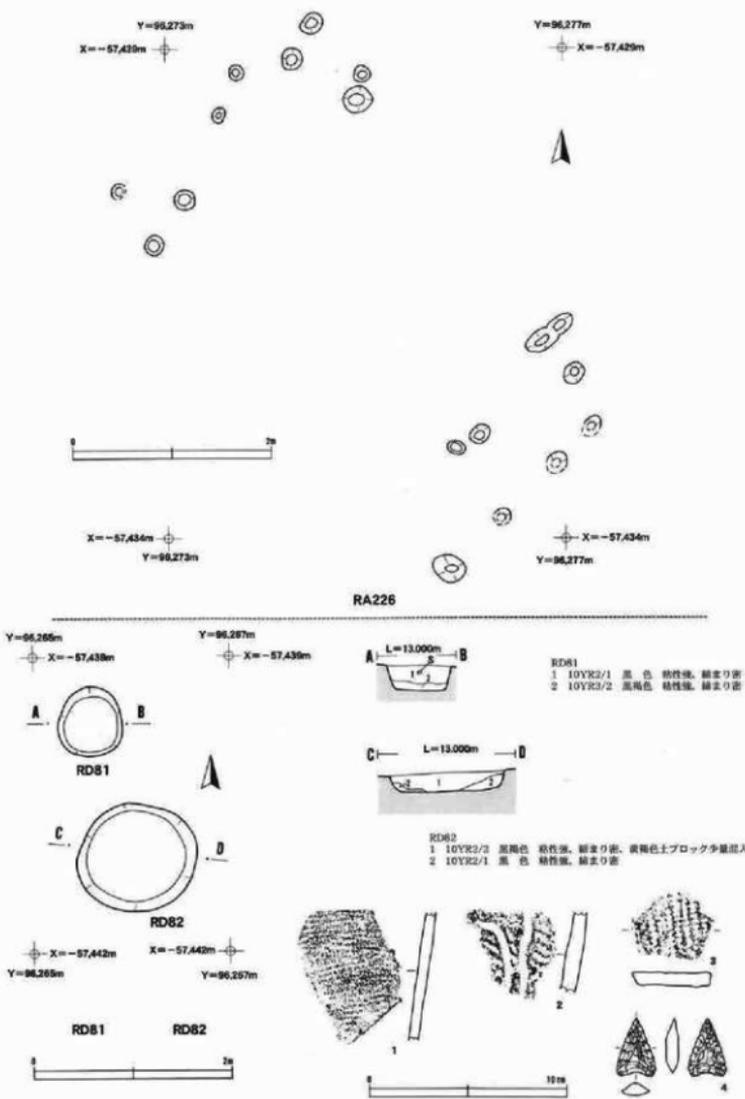
この遺構の時期は、検出面から縄文時代と思われる。

RD111 (図版: 273, 写真図版: 239・313)

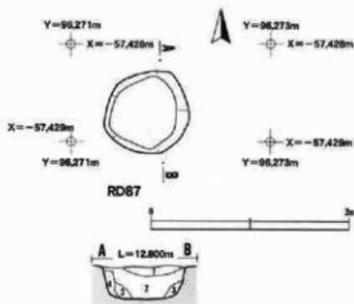
や北寄りのM15グリッドに位置し、Ⅲ層中で検出された。RA204・208住居跡の精査中に確認されたので、それらの遺構の下位になる。平面形は楕円形状で、壁はほぼ直立する。規模は開口部で1.55m×1.4m、底部で1.2m×1.1m、深さ20cmである。埋土は上位から黒褐色土・暗褐色土・褐色土で構成される。底面は緩く起伏する。

出土遺物は、埋土から土器片が数点出土している。273-1は胎土にセシイが混入する前期前葉の土器片である。273-3は細い平行沈線による鋸歯状の施文がなされ、前期後葉のようである。273-2・4・5は平行沈線と隆線や磨消帯で施文され、中期中葉から後葉のものである。

この遺構の時期は、縄文時代中期中葉頃と思われる。

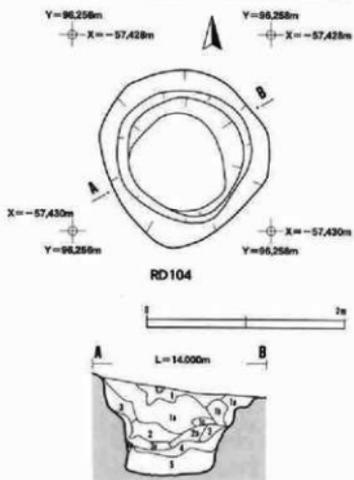


第272図 RA226住居跡、RD81・82土坑



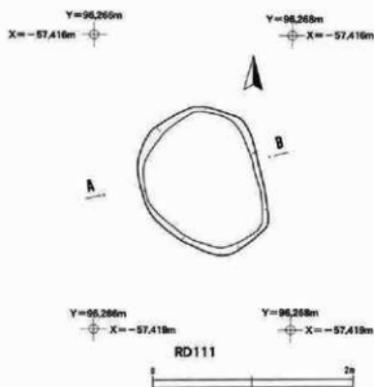
RD87

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性やや強、締まりやや強
- 2 10YR2/1 黒褐色 粘性やや強、締まりやや強
- 3 10YR3/3 暗褐色 粘性やや強、締まり中、黄褐色土ブロック・小礫混入
- 4 10YR3/4 暗褐色 粘性やや強、締まり中、炭化物少量混入



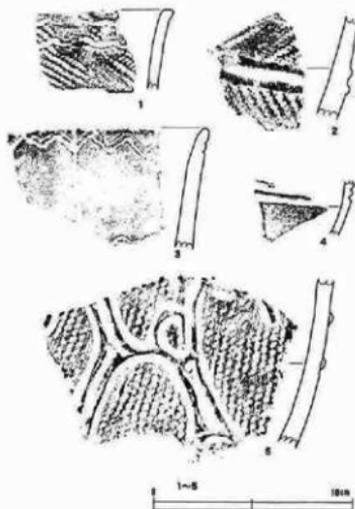
RD104

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性强、締まりやや強
- 1a 10YR3/3 暗褐色 粘性强、締まりやや強、炭化物微量混入
- 1b 10YR2/3 黒褐色 粘性强、締まりやや強
- 1c 10YR5/6 黄褐色 軽い黄褐色土との混土層、粘性やや強、締まり弱、炭化物微量混入
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘性强、締まりやや強
- 2a 10YR3/3 暗褐色 粘性强、締まりやや強
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘性中、締まり弱
- 3a 10YR5/6 黄褐色 粘性强やや強、締まりやや強
- 4 10YR5/4 黄褐色 粘性中、締まりやや強
- 4a 10YR5/4 黄褐色 黄褐色土との混土層、粘性强、締まりやや強
- 5 10YR6/1 黄褐色 粘性强、締まりやや強



RD111

- 1 10YR2/2 黒褐色 締まり中、粘性やや強
- 2 10YR3/3 暗褐色 締まりやや強、粘性强
- 3 10YR4/4 褐色 締まりやや強、粘性中



第273図 RD87・104・111土坑

RD112 (図版: 274, 写真図版: 239・313)

南寄りのQ16～R17グリッド付近に位置し、V層付近で検出された。RA540・187住居跡に切られている。不定形の土坑の連続する土取り穴で、範囲は5m×4.5m・深さ40cmである。埋土は褐色土が混じる暗褐色土で構成される。V層の黄褐色土を採掘したらしく、一部に巨岩が露出している。

出土遺物は埋土から数点の土器片が得られている。不整楕円文やS字状沈文が施文され、胎土にはセンイが混入している。

この遺構の時期は、縄文時代前期前葉の可能性がある。

RD113 (図版: 274, 写真図版: 240・313)

西寄りのO13グリッドに位置し、V層で検出された。平面形は円形状、断面形はほぼ筒状である。規模は開口部径80cm・底部径65cm・深さ約40cmである。埋土は暗褐色土や褐色土・黄褐色土からなり、下位ほど締まりは密である。底面は中央付近がややくぼむ丸底風である。

出土遺物は埋土から縄文土器片が少量出土している。中期の粗製土器の破片である。

遺構の時期は縄文時代と思われる。

RD114 (図版: 275, 写真図版: 240)

南東寄りのP17グリッドに位置し、III層にて検出された。平面形は円形状を呈し、壁は底に向かって窄まる。規模は開口部径1m・底部径85cm・深さ20cmである。埋土は暗褐色土や鈍い黄褐色土で構成される。

底面は不規則な凹凸がある。

出土遺物はない。

この遺構の時期は、縄文時代と思われるが詳細は不明である。

RD115 (図版: 275, 写真図版: 240・313)

南東寄りのP18グリッドに位置する。北側開口部付近に小土坑があるが、平面形はほぼ円形で、壁は底部に向かって少し窄まる。規模は開口部径90cm・底部径70cm・深さ30cmである。埋土は上位～中位が暗褐色土、下位が褐色土で構成される。底面は緩い凹凸がある。

出土遺物は縄文土器片が数点出土している。平行沈線と隆線による文様施文で、中期中葉に属している。

この遺構の時期は、縄文時代中期中葉の可能性がある。

RD116 (図版: 275, 写真図版: 240)

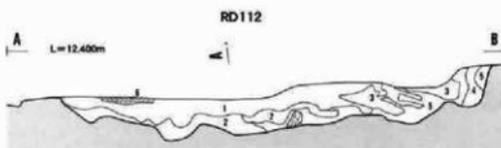
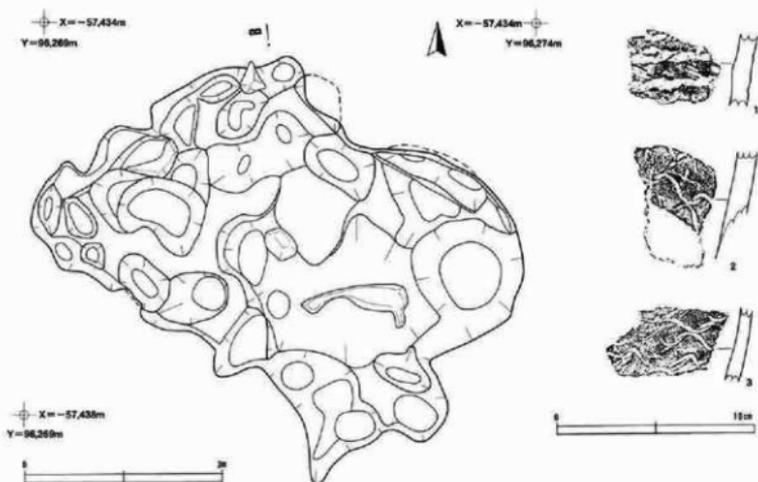
東寄りのO17グリッドに位置し、III層上面で検出された。弥生時代のRA174住居跡の南に接する。平面形はほぼ円形、壁は底部に向かって窄まる形状を呈する。規模は開口部径1.3m・底部径65cm・深さ75cmである。埋土は主に黒褐色土で構成され、黄褐色土のブロックも混入する。底面はほぼ平坦であるが巨岩が露出する。

出土遺物はない。

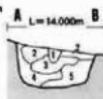
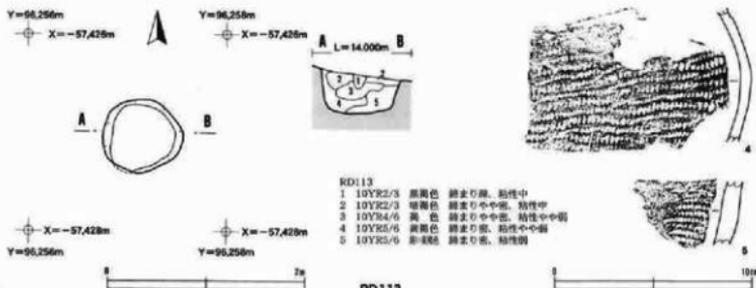
この遺構の時期は、縄文時代と思われるが詳細は不明である。

RD117 (図版: 275, 写真図版: 241・313)

南端のS17グリッドに位置し、RA542住居跡の下位に検出された。南側は調査区外に続くが、平面形は



- RD112
- 1 10YR2/3 暗褐色 締まり中、粘性中、褐色土ブロック散見混入
 - 2 10YR4/4 暗色 暗褐色土との混土层、締まりやや弱、粘性中
 - 3 10YR2/1 藍色 締まり中、粘性やや強
 - 4 10YR4/4 褐色 締まりやや強、粘性やや弱
 - 5 10YR6/3 赤褐色 締まりやや弱、粘性中



- RD113
- 1 10YR2/3 暗褐色 締まり強、粘性中
 - 2 10YR2/3 暗褐色 締まりやや弱、粘性中
 - 3 10YR4/6 黄色 締まりやや弱、粘性やや弱
 - 4 10YR2/6 黄褐色 締まり強、粘性やや弱
 - 5 10YR2/6 黄褐色 締まり強、粘性弱

第274図 RD112・113土坑

円形状を呈し、断面は底部付近が広がる袋状を呈している。規模は開口部径90cm・底部径110cm・深さ50cmである。埋土は主に暗褐色土であるが上位に中礫火山灰のブロックが混入する。底面はほぼ平坦である。

出土遺物は、埋土から数点の土器片が得られている。沈線と磨消帯でO字状に施文された中期後葉の上器片である。

遺構の時期は、縄文時代中期後葉と思われる。

RD119 (図版: 275, 写真図版: 241・313)

北端に近いJ15~J16グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。平面形は楕円形状で、壁は南東側で階段状になるが、外傾ないしは外反する。規模は開口部で長軸1m・短軸80cm、底部で長軸75cm・短軸55cm、深さ40cmである。埋土は上位が明黄褐色土、下位が明赤褐色土で構成される。底面は階段状になる。

出土遺物は埋土から縄文中期や弥生時代の上器片が得られている。275-2は弥生前期の高坏の破片と思われる。

この遺構の時期は、縄文時代中期頃と思われる。

柱穴群

R16~S16柱穴群 (図版: 276)

南寄りのR16~S16グリッドに検出された柱穴状土坑群である。検出層位は不明であるが、結果として柱穴状土坑と杭孔状小土坑が多数配置しており、竪穴住居跡の可能性が高い。柱穴状土坑の規模は開口部径20cm前後・深さ20~30cm、杭孔状土坑は開口部径10cm以下・深さ10~15cmである。

出土遺物はない。

遺構の時期は、縄文時代の可能性が高いが詳細は不明である。

O16~P18柱穴群 (図版: 276)

東寄りのO16~P18グリッドに検出された柱穴状土坑群である。検出層位は不明であるが、結果として竪穴住居跡の可能性のある柱穴状土坑群である。開口部径20~30cm・深さ25~35cmである。

出土遺物はない。

遺構の時期は、縄文時代の可能性が高いが詳細は不明である。

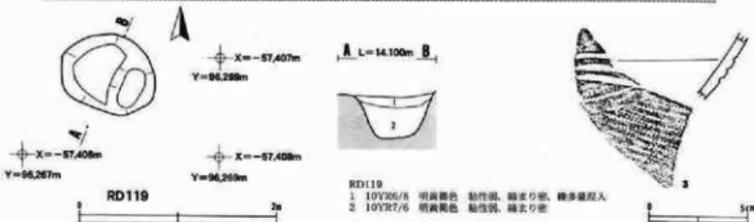
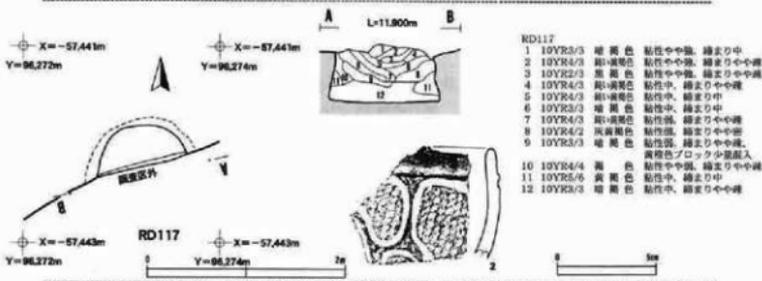
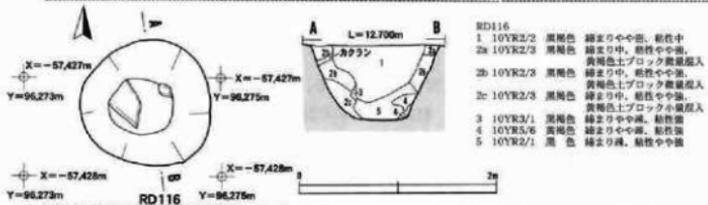
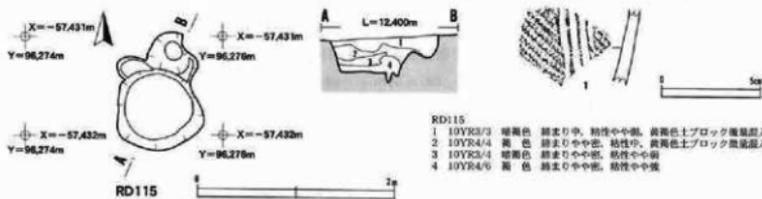
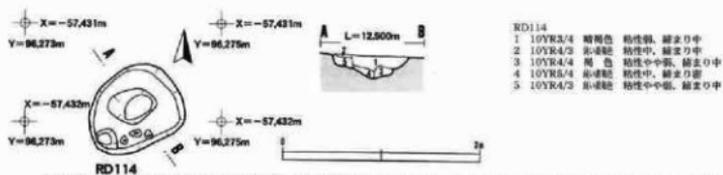
(2) 弥生時代

竪穴住居跡

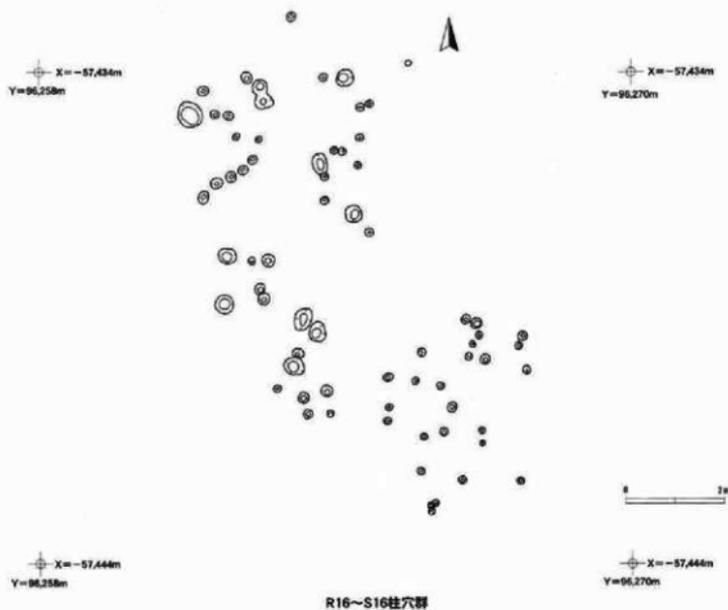
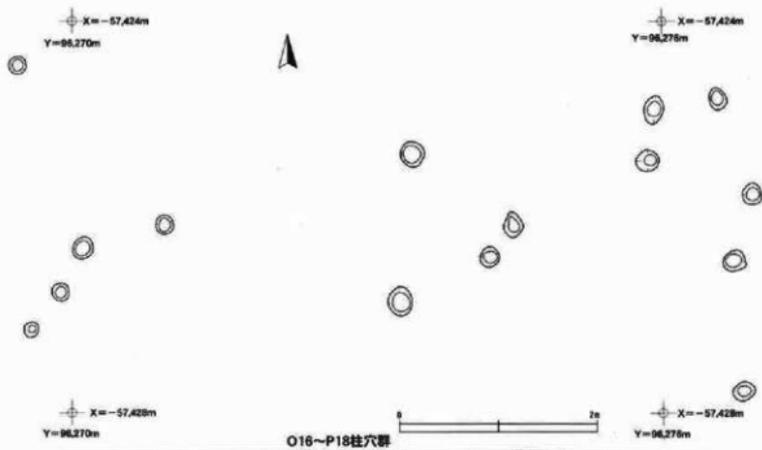
RA174 (図版: 277~279, 写真図版: 242・314・315)

中央東寄りのN17グリッド付近に位置し、Ⅱ層中~下位で検出された柱穴群を除いて、重複遺構はないようである。平面形は楕円形状を呈し、壁は直立気味である。規模は長軸約6m・短軸約4.2mで、壁高は10~25cmである。埋土は主に黒色土で構成され褐色土ブロックや炭化物を少量混入している。

床面は南東に緩やかに傾斜する。中央に石囲炉があり、その周囲や壁際に柱穴状土坑が十数基検出されている。また北東寄りには礫が露出している。北西側は長さ2.3m・最大幅0.4m・段差10cmほどの欄状の施



第275図 RD114~117・119土坑



第276图 O16~P18·R16~S16柱穴群

設が見られる。柱状土坑は開口部径20~40cm・深さ20cmほどで、いずれも浅い。

石囲炉は角礫を並べて70cm×60cmの長方形に組んでおり、その周囲にも径1mほどの範囲で焼上りが広がる。炉内の焼土の厚さは最大5cmである。また南壁際に長径40cm・厚さは痕跡程度の焼土の広がりがある。

出土遺物は約5.4kgの上器片が得られている。弥生時代前期の砂沢式に相当する深鉢や高環の破片が多く、やや幅の狭い平行沈線による文様が施文されている。中には幅広の平行沈線による施文もある。また縄文中期の土器片も少量混入している。

この遺構の時期は、弥生時代前期と思われる。

RA177 (図版: 280・281, 写真図版: 243・315・316)

北西寄りのL13グリッドに位置し、Ⅱ層下面で検出された。RB01建物跡の柱穴に炉の南側を切られている。東側には古代のRA537住居跡、南には縄文時代のRA178・179住居跡がある。壁や床は確認できなかった。そのため平面形や規模は不明である。

炉は角礫を並べて直径70cm前後に組まれていたようである。焼土の厚さは最大5cmである。pp1~pp4が主となる柱状土坑と思われる。それらの規模は開口部径20~40cm・深さ20~40cmである。

遺物は大木3~4式土器や弥生時代の土器片が8.3kg得られているとカードにはある。埋土からの出土のようである。280 1・2は弥生上器で3~8はその破片である。1は垂、2は高環と思われる。2やほかの破片には平行沈線による上字文的施文がなされている。地文の縄文もやや細かく、縮まった感じがする。281-1・2は前期前葉の深鉢の破片で、不整態糸文が施文され、胎土にセシイが混入する。281 3~5は中期前葉~後葉の深鉢破片で、平行沈線と隆線による曲線や棘状の施文がなされている。

遺構の時期は、検出層位や伴出遺物から弥生時代の可能性が高い。

RA178 (図版: 281, 写真図版: 243)

西寄りのM13グリッドに位置し、Ⅱ層下部で検出した。南側でRA179住居跡と重複するようだが、両者とも平面形規模は不明瞭で、前後関係は不明である。下位には縄文時代のRA197やRA223住居跡がある。地床かと思われる焼土と柱状土坑のみの検出である。そのため平面形や規模は不明である。

焼土の広がりには直径35cmほどで、厚さは最大5cmである。主となる柱穴はpp1~pp4の4つで、規模は開口部径20~30cm・深さ25cmほどである。

出土遺物は、弥生土器片など約1.7kgが得られているとカードにはある。しかし整理時には確認できなかった。

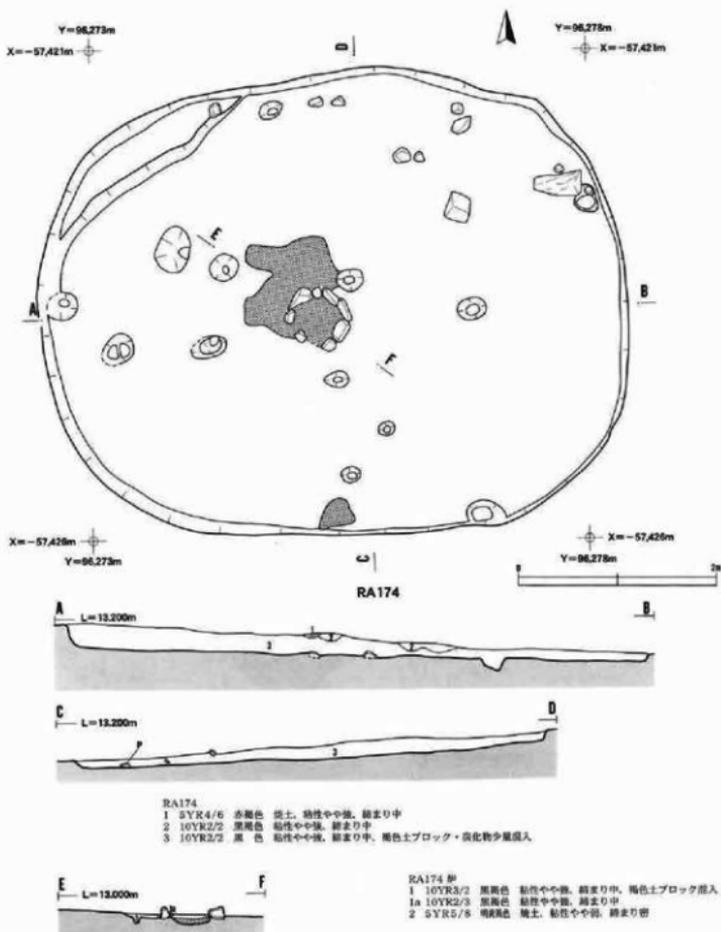
遺構の時期は検出層位から弥生時代と推測される。

RA179 (図版: 281, 写真図版: 243)

中央付近のM14~N14グリッドに位置し、RA177・178住居跡の南側に、両住居跡と同様に検出した。RD100土坑に切られて破損した石囲炉と柱状土坑のみが確認された。そのため平面形や規模は不明である。

炉は角礫を並べて直径50cmほどの円形に作られていたようである。焼土の厚さは最大6cmである。柱状土坑のうちpp1~pp3が主となるようである。規模は開口部径15~30cm・深さ30~40cmである。

出土遺物はないようであるが、検出状況や形態が他の弥生時代住居に類似するところがあることなどから弥生時代の住居跡の可能性が高い。



第277図 RA174 (1) 住居跡

RA187 (図版: 282・283, 写真図版: 244・316)

南寄りのQ16グリッドに位置する。北側をRA539住居跡に、南側をRD112土坑に切られている。北西のRA207住居跡を切っている。東側の壁は削平され不明瞭である。残存する西側の壁から平面形は円形状で、



第278図 RA174 (2) 住居跡出土遺物



RA174

第279図 RA174 (3) 住居跡出土遺物

壁は外傾していたようである。規模は直径約6.5m・壁高は西側で30cmほどである。埋土は主に黒色土で構成され、褐色土や暗褐色土が床面近くに見られる。

床面はほぼ平坦で、締まりは密である。中央西側に石囲炉、東側に焼土が2カ所ある。柱穴状土坑が十数基検出されているが、中でもpp1とpp4、pp9とpp5が主柱穴になるようである。その他pp2とpp3、pp7とpp6、pp10とpp11も対になるようであるがいずれも細い。柱穴状土坑の規模は開口部径20cm前後・深さ40～50cmである。

石囲炉は径70cmの円形状に角礫を並べて作られている。炉内の表面に現れている焼土は少ないが、内部には8cmほどの焼土が形成されている。中央東寄りの焼土は長径50cmほどの楕円形状に広がる。地床炉の可能性もある。

出土遺物は約6kgの土器片と石器4点が得られている。282-1・2は床面出土で、他は埋土の出土である。土器片は弥生時代前期の鉢または高杯の破片のようである。やや細目の平行沈線による施文がなされている。石器は石鏃1点と磨石3点である。石鏃は無茎で二等辺三角形形状を呈している。磨石は円礫の平たい面に磨面の形成されたもの2点と、角柱状の礫の縁辺に磨面が形成されたもの1点がある。

遺構の時期は、出土遺物等から弥生時代前期と思われる。

Y=96,255m
X=-57,411m

Y=96,260m
X=-57,411m



RA177 A-B
1 7.5YR5/6 暗褐色 粘土、粘性中・細さ9中
2 10YR2/3 黒褐色 粘性中・細、結より中

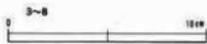
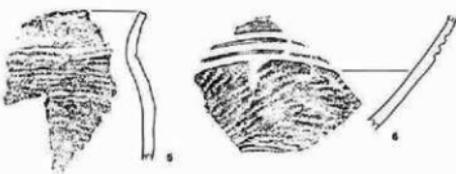
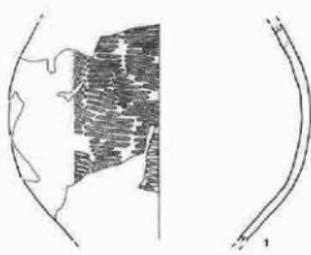


X=-57,415m
Y=96,255m

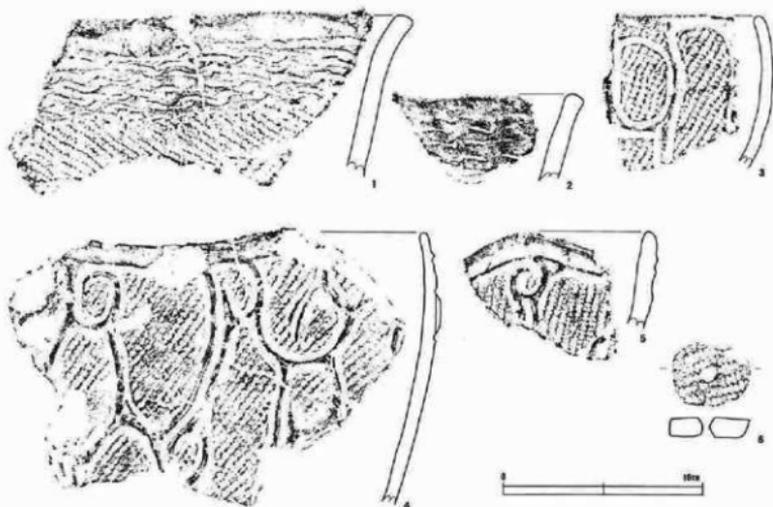


X=-57,415m
Y=96,260m

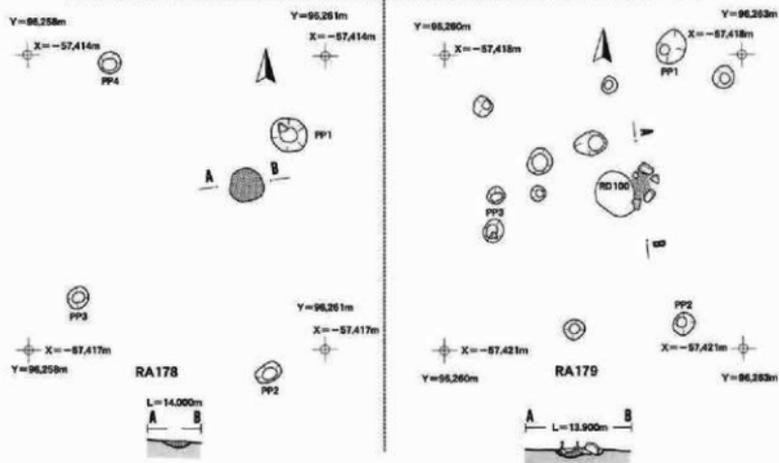
RA177



第280圖 RA177 (1) 住居跡



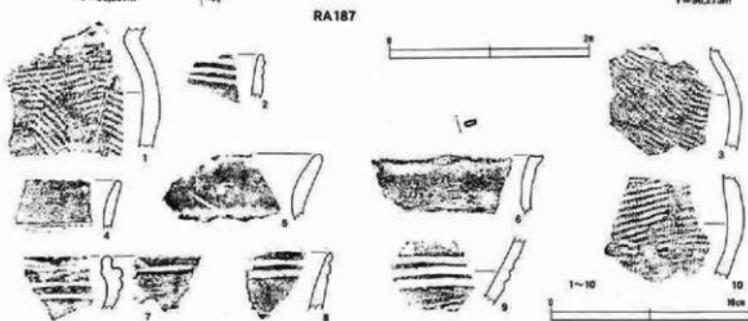
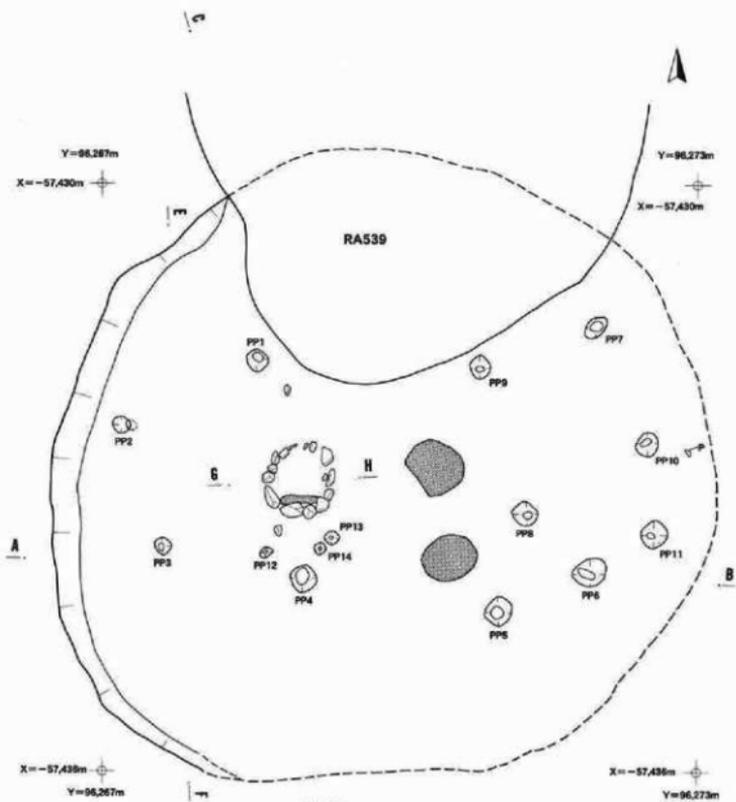
RA177



RA178 A-B
1 5YR5/8 褐色褐色 粘土中、跡残りやや強

RA179 A-B
1 10YR2/1 黒色 粘土中強、跡残り中
2 5YR7/8 褐色 地上、粘土中、跡残りやや強

第281図 RA177 (2)・178・179住居跡



第282図 RA187 (1) 住居跡

RA196 (図版: 284, 写真図版: 245・316)

中央付近M16～N18グリッドに位置し、RA541住居跡の東側下位に検出された。南西は他にもRA204・205・208住居跡などに重複しているようだ。検出時は黒色上のシミが円形に広がっていたが、結果的には北西側の壁しか残存していなかった。残存部から平面形は円形状だったと思われる。北西壁は外傾する。規模は直径6～7m・北西の壁溝20cmほどである。埋土は主に黒褐色土で構成され、締まりは密である。

床面はほぼ平坦で、締まりは密である。他遺構との重複のせいか炉は確認されず、柱穴状土坑が十数基検出されている。規模は開口部径20～40cm・深さ30～50cmである。東側の壁際を巡るように配置し、また中輪線付近にも2基配置するが、西側には検出されていない。

出土遺物は縄文や弥生時代の土器片5.1kgと石器3点が得られているとカードにはある。残存する遺物はすべて埋土からの出土である。284-1～3は高坏の破片で、平行沈線と磨消帯による施文がなされている。4～6は無茎の石鏃で、二等辺三角形形状を呈している。

遺構の時期は弥生時代前期と思われる。

RA200 (図版: 285, 写真図版: 246・247・317)

北寄りのK15・K16グリッド付近に位置し、Ⅱ層下部に検出した。北側をRA532住居跡に、西側をRA537住居跡に切られている。石囲が中心に北側に壁の一部が巡る。平面形は円形と推定され、北側にわずかに残る壁は直立する。規模は直径6m前後と推定され、北側の壁高は10cmである。埋土は大小の礫が混入する暗褐色土や黒褐色土からなる。

床面は南に向かって緩く傾斜し、所々に礫が露出する。中央付近に石囲炉があり、柱穴状土坑が12基検出されている。その中で、中央寄りにあるpp10・pp11・pp5・pp12が主体となり、壁際のpp3・pp4・pp12・pp6などが補助的な役割を果たしたようである。規模は主となった方で開口部径20～30cm・深さ30～40cm、補助となった方で開口部径20～40cm・深さ20cm前後である。

炉は角礫や磨石の転用品を並べて径70cmほどの円形に作られている。焼土の形成は最大5cmである。

出土遺物は弥生時代初頭の土器を含め約1.6kgの土器片が得られているとカードにはある。残存する遺物は縄文時代のもので、すべて埋土からの出土である。285-1・2は縄文時代前期前葉の深鉢の破片で、胎土にセシイが混入している。285-3～7は中期中葉の深鉢形土器の破片で、平行沈線や降線による文様が施文されている。

遺構の時期は、検出層位や炉の形状などから弥生時代と思われる。

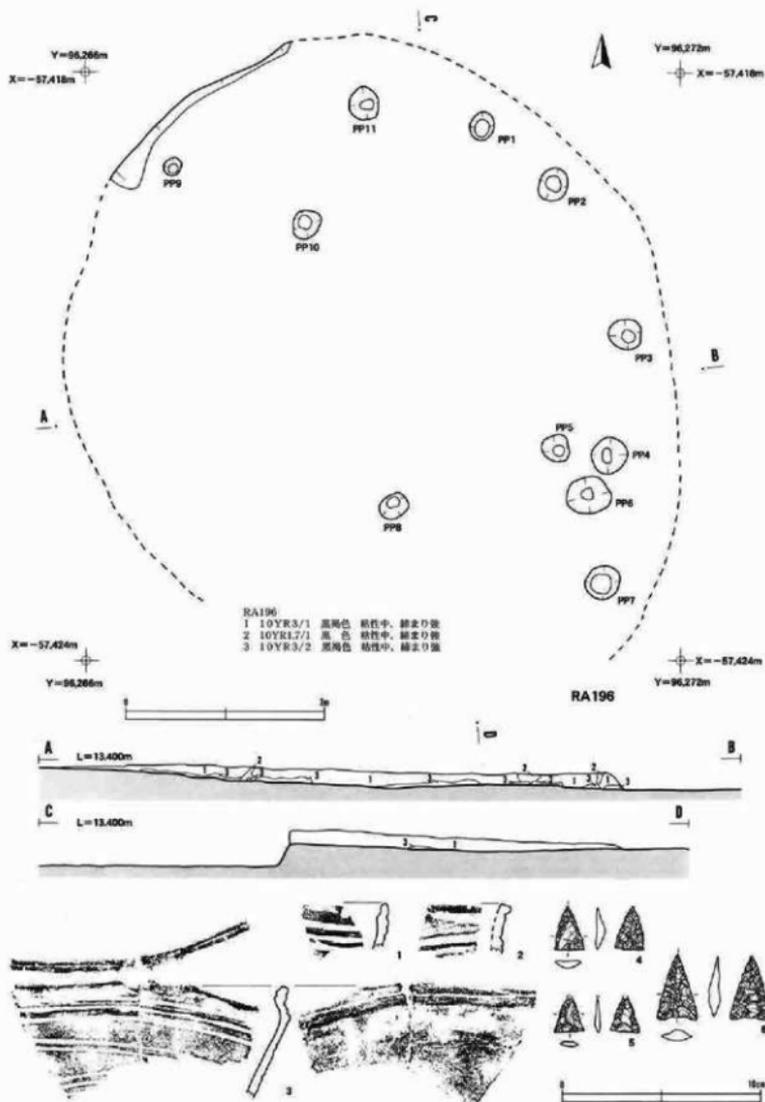
(3) 古代

竅穴住居跡

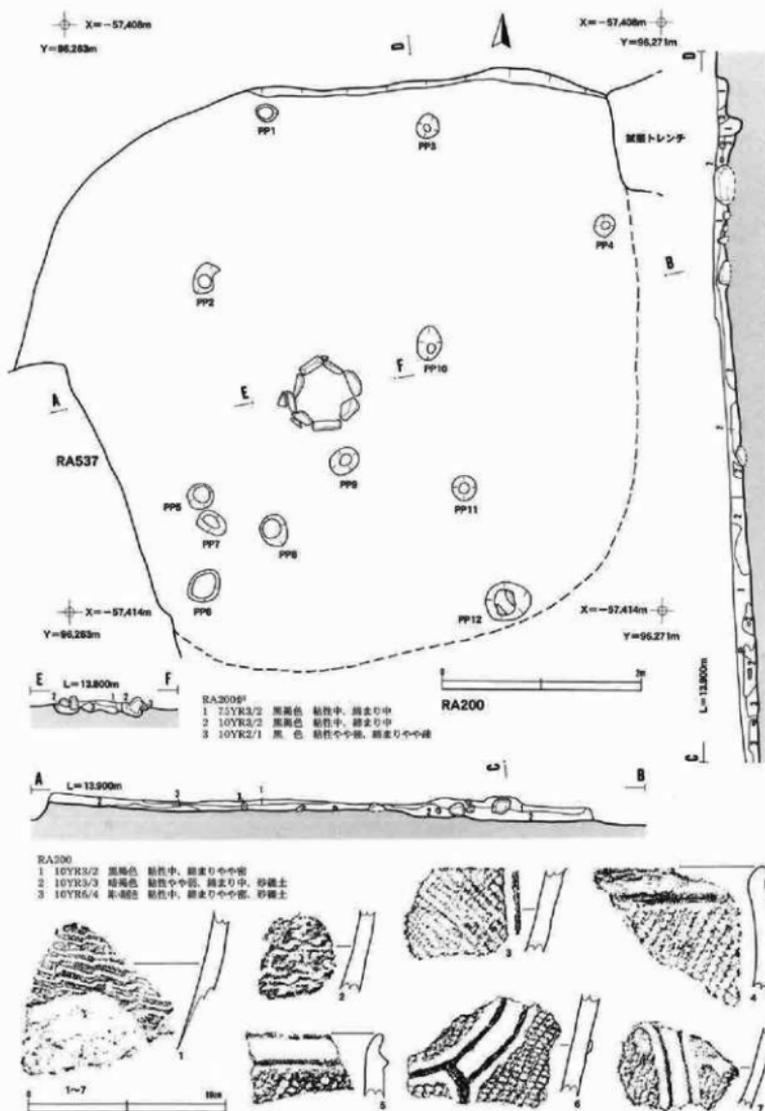
RA532 (図版: 286, 写真図版: 247・248・317)

北寄りのJ15グリッド付近に位置し、Ⅱ層下部～Ⅳ層上部に検出した。弥生時代のRA200住居跡を切っている。床面下にはRD89・119土坑があり、南東側を他遺構に切られている。平面形は隅丸方形で北壁中央にかまどがある。壁は直立気味に外傾する。規模は軸長約3.6mで、壁高は15cmほどである。埋土は主に黒褐色土で構成され、黄褐色土や炭化物が混入する。

床面はほぼ平坦で東側と西側の壁際に壁溝がある。柱穴状土坑が数基検出されているが、配置が不自然で、深さも10cmと浅く、この住居跡の屋根を支えたものかどうか不明である。



第284图 RA196住居跡



第285図 RA200住居跡

かまどは袖の芯となった角礫と燃焼部の焼土のみが残っている。焼土の厚さは最大8cmほどである。煙道は残存しないので、傾斜が上りぬ配だった可能性が高い。

出土遺物は、埋土から土師器甕や鉄製品・縄文時代の石器が得られている。286-6・7は土師器甕で頸部に段が形成されている。6は内外面とも丁寧に磨かれている。7は磨耗して不明瞭だが内面ナデ・外面ハケメのようである。鉄製品は断面長方形の棒状の破片である。石器は無茎の石鏃3点と削器1点である。

遺構の時期は、遺構の主軸方向や伴出遺物から奈良時代と思われる。

RA533 (図版: 287・288, 写真図版: 249・250・317)

西寄りのN13グリッドに位置し、II層上面で検出された。縄文時代のRA171住居跡の東側やRA197住居跡の南側を切って構築されている。焼土家屋である。北東側が拡張されたようであるが、平面形は隅丸長方形で、北壁中央付近にかまどがある。壁は直立ないしは外傾する。規模は長軸3.7m・短軸3.5mで、壁高は最大30cmほどである。主軸方向はN-5°-Wである。埋土は黒色土を主とするが、上位に炭化材や焼土ブロックが多く混入する。炭化材には部材の構造を示すようなものは見られない。

床面は貼り床されているが、緩やかな凹凸がある。壁際に壁溝が断続して巡る。しかし北東側は壁溝の外側20~30cmまで拡幅されている。柱穴状土坑は各隅から70cmほどの対角線上に4基検出されている。開口部径20~25cm・深さ25~40cmである。また南西隅付近には不定形な小土坑があり、内部に礫が混入していた。

かまどは袖の粘土が崩壊しており、芯材の礫のみが残る。煙道はくり貫き式だったようで、緩く傾斜して上がり、長さは1mほどである。また、煙道入り口付近に土師器甕の上半分が埋め込まれており、天井の崩壊を支えていたようである。

出土遺物はかまど出土の土師器のほか埋土から土師器甕や縄文時代の石器が得られている。288-4はかまど出土の甕で、頸部に小さな段が2段形成されている。外面はミガキ、内面はハケメが施され、粘土紐の積み上げ痕も残る。4・5は埋土出土の甕である。5は頸部に段は見られない。内外面にミガキ調整が施され、粘土紐の積み上げ痕が残っている。6は胴部下位の破片で、内外にハケメ調整が見られる。1・2は無茎石鏃の破損品、3は削器である。

遺構の時期は、伴出遺物や遺構の主軸方向から奈良時代と思われる。

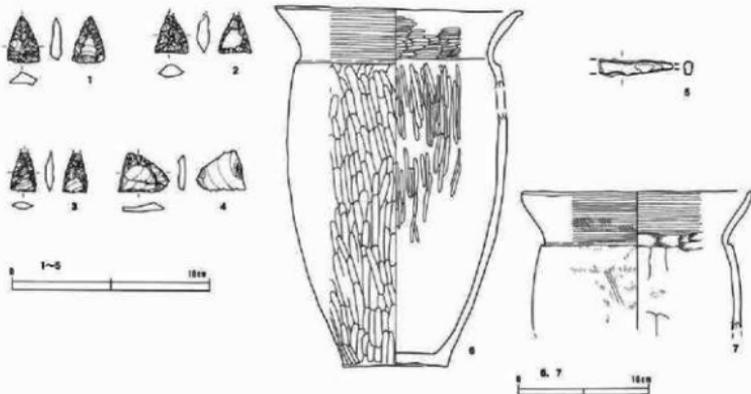
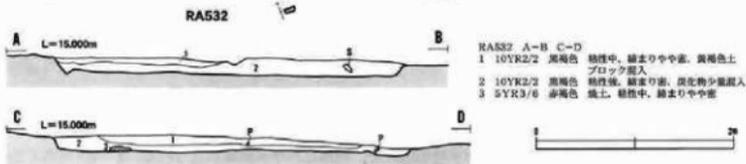
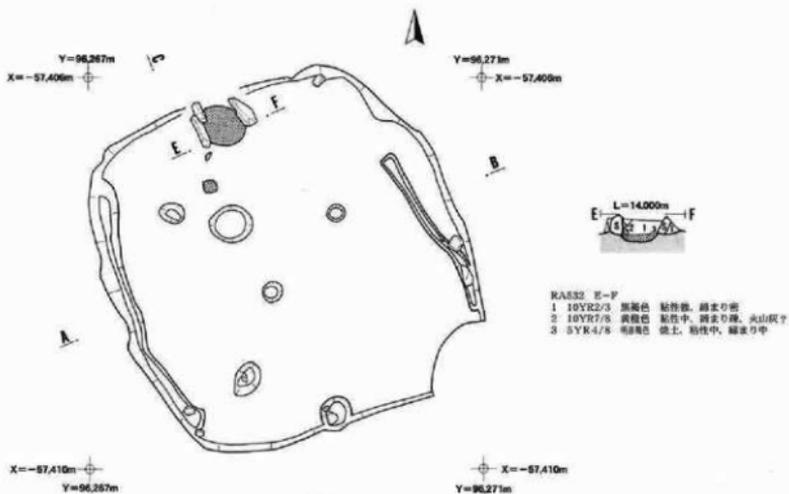
RA534 (図版: 289・290, 写真図版: 251・317・318)

南西寄りのP13~Q13グリッド付近に位置し、II層中位~下部で検出した。東側は多数の縄文時代の住居跡と重複する。そのためか東側壁は不明瞭で、西側壁とかまどが残存する。平面形は隅丸形状と思われ、北側壁中央付近にかまどがある。壁は直立気味に外傾している。規模は軸長約3.8mと思われる。埋土は主に暗褐色土で構成されている。

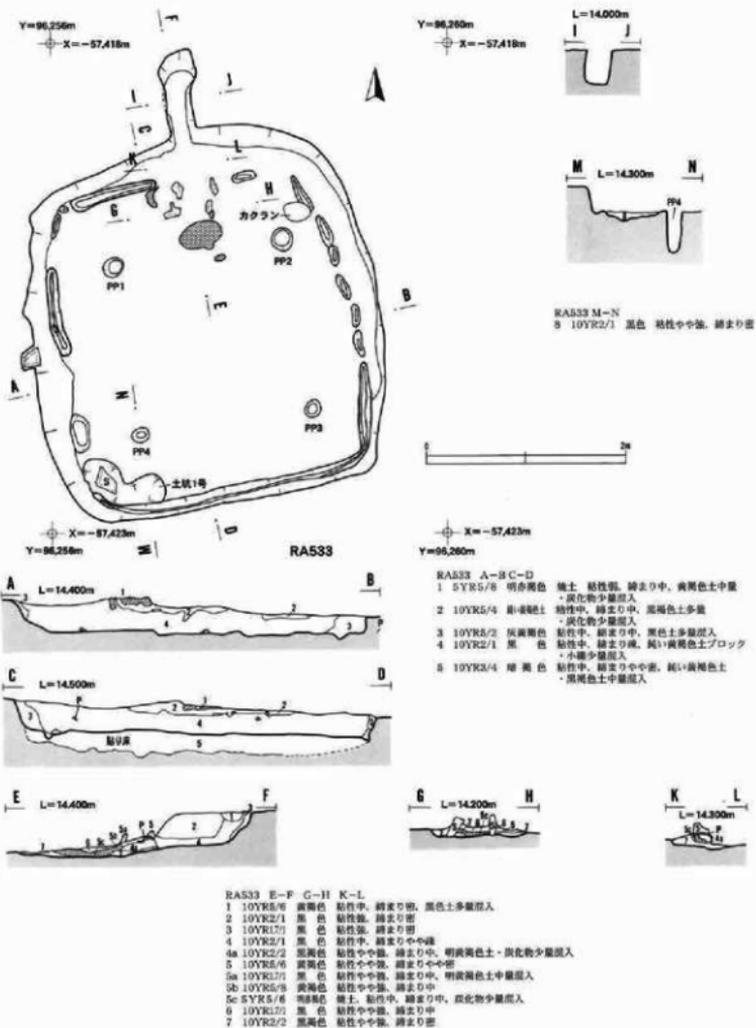
床面は緩く起伏し、西側壁際に壁溝がある。柱穴状土坑が5基検出されているが、そのうちpp1~pp3・pp5が主となるようである。規模は開口部径30~40cm・深さ45~50cmである。また、床面の中央付近に直径10cmほどの焼土が見られ、かまどの西側に土師器甕が出土している。

かまどは北壁中央付近に位置し、袖石と煙道の掘り込みが残る。袖石は角礫を立てて埋め込んで芯としている。東側の礫は残るが西側の礫は抜かれている。燃焼部の焼土の厚さは最大10cmである。煙道は幅広く掘られており、掘り込み式の可能性がある。ほぼ水平に1.2m続き、煙出し穴直下はややくぼんでいる。

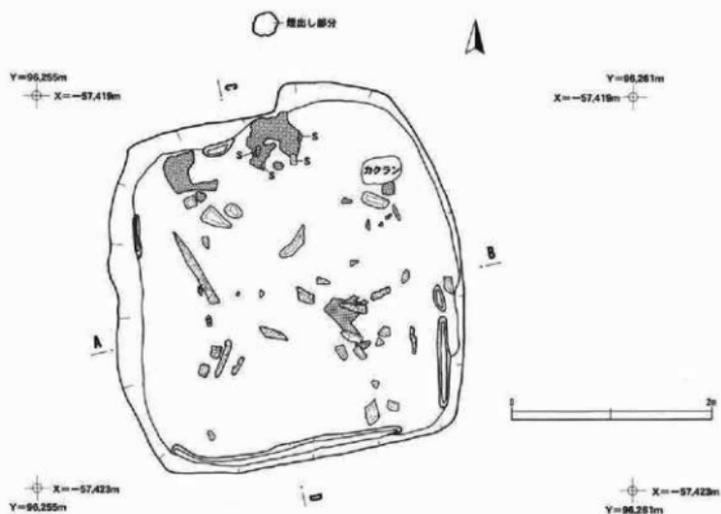
出土遺物は、かまど西側の土師器甕の他に床面からも甕や坏・縄文時代の石器、埋土から甕・坏・石器が



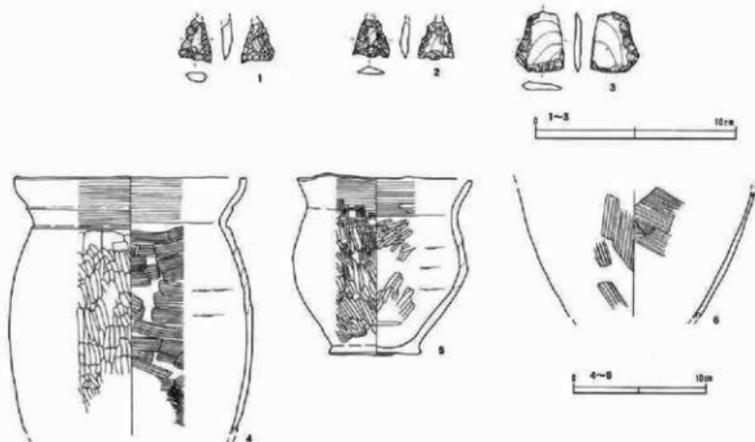
第286図 RA532住居跡



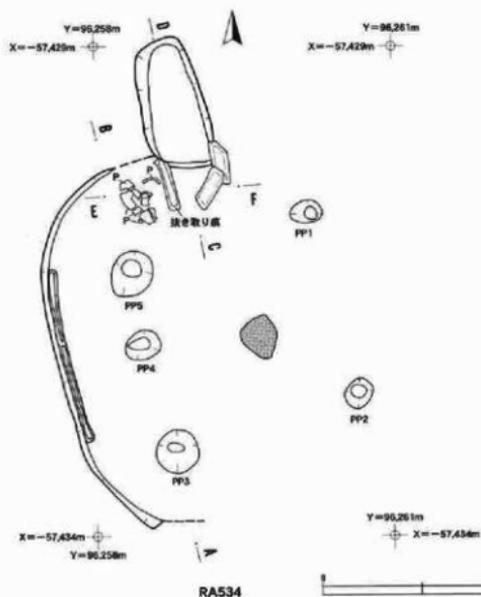
第287図 RA533 (1) 住居跡



RA533炭化材出土状況



第288図 RA533 (2) 住居跡



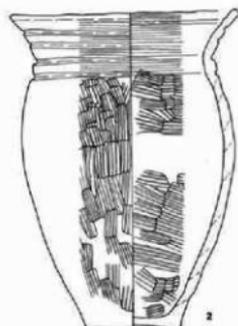
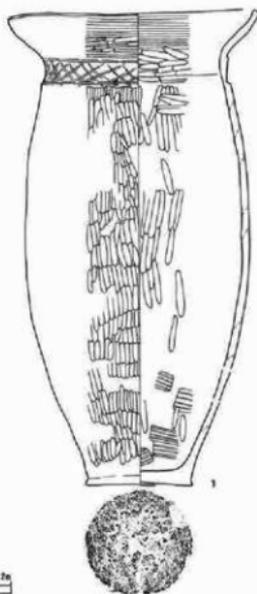
RA534



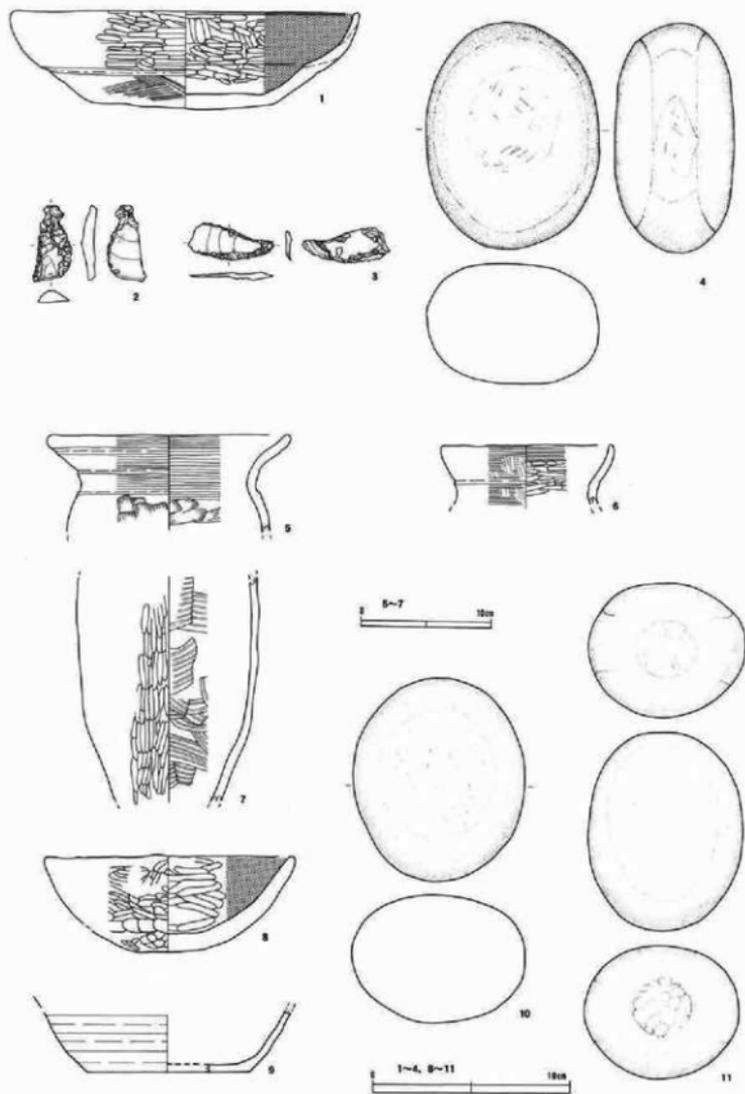
RA534 A-B
1 10YR2/3 暗褐色 粘性やや硬、締まり中



- RA534 C-D E-F
- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性中、締まり中
 - 2 10YR2/2 黒褐色 粘性中、締まりやや硬、褐色土混入
 - 3 10YR3/4 暗褐色 粘性やや硬、締まり中
 - 4 10YR5/8 黄褐色 流土、粘り強、締まりやや硬
 - 5 10YR2/3 暗褐色 粘性中、締まりやや硬
 - 6 10YR2/3 暗褐色 粘性やや硬、締まりやや硬
 - 7 10YR4/0 褐色 粘性中、締まりやや硬、炭化物混入
 - 7a 10YR2/2 黒褐色 粘性やや硬、締まり中、黒褐色土ブロック混入
 - 8 10YR2/1 黒色 粘性やや硬、締まりやや硬
 - 9 10YR1/1 黒色 粘性中、締まり中
 - 10 10YR2/2 暗褐色 粘性やや硬、締まり中、褐色土少量混入



第289図 RA534 (1) 住居跡



第290図 RA534 (2) 住居跡出土遺物

得られている。289-1～290-4は床面からの出土、他は埋土からの出土である。289-1はカマド西側から出土した甕である。長胴タイプで、頸部に段が形成され、頸部に斜格子状の刻みが施文されている。外面はミガキ、内面はハケメ後ミガキの調整が施され、粘土紐の積み上げ痕も残る。底部には木葉痕が見られる。289-2は口縁部から頸部にかけて段が4段形成されている。内外面ともハケメ調整で、粘土紐の積み上げ痕が残る。290-1は坏で、外部に段が作られている。内外面ミガキ調整で、外面下位にはハケメが残る。内面は黒色処理されている。2は石匙、3は削搔器、4は磨石である。

埋土から出土した甕のうち、5・6には頸部に小さな段が形成されている。8は胴部のみが残存で、外面はミガキ、内面はハケメ調整が施されている。8は坏で、段は無いが器厚が厚い。内外面はミガキ調整が施され、内面は黒色処理されている。9はロクロ使用の坏である。10・11は磨石で、11は両端に敲打痕が見られる。

この遺構の時期は、遺構の主軸方向や伴出遺物から奈良時代と推定される。

RA535 (図版：291・292、写真図版：252・253・318)

南寄りのQ15～R15グリッドに位置し、Ⅱ層下位で検出した。下位には縄文時代のRA176・201住居跡、RD92土坑などがあり、またRD78土坑に切られている。遺構が重複する。平面形は隅丸長方形で、西側壁にかまどがある。壁は外傾して立ち上がる。規模は長軸6m・短軸約5mである。壁高は最大40cmである。埋土は主に黒褐色土で構成され、礫が混入する。

床面は一部に貼り床されるが緩やかに起伏している。北側と南側の壁より柱穴状土坑が数基検出されているが、いずれも浅く、配置も不自然である。

かまどは西壁の南寄りにあり、袖と煙道が検出されている。袖は角礫を芯として、その上に褐色土を貼って構築されている。燃焼部の焼土は最大8cmの厚さで形成されている。煙道はほぼ水平に延びたあと緩く傾斜して下る。煙出し穴はほぼ垂直に立ち上がるようである。幅が狭いことからくり貫き式の可能性がある。また袖の南側に接して直径50cm・深さ30cmの小土坑が設けられている。

出土遺物は、土師器甕や鉄製品・石器などがあり、すべて埋土から得られている。292-1は球形の甕で、頸部に小さな段が形成されている。内外面は丁寧に磨かれ、一部に粘土紐の積み上げ痕が残る。底部には木葉痕が見られる。292-2は刀子で、木質部が付着している。3～10は縄文時代の石器である。3・4は無茎石鏃、5・6・9は石匙、7・9は削搔器、10は磨製石斧である。7は石鏃を意欲したものかもしれない。

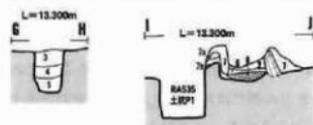
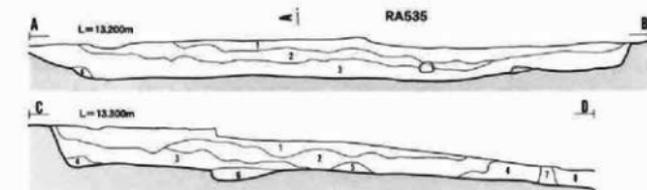
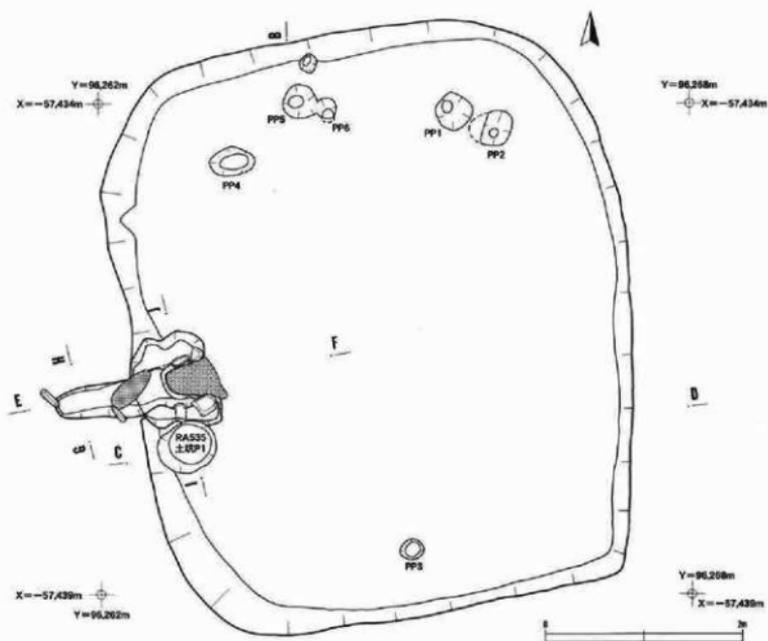
この遺構の時期は、埋土から奈良時代の遺物が出土しているが、カマドの位置などから平安時代の可能性が高い。

RA536 (図版：293、写真図版：253・254・318)

中央付近のO14～O15グリッド付近に位置し、Ⅱ層下部で検出した。下位には縄文時代のRA210・219住居跡がある。平面形は隅丸長方形で、南東隅に一段高い張り出しがある。北側壁中央付近にかまどがある。壁は外傾して立ち上がる。規模は軸長約3.5mである。埋土は黒褐色土や黒色土で構成され、砂礫が混入している。

床面は貼り床され、ほぼ平坦に作られている。北西から南の壁際に壁溝が巡る。南東隅の壁際は幅1m・奥行70cm・高さ15cmの段状になり、両側に襖が配されている。出入口の施設可能性がある。柱穴状土坑は5基検出されているが、pp2～pp5が各隅から60cm前後離れた対角線上にあり、主となるようである。規模は開口部径20cm前後・深さは35～45cmである。また、かまどの西には焼土の広がりや炭化材がある。

かまどは北壁中央付近にあり、袖から煙道まで残っていた。袖は角礫を立てて埋め込んで芯とし、褐色土



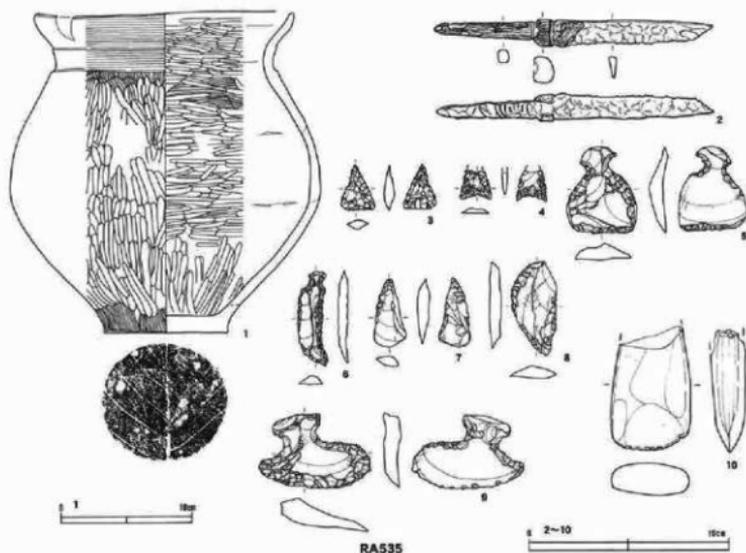
RA535 A-B C-D

1	10YR2/3	黄褐色	粘性弱、締まり密、小礫少量混入
2	7.5YR3/1	黄褐色	明黄褐色土・小礫少量混入
3	10YR2/2	黄褐色	粘性中・中締、締まり中、小礫物混入
4	10YR3/1	黄褐色	粘性中、締まり中や密
5	7.5YR3/1	黄褐色	粘性弱、締まり中、炭化物微量混入
6	10YR2/2	黄褐色	粘性中、締まり中、黄褐色土少量・炭化物微量混入

RA535 E-F G-I J

1	10YR2/3	黄褐色	粘性弱し、締まり疎、黄褐色土ブロック混入
2	2.5Y 6/3	赤鉄色	粘性弱し、締まり密
3	10YR3/2	黄褐色	粘性無し、締まり疎、黄土ブロック縞状に混入
4	10YR3/2	黄褐色	粘性無し、締まり疎、黄土縞状に混入
5	10YR2/4	黄褐色	粘性無し、締まり疎、黄褐色土混入
6	10YR2/1	黒色	粘性無し、締まり疎、黄褐色土ブロック混入

第291図 RA535 (1) 住居跡



第292図 RA535 (2) 住居跡出土遺物

を貼って構築されている。長さ55cmの天井石も渡されている。燃焼部の焼土は最大10cmの厚さで、煙道部の底部全体に続いている。煙道は緩やかな上り勾配で、長さ1.2m続き、垂直に立ち上がって煙出し穴となる。幅が狭いのでくり貫き式の可能性が高い。

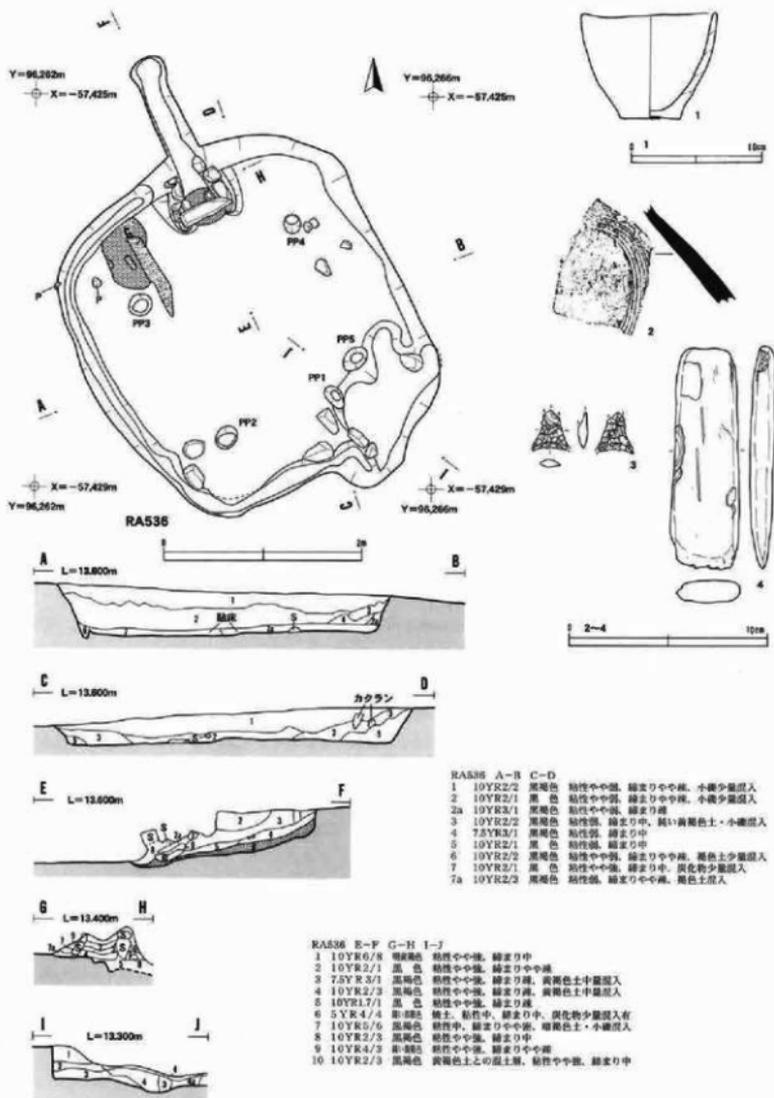
出土遺物は床面から土師器鉢1点と埋土から須恵器片1点・石器2点が得られている。293-1は鉢で、調整痕は不明瞭である。粘土紐の積み上げ痕が少し残る。2は須恵器の破片、3は石鏃、4は磨製石斧である。石器は縄文時代と思われる。

遺構の時期は、カマドの位置から奈良時代と思われる。

RA537 (図版：294・295, 写真図版：255・256・319)

やや北寄りのL14・L15グリッド付近に位置する。西側の一部はRB01建物跡の柱穴に切られ、東側ではRA200やRA209住居跡を切っている。いくつかの遺構と重複している。平面形は北側がややせまい隅丸方形形状を呈し、北壁にかまどがある。壁は直立ないしは直立気味に立ち上がる。規模は北側壁4.8m・南側壁5m・南北約5m、壁高は35～60cmである。主軸方向はN-17°-Wである。埋土は主に黒褐色土からなり、黄褐色土のブロックや炭化物が混入する。

床面は貼り床され、平坦に作られている。壁際に壁溝が断続的に通る。柱穴状土坑が約20基検出されているが、深さ20cm以下の物が多く、また配置も不自然なものが多い。また、中央西寄りには炭化物と1.5m×1.5mの不整形な焼土の広がりがある。



第293図 RA536住居跡

かまどは北壁中央付近と東寄りにある。東寄りにあるかまどは古く、壁溝で切られている。中央のかまどは袖が破損しており、燃焼部の焼土と、煙道のみが残る。燃焼部の焼土の厚さは最大10cmに形成されている。煙道は水平に80cm続いたのも60度ほどの傾斜で立ち上がって煙出し穴となる。煙出穴付近は黄褐色土で補強されたような状態であり、摺り込み式の構造だった可能性がある。

古いかまどは煙道のみが残存である。煙道は長さ1.5mで緩く傾斜して上がり、煙出し穴付近で垂直になる。煙出穴付近には黄褐色土の塊があり、新しいかまどと同様に、補強材として使用されていたのかもしれない。

出土遺物は、墨書土器や土師器の他削搔器2点・磨石5点・石鏃1点があるとカードに記載がある。しかし整理時には墨書土器は確認できなかった。295-1・2は床面出土他は埋土出土の遺物である。1・2とも小型の鉢または甕で、粘土紐の積み上げ痕が残る。1は外面にミガキ痕が残る。2は内外にハケメ調整が残る。底部に木葉痕が見られる。3は高杯の破片で、杯部内面は磨かれ、黒色処理がなされている。脚部接続部付近はハケメによる回転調整痕が残る。4は縄文時代の無茅石鏃と思われる。

この遺構の時期は、主軸方向や伴出遺物から奈良時代と思われる。

RA538 (図版：295、写真図版：257・319)

南端のS16グリッドに位置する。平成6年度一歩調査の試掘トレンチで煙道部分は破損している。また、住居本体は調査地外にあり、かまどをのみ検出である。北側にあるRA540住居跡よりは新しい。遺構の形状規模は不明であるが、北側壁にあるかまどであることは確実である。埋土は主に黒褐色土で構成されているようである。

角礫を袖の芯とし、褐色土を貼っていたようである。調査地境界には天井石らしい礫も見られる。煙道はくり貫き式か摺り込み式か不明であるが、ほぼ水平で、長さは1.8mほどある。

出土遺物は、かまどから土師器甕の破片が1点出土している(295-5)。頸部に小さな段が形成され、口縁部外面はハケメ、内面にはミガキの調整痕が少し見られる。

遺構の時期は、かまどの位置や伴出遺物から奈良時代と思われる。

RA539 (図版：296・297、写真図版：258・259・319)

南端のP16グリッド付近に位置し、II層下部で検出された。南西下位にはRA187・207住居跡があり、東側はRD87土坑に切られている。平面形は円形に近いような隅丸方形を呈し、北側壁中央付近にかまどがある。壁は外傾して立ち上がる。ほぼ同規模の住居跡が建て替えられている。上位住居跡が新しく、規模は軸長約3.7mである。壁高は40cm前後である。埋土は主に黒褐色土で構成される。

床面は厚く貼り床され、ほぼ平坦に作られる。壁際には壁溝が巡る。柱穴状土坑は確認されていない。

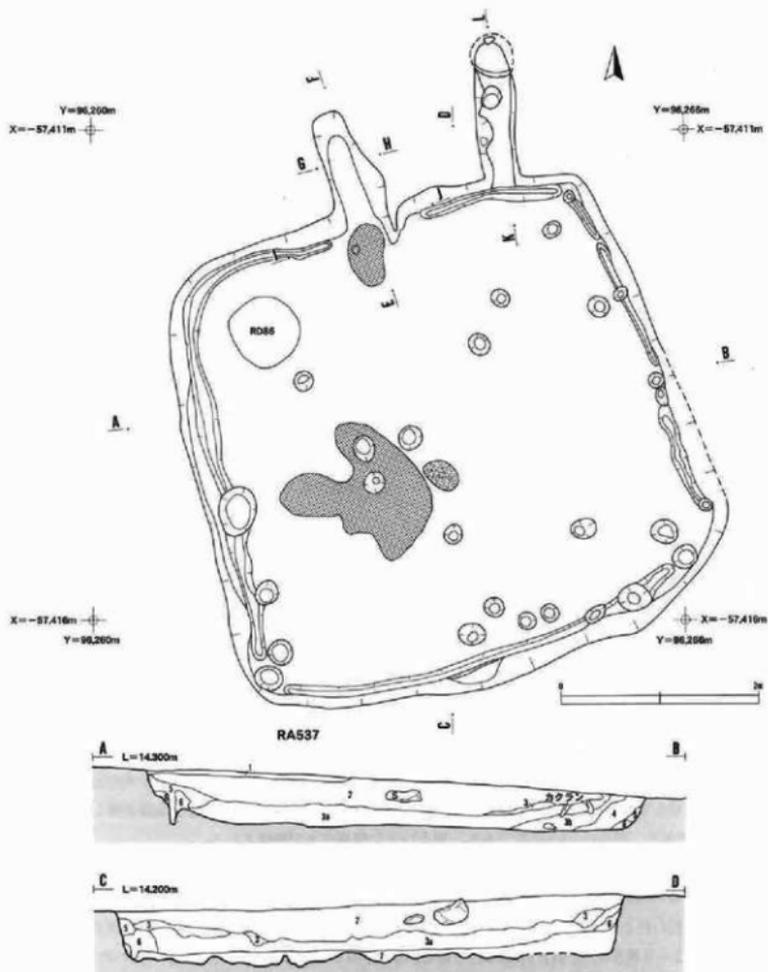
かまどは北壁中央付近にある。袖は角礫を芯とし、褐色土を貼って構築されている。また袖の間の天井に渡ってあったと思われる板状の長い礫が、袖の間に落ち込んでいる。燃焼部の焼土は最大12cmの厚さで形成されている。煙道はくり貫き式で、長さ90cmほどである。緩く傾斜して上がり、煙出し穴に絞っていたようである。

下位の住居跡はほぼ同型で一回り小さかったようで床面での軸長は約3.3m、壁高は50cm前後である。厚さ10~15cmの貼り床が埋土となる。おもに黒褐色土で構成され、黄褐色土や炭化物・焼土が混入する。

床面はほぼ平坦で、壁際に壁溝が巡る。柱穴状土坑は検出されていない。

かまどは上の住居跡と同じ位置にあった可能性もあるが、痕跡は確認できなかった。

出土遺物は、埋土から土師器甕や杯の他に縄文土器や弥生土器が多量に出土しているとカードにはある。

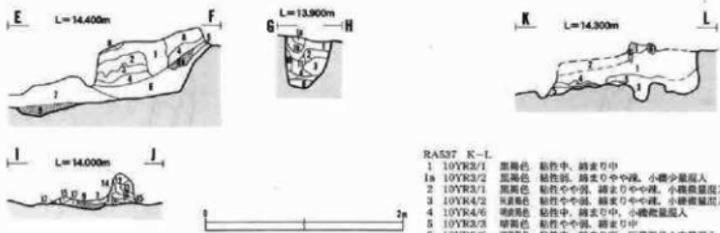


RA537 A-B C-D

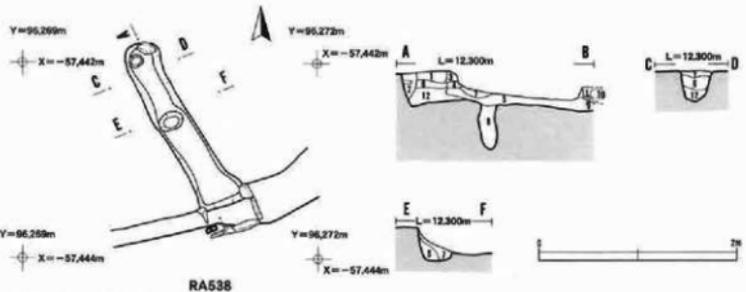
- 1 7.5YR2/1 黒色 粘液中、跡まわり中
 2 10YR2/2 黒褐色 粘液中、跡まわり中、中層少量混入
 3 10YR2/3 黒褐色 粘液や中層、跡まわりや中層、小礫少量混入
 3a 10YR2/3 黒褐色 粘液中、跡まわりや中層、明黄褐色土ブロック少量、灰化物少量混入

- 3b 10YR3/1 黒褐色 粘液中、跡まわりや中層、明黄褐色土多量・灰化物少量混入
 4 7.5YR2/2 黒褐色 粘液中、跡まわりや中層、明黄褐色土少量・灰黄褐色土少量、小礫少量混入
 5 10YR3/1 黒褐色 粘液中、跡まわり中、小礫少量混入
 6 10YR4/2 灰黄褐色 粘液中、跡まわりや中層、明黄褐色土少量混入
 7 10YR7/6 明黄褐色 粘液や中層、跡まわりや中層、黒褐色土少量混入

第294図 RA537 (1) 住居跡



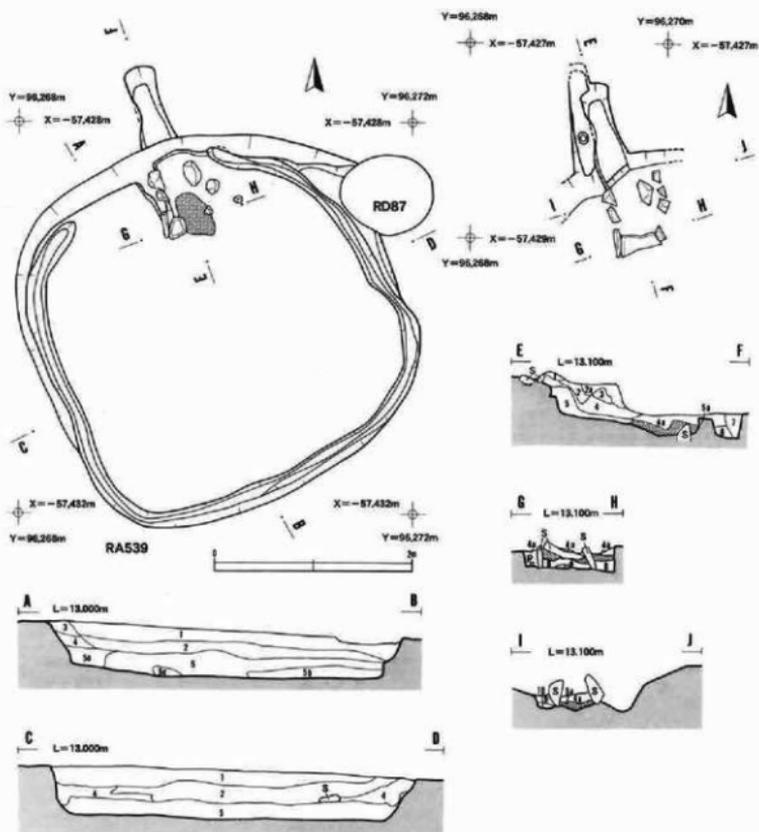
- RA537 E-F G-H I-J
- 1 10YK2/1 黒褐色 粘性中中硬、締まり中硬、小礫層混入
 - 16 10YK2/1 黒褐色 粘性中中硬、締まり中中硬、小礫層混入
 - 19 10YK3/1 黒褐色 黄褐色土との混入層、粘性中、締まり中中硬
 - 2 10YK4/2 黄褐色 粘性中、締まり中、小礫少量混入
 - 3 10YK5/6 黄褐色 粘性中中硬、締まり中中硬
 - 4 5YR5/8 赤褐色 粘土、粘性弱、締まり中中硬、黄褐色土中量混入
 - 6 5YR5/8 赤褐色 粘性中、締まり中
 - 5 10YK2/2 黒褐色 粘性中、締まり中、粘土少量混入
 - 6 10YK2/2 黒褐色 粘性中、締まり中中硬
 - 7 10YK2/3 黒褐色 粘性中、締まり中
 - 8 10YK5/8 黄褐色 粘性中、締まり中、小礫層混入
 - 9 5YR5/8 赤褐色 粘土、粘性中強、締まり中、炭化物混入混入
 - 10 10YK4/4 赤色 粘性中中強、締まり中
 - 11 10YK2/2 黒褐色 黄褐色土との混入層、粘性中、締まり中中硬
 - 12 10YK2/2 黒褐色 粘性中中硬、締まり中中硬、棕色粘土質土混入
 - 13 10YK2/2 黒褐色 粘性中中硬、締まり中中硬、棕色粘土質土混入
 - 14 10YK7/8 黄褐色 粘性中、締まり中
 - 15 10YK7/8 黄褐色 粘性中、締まり中中硬、黒褐色土混入
 - 16 10YK2/2 黒褐色 粘性中、締まり中
 - 17 10YK7/6 黄褐色 粘性強、締まり強、粘土



- RA538 A-B C-D E-F
- 1 10YK2/2 黄褐色 明黄褐色土との混入層、粘性強、締まり中中硬
 - 2 7.5YR2/3 暗褐色 粘性中中硬、締まり中
 - 3 7.5YR2/3 暗褐色 粘性中中硬、締まり中
 - 4 10YK2/3 黒褐色 粘性中中強、締まり中、黄褐色土少量混入
 - 5 10YK2/2 黒褐色 粘性中中硬、締まり中中硬
 - 6 10YK3/3 暗褐色 粘性中中強、締まり中中硬、黄褐色土ブロック少量混入
 - 7 10YK3/4 暗褐色 粘性中中強、締まり中、黄褐色土ブロック少量混入
 - 8 10YK3/3 暗褐色 粘性中中強、締まり中
 - 9 5YR4/5 赤褐色 粘土、粘性中中強、締まり中
 - 10 10YK5/4 赤褐色 粘性中中硬、締まり中
 - 11 10YK2/3 黒褐色 粘性中中硬、締まり中中硬
 - 12 10YK3/3 黄褐色 明黄褐色土との混入層、粘性中中強、締まり中中硬



第295図 RA537(2)・538住居跡



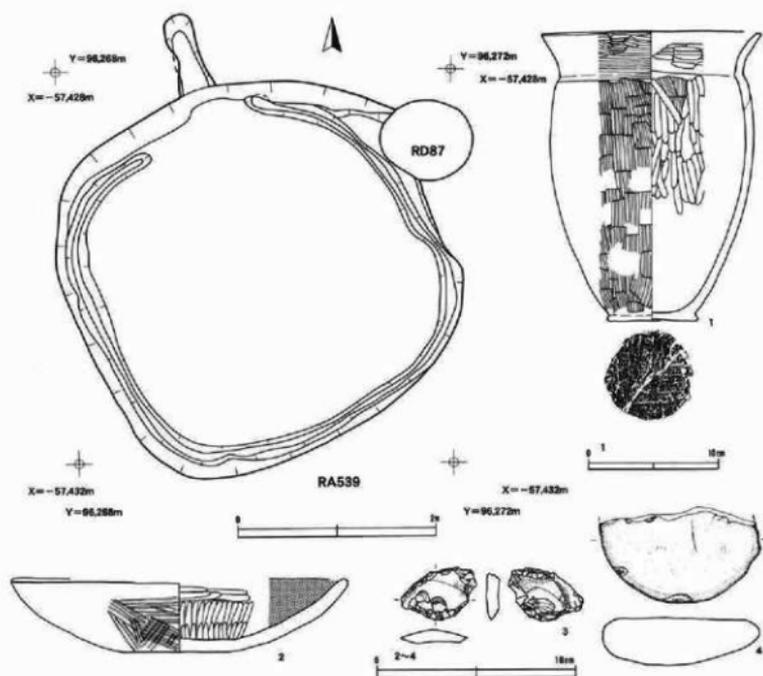
RA539 A-B C-D

- 1 10YR2/1 黒色 粘性や中強、締まり中
 2 10YR2/2 黒褐色 粘性や中強、締まりや中弱、小礫混入
 3 10YR2/3 黒褐色 粘性中、締まりや中強
 4 10YR2/3 黒褐色 黄褐色土上の凝土層、粘性や中強、締まり中
 5 10YR3/1 黒褐色 粘性や中強、締まり中、黄褐色土ブロック、
 凝土ブロック・炭化物混入
 5a 7.5YR1.7/1 黒色 粘性や中強、締まり中
 5b 10YR3/3 粘褐色 粘性や中強、締まり中、黄褐色土ブロック・炭化物混入
 5c 5YR4/8 赤褐色 凝土、粘性や中強、締まり中、炭化物多量に混入

RA539 E-F G-H I-J

- 1 10YR4/6 黒色 粘性中、締まり中
 2 10YR2/1 黒色 粘性強、締まり中、暗褐色土多量混入
 2a 10YR2/2 黒褐色 粘性や中強、締まり中、暗褐色土多量・黄褐色砂礫土
 少量混入
 3 10YR4/3 赤・黒粘 粘性や中強、締まり中
 4 10YR2/2 黒褐色 暗褐色土上の凝土層、粘性中、締まりや中強、炭化物
 少量混入
 4a 10YR2/3 黒褐色 凝土土上の凝土層、粘性や中強、締まりや中強
 5 10YR2/3 黒褐色 粘性中、締まりや中強、炭化物少量混入
 5a 5YR4/4 赤・粘 粘土、粘性や中強、締まりや中強
 6 10YR3/4 暗褐色 黄褐色土上の凝土層、粘性や中強、締まりや中強、
 炭土混入
 7 10YR3/4 暗褐色 褐色土上の凝土層、粘性や中強、締まりや中強
 8 10YR2/2 黒褐色 粘性や中強、締まりや中強
 9 10YR5/6 黄褐色 粘性強、締まり中
 10 10YR5/8 暗褐色 粘性強、締まり中
 11 7.5YR5/6 暗褐色 粘性強、締まり中

第296図 RA539(1)住居跡



第297図 RA539(2)住居跡

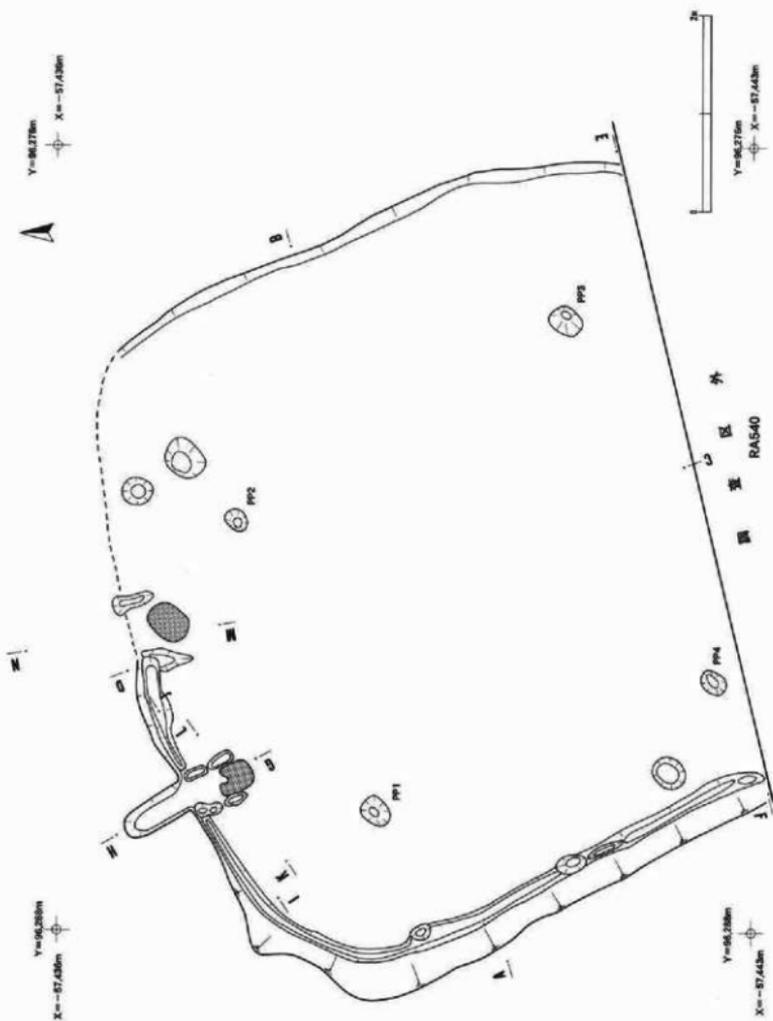
整理時には縄文土器片や弥生土器片は割愛した。297-1は長矩形の甕で、頸部に段が作られている。外面はハケメ、内面はミガキ調整が主に行われている。底部は少し張り出し、木葉痕も見られる。2は皿のように浅い環で、外面はハケメ、内面はミガキ調整が施され、内面黒色処理されている。3は削掻器。4は磨石の破損品で、両者とも縄文時代の遺物と思われる。

遺構の時期は、カマドの位置や出土遺物から奈良時代と思われる。

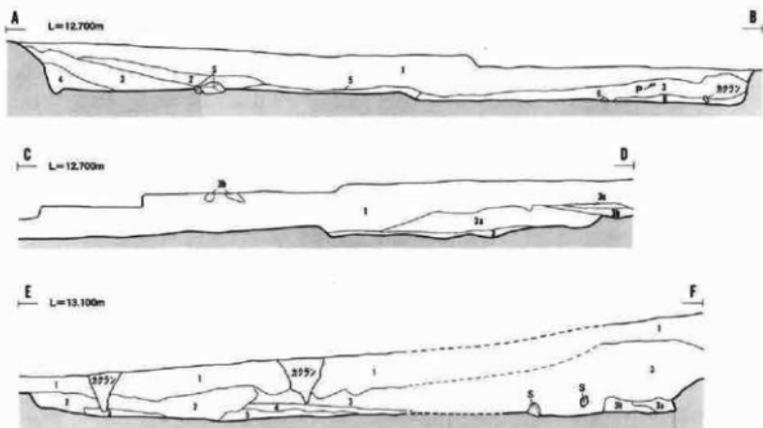
RA540 (図版：298～301, 写真図版：260・261・319・320)

南端のR16～S17グリッドに位置し、Ⅱ層下部で検出した。遺構の南端は調査区外に続き、北東は他遺構との重複で壁は残存しない。南側ではRA538住居跡に切られている。平面形は隅丸方形を呈するようで、北壁の西寄りにかまどが築かれている。壁は直立ないしは直立気味に外傾する。規模は各軸7m前後、残存する壁高は最大50cmである。埋土は主に黒褐色土で構成され、下位に中掘火山灰の小ブロックが混入する。

南側には埋土を掘り込んで捨てられた貝層がある。貝の種類はアサリが主体でムラサキイガイやウテムラサキ・動物骨片・朱塗り土器片などが混入していた。

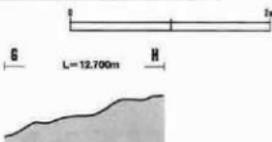


第298図 RA540(1)住居跡



RA540 A-B C-D E-F

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性やや弱、締まりやや密
- 2 10YR3/2 黒褐色 粘性やや強、締まり密、褐色土少量・柱礎少量混入
- 3 10YR2/2 黒褐色 粘性中、締まり中、黄褐色土ブロック中量混入
- 3a 10YR4/3 灰味結 暗褐色土との混土層、粘性やや強、締まり中
- 3b 10YR1.7/1 黒色 粘液中、締まりやや強
- 4 10YR3/2 黒褐色 粘性やや強、締まりやや弱、中層火山灰ブロック中量混入
- 5 10YR3/3 暗褐色 粘性やや強、締まり中、褐色土少量混入
- 6 10YR4/3 灰味結 黄褐色土との混土層、粘性強、締まり密

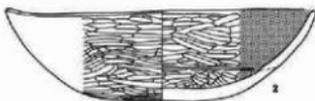
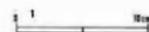
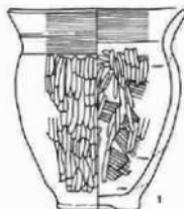


RA540 I-J K-L

- 1 10YR7/1 灰白色 粘性無し、締まりやや密、砂質
- 1a 10YR7/1 灰白色 粘性無し、締まりやや密、砂土少量混入
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘性中弱、締まり中
- 2a 10YR3/3 暗褐色 粘性やや弱、締まり中
- 3 10YR5/3 黄褐色 粘性中、締まり密
- 4 10YR7/8 黄褐色 粘性弱、締まり密、小礫混入

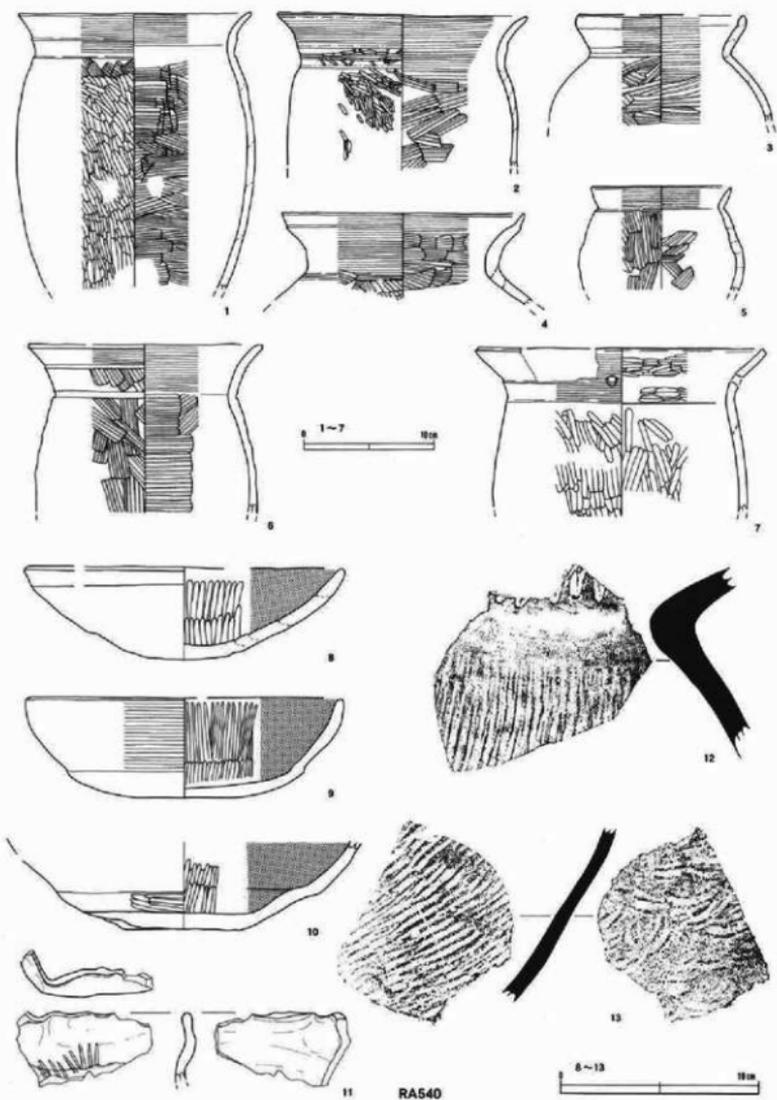
RA540 M-N

- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性中、締まり中、黄褐色土・炭化材少量混入
- 2 10YR2/4 黒色 粘性やや強、締まりやや密、暗褐色土ブロック中量混入
- 3 10YR3/4 暗褐色 明黄褐色土との混土層、粘性やや強、締まりやや密
- 4 10YR3/3 暗褐色 明黄褐色土との混土層、粘性やや強、締まり中
- 5 5YR5/8 暗褐色 粘性中弱、締まりやや弱
- 6 10YR5/6 黄褐色 黄褐色土との混土層、粘性やや強、締まり密

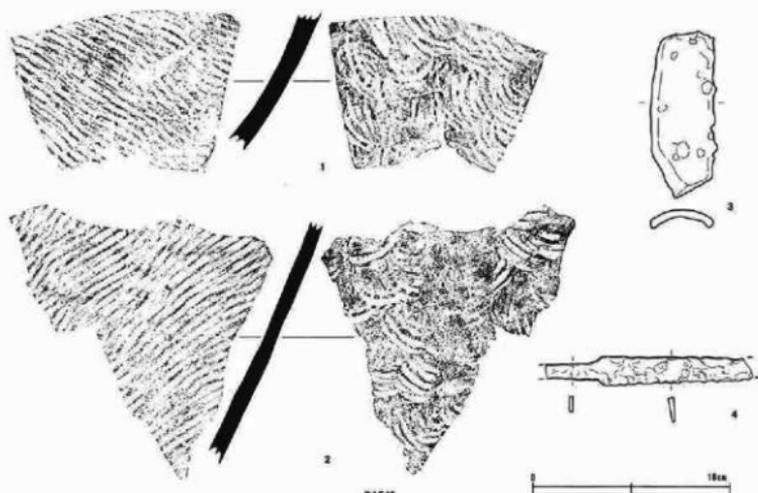


RA540

第299図 RA540(2)住居跡



第300回 RA540 (3) 住居跡



第301図 RA540 (4) 住居跡

床面はほぼ平坦で西側及び北側の壁に壁溝が通る。東側の一部は貼り床されている。各隅から1～1.5mの対角線上には柱穴状土坑がある。pp1～pp4が主となり、規模は開口部径25～40cm・深さ45～65cmである。柱痕跡は確認されていない。

かまどは作り替えられたようで、北壁中央付近に古いかまどの痕跡があり、その約1m西寄りに新しいかまどがある。いずれも袖石が抜き取られている。古いかまどは、袖石の抜き取り痕の間隔が約70cmで、煙道は残っていない。燃焼部の焼土は長径40cm・厚さ4cmである。新しいかまどは袖石抜き取り痕の間隔が約40cmで、煙道は緩く傾斜して上がり、長さ1mほどある。くり貫き式か掘り込み式かは不明である。燃焼部の焼土は長径40cmほどで厚さは痕跡程度である。

出土遺物は、床面や埋土から多量の土師器や須恵器と鉄製品2点が得られている。299-1～3は床面出土。他は埋土からの出土である。1は甕で、外面はミガキ、内面はハケメ後ミガキ調整がなされ、粘土紐の積み上げ痕も少し残る。2は丸底風の坏で、内外面とも丁寧にミガキ調整が施され、内面は黒色処理されている。3は須恵器の破片で、外面にタタキメが残る。

埋土出土の土師器甕(300-1～6)は長胴形のものと同形のものがあり、長胴形のは頸部に段が作られている。調整は、1・2が外面ミガキ・内面ハケメ、3～5は内外面ともハケメ、7は内外面ともミガキである。坏は3点とも内面がミガキ調整で、黒色処理されている。9は外面に小さな段が形成されている。10は内面に緩い段が形成され、8は粘土紐の積み上げ痕が残る。11は口縁部が片口状に作られた甕の破片である。器壁は薄い。300-12・13・301-1・2は須恵器大甕の破片と思われる。外面にタタキメ、内面にアテグ痕が残っている。3は鉄片で、少し湾曲した板状を呈している。4は刀子の破損品である。

遺構の時期は、かまどの位置や出土遺物から奈良時代と思われる。

RA541 (図版: 302・303, 写真図版: 262・320)

南端R17グリッド付近に位置し、RA540・RA542住居跡の下位に検出された。南側は調査区域外に続く。両遺構に切られているため、壁の一部と壁溝、かまどの燃焼部が残存する。平面形は隅丸方形状だったようで、北側中央付近にかまどがある。規模は軸長5.5m前後だったようである。壁高は西側で数cmである。埋土は不明である。

床面はほぼ平坦で、北側と西側の壁際に壁溝が断続的に設けられている。柱穴状土坑が1基ほど確認されているが、浅く、配置も不自然である。

かまどは北壁中央やや東寄りに設けられていたようである。袖や煙道は残らず、燃焼部の焼土の痕跡が残るのみである。

出土遺物は、埋土から土師器片が少量得られている。303-1は甕の口縁部破片で、内外にミガキ調整が施されている。2は甕の胴部破片で、外面はミガキ・内面はハケメ後軽いミガキ調整が見られる。3は頸部にわずかに段があり、外面にナデ、内面にハケメ調整が見られる。

遺構の時期は、かまどが北側にあったと思われることから奈良時代と思われる。

RA542 (図版: 303, 写真図版: 263)

南端R17グリッド付近に位置し、RA540住居跡の下位に検出された。さらに下位にあるRA541住居跡を切って作られているが、東壁と北壁の一部・かまどが残存するだけである。平面形は隅丸方形状を呈していたようで、北壁中央付近にかまどがある。規模は軸長6m前後と思われ、東側に残存する壁高は10cmである。埋土は不明である。

床面はほぼ平坦で、壁溝や柱穴は検出されていない。

かまどは北壁中央やや東寄りにあり、袖部のみが残存する。袖は角礫を芯とし黄褐色土を貼って構築していたようである。

出土遺物はない。

遺構の時期は、かまどが北側にあることから奈良時代と思われる。

RA543 (図版: 304・305, 写真図版: 263・264・320)

中央のN15グリッドに位置する。下位にはRA198・205・208など多数の住居跡がある。平面形は隅丸方形状を呈し、北壁中央付近にかまどがある。壁は外傾して立ち上がる。規模は軸長約4m、壁高は最大45cmである。埋土は黒褐色上ないしは黒色土で構成されている。

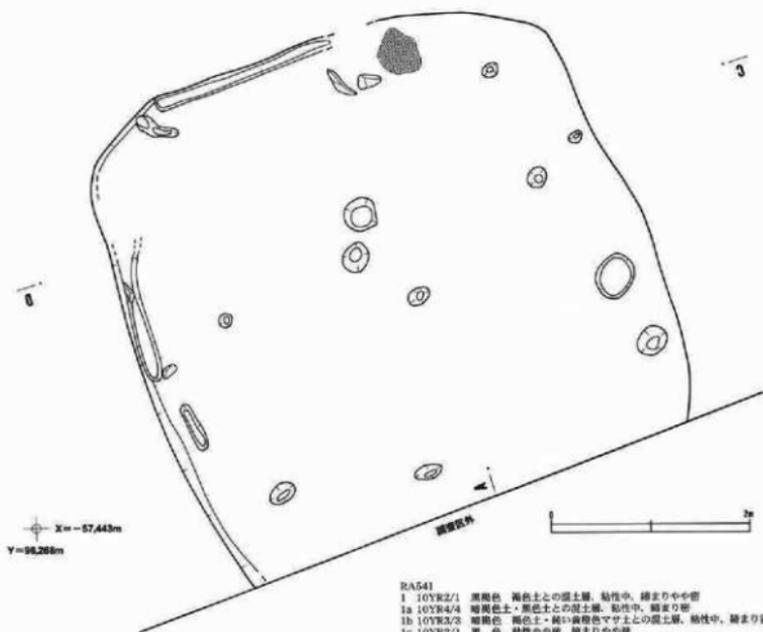
床面はほぼ平坦で、壁際に断続する壁溝が巡る。柱穴状土坑は各隅から60cm前後中央寄りに4基検出されている。規模は開口部径25～30cm・深さ35～40cmである。また南東隅に径50cm深さ35cmの小土坑がある。

かまどは北壁中央にあり、袖は残存しない。袖のあった外側付近に炭化物の細長い集中部分がある。燃焼部は焼土粒が混入する状況で明瞭な焼土は形成されていないが、煙道には焼土ブロックがある。煙道はくり貫き式で長さ約80cmである。緩く傾斜して上り、焼出穴で直立する。

出土遺物は、埋土から土師器環や鉄製品・石器等が得られている。305-1・2は丸底風の坏で、内面は磨かれ、黒色処理されている。2の外面にはケズリやハケメが残る。3は刀子または小刀の破損品と思われる。両区造りである。石器は4点とも縄文時代と思われる磨石で、平たい面に磨面が形成されたものと縁辺部に磨面が形成されたものがあり、敲打痕も見られる。

Y=96,268m
X=-57,437m

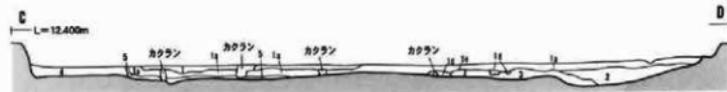
Y=96,275m
X=-57,437m



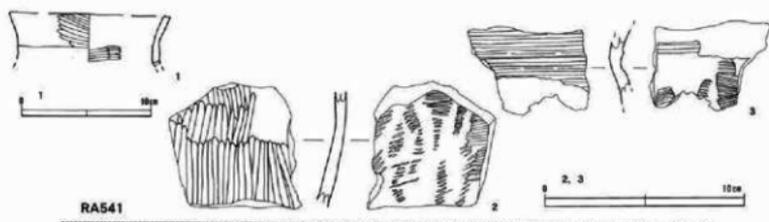
X=-57,443m
Y=96,268m

RA541

- RA541
- 1 10YR2/1 黒褐色 褐色土との混土層、粘液中、締まりや中密
 - 1a 10YR4/4 暗褐色土・黒色土との混土層、粘液中、締まり密
 - 1b 10YR3/3 暗褐色 褐色土・鈍い黄褐色マサ土との混土層、粘液中、締まり密
 - 1c 10YR2/1 黒色 粘液中や中密、締まりや中密
 - 1d 10YR4/4 褐色 暗褐色土少量混入、粘液中、締まりや中密
 - 1e 10YR4/6 褐色 暗褐色土混入、粘液中、締まりや中密
 - 2 10YR4/6 褐色 黄褐色土ブロック・鈍い黄褐色マサ土との混土層、粘液中や中密、締まりや中密
 - 3 10YR8/8 暗褐色 砂礫土、粘液中や中密、締まり密
 - 4 10YR4/6 褐色 粘土質砂礫土、粘液中や中密、締まり密
 - 5 10YR4/4 褐色 褐色土・黄褐色土との混土層、粘液中や中密、締まり中
 - 6 5YR5/8 暗褐色 塊土層、粘液中や中密、締まりや中密

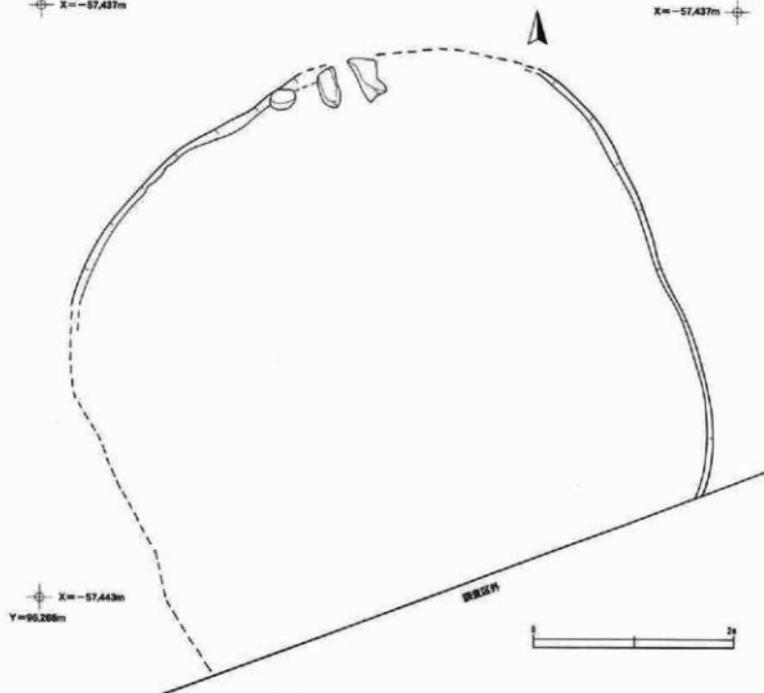


第302図 RA541 (1) 住居跡

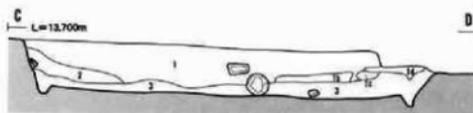
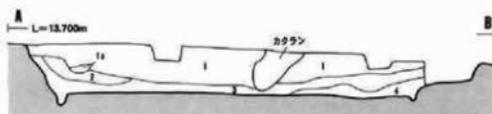
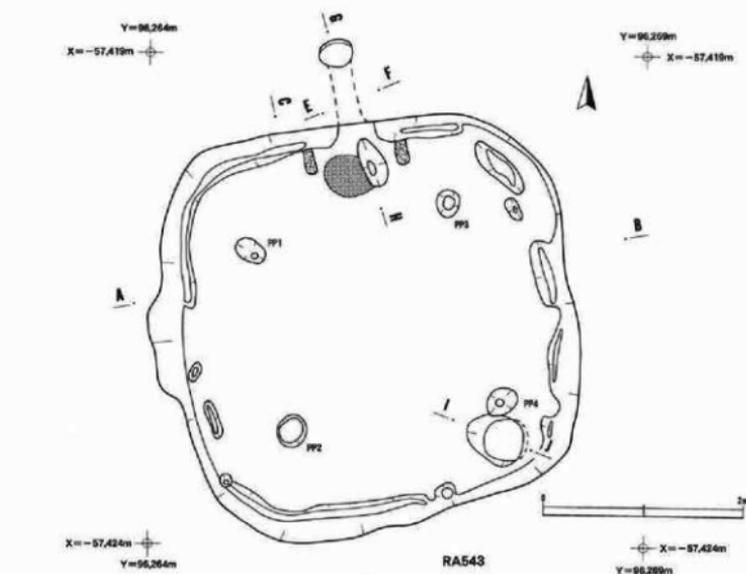


Y=96,268m
X=-57,437m

Y=96,275m
X=-57,437m



RA542
第303回 RA541 (2)・542住居跡



RA543 A-B C-D

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性中強、締まりやや強
- 1a 10YR2/1 黒色 粘性中強、締まりやや強
- 1b 10YR2/3 暗褐色 粘性中強、締まりやや強
- 1c 10YR5/8 黄褐色 粘性强、締まり中
- 1d 10YR2/2 黒褐色 粘性中強、締まりやや強、褐色砂礫土混入
- 2 10YR2/3 黒褐色 粘性中強、締まりやや強、黄褐色土ブロック混入
- 3 10YR2/1 黒色 黒褐色土との混土層、粘性やや強、締まりやや強
- 4 10YR3/3 暗褐色 粘性中強、締まりやや強、黄褐色土少量混入

L=13.100m



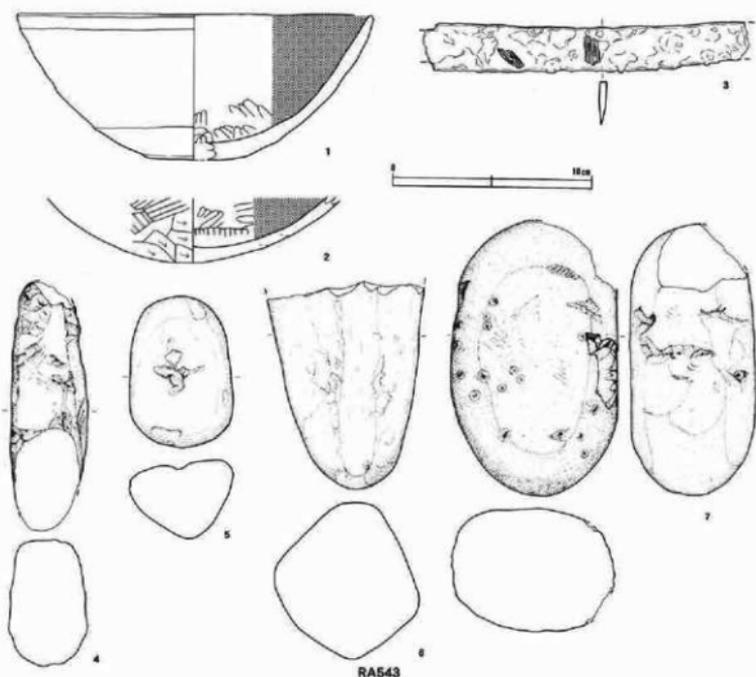
RA543

- I 10YR2/3 黒褐色 粘性中強、締まり中、粘性强 黄褐色土ブロック中量混入

RA543 E-F G-H

- 1 10YR7/6 暗褐色 粘性やや強、締まりやや強、黒褐色土・粘土少量混入
- 2 10YR3/4 暗褐色 粘性强、締まり中強、黒褐色土・粘土少量混入
- 3 10YR3/4 暗褐色 粘性强、締まり中、黄土混入
- 3a 5YR5/8 灰色 黄土、粘性中強、締まり弱
- 4 10YR3/3 暗褐色 粘性强、締まり中
- 5 10YR3/2 暗褐色 粘性中強、締まり中
- 6 10YR7/8 黄褐色 粘性強、締まり中
- 7 10YR2/2 黒褐色 粘性中強、締まりやや強、黄土少量混入
- 8 10YR8/6 黄褐色 粘性強、締まり弱
- 8a 10YR8/6 黄褐色 粘性中強、締まり中、粘土・炭化物少量混入

第304図 RA543 (1) 住居跡



第305図 RA543 (2) 住居跡出土遺物

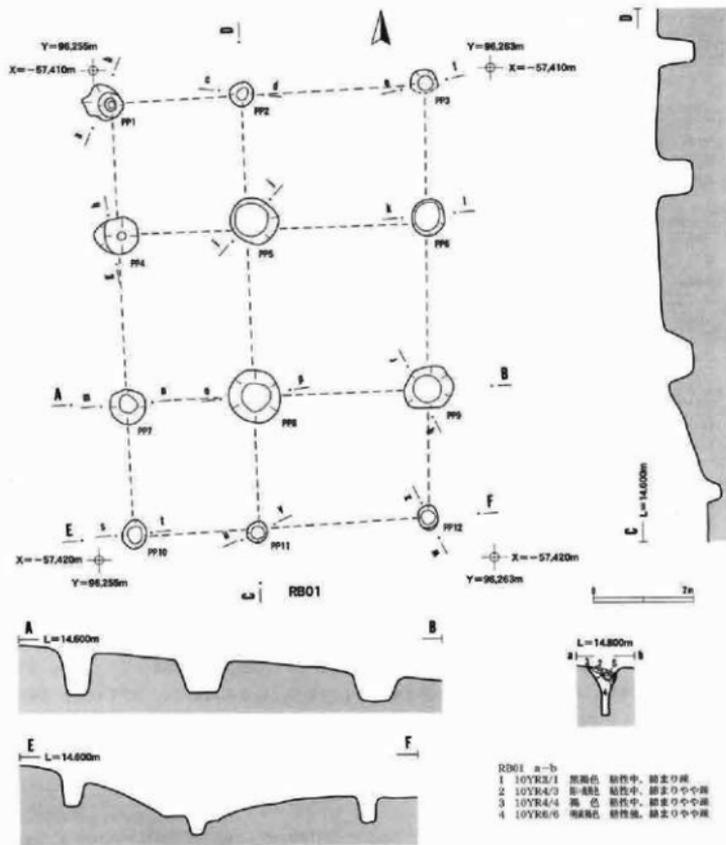
遺構の時期は、カマドの位置や出土遺物から奈良時代と思われる。

建物跡

RB01 (図版: 306・307, 写真図版: 265・266)

北西寄りK13~L14グリッドに位置し、II層下位で検出された。建物跡周辺は西側からの緩斜面が平坦化する傾斜変換線付近にあるが、整地層は確認されていない。柱穴は下位の縄文時代のRA188・220住居跡や古代のRA537住居跡などの遺構を切って作られている。柱穴の配置は東西2間、南北3間で、間隔が少し違うが南北3列の柱穴列からなり、全体の規模は南北9.5m・東西6mである。芯芯間の距離は西列と中央列で約2.5m、中央と東列で約3.5m、南列から北に向かう列間距離は2.7m・3.5m・2.7mである。各柱穴の規模は、最大で開口部径1m・深さ65cm、最小で開口部径45cm・深さ35cmである。埋土は主に黒色土で構成され、締まりは密であるが、柱痕跡は明瞭でない。

出土遺物はない。



第306図 RB01 (1) 建物跡



- RB01 ぎ-ハ
- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性や中粘、締まり強
 - 2 10YR2/3 暗褐色 鈍い黄褐色土との混土層、粘性や中粘、締まり強
 - 3 10YR2/2 黒褐色 粘中粘、締まり強
 - 4 7.5YR5/6 黄褐色 粘性や中粘、締まりや中粘
 - 5 7.5YR5/6 黄褐色 粘性や中粘、締まりや中粘、小礫混入
 - 6 10YR5/6 黄褐色 暗褐色土との混土層、粘性や中粘、締まり強
 - 6a 10YR3/3 暗褐色 粘性や中粘、締まり強
 - 6b 10YR3/3 暗褐色 粘性や中粘、締まり強

- RB01 ぬ-1
- 1 10YR1.7/1 黒色 粘性や中粘、締まり中
 - 2 10YR3/1 黒褐色 粘性や中粘、締まり強、明黄褐色土ブロック混入



- RB01 1-1
- 1 10YR3/1 黒褐色 粘性や中粘、締まりや中粘、鈍い黄褐色土少量混入
 - 2 10YR2/2 黒褐色 粘性中、締まり強、明黄褐色土少量混入
 - 3 10YR3/1 黒褐色 粘性強、締まり強、明黄褐色土少量混入
 - 4 10YR3/1 黒褐色 粘性強、締まり中、明黄褐色土少量混入

- RB01 ぬ-5
- 1 10YR2/1 黒褐色 粘性中、締まりや中粘
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色 粘性や中粘、締まり中
 - 3 10YR7/6 暗褐色 粘性や中粘、締まりや中粘
 - 4 10YR3/3 暗褐色 粘性中、締まり強
 - 5 10YR2/6 暗褐色 粘性や中粘、締まり中
 - 6 10YR2/1 黒色 粘性中、締まりや中粘



- RB01 お-ド
- 1 10YR2/1 黒色 粘性中、締まりや中粘
 - 2 10YR1.7/1 黒色 粘性中、締まり強、黄褐色土少量混入
 - 3 7.5YR2/1 黒色 粘性中、締まり強
 - 4 7.5YR2/2 黒褐色 粘性中、締まり強
 - 5 10YR2/2 黒褐色 粘性大、締まり強
 - 6 7.5YR2/2 黒褐色 粘性大、締まり強

- RB01 ぎ-1
- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性や中粘、締まりや中粘
 - 2 10YR2/2 黒褐色 黄褐色土との混土層、粘性や中粘、締まりや中粘
 - 3 10YR2/3 黒褐色 粘性や中粘、締まりや中粘
 - 4 10YR6/6 暗褐色 黄褐色土との混土層、粘性や中粘、締まり中

- RB01 ぐ-1
- 1 10YR2/1 黒色 粘性や中粘、締まり中
 - 2 10YR2/1 黒色 粘性中、締まり小なり密、明黄褐色土中量混入
 - 3 10YR2/1 黒色 粘性中、締まり中、明黄褐色土少量混入
 - 4 10YR2/1 黒色 粘性中、締まり中、明黄褐色土中量混入
 - 5 10YR2/1 黒色 粘性中、締まり中、明黄褐色土少量混入
 - 6 10YR5/3 灰褐色 粘性や中粘、締まりや中粘
 - 7 10YR4/2 灰黄褐色 粘性や中粘、締まり中
 - 8 10YR6/4 暗褐色 粘性強、締まり中
 - 9 10YR2/1 黒色 粘性中、締まり中

- RB01 ぬ-x
- 1 10YR3/1 黒褐色 粘性中、締まりや中粘
 - 2 10YR2/1 黒色 粘性中、締まり中
 - 3 10YR7/6 暗褐色 粘性や中粘、締まりや中粘

RB01

第307図 RB01 (2) 建物跡

時期は古代のRA537住居跡を切っていることから、古代より新しい時期の建物跡と考えられる。岩手町黄金堂遺跡から当遺構に類似する掘建建物跡が検出されており、仏堂の可能性を上げている。本遺跡では東柱痕などを欠き若干様相が異なるが、特別な建物だった可能性はある(千葉)。

土坑

RD77 (図版: 308, 写真図版: 267)

南寄りのR14グリッドに位置する。重複はない。平面形はほぼ円形で、壁は直立気味に内湾する。規模は開口部径約90cm・底部径65cm、深さ40cmである。埋土は黒褐色土や暗褐色土で構成され、締まりはやや密である。底面はほぼ平坦である。

出土遺物は、埋土から縄文時代前期の土器片が得られているとカードにはあるが、整理時には行方不明であった。

遺構の時期は、埋土の状況から古代の可能性はある。

RD78 (図版: 308, 写真図版: 267)

南寄りのQ15グリッドに位置し、II層下部で検出した。古代のRA535住居跡の北側壁を切って構築され

ている。北西の開口部に巨礫が露出するが、平面形は楕円形状を呈する。壁は直立気味に外傾する。規模は開口部で長軸1.25m・短軸1.15m、底部で長軸1.05m・短軸0.95m、深さ25cmである。埋土は主に黒色土で構成され、締まりは密である。底面は南側に攪乱のような凹凸があるが他は平坦である。

出土遺物は、縄文時代前期・中期・弥生時代の上器片と土師器片があるとカードにはあるが、整理時には確認できなかった。

遺構の時期は、古代の可能性はある。

RD86 (図版: 308, 写真図版: 267)

南端のT14グリッドに位置する。南側が調査区外に続くが、平面形は円形を呈していたようである。壁は湾曲し、西側の床面近くは奥に入り込んでいる。規模は開口部径1.4m、底部径1.3m、深さ90cmである。埋土は褐色土や黒褐色土・黄褐色土が腐状に堆積する。底部は中央が湾曲してくぼむ丸底となる。

出土遺物は、埋土から縄文土器片が少量出土している。深鉢の破片で、S字状沈文や羽状縄文が施文され、胎土にセンイが混入する。

遺構の時期は、縄文時代の前期の可能性が高いが、古代の可能性もあり詳細は不明である。

RD92 (図版: 308, 写真図版: 267・320)

南寄りのQ14グリッドに位置し、RA535住居跡の貼り床の下に検出された。平面形は楕円形状で、壁は直立気味に外傾する。規模は開口部で長軸105cm・短軸90cm、底部で長軸90cm・短軸70cm、深さ20cmである。埋土は上位が鈍い黄褐色土、下位が灰黄褐色土で構成される。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はない。

遺構の時期は、古代の可能性はあるが不明である。

RD108 (図版: 309, 写真図版: 268・320)

南東寄りのP18グリッドに位置する。検出層位は不明、V層の可能性もある。不定形の土坑が集合した感じの土取り穴である。2.1m×1.6mの範囲で、深さは最大65cmで、一部はオーバーハングして掘り込まれている。埋土は主に黒褐色土で構成され、褐色土が混入している。V層の黄褐色土を掘り出したようで、底面は凹凸が激しい。

出土遺物は磨石1点がある。

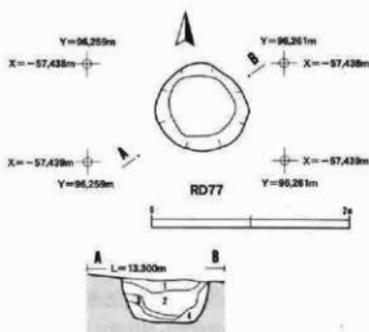
遺構の時期は、埋土が古代の遺構に類似することから古代の可能性はある。

RD120 (図版: 309, 写真図版: 268・320)

北寄りのK15グリッドに位置する。RA532住居跡の西壁に接し、弥生時代のRA200住居跡の北西壁を切る。平面形は円形状で、断面は外傾する。規模は開口部径約1m、底部は80cm×60cm、深さ45cmである。埋土は不明。底部は丸底となる。

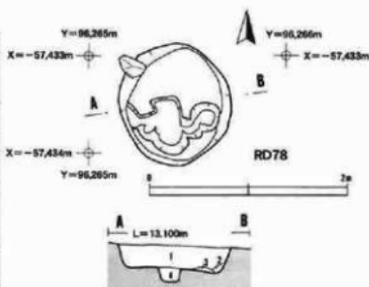
出土遺物は埋土から縄文時代前期の土器片1点が得られている。S字状沈文が施文され、胎土にセンイを混入する。

遺構の時期は、埋土がRA537の貼床と同様なので、古代の可能性はある。



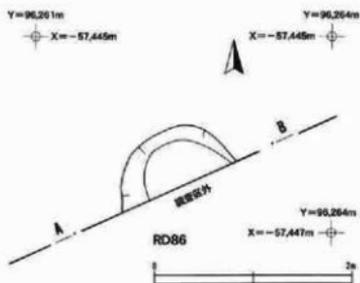
RD77

- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性中、締まり中密
- 2 10YR2/3 暗褐色 粘性强、締まり密
- 3 10YR2/3 黄褐色 粘性强、締まり密
- 4 10YR2/2 黒褐色 粘性中、締まり密



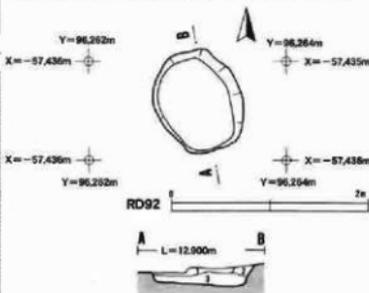
RD78

- 1 10YR2/1 黒色 粘性强、締まり密
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘性强、締まり密
- 3 10YR2/2 黒褐色 粘性强、締まり密
- 4 10YR2/2 黒褐色 粘性强、締まり密、黄褐色土ブロック少量混入



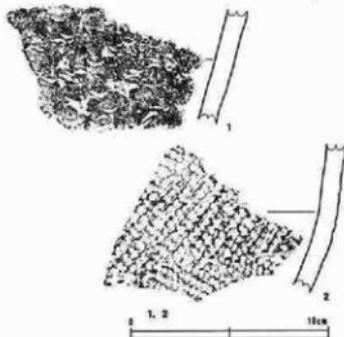
RD86

- 1 10YR4/4 褐色 締褐色土上の黄土層、粘性中、締まりやや疎、わずかに混入
- 1a 10YR4/4 褐色 締褐色土上の黄土層、粘性中、締まりやや疎、わずかに混入
- 1b 10YR4/4 褐色 黄褐色土上の黄土層、粘性やや中疎、締まり中、わずかに混入
- 2 7.5YR2/3 暗褐色 粘性やや中疎、締まりやや中疎、炭化物少量混入
- 2a 10YR2/3 黒褐色 粘性やや中疎、締まりやや中疎、炭化物少量混入
- 3 10YR2/4 暗褐色 粘性やや中疎、締まり中、わずかに混入
- 4 10YR4/4 褐色 粘性やや中疎、締まり中、炭化物少量混入
- 5 10YR2/3 暗褐色 粘性やや中疎、締まりやや中疎、炭質
- 6 10YR4/2 灰褐色 黄褐色土上の黄土層、粘性やや中疎、締まり中

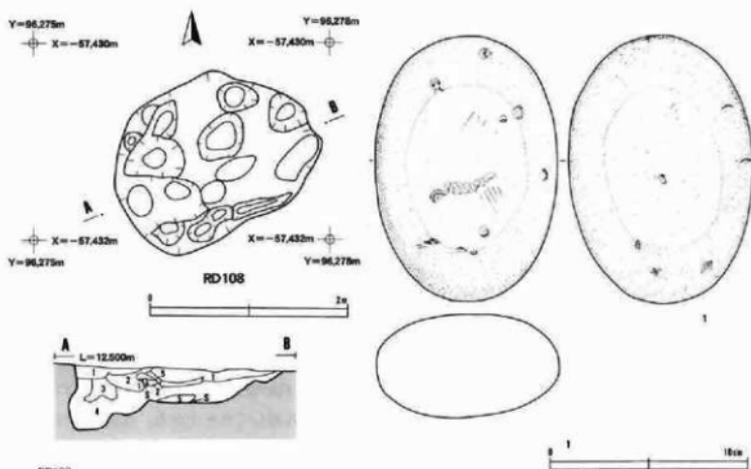


RD92

- 1 10YR4/3 灰褐色 粘性中、締まり密、黒褐色土中混入
- 2 10YR4/4 褐色 粘性やや中疎、締まり中
- 3 10YR4/2 灰褐色 粘性やや中疎、締まり中、黒褐色土中混入

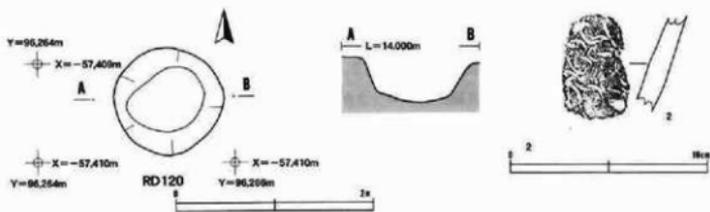


第308図 RD77・78・86・92土坑



RD108

- 1 10YR2/3 黒褐色 細まりやや碎、粘性やや碎、黄褐色土ブロック少量混入
- 2 10YR2/1 黒褐色 細まりやや碎、粘性やや碎
- 3 10YR4/4 褐色 細まりやや碎、粘性やや碎
- 4 10YR2/3 黒褐色 黄褐色マサ土との混土層、細まりやや碎、粘性やや碎
- 5 10YR4/4 褐色 細まりやや碎、粘性やや碎



第309図 RD108・120土坑

(4) その他 (時期不明)

竪穴状遺構

RE09 (図版: 310, 写真図版: 268・269)

北寄りのL16～M16グリッドに位置し、Ⅲ層相当の礎層上で検出した。重複はない。平面形は隅丸方形状で、壁は直立ないしは外傾する。規模は軸長3.5m・壁高20cmである。埋土は黄褐色土や礫を多く含む黒褐色土で構成される。

床面はやや起伏がある。一部に巨岩が露出し、また床面上にも多くの礫が見られた。壁溝や柱穴状土坑・炉跡はない。

出土遺物はない。

時期は出土層位からは縄文時代の可能性があるが、不明である。

土坑

RD79 (図版: 310, 写真図版: 269)

南寄りのQ17グリッドに位置し、Ⅱ層下部で検出した。RD78土坑の南東5mの所にある。下位には縄文時代のRA187・207住居跡がある。平面形は円形状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。規模は開口部径約1.2m・底部径1m、深さ20cmである。埋土は主に黒色土で構成され、締まりは密である。底面は平坦である。

出土遺物は、底面から土器片が出ていると図面には記載があるが、整理時には確認できなかった。

遺構の時期は、不明である。

RD80 (図版: 310, 写真図版: 269)

南寄りのR16グリッドに位置し、Ⅱ層下部で検出された。下位にRA540住居跡がある。南側に巨礫が接するが、平面形はほぼ円形状で、壁は直立気味である。規模は開口部径約1m・底部径0.9m、深さ40cmである。埋土は主に黒色土からなり、黄褐色土ブロックが混入している。底面は平坦である。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD89 (図版: 311, 写真図版: 270)

北端寄りのJ15グリッドに位置し、RA532住居跡の床下で検出した。平面形は楕円形状を呈し、壁は外傾する。規模は開口部で長軸115cm・短軸95cm、底部で長軸75cm・短軸70cm、深さ30cmである。埋土は不明。底面は平坦である。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD90 (図版: 311, 写真図版: 270)

北西寄りのK13グリッドに位置し、Ⅱ層下部で検出した。弥生時代のRA177住居跡や縄文時代のRA220住居跡と重複するようだが、前後関係は不明である。試掘トレンチで北側が破損しているが、平面形は楕円形状を呈する。壁は直立気味に外傾する。規模は開口部で長軸60cm・短軸45cm、底部で長軸45cm・短軸25

cm、深さ35cmである。埋土は黒色土で構成され、締まりは密である。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD91 (図版：311, 写真図版：270)

北西寄りのK13グリッドに位置し、II層下面で検出した。RD90土坑の南東50cmにある。RA177住居跡と重複するが前後関係は不明である。平面形は円形状で壁は直立気味である。規模は開口部径35cm、底部径25cm、深さ20cmである。埋土は黒褐色土や灰黄褐色土で構成される。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD93 (図版：311, 写真図版：270)

北寄りのJ14グリッドに位置する。RA202住居跡を切っている。平面形は楕円形状、断面は壁が丸底から連続する掘り鉢状である。規模は開口部で50cm×40cm、底部で40cm×25cm、深さ25cmである。埋土は明黄褐色土や褐色土・暗褐色土・橙色土からなり、礫が多量に混入している。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD95 (図版：311)

北端のI15グリッドに位置する。平面形は円形状を呈し、壁は外傾する。規模は開口部径約1.2m・底部径約60cm、深さ70cmである。埋土は不明。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD96 (図版：311)

北端寄りのJ15グリッドに位置する。平面形はややいびつで不整形であるが円形を基調とする。壁は外傾する。規模は開口部径約1.4m・底部径約0.8m、深さ40cmである。埋土は不明。底面は丸底風である。

出土遺物はない。

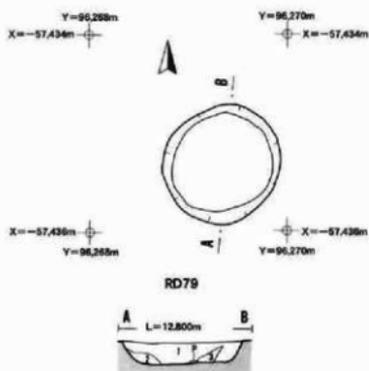
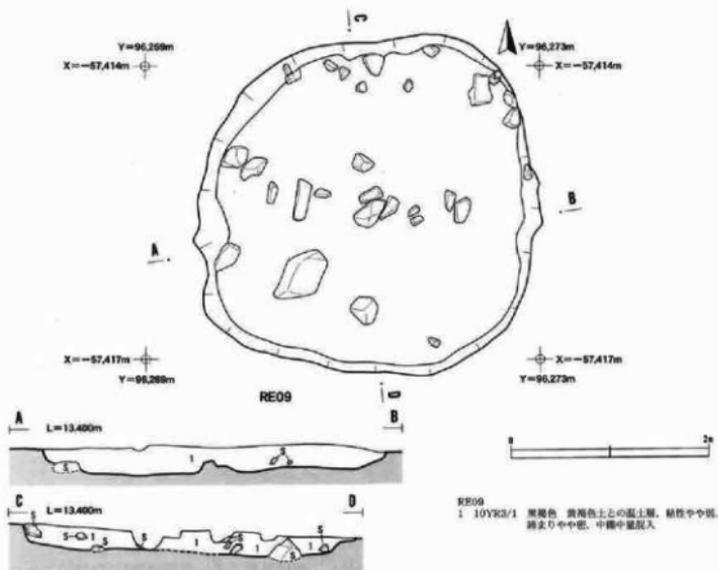
遺構の時期も不明である。

RD97 (図版：311, 写真図版：271)

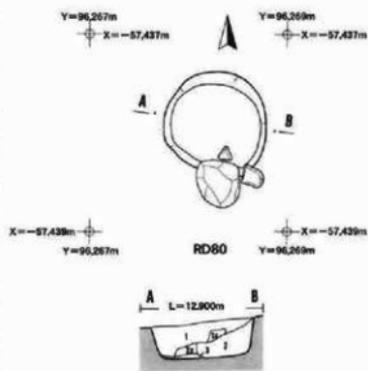
西寄りのN13グリッドに位置し、RA533住居跡の床面下で検出した。平面形は楕円形状を呈し、壁は直立気味に外傾する。規模は開口部で長軸70cm・短軸50cm、底部で長軸40cm・短軸30cm、深さ35cmである。埋土は黒褐色土を主に、黄褐色土のブロックが混入する。底部は南東側に小さな段があり、二段になる。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

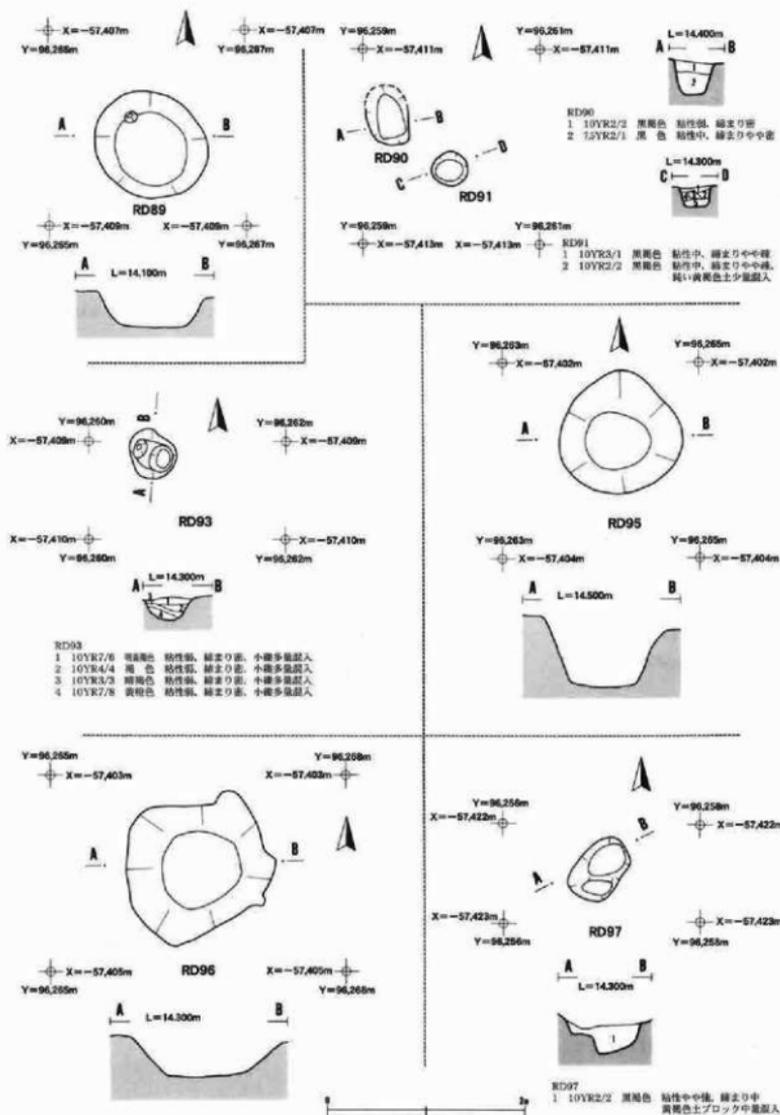


- RD79
- 1 10YR2/1 黒色 粘性強、締まり密
 - 2 10YR2/2 黒褐色 粘性強、締まり密、黄褐色土ブロック混入
 - 3 10YR2/3 黒褐色 粘性強、締まり中



- RD80
- 1 10YR2/1 黒色 粘性強、締まり密
 - 1a 10YR2/1 黒色 粘性強、締まり密、黄褐色土ブロック混入
 - 2 10YR1/1 黒色 粘性強、締まり密
 - 2a 10YR1/1 黒色 粘性強、締まり密、黄褐色土ブロック少量混入
 - 3 10YR2/1 黒色 粘性強、締まり密

第310図 RE09竪穴状遺構、RD79・80土坑



第311図 RD89～91・93・95～97土坑

RD98 (図版：312, 写真図版：271)

北寄りのJ14グリッド付近に位置し、Ⅱ～Ⅲ層で検出した。重複遺構はない。開口部西側に小土坑があり、隅丸長方形の平面形を呈するが、本来は楕円形状だったようである。壁は直立気味に外傾する。規模は開口部で65cm×40cm、底部で35cm×30cm、深さ25cmである。埋土は暗褐色土や黒褐色土からなり、底部付近に褐色土も混入する。底部は丸底風で、西寄りに小土坑がある。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD99 (図版：312, 写真図版：271・320)

西寄りのN13グリッドに位置し、RA533住居跡の床面下で検出した。南東に小土坑が有り、平面形は不整な楕円形を呈し、壁は外傾する。規模は開口部で1.4m×0.9m、底部で1.1m×0.7m、深さ40cmである。埋土は上位が黒褐色土、下位が明黄褐色土を主に構成される。

出土遺物は埋土から石器2点が得られている。312-1はつまみが作り出されているので石匙と思われるが刃部加工は不完全である。2は削核器である。

遺構の時期は、縄文時代の可能性もあるが不明である。

RD100 (図版：312, 写真図版：271)

北端寄りのJ15グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は円形状を呈し、壁は一部階段状になるがほぼ直立する。規模は開口部径45cm、底部径25cm、深さ30cmである。埋土は暗褐色土と褐色土・明黄褐色土からなり、締まりは密である。

底面は平坦である。全体として柱穴状である。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD101 (図版：312, 写真図版：272)

北端寄りのJ15グリッドに位置し、RA532住居跡のかまどの下に検出された。RD100土坑の南東約1.5mにある。平面形は楕円形状を呈し、壁は外傾する。規模は開口部で長軸1m・短軸85cm、底部で長軸80cm・短軸55cm、深さ35cmである。埋土は黄褐色土や明黄褐色土・黄褐色土などからなり、締まりは密である。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD102 (図版：312, 写真図版：272)

西寄りのO13グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は楕円形状、壁は直立気味に外傾する。規模は開口部で長軸1.1m・短軸0.7m、底部で長軸0.8m・短軸0.6m、深さ25cmである。埋土は褐色土や黄褐色土からなる。底部は丸底風で、中央付近に小土坑がある。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD106 (図版: 313, 写真図版: 272)

北寄りのL14グリッドに位置し、RA537住居跡の床面下で検出した。複数の小土坑が接続したような不整形で、壁は外傾する。規模は開口部で長軸75cm・短軸65cm、深さ40cmである。埋土は明黄褐色土を主とし、黒褐色土が混入している。底面は凹凸があり、くぼみが3カ所連続する。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD107 (図版: 313, 写真図版: 272)

中央付近のO15グリッドに位置し、RA536住居跡に切られている。平面形は不整な楕円形で、壁は外傾する。規模は開口部で2m×1.5m、底部で1.4m×0.95m、深さ40cmである。埋土は注記が無く不明である。埋上下位に大きな礫が混入している。底面は不定形に凹凸している。

出土遺物はない。

遺構の時期も不明である。

RD110 (図版: 313, 写真図版: 273)

東寄りのO18グリッドに位置し、Ⅲ層上部にて検出された。重複遺構はない。平面形は楕円形状で、壁はほぼ直立する。規模は開口部径1m×80cm、底部径70cm×60cm、深さ70cmである。埋土は主に黒褐色土で暗褐色土や黄褐色土が混入する。底面には巨岩が露出し、ほぼ平坦である。

遺物は、出土していない。

遺構の時期は、埋土の色調から弥生以降古代の可能性があると不明である。

焼土遺構

RF21 (図版: 313, 写真図版: 273)

西寄りのN13グリッドに位置し、Ⅳ～Ⅴ層で検出した。重複遺構はない。長径65cm・短径55cmの楕円形状に広がり、厚さは最大5cmほどである。周囲には柱穴状土坑や壁溝など住居跡の痕跡を示すものは見られない。

出土遺物はない。

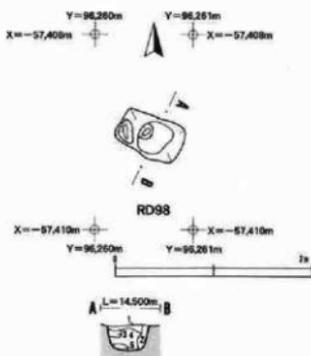
遺構の時期は、縄文時代の可能性が大きいと不明である。

RF22 (図版: 313, 写真図版: 273)

北端の115グリッド付近に位置し、Ⅳ～Ⅴ層で検出された。重複遺構はない。巨礫の露出するところに長さ1.9m・幅1.1mの範囲で焼土が広がる。焼土の厚さは最大10cmである。周囲に柱穴状土坑や壁溝など住居跡の痕跡をとどめるものはない。

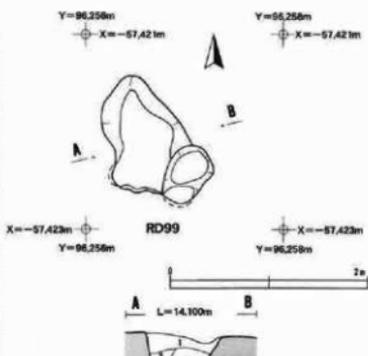
出土遺物はない。

遺構の時期も不明であるが、縄文時代の可能性が大きい。



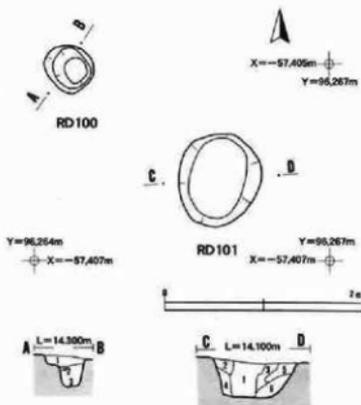
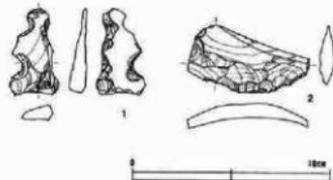
RD98

- 1 10YR2/1 黒色 締まりや中硬、粘性中
- 2 10YR3/3 暗褐色 締まり中、粘性や中硬、小礫少量混入
- 3 10YR3/3 暗褐色 褐色土との混生層、締まり弱、粘性強
- 4 10YR2/1 黒褐色 締まりや中硬、粘性や中硬
- 5 10YR4/4 黄褐色 締まりや中硬、粘性や中弱



RD99

- 1 10YR2/2 暗褐色 粘性強、締まりや中硬、黄褐色土少量混入
- 2 10YR2/2 暗褐色 粘性強、締まりや中硬、黄褐色土混入
- 3 10YR7/6 赤褐色 粘性強、締まりや中硬、黄褐色土少量混入

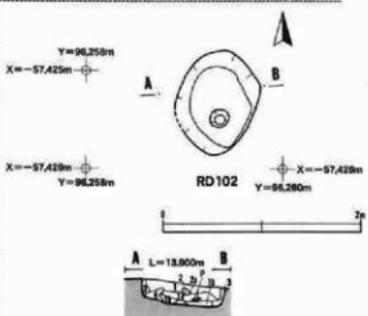


RD100

- 1 10YR3/3 暗褐色 粘性強、締まり強
- 2 10YR4/4 黄褐色 粘性強、締まり強
- 3 10YR4/4 黄褐色 粘性強、締まり強、炭化物少量混入

RD101

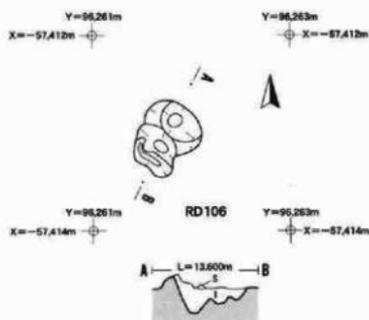
- 1 10YR5/6 黄褐色 粘性強、締まり強
- 2 10YR6/6 暗褐色 粘性強、締まり強
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘性強、締まり強
- 4 10YR6/6 暗褐色 粘性強、締まり強
- 5 10YR5/6 黄褐色 粘性強、締まり強
- 6 10YR7/6 赤褐色 粘性強、締まり強



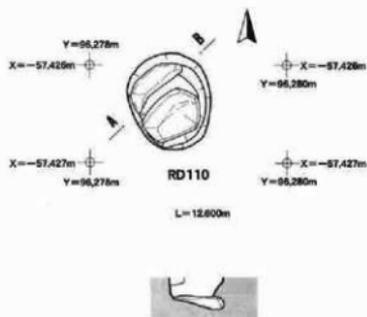
RD102

- 1 10YR4/3 緑褐色 粘性や中硬、締まりや中硬、炭化物少量混入
- 1a 10YR3/2 黄褐色 粘性や中硬、締まりや中硬、炭化物多量、土層片少量混入
- 1b 10YR4/6 黄褐色 粘性や中硬、締まりや中硬
- 2 10YR5/4 緑褐色 粘性や中硬、締まりや中硬
- 3a 10YR5/6 黄褐色 粘性中、締まりや中硬、砂礫混入
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘性中、締まりや中硬
- 4 10YR4/6 黄褐色 粘性や中硬、締まり中、砂礫混入

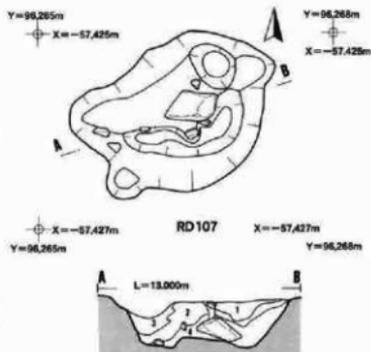
第312図 RD98~102土坑



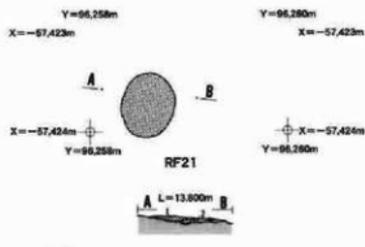
RD106
1 10YR7/6 明黄褐色 粘状やや硬、締まりやや硬、黄褐色土中埋没入



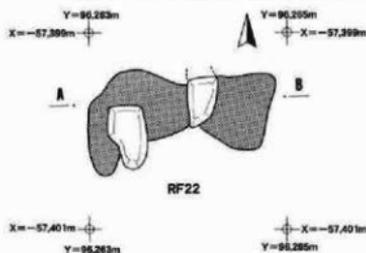
RD110
1 10YR2/2 黄褐色 締まりやや硬、粘性强
2 10YR3/3 暗褐色 締まり中、粘状やや硬
3 10YR5/8 黄褐色 締まりやや硬、粘性强
4 10YR3/2 暗褐色 黄褐色土との混土層、締まりやや硬、粘性强



RD107
1 10YR2/2 黄褐色 締まりやや硬、粘性强
2 10YR3/3 暗褐色 締まり中、粘状やや硬
3 10YR5/8 黄褐色 締まりやや硬、粘性强
4 10YR3/2 暗褐色 黄褐色土との混土層、締まりやや硬、粘性强



RF21
1 10YR4/8 赤褐色 硬土、締まり硬、粘性强
2 7.5YR5/6 明褐色 硬土、締まり硬、粘状やや硬



RF22
1 5YR5/8 明赤褐色 硬土、粘性强、締まり中

第313図 RD106・107・110土坑、RF21・22焼土遺構

C 西区

西区で検出された遺構は縄文時代の上坑1基、古代の木炭窯2基・焼土遺構1基、時期不明の土坑1基である。

(1) 縄文時代

落とし穴

R221 (図版：314, 写真図版：273)

西側斜面のK18グリッドに位置し、古代の木炭窯RD72の下位に検出された。溝状を呈し、陥し穴と思われる。北側は調査区域外にあるので全長は不明であるが、検出した範囲では長軸約3m、開口部幅50cm・底部幅10cm、深さ1.3mである。埋土は黒褐色土や暗褐色土で構成され、締まりはやや密である。

出土遺物はない。

遺構の時期は、縄文時代と思われる。

(2) 古代

土坑

RD71 (図版：314, 写真図版：274)

西側斜面部のN96土坑に位置し、表土直下で検出した。斜面部のせいから東側壁は残存しないが、平面形は小判形を呈していたようである。壁は内湾気味に外傾して立ち上がる。長軸は等高線に平行する。規模は開口部で長軸3.6m・短軸約2m、底部で長軸2.9m・短軸1.5m、深さは西側で35cmほどである。埋土は黒褐色土で、炭化物を混入する。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はない。

遺構の時期は、古代と思われる。

RD72 (図版：314, 写真図版：274・320)

西側斜面部のK98グリッドに位置し、表土直下で検出された。表土除去の削平を受け一部残存しないが、平面形は楕円形状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。規模は開口部で長軸2.1m端軸1.4m、底部で長軸1.8m・短軸1.3m、深さ20cmである。埋土は炭化物を多く含む黒褐色土で構成される。底面はほぼ平坦で、一部に炭化材が集中する。

出土遺物は、埋土から無茅の石鎌1点が出土している。

この遺構の時期は、検出層位等から古代の木炭窯のようである。

焼土遺構

RF20 (図版：315, 写真図版：275)

西側の山の斜面中位のL99グリッドに位置している。表土直下のII層黒褐色土上に検出された。試掘の時点で周囲に鉄滓や炉壁が出土しており、古代の工房跡の可能性が考えられたが、この遺構と周囲の遺物は直接結びつかないことが明らかになった。図のように斜面上に長軸65cm・短軸50cmの範囲に焼土が形成されている。焼土の厚さは最大6cmである。

遺物は、周囲から約5kgの鉄滓が得られたほかは無い。

遺構の時期は、状況から古代の可能性が高い。

(3) その他(時期不明)

土坑

RD74 (図版:315, 写真図版:275)

西側斜面部のK98グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形状を呈し、壁は直立気味である。規模は開口部で120cm×55cm、底部で110cm×40cm、深さ90cmである。土上は黒色上や黒褐色土で、少量の炭化物や黄褐色土ブロックを混入し、締まりは密である。

出土遺物はない。

この遺構の時期も不明である。

(参考・引用文献)

仙台市教育委員会, 1980: 三神半遺跡発掘調査報告書, 仙台市文化財調査報告書第25集。

宮城県教育委員会, 1985: 今熊野Ⅱ遺跡(縄文・弥生時代編), 宮城県文化財調査報告書第14集。

日黒吉明, 1982: 住居の炉, 縄文文化の研究第8巻, 雄山閣出版。

宮本長二郎, 1990: ベッド状遺構と屋内施設, 季刊考古学第32号, 雄山閣出版。

山本師夫, 1996: 住居の変遷, 考古学における日本歴史第15巻, 雄山閣出版。

(財)岩手県埋蔵文化財センター, 1979: 主要地方道一樹・北上線関連遺跡発掘調査報告書, 岩手県埋蔵文化財調査報告書第8集。

(財)岩手県埋蔵文化財センター, 1981: 御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書, 岩手県埋蔵文化財調査報告書第27集。

(財)岩手県埋蔵文化財センター, 1985: 黄金堂遺跡発掘調査報告書, 岩手県埋蔵文化財調査報告書第86集。

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 1986: 五處Ⅰ遺跡発掘調査報告書, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第97集。

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 1988: 飛鳥台地Ⅰ遺跡発掘調査報告書, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第120集。

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 1988: 平沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第125集。

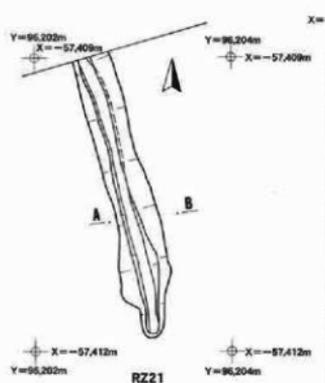
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 1991: 上村貝塚発掘調査報告書, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第158集。

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 1992: 徳丹城跡発掘調査報告書, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第167集。

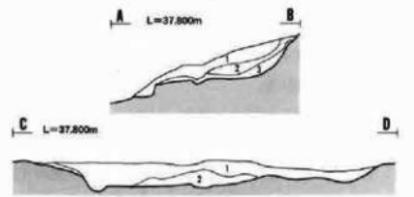
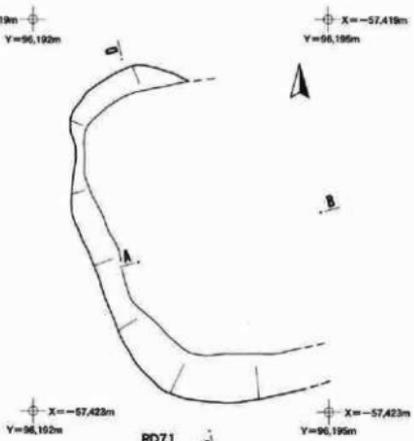
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 1997: 沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第268集。

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 1998: 江刺家Ⅳ遺跡発掘調査報告書, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第277集。

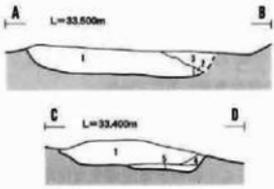
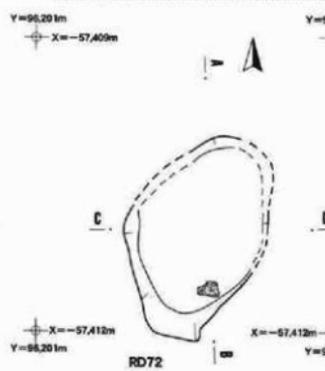
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 1998: 本内Ⅱ遺跡発掘調査報告書, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第271集。



- RZ21
- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性中、締まりやや弱
 - 2 10YR2/3 暗褐色 粘性中、締まりやや弱、炭少量混入
 - 3 10YR3/3 暗褐色 粘性中、締まりやや弱
 - 4 10YR3/3 暗褐色 粘性强、締まり密
 - 5 10YR2/4 暗褐色 粘性强、締まり密、炭褐色土ブロック少量混入
 - 6 10YR5/6 黄褐色 粘性强、締まり密



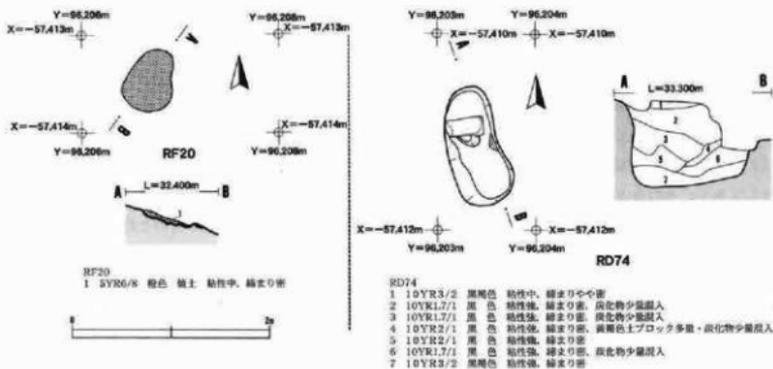
- RD71 A-B C-D
- 1 10YR1.7/1 黒色 粘性强、締まり密、炭化物少量混入
 - 2 10YR1.7/1 黒色 粘性强、締まり密
 - 3 10YR2/1 黒色 粘性强、締まり密



- RD72
- 1 10YR1.7/1 黒色 粘性中、締まり密、炭化物多量混入
 - 2 10YR2/2 黒褐色 粘性强、締まり密
 - 3 10YR2/1 黒褐色 粘性强、締まり密、炭化物少量混入
 - 4 10YR1.7/1 黒色 粘性中、締まりやや弱
 - 5 10YR1.7/1 黒色 粘性强、締まりやや弱



第314図 RZ21落とし穴、RD71・72土坑



第315図 RF20焼土遺構、RD74土坑

3 遺構外の出土遺物

土器

1 縄文時代早期の土器群 (図版: 316-1~7, 写真図版: 321-1~7)

微隆起線による幾何学的文様を構成する土器群 (1~3) と、貝殻文による文様施文の土器群 (4~7) がある。前者は器壁の厚さが4~5mmと薄く、二本一組の微隆起線で斜位あるいは三角形に区画した内部に、微隆起線を間隔を狭くして幾何学的に施文している。3片のみの出土であり、全体の形状や施文の範囲は良くわからない。福島県いわき市竹ノ内遺跡や宮城県槻の木貝塚・住田町蛇王洞遺跡などから良好な資料が出土しており、それらと同様な尖底の深鉢で、体部上半に文様が施文されるのかもしれない。

貝殻文の土器群も4点と少ないので全体の形状は不明であるが、尖底土器になるものと思われる。4・5の様に条痕と刺突や爪形のもの6・7のように復縁文がある。

2 縄文時代前期初頭~前葉の土器群 (図版: 316-8~324-3, 写真図版: 321-8~327-15)

(1) 尖底土器群 (316-8~13) 乳房状に近い形状の尖底土器である。接続破片が無く上部の器形や施文は不明である。斜行縄文が施文され、胎土にはセシイを混入している。

(2) 胎土にセシイが混入する土器群 (316-14~324-3) 深鉢または鉢の破片が多く、底部まで接合するものはないが、遺構伴出遺物や同時に出土した底部破片から平底の土器のようである。平口鉢のものが多いのだが波状口縁のものもある。ループ文や斜行縄文・羽状縄文が施文されたものから粘土紐の貼り付けや押圧・刺突、燃糸文、不整燃糸文、S字状沈文、竹管または櫛書きによる波縄文まで、多用である。

316-16のような結節回転文は大木1式期相当とおもわれる。

318-10~319-5のように粘土紐の貼付や押圧・刺突、行身部の刻みが行われた土器群は大木2a式期に相当するようである。318-7~9の羽状縄文は13の羽状縄文と同様なので同時期と思われる。318-20や319-1、321-15・16の粘土紐の下や下位に施文された不整燃糸文は、粘土紐を貼り付けない土器にも多く見られ、同様な時期と思われる。322-21~25の様な貸瓦状沈文や多くの燃糸文も大木2a式期に相当するようである。324-1~3の竹管または櫛書きによる波状文も大木2a式期に相当する。323-2~19のようなS字状沈文は大木2b式期に特有の施文である。この土器片は胎土にセシイが微量に混入するだけなので、同様にセシイが微量の網口状燃糸文も2b相当の可能性がある。斜行縄文や羽状縄文だけのものでもセシイが多量に含まれるのは、大木1式期に相当するようである。また胎土にセシイが多量に混入するが、尖底の土器群を前期初頭、それ以外の胎土にセシイの混入する土器群を前期前葉とした。

3 縄文時代前期中葉から後葉の土器群 (図版: 324-4~326-7, 写真図版: 327-16~329-12)

山形沈線や粘土紐を波状や格子状に貼り付けて施文する土器群である。器形は胴部が膨らみ口縁部が外反する金魚鉢形の鉢や、胴部から口縁部まで外傾する深鉢があるようである。地文は斜縄文が多く、胴部上半から口縁部の内外に細い粘土紐を貼り付けて文様を施文している。324-6・7のようにやや幅の広い粘土紐を頸部付近に貼り、連続刺突を施したものもあるが、細い粘土紐で波状や渦巻き状・梯子状に施文するものが多い。

324-4の様に沈線文や326-7の様に沈線区画の中を連続刺突したものは大木3式期に相当する可能性もあるが明瞭でない。粘土紐の貼り付け片も長い紐を流れるように貼り付けており、大木4式期に相当するようである。

4 縄文時代中期中葉の土器群 (図版: 326-8~327-16, 写真図版: 329-13~330-18)

平行沈線と隆線による渦巻文や曲線文が施文されている土器群である。器形はほとんど深鉢のようで、波状口縁と平口縁がある。また口縁部は内湾するものと外傾するものがあるが、内湾するものが多い。口縁部突起が立体的かつ装飾的になるものもある。地文は斜行縄文が主で、施文は土器全面に展開するようである。渦巻きから棘状の突起の出るものは大木8b式期に相当するようである。327-6・15のように押圧状文や平行沈線が施文され、口縁部付近に文様が展開すると思われるものは、大木7b式期の可能性もあるが、明確ではない。

5 縄文時代中期後葉から末葉の土器群 (図版: 328, 写真図版: 330-19~331-9)

沈線と磨消による文様が施文される土器群である。器形は深鉢が主体でキャリバー状のものや胴部が内湾気味に外傾するものがあり、波状口縁と平口縁のものがある。沈線により「O」字状に区画される文様が大木9式期相当、「J」字やさらに複雑に展開するのが大木10式期相当である。

328-1~3は粗製土器で、この時期か中期中葉の土器とおもわれる。

6 弥生時代の土器群 (図版: 329-1~331-14, 写真図版: 331-10~333-12)

深鉢または鉢と高坏または坏の二つの器種がある。地文は斜行状文で網目が細かいものが多い。前者は口縁部に沈線が巡るものもあるが、口縁部が無文で体部は斜行縄文の地文だけのようである。また小波状の口縁部もある。後者は、平行沈線を主にした施文がなされているものが多い。329-9は口縁部にヒレ状の突起があり、胴部中位には平行線で区画された内部の地文の上に、平行線で斜め方向の施文がなされている。330-9は坏というよりは浅鉢と呼んだ方がいいと思われる。平行沈線による変形上字文が施文されている。高坏は脚部にも平行沈線による施文がなされたものが多い。これらの土器群は弥生時代前期と思われる。

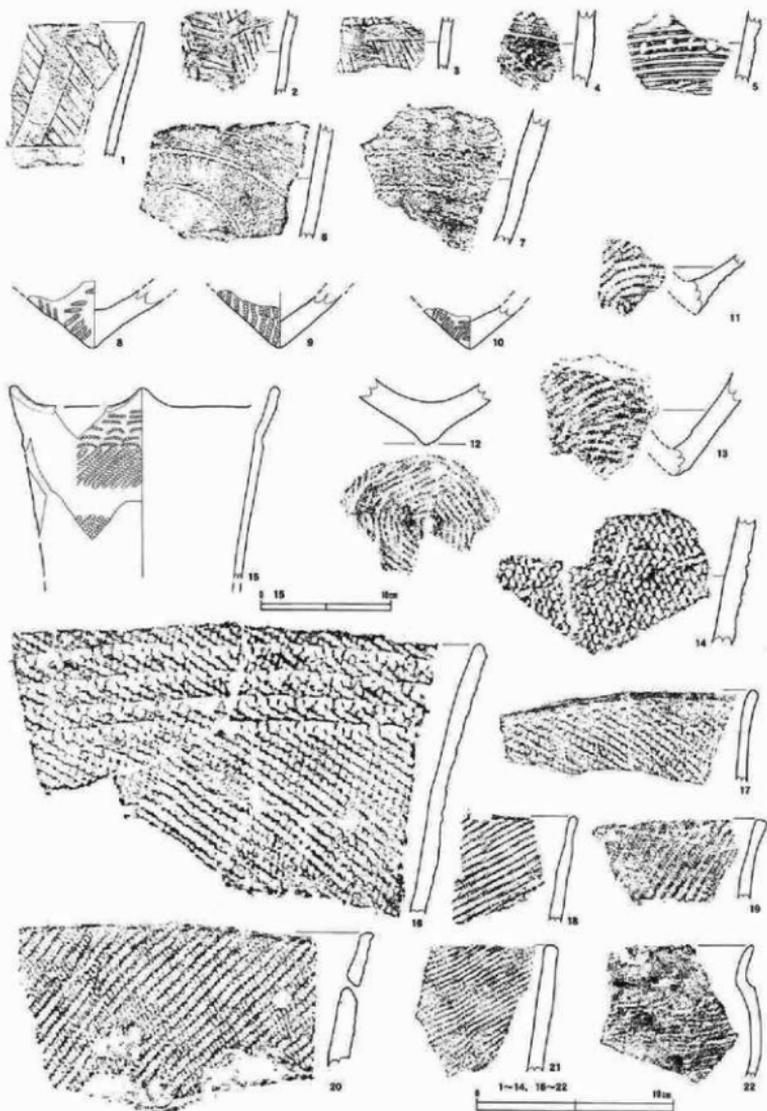
7 古代の土器群 (図版: 331-15~332-8, 写真図版: 333-13~334-6)

土師器 (331-15~19) と須恵器 (331-20~332-8) がある。土師器は19以外はロクロを使用しておらず、変もハケメが内外に見られ、奈良時代と思われる。15は下膨れの小型の椀形を呈している。16は高坏のようで、坏部下位に段が形成され、その下に刻み目が巡る。坏部内面は磨かれ、黒色処理がなされている。19も内面が黒色処理されている。

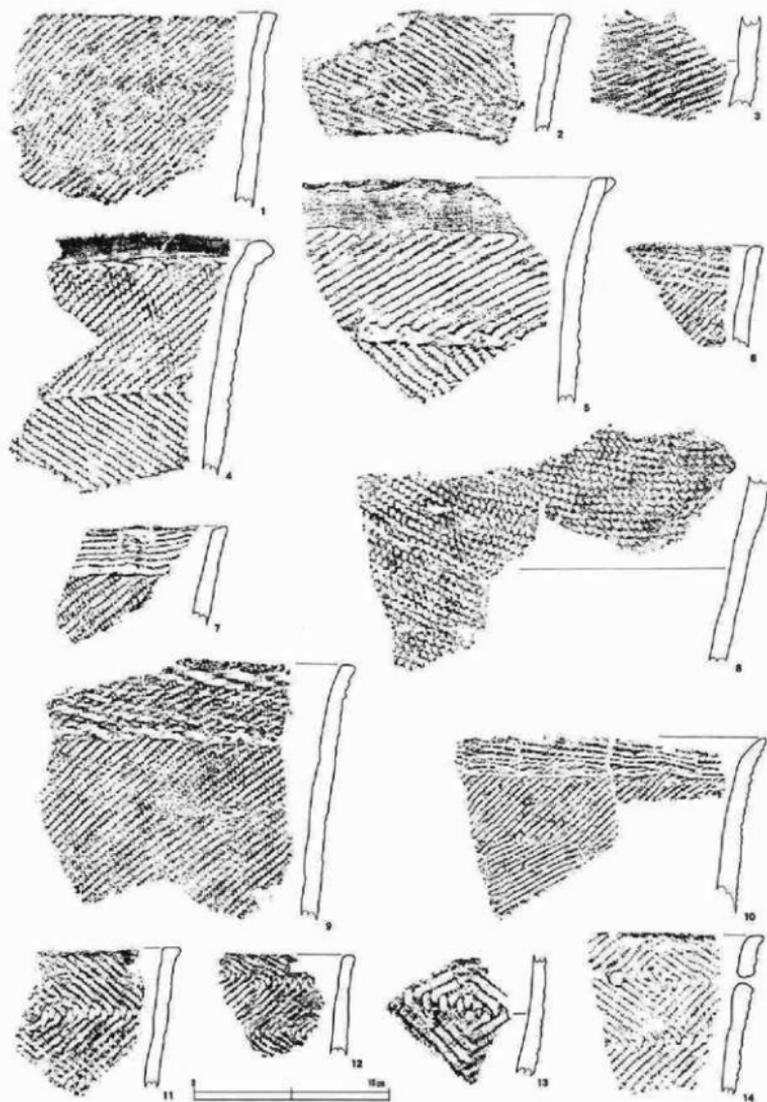
須恵器は壺または大壺の破片で、口縁部付近はヨコナデ痕が残るものや、ヘラあるいは櫛状工具による波状の施文がされているものがある。体部の破片は外面にタタキメが内面に当て具痕が見られるものが多い。

参考文献

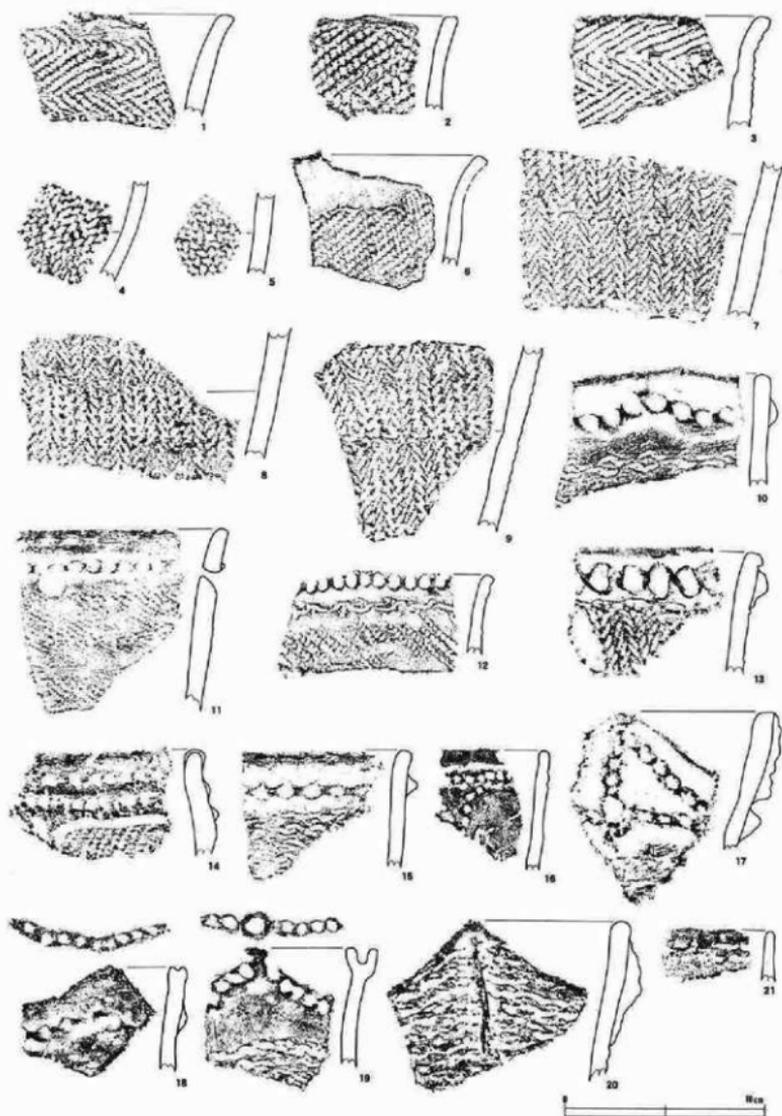
- 馬日順一他, 1982: 竹ノ内遺跡, 福島県いわき市教育委員会。
桑月 鈺, 1996: 槻木式土器, 日本土器事典, 雄山閣。
白鳥良一, 1988: 前期人木式土器様式, 縄文土器大観, 小学館。



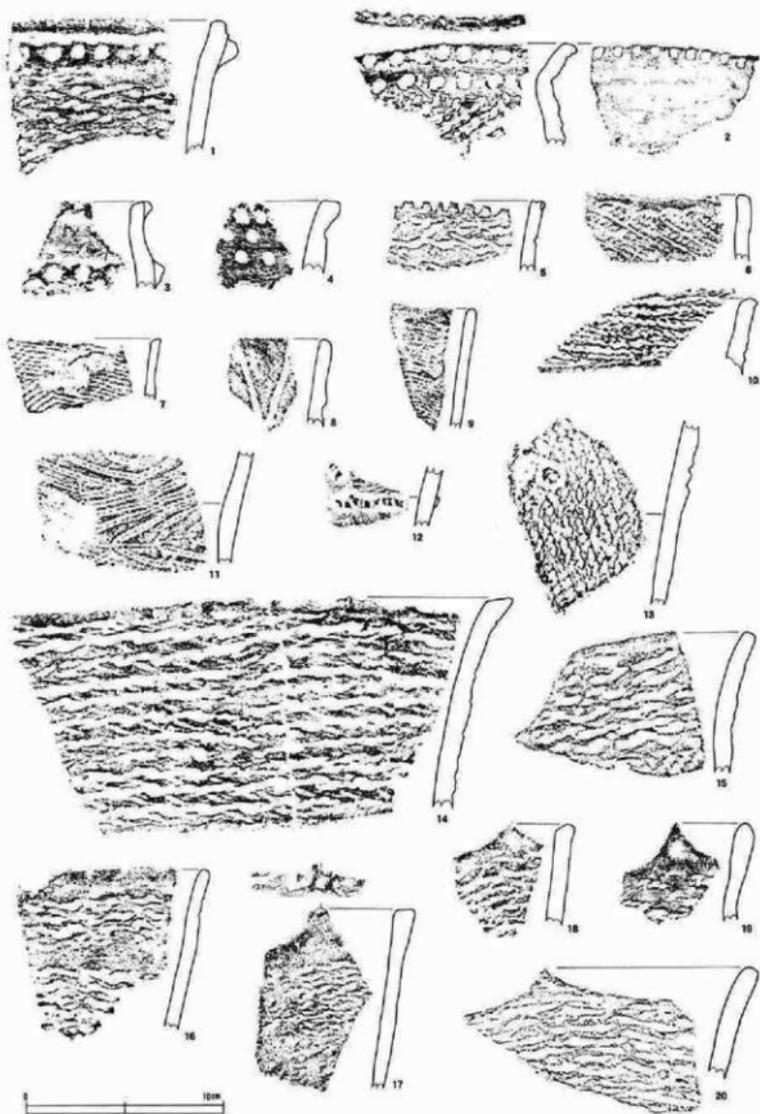
第316圖 遺構外出土遺物 (土器1)



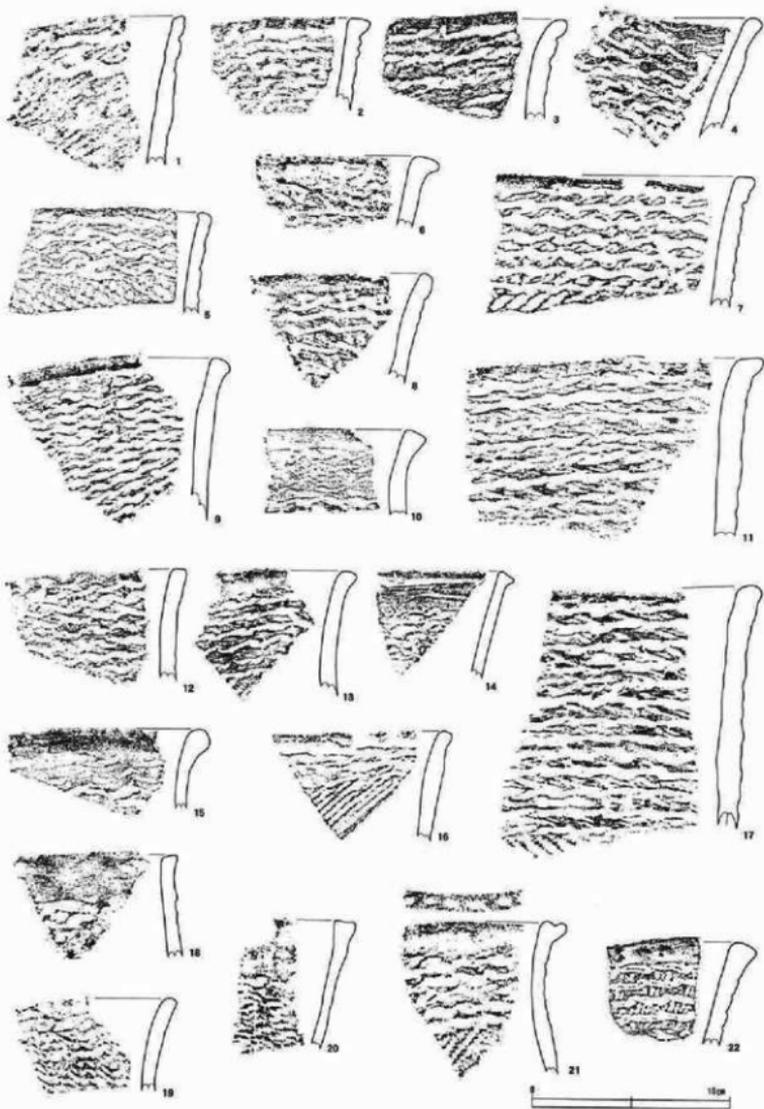
第317图 遺構外出土遺物（土器2）



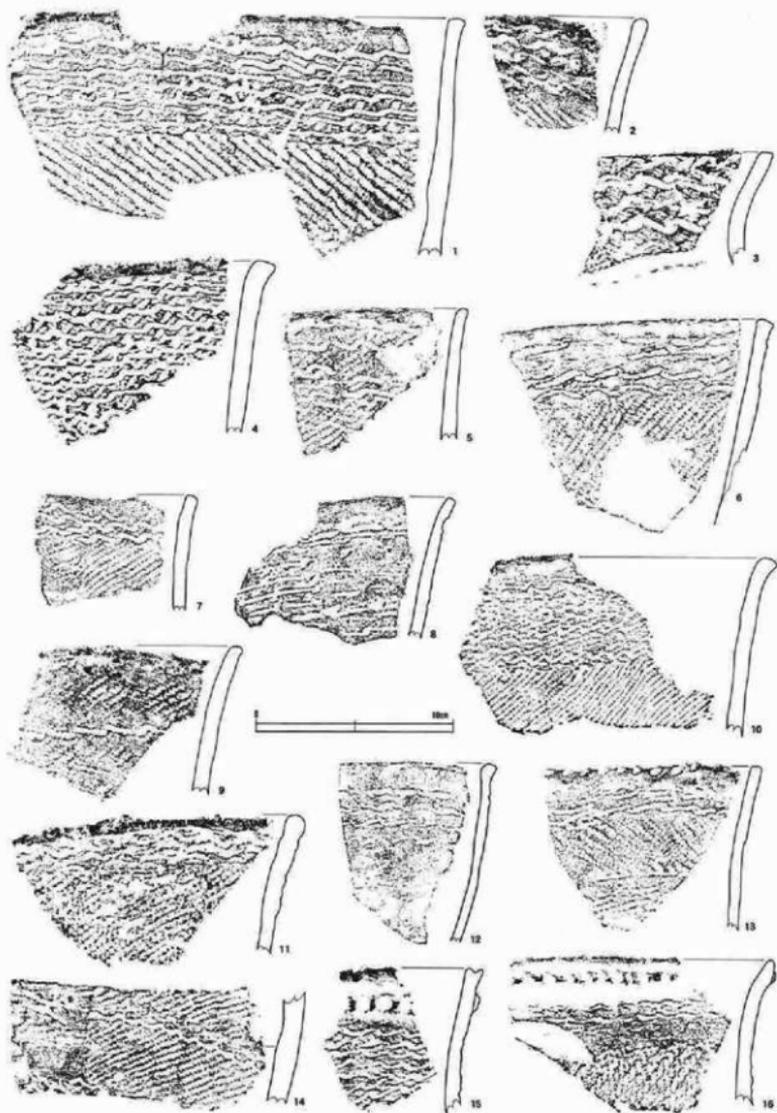
第318圖 遠構外出土遺物 (土器3)



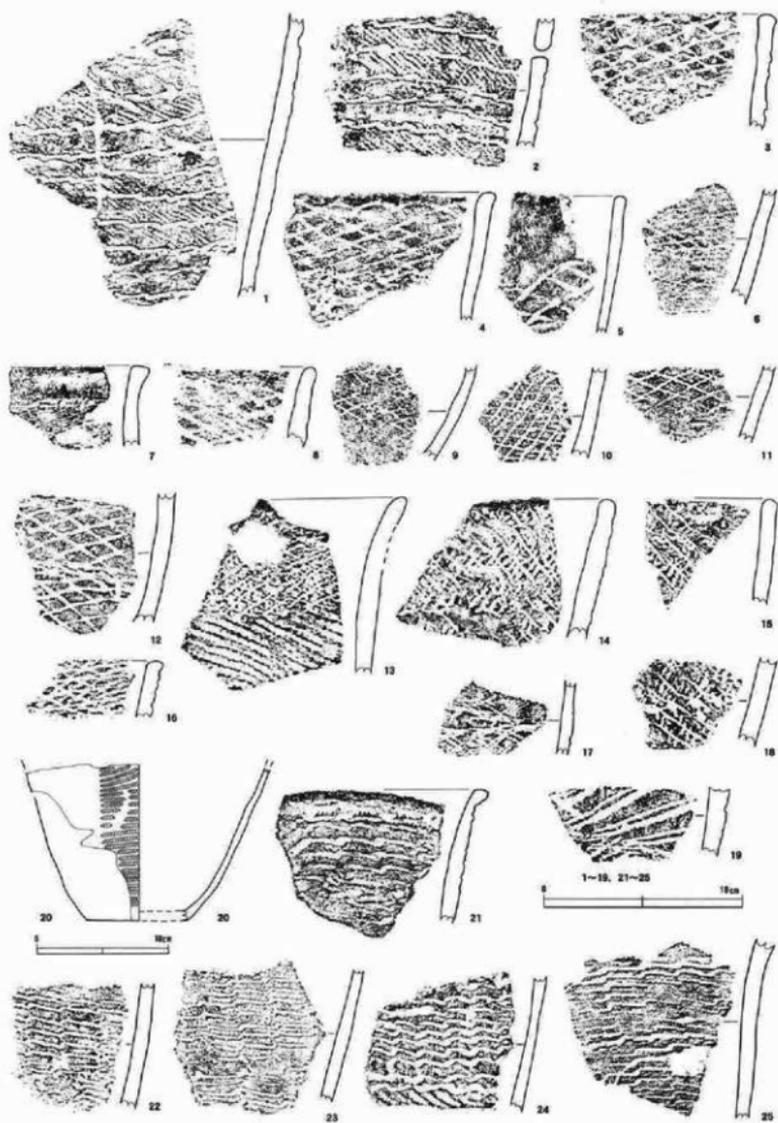
第319図 遺構外出土遺物（土器4）



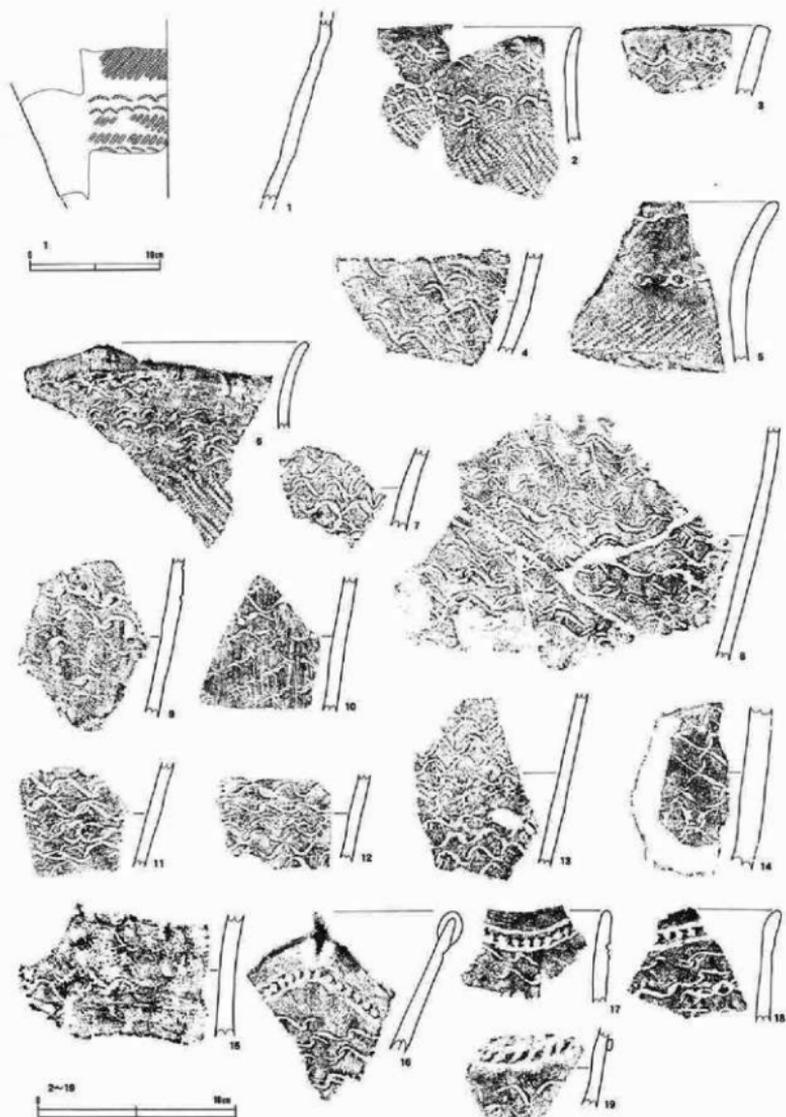
第320圖 遺構外出土遺物（土器5）



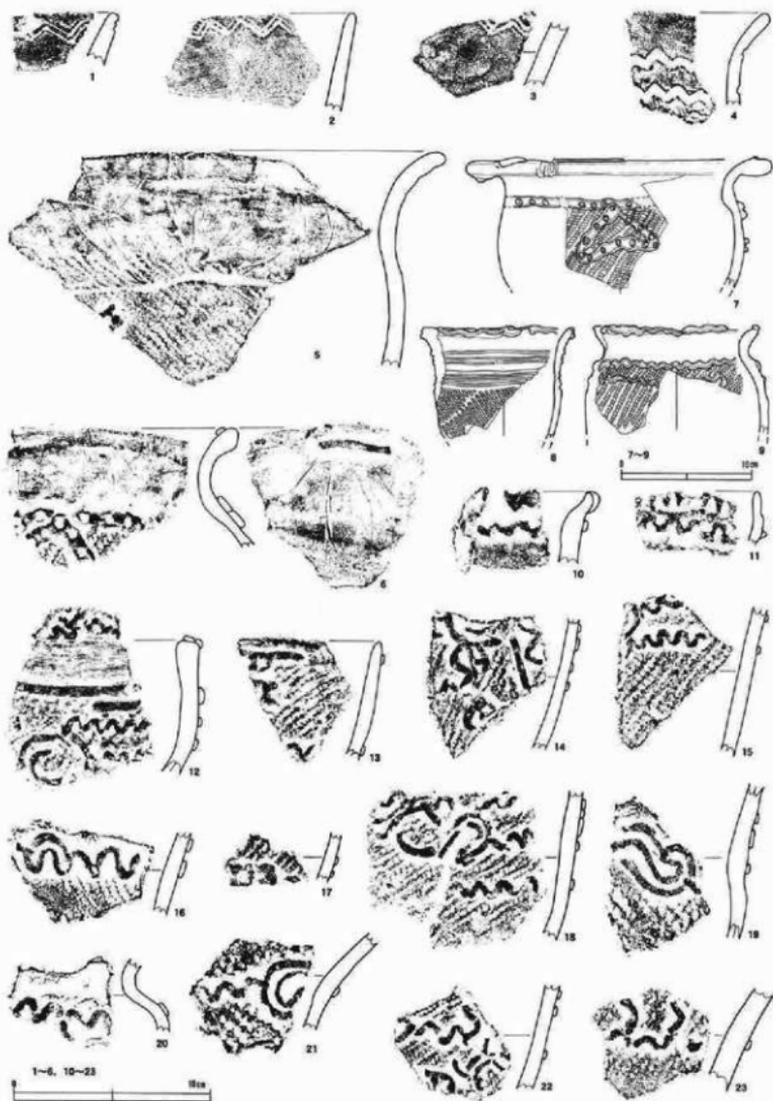
第321圖 遺構外出土遺物(土器6)



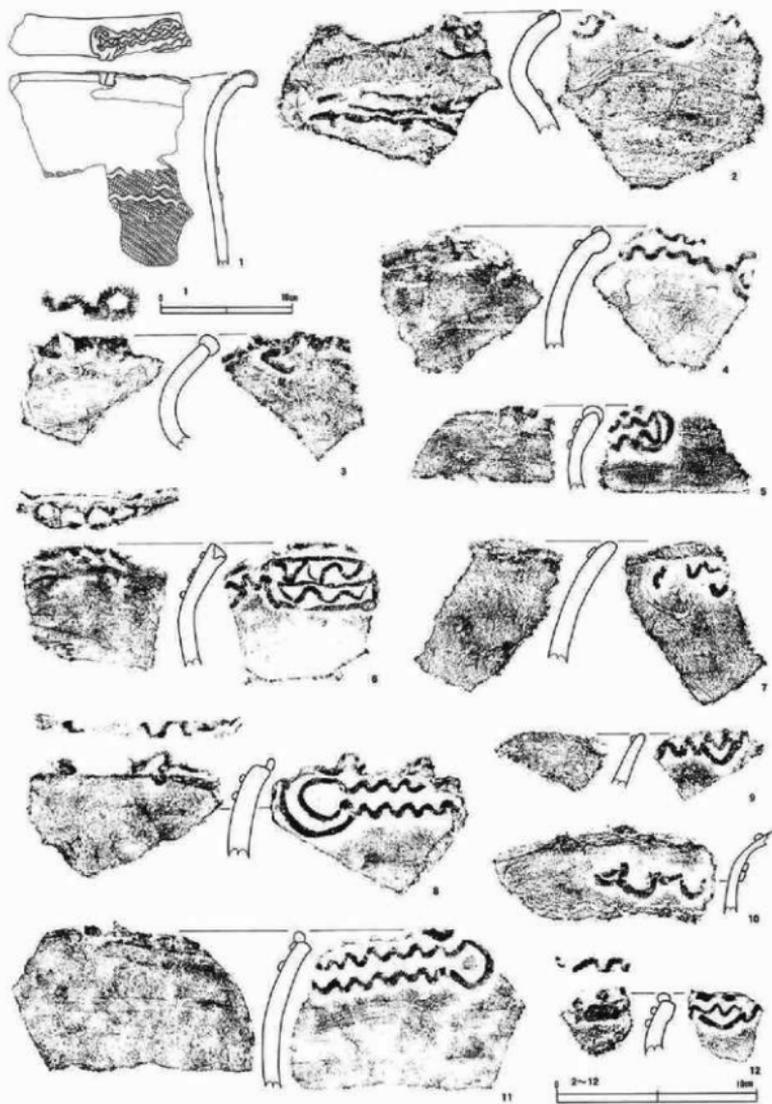
第322图 遺構外出土遺物(土器7)



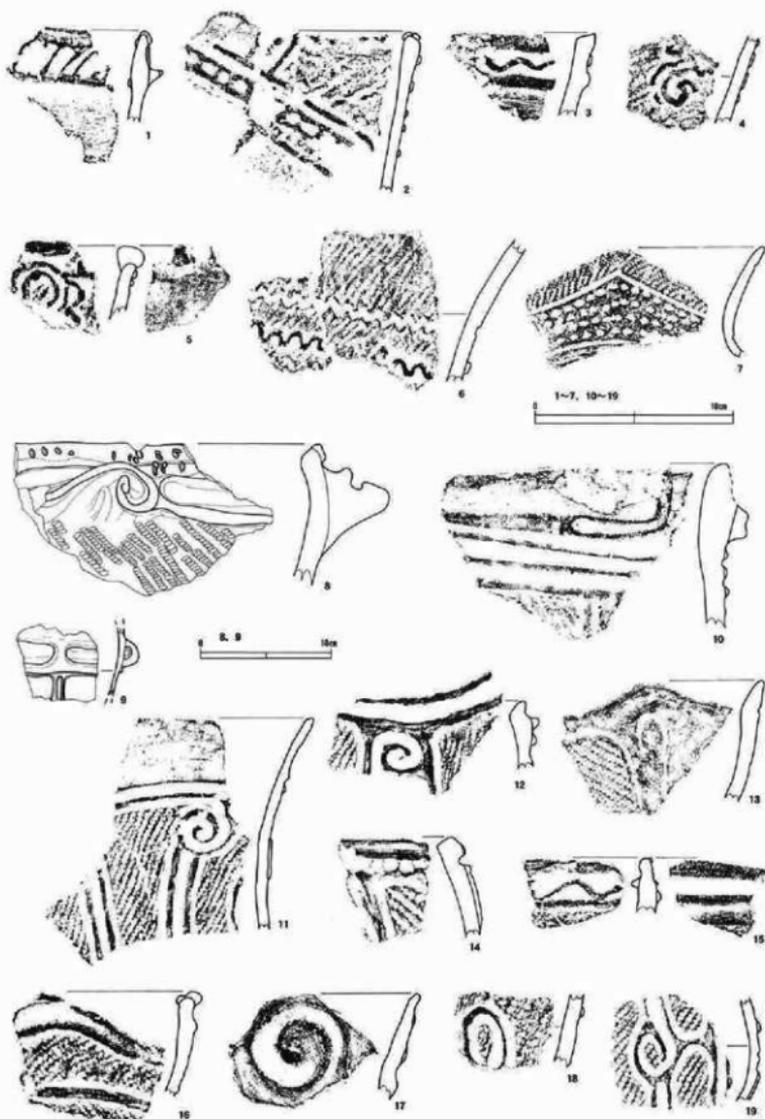
第323圖 遺構外出土遺物（土器8）



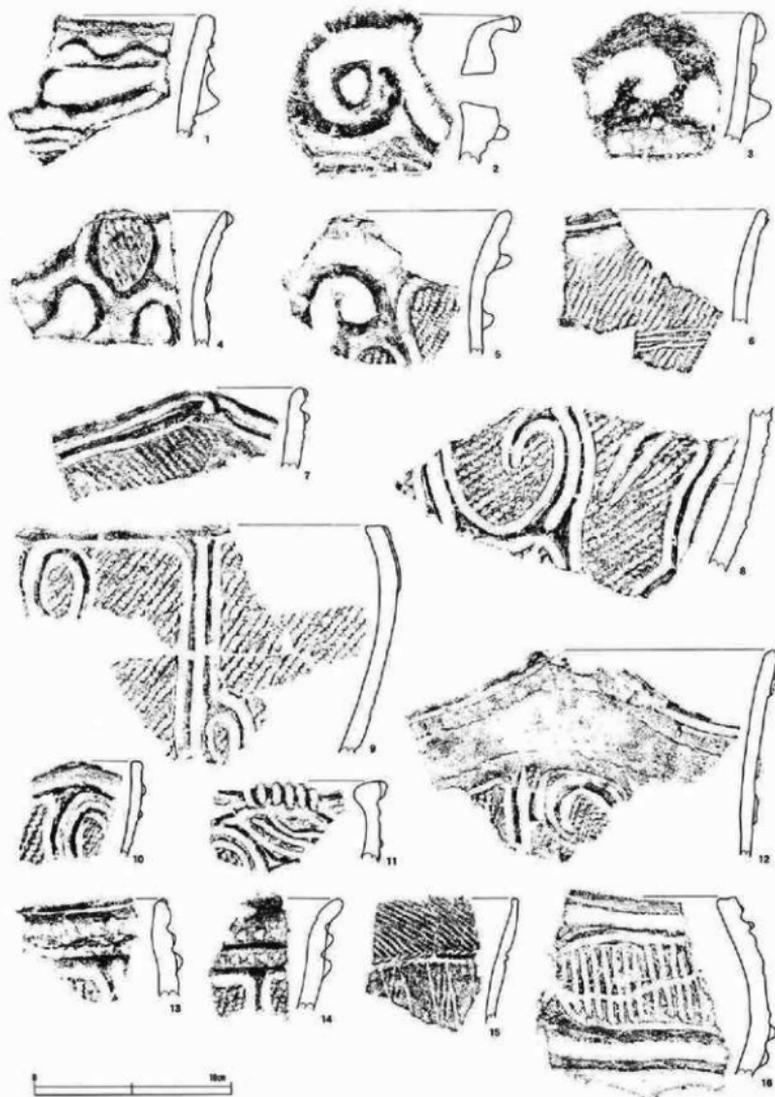
第234图 遼構外出土遺物(土器9)



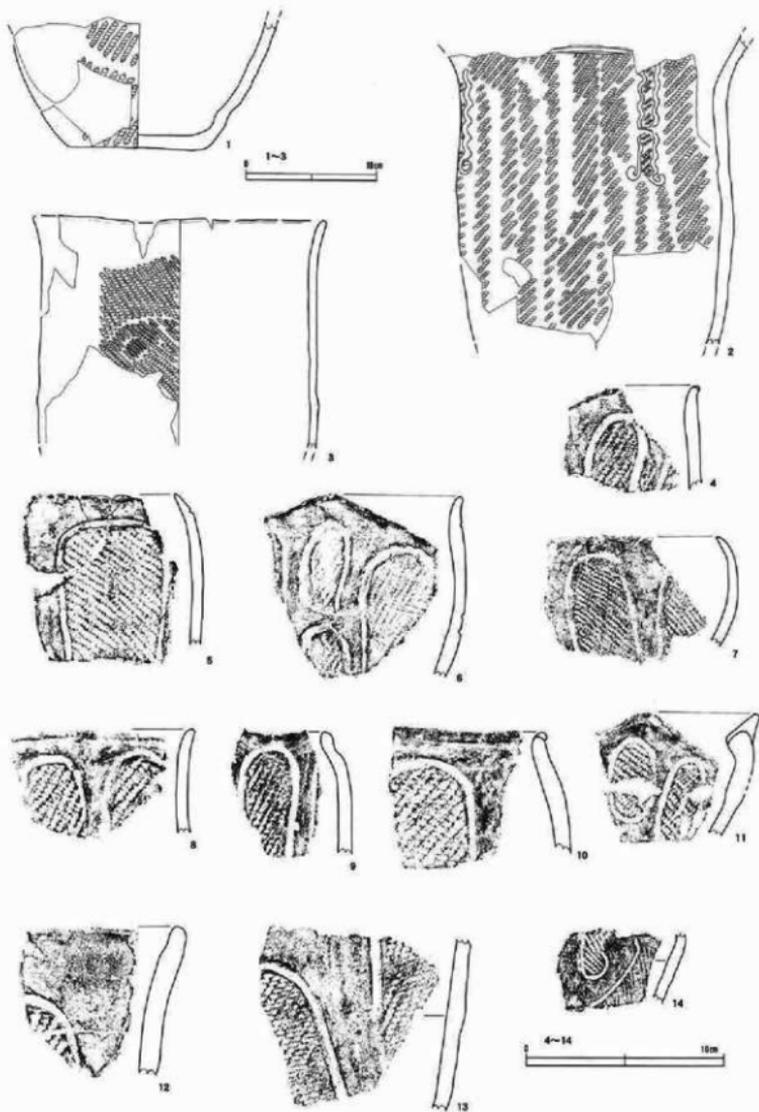
第325図 遺構外出土遺物（土器10）



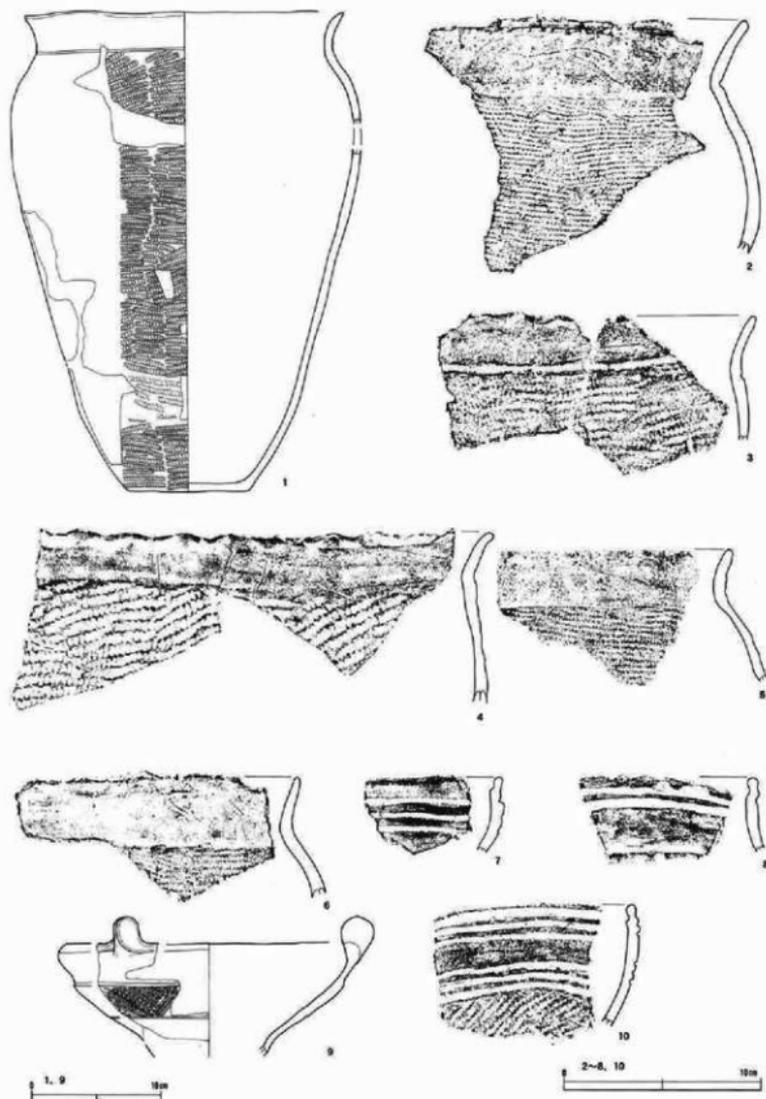
第326圖 遺構外出土遺物(土器11)



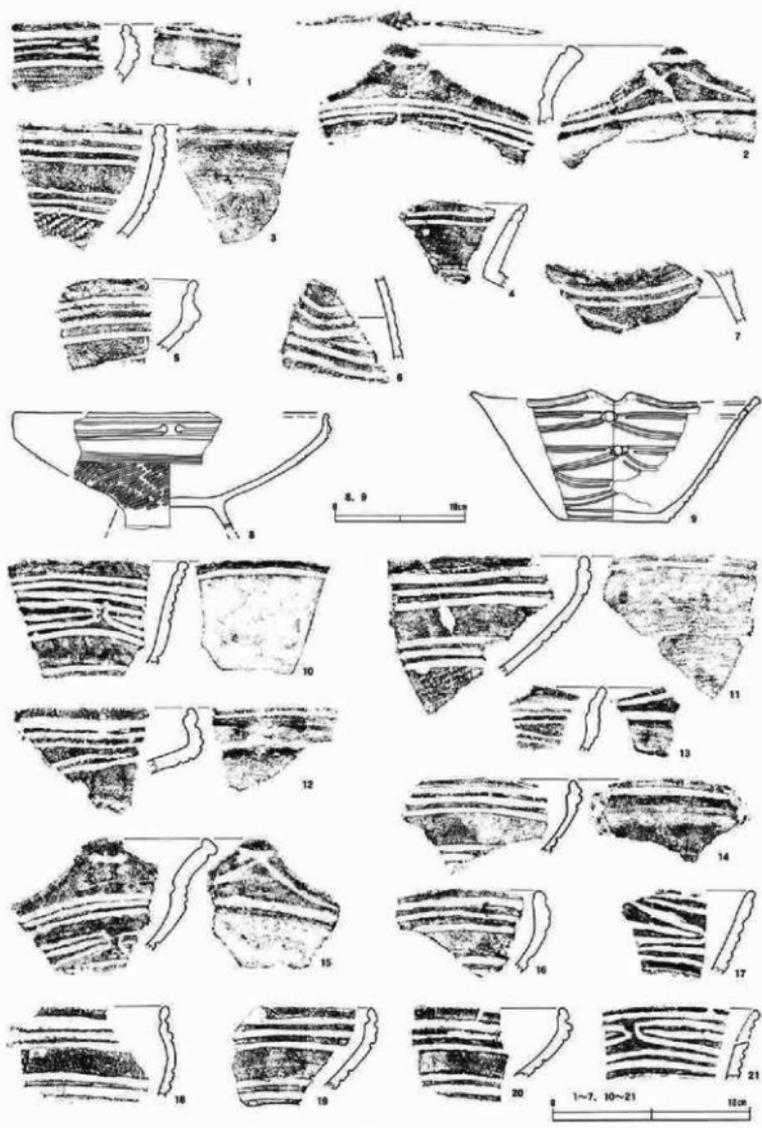
第327圖 遠構外出土遺物（土器12）



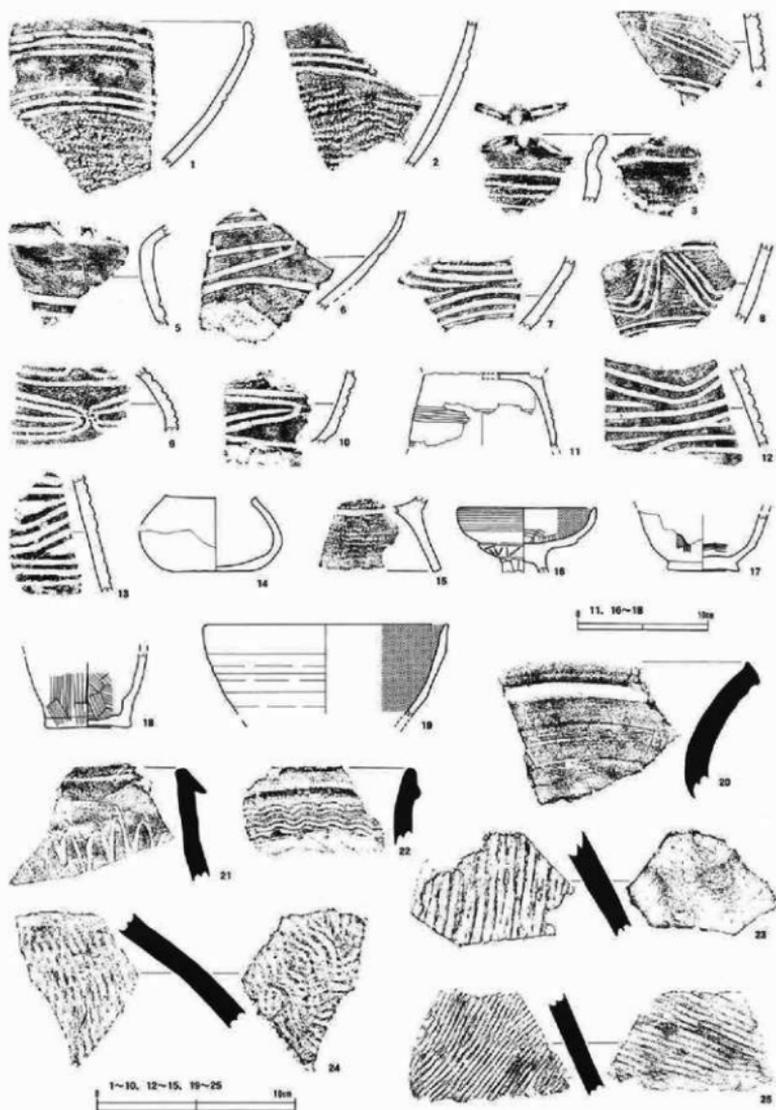
第328回 遺構外出土遺物（土器13）



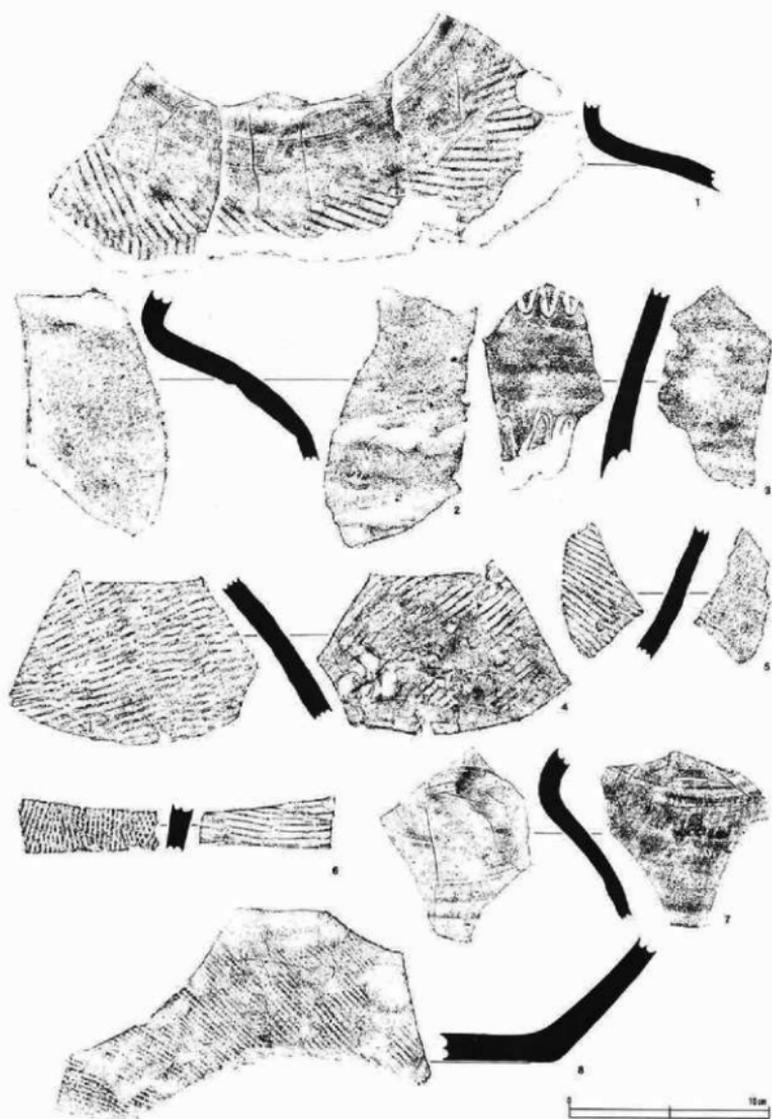
第329回 遺構外出土遺物 (土器14)



第330圖 遠横外出土遺物 (土器15)



第331図 遺構外出土遺物(土器16)



第332圖 遺構外出土遺物（土器17）

土製品 (図版: 334-1~12, 写真図版: 335-16~27)

遺構外出土の土製品はミニチュア土器1点と円盤状土製品10点・斧形土製品1点である。1は鉢形のミニチュア土器である。波状口縁で、器壁に粘土紐の積み上げ痕が残る。

円盤状土製品は2~11の10点である。縄文土器片の周縁を打ち欠き・研磨して円盤状に仕上げられている。直径が約3.5~5cmの物が多く、最小は約3cm、最大は約8cmである。粗製土器の破片の再利用品であるが、4~6・8~11にはセナイが混入している。縄文時代前期前葉の遺物かどうかはわからないが、その時期の上器片の再利用品である。また、11の裏面には「十」字の刻みが施されている。

12は斧形土製品の破損品である。縄文時代中期中葉の遺跡から出土する例が多いので、そのころの遺物と思われる。中期の遺構数は多いが、斧形土製品の遺構伴出品はないので貴重な例と思われる。

鉄製品 (図版: 333, 写真図版: 334-11~335-15)

遺構外出土の鉄製品は20点有り、他に鉄塊系遺物や鉄滓が少量得られている。1・2は同一個体と思われる刀子の柄部分と刀身の破損品である。1の柄尻付近には目釘穴がある。3・4も刀子の破損品と思われる。5~7は鉄鏃の破損品で、7は鏃身と茎の間の寛披(ノコバ)の部分と茎部だと思われる。8~19は釘と思われ、頭部が折り曲げられている。21~25は板状あるいは棒状の鉄製品の一部である。26はやや湾曲した爪状の破損品で、目釘孔かどうかかわからないが孔が2カ所開けられている。20は組み合わせ金具であるが用途は不明である。27は鉄鍋と思われる鋳物破片である。28は環状、29は針金を折り曲げた形状、30は板状製品を折り曲げたものの破損品である。

31~34は鉄塊系の遺物で、磁着し、メタルチェッカーにも反応する。外見は赤錆で覆われ、表面は凸凹し鉄滓状である。35~41は鉄滓で、メタルチェッカーの反応はない。表面は軽石状で、錆も附着している。桶形状の面が残るものもあり、鍛冶滓と思われる。

石器

1 石鏃 (図版334-13~335-44, 写真図版: 335-28~336-63)

石鏃は92点出土している。遺構外の出土は44点である。先端部や基部の一部が破損しているものもあるが、有茎石鏃は無く、平基または凹基である。調整加工はそれほど精緻ではなく、形を整えただけのものもある。大きさは最小1.4cm・最大4.5cm、重量は最小0.5g・最大3.76gである。石材は珪質頁岩が89%以上を占め、他にチャートや砂岩・黒色頁岩などが少量ある。

2 石槍 (図版: 335-45~48, 写真図版: 336-64~67)

石槍は4点の出土で、いずれも先端部や途中から破損している。RA202住居跡からまとまって出土したものに比べると小型で、現存長2.4~7.4cm・3.61~34.72gである。45の基部は平基で石鏃の様な形態をしているが、大きさ・重量から石槍とした。石材は4点とも珪質頁岩である。

3 石匙 (図版: 335-49~337-27, 写真図版: 336-68~339-5)

石匙は60点出土している。遺構に伴うものは26点あり合計89点である。つまみを上にした場合、縦長になるものが40点有り、縦長のものが多い。なかには336-17~20・337-4のように両面から刃部調整がなされ石槍の機能を持つと思われるものもある。石材は珪質頁岩が多く、チャートや砂岩・頁岩が数点ある。

4 石錐 (図版: 337-28・29, 写真図版: 339 6・7)

2点出土している。基部から錐部まで連続する棒状のものと、基部が広く作り出されたものがある。石材は珩質頁岩である。

5 削搔器 (図版: 338-1~31, 写真図版: 339-8~38)

31点出土している。縁辺に刃部加工がなされた剥片を削搔器としたが、8~10のように石錐を意識したようなものや21・22のように石錐としても使用可能なものもある。刃部加工は一面からの片刃的なものが多いが、両刃的なものもある。また、複数の縁辺に刃部が形成されたものもある。石材はほとんどが珩質頁岩で、チャートや頁岩も少量ある。

6 楔状石器 (図版: 338-32・33, 写真図版: 339 39・40)

2点出土している。台形状で、上下の縁辺に階段状の剥離が形成されている。石材は珩質頁岩である。

7 使用痕のある剥片 (図版: 338-34, 写真図版: 339-41)

1点の出土である。縁辺の一部に対こぼれ状の小剥離が見られる。石材は珩質頁岩である。

8 打製石斧 (図版: 338-35, 写真図版: 339-42)

1点の出土である。両面から調整加工がなされている。長さ6.9cm・重量46.77gである。石材は珩質頁岩である。

9 磨石・凹石 (図版: 339~341, 写真図版: 340)

25点出土している。遺構内からは49点出土している。楕円形の円縁の平たい面に磨面やくぼみが形成されたものと細長い礫の縁辺に磨面が形成されたものがある。凹石は板状礫に複数のくぼみが形成されたものもある。341-10は一端に敲打痕が見られる。石材は花崗斑岩・ホルンフェルス・砂岩・角閃石・角閃石ヒン岩・玄武岩質溶岩があり、特にかたよりは見られない。

10 磨製石斧 (図版: 342-1~13, 写真図版: 341-1~13)

13点出土している。ほとんど破損している。破損部位は刃部と基部ほぼ同数である。2・3のように長さ5cm以下の小型のものもある。この2点は片刃で有り、鑿など使用が考えられる。

11 そのほかの石製品 (図版: 342-14~20, 写真図版: 341-14~20)

石錐は14・15の2点が出土している。両者とも平たい礫の一部を打ち欠いて紐が掛かるように作られている。重量は176.39gと23.6gである。

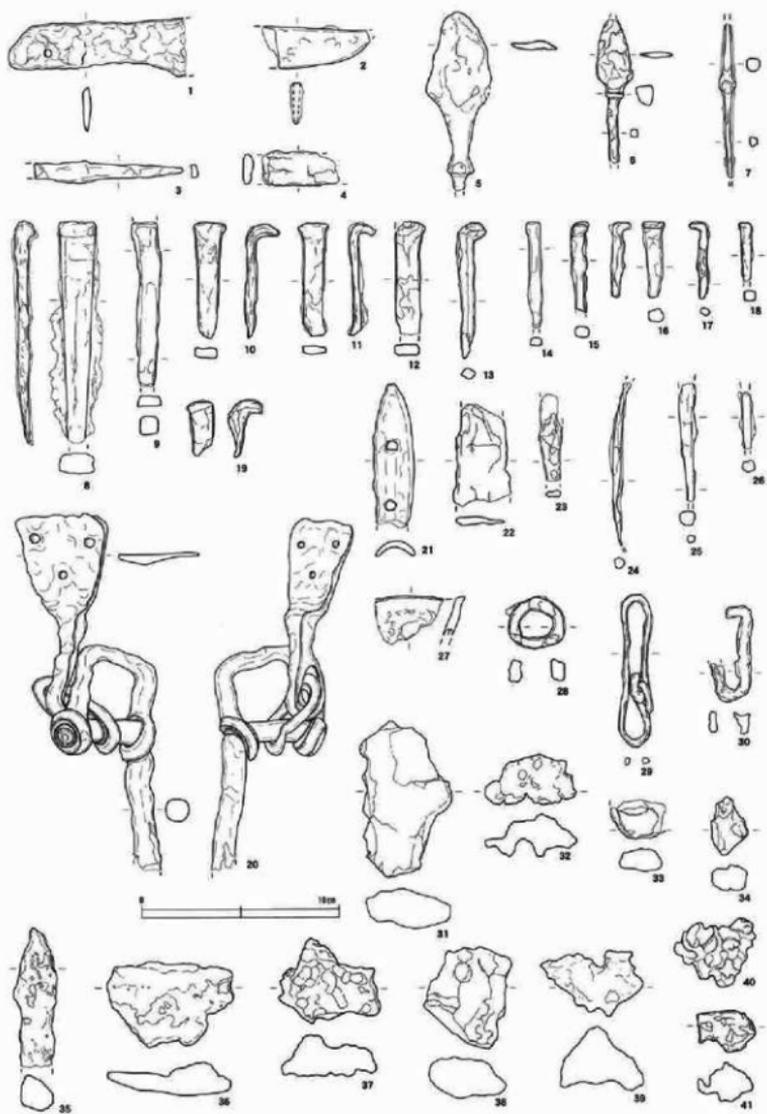
16は球状耳飾りの破損品である。棒り切り痕と補修孔がある。

17は「C」字状の石製品で一端が破損し、補修孔と思われる穴が穿孔されている。

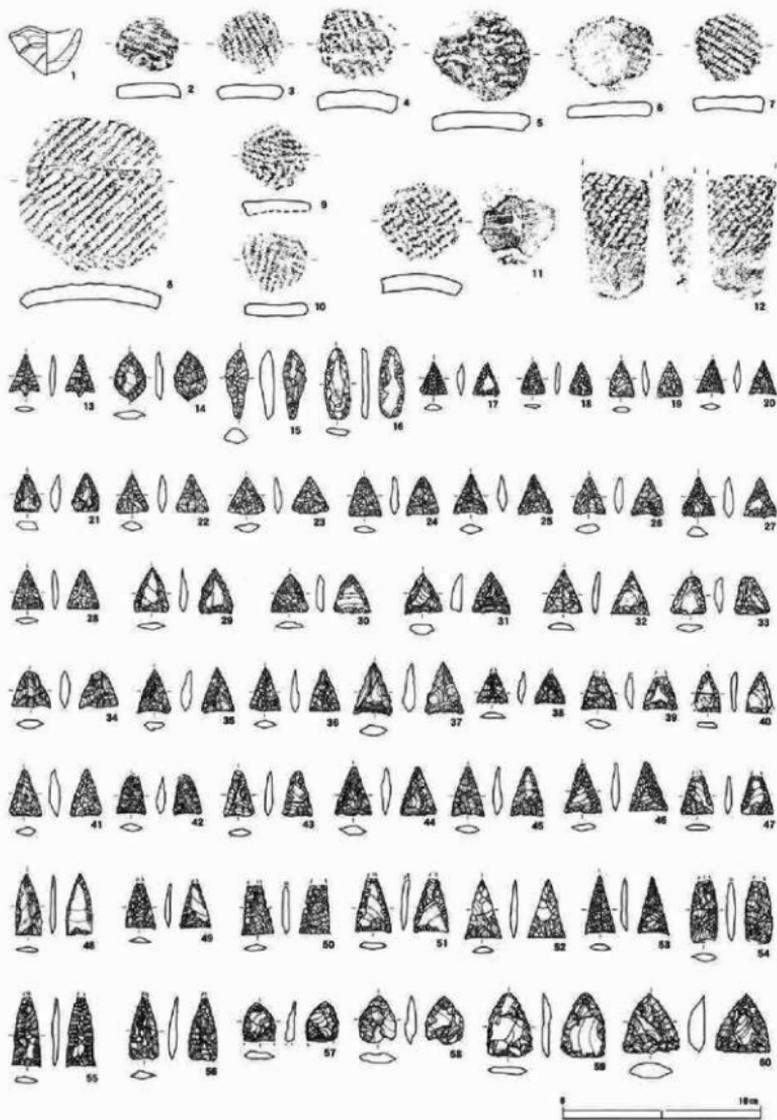
18は細長い円礫の一端に切り込みが、中央寄りには小さなくぼみが形成されている。

19はほぼ長方形で、両側縁に刃部加工が施され、削搔器のようにも見えるが、砂岩製で、脆い感じがする。

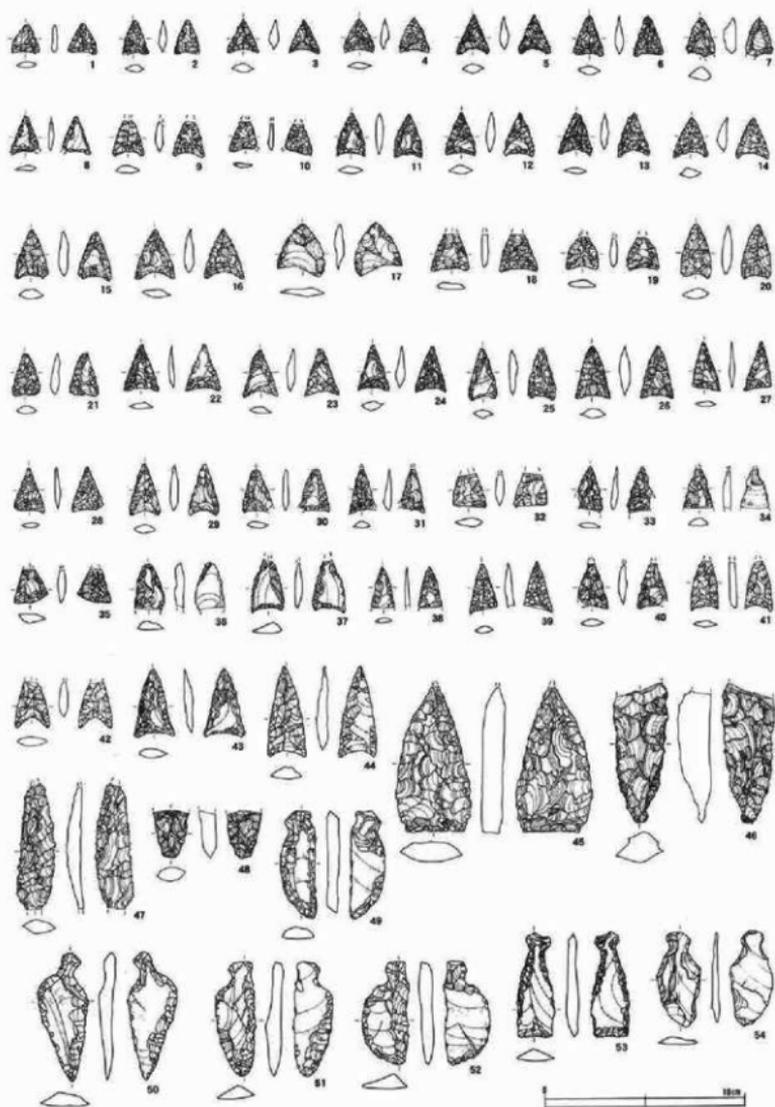
20は砥石である。破損基で、中央付近が磨耗して細くなっている。石材はリパライトである。



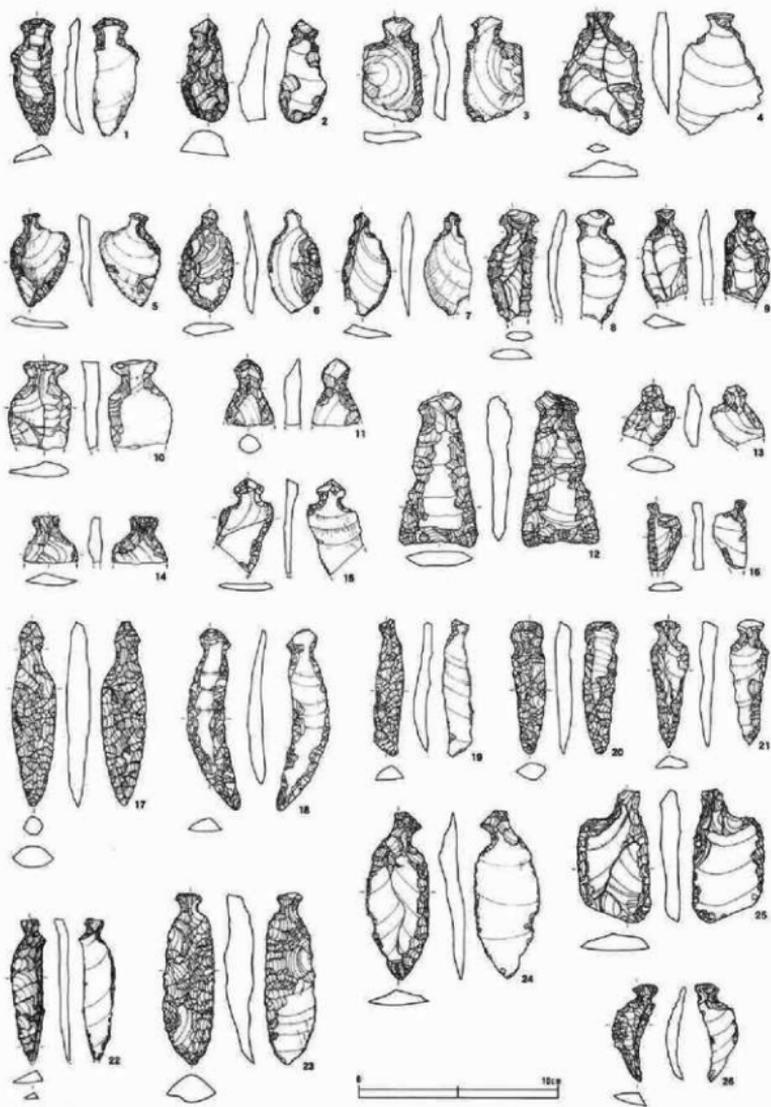
第333图 遺構外出土遺物(鉄製品)



第334圖 遺構外出土遺物 (土製品・石器1)



第335图 遺構外出土遺物 (石器2)



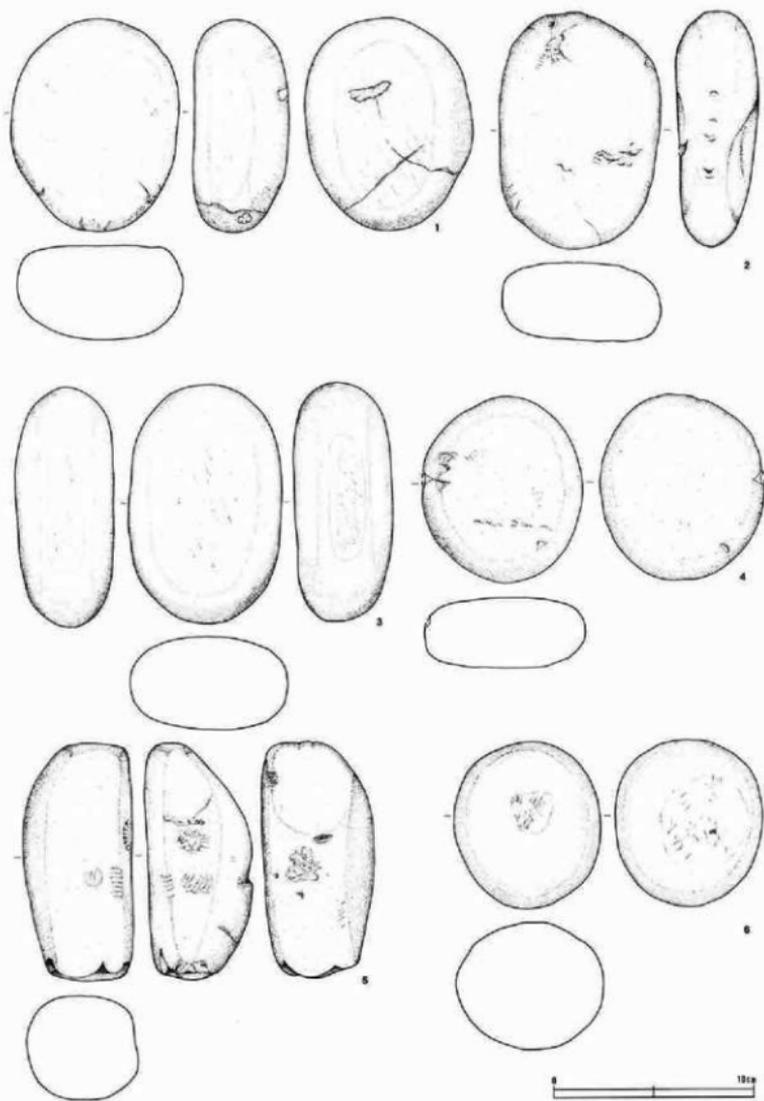
第336圖 遺構外出土遺物 (石器3)



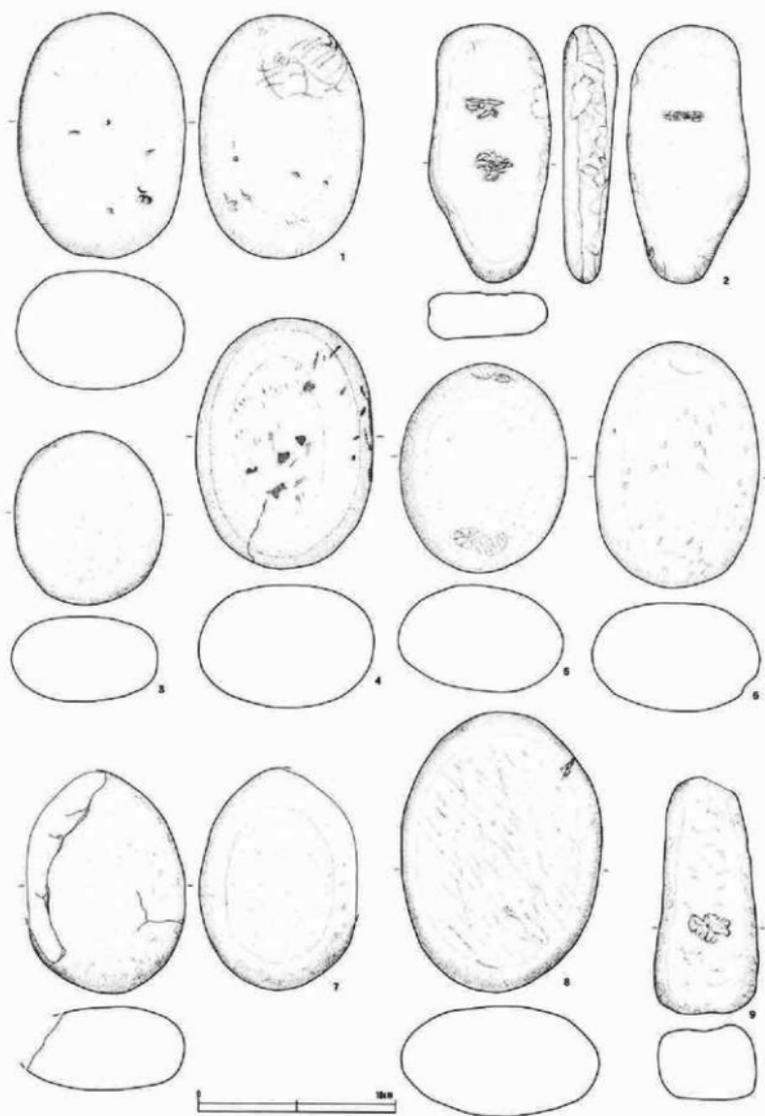
第337圖 遠構外出土遺物 (石器4)



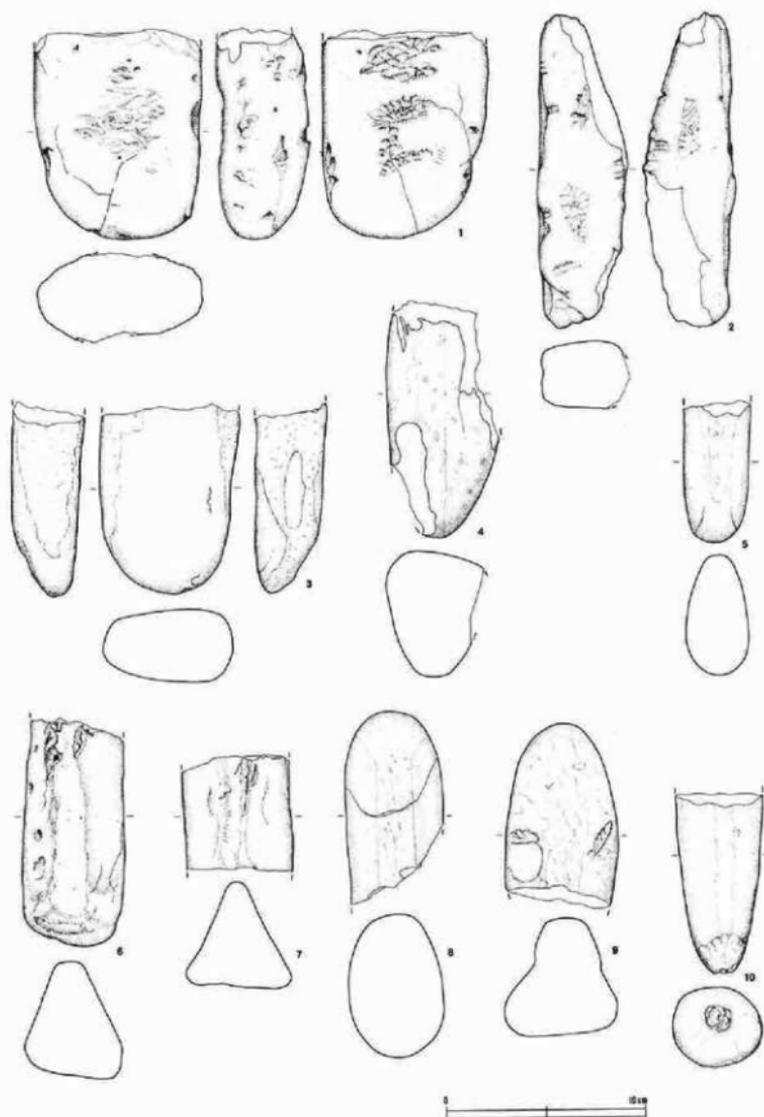
第338圖 遺構外出土遺物（石器5）



第339回 遠構外出土遺物 (石器6)



第340回 遺構外出土遺物 (石器7)



第341回 遠構外出土遺物 (石器8)



第342図 遺構外出土遺物（石器9・石製品・裝飾品）

沢田 | 遺跡97縄文弥生住居一覧

縄文時代住居跡 (北区)

No.	遺構名	平面形 (予測含)	規	模	炉	時 期	備 考
1	RA140	円形	約4m	不明		中期後葉	開田時に削平受ける
2	RA141	円形	約3m	地床炉		中期後葉	RA529の下位
3	RA142	円形	4.5~5m	複式炉		中期後葉	RA144の下位
4	RA143	円形状	4.5m	石組炉		中期後葉	RA152の上位
5	RA144	円形	5.5m	複式炉		中期後葉	4時期の私蓋
6	RA145	長方形	4.2×2.7m	無し		前期前葉	中敷火山灰堆積
7	RA146	円形状	約3.4m	石組炉		中期後葉	開田時に削平受ける
8	RA147	隅丸形状	軸長約3.7m	無し		中期	RD83の上位
9	RA148	隅丸形状	軸長約3.8m	無し		中期後葉?	RA143のト位
10	RA149	円形状	5m	複式炉		中期後葉	焼失家屋
11	RA150	楕円形	5.3×4m	無し		中期後葉	RA151のト位
12	RA151	楕円形	6.5×5.5m	石組炉		中期中葉	RA150の下位
13	RA152	円形	約4.5m	無し		中期	RA143の下位
14	RA153	隅丸長方形	5.2×2.5m	地床炉		中期後葉	RA168の下位
15	RA154	楕円形状?	不明	不明		早期以降	開田時に削平?
16	RA155	楕円形状	3.7×3.4m	石組炉		中期後葉	RA159の上位
17	RA156	円形状	約7m	石組炉		中期末葉	RA149のト位
18	RA157	長方形	長軸6m以上	無し		前期	西登付近のみ残存
19	RA158	隅丸形状	軸長約4.5m	無し		中期中葉	RA163、529の下位
20	RA159	隅丸長方形	5.5×4m	無し		前期前葉	中敷火山灰堆積
21	RA160	楕円形状	長軸3.7m前後	無し		前期前葉	中敷火山灰堆積
22	RA161	隅丸形状	軸長約3.8m	地床炉		前期前葉	RA529、RE19の下位
23	RA162	長方形	3.9×3m	無し		前期前葉	中敷火山灰堆積
24	RA163	円形状	約4.5m	石組炉・石蓋炉		中期中葉	RA162、183の下位
25	RA164	楕円形状	5.3×3.5m	石組炉・地床炉		中期中葉	宅地造成で削平
26	RA165	長方形	3.3×2.8m	無し		前期前葉	中敷火山灰堆積
27	RA166	長方形	8m以上×4m	地床炉		前期前葉	中敷火山灰堆積
28	RA167	楕円形状	4.5×4m	石組炉		中期中葉	RA529の下位
29	RA168	円形	約3.5m	石組炉		中期後葉	RA153、181の上位
30	RA169	楕円形状	5×4m	石組炉		中期中葉	RA182、183のト位
31	RA173	方形	2.2~2.5m	無し		前期前葉	南東側残存せず
32	RA180	長方形	4×3.1m	無し		前期前葉	中敷火山灰堆積
33	RA181	長方形	5.3×4.2m	無し		前期前葉	中敷火山灰堆積
34	RA182	隅丸長方形	3.5×3.2m	無し		前期前葉	中敷火山灰堆積
35	RA183	隅丸長方形	5.5×4.3m	無し		前期前葉	中敷火山灰堆積
36	RA184	楕円形状	3.6×2.9m	無し		前期前葉	RA529、169の下位
37	RA185	円形	5.5m	複式炉		中期後~末	焼失住居
38	RA191	隅丸長方形	2.7×2.5m	無し		前期前葉	RA153の下位
39	RA192	長方形	4.7×3.2m	無し		前期前葉	中敷火山灰堆積
40	RA193	長方形	5×3.7m	無し		前期前葉	RA194、195のト位
41	RA194	長方形	5.6×5.2m	無し		前期前葉	RA193の下位
42	RA195	長方形	5.7m以上×5m	無し		早期?	RA194の下位
43	RA212	隅丸長方形	4.5m以上×3m	無し		前期前葉	RA166、RE11の下位
44	RA213	楕円形状	2.8×2.3m	無し		前期前葉	中敷火山灰堆積

縄文時代竪穴状遺構 (北区)

No.	遺構名	平面形 (予測含)	規	模	炉	時 期	備 考
1	RE06	不明	不明	無し		中期中葉?	RA143の下位
2	RE08	隅丸長方形	5×3.5m	無し		中期	RA151の下位
3	RE10	楕円形状	長軸5.5m	無し		中期?	RA156、161の下位
4	RE12	円形状	5.3m	無し		中期?	RA156、160の下位

縄文時代竪穴住居跡 (南区)

No.	遺構名	平面形 (予測含む)	規模	礎	時期	備考
1	RA170	隅丸長方形	4.5×3.5m以上	地床伊	前期前葉	RA172、225の上位
2	RA171	円形	4.5m	石礎伊	中期	RA533の下位
3	RA172	D字状	3.6×2.8m	無し	前期前葉	RA170の下位
4	RA175	楕円形状	4.3×3.6m	無し	前期	RA189の上位
5	RA176	隅丸長方形	長軸約4m	地床伊	前期前葉	RA525の下位
6	RA186	方形	一辺約2.5m	無し	前期前葉	RA210、218の上位
7	RA188	楕円形状	6.5×6m	地床伊	前期中葉	RA197、RB01の下位
8	RA189	隅丸長方形	4.3×3.5m	無し	前期前葉	中興火山灰堆積
9	RA190	隅丸長方形	4.3×3.7m	地床伊	前期前葉	RA222の上位
10	RA197	円形状	5.8m	複式伊	中期後葉	RA171、203の上位
11	RA198	楕円形状	5.3×4.3m	複式伊	中期後～末	RA199、203の上位
12	RA199	楕円形状	6×5m	無し	中期中葉	RA198、543の下位
13	RA201	長方形	11m以上×5m	地床伊複数	前期前葉	ロングハウス
14	RA202	長方形	19m以上×5m	地床伊複数	前期前葉	ロングハウス
15	RA203	楕円形状	4.8×3m	石礎伊	中期	RA199の下位
16	RA204	円形状	5.2m	複式伊	中期後葉	RA208の上位
17	RA205	隅丸長方形	軸長約4m	台組伊	中期中葉	RA204の上位
18	RA206	隅丸長方形	4.8×2.2m	無し	前期前葉	RA186の下位
19	RA207	楕円形	4.2×3.4m	石礎伊	中期	RA187の下位
20	RA208	楕円形状	6.5×5.5m	無し	中期	RA204、205の下位
21	RA209	隅丸長方形	4.2×3.2m	無し	前期?	RA537、200の下位
22	RA210	長方形	7.5×4.5m	地床伊	前期前葉	RA186、197の下位
23	RA211	長方形	11m以上×4m	地床伊	前期前葉	ロングハウス
24	RA214	隅丸長方形	長軸7.5m以上	地床伊	前期初～前	RA187、541の下位
25	RA215	楕円形状	3.5×3.2m	複式伊	中期後葉	焼失住居
26	RA216	長方形	14×6.5m	無し	前期前葉	ロングハウス
27	RA217	隅丸長方形	4.8×3.8m	無し	前期前葉	RA187の下位
28	RA218	不明	3.5m×?	無し	前期前葉	RA206の下位
29	RA219	不明	7m以上×4m	不明	前期初～前	ロングハウス
30	RA220	長方形	3.3×1.5m	無し	前期前葉	RA202の下位
31	RA221	長方形	3×2.6m	無し	前期前葉	RA178、197の下位
32	RA222	長方形	5×3.5m	無し	前期前葉	RA190の下位
33	RA223	隅丸長方形	軸長6m以上	無し	前期初～前	RA197、202の下位
34	RA224	隅丸長方形	軸長3m以上	無し	前期前葉	RA211の下位
35	RA225	隅丸長方形	軸長3.2m	無し	前期前葉	RA170、172の下位
36	RA226	長方形	5×3m	無し	前期前葉	

弥生時代住居跡 (南区)

No.	遺構名	平面形 (予測含む)	規模	礎	時期	備考
1	RA174	楕円形状	約6×4.2m	石礎伊	弥生前期	
2	RA177	不明	不明	台組伊	弥生前期	RB01の下位
3	RA178	不明	不明	地床伊	弥生前期	RA197の上位
4	RA179	不明	不明	石礎伊	弥生前期	RD109の下位
5	RA187	円形状	約6.5m	石礎伊	弥生前期	RA207の上位
6	RA196	円形状	6～7m	不明	弥生前期	RA541の下位
7	RA200	円形	6m	石礎伊	弥生前期	RA532、537の下位

沢田 I - 97 古代住居一覧

古代住居跡 (北区)

No.	遺構名	形状	規模	カマド位置	時期	備考
1	RA526	隅丸長方形	一辺約5m	西壁	平安	RA141, RE08の上位
2	RA527	方形	西壁約4.5m	西壁	平安	開田時に削平される
3	RA528	隅丸方形	一辺約4.5m	北壁	奈良	
4	RA529	隅丸長方形	5.8×5.4m	北西壁	奈良～平安	RA158, 162の上位
5	RA530	台形状	2.8×3.5m	西壁	平安	開田時に削平される
6	RA531	方形	一辺約4.5m	西壁	平安	RA165の上位
7	RA544	不明	不明	北壁	奈良	焼乱を受けている

古代住居跡 (南区)

No.	遺構名	形状	規模	カマド位置	時期	備考
1	RA532	隅丸方形	軸長3.6m	北壁	奈良	RA200の上位
2	RA533	隅丸長方形	3.7×3.6m	北壁	奈良	機頭東端
3	RA534	隅丸方形	軸長3.8m	北壁	奈良	
4	RA535	隅丸長方形	6×5m	西壁	平安	RA176, 201の上位
5	RA536	隅丸方形	軸長3.5m	北壁	奈良	RA210, 219の上位
6	RA537	隅丸方形	軸長5m	北壁	奈良	RB01の低位, カマド2基有り
7	RA538	不明	不明	北壁	奈良	遺構本体は調査区外
8	RA539	隅丸方形	軸長約3.7m	北壁	奈良	RA187, 207の上位
9	RA540	隅丸方形	軸長7m	北壁	奈良	RA538の低位
10	RA541	隅丸方形	軸長約5.5m	北壁	奈良	RA540, 542の低位
11	RA542	隅丸方形	軸長6m	北壁	奈良	RA540の低位
12	RA543	隅丸方形	軸長約4m	北壁	奈良	RA198, 205の上位

古代建物跡 (南区)

No.	遺構名	形状	規模	カマド位置	時期	備考
1	RB01	長方形	9.5×6m	無し	古代以降	RA188, 537の上位

竪穴状遺構 (北区)

No.	遺構名	形状	規模	カマド位置	時期	備考
2	RE11	楕円形状	5.9×4.7m	無し	不明	RA166の上位

竪穴状遺構 (南区)

No.	遺構名	形状	規模	カマド位置	時期	備考
1	RE09	隅丸方形	軸長3.5m	無し	不明	

沢田 I - 97土坑一覧

土坑（北区）

No.	遺構名	平面形	断面形	開口部径	深さ	時期	備考
1	RD70	長方形	筒状	1.1×0.7m	35cm	縄文	RA151の卜位
2	RD83	円形状	逆台形	1.2m	45cm	縄文中期中葉	RA147の卜位
3	RD84	不整形	筒状	2.5×1.2m	10cm	縄文	RA167の卜位
4	RD88	円形状	筒状	1.2m	70cm	縄文中期中葉	RA164の卜位
5	RD103	円形状	筒状	約1.1m	80cm	縄文	RA183の卜位
6	RD109	円形	筒状	1.6m	85cm	縄文中期中葉	RA185の卜位
7	RD60	円形状	筒状	1.4m	65cm	不明	RA150、152の卜位
8	RD61	長方形	逆台形	2.1×0.7m	15cm	不明	RA148の卜位
9	RD62	長方形	逆台形	1.6×0.6m	45cm	不明	RA528の卜位
10	RD63	溝状	逆台形	3.6×1m	35cm	不明	遺構外に続く
11	RD64	楕円形状	逆台形	0.95×0.7m	20cm	不明	RA529の卜位
12	RD65	楕円形状	逆台形	0.65×0.6m	50cm	不明	RA529の卜位
13	RD66	長方形	逆台形	1.45×0.95m	20cm	不明	RA529の卜位
14	RD67	楕円形状	逆台形	1.4×0.6m	50cm	不明	RA529の卜位
15	RD68	円形状	筒状	0.85m	40cm	不明	RA529の卜位
16	RD69	楕円形状	逆台形	0.7×0.6m	25cm	不明	RA529の卜位
17	RD73	楕円形	逆台形	1×0.9m	40cm	不明	
18	RD76	楕円形状	逆台形	1.7×1.7m	65cm	古代?	RA531の卜位
19	RD85	楕円形状	逆台形	2.3×2m	30cm	不明	RE11の卜位
20	RD94	円形状	逆台形	約1m	20cm	不明	
21	RD105	楕円形	筒状	0.75×0.6m	50cm	不明	RA105の卜位

土坑（南区）

No.	遺構名	平面形	断面形	開口部径	深さ	時期	備考
1	RD81	円形状	筒状	0.7m	25cm	縄文中期	RA216の卜位
2	RD82	円形	逆台形	1.2m	20cm	縄文中期	RA175の卜位
3	RD87	円形	逆台形	0.9m	30cm	縄文	RA539の卜位
4	RD104	円形状	逆台形	1.7m	90cm	縄文	
5	RD111	楕円形状	筒状	1.55×1.4m	20cm	縄文中期中葉	RA204、208の卜位
6	RD112	不定形	不定形	5×4.6m	40cm	縄文前期前葉	土取り穴
7	RD113	円形状	筒状	0.8m	40cm	縄文	
8	RD114	円形状	逆台形	1m	20cm	縄文	
9	RD115	円形	逆台形	0.9m	30cm	縄文中期中葉	
10	RD116	円形	逆台形	1.3m	75cm	縄文	
11	RD117	円形状	筒状	0.9m	50cm	縄文中期後葉	RA524の卜位
12	RD119	楕円形状	逆台形	1×0.8m	40cm	縄文中期	
13	RD77	円形	筒状	0.9m	40cm	古代	
14	RD78	楕円形状	逆台形	1.25×1.15m	25cm	古代	RA535の卜位
15	RD86	円形	筒状	1.4m	90cm	古代?	
16	RD92	楕円形状	逆台形	1.05×0.9m	20cm	古代	RA535の卜位
17	RD108	不定形	不定形	2.1×1.6m	65cm	古代	土取り穴
18	RD120	円形状	逆台形	1m	45cm	古代	RA200の卜位
19	RD79	円形状	逆台形	1.2m	20cm	不明	RA187、207の卜位
20	RD80	円形状	筒状	1m	40cm	不明	RA540の卜位
21	RD89	楕円形状	逆台形	1.15×0.95m	30cm	不明	RA532の卜位
22	RD90	楕円形状	逆台形	0.6×0.45m	35cm	不明	
23	RD91	円形状	筒状	0.35m	20cm	不明	
24	RD93	楕円形状	楕円鉢状	0.5×0.4m	25cm	不明	RA202の卜位
25	RD95	円形状	逆台形	1.2m	70cm	不明	
26	RD96	円形状	逆台形	1.4m	40cm	不明	
27	RD97	楕円形状	筒状	0.7m	35cm	不明	RA533の卜位
28	RD98	楕円形状	筒状	0.65×0.4m	25cm	不明	
29	RD99	楕円形状	逆台形	1.4×0.9m	40cm	不明	RA533の卜位
30	RD100	円形状	筒状	0.45m	30cm	不明	

No.	遺構名	平面形	断面形	開口部径	深さ	時期	備考
31	RD101	楕円形状	逆台形	1×0.85m	35cm	不明	RA532の下位
32	RD102	楕円形状	逆台形	1.1×0.7m	25cm	不明	
33	RD106	不整形	逆台形	0.75×0.65m	40cm	不明	RA537の下位
34	RD107	楕円形状	逆台形	2×1.5m	40cm	不明	RA536の下位
35	RD110	楕円形状	筒状	1×0.8m	70cm	不明	

土坑（西区）

No.	遺構名	平面形	断面形	開口部径	深さ	時期	備考
1	RD71	小判形	逆台形	3.6×2m	35cm	古代	木炭炭の可能性有り
2	RD72	楕円形状	逆台形	2.1×1.4m	20cm	古代	木炭炭の可能性有り
3	RD74	楕円形状	逆台形	1.2×0.55m	90cm	不明	

焼土遺構

No.	遺構名	地区名	平面形	規模	厚さ	時期	備考
1	RF23	北区	楕円形状	0.35×0.25m	10cm	縄文中～後期	
2	RF21	南区	楕円形状	0.65×0.55m	5cm	不明	
3	RF22	南区	不整形	1.9×1.1m	10cm	不明	
4	RF20	西区	楕円形	0.65×0.5m	6cm	古代	鉄滓約5kg出土

溝跡

No.	遺構名	平面形	断面形	開口部径	深さ	時期	備考
1	RG03	沢状	V字状	0.7×1.6m	35～45cm	不明	宅地造成の擾乱

落とし穴

No.	遺構名	平面形	断面形	開口部径	深さ	時期	備考
1	KZ21	溝状	Y字状	3×0.5m	1.3m	縄文	西斜面

沢田1-97土器観察表

単位: cm * : 破損品の寸法

図版No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	器高	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
145-1	276-1	RA140	埴土	深鉢	縄文中期					小礫・シャモット	
145-2	276-2	RA140	埴土	深鉢	縄文中期					小礫・シャモット	
145-3	276-3	RA140	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
145	4 276	4 RA140	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
146-1	276-5	RA141	床直	鉢	縄文中期					細礫・シャモット	
146-2	276	6 RA141	床直	深鉢	縄文中期					粗砂	
146-3	276-7	RA141	床直	深鉢	縄文中期					小礫・シャモット	
146-4	276-8	RA141	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
146-5	276-9	RA141	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
146-6	276-10	RA141	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
147-1	276-13	RA142	埴土	深鉢	縄文中期					シャモット	
147-2	276-14	RA142	埴土	深鉢	縄文中期					細礫・シャモット	
147-3	276-15	RA142	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
147-4	276-16	RA142	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
148-1	276	18 RA143	伊	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
149-1	276-19	RA143	埴土	深鉢	縄文中期	*22.4	*23	*25.2		粗砂	
149-2	276	20 RA143	埴土	鉢	縄文中期	10.2	*10.6	*10.6	6	シャモット	
149-3	276-21	RA143	埴土	深鉢	縄文中期	*9.1	*16		6.8	細砂・シャモット	
149-4	276-22	RA143	埴土	深鉢	縄文中期					小礫・シャモット	
149-5	276-23	RA143	埴土	深鉢	縄文中期					細砂	
149-6	276-24	RA143	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
149-7	276-26	RA143	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
149-8	276-27	RA143	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
149-9	276-28	RA143	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
151-1	277-1	RA144	埴土	深鉢	縄文中期	28.8	19.7	*22	8.8	シャモット	
151-2	277-2	RA144	埴土	深鉢	縄文中期	*3.4		10	6.6	小礫・シャモット	
151-3	277-3	RA144	埴土	深鉢	縄文中期	*19.6				小礫・シャモット	
151-4	277-4	RA144	伊	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
151-5	277-5	RA144	伊	深鉢	縄文中期					シャモット	
151	6 277-6	RA144	床直	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
151-7	277-7	RA144	床直	深鉢	縄文中期					滑石片芯	
151-8	277-8	RA144	床直	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
151-9	277-9	RA144	床直	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
151-10	277-10	RA144	埴土	鉢	縄文中期	*2.4			3	小礫・シャモット	
151-11	277-11	RA144	埴土	鉢	縄文中期	13.1	8.5	10.4	6.4	小礫	
151-12	277-12	RA144	埴土	深鉢	縄文中期					小礫・シャモット	
152-1	277-13	RA144	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
152	2 277-14	RA144	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
152-3	277-15	RA144	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
152-4	277-16	RA144	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
152-7	277-19	RA145	埴土	深鉢	縄文前期					セシイ	
152	8 277-20	RA145	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
153-1	278-1	RA146	埴土	深鉢	縄文中期	17.8	15.9	16.5	7.4	小礫	
153-2	278-2	RA146	埴土	深鉢	縄文中期	*19				小礫	
153-3	278-3	RA146	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
153	4 278-4	RA146	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
153-5	278-5	RA146	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
156-1	278-8	RA149	伊	深鉢	縄文中期	*18		*23.1	*10.1	小礫・シャモット	
156-2	278-9	RA149	床直	深鉢	縄文中期	*6	11.5	11.7		粗砂	
156-3	278-10	RA149	床直	鉢	縄文中期	*5		*6.9	3.2	粗砂	ミニチュア
166-4	278-11	RA149	床直	深鉢	縄文中期	*5		20.8		粗砂	吊手付
156-5	278-7	RA149	床直	深鉢	縄文中期					粗砂	
156-6	278-12	RA149	床直	深鉢	縄文中期					粗砂	
156-7	278-13	RA149	床直	深鉢	縄文中期					粗砂	

図版No.	写真No.	川土地	層位	岩種	時 期	総 高	口 径	最大径	底 径	出土人物	備 考
157-1	278-14	RA149	埋土	深鉢	縄文中期	*22.7	25.3	30.3		粗砂	2と同個体
157-2	278-14	RA149	埋土	深鉢	縄文中期	*13		*20	10.4	粗砂	1と同個体
157-3	278-16	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					小礫	
157-4	278-17	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-5	278-18	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-6	278-19	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
157-7	278-20	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-8	278-21	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-9	278-22	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-10	278-23	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-11	278-24	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-12	278-25	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-13	278-26	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-14	278-27	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-15	279-1	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-16	279-2	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-17	279-3	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-18	279-4	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-19	279-5	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-20	279-6	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-21	279-7	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
157-22	279-8	RA149	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
159-1	279-11	RA150	埋土	深鉢	縄文中期	*8.4		*12.9	6.6	粗砂・シャモット	
159-2	279-12	RA150	埋土	鉢	縄文中期	*6.8				シャモット	母子孔
159-3	279-13	RA150	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
159-4	279-14	RA150	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
159-5	279-15	RA150	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
159-6	279-16	RA150	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
159-7	279-17	RA150	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
159-8	279-18	RA150	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
159-9	279-19	RA150	埋土	深鉢	縄文中期					小礫・シャモット	
159-10	279-20	RA150	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
159-11	279-21	RA150	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
159-12	279-22	RA150	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
159-13	279-23	RA150	埋土	深鉢	縄文中期					シャモット	上製品円盤
161-1	279-26	RA151	床面	鉢	縄文中期	*10.5		*13	*6.4	粗砂・シャモット	
161-2	279-27	RA151	埋土	深鉢	縄文中期	*7.8			15.1	粗砂・シャモット	
161-3	280-1	RA151	埋土	鉢	縄文中期	7.6	*6.1	7	3.9	粗砂	
161-4	280-2	RA151	埋土	鉢	縄文中期	*7.1		7.2	4.9	細礫	ミニチュア?
161-5	280-3	RA151	埋土	深鉢	縄文中期	45.3	28.5	31.4	14.1	シャモット・粗砂	
161-6	280-4	RA151	埋土	深鉢	縄文中期	*5.8				粗砂・シャモット	
161-7	280-5	RA151	埋土	深鉢	縄文中期	*36.7	27	30		粗砂	
161-8	280-6	RA151	埋土	深鉢	縄文中期	*11.7		*24.1	10.1	粗砂	
162-1	280-7	RA151	埋土	深鉢	縄文中期	*33.5	23.2	25.5		粗砂	
162-2	280-8	RA151	埋土	深鉢	縄文中期	*39.1	*35.8	36	10	細礫	
162-3	280-9	RA151	埋土	深鉢	縄文中期	*14.3	*24	*24		小礫	
162-4	280-10	RA151	埋土	深鉢	縄文中期	*21.1	*23.8	*23.8		細礫・シャモット	
162-5	281-1	RA151	埋土	深鉢	縄文中期	38	30.5	*32	9	細礫・シャモット	
162-6	281-2	RA151	埋土	浅鉢	縄文中期	6.5	8.7	9.2	6.7	小礫	
162-7	281-3	RA151	埋土	深鉢	縄文中期	18.6		*26.8	*9.2	粗砂・シャモット	
163-1	281-4	RA151	埋土	深鉢	縄文中期	*10.5		*18.4	9.1	細礫	
163-2	281-5	RA151	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
163-3	281-6	RA151	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
163-4	281-7	RA151	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
163-5	281-8	RA151	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	

図面No.	写真No.	出土地	形位	器種	時 原	器 高	口 径	最大径	底 径	胎土混入物	備 考
163-6	281-9	RA151	埋上	深鉢	縄文中期					シャモット	
163-7	281-10	RA151		深鉢	縄文中期					小礫・シャモット	
163-8	281-11	RA151	埋上	深鉢	縄文中期					小礫・シャモット	
163-9	281-12	RA151		深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
163-10	281-13	RA151		深鉢	縄文中期					細砂	
163-11	281-14	RA151		深鉢	縄文中期					細砂	
164-1	281-15	RA151		深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
164-2	281-16	RA151	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
164-3	281-17	RA151		深鉢	縄文中期					細砂	
164-4	281-18	RA151		深鉢	縄文中期					細砂	
164-7	282-1	RA152	埋下	深鉢	縄文中期					細砂	
165-1	282-3	RA153	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
165-2	282-4	RA153	埋下	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
165-3	282-5	RA153	埋下	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
165-4	282-6	RA153	埋下	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
166-1	282-7	RA155	床直	深鉢	縄文中期					細砂	
166-2	282-8	RA155	床直	深鉢	縄文中期					細砂	
166-3	282-9	RA155	床直	深鉢	縄文中期					小礫	
166-4	282-10	RA155	床直	深鉢	縄文中期					細砂	
166-5	282-11	RA155	床直	深鉢	縄文中期					粗砂	
166-6	282-12	RA155	床直	深鉢	縄文中期					細砂	
166-7	282-13	RA155	床直	深鉢	縄文中期					シャモット	
166-8	282-14	RA155	埋中	鉢	縄文中期	*20.2		*26.4		細砂	
166-9	282-15	RA155	埋中	鉢	縄文中期	14.3	17.4	17.4	6.6	粗砂	
166-10	282-16	RA155	埋中	小型鉢	縄文中期	3.4	*8	*8	6.7	小礫・シャモット	
167-1	282-17	RA155	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
167-2	282-18	RA155	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
167-3	282-19	RA155	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
167-4	282-20	RA155	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
167-5	282-21	RA155	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
167-6	282-22	RA155	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂	
167-7	282-23	RA155	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
167-8	282-24	RA155	埋下	深鉢	縄文中期					粗砂	
167-9	282-25	RA155	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
167-10	282-26	RA155	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
168-1	283-6	RA156	埋上	小型鉢	縄文中期	7	4.9	5.6	2.9	シャモット	
168-2	283-6	RA156	埋下	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
169-1	283-7	RA158	床直	深鉢	縄文中期	*16.4		*33.7		粗砂・シャモット	埋土器
169-2	283-8	RA158	床直	深鉢	縄文中期					小礫	
169-3	283-9	RA158	床直	深鉢	縄文中期					粗砂	
170-1	283-10	RA158	埋中	深鉢	縄文中期	*35.3	*39.8	*40.8		小礫	
170-2	283-11	RA158	埋上	深鉢	縄文中期	*12.9				細砂・シャモット	
170-3	283-12	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
170-4	283-13	RA158	埋上	深鉢	縄文中期					細砂	
170-5	283-14	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
170-6	283-15	RA158	埋上	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
170-7	283-16	RA158	埋上	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
170-8	283-17	RA158	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
170-9	283-18	RA158	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
170-10	283-19	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂	
170-11	283-20	RA158	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
170-12	283-21	RA158	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
170-13	283-22	RA158	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
170-14	284-1	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					小礫	
170-15	284-2	RA158	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	

図版No.	写真No.	出土地	層位	遺 跡	時 期	陸 高	口 径	最大径	底 径	胎土/胎人物	備 考
170-16	284-3	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					シヤモット	
170-17	284-4	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					細砂・シヤモット	
170-18	284-5	RA158	埋土	深鉢	縄文中期					細砂	
170-19	284-6	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					細砂・シヤモット	
171-1	284-7	RA158	埋土	深鉢	縄文中期					細砂	
171-2	284-8	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂	
171-3	284-9	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					小磯	
171-4	284-10	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
171-5	284-11	RA158	埋土	深鉢	縄文中期					海跡骨芯	
171-6	284-12	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					金雲母	
171-7	284-13	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
171-8	284-14	RA158	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
171-9	284-15	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂	
171-10	284-16	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
171-11	284-17	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					細砂・シヤモット	
171-12	284-18	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
171-13	284-19	RA158	埋土	深鉢	縄文中期					細砂・シヤモット	
171-14	284-20	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					金雲母	
171-15	284-21	RA158	埋土	深鉢	縄文中期					シヤモット	
171-16	284-22	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
171-17	284-23	RA158	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
171-18	284-24	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
171-19	284-25	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
171-20	284-26	RA158	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
171-21	285-1	RA158	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シヤモット	
173-4	285-6	RA160	埋下	深鉢	縄文前期					セシイ	
174-1	285-7	RA161	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
174-2	285-8	RA161	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
174-3	285-9	RA161	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
174-5	285-11	RA162	埋下	深鉢	縄文前期					セシイ	
174-6	285-12	RA162	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
174-7	285-13	RA162	埋下	深鉢	縄文前期					セシイ	
174-8	285-14	RA162	埋下	深鉢	縄文前期					セシイ	
174-9	285-15	RA162	埋下	深鉢	縄文前期					セシイ	
175-1	285-16	RA163	床直	深鉢	縄文中期	*16.9				小磯・シヤモット	
175-2	285-17	RA163	床直	深鉢	縄文中期					細砂	
176-1	285-18	RA163	床直	深鉢	縄文中期					細砂	
176-2	285-19	RA163	床直	深鉢	縄文中期					粗砂	
176-3	285-22	RA163	埋土	深鉢	縄文中期	30.5	19.7	19.7	8	細砂	
176-4	285-20	RA163	埋土	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
176-5	285-21	RA163	埋下	深鉢	縄文中期					細砂	
176-6	286-1	RA163	埋下	深鉢	縄文中期					細砂	
176-7	286-2	RA163	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シヤモット	
176-8	286-3	RA163	埋中	深鉢	縄文中期					砂有礫・シヤモット	
176-9	286-4	RA163	埋土	深鉢	縄文中期					細砂	
176-10	286-5	RA163	埋下	深鉢	縄文中期					粗砂	
176-11	286-6	RA163	埋中	深鉢	縄文中期					小磯	
176-12	286-7	RA163	埋下	深鉢	縄文中期					細砂	
177-1	286-8	RA163	埋下	浅鉢	縄文中期					細砂・シヤモット	
177-2	286-9	RA163	埋中	深鉢	縄文中期					細砂・シヤモット	
177-3	286-10	RA163	埋下	深鉢	縄文中期					粗砂・シヤモット	
177-4	286-11	RA163	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
177-5	286-12	RA163	埋下	深鉢	縄文中期					細砂	
177-6	286-13	RA163	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
177-7	286-14	RA163	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	器高	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
177-8	286-15	RA163	埴下	深鉢	縄文中期					粗砂	
177-9	286-16	RA163	埴中	深鉢	縄文中期					粗砂	
177-10	286-17	RA163	埴中	深鉢	縄文中期					粗砂	
177-11	286-18	RA163	埴上	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
177-12	286-19	RA163	埴上	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
177-13	286-20	RA163	埴上	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
177-14	286-21	RA163	埴下	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
180-1	287-1	RA164	床面	深鉢	縄文中期	*24.8	*33	*35		粗砂・シャモット	
180-2	287-2	RA164	床面	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
180-3	287-3	RA164	床面	深鉢	縄文前期					粗砂	
181-1	287-4	RA164	床面	深鉢	縄文中期					シャモット	
181-2	287-5	RA164	床面	深鉢	縄文前期					小糠・シャモット	
181-5	287-8	RA164	埴上	深鉢	縄文中期	27.2	21.5	23	8	粗砂・シャモット	
181-6	287-9	RA164	床面	深鉢	縄文中期	*13.2	*21	*26.2		粗砂	
181-7	287-10	RA164	埴中	深鉢	縄文中期	*14.1	*28.2	*28.2		粗砂・シャモット	
181-8	287-11	RA164	埴下	深鉢	縄文中期	50	*33.2	40.5	14	小糠・シャモット	
182-1	287-12	RA164	埴中	深鉢	縄文前期					粗砂	
182-2	287-13	RA164	埴中	深鉢	縄文中期					粗砂	
182-3	287-14	RA164	埴上	鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
182-4	287-15	RA164	埴上	深鉢	縄文中期					小糠・シャモット	
182-5	287-16	RA164	埴上	深鉢	縄文中期					小糠・シャモット	
182-6	287-17	RA164	埴中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
182-7	287-18	RA164	埴上	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
182-8	288-1	RA164	埴上	深鉢	縄文中期					粗砂	
182-9	288-2	RA164	埴上	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
183-1	288-3	RA164	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
183-2	288-4	RA164	埴中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
183-3	288-5	RA164	埴中	深鉢	縄文中期					粗砂	
183-4	288-6	RA165	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
183-5	288-7	RA165	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
183-6	288-8	RA165	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
183-7	288-9	RA165	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
185-1	288-10	RA166	埴土	深鉢	縄文前期					粗砂	
185-2	288-11	RA166	埴中	深鉢	縄文前期	*25.6	*51			セシイ多量	
185-3	288-12	RA166	埴土	深鉢	縄文前期					セシイ	
185-4	288-13	RA166	埴土	深鉢	縄文前期					セシイ	
185-5	288-14	RA166	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
185-6	288-15	RA166	埴土	深鉢	縄文前期					粗砂	
185-7	288-16	RA166	埴中	深鉢	縄文前期					粗砂	
185-8	288-17	RA166	埴土	深鉢	縄文前期					粗砂	
185-9	288-18	RA166	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
185-10	288-19	RA166	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
185-11	288-20	RA166	埴土	深鉢	縄文前期					セシイ	
185-12	288-21	RA166	埴土	深鉢	縄文前期					粗砂	
185-13	288-22	RA166	埴中	深鉢	縄文前期					粗砂	
185-14	288-23	RA166	埴土	深鉢	縄文前期					セシイ	
185-15	288-24	RA166	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
185-16	288-25	RA166	埴土	深鉢	縄文前期					セシイ	
185-17	288-26	RA166	埴中	浅鉢	縄文前期					セシイ	
185-18	289-1	RA166	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
185-19	289-2	RA166	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
185-20	289-3	RA166	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
186-1	289-4	RA166	埴中	深鉢	縄文前期					粗砂	
186-2	289-5	RA166	埴下	深鉢	縄文前期					粗砂	
186-3	289-6	RA166	埴中	深鉢	縄文中期					粗砂	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	器高	口径	最大径	底径	胎土・人物	備考
186-4	289-7	RA166	埴土	深鉢	縄文前期					セシイ	
186-5	289-8	RA166	埴土	深鉢	縄文前期					セシイ	
186-6	289-9	RA166	埴土	紡錘車	古代					粗砂	上製品
187-1	289-11	RA167	埋中	深鉢	縄文中期	25.2	*13.6		8.5	粗砂・シャモット	
187-2	289-12	RA167	埋中	鉢	縄文中期	*13	11.6	12	*6.8	細砂・シャモット	
187-3	289-13	RA167	埴土	深鉢	縄文中期	*11.5		*22.8	13.3	粗砂	
188-1	289-14	RA168	埋中	深鉢	縄文中期					シャモット	
188-2	289-15	RA168	埴土	深鉢	縄文中期					シャモット	
188-3	289-16	RA168	埋中	深鉢	縄文中期					シャモット	
188-4	289-17	RA168	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
188-5	289-18	RA168	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
188-6	289-19	RA168	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
188-7	289-20	RA168	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂	
188-8	289-21	RA168	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
188-9	290-1	RA168	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
188-10	290-2	RA168	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
188-11	290-3	RA168	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
188-12	290-4	RA168	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
188-13	290-5	RA168	埴土	深鉢	縄文中期					シャモット	
188-14	290-6	RA168	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
189-1	290-8	RA169	埋中	深鉢	縄文中期	*20	*11.6			粗砂・シャモット	
189-2	290-9	RA169	埴土	深鉢	縄文中期	*27.6	*28			シャモット	
190-1	290-10	RA169	埋中	奈	縄文中期	36.5	20	31.5	9	シャモット	
190-2	290-11	RA169	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
190-3	290-12	RA169	埴土	深鉢	縄文中期					シャモット	
190-4	290-13	RA169	深鉢	縄文中期						粗砂・シャモット	
190-5	290-14	RA169	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
190-6	290-15	RA169	深鉢	縄文中期						粗砂・シャモット	
190-7	290-16	RA169	埋土	鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
190-8	290-17	RA169	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
190-9	291-1	RA169	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
190-10	291-2	RA169	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
190-11	291-3	RA169	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
190-12	291-4	RA169	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
190-13	291-5	RA169	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
190-14	291-6	RA169	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
190-15	291-7	RA169	埋土	深鉢	縄文中期					シャモット	
190-16	291-8	RA169	埴土	深鉢	縄文中期					シャモット	
191-1	291-9	RA169	埋土	上製品	縄文中期					細砂	有孔円盤
192-1	292-1	RA180	埴土	深鉢	縄文前期					セシイ	
192-2	292-2	RA180	埋土	深鉢	縄文前期					粗砂	
192-3	292-3	RA180	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
192-4	292-4	RA180	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
192-5	292-5	RA180	埴土	深鉢	縄文前期					粗砂	
192-6	292-6	RA180	埋土	深鉢	縄文前期					細砂	
192-7	292-7	RA180	埴土	深鉢	縄文前期					粗砂	
192-8	292-8	RA180	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
192-9	292-9	RA180	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
193-1	292-10	RA181	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
193-2	292-11	RA181	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
193-3	292-12	RA181	埴土	深鉢	縄文前期					セシイ	
193-4	292-13	RA181	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
193-5	292-14	RA181	埋土	深鉢	縄文前期					細砂	
193-6	292-15	RA181	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
193-7	292-16	RA181	埴土	深鉢	縄文前期					セシイ	

図版No.	写真No.	出土地	形位	器種	時期	高さ	口径	最大径	底径	出土人物	備考
195-1	292-19	RA182	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
195-2	292-20	RA182	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
195-3	292-21	RA182	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
195-4	292-22	RA182	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
195-5	292-23	RA182	埴下	深鉢	縄文前期					細砂	
197-1	293-1	RA183	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
197-2	293-2	RA183	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
197-3	293-3	RA183	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
197-4	293-4	RA183	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
197-5	293-5	RA183	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
197-6	293-6	RA183	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
197-7	293-7	RA183	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
197-8	293-8	RA183	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
197-9	293-9	RA183	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
197-10	293-10	RA183	埴上	深鉢	縄文前期					粗砂	
197-11	293-11	RA183	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
197-12	293-12	RA183	埴上	高坏	弥生?					金雲母	
198-1	293-14	RA191	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
198-2	293-15	RA191	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
198-3	293-16	RA191	埴下	深鉢	縄文前期					粗砂	
199-1	293-17	RA192	埴上	深鉢	縄文前期	*6.5		15.4		小磯・シャモット	
199-2	293-18	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
199-3	293-19	RA192	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
199-4	293-20	RA192	埴上	深鉢	縄文前期					細砂	
200-1	293-21	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-2	293-22	RA192	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-3	293-23	RA192	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-4	294-1	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-5	294-2	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-6	294-3	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					粗砂	
200-7	294-4	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					粗砂	
200-8	294-5	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-9	294-6	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-10	294-7	RA192	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-11	294-8	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-12	294-9	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					細砂	
200-13	294-10	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-14	294-11	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-15	294-12	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					粗砂	
200-16	294-13	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-17	294-14	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-18	294-15	RA192	埴中	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-19	294-16	RA192	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-20	294-17	RA192	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-21	294-18	RA192	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
200-22	294-19	RA192	埴中	深鉢	縄文中期					細砂	
202-1	295-1	RA194	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
202-2	295-2	RA194	埴下	深鉢	縄文前期					粗砂	
202-3	295-3	RA194	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
202-4	295-4	RA194	埴下	深鉢	縄文前期					セシイ	
203-1	295-5	RA213	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
203-2	295-6	RA213	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
203-3	295-7	RA213	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
203-4	295-8	RA213	埴上	深鉢	縄文前期					セシイ	
206-1	296-9	RD83	埴中	深鉢	縄文中期					粗砂	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	器高	口径	最大径	底径	胎土/人物	備考
206-2	295-10	RD83	埴中	深鉢	縄文中期					細砂	
207-1	295-12	RD88	埴中	深鉢	縄文中期	*13.6	21.4	21.4		シャモット	
207-2	295-13	RD88	埴土	深鉢	縄文中期					小磯・シャモット	
207-3	295-14	RD88	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
207-4	295-15	RD88	埴土	深鉢	縄文前期					センイ	
208-1	295-17	RD103	埴中	深鉢	縄文中期					細砂	
208-2	295-18	RD109	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
208-3	295-19	RD109	埴土	深鉢	縄文中期					細砂	
208-5	295-21	RF23	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
208-6	295-22	RF23	埴土	深鉢	縄文中期					粗砂	
210-1	296-1	RA526	埴土	甕	平安	*5.6	*10.6			小磯	
210-2	296-2	RA526	埴下	甕	古代					粗砂・シャモット	須恵器
210-5	296-5	RA526	埴中	甕	古代	*3	*16			細砂	須恵器
210-6	296-6	RA526	埴下	甕	奈良?					粗砂・シャモット	土師器
210-7	296-7	RA526	埴土	甕	古代					粗砂・シャモット	須恵器
211-1	296-10	RA527	埴土	坏	平安?	*4	*18			細砂	
211-2	296-11	RA527	埴土	坏	平安	*3.7	*13.2			細砂	
211-3	296-12	RA527	埴土	甕	奈良?					小磯	
211-4	296-13	RA527	埴土	坏	平安	5.6	17.8		5.7	細砂	
211-5	296-14	RA527	埴下	甕	古代					シャモット	土師器
211-6	296-16	RA527	埴土	甕	古代					シャモット	須恵器
211-7	296-15	RA527	埴土	甕	古代					シャモット	須恵器
213-1	296-17	RA528	埴土	深鉢	縄文前期					センイ	尖底土器
213-2	296-18	RA528	埴土	甕	奈良	*10.3		*14.6	7.6	細砂	
213-3	296-19	RA528	埴土	甕	奈良	*15	*18	19.5		小磯	
213-4	296-20	RA528	埴中	甕	奈良	*31.1		17.6	9.4	小磯	
213-5	296-21	RA528	埴土	甕	奈良?	*16.5	*11.2	*22.4		小磯	
213-6	296-22	RA528	埴土	紡錘車	古代						土製品
215-2	297-2	RA529	床面	坏	奈良	3.5	11.8		6	粗砂	内皿
215-3	297-3	KA529	床面	甕	奈良	*14.5	18.6			粗砂	
215-4	297-4	RA529	埴中	甕	平安?	*7	*17.6			粗砂	
215-5	297-5	KA529	埴中	甕	奈良	30.5	20.2		8.8	粗砂	
216-1	297-6	RA529	埴中	甕	古代	*14.5			*11	粗砂	
216-2	297-7	KA529	埴中	大甕	古代	*34.1		*39		細砂	須恵器
216-3	297-8	RA529	大甕	古代						シャモット	須恵器
217-1	297-11	KA530	埴土	甕	奈良	*9	17			細砂	
219-1	297-13	RA531	埴下	甕	平安?	15.8	14.8		8.1	小磯	
219-2	297-14	KA531	埴下	甕	奈良?				*9	粗砂	
219-3	297-15	RA531	埴中	甕	古代	*9.2	*13	*16.5		シャモット	須恵器
219-4	297-16	KA531	埴中	坏	平安	4.6	13		4.5	細砂	内皿
219-5	297-17	RA531	埴土	甕	古代					シャモット	陶器
219-6	297-18	KA531	埴中	甕	奈良					シャモット	須恵器
219-8	298-1	RA514	床面	甕	奈良	7.9	11.9			シャモット	
221-1	298-2	RE11	埴土	甕	古代					シャモット	土師器
225-1	298-3	RG03	埴中	甕	奈良	*3.3	11			粗砂	
225-2	298-4	RG03	埴中	坏	奈良	*5				粗砂	内皿
225-3	298-5	RG03	埴中	深鉢	縄文前期					粗砂	
225-4	298-6	RG03	埴中	深鉢	縄文前期					細砂	
225-5	298-7	RG03	埴上	深鉢	縄文中期					粗砂	
225-6	298-8	RG03	埴上	深鉢	縄文前期					粗砂・センイ	
225-7	298-9	RG03	埴中	深鉢	縄文前期					粗砂・センイ	
225-8	298-10	RG03	埴中	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
225-9	298-11	RG03	埴中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
225-10	298-12	RG03	埴中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
225-11	298-13	RG03	埴中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	

図面No.	写点No.	川土地	層位	層種	時期	経高	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
225-12	298-14	RG03	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
225-13	298-15	RG03	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
225-14	298-16	KG03	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂	
225-15	298-17	KG03	埋中	深鉢	縄文中期					シモット	
227-1	299-1	KA170	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
227-2	299-2	RA170	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
227-3	299-3	KA170	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
227-4	299-4	RA170	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
228-1	299-6	RA171	床面	深鉢	縄文中期					粗砂	
228-6	299-11	RA171	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
228-7	299-12	RA171	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂	
228-8	299-13	RA171	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂	
229-1	299-14	RA172	埋上	深鉢	前期前葉	*22	*26			セシイ多量・小礫	
229-2	299-15	RA172	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	穴底土層
229-3	299-16	RA172	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
229-4	299-17	RA172	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
229-5	299-18	RA172	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
229-6	299-19	RA172	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
229-7	299-20	RA172	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
229-8	299-21	RA172	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
229-9	299-22	RA172	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
229-10	299-23	RA172	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
229-11	299-24	RA172	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
229-12	299-25	RA172	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
229-13	299-26	RA172	埋上	土製品	縄文前期					セシイ	円盤
229-14	299-27	RA172	埋上	土製品	縄文前期					セシイ	円盤
230-1	300-5	RA175	埋上	深鉢	縄文前期					粗砂・シャモット	
232-1	300-7	RA176	床直	深鉢	縄文前期					粗砂	
232-2	300-8	RA176	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
232-3	300-9	RA176	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
232-4	300-10	RA176	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
232-5	300-11	RA176	床直	深鉢	縄文中期					粗砂	
232-6	300-12	RA176	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
232-7	300-13	RA176	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
232-8	300-14	RA176	埋中	深鉢	縄文前期	31.8	26		*13	粗砂・セシイ	
232-9	300-15	RA176	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
232-10	300-16	RA176	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
232-11	300-17	RA176	埋中	鉢	縄文中期					粗砂	
232-12	300-18	RA176	埋中	深鉢	縄文前期	*3.2		*10.6	10.7	粗砂・シャモット	
232-13	300-19	RA176	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂・シャモット	
232-14	300-20	RA176	埋中	深鉢	縄文中期					シャモット	
232-15	300-21	RA176	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
232-16	300-22	RA176	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
233-1	301-1	RA186	床直	深鉢	縄文前期					粗砂	
233-4	301-4	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
233-5	301-5	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
233-6	301-6	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
233-7	301-7	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
233-8	301-8	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
233-9	301-9	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
233-10	301-10	RA186	床直	深鉢	縄文前期					粗砂	
233-11	301-11	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
234-1	301-12	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
234-2	301-13	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
234-3	301-14	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	

図番No.	写真No.	出土地	刃位	器種	時期	面立	口徑	最大径	底径	出土品入物	備考
234-4	301-15	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
234-5	301-16	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
234-6	301-17	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
234-7	301-18	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
234-8	301-19	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					細砂	
234-9	301-20	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					細砂	
234-10	301-21	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
234-11	301-22	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
234-12	301-23	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					細砂	
234-13	301-24	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					細砂	
234-14	301-25	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					細砂	
234-15	302-1	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
234-16	302-2	RA186	床直	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
234-17	302-3	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
234-18	302-4	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
234-19	302-5	RA186	床直	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
234-20	302-6	RA186	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
236-5	302-13	RA188	埋上	深鉢	縄文前期					細砂	
236-6	302-14	RA188	埋中	深鉢	縄文前期					シャモット・セシイ	
236-7	302-15	RA188	埋下	深鉢	縄文前期					セシイ	
236-8	302-16	RA188	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
236-9	302-17	RA188	埋中	深鉢	縄文前期					細砂	
236-10	302-18	RA188	埋下	深鉢	縄文前期					細砂	
236-11	302-19	RA188	埋中	深鉢	縄文前期					細砂	
236-12	602-20	RA188	埋上	深鉢	縄文前期					粗砂	
236-13	302-21	RA188	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
236-14	302-22	RA188	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
236-15	302-23	RA188	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
236-16	302-24	RA188	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
237-1	302-25	RA188	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
237-2	302-26	RA188	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
237-3	303-1	RA188	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
237-4	303-2	RA188	埋中	深鉢	縄文中期					金雲母	
237-5	303-3	RA188	埋上	深鉢	縄文中期					細砂	
237-6	303-4	RA188	埋上	深鉢	縄文中期					細砂	
237-7	303-5	RA188	埋下	深鉢	縄文中期					小礫・シャモット	
237-8	303-6	RA188	埋上	深鉢	縄文中期					細砂	
237-9	303-7	RA188	埋下	深鉢	縄文中期					シャモット	
237-10	303-8	RA188	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
237-11	303-9	RA188	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
237-12	303-10	RA188	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
237-13	303-11	RA188	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
237-14	303-12	RA188	埋上	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
237-15	303-13	RA188	埋上	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
237-16	303-14	RA188	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
237-17	303-15	RA188	埋上	深鉢	縄文中期					細砂	
237-18	303-16	RA188	埋中	深鉢	縄文中期					細砂	
237-19	303-17	RA188	埋上	深鉢	縄文中期					細砂	
237-20	303-18	RA188	埋上	土製品	縄文前期					粗砂・シャモット	円盤
237-21	303-19	RA188	埋下	土製品	縄文前期					セシイ	円盤
237-22	303-20	RA188	埋上	土製品	縄文前期					粗砂	円盤
239-1	304-4	RA189	床面	深鉢	縄文前期	*34.5	*29.5			粗砂・セシイ	
239-2	304-5	RA189	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
239-3	304-6	RA189	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
240-1	304-7	RA189	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	高さ	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
240-6	304-12	RA189	床底	深鉢	縄文前期					セシイ	
240-7	304-13	RA189	埋下	深鉢		*29.3	*34			セシイ・糠	
240-8	304-14	RA189	埋中	深鉢		*20.6	*26.5			粗砂	
240-9	304-15	RA189	埋下	深鉢	縄文前期	*13.3				細砂・シャモット	
240-10	304-16	RA189	埋上	深鉢		*21.9	*22.4	*22.4		細砂・シャモット	
240-11	304-17	RA189	埋下	深鉢			16	16		粗砂・シャモット	
240-12	305-1	RA189	埋下	深鉢	縄文中期	*15.1				粗砂・シャモット	
241-1	305-2	RA189	埋中	深鉢	縄文前期	*34.8	*30	*30		セシイ	
241-2	305-3	RA189	埋下	深鉢	縄文前期					セシイ	
241-3	305-4	RA189	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
241-4	305-5	RA189	埋上	深鉢	縄文前期					細砂	
241-5	305-6	RA189	埋上	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
241-6	305-7	RA189	埋上	深鉢	縄文前期					粗砂	
241-7	305-8	RA189	埋上	深鉢	縄文前期					粗砂	
241-8	305-9	RA189	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
241-9	305-10	RA189	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
241-10	305-11	RA189	埋上	深鉢	縄文前期					小磯	
241-11	305-12	RA189	埋上	深鉢	縄文前期					粗砂	
242-1	305-15	RA190	床面	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
242-2	305-16	RA190	床面	深鉢	縄文前期					セシイ	
242-3	305-17	RA190	床面	深鉢	縄文前期					セシイ	
242-4	305-18	RA190	床面	深鉢	縄文前期					セシイ	
242-5	305-19	RA190	床面	深鉢	縄文前期					細砂	
242-6	306-1	RA190	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
242-7	306-2	RA190	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
242-8	306-3	RA190	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
242-9	306-4	RA190	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
243-1	306-5	RA190	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
243-2	306-6	RA190	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
243-3	306-7	RA190	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
243-4	306-8	RA190	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
243-5	306-9	RA190	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
243-6	306-10	RA190	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
243-7	306-11	RA190	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
243-8	306-12	RA190	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
243-9	306-13	RA190	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
245-1	306-15	KA197	床底	深鉢	中期					粗砂・セシイ	
245-2	306-16	RA197	坑内	深鉢	縄文中期	*17.7		*24.6	9.4	小磯・シャモット	
245-3	306-17	RA197	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
245-4	306-18	RA197	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
245-5	306-19	KA197	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
245-6	306-20	RA197	埋上	深鉢	縄文前期					粗砂	
245-7	306-21	RA197	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
245-8	307-1	RA197	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
246-1	307-6	KA198	埋上	鉢	縄文前期					粗砂	
246-2	307-7	RA198	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
246-3	307-8	KA198	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
247-1	307-9	RA199	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
247-2	307-10	KA199	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
247-3	307-11	RA199	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
247-4	307-12	RA199	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
247-5	307-13	RA199	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
247-6	307-14	RA199	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
247-7	307-15	RA199	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
247-8	307-16	RA199	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	

図番No	写真No	川土地	層位	露 出	時 期	器 高	口 径	最大径	底 径	胎土混入物	備 考
247-9	307-17	RA199	堀中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
247-10	307-18	RA199	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
247-11	307-19	RA199	堀中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
247-12	307-20	RA199	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
249-1	307-21	KA201	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
249-2	307-22	RA201	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
249-3	307-23	KA201	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
249-4	307-24	RA201	床直	深鉢	縄文前期					粗砂	
249-5	307-25	RA201	床直	深鉢	縄文前期					粗砂	
249-6	307-26	RA201	床直	深鉢	縄文前期					粗砂	
249-7	307-27	RA201	床直	深鉢	縄文前期					粗砂	
249-8	307-28	RA201	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
249-9	307-29	RA201	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
249-10	308-1	RA201	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
249-13	308-4	RA201	床直	深鉢	縄文前期					粗砂	
249-14	308-5	RA201	堀中	深鉢	縄文前期	*10.5				粗砂	
249-15	308-6	RA201	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
249-16	308-7	KA201	堀下	深鉢	縄文前期					セシイ	
249-17	308-8	RA201	床下	深鉢	縄文前期					セシイ	
250-1	308-9	KA201	堀中	深鉢	縄文前期					セシイ	
250-2	308-10	RA201	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
250-3	308-11	RA201	堀中	深鉢	縄文前期					粗砂	
250-4	308-12	RA201	埋下	深鉢	縄文前期					セシイ	
250-5	308-13	KA201	堀中	深鉢	縄文前期					セシイ	
250-6	308-14	RA201	埋下	深鉢	縄文前期					セシイ	
250-7	308-15	KA201	堀中	深鉢	縄文前期					セシイ	
250-8	308-16	RA201	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
250-9	308-17	RA201	堀中	深鉢	縄文中期					粗砂	
250-10	308-18	RA201	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂	
250-11	308-19	RA201	堀中	深鉢	縄文中期					粗砂	
250-12	308-20	RA201	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
252-1	308-23	KA202	貼床	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-2	308-24	RA202	貼床	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-3	308-25	RA202	貼床	深鉢	縄文前期					小礫	
252-4	308-26	RA202	貼床	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-5	308-27	RA202	床直	深鉢	縄文前期					粗砂	
252-6	308-28	RA202	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-7	308-29	RA202	床直	深鉢	縄文前期					小礫	
252-11	309-4	RA202	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-12	309-5	RA202	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-13	309-6	RA202	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-14	309-7	RA202	床直	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-15	309-8	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-16	309-9	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
252-17	309-10	RA202	壁溝	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-18	309-11	RA202	壁溝	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-19	309-12	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-20	309-13	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-21	309-14	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-22	309-15	RA202	壁溝	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-23	309-16	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
252-24	309-17	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
253-1	309-18	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
253-2	309-19	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
253-3	309-20	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	

図版No.	写真No.	出土地	層位	層種	時期	器高	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
253-4	309-21	RA202	盤溝	深鉢	縄文前期					セシイ	
253-5	309-22	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
253-6	309-23	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
253-7	310-1	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
253-8	310-2	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
253-9	310-3	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
253-10	310-4	RA202	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
253-11	310-5	RA202	埋中	深鉢	縄文前期?					粗砂	
253-12	310-6	RA202	盤溝	深鉢	縄文前期					シャモット・セシイ	
255-1	310-18	RA204	埋土	深鉢	縄文前期					練土	
255-2	310-19	RA204	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
255-3	310-20	RA204	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
256-1	310-21	RA205	埋中	深鉢	縄文中期?					シャモット	破片夾削
256-2	310-22	RA205	埋中	深鉢	縄文中期					練土・シャモット	
256-3	310-23	RA205	埋土	深鉢	縄文中期					練土・シャモット	
256-4	310-24	RA205	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
256-5	310-25	RA205	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
256-6	310-26	RA205	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
256-7	310-27	RA205	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
256-8	310-28	RA205	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
257-1	310-29	RA205	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
257-2	310-30	RA205	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
257-3	311-1	RA205	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
257-4	311-2	RA205	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
257-5	311-3	RA205	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
257-6	311-4	RA205	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
257-7	311-5	RA205	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
257-8	311-6	RA205	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
257-9	311-7	RA205	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
257-10	311-8	RA205	埋土	深鉢	縄文中期					シャモット	
257-11	311-9	RA205	埋中	深鉢	縄文中期					シャモット	
257-12	311-10	RA205	埋中	深鉢	縄文中期					シャモット	
257-13	311-11	RA205	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
257-14	311-12	RA205	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
257-15	311-13	RA205	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
257-16	311-14	RA205	埋土	深鉢	縄文前期					粗砂・シャモット	
258-1	311-20	RA206	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
258-2	311-21	RA206	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
258-3	311-22	RA206	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
262-1	312-1	RA210	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂・シャモット	
262-2	312-2	RA210	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
262-3	312-3	RA210	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
262-4	312-4	RA210	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
262-5	312-5	RA210	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
262-6	312-6	RA210	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
262-7	312-7	RA210	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
262-8	312-8	RA210	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
262-9	312-9	RA210	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
263-1	312-11	RA211	埋下	深鉢	縄文中期					粗砂	
263-2	312-12	RA211	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
263-3	312-13	RA211	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
263-4	312-14	RA211	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
263-5	312-15	RA211	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
264-1	312-16	RA214	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
264-2	312-17	RA214	埋下	深鉢	縄文前期					セシイ	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	高さ	口徑	最大径	底径	胎土器入物	備考
264-3	312-18	RA214	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
266-1	312-19	RA215	床面	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
266-2	312-20	RA215	床面	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
266-3	312-21	RA216	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
266-4	312-22	RA216	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
266-5	312-23	RA216	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
267-1	312-24	RA217	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
267-2	312-25	RA217	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
267-3	312-26	RA217	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
267-4	312-27	RA217	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
267-5	312-28	RA217	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
267-6	312-29	RA217	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
267-7	312-30	RA217	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
268-1	313-1	RA219	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
268-2	313-2	RA219	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
268-3	313-3	RA219	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
270-1	313-5	RA223	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
270-2	313-6	RA223	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
270-3	313-7	RA223	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
270-4	313-8	RA223	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
270-5	313-9	RA223	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
270-6	313-10	RA223	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
270-7	313-11	RA223	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
272-1	313-13	RD82	埋中	深鉢	縄文前期					粗砂	
272-2	313-14	RD82	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂	
272-3	313-15	RD82	埋中	土製品	縄文中期					粗砂	門盤
273-1	313-17	RD111	埋上	深鉢	縄文前期					細砂・シャモット	
273-2	313-18	RD111	埋上	深鉢	縄文中期					粗砂	
273-3	313-19	RD111	埋上	深鉢	縄文前期					粗砂	
273-4	313-20	RD111	埋上	高杯	弥生?					粗砂	
273-5	313-21	RD111	埋上	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
274-1	313-22	RD112	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
274-2	313-23	RD112	埋中	深鉢	縄文前期					セシイ	
274-3	313-24	RD112	埋上	深鉢	縄文前期					セシイ	
274-4	313-25	RD113	埋中	深鉢	縄文晩期?					粗砂	
274-5	313-26	RD113	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂	
275-1	313-27	RD115	埋下	深鉢	縄文中期					粗砂	
275-2	313-28	RD117	埋中	深鉢	縄文中期					粗砂	
275-3	313-29	RD119	埋中	高杯	弥生					粗砂	
278-1	314-1	RA174	埋下	深鉢	縄文前期					粗砂	
278-2	314-2	RA174	埋中	深鉢	縄文晩期					粗砂	
278-3	314-3	RA174	埋中	深鉢	弥生?					粗砂	
278-4	314-4	RA174	埋下	深鉢	弥生					粗砂	
278-5	314-5	RA174	埋下	深鉢	弥生					粗砂	
278-6	314-6	RA174	埋下	深鉢	弥生					粗砂	
278-7	314-7	RA174	埋中	深鉢	弥生					粗砂	
278-8	314-8	RA174	埋中	深鉢	弥生					粗砂	
278-9	314-9	RA174	埋中	深鉢	弥生					粗砂	
278-10	314-10	RA174	埋中	深鉢	弥生					粗砂	
278-11	314-11	RA174	埋下	深鉢	弥生					粗砂	
278-12	314-12	RA174	埋下	深鉢	弥生					粗砂	
278-13	314-13	RA174	埋上	壺?	弥生					粗砂	
278-14	314-14	RA174	埋中	高杯	弥生					粗砂	
278-15	314-15	RA174	埋上	高杯	弥生					粗砂	
278-16	314-16	RA174	埋中	高杯	弥生					粗砂	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	高さ	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
278-17	314-17	RA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
278-18	314-18	RA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
278-19	314-19	RA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
279-1	315-1	KA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
279-2	315-2	RA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
279-3	315-3	RA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
279-4	315-4	RA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
279-5	315-5	RA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
279-6	315-6	RA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
279-7	315-7	RA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
279-8	315-8	RA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
279-9	315-9	RA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
279-10	315-10	RA174	埋土	高杯	弥生					粗砂	
279-11	315-11	RA174	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
279-12	315-12	RA174	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
280-1	315-13	RA177	埋土	蓋	弥生	*16.8			*23	粗砂	
280-2	315-14	KA177	埋土	高杯	弥生	*7.9	*20	*20		粗砂	
280-3	315-15	RA177	埋土	高杯	弥生					粗砂	
280-4	315-16	RA177	埋土	高杯	弥生					粗砂	
280-5	315-17	RA177	埋土	深鉢	弥生					粗砂	
280-6	315-18	RA177	埋土	高杯	弥生					粗砂	
280-7	315-19	RA177	埋土	高杯	弥生					粗砂	
280-8	315-20	RA177	埋土	高杯	弥生					粗砂	
281-1	315-21	RA177	埋土	深鉢	縄文前期					金雲母	
281-2	316-1	RA177	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
281-3	316-2	KA177	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
281-4	316-3	RA177	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
281-5	316-4	KA177	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
281-6	316-5	RA177	埋土	土製品	縄文前期					セシイ	有孔円盤
282-1	316-6	KA187	床直	深鉢	弥生					粗砂	
282-2	316-7	RA187	床直	高杯	弥生					粗砂	
282-3	316-8	KA187	埋土	深鉢	弥生					粗砂	
282-4	316-9	RA187	埋土	深鉢	弥生					粗砂	
282-5	316-10	KA187	埋土	甕	古代					粗砂	
282-6	316-11	RA187	埋土	深鉢	弥生?					粗砂	
282-7	316-12	RA187	埋土	高杯	弥生					粗砂	
282-8	316-13	RA187	埋土	高杯	弥生					粗砂	
282-9	316-14	KA187	埋土	高杯	弥生					粗砂	
282-10	316-15	RA187	埋土	深鉢	弥生?					金雲母	
283-1	316-16	KA187	埋土	深鉢	弥生					粗砂	
284-1	316-21	RA196	埋土	高杯	弥生					粗砂	
284-2	316-22	KA196	埋土	高杯	弥生					粗砂	
284-3	316-23	RA196	埋土	高杯	弥生					粗砂	
285-1	317-1	KA200	埋土	深鉢	縄文前期					粗砂・シャモット	
285-2	317-2	RA200	埋土	深鉢	縄文前期					セシイ	
285-3	317-3	KA200	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
285-4	317-4	RA200	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
285-5	317-5	KA200	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂	
285-6	317-6	RA200	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
285-7	317-7	RA200	埋土	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
286-6	317-13	RA532	埋土	甕	奈良		27.8	18.5	18.5	8	粗砂
286-7	317-14	RA532	埋土	甕	奈良	*11.4	*17.7	*17.7			粗砂
288-4	317-18	RA533	埋土	甕	奈良	*20	*17.6	*18.6			粗砂
288-5	317-19	KA533	埋土	甕	奈良?		13.8	13.3	13.4	7	粗砂
288-6	317-20	RA533	埋土	甕	奈良	*9.2					粗砂

図版No.	写真No.	出土地	方位	器種	時期	高さ	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
289-1	317-21	RA534	床面	甕	奈良					粗砂	
289-2	317-22	RA534	床面	甕	奈良					細砂	
290-1	318-1	RA534	床面	坏	奈良	5	17.5		9.4	海綿骨芯	内黒
290-5	318-5	RA534	埋中	甕	奈良	18.6	18			粗砂	
290-6	318-6	RA534	埋中	甕	奈良	*4.6	*13			粗砂	
290-7	318-7	RA534	埋中	甕	奈良	*17.4		*14		粗砂	
290-8	318-8	RA534	埋中	坏	奈良	4.9	12.7			細砂	丸底
290-9	318-9	RA534	埋中	坏	平安	*3.2		12.6	8.4	小磯	
292-1	318-12	RA535	埋中	甕	奈良	24.9	19.8	23.7	9.4	粗砂	球脚
293-1	318-22	RA536	床面	甕	奈良	8.2	10.4		4.7	小磯	小型
293-2	318-23	RA536	埋上	甕	古代					細砂	須恵器
295-1	319-1	RA537	床面	鉢?	奈良?	0.7	8.8		7	細砂	
295-2	319-2	RA537	床面	甕	奈良	*4.5			6	細砂	
295-3	319-3	RA537	埋上	高坏	奈良					細砂	内黒
295-5	319-5	RA538	埋土	甕	奈良	*6.4	*10.6	*10.8		細砂	
297-1	319-6	RA539	埋上	甕	奈良	22.5	*16.8		7	細砂	
297-2	319-7	RA539	床面	坏	奈良?	*3.7	*17		*6	細砂	内黒
299-1	319-10	RA540	埋土	甕	奈良	15.5	13.7		6.4	細砂	
299-2	319-11	RA540	埋上	坏	奈良?	4.7	15.7		4	細砂・シャモット	内黒
299-3	319-12	RA540	床面	甕	古代					細砂	須恵器
300-1	319-13	RA540	埋上	甕	奈良	21.4	17.8			粗砂	
300-2	319-14	RA540	埋土	甕	奈良	*11.7	18.9			シャモット	
300-3	319-15	RA540	埋下	甕	奈良?	8.3	13			細砂	
300-4	319-16	RA540	埋上	蓋	奈良	7.2	18.5			細砂	
300-5	319-17	RA540	埋中	甕	奈良					金雲母	小型
300-6	319-18	RA540	埋上	甕	奈良					金雲母・粗砂	
300-7	319-19	RA540	埋下	甕	奈良					粗砂	
300-8	319-20	RA540	埋中	甕	平安?					小磯	
300-9	319-21	RA540	埋下	坏	奈良	5.1	16		5	細砂	内黒
300-10	319-22	RA540	埋下	坏	奈良					シャモット	内黒
300-11	319-23	RA540	埋中	片口甕	奈良?					細砂	
300-12	320-1	RA540	埋中	大甕	古代					細砂	須恵器
300-13	320-2	RA540	埋中	甕	古代					細砂	須恵器
301-1	320-3	RA540	埋中	甕	古代					細砂	須恵器
301-2	320-4	RA540	埋中	甕	古代					細砂	須恵器
303-1	320-8	RA541	埋中	甕	奈良	*3.8	*12.4			細砂	
303-2	320-9	RA541	埋中	甕	奈良	*6.5				細砂	
303-3	320-10	RA541	埋中	甕	奈良	*4.5				細砂	
305-1	320-11	RA543	埋中	坏	奈良	7.4	*18		*5	細砂・シャモット	内黒
305-2	320-12	RA543	埋上	坏	奈良	*3.3				小磯	
308-1	320-18	RD92	埋中	深鉢	前期					粗砂	
308-2	320-19	RD92	埋中	深鉢	前期					セシイ	
309-2	320-21	RD120	埋中	深鉢	前期					セシイ	
316-1	321-1	R5	II a	深鉢	縄文早期					金雲母	
316-2	321-2	T4	III	深鉢	縄文早期					金雲母	
316-3	321-3	T2	II	深鉢	縄文早期					金雲母	
316-4	321-4	B11	III	深鉢	縄文早期					細砂	
316-5	321-5	S6	II	深鉢	縄文早期					細砂・シャモット	
316-6	321-6	T99-T1		深鉢	縄文早期					細砂	
316-7	321-7	R4	II a	深鉢	縄文早期					シャモット	
316-8	321-8	T13	II b	鉢	縄文前期	*3.4				セシイ	尖底土器
316-9	321-9	T13	II b	鉢	縄文前期	*2.9				セシイ	尖底土器
316-10	321-10	P15	II b	深鉢	縄文前期	*2				セシイ	尖底土器
316-11	321-11	T13	II	深鉢	縄文前期					セシイ	尖底土器
316-12	321-12	R15	II	深鉢	縄文前期					セシイ	尖底土器

図説No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	高さ	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
316-13	321-13	T13	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	尖底土器
316-14	321-14	M15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
316-15	321-15	S14	Ⅱc	深鉢		*14.4	*20.6			粗砂	
316-16	321-16	T14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
316-17	321-17	R6	I Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
316-18	321-18	T14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
316-19	321-19	P14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
316-20	321-20	T13	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
316-21	321-21	R16	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
316-22	321-22	N19	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
317-1	321-23	T3	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
317-2	321-24	T-S14		深鉢	縄文前期					細砂	
317-3	321-25	T-S14		深鉢	縄文前期					細砂	
317-4	321-26	S15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					細砂	
317-5	322-1	S15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					細砂	
317-6	322-2	T14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
317-7	322-3	T14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂	
317-8	322-4	T14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
317-9	322-5	T13	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
317-10	322-6	T13	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
317-11	322-7	T13	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
317-12	322-8	S15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					細砂	
317-13	322-9	S15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					細砂	
317-14	322-10	S15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					細砂	
318-1	322-11	R16	Ⅲ	深鉢	縄文前期					粗砂	
318-2	322-12	R15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
318-3	322-13	D12-13	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
318-4	322-14	R16	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
318-5	322-15	S15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					細砂	
318-6	322-16	P-Q15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂	
318-7	322-17	R15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂	
318-8	322-18	P18	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂	
318-9	322-19	C9	Ⅱb	深鉢	縄文前期					粗砂	
318-10	322-20	R16	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂	
318-11	322-21	B14	攪乱	深鉢	縄文前期					セシイ	
318-12	322-22	R15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
318-13	322-23	Q14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
318-14	322-24	K16	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂・シャモット	
318-15	323-1	B8	Ⅱa	深鉢	縄文前期					細砂	
318-16	323-2	Q15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					セシイ	
318-17	323-3	C7-9	I	深鉢	縄文前期					粗砂	
318-18	323-4	B14	攪乱	深鉢	縄文前期					セシイ	
318-19	323-5	Q15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					粗砂	
318-20	323-6	南区	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
318-21	323-7	L19	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
319-1	323-8	R15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂	
319-2	323-9	T13	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
319-3	323-10	B10	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂・シャモット	
319-4	323-11	P14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
319-5	323-12	Q1		深鉢	縄文前期					細砂・シャモット	
319-6	323-13	P-Q15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
319-7	323-14	T14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
319-8	323-15	Q14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
319-9	323-16	P-Q15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
319-10	323-17	T14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	

図版No.	写真No.	出土地	層位	出土種	時期	器高	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
319-11	323-18	R16	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
319-12	323-19	P14		深鉢	縄文前期					粗砂	
319-13	323-21	K16		深鉢	縄文前期					粗砂	
319-14	323-22	O14		深鉢	縄文前期					小礫・セシイ	
319-15	323-23	O14	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
319-16	323-20	P14	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
319-17	323-24	Q19	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
319-18	324-1	T20		深鉢	縄文前期					細砂	
319-19	324-2	O14		深鉢	縄文前期					セシイ	
319-20	324-3	O14	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-1	324-4	B14	攪乱	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-2	324-5	B8	II a	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-3	324-6	M12	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-4	324-7	P15	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-5	324-8	P14	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-6	324-9	P14	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-7	324-10	P-Q15	II	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
320-8	324-11	P15	II	深鉢	縄文前期					細砂	
320-9	324-12	S14	II d	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-10	324-13	X5	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-11	324-14	T-S14		深鉢	縄文前期					セシイ	
320-12	324-15	P14	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-13	324-16	P16	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-14	324-17	P-Q15	II	深鉢	縄文前期					細砂	
320-15	324-18	R15	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-16	324-19	X7	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-17	324-20	S15	III	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-18	324-21	P14		深鉢	縄文前期					細砂	
320-19	324-22	P14	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-20	324-23	T99-T1	II	深鉢	縄文前期					細砂	
320-21	324-24	X5	II a	深鉢	縄文前期					セシイ	
320-22	324-25	M12	II	深鉢	縄文前期					細砂	
321-1	325-1	Q14	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
321-2	325-2	T15		深鉢	縄文前期					セシイ	
321-3	325-3	T-S14		深鉢	縄文前期					セシイ	
321-4	325-4	S15	III	深鉢	縄文前期					セシイ	
321-5	325-5	R15	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
321-6	325-6	P14	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
321-7	325-7	R15		深鉢	縄文前期					粗砂	
321-8	325-8	M18	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
321-9	325-9	P15	II	深鉢	縄文前期					粗砂	
321-10	325-10	Q14	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
321-11	325-11	T-S14		深鉢	縄文前期					セシイ	
321-12	325-12	Q14	II	深鉢	縄文前期					細砂	
321-13	325-14	T15	III	深鉢	縄文前期					細砂・シャモット	
321-14	325-15	R15	II	深鉢	縄文前期					細砂	
321-15	325-13	B14	攪乱	深鉢	縄文前期					セシイ	
321-16	325-16	S15	III	深鉢	縄文前期					細砂	
322-1	325-17	B9	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-2	325-18	B10	II	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-3	325-19	S15	III	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-4	325-20	R15	III	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-5	325-21	S14	II d	深鉢	縄文前期					重砂・セシイ	
322-6	325-22	P14		深鉢	縄文前期					粗砂	
322-7	325-23	P14	II	深鉢	縄文前期					粗砂	

図面No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	総高	口径	最大径	底径	出土品入物	備考
322-8	325-24	B14	攪乱	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-9	325-25	M15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
322-10	326-1	P-Q15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-11	326-2	M14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-12	326-3	P-Q15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-13	326-4	Q15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-14	326-5	O16	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
322-15	326-6	R16	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-16	326-7	T-S14		深鉢	縄文前期					細砂	
322-17	326-8	T1	Ⅱa	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-18	326-9	P16	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
322-19	326-10	T14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
322-20	326-11	L16-17	Ⅱb	深鉢	弥生?	*11.8		*18.4	7.6	細砂	
322-21	326-12	L19	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
322-22	326-13	S15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-23	326-14	R15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
322-24	326-15	T14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
322-25	326-17	R3	Ⅱ	深鉢	縄文前期					セシイ	
323-1	326-16	R15	Ⅱ	深鉢	縄文前期	*13.7		23.7		細砂・シャモット	
323-2	326-18	R14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
323-3	326-19	T15		深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
323-4	326-22	P14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
323-5	326-20	R15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂	
323-6	326-21	R15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					細砂・シャモット	
323-7	326-23	O14		深鉢	縄文前期					粗砂	
323-8	326-24	P14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
323-9	326-25	Q14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
323-10	327-1	Q14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
323-11	327-2	M19	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂	
323-12	327-3	O14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂	
323-13	327-4	O14		深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
323-14	327-5	Q15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂・セシイ	
323-15	327-6	P-Q15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂	
323-16	327-7	N13	ⅡⅢ	深鉢	縄文前期					細砂	
323-17	327-8	Q15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					細砂	
323-18	327-9	Q15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					セシイ	
323-19	327-10	Q15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					細砂・セシイ	
324-1	327-11	P18	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
324-2	327-12	M15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					細砂	
324-3	327-13	M15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					細砂	
324-4	327-14	Q14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
324-5	327-15	S15	Ⅲ	深鉢	縄文前期					粗砂	
324-6	327-18	Q14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂	
324-7	327-16	S14	Ⅱb	鉢	縄文前期	*9.8	*23	*23		細砂・シャモット	
324-8	327-17	A8	Ⅱa	鉢	縄文前期	*8.5	*11.6	*11.6		細砂・シャモット	
324-9	327-19	O14	ⅡⅢ	鉢	縄文前期	*8.2	*12.6	*12.6		細砂・シャモット	
324-10	327-20	O15	Ⅱb	深鉢	縄文前期					粗砂	
324-11	327-21	C16	Ⅱ	深鉢	縄文前期					粗砂	
324-12	328-1	T13	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
324-13	328-2	P15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					シャモット	
324-14	328-3	P15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
324-15	328-4	P14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂	
324-16	328-5	O15	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂・シャモット	
324-17	328-6	S16	Ⅱd	深鉢	縄文前期					細砂・シャモット	
324-18	328-7	R16	Ⅱ	深鉢	縄文前期					細砂・シャモット	

図幅No.	写真No.	出土地	層位	探種	時期	層高	口径	最大径	底径	出土遺物	備考
324-19	328-8	R15	II	深鉢	縄文前期					細砂・シャモット	
324-20	328-9	O15	II	深鉢	縄文前期					細砂	
324-21	328-10			深鉢	縄文前期					細砂	
324-22	328-11	O14		深鉢	縄文前期					細砂・シャモット	
324-23	328-12	R15	II	深鉢	縄文前期					細砂	
325-1	328-13	Q14	II	深鉢	縄文前期					粗砂・シャモット	破片実測
325-2	328-15	R16	II	深鉢	縄文前期					粗砂	
325-3	328-17	T13	III	深鉢	縄文前期					粗砂	
325-4	329-1	R15	II	深鉢	縄文前期					粗砂	
325-5	328-18	P-Q15	II	深鉢	縄文前期					粗砂	
325-6	329-3	N13	IIa	深鉢	縄文前期					粗砂	
325-7	329-4	N13		深鉢	縄文前期					粗砂	
325-8	328-16	N17	III	深鉢	縄文前期					粗砂	
325-9	328-19	N17		深鉢	縄文前期					粗砂	
325-10	328-14	P14	II	深鉢	縄文前期					粗砂	
325-11	329-2	Q14	II	深鉢	縄文前期					粗砂	
325-12	329-5	N17	II	深鉢	縄文前期					粗砂	
326-1	329-6	M8	II	深鉢	縄文前期					粗砂	
326-2	329-7	Q14	II	深鉢	縄文前期					粗砂	
326-3	329-8	I.17	II	深鉢	縄文前期					粗砂	
326-4	329-9	T13	II	深鉢	縄文前期					粗砂	
326-5	329-10	O15		深鉢	縄文前期					細砂・シャモット	
326-6	329-11	T15	III	深鉢	縄文前期					細砂・シャモット	
326-7	329-12	N13	Ia	深鉢	縄文前期					細砂	
326-8	329-13	W10	II	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	破片実測
326-9	329-14	Y8	II d	深鉢	縄文中期					粗砂	集積0
326-10	329-15	Z11	検瓦	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
326-11	329-16	R4	IIa	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
326-12	329-17	M15	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
326-13	329-18	R15	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
326-14	329-19	M-N14	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
326-15	329-20	V7	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
326-16	329-21	Y7-9	IIa	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
326-17	329-22	S14	II d	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
326-18	330-1	R16	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
326-19	330-2	P-Q15	II	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
327-1	330-3	W10	II	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
327-2	330-4	O14-15	II	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
327-3	330-5	K15	II	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
327-4	330-6	T15	III	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
327-5	330-7	Q14	II	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
327-6	330-8	Y5	II b	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
327-7	330-9	G3	II	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
327-8	330-10	P15	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
327-9	330-11	P16	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
327-10	330-12	P-Q15	II	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
327-11	330-13	M16	II	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
327-12	330-14	P16	II	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
327-13	330-15	K16	II	浅鉢	縄文前期					粗砂・シャモット	
327-14	330-16	K16	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
327-15	330-17	L17		深鉢	縄文中期					粗砂	
327-16	330-18	T4	II a	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
328-1	330-19	D10	II b	深鉢	縄文中期	*9.9		*19.8	9.6	粗砂	
328-2	330-20	Z14	II b	深鉢	縄文中期	*23.6		*22.6		粗砂	
328-3	330-21	L2	II	深鉢	縄文中期	*17.2	*21.4			小磯・シャモット	

図面No.	写真No.	出土地	層位	部種	時期	器高	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
328-4	330-22	P-Q15	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
328-5	330-23	Z10	IIb	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
328-6	331-1	S14	IIa	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
328-7	331-2	R15	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
328-8	331-3	K16	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
328-9	331-4	M14	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
328-10	331-5	P15	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
328-11	331-6	P14		深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
328-12	331-7	U5	I	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
328-13	331-8	T14	II	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
328-14	331-9	X5	III	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
329-1	331-11	P14	IIb	深鉢	弥生前期	37	24	26	9	粗砂・シャモット	
329-2	331-12	T15	II	深鉢	弥生前期					金雲母	
329-3	331-13	R17	II	深鉢	弥生前期					粗砂	
329-4	331-14	L14-15	II	深鉢	弥生前期					粗砂	
329-5	331-15	M-N14	II	深鉢	弥生前期					金雲母	
329-6	331-10	O14-15	II	深鉢	弥生前期					金雲母	
329-7	331-16	M16		高坏	弥生前期					粗砂	
329-8	331-17	M14	II	高坏	弥生前期					シャモット	
329-9	331-18			浅鉢	弥生前段	*10.5	*23			粗砂・シャモット	
329-10	331-19	S17	IIa	高坏	弥生前段					粗砂	
330-1	331-20	N15	II	高坏	弥生前段					粗砂	
330-2	331-21	K16	II	高坏	弥生前段					粗砂	
330-3	332-1	O15		高坏	弥生前段					粗砂	
330-4	332-2	N18-19	II	壺	弥生前段					粗砂	
330-5	332-3	K13-15	II	高坏	弥生前段					粗砂	
330-6	332-4	N16	II	高坏	弥生前段					粗砂	
330-7	332-5	O14	III	高坏	弥生前段					粗砂	
330-8	332-6	O15	II	高坏	弥生前段	*8.8	*24		*9.4	粗砂・シャモット	
330-9	332-7	S14	IIb	鉢	弥生前段	9.9	*22		*8.4	粗砂・シャモット	
330-10	332-8	M16		高坏	弥生前段					粗砂	
330-11	332-9	O15		高坏	弥生前段					粗砂	
330-12	332-10	R18		高坏	弥生前段					粗砂	
330-13	332-11	O18		高坏	弥生前段					粗砂	
330-14	332-12	R16	II	高坏	弥生前段					粗砂	
330-15	332-13	L16	II	高坏	弥生前段					粗砂	
330-16	332-14	S15		高坏	弥生前段					粗砂	
330-17	332-15	O18		高坏	弥生前段					粗砂	
330-18	332-16	R17	II	高坏	弥生前段					粗砂	
330-19	332-17	O15	II	高坏	弥生前段					粗砂	
330-20	332-18	O15	II	高坏	弥生前段					粗砂	
330-21	332-19	O15	III	高坏	弥生前段					粗砂	
331-1	332-20	Q14	II	高坏	弥生前段					粗砂	
331-2	332-21	O18	II	高坏	弥生前段					粗砂	
331-3	333-2	O18	II	高坏	弥生前段					粗砂	
331-4	333-1	R16	II	高坏	弥生前段					粗砂	
331-5	333-3	R16	II	壺	弥生前段					粗砂	
331-6	333-4	Q14		高坏	弥生前段					粗砂	
331-7	333-5	R18	II	高坏	弥生前段					粗砂	
331-8	333-6	O18	II	高坏	弥生前段					粗砂	
331-9	333-7	O16-17	II	壺	弥生前段					粗砂	
331-10	333-8	R15	II	高坏	弥生前段					粗砂	
331-11	333-9	R16	IIb	高坏	弥生前段	*5.8		*11.3	9	粗砂	脚?
331-12	333-10	O18	II	高坏	弥生前段					粗砂	
331-13	333-11	P18	II	高坏	弥生前段					粗砂	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	器高	口径	最大径	底径	胎土/胎人物	備考
331-14	333-12	O18	II	高坏	弥生					細砂	
331-15	333-13	K18	IIb	無縁杯	古代		3.8	*3.8	7.2	3.8	粗砂
331-16	333-14	A11	I	高坏?	奈良	*4.9	*11	*11	*3.5	細砂・シャモット	内黒
331-17	333-15	Z6	II	甕	奈良?	*4.4		*9.8	5.6	細砂	
331-18	333-16	Z11		撥乱	奈良?	5.7		*9.4		細砂	
331-19	333-17	X1	II	坏	平安	*4.5	12.4	12.4		シャモット	内黒
331-20	333-18	S16	II	甕	古代					細砂	須恵器
331-21	333-19	S18	I II	甕	古代					細砂	須恵器
331-22	333-20	O13-16	II	甕	古代					細砂	須恵器
331-23	333-22	P16	II	甕	古代					細砂	須恵器
331-24	333-21	K15	II	甕	古代					細砂	須恵器
331-25	333-24	K16	II	甕	古代					細砂	須恵器
332-1	333-23	X5	II	甕	古代					細砂	須恵器
332-2	333-25	S18	II	甕	古代					細砂	須恵器
332-3	334-1	F16		甕	古代					細砂	須恵器
332-4	334-2	S18	II	甕	古代					細砂	須恵器
332-5	334-3	S18	II	甕	古代					細砂	須恵器
332-6	334-4	K15	II	甕	古代					細砂	須恵器
332-7	334-5	S18	II	甕	古代					細砂	須恵器
332-8	334-6	C8	IIa	甕	古代					細砂	須恵器
334-1	335-16	K16		土製品	縄文中期	2.5	3.7			細砂	ミニチュア
334-2	335-17	T15	IIIV	土製品	縄文中期					細砂	円盤
334-3	335-18	D19	IIb	土製品	縄文中期					細砂	円盤
334-4	335-19	T14	IIb	土製品	縄文前期					セシイ	円盤
334-5	335-20	P14	II	土製品	縄文前期					粗砂	円盤
334-6	335-21	V7	III	土製品	縄文中期					粗砂	円盤
334-7	335-22	L13	II	土製品	縄文前期					セシイ	円盤
334-8	335-24	Q15	III	土製品	縄文前期					セシイ	円盤
334-9	335-23	T14	II	土製品	縄文前期					セシイ	円盤
334-10	335-25	Z6	II	土製品	縄文前期					粗砂	円盤
334-11	335-26	T-S14		土製品	縄文前期					セシイ	円盤
334-12	335-27	D15	II	土製品	縄文中期					粗砂	斧状

沢田 I 遺跡 - 97 石器一覧表

単位: cm・g * : 破損品の現存長

図版	写真図版	出土地	層位	器種	形状	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産出地
146-7	276-11	RA141	埋土	磨製石斧	×	*9	4.6	2.5	*199.52	砂岩	北上山地
146-8	276-12	RA141	埋土	磨製石斧	×	*9.7	5.1	2.8	*204.53	緑色頁岩	北上山地
147-5	276-17	RA142	埋土	石鏝	×	*7.8	*3.5	3.5	*260.95	緑紋花崗閃緑岩	北上山地
149-5	276-25	RA143	床面	磨製石斧	○	8.4	2.3	0.8	31.39	緑色頁岩	北上山地
152-5	277-17	RA144	埋土	石鏝	○	2.2	1.6	0.4	1.06	珩質頁岩	北上山地
152-6	277-18	RA144	埋土	石鏝	○	3.3	1.5	0.4	1.56	珩質頁岩	北上山地
152-9	277-21	RA145	埋土	石鏝	○	1.7	1.9	0.4	1.07	珩質頁岩	北上山地
153-6	278-6	RA146	埋土	磨製石斧	×	*6.5	4.4	2.2	*99.86	珩質頁岩	北上山地
158-1	279-9	RA146	炉	磨石	○	14.8	9.2	4.4	950	花崗閃岩	北上山地
158-2	279-10	RA149	埋土	台石	○	17.8	21.3	5.3	3050	閃緑岩 (細粒)	北上山地
159-14	279-24	RA150	埋土	削器	×	*3.3	1.7	1.9	*5.12	珩質頁岩	北上山地
159-15	279-25	RA150	埋土	石鏝	○	5.2	1.6	0.7	4.9	珩質頁岩	北上山地
164-5	281-19	RA151	埋土	石鏝	○	5.6	2.8	0.4	7.46	珩質頁岩	北上山地
164-6	281-20	RA151	埋土	磨製石斧	×	*6.5	5.1	1.7	*86.5	緑色頁岩	北上山地
164-8	282-2	RA152	埋土	石鏝	○	1.9	1.8	0.5	1.06	黒色頁岩	北上山地
167-11	283-1	RA155	埋土	石鏝	○	1.9	1.4	0.2	0.73	珩質頁岩	北上山地
167-12	283-2	RA155	埋土	石鏝	○	4.4	1.5	0.45	3.54	珩質頁岩	北上山地
167-13	283-3	RA155	埋土	削器	○	1.8	2.95	0.7	3.5	珩質頁岩	北上山地
167-14	283-4	RA155	埋土	削器	○	1.4	4.9	0.45	3.18	珩質頁岩	北上山地
171-22	285-2	RA158	埋土	石鏝	×	*4.6	3.1	1	*15.12	珩質頁岩	北上山地
172-1	285-3	RA158	埋土	石製品	○	8.4	6.8	2.2	16.58	軽石	
172-2	285-4	RA158	埋土	磨石	×	*6.7	6.3	4.1	*149.2	砂岩	北上山地
172-3	285-5	RA158	埋土	磨石	×	12.5	4.2	3.3	*242.14	頁岩	北上山地
174-4	285-10	RA161	埋土	石鏝	○	3.4	5	0.5	7.21	珩質頁岩	北上山地
177-15	286-22	RA163	埋土	石鏝	○	4.1	1.5	0.5	2.56	珩質頁岩	北上山地
177-16	286-23	RA163	埋土	石鏝	○	2.9	1.9	0.5	2.05	珩質頁岩	北上山地
177-17	286-24	RA163	埋土	磨製石斧	×	*9.5	4.5	2.4	*199.32	砂岩	北上山地
177-18	286-25	RA163	埋土	磨石	○	11	8.6	5	710	花崗閃岩	北上山地
177-19	286-26	RA163	埋土	磨石	○	13	8.6	4.6	890	閃緑岩 (中粒)	北上山地
181-3	287-6	RA164	床面	石鏝	○	3.3	4.4	0.7	7.64	珩質頁岩	北上山地
181-4	287-7	RA164	床面	磨石	×	*10.8	*9	7	*940	閃緑岩 (中粒)	北上山地
186-7	289-10	RA166	埋土	石鏝	○	2.1	1.2	0.4	0.59	珩質頁岩	北上山地
188-15	290-7	RA168	埋土	石鏝	×	*2.2	1.5	0.35	*1.11	珩質頁岩	北上山地
191-2	291-10	RA169	埋土	石鏝	×	3	*3.1	0.7	*7.05	チャート	北上山地
191-3	291-11	RA169	埋土	削器	○	2.6	3.2	0.4	3.02	珩質頁岩	北上山地
191-4	291-12	RA169	埋土	尖頭器	×	*8	3.1	1.4	*40.65	珩質頁岩	北上山地
191-5	291-13	RA169	埋土	磨石	×	*5.3	6.3	3	*123.41	閃緑岩 (中粒)	北上山地
194-1	292-17	RA181	埋土	削器	○	3.7	4.3	0.6	12.72	珩質頁岩	北上山地
194-2	292-18	RA181	埋土	磨石	○	13.6	7.7	5.5	940	斑状花崗閃緑岩	北上山地
195-6	292-24	RA182	埋土	石鏝	○	5.1	2.1	0.6	6.57	珩質頁岩	北上山地
197-13	293-13	RA183	埋土	石鏝	×	*5.4	2.4	1.1	*17.82	珩質頁岩	北上山地
201-1	294-20	RA192	埋土	石鏝	○	1.7	1.4	0.4	0.81	珩質頁岩	北上山地
201-2	294-21	RA192	埋土	石鏝	×	*2.2	1.7	0.5	*1.04	珩質頁岩	北上山地
201-3	294-22	RA192	埋土	石鏝	×	*2.4	1.9	0.4	*1.75	チャート	北上山地
201-4	294-23	RA192	埋土	石鏝	×	*2.2	1.3	0.5	*0.88	珩質頁岩	北上山地
201-5	294-24	RA192	埋土	石鏝	×	*1.7	1.7	0.3	*0.72	珩質頁岩	北上山地
201-6	294-25	RA192	埋土	石鏝	○	5.5	2.1	0.9	8.11	珩質頁岩	北上山地
201-7	294-26	RA192	埋土	石鏝	○	3.1	4.6	0.6	8.76	頁岩	北上山地
201-8	294-27	RA192	埋土	磨製石斧	×	*7.7	6.6	2.6	*233	頁岩	北上山地
201-9	294-28	RA192	埋土	磨製石斧	×	*6.4	5.7	2.2	*149.34	緑色頁岩	北上山地
201-10	294-29	RA192	埋土	石鏝	○	11.3	2.1	1	21.5	珩質頁岩	北上山地
201-11	294-30	RA192	埋土	磨石	×	*10.7	3.3	5.3	*281.51	砂岩	北上山地
206-3	295-11	RD83	埋土	石鏝	○	7.7	1.6	0.8	10.81	珩質頁岩	北上山地
207-5	295-16	RD88	埋土	石鏝	×	41	3.5	5.6	*5560	凝灰岩	北上山地

四 版	写真版	出土地	層位	器 種	形状	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	産 出 地
208-4	295-20	RD109	埋土	磨石	×	12.5	3.3	8.4	*620	閃緑岩 (縞紋)	北上山地
210-8	296-8	RA526	埋土	石筵	○	4.5	2.3	0.4	5.21	珉質頁岩	北上山地
210-9	296-9	RA526	埋土	威石	○	19.5	11.8		1520	リハライト	北上山地
216-4	297-9	RA529	埋土	石筵	×	1.8	1.3	0.35	*0.65	珉質頁岩	北上山地
216-5	297-10	RA529	埋土	石筵	×	2.3	1.8	0.4	*1.13	珉質頁岩	北上山地
217-2	297-12	RA530	埋土	石筵	×	*2.1	1.5	0.35	*0.96	珉質頁岩	北上山地
219-7	297-19	RA531	埋土	石筵	○	3.2	4.3	0.3	4.28	建築頁岩	北上山地
225-16	298-18	RG03		石筵	×	*2.9	3.2	0.4	*3.02	黒色頁岩	北上山地
225-17	298-19	RG03	埋土	磨製石斧	×	*7.5	4.9	1.8	*83.43	頁岩	北上山地
227-5	299-5	RA170	埋土	石筵	○	3.4	4.7	0.8	0.68	珉質頁岩	北上山地
228-2	299-7	RA171	床面	石筵	○	1.6	1.3	0.35	0.47	珉質頁岩	北上山地
228-3	299-8	RA171	埋土	石筵	○	1.9	1.6	0.45	1.19	珉質頁岩	北上山地
228-4	299-9	RA171	床面	石筵	×	1.8	2	0.5	*0.97	珉質頁岩	北上山地
228-5	299-10	RA171	床面	石筵	○	4.65	3	0.9	9.3	珉質頁岩	北上山地
229-15	300-1	RA172	埋土	削接器	○	2.6	5.5	0.8	8.34	珉質頁岩	北上山地
229-16	300-2	RA172	埋土	削接器	○	2.5	5.2	0.9	12.91	珉質頁岩	北上山地
229-17	300-3	RA172	埋土	削接器	○	5	2.8	0.8	11.33	珉質頁岩	北上山地
229-18	300-4	RA172	埋土	石筵	○	3.6	2.7	0.7	4.23	建築頁岩	北上山地
230-2	300-6	RA175	埋土	磨石	○	10.2	8	5.4	650	角閃石ヒン岩	北上山地
232-17	300-23	RA176	埋土	磨石	○	9.9	8.9	3.8	610	閃緑岩 (中粒)	北上山地
232-18	300-24	RA176	埋土	磨石	○	8.4	4.9	5.3	380	閃緑岩 (中粒)	北上山地
232-19	300-25	RA176	埋土	磨石	○	10.5	14	8.7	1170	閃緑岩 (中粒)	北上山地
233-2	301-2	RA186	床面	石筵	○	2.1	1.9	0.3	0.89	珉質頁岩	北上山地
233-3	301-3	RA186	床面	磨石	○	12.9	6	7.2	700	角閃石ヒン岩	北上山地
234-21	302-7	RA186	埋土	石筵	○	2.45	1.9	0.4	1.02	珉質頁岩	北上山地
234-22	302-8	RA186	埋土	石筵	○	2.4	1.9	0.4	1.48	建築頁岩	北上山地
236-1	302-9	RA188	床面	磨石	○	14.5	6.8	6.7	970	閃緑岩 (中粒)	北上山地
236-2	302-10	RA188	床面	磨石	○	16.6	5.1	7.7	1040	閃緑岩 (中粒)	北上山地
236-3	302-11	RA188	床面	磨石	×	*12.6	6.5	8.1	*940	斑レイ岩 (縞紋)	北上山地
236-4	302-12	RA188	床面	磨石	×	*11.1	7.3	4.2	*560	閃緑岩 (中粒)	北上山地
237-23	303-21	RA188	埋土	石筵	○	2.2	1.3	0.35	0.81	珉質頁岩	北上山地
237-24	303-22	RA188	埋土	石筵	○	2.2	1.3	0.3	0.6	珉質頁岩	北上山地
237-25	303-23	RA188	埋土	石筵	×	*2.1	1.2	0.3	*0.51	珉質頁岩	北上山地
237-26	303-24	RA188	埋土	削接器	○	4	2.4	1.2	11.58	建築頁岩	北上山地
237-27	303-25	RA188	埋土	石筵	○	7.3	2.3	0.7	11.7	珉質頁岩	北上山地
238-1	303-26	RA188	埋土	磨石	×	8.4	6.6	5.5	*420	アブライト	北上山地
238-2	303-27	RA188	埋土	磨石	○	10.5	8	4.4	590	閃緑岩 (縞紋)	北上山地
238-3	303-28	RA188	埋土	磨石	×	14.8	9.7	5.2	*1090	閃緑岩 (中粒)	北上山地
238-4	303-29	RA188	埋土	磨石	×	*10.1	5.5	7.2	*600	花崗閃緑岩	北上山地
238-5	303-30	RA188	埋土	磨石	×	*12.6	6.5	5.3	*780	閃緑岩 (中粒)	北上山地
238-6	303-31	RA188	埋土	磨石	○	15	5	2.5	400	砂岩	北上山地
238-7	304-1	RA188	埋土	磨石	×	*6.5	6	2.7	*138.66	閃緑岩 (縞紋)	北上山地
238-8	304-2	RA188	埋土	磨製石斧	×	8.5	4.9	*1.2	*50.67	砂岩	北上山地
238-9	304-3	RA188	埋土	石筵	×	*15.3	*13.7	*2.7	*500	凝灰岩	北上山地
240-2	304-8	RA189	床面	石筵	○	2.3	1.7	0.4	1.09	珉質頁岩	北上山地
240-3	304-9	RA189	床面	削接器	○	2.1	4.8	0.7	7.19	珉質頁岩	北上山地
240-4	304-10	RA189	埋土	石筵	×	*4.8	2.9	1.4	*18.49	珉質頁岩	北上山地
240-5	304-11	RA189	埋土	磨石	×	*4.8	5.9	5	*168.29	粗粒砂岩	北上山地
241-12	305-13	RA189	埋土	磨石	×	*5.1	*5.7	*6.6	*340	凝灰岩	北上山地
241-13	305-14	RA189	埋土	磨石	○	14.8	5.2	6	790	角閃石ヒン岩	北上山地
243-10	306-14	RA190	埋土	磨石	○	14.5	8	4.9	990	頁岩	北上山地
245-9	307-2	RA197	埋土	石筵	×	*2.1	1.45	0.3	*0.65	建築頁岩	北上山地
245-10	307-3	RA197	埋土	削接器	○	3.2	1.7	0.4	3.98	珉質頁岩	北上山地?
245-11	307-4	RA197	埋土	磨製石斧	○	9.4	4.3	2.2	152.87	縞紋閃緑岩	北上山地
245-12	307-5	RA197	埋土	磨製石斧	○	6.4	4.2	1.4	81.41	緑色頁岩	北上山地?

図	版	写真図版	出土地	層位	器種	形状	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産出地
249-11	308-2	RA201	床面	石鏡	○	1.8	1.2	0.3	0.51		瑠璃頁岩	北上山地
249-12	308-3	RA201	床面	磨状石器	○	3.8	2.7	0.7	11.87		チャート	北上山地
250-13	308-21	RA201	埋土	磨石	○	15.8	7.8	7.5	1000		緑粘花崗閃緑岩	北上山地
250-14	308-22	RA201	埋土	磨石	×	*17.4	7.2	6.3	*1090		砂岩	北上山地
252-8	309-1	RA202	床面	磨石	○	10	7.9	5	370		花崗閃緑岩	北上山地
252-9	309-2	RA202	床面	磨石	○	11.8	7.4	4.8	640		角閃石ヒン岩	北上山地
252-10	309-3	RA202	床面	磨石	○	10.9	8	4.9	660		花崗閃緑岩	北上山地
253-13	310-7	RA202	埋土	石鏡	○	2.6	1.7	0.3	1.14		瑠璃頁岩	北上山地
253-14	310-8	RA202	埋土	石鏡	○	2.3	1.6	0.3	0.98		瑠璃頁岩	北上山地
253-15	310-9	RA202	埋土	石鏡	○	2.7	2.8	0.4	1.9		チャート	北上山地
253-16	310-10	RA202	埋土	石鏡	○	10.3	2.3	1	21.66		瑠璃頁岩	北上山地
253-17	310-11	RA202	埋土	石鏡	○	17.9	6.2	1.1	100.91		瑠璃頁岩	北上山地
253-18	310-12	RA202	埋土	石鏡	○	17.8	4.2	1.4	94.94		瑠璃頁岩	北上山地
253-19	310-13	RA202	埋土	石鏡	○	21.3	4.9	1.4	123.61		瑠璃頁岩	北上山地
254-1	310-14	RA202	埋土	石鏡	○	18.4	4.1	1.4	96.01		瑠璃頁岩	北上山地
254-2	310-15	RA202	埋土	石鏡	○	16.6	3.5	1.9	70.12		瑠璃頁岩	北上山地
254-3	310-16	RA202	埋土	磨製石斧	○	7.4	4	1.1	52.04		緑色頁岩	北上山地
254-4	310-17	RA202	埋土	磨石	×	*18.3	6.2	7	*1000		砂岩	北上山地
257-17	311-15	RA205	埋土	石鏡	○	2.9	1.78	0.4	1.35		瑠璃頁岩	北上山地
257-18	311-16	RA205	埋土	石鏡	×	*2.7	2.1	0.6	*2.46		瑠璃頁岩	北上山地
257-19	311-17	RA205	埋土	石鏡	○	4.6	1.9	0.6	3.71		瑠璃頁岩	北上山地
257-20	311-18	RA205	埋土	磨石	×	*5.1	8.5	5.9	*350		花崗岩	北上山地
257-21	311-19	RA205	埋土	磨石	○	13.1	9	3.3	890		閃緑岩(中粒)	北上山地
262-10	312-10	RA210	埋土	石鏡	○	1.65	1.6	0.25	0.79		チャート	北上山地
268-4	313-4	RA219	埋土	石鏡	○	6.1	2.1	1	10.99		チャート	北上山地
271-1	313-12	RA224	埋土	石鏡	○	4.7	2.3	1	11.94		瑠璃頁岩	北上山地
272-4	313-16	RD62	埋土	石鏡	○	2.98	1.9	0.6	2.88		瑠璃頁岩	北上山地
283-2	316-17	RA187	床面	石鏡	○	2.5	1.8	0.7	1.88		瑠璃頁岩	北上山地
283-3	316-18	RA187	埋土	磨石	×	*11.8	*8.9	7.7	*880		花崗岩	北上山地
283-4	316-19	RA187	埋土	磨石	×	12.2	11	*9	*1430		花崗岩	北上山地
283-5	316-20	RA187	埋土	磨石	○	18.1	7	7.2	1240		花崗閃緑岩	北上山地
284-4	316-24	RA196	埋土	石鏡	○	2.2	1.4	0.5	2.6		頁岩	北上山地
284-5	316-25	RA196	埋土	石鏡	×	*1.7	1.55	0.25	*0.66		砂岩	北上山地
284-6	316-26	RA196	埋土	石鏡	○	3.3	2.1	0.5	2.6		瑠璃頁岩	北上山地
286-1	317-8	RA532	床面	石鏡	○	2.4	1.6	0.6	1.94		瑠璃頁岩	北上山地
286-2	317-9	RA532	床面	石鏡	○	1.9	1.7	1.9	1.8		瑠璃頁岩	北上山地
286-3	317-10	RA532	床面	石鏡	×	*1.9	1.2	0.35	*0.81		瑠璃頁岩	北上山地
286-4	317-11	RA532	床面	削縁器	○	2	2.5	0.4	1.91		瑠璃頁岩	北上山地
288-1	317-15	RA533	床面	石鏡	×	*2.2	1.6	0.5	*1.53		瑠璃頁岩	北上山地
288-2	317-16	RA533	床面	石鏡	×	*1.9	1.8	0.4	*1.33		瑠璃頁岩	北上山地
288-3	317-17	RA533	床面	削縁器	○	3	2.4	0.4	4.77		チャート	北上山地
290-2	318-2	RA534	床面	石鏡	○	3.8	1.7	0.6	4.33		瑠璃頁岩	北上山地
290-3	318-3	RA534	床面	削縁器	○	1.5	4.3	0.3	2.1		瑠璃頁岩	北上山地
290-4	318-4	RA534	床面	磨石	○	11.7	8.8	6.1	940		花崗閃緑岩	北上山地
290-10	318-10	RA534	埋土	磨石	○	10.4	8.8	6.5	870		閃緑岩(中粒)	北上山地
290-11	318-11	RA534	埋土	磨石	○	10	7.7	6.7	820		閃緑岩(中粒)	北上山地
292-3	318-14	RA535	埋土	石鏡	○	2.3	1.7	0.5	1.49		黒色頁岩	北上山地
292-4	318-15	RA535	埋土	石鏡	×	*1.6	1.6	0.2	*0.73		瑠璃頁岩	北上山地
292-5	318-16	RA535	埋土	石鏡	○	4.4	3.5	0.8	10.15		瑠璃頁岩	北上山地
292-6	318-17	RA535	埋土	石鏡	○	4.7	1.2	0.4	3.09		瑠璃頁岩	北上山地
292-7	318-18	RA535	埋土	石鏡	○	3.5	1.7	0.5	3.17		瑠璃頁岩	北上山地
292-8	318-19	RA535	埋土	削縁器	○	2.3	4.8	0.6	7.96		瑠璃頁岩	北上山地
292-9	318-20	RA535	埋土	石鏡	○	3.7	5.7	1.3	15.01		瑠璃頁岩	北上山地
292-10	318-21	RA535	埋土	磨製石斧	×	*6.2	3.9	1.6	*70.88		緑色頁岩	北上山地
293-3	318-24	RA536	埋土	石鏡	×	*2.1	1.8	0.5	*1.11		瑠璃頁岩	北上山地

国 版	写真図版	出 土 地	層位	器 種	形状	長 寸	幅	厚 寸	電 量	石 質	産 出 地
293-4	318-25	RA536	埋土	磨製石斧	○	11.3	3.5	1.2	77.77	砂岩	北上山地
295-4	319-4	RA537	埋土	石鏃	○	2	1.6	0.4	0.98	珪質頁岩	北上山地
297-3	319-8	RA539	埋土	削器	○	2.7	3.7	0.6	7.33	埴谷頁岩	北上山地
297-4	319-9	RA539	埋土	磨石	×	*4.9	8.2	2.4	*140.12	閃輝片岩(縞粒)	北上山地
305-1	320-14	RA543	埋土	磨石	○	12.6	4	6.4	500	斑レイ岩	北上山地
305-5	320-15	RA543	埋土	磨石	○	7.7	5.2	4	186.84	砂岩	北上山地
305-6	320-16	RA543	埋土	磨石	○	10.5	8	8	770	閃輝片岩(縞粒)	北上山地
305-7	320-17	RA543	埋土	磨石	○	14	8.5	6.2	1270	閃輝片岩(中粒)	北上山地
309-1	320-20	RD108	埋土	磨石	○	13.6	9.3	5.3	1160	閃輝片岩(中粒)	北上山地
312-1	320-22	RD99	埋土	石鏃	○	4.2	2.4	0.8	7.64	チャート	北上山地
312-2	320-23	RD99	埋土	削器	○	3.4	6.1	0.75	18.09	砂岩	北上山地
314-1	320-24	RD72	埋土	磨石	○	2.2	1.2	0.25	0.81	埴谷頁岩	北上山地
334-13	335-28	N13-14	II	石鏃	○	2.1	1.5	0.2	0.59	珪質頁岩	北上山地
334-14	335-29	Q2	II	石鏃	○	2.5	1.6	0.4	1.45	埴谷頁岩	北上山地
334-15	335-30	西斜面	I	石鏃	○	3.6	1.1	0.7	2.36	珪質頁岩	北上山地
334-16	335-31	K16	II	石鏃	○	3.6	1.2	0.3	2.42	埴谷頁岩	北上山地
334-17	335-32	Z5	IIb	石鏃	○	1.6	1.3	0.3	0.49	珪質頁岩	北上山地
334-18	335-33	C-D14	IIa	石鏃	○	1.8	1.1	0.2	0.35	埴谷頁岩	北上山地
334-19	335-34	O14	II	石鏃	○	1.8	1.2	0.28	0.52	珪質頁岩	北上山地
334-20	335-35	S-T14	II	石鏃	○	1.7	1.4	0.3	0.37	チャート	北上山地
334-21	335-36	Q16	II	石鏃	○	1.9	1.3	0.4	1.27	珪質頁岩	北上山地
334-22	335-37	Z6	IIa	石鏃	○	1.9	1.6	0.4	1.12	埴谷頁岩	北上山地
334-23	335-38	P16	II	石鏃	○	1.85	1.8	0.4	1	I 珪質頁岩	北上山地
334-24	335-39	R15	II	石鏃	○	1.9	1.6	0.35	1.05	埴谷頁岩	北上山地
334-25	335-40	V5	IIa	石鏃	○	2	1.6	0.4	0.98	珪質頁岩	北上山地
334-26	335-41	P16	II	石鏃	○	1.7	1.6	0.4	0.95	埴谷頁岩	北上山地
334-27	335-42	P-Q16	II	石鏃	○	2	1.6	0.5	1.15	砂岩	北上山地
334-28	335-43	S-T14	II	石鏃	○	1.9	1.1	0.25	0.79	埴谷頁岩	北上山地
334-29	335-44	R15	II	石鏃	○	2.2	1.7	0.3	1.38	珪質頁岩	北上山地
334-30	335-45	X4-5	II	石鏃	○	1.9	1.8	0.3	1.08	埴谷頁岩	北上山地
334-31	335-46	K17	II	石鏃	○	2	1.9	0.5	1.22	珪質頁岩	北上山地
334-32	335-47	P-Q14	II III	石鏃	○	2.1	1.1	0.3	0.96	埴谷頁岩	北上山地
334-33	335-48	O15	II	石鏃	○	1.8	1.7	0.35	1.28	珪質頁岩	北上山地
334-34	335-49	P15	II	石鏃	○	1.8	1.9	0.5	1.74	ホルンフェルス	北上山地
334-35	335-50	O17	II	石鏃	○	2.2	1.6	0.5	1.15	珪質頁岩	北上山地
334-36	335-51	T13	II	石鏃	○	2.2	1.5	0.4	0.89	チャート	北上山地
334-37	335-52	M14	II III	石鏃	○	2.5	1.9	0.5	2.32	珪質頁岩	北上山地
334-38	335-53		排土	石鏃	×	*1.5	1.5	0.3	*0.62	埴谷頁岩	北上山地
334-39	335-54	L14	II	石鏃	×	*1.7	1.7	0.4	*1.13	珪質頁岩	北上山地
334-40	335-55	C-D14	IIa	石鏃	×	2	*1.2	0.2	*0.77	埴谷頁岩	北上山地
334-41	335-56	T15-17	II	石鏃	○	2.3	2.6	0.5	1.53	珪質頁岩	北上山地
334-42	336-1	O15	II	石鏃	×	*1.9	1.4	0.4	*0.96	埴谷頁岩	北上山地
334-43	336-2	P16	II	石鏃	○	2.3	1.5	0.3	1.18	珪質頁岩	北上山地
334-44	336-3	P-Q15	II	石鏃	○	2.4	1.8	0.4	1.77	チャート	北上山地
334-45	336-4	P-Q15	II	石鏃	×	*2.4	1.6	0.4	*1.19	珪質頁岩	北上山地
334-46	336-5	P-Q15	II	石鏃	×	*2.5	1.9	0.4	*1.5	埴谷頁岩	北上山地
334-47	336-6	M14	II	石鏃	×	*1.9	1.6	0.3	*0.99	珪質頁岩	北上山地
334-48	336-7	Y10	IIb	石鏃	○	3.1	1.3	0.2	1.24	埴谷頁岩	北上山地
334-49	336-8	T13-14	II	石鏃	×	*2.2	1.5	0.3	*0.84	珪質頁岩	北上山地
334-50	336-9	A6	IIb	石鏃	×	*2.5	1.7	0.4	*1.28	埴谷頁岩	北上山地
334-51	336-10	C-D14	IIa	石鏃	×	*2.6	1.8	0.3	*1.8	珪質頁岩	北上山地
334-52	336-11	Z5	IIb	石鏃	○	2.9	1.8	0.4	1.43	埴谷頁岩	北上山地
334-53	336-12		排土	石鏃	○	3	1.4	0.3	1.02	埴谷頁岩	北上山地
334-54	336-13	C-D14	IIa	石鏃	×	*3	1.3	0.4	*1.98	珪質頁岩	北上山地
334-55	336-14	S-Y7	IIa	石鏃	×	*3.5	1.5	0.3	*1.75	埴谷頁岩	北上山地

図版	写真版	出土地	層位	器種	形状	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産出地
334-56	336-15	Q15	Ⅱ	石鏃	×	*3.1	1.4	0.4	*1.94	珧質頁岩	北上山地
334-57	336-16	Q3	Ⅱ	石鏃	×	*1.9	1.6	0.4	*2.11	珧質頁岩	北上山地
334-58	336-17	Q2	Ⅱ	石鏃	○	2.4	1.9	0.55	2.17	珧質頁岩	北上山地
334-59	336-18	C13	Ⅱb	石鏃	○	3.2	2.3	0.4	3.76	珧質頁岩	北上山地
334-60	336-19	K18	Ⅱ	石鏃	○	2.7	2.7	0.7	5.9	珧質頁岩	北上山地
335-1	336-20	K13-15	Ⅱ	石鏃	○	1.6	1.4	0.3	0.65	珧質頁岩	北上山地
335-2	336-21	M17	Ⅱ	石鏃	○	1.6	1.3	0.4	0.53	チャート	北上山地
335-3	336-22	S15	Ⅱ	石鏃	○	1.7	1.55	0.5	0.78	珧質頁岩	北上山地
335-4	336-23	B7	Ⅱa	石鏃	○	1.7	1.6	0.3	0.76	珧質頁岩	北上山地
335-5	336-24	O15		石鏃	○	1.7	1.5	0.4	0.73	珧質頁岩	北上山地
335-6	336-25		排土	石鏃	○	1.9	1.5	0.4	0.84	珧質頁岩	北上山地
335-7	336-26	Q3	Ⅱ	石鏃	×	*1.85	1.4	0.6	*1.57	珧質頁岩	北上山地
335-8	336-27	M19	Ⅲ	石鏃	○	1.8	1.3	0.2	0.49	珧質頁岩	北上山地
335-9	336-28	P14-15	Ⅱ	石鏃	×	*1.8	1.6	0.4	*0.9	珧質頁岩	北上山地
335-10	336-29	O15		石鏃	×	*1.6	1.3	0.2	*0.5	珧質頁岩	北上山地
335-11	336-30	R15	Ⅱ	石鏃	○	2	1.4	0.3	0.92	珧質頁岩	北上山地
335-12	336-31	S16	Ⅱ	石鏃	○	2.2	1.5	0.4	1.04	珧質頁岩	北上山地
335-13	336-32	西斜面		石鏃	○	1.8	1.5	0.4	0.84	珧質頁岩	北上山地
335-14	336-33	P16	Ⅱ	石鏃	○	2	1.5	0.5	1	珧質頁岩	北上山地
335-15	336-34	R15-17	Ⅱ	石鏃	○	2.3	1.7	0.5	1.47	珧質頁岩	北上山地
335-16	336-35	V5	Ⅱa	石鏃	○	2.1	2	0.4	1.58	珧質頁岩	北上山地
335-17	336-36	B20		石鏃	○	2.3	2.3	0.4	2.2	珧質頁岩	北上山地
335-18	336-37	O15	Ⅱb	石鏃	×	*1.9	1.9	0.3	*1.54	チャート	北上山地
335-19	336-38	P15	Ⅱ	石鏃	×	*1.6	1.5	0.4	*0.99	珧質頁岩	北上山地
335-20	336-39	R4	Ⅱ	石鏃	○	2.6	1.5	0.5	1.74	珧質頁岩	北上山地
335-21	336-40	L14-15	Ⅱ	石鏃	○	2.1	0.25	0.4	1.01	珧質頁岩	北上山地
335-22	336-41		排土	石鏃	○	2.7	1.7	0.3	1.01	珧質頁岩	北上山地
335-23	336-42	V5	Ⅱa	石鏃	○	2.4	1.7	0.3	1.2	黒色頁岩	北上山地
335-24	336-43	X8	Ⅱa	石鏃	○	2.3	1.6	0.4	0.99	珧質頁岩	北上山地
335-25	336-44	T99-1	Ⅱ	石鏃	○	2.4	1.4	0.4	1.14	珧質頁岩	北上山地
335-26	336-45	S14-15	Ⅱ	石鏃	○	2.7	1.7	0.5	1.75	珧質頁岩	北上山地
335-27	336-46	S14-15	Ⅱ	石鏃	○	2.5	1.3	0.25	0.72	珧質頁岩	北上山地
335-28	336-47	R15	Ⅱ	石鏃	○	2.1	1.5	0.25	0.77	珧質頁岩	北上山地
335-29	336-48	S16	Ⅱ	石鏃	○	2.3	1.5	0.4	1.2	珧質頁岩	北上山地
335-30	336-49	N16	Ⅱ	石鏃	×	*2.1	*1.6	0.3	*0.93	珧質頁岩	北上山地
335-31	336-50	N17		石鏃	×	*2.1	1.1	0.4	*0.65	珧質頁岩	北上山地
335-32	336-51	X4	Ⅱa	石鏃	×	*1.6	1.7	0.4	*1.14	珧質頁岩	北上山地
335-33	336-52	L14-15	Ⅱ	石鏃	×	*2.4	*1.3	0.3	*0.9	珧質頁岩	北上山地
335-34	336-53	P16	Ⅱ	石鏃	×	*2	*1.5	0.4	1.17	珧質頁岩	北上山地
335-35	336-54	P16	Ⅱ	石鏃	×	*1.7	1.5	0.4	*1.19	頁岩	北上山地
335-36	336-55	Q16	Ⅱ	石鏃	×	*2.2	1.5	0.4	*1.72	珧質頁岩	北上山地
335-37	336-56	P16	Ⅱ	石鏃	×	*2.6	1.6	0.5	*2.09	珧質頁岩	北上山地
335-38	336-57	L-O15	Ⅱ	石鏃	×	*2.05	1.2	0.2	*0.51	珧質頁岩	北上山地
335-39	336-58	T13-14	Ⅱ	石鏃	×	*2.3	*1.3	3.5	*0.85	珧質頁岩	北上山地
335-40	336-59	O14	Ⅱ	石鏃	×	*2.1	1.4	0.4	*1.09	珧質頁岩	北上山地
335-41	336-60	K18	Ⅱ	石鏃	×	*2.4	1.4	0.3	*1.26	珧質頁岩	北上山地
335-42	336-61	C13	Ⅱb	石鏃	×	*2.1	1.7	0.45	*1.43	珧質頁岩	北上山地
335-43	336-62	R3	Ⅱ	石鏃	○	3.3	2.1	0.4	2.55	珧質頁岩	北上山地
335-44	336-63	X4	表土	石鏃	○	4.5	1.9	0.6	4.12	珧質頁岩	北上山地
335-45	336-64	L14-15	Ⅱ	石鏃	×	*7.1	3.9	1	*34.72	珧質頁岩	北上山地
335-46	336-65	N13-14	Ⅱ	石鏃	×	*7.1	2.7	1.6	*28.24	珧質頁岩	北上山地
335-47	336-66	M14	Ⅱ	石鏃	×	*5.5	1.9	0.7	*8.46	珧質頁岩	北上山地
335-48	336-67	Q3	Ⅱ	石鏃	×	*2.4	1.75	0.8	*3.61	珧質頁岩	北上山地
335-49	336-68	O13	Ⅲ	石鏃	○	5.4	1.85	0.6	8.33	珧質頁岩	北上山地
335-50	337-1	C7-9	I	石鏃	○	6.6	2.6	0.7	8.91	珧質頁岩	北上山地

图版	写真图版	出土地	层位	器种	形状	長さ	幅	厚さ	重量	石質	発出地
335-51	337-2	A10	II	石匙	○	5.8	2	0.7	8.14	埴貫頁岩	北上山地
335-52	337-3	S14		石匙	○	5.3	2.3	0.8	9.3	埴貫頁岩	北上山地
335-53	337-4	X1	II	石匙	○	5.3	1.8	0.6	5.4	埴貫頁岩	北上山地
335-54	337-5	N13-14	II	石匙	○	4.9	2.2	0.4	4.49	埴貫頁岩	北上山地
336-1	337-6			石匙	○	5.8	2.25	0.7	12.11	黑色頁岩	北上山地
336-2	337-7	K14	II	石匙	○	5.2	2.3	1.3	13.92	埴貫頁岩	北上山地
336-3	337-8	R16	II	石匙	○	5.4	3	0.6	11.47	埴貫頁岩	北上山地
336-4	337-9	O15-17		石匙	○	6.3	4.3	0.8	17.78	砂岩	北上山地
336-5	337-10	1.14 15	II	石匙	○	4.7	3	0.5	6.28	埴貫頁岩	北上山地
336-6	337-11	P15-16	II	石匙	○	5.2	2.5	0.6	8.21	砂岩	北上山地
336-7	337-12	M14	II	石匙	○	5.25	2.4	0.55	5.84	埴貫頁岩	北上山地
336-8	337-13	O13	III	石匙	×	*5.7	2.4	0.5	*9.41	埴貫頁岩	北上山地
336-9	337-14	P-Q15	II	石匙	×	*4.6	2.2	0.6	*8.74	埴貫頁岩	北上山地
336-10	337-15	S14	II	石匙	×	*4.5	3.2	0.7	*12.22	チャート	北上山地
336-11	337-16			石匙	×	*3.4	2.45	0.9	*6.74	埴貫頁岩	北上山地
336-12	337-19	K15	II	石匙	○	7.75	3.9	1.2	31.46	埴貫頁岩	北上山地
336-13	337-20	N15	II	石匙	×	*3	*2.6	*0.7	*5.47	埴貫頁岩	北上山地
336-14	337-17	T15	II	石匙	×	*2.4	2.8	0.7	*4	頁岩	北上山地
336-15	337-18	S16	II	石匙	×	*4.8	2.8	0.55	*4.7	埴貫頁岩	北上山地
336-16	337-21	N13	IIa	石匙	×	*3.1	1.7	0.4	*3.11	埴貫頁岩	北上山地
336-17	337-22	S14	II	石匙	○	9.3	2.3	1.1	24.45	埴貫頁岩	北上山地
336-18	337-23	W5		石匙	○	9.1	1.75	0.75	13.47	埴貫頁岩	北上山地
336-19	337-24	Z5	IIa	石匙	○	7	1.4	0.7	6.64	埴貫頁岩	北上山地
336-20	337-25			石匙	○	6.7	1.7	0.9	9.94	埴貫頁岩	北上山地
336-21	337-26	L16	II	石匙	○	6.4	1.9	0.8	6.93	埴貫頁岩	北上山地
336-22	337-27	S16	II	石匙	○	7.2	1.8	0.5	7.15	埴貫頁岩	北上山地
336-23	338-1	Q16	II	石匙	○	8.7	2.6	1.4	25.35	埴貫頁岩	北上山地
336-24	338-2	K16	II	石匙	○	8.5	3.15	1.15	18.77	埴貫頁岩	北上山地
336-25	338-3			石匙	○	6.7	3.5	0.7	28.56	埴貫頁岩	北上山地
336-26	338-4	S16	II	石匙	○	5	1.5	0.5	5.42	埴貫頁岩	北上山地
337-1	338-5	T13	II	石匙	○	3.9	2	0.5	3.62	埴貫頁岩	北上山地
337-2	338-6	P17	II	石匙	○	5.3	2.5	0.5	5.94	チャート	北上山地
337-3	338-7	Z6	IIb	石匙	○	4.9	1.85	0.75	6.3	埴貫頁岩	北上山地
337-4	338-8	L13	II	石匙	○	5.6	1.6	0.6	5.47	埴貫頁岩	北上山地
337-5	338-9	P17	III	石匙	○	6.4	2.8	1	17.2	埴貫頁岩	北上山地
337-6	338-10	K16	II	石匙	○	3.4	1.85	0.5	3.06	埴貫頁岩	北上山地
337-7	338-11	Q16		石匙	○	3.9	3.8	0.5	4.65	頁岩	北上山地
337-8	338-12	L14	II	石匙	×	*4	1.5	0.65	*4.23	頁岩	北上山地
337-9	338-13	T14		石匙	○	3.3	3.6	0.6	5.76	埴貫頁岩	北上山地
337-10	338-14	C14	II	石匙	○	4.3	8	1.1	25.45	埴貫頁岩	北上山地
337-11	338-15	L14-15	II	石匙	○	2.7	4.9	0.7	7.06	埴貫頁岩	北上山地
337-12	338-16	T14		石匙	○	3.2	5.3	0.7	8.92	埴貫頁岩	北上山地
337-13	338-17	T13	II	石匙	○	2.2	5.15	0.65	6.44	埴貫頁岩	北上山地
337-14	338-18	X10		石匙	○	4.1	4.6	1.3	16.56	埴貫頁岩	北上山地
337-15	338-19	O15	II	石匙	○	2.9	5.5	0.7	10.06	埴貫頁岩	北上山地
337-16	338-20	S15	II	石匙	○	4.3	5.5	1.1	18.13	黑色頁岩	北上山地
337-17	338-21	O13	III	石匙	○	3	3.8	1.1	14.85	砂岩	北上山地
337-18	338-22	T15	II	石匙	○	4.2	4.6	1	12.32	砂岩	北上山地
337-19	338-23	Z6	IIb	石匙	○	3	0.5	0.7	8.16	埴貫頁岩	北上山地
337-20	338-24	S4	IIa	石匙	○	2.8	4.3	0.7	7.08	埴貫頁岩	北上山地
337-21	338-25	M16	II	石匙	○	3.4	4.4	0.6	6.35	埴貫頁岩	北上山地
337-22	338-26	L13-14	II	石匙	○	4.8	4.8	0.6	13.27	チャート	北上山地
337-23	339-1	L6	I	石匙	○	2.7	2.6	0.5	3.54	埴貫頁岩	北上山地
337-24	339-2	S-T14	II	石匙	○	2.7	3.9	0.5	4.94	埴貫頁岩	北上山地
337-25	339-3	N16	II	石匙	○	2.8	3	0.6	4.03	埴貫頁岩	北上山地

図版	写真図版	出土地	層位	節 種	形状	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	産 出 地
337-26	339-4	O13	Ⅲ	石巻	○	3.7	3.7	0.6	9.59	砂岩	北上山地
337-27	339-5	R13	Ⅱ	石巻	○	3.8	4.5	0.5	6.38	珧質頁岩	北上山地
337-28	339-6	K16	ⅡⅢ	石巻	○	4.1	1	0.9	4.29	珧質頁岩	北上山地
337-29	339-7	N19	Ⅲ	石巻	○	3.9	1.6	0.6	2.74	珧質頁岩	北上山地
338-1	339-8	R19	Ⅱ	石巻	○	4.2	6.7	0.8	25.77	珧質頁岩	北上山地
338-2	339-9	P-Q15	Ⅱ	削礁器	○	2.6	2.4	0.55	4.08	珧質頁岩	北上山地
338-3	339-10	L14-15	Ⅱ	削礁器	○	4.9	6.5	0.95	28.08	頁岩	北上山地
338-4	339-11	Q15	Ⅲ	削礁器	○	3.4	5.1	0.95	19.1	珧質頁岩	北上山地
338-5	339-12	O14	Ⅱ	削礁器	○	4.2	3.4	1	17.82	頁岩	北上山地
338-6	339-13	L13	Ⅱ	削礁器	○	2.9	4.9	0.65	9.12	珧質頁岩	北上山地
338-7	339-14	S14	Ⅱ	削礁器	○	2.2	3.5	0.5	5.62	珧質頁岩	北上山地
338-8	339-15	T15	Ⅱ	削礁器	○	1.3	1.7	0.3	0.51	珧質頁岩	北上山地
338-9	339-16		Ⅱ	削礁器	○	1.6	3.1	0.5	2.32	珧質頁岩	北上山地
338-10	339-17	X5	Ⅱa	削礁器	○	1.4	4	0.6	3.09	珧質頁岩	北上山地
338-11	339-18	X4	Ⅱ	削礁器	○	6	4.1	1	15.77	珧質頁岩	北上山地
338-12	339-19	T14	Ⅱ	削礁器	○	6.2	3.8	1.1	25.9	珧質頁岩	北上山地
338-13	339-20	Y5	Ⅱa	削礁器	○	5	3.6	0.7	10.27	珧質頁岩	北上山地
338-14	339-21	P15	Ⅱ	削礁器	○	1.8	2.5	0.4	2.38	珧質頁岩	北上山地
338-15	339-22	R18	Ⅱ	削礁器	○	2.2	3.2	0.65	3.94	チャート	北上山地
338-16	339-23	Y7-9	Ⅱa	削礁器	×	2.1	*4.2	0.5	*5.97	珧質頁岩	北上山地
338-17	339-24	Q3	Ⅱ	削礁器	○	2.8	2.2	0.55	3.63	珧質頁岩	北上山地
338-18	339-25	S15	Ⅲ	削礁器	○	3	2.9	0.7	7.88	チャート	北上山地
338-19	339-26	R16	Ⅱ	削礁器	○	3.8	6.1	1.35	19.65	珧質頁岩	北上山地
338-20	339-27	O15	Ⅱ	削礁器	○	2.9	4.6	0.6	9.16	珧質頁岩	北上山地
338-21	339-28	Q17-18	Ⅱ	削礁器	○	5.1	3.9	0.8	11.94	チャート	北上山地
338-22	339-29	N15	Ⅱ	削礁器	○	2.9	2.7	0.8	7.38	チャート	北上山地
338-23	339-30	R18	Ⅱ	削礁器	○	4.9	2.1	0.7	9.06	珧質頁岩	北上山地
338-24	339-31	L10	Ⅱ	削礁器	○	4.4	2.6	0.6	8.12	珧質頁岩	北上山地
338-25	339-32	R16	Ⅱ	削礁器	○	4.1	3.1	0.6	10.54	チャート	北上山地
338-26	339-33	O14	Ⅱ	削礁器	○	4	5.7	1.3	20.14	珧質頁岩	北上山地
338-27	339-34	O15-17	Ⅱ	削礁器	○	4.9	2.6	0.5	6.84	珧質頁岩	北上山地
338-28	339-35	R4	Ⅱa	削礁器	×	*3.6	*3	0.1	*3.25	珧質頁岩	北上山地
338-29	339-36	R3	Ⅱ	削礁器	○	3.2	2	0.6	4.57	珧質頁岩	北上山地
338-30	339-37	P16	Ⅱ	削礁器	○	2.6	3.1	0.65	4.42	珧質頁岩	北上山地
338-31	339-38	西斜面	I	削礁器	○	2.6	2.7	0.4	4.34	珧質頁岩	北上山地
338-32	339-39	K18	Ⅱ	模状石器	○	2.4	2.1	0	3.12	珧質頁岩	北上山地
338-33	339-40	O14	Ⅱ	模状石器	○	3.4	3.4	0.9	9.46	珧質頁岩	北上山地
338-34	339-41	Q3	I	U. F.	○	2.3	4.6	0.75	5.69	珧質頁岩	北上山地
338-35	339-42	L13	Ⅱ	打製石斧	○	6.9	3.8	1.75	46.77	珧質頁岩	北上山地
339-1	340-1	南区	Ⅱ	磨石	○	10.8	8.6	4.8	720	閃綠岩(中粒)	北上山地
339-2	340-2	南区	Ⅱ	磨石	○	12.1	8.3	4	640	細粒花崗閃綠岩	北上山地
339-3	340-3	X4	Ⅱa	磨石	○	12.2	7.8	4.9	910	閃綠岩(中粒)	北上山地
339-4	340-4	R18	Ⅱ	磨石	○	9.4	8.2	3.6	500	閃綠岩(中粒)	北上山地
339-5	340-5	O15	Ⅱ	磨石	○	12.1	5.5	5.3	630	閃綠岩(中粒)	北上山地
339-6	340-6	L14-15	Ⅱ	磨石	○	5.4	7.4	6.5	640	角閃石(中粒)	北上山地
340-1	340-7	A8	Ⅱb	磨石	○	12.5	8.5	6	980	花崗斑岩	北上山地
340-2	340-8	C-D14	Ⅱa	磨石	○	13.2	6.1	2.3	298.92	砂岩	北上山地
340-3	340-9	O15	Ⅱ	磨石	○	8.8	7.5	4.3	430	斑岩	北上山地
340-4	340-10	Q2	Ⅲ	磨石	○	12.6	9	6.2	1220	閃綠岩(中粒)	北上山地
340-5	340-11	O15	Ⅲ	磨石	○	10.8	8.3	5.5	750	細粒砂岩	北上山地
340-6	340-12	出所	Ⅲ	磨石	○	12.5	8.2	5.5	900	閃綠岩(中粒)	北上山地
340-7	340-13	L14	Ⅱ	磨石	×	11.3	*8	4.3	*590	角閃石ヒン岩	北上山地
340-8	340-14	S2	Ⅲ	磨石	○	14.2	10.1	5.6	1180	角閃石ヒン岩	北上山地
340-9	340-15	N14	Ⅲ	磨石	○	12.2	5.1	3.8	400	砂岩	北上山地
341-1	340-16	B10	Ⅱb	磨石	×	*10.2	8.5	4.6	*670	ホルンフェルス	北上山地

図 版	写真図版	出 土 地	層 位	形 種	形 状	長 さ	幅	厚 さ	重 量	石 質	採 出 地
341-2	340-17	R17	II	磨石	×	*16	4.7	3.4	*380	ホルンフェルス	北上山地
341-3	340-18	R16	II	磨石	×	*9.4	6.9	3.7	*420	角閃石ヒン岩	北上山地
341-4	340-19	M14	II	磨石	×	*12	*5.7	6.4	*500	角閃石(細粒)	北上山地
341-5	340-20	M14	II	磨石	×	*7	3.4	6	*256.29	角閃石(中粒)	北上山地
341-6	340-21	O15	II	磨石	×	*11.3	5.1	5.8	*610	角閃石ヒン岩	北上山地
341-7	340-22	N15	II	磨石	×	*5.8	5.4	5.3	*271.64	砂岩	北上山地
341-8	340-23	P16	II	磨石	×	*9.9	5	7.35	*530	閃緑岩(中粒)	北上山地
341-9	340-24	P15	II	磨石	×	*9.4	5.7	6.1	*430	砂岩	北上山地
341-10	340-25	Q17-18	IIb	磨石	×	*9.1	4.4	3.8	*222.85	玄武岩質溶岩	北上山地
342-1	341-1	L14	II	磨製石斧	○	11.8	4	2.2	174.12	斑レイ岩(細粒)	北上山地
342-2	341-2	N19	II	磨製石斧	○	3.8	2.3	0.8	9.28	緑色頁岩	北上山地
342-3	341-3	R18	II	磨製石斧	×	*3.7	1.7	0.7	*9.27	緑色頁岩	北上山地
342-4	341-4	K16	II	磨製石斧	×	*5.7	3.6	1.6	*56.53	頁岩	北上山地
342-5	341-5	Q15	III	磨製石斧	×	*9.4	6.2	3.2	*303.92	ヒン岩	北上山地
342-6	341-6	S-T14	II	磨製石斧	×	*6.8	6.3	2.2	*175.87	緑色頁岩	北上山地
342-7	341-7	西斜面	I II	磨製石斧	○	3.7	3.8	1.4	34.33	緑色頁岩	北上山地
342-8	341-8	P-Q13	II	磨製石斧	×	*4.5	4.4	1.9	*62	砂岩	北上山地
342-9	341-9	R18	II	磨製石斧	×	*6.4	5	2	*116.93	閃緑岩	北上山地
342-10	341-10	S14	II	磨製石斧	×	*7.3	6	3.1	*251.82	珩質頁岩	北上山地
342-11	341-11	P-Q15	II	磨製石斧	×	*4.7	3.7	1.1	*30.02	緑色頁岩	北上山地
342-12	341-12	S14	IIb	磨製石斧	×	*3.3	3.1	1.1	*11.89	緑色頁岩	北上山地
342-13	341-13	M14	II	磨製石斧	×	*3.3	2.3	0.8	*8.97	緑色頁岩	北上山地
342-14	341-14	P16	II	石鏢	×	7.5	9.2	*2.2	*176.39	砂岩	北上山地
342-15	341-15	Q15	III	石鏢	×	*4.7	5	0.7	*23.6	細粒閃緑岩	北上山地
342-16	341-16	N14	II	石製品	×	3.2	*2.4	0.5	*4.75	滑石	北上山地
342-17	341-17	N14	II	石製品	×	2.6	*1.6	0.6	*5.67	磨石	北上山地
342-18	341-18	Y8	IIa	石製品	○	7	4.1	2.4	95.73	砂岩	北上山地
342-19	341-19	R15-17	II	石製品	×	3.2	*1.6	0.5	*2.14	砂岩	北上山地
342-20	341-20	西斜面		砥石	×	*12.2	7.4	5	*500	リバライト	北上山地

沢田 I-97 鉄製品一覧

質量 単位: ce・g * : 破損品の寸法

No.	図版	写真図版	器種	出产地	刃位	長さ	幅	厚さ	重量	備考
1	210-3	296-3		RA525	床直	4.6	*1	*0.1	*6.21	刀幅1.1, 元幅1.4, 柄幅0.85
2	210-4	296-4	棒状鉄	RA526	産直	3.7	1.1	0.7	7.18	刀幅9, 元幅1.7, 柄幅0.7
3	215-1	297-1	紡錘車	RA529	カマド	18	*5.7	*0.5	*55.15	継身3.5
4	286-5	317-12	棒状鉄	RA532	埋土	3.7	0.9	0.4	2.92	刀幅1.4, 元幅2.3, 柄幅2.5
5	292-2	318-13	刀子	RA535	埋土	13.9	*1.8	*1.1	*16.02	
6	301-3	320-5	板状	RA540	埋土	8.4	3.3	0.4	59.03	
7	301-4	320-6	刀子	RA540	埋土	10.5	*1.9	*0.5	*11.59	円盤の直径5.4
8	305-3	320-13	小刀?	RA543	埋土	16.3	*2.7	*0.9	*52.71	
9	333-1	334-7		Z6	II	9.7	*3.1	*0.5	*19.2	
10	333-2	334-8	刀子	R18-19	II	6.5	2.3	0.6	18.89	
11	333-3	334-9	刀子		II	7.4	1.2	0.3	7.77	
12	333-4	334-10	刀子?	B10	II	3.8	1.8	0.4	10.64	
13	333-5	334-11	鉄線	K16	II	9.1	3.1	0.4	30.03	
14	333-6	334-12	鉄線	Y5	II	7.3	*2.1	*0.5	*9.27	
15	333-7	334-13	鉄線	L14-15	II	7.9	0.7	0.9	9.42	
16	333-8	334-14	釘			11.2	2.6	1.1	53.43	
17	333-9	334-15	釘	P16	II	8.3	1.3	0.9	27.92	
18	333-10	334-16	釘	P16	II	4.9	1.8	0.5	18.32	
19	333-11	334-17	釘	Q10		5.7	1.6	0.4	14.32	
20	333-12	334-18	釘	Q3	I	6.7	1.6	0.6	14.35	
21	333-13	334-19	釘	R3	II	6.8	1.4	0.6	8.57	
22	333-14	334-20	釘	B11	攪乱	5.4	0.7	0.4	5.51	
23	333-15	334-21	釘	遺構外		4.0	0.8	0.5	16.55	
24	333-16	334-22	釘		I	3.9	1.1	0.7	7.49	
25	333-17	334-23	釘	T15	II	3.9	0.9	0.4	3.49	
26	333-18	334-24	釘	Z6	II	2.5	0.7	0.5	2.21	
27	333-19	334-25		S5	II	2.9	1.4	0.9	6.09	
28	333-20	334-27	組合金具	遺構外		18.1	6.1	1.1	17.14	
29	333-21	334-28	板状	遺構外		7.4	2.1	0.3	20.63	
30	333-22	334-29	板状	O14	II	5.2	2.8	0.5	14.55	
31	333-23	334-26	板状	N15	II	4.4	1.1	0.4	3.52	
32	333-24	334-30	棒状鉄	R3	II	8.4	0.7	0.6	6.28	
33	333-25	334-31	棒状鉄	A4	II a	6	0.9	0.8	5.57	
34	333-26	334-32	棒状鉄	A41	II a	2.95	0.9	0.6	1.8	
35	333-27	335-1	鉄線片	埋土		2.5	3.3	0.5	11.2	
36	333-28	335-2	覆伏	N14	II	2.7	2.9	1.1	21.14	
37	333-29	335-3		W16	I II	7.8	0.4	0.4	12.21	
38	333-30	335-4	費金具	C-D14		4.9	0.7	1.2	15.13	
39	333-31	335-5	鉄塊	O14		7.9	4.2	1.9	85.62	
40	333-32	335-6	鉄塊	T3	II a	1.5	4.6	2.1	25.24	
41	333-33	335-7	鉄塊	P-Q15	II	1.9	2.7	1	15.68	
42	333-34	335-8	鉄塊状	M19	II	3	1.8	1.3	11.35	飾物片
43	333-35	335-9	鉄滓	L-O15	II	7.1	2.1	1.8	38.93	
44	333-36	335-10	鉄滓	O19	II	4.3	6.2	1.6	41.56	
45	333-37	335-11	鉄滓	M15	II	4.3	5.1	2	40.67	
46	333-38	335-12	鉄滓	Q10		5.1	4.1	2.1	53.12	
47	333-39	335-13	鉄滓	Q18	II	3.3	4.2	3.2	39.85	
48	333-40	335-14	鉄滓	遺構外		3.5	4	3	61.57	鉄線茎?
49	333-41	335-15	鉄滓	P18	II	2.1	2.9	2	10.93	

4 考察とまとめ

A 四次調査のまとめ

四次調査では縄文時代の住居跡80棟・竪穴状遺構4棟・土坑18基・粘土1カ所・柱穴群2カ所、弥生時代住居跡7棟、古代住居跡19棟・建物跡1棟・土坑8基・焼土1カ所、時期不明竪穴状遺構2棟・土坑32基・溝跡1条と多数の遺物が検出された。

遺構の中でも縄文時代の前期の大型住居群が確認されたこと、弥生時代の集落が確認されたこと、奈良から平安時代の古代の集落が確認されたことが大きな成果といえそうである。縄文時代前期の集落は、ロングハウスと呼ばれる長方形の大型住居跡と方形ないしは長方形の小型の住居跡からなっている。大型住居跡は南区に多く、小型の住居跡は南北両区に見られる。大型住居5棟に対し、小型住居は41棟で、それぞれ建て替えはあるものの大型1に対し小型8の割合になる。また、縄文時代前期初頭に降下した中振火山灰が埋上に堆積する遺構群とそうでない遺構群に分かれるが、集落の構造は変わらないようである。前期前葉の遺構で火山灰が堆積する住居群は大木2a式ないしは2b式期相当の土器群を伴い、火山灰が堆積しない遺構群は大木2b式期以降の遺物を伴出しているようである。

弥生時代の住居跡は平面形が円形の竪穴で、中央に円形の石囲炉を伴っている。弥生時代前期初頭の遺物を伴い、その時期の遺構である。

古代の住居跡もカマドが北壁につき、ロクロ未使用で坯の体部外面や甕の頸部に段の有る土師器を伴う奈良時代のもの、西壁にカマドを持ちロクロ使用の土師器を伴う平安時代のものに大別される。しかし中には、遺構の主軸が北西方向で、過渡期の遺物を搬出する遺構もあった。今回も鍛冶工房は確認されなかったが、西側斜面で古代の木炭窯が検出され、隣接する房の沢IV遺跡の古墳群が造営された同時期に存在した集落の一つであることを裏付けている。

遺物は、縄文時代早期の榎木式期相当のものから平安時代のものまでである。検出遺構と同時期の遺物は、土器類・石器類とも遺構に伴うものが多い。早期の土器群は平行する微隆起線による区画模様を持つ櫛の木式相当のものとい貝殻のものがあるが、量は少ない。遺構数と同様に縄文時代前期前葉の遺物が多く、粘土にセシイを混入する大木1～2式相当のものが主体を占める。遺構もそうであるが、前期中葉の遺物は少なく、また後・晩期の遺物はほとんど見られない。

石器は、一二次調査同様石鏃と磨石が多い。石鏃は遺構の内外を問わず有茎のものが少ない。また、磨石が多い割に石皿や台石が少ない。遺構の内外には大きめの円礫がいくつか見られたので、それらを代用していた可能性も考えられる。石材は、周辺の産出地から供給されたようである。

B 中振火山灰を伴う住居と伴わない住居の土器

中振浮石は十和田湖を噴出源とする火山灰で、約5,500年前の縄文時代前期に東北地方北部に降下したとされている。噴出源に近いところは粒子が粗く、二戸市付近では栗砂(アツサ)と呼ばれている。噴出源から遠い地区ほど粒子が細かく、岩泉町安家などでは粉状で5cm前後の堆積をし、安家(アツサ)火山灰とも呼ばれている。山田町や隣接地の宮古市からも、粉状の火山灰の堆積物が、縄文時代前期の住居跡などのくぼみから検出されている。この火山灰が埋土に伴う住居と伴わない住居の遺物を、いくつかの住居を例に第343図～347図に掲載した。埋土に火山灰を伴う住居は、火山灰降下以前に廃棄されてくぼみになっていた住居で、火山灰を埋土に伴わない住居跡は火山灰降下時に使用されていたか、その後には作られた住居と言うことになる。それぞれのいくつかの住居から出土した土器の傾向は以下になる。

(1) 埋土に火山灰を伴う住居跡の遺物

RA166・RA201・RA189・RA192住居跡の出上遺物を第343～345図に載せた。器形は深鉢で、口縁部直下が少しくてくれるものもあるが、口縁部は直立気味ないしは外傾するものが多い。波状口縁と平口縁のものが同数くらいある。口唇部は肥厚するものが多い。底部は平底で、やや張り出す。

口縁部に隆帯を貼り付けて、棒状工具で連続押圧したものもある。地文は結節回転文が多く、羽状縄文・斜縄文がそれに続く。量は少ないが、単軸絡条体回転による縞糸文で、S字状沈文や網目状・書き瓦状文などがある。

胎土は、結節回転文や羽状縄文のものにはセイが多量に含まれる物が多く、書き瓦状文には少量、S字状沈文や網目状文には微量のセイが混入する傾向にある。S字状沈文は細かく裂いたセイを摺ったような形跡は無く、太いセイをそのまま使用しているようである。

(2) 埋土に火山灰を伴わない住居跡の遺物

RA172・RA176・RA190・RA194住居跡の出上遺物を第346・347図に載せた。前期中葉から中期のものも混じるが、前期前葉の上器片は、器形は深鉢で、口縁部は外傾するものがほとんどである。中には外反するものもある。口縁部は平口縁のものが多い。底部は平底で、端が張り出すものと胴部から丸くカーブするものがある。尖底土器もあるが、埋土中からの出土である。

口縁部に隆帯を貼り付けるものもある。地文は斜縄文・羽状縄文・結節回転文・単軸絡条体回転による縞糸文(書き瓦・S字状)があり、S字状文が目立つ。

胎土は、火山灰を伴う住居と同じ傾向にあり、S字状文も太いセイそのものを使用したようである。

このように火山灰を伴う住居跡と伴わない住居跡では明確な区別はつかないようであるが、前者には大木1・2a式のものが多い。2b式期のS字状沈文も僅かに混じる。また後者は大木2b式期のものが多いが、1・2a式期のものも混入している。

これらのことから火山灰が降下したのは大木2b式期のはじめの頃という見方もできる。また、火山灰が降下したことにより集落が移動したりせず、同じ場所で継続して営まれていたようである。

C 一～四次調査までに検出された遺構数

1994年度に始まった一次調査から1997年度の四次調査までに検出された遺構数は、別表のように縄文時代早期2棟、前期66棟、中期42棟、弥生時代住居跡7棟、奈良時代住居跡25棟、平安時代住居跡18棟、古代時期不明住居跡1棟である。調査担当者により時期の細分に多少の差があるが、縄文時代の住居跡は110棟、弥生時代住居跡7棟、奈良・平安時代の古代住居跡44棟となる。一次調査の座標には多少の狂いがあるが、一～四次調査の検出遺構を第348図に合成した。また、時期ごとに分けたのが第349・350図である。長期間継続した集落遺跡であるが、縄文時代前期前葉と奈良・平安時代に大きな集落が営まれた様子が伺われる。時期により盛衰があり、縄文時代後・晩期や古墳時代の遺構はない。

縄文時代前期の住居跡は、長さ20mを越すような長方形の大型住居跡と小型の方形ないしは長方形の住居跡が組み合わさって集落を形成していたようである。調査地内で検出された66棟の前期住居のうち6棟が大型住居跡である。大型住居跡はそれぞれ数時期の建て替えがなされており、小型住居跡数棟と大型住居跡1棟という組み合わせの集落が縄文時代前期前葉のある期間継続されたようである。

また、遺構同士の間隔も重複部分も多く、詳細な時期の明確でないものもあるが、埋土に黄白色の中礫火山灰層が堆積するのは大木2a式期以前の住居跡である。中礫火山灰は5,500年前に十和田湖から噴出したとされる

ものである。火山灰が降下したときに大木1式期の住居跡が廃棄され、大きなくぼみになっていたため周囲の火山灰もそこに集中し、厚いレンズ状の堆積になったようである。火山灰降下後に作られた大木2式期以降の住居にはもちろん火山灰の堆積はないが、火山灰の堆積する遺構を掘り込んで作っているものは少ない。

前期中葉の遺構は明確ではないが、遺物はわりと多く出土しており、前期とした遺構のいくつかが該当するようである。前期末から中期始めの遺構は二次調査で多く検出されており、中期末葉までの住居跡は継続するが、後・晩期は遺物が散見されるだけで、遺構は確認されていない。

縄文時代のこの地区の集落について、早稲之が房の沢IV遺跡調査報告書の中で検討しており、特に中期後葉～末葉の集落に墓域がないことや、隣接遺跡を含め中心となる集落の変遷などが指摘されている。

沢田I遺跡の調査は、集落全体を発掘したわけではないので、今後の調査で状況が変わることもあるが、4年間で11,680㎡の調査を行い、集落の概要が見えてきたようである。住居跡の集中するのは西側の丘陵の裾から100m位までの範囲で、沢寄りの礼置原には作られていない。

集落の構造は前期は大型住居と小型の住居の組み合わせからなる。貯蔵穴はいくつか確認されているが、各時期を通じて少ない。墓域またはそれらしい遺構も確認されていないので、墓域は不明である。

中期の遺構は住居跡と土坑等から構成されている。墓らしい遺構は、住居跡床面に埋設された甕棺があるだけで、調査地内には墓域が確認できない。土坑の中でも貯蔵穴と見られる深く大きな穴は少ない。

当遺跡から南に直線距離で約5kmの所に位置する山ノ内II遺跡は、縄文時代中期後葉から末葉の集落で、標高50mほどの丘陵上に住居跡と共に多くの貯蔵穴群が検出されている。そこではアサリやシラトリガイなどの砂泥性の貝やアワビやクボガイなどの岩礁性の貝類が土坑のいくつかに廃棄されていた。また当遺跡の東側に隣接する沢田II遺跡でも、縄文時代中期末葉の集落が検出され、住居跡のほか貯蔵穴も多くあり、貝殻が廃棄されている土坑もあった。

当遺跡では貯蔵穴も少なければ、貝層も奈良時代のRA540住居跡で検出されただけで、縄文時代の遺構からは検出されていない。標高も10～15mと低く、わりと広い平地に立地することが、他の遺跡と異なる。貯蔵穴群や墓域が調査地外にある可能性もあるが、同時期の他の集落とは異なる構造をしているようである。生活の中心になっていた生業や食糧の確保や保存など未解決の問題も多い。

弥生時代の住居跡も前期のものだけで、その後は見られなくなる。円形の住居跡の中心に円形の石圍炉が作られるのが特徴のようである。

8世紀前後から奈良時代にかけて再び集落が形成される。この時期には隣接する沢田II遺跡や西方の火畑I・II遺跡や上村遺跡・湾台I・II遺跡、山ノ内II・III遺跡などでは製鉄や鍛冶の遺構が現れる。沢田I遺跡でも鍛冶遺構は初年度に1遺構検出されたのみであるが、多量の羽口片や鍛冶滓の上出や木炭窯の検出などから、鉄の加工を大規模にあるいは継続的に行っていたようである。また、西側の丘陵上に築かれた房の沢IV遺跡の古墳群と同時期ということもあり、古墳群を築いた集団と何らかの関連のある集落の一つだったと思われる。

奈良時代の住居跡は北壁にカマドを持ち、平安時代の住居跡は西側壁にカマドを有している。北側にカマドを持つ住居跡の中でRA519・RA521・RA529の3棟は北西寄りのカマドを持ち、出土遺物にロクロ使用の須恵器や、ヘラケズリの斐など平安時代的な様相を示す遺物を作出しており、奈良時代から平安時代への過渡期といえるかもしれない。

D 一～四次調査で出土した石器

一～四次調査で出土した石器は別表のように22種835点である。一次調査では、なぜか遺物の種類・数量とも少ないが、二次調査以降は遺構検出数と同程度に遺物が出土している。剥片石器の中では石鏝が267点、石筴191点、削搔器87点が多い方で、他の器種は少ない。石鏝は各年度のまとめにも述べられているが、無茎のものがほとんどである。前期前葉の遺構が多いことと関連するのかもしれないが、中期後葉～末葉の遺構も多く検出されていることから時期的な違いではないようである。また、遺構の数から見て削搔器の量が少ない感じがする。骨角器や貝器を多く使用していた可能性もあるが、これまでの他の遺跡の調査でも骨角器出土例が無いのでよくわからない。

礫石器では、磨石160点と磨製石斧53点が目立つだけで他は少ない。磨石には凹石や敲打石の機能を合わせ持つものもあるが、絶対的に少ない。磨石の数に比べて石皿や台石も極端に少ない。大きな円礫や遺跡内に露出していた花崗岩の巨礫を代用していた可能性も考えられるが、それだけでは不自然な感じも受ける。

磨製石斧は53点と他の礫石器に比べればやや多めであるが、遺構数の割には少な目であるし、打製石斧や礫石斧も極端に少ない。大型住居跡も含めて多数の竪穴住居跡群が築かれている割には、土掘り具と思われる石器や伐採用具と思われる石器が少ない。食糧加工の面から見ても、石皿・台石が少なく、石器以外の道具を使用していたのかもしれないが、何か特異な感じを受ける。生業の違いとしたらどのような生業だったのか。食糧生産・獲得・加工の場所や方法についても他の遺跡と違うものがあつたのか不明である。地域全体で見た場合にこの遺跡だけが特別異なっていたのかどうか、今後の調査を待たなければならぬ。

縄文時代の石製品は円盤状石製品が半数近くを占め、耳飾りや垂れ飾りのような装飾品的なものは少ない。石製品だけでなく土製品も少ない。墓域が調査地内に検出されていないだけなのか、この遺跡の特徴なのかは不明であるが、とにかく装飾品が少ない。

砥石は古代の遺構に伴うもので、鉄製品の使用に関連するものである。

E 一～四次調査のまとめ

沢田Ⅰ遺跡の四次に亘る調査の結果、陸中海岸の中央付近に位置する山田町の縄文時代から平安時代にかけての集落の状況が明らかになった。沢田Ⅰ遺跡の調査に前後して調査された、町内の各遺跡の発掘成果と合わせ、この地区の文字に無い時代の歴史解明に大きな役割を果たしたと思われる。

四次調査までの成果を以下にまとめてみる。今後、調査地外や他の遺跡の発掘で、これまでの調査成果から予測できなかった方向に展開することも考えられる。

沢田Ⅰ遺跡からは縄文時代早期から平安時代の遺物が検出され、遺構も縄文時代早期2棟、前期66棟、中期42棟、弥生時代住居跡7棟、奈良時代住居跡25棟、平安時代住居跡18棟等が検出されている。

縄文時代前期前葉の集落は、ロングハウスと長方形小型竪穴住居で構成され、炉はロングハウスのみに複数の地床が築かれている。縄文時代中期は、円形ないしは楕円形の竪穴住居で、炉は石囲炉や複式炉が作られる。石囲炉の石組みは方形が多いようである。弥生時代の住居跡は円形状で、中央に円形の石囲炉を配する。住居跡以外の施設では、土坑や落とし穴があるが、いずれも少ない。海岸に近いが貝塚や貝層は形成されていない。縄文時代の各時期を通して墓域や貯蔵穴群を含めた集落の構造が不明瞭である。

遺物の中では、縄文時代前期前葉の土器が多く、遺構と同様の傾向を示す。しかし石器は石鏝や磨石は多いもの、石皿・台石など磨石とセットとなって使われる遺物が極端に少ない。石鏝もほとんどが無茎鏝である。生業や食糧の獲得・加工・保存をどうしたのか不明である。

弥生時代の住居跡は前期のものだけである。円形の住居跡の中心に円形の石垣が作られるのが特徴のようである。

古代の住居跡は、方形で、奈良時代では北側壁にカマド、平安時代では西側壁にカマドが築かれる。ただし、北西寄りの壁にカマドを持ち遺構は奈良時代的であるが、遺物は平安時代的様相を示す住居跡がある。

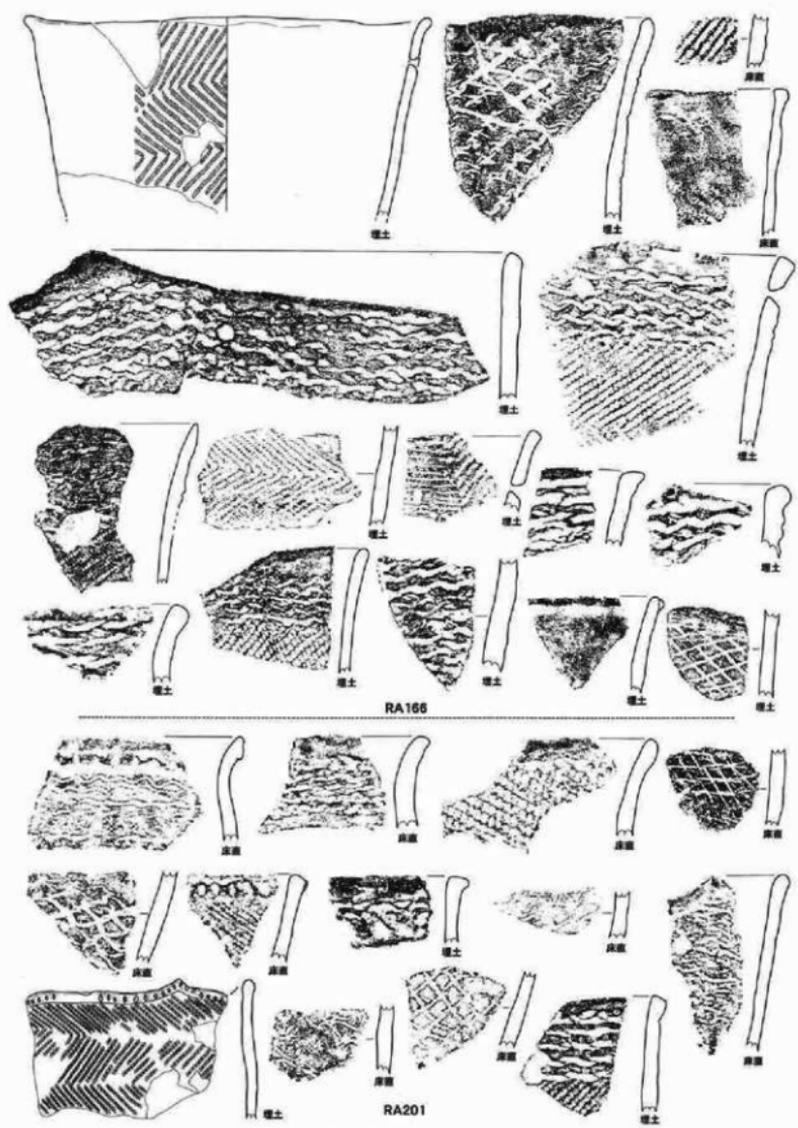
鍛冶遺構は明瞭なものも1カ所だけであったが、羽口片や鍛冶滓が多量に出土している。西側斜面や隣接地の房の沢IV遺跡から、古代の木炭窯が検出されており、鉄の加工が継続的に行われていたことを伺わせる。このことは、房の沢IV遺跡の占墳群とも関わりを持ち、製鉄や加工に関連する集団が居住していた集落遺跡の一つであったといえる。

また、黒曜石の産地分析では、雫石系の原石の可能性が指摘された。縄文中期の住居内にあった倒立竪棺内の土壌分析の結果では、埋設土器内に遺体を埋葬したことを示唆する結果が得られている。前期前葉の住居跡に厚く堆積していた火山灰分析の結果は、十和田中振テフラ（To-Ch, 5, 500年前）の可能性が高いことが明らかになった。炭化材の樹種同定結果は、トネリコヤクリと同定された。土器や羽口の胎土分析の結果は、地元の土器や粘土のバックグrounderが不足しているが、地元産の可能性が高いことが指摘された。アスファルト分析の結果は、秋田県二ツ井町産の可能性が高く、米代川流域や馬淵川流域で縄文時代に流通したアスファルトと同じ系統に属すると推定された。

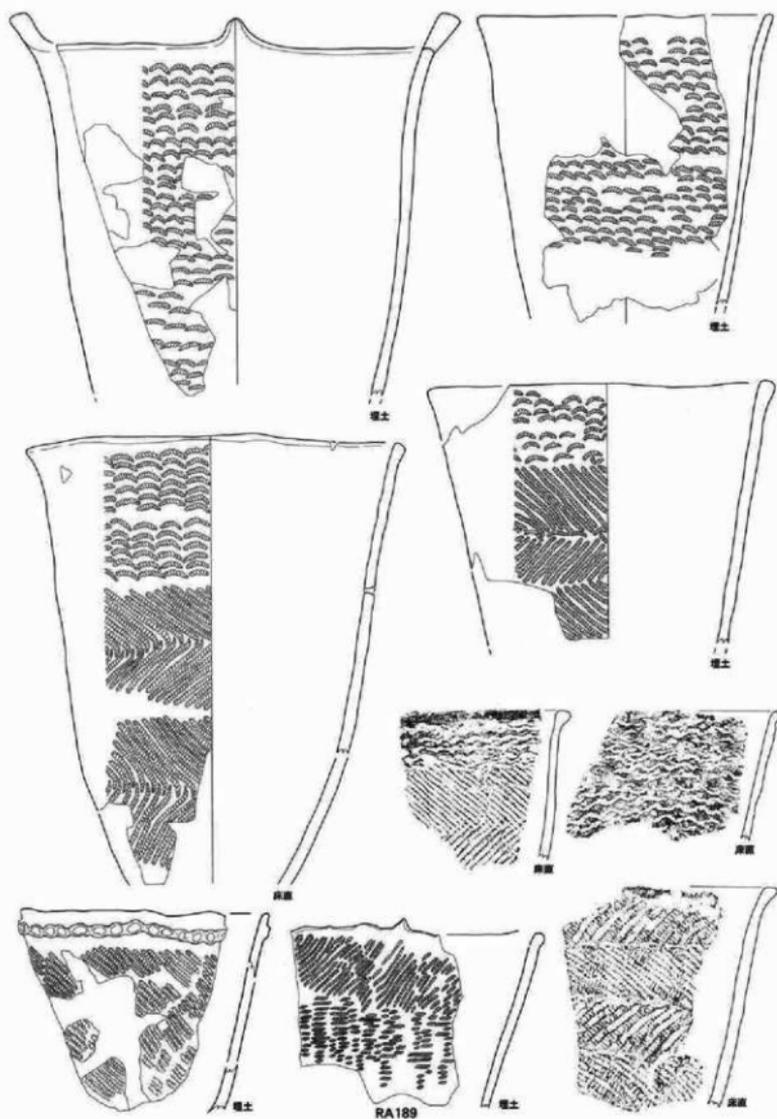
縄文時代後晩期と弥生時代中期以降古墳時代までの遺構は、検出されておらず、特に弥生時代中期以降の遺物は出土していないことから、その時期は遺跡がほとんど利用されず、集落が途絶えたことになる。しかし大きな集落が営まれる期間が長く、アスファルトや黒曜石の流通など縄文時代から広域に亘る交流がなされ、この地域でも拠点となるような集落遺跡であったことが窺える。

5 付編 各種分析結果 (P315~)

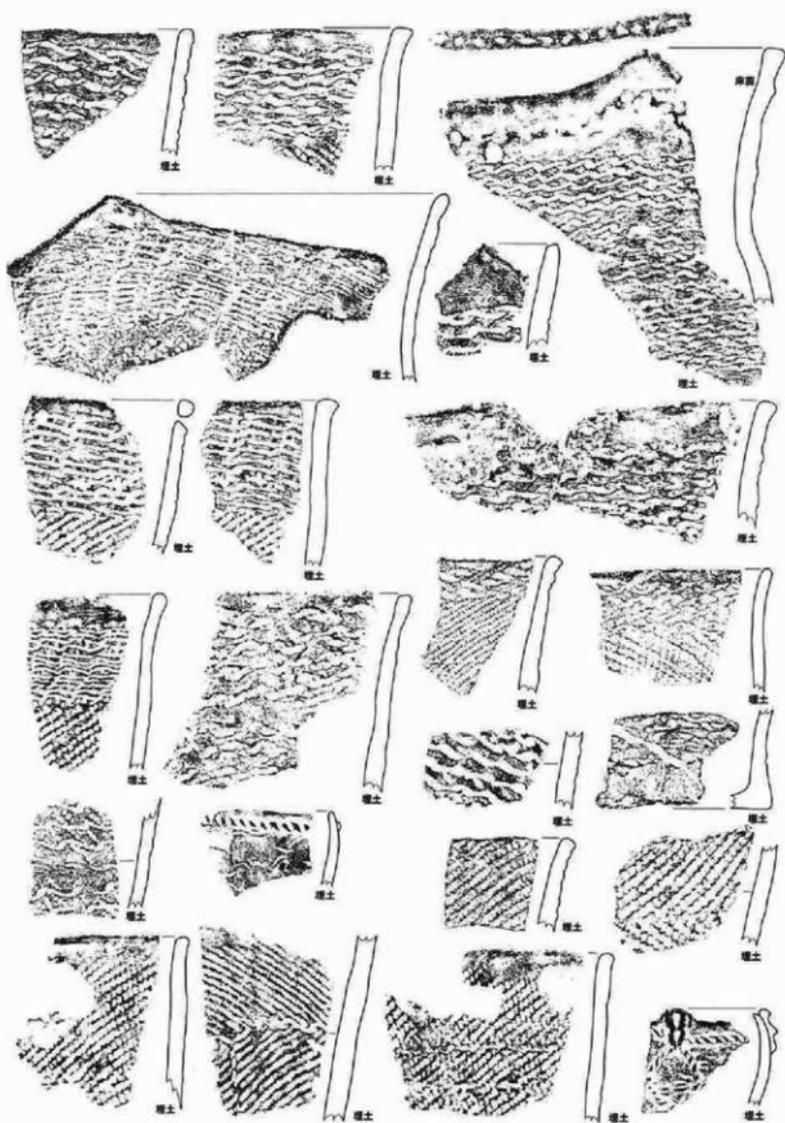
- 5-1 沢田Ⅰ遺跡出土の黒曜石製石器の原材産地分析
- 5-2 岩手県沢田Ⅰ遺跡の自然科学的研究 (残留リン酸濃度分析)
- 5-3 岩手県沢田Ⅰ遺跡火山灰分析
- 5-4 沢田Ⅰ遺跡出土炭化材の樹種
- 5-5 山田町遺跡出土土器の蛍光X線分析
- 5-6 岩手県沢田Ⅰ遺跡から出土したアスファルトの成分分析



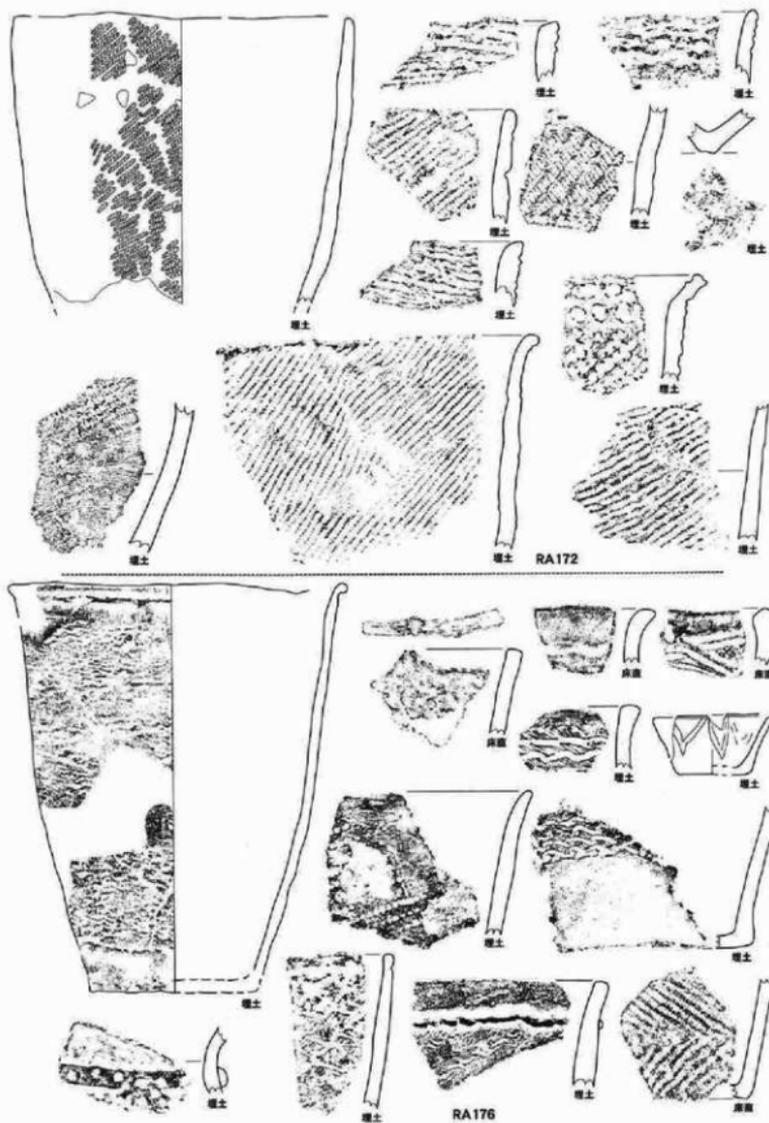
第343図 中興火山灰を伴う住居跡の遺物 (1)



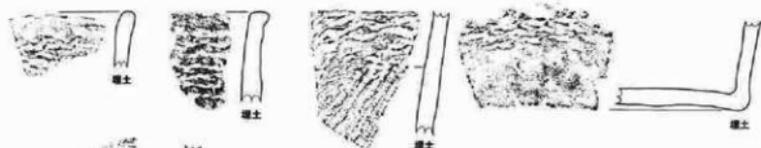
第344図 中殿火山灰を伴う住居跡の遺物(2)



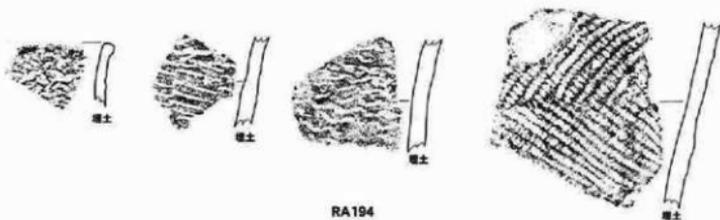
第345図 中振火山灰を伴う住居跡の遺物 (3)、RA192



第346図 中兼火山灰を伴わない住居跡の遺物 (1)

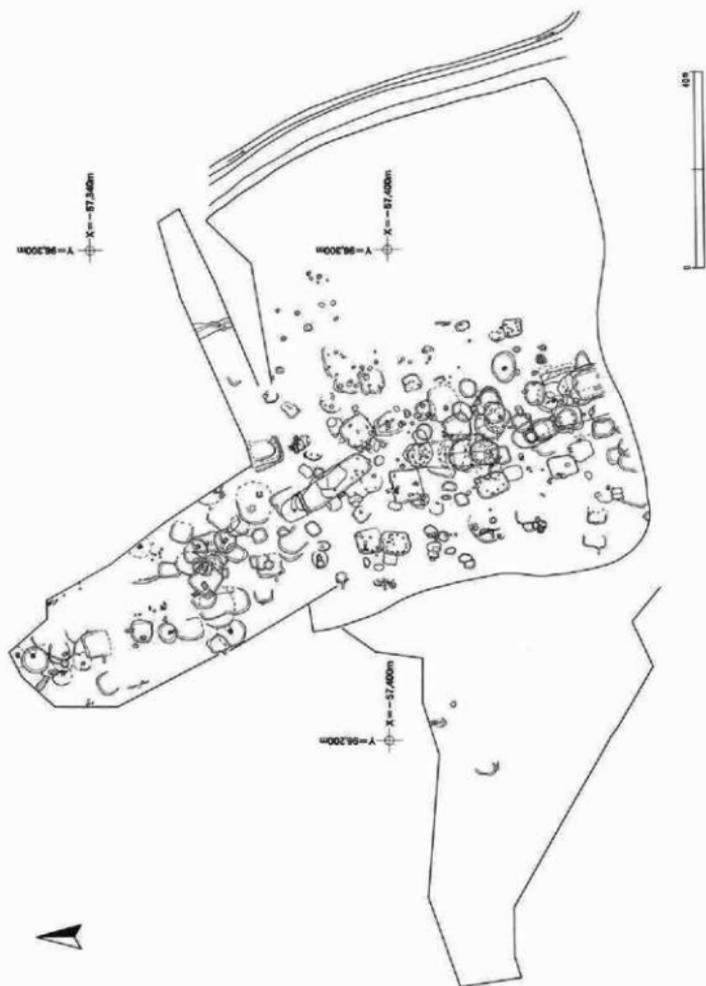


RA190

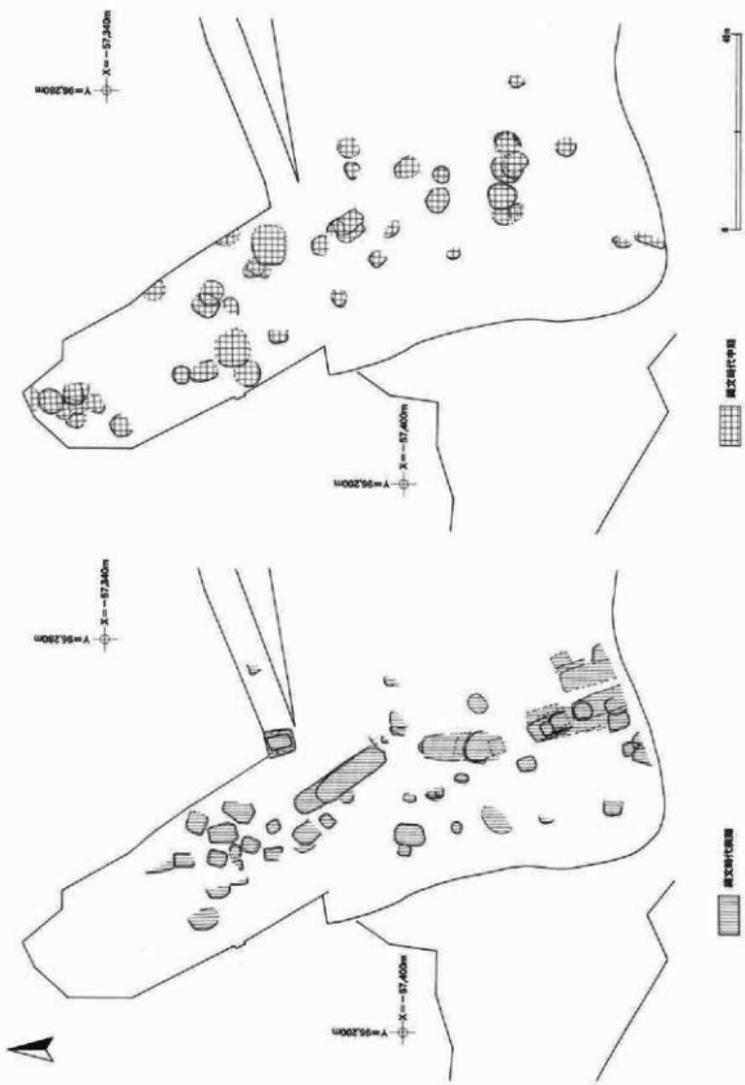


RA194

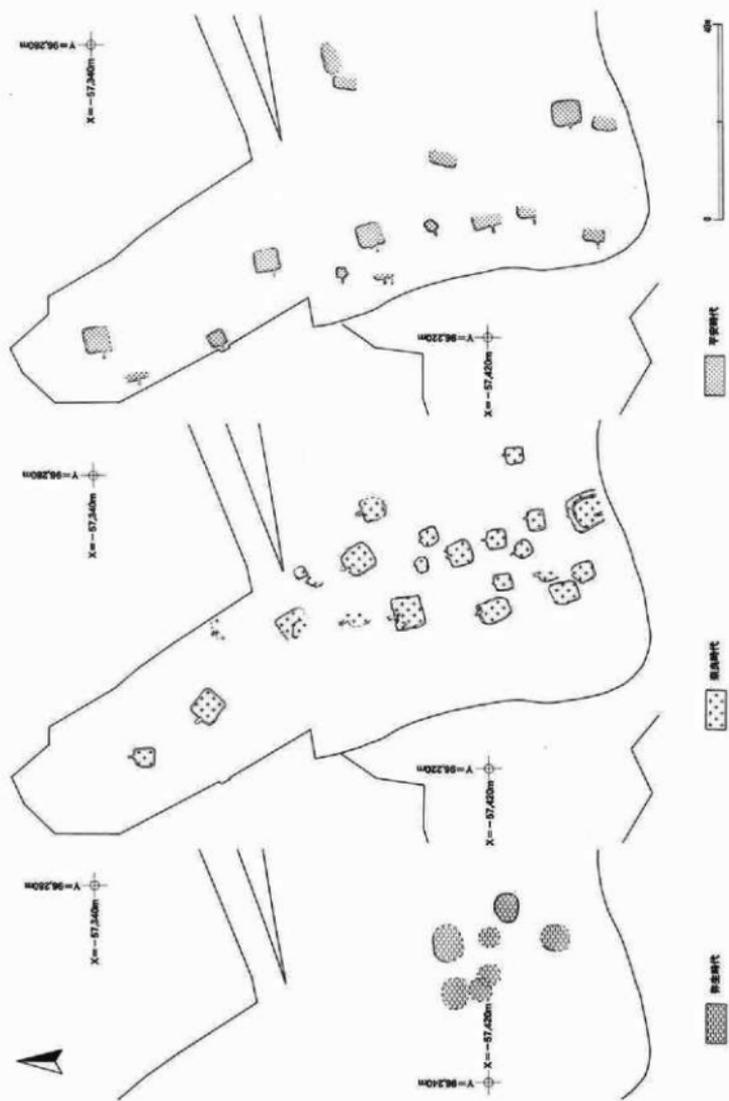
第347図 中殿火山灰を伴わない住居跡の遺物 (2)



第348図 沢田I一～四次調査遺構配置図(合成)



第349図 縄文時代前期・中期遺構分布図



第350圖 弥生・奈良・平安時代遺構分布図

沢田 I 遺跡検出遺構総数

遺構時期	1994年	1995年	1996年	1997年	合計
縄文早期				2	2
縄文前期	5	9	6	46	66
縄文中期	4	3	3	32	42
縄文		10			10
縄文竪穴状	2	1		4	7
縄文土坑		13	9	18	40
縄文竪土	3	3	9	1	16
縄文竪穴		1	1	1	3
弥生前期				7	7
奈良住居	4	5	2	14	25
平安住居	7	5	1	5	18
古代	1				1
古代竪穴状	1	1			2
古代埴物跡				1	1
古代土坑	8	2		8	18
古代竪土	2			1	3
鍛冶工房	1				1
不明竪穴状	1			2	3
不明土坑	36	6		32	74
溝	2			1	3
塋土	2			2	4
溝	1				1

沢田 I 遺跡出土石器数量

器種	94遺構伴出	94遺構外	95遺構伴出	95遺構外	96遺構伴出	96遺構外	97遺構伴出	97遺構外	遺構伴出計	遺構外計	合計
石鏃	5	14	41	13	23	26	53	92	122	145	267
石槍	0	4	2	1	1	2	6	2	9	10	19
石匙	4	19	25	18	20	19	26	60	75	116	191
附環器	0	2	12	17	4	5	17	30	33	54	87
石鏃	0	1	1	0	1	0	1	2	3	3	6
石匙	0	0	2	0	0	1	0	3	5	6	11
楔形石器	0	0	1	3	3	1	1	2	0	1	1
打製石器	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	3
石鏃	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	2
石核	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1
U.P.	0	0	0	0	0	0	0	1	25	28	53
磨製石斧	0	5	8	7	1	1	10	13	0	1	1
磨石斧	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
磨石	2	7	46	19	6	7	48	25	102	58	160
凹石	0	4	1	1	0	0	1	0	2	5	7
敲打石	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
石皿	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2
台石	0	0	0	0	2	0	1	0	3	0	3
石棒	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
石劍	0	0	1	1	0	0	0	0	2	1	3
砥石	2	0	1	1	1	0	1	1	5	2	7
石製品	0	0	1	5	0	0	0	2	1	7	8

5-1 沢田 I 遺跡出土の黒曜石製石器の原産地分析

藁科 哲男 (京都大学原子炉実験所)

沢田 I 遺跡出土の黒曜石製遺物 1 個について産地分析の結果が得られたので報告する。黒曜石などの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。黒曜石原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光 X 分析装置によって元素分析を行なう。分析元素は Al, Si, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Rb, Sr, Y, Zr, Nb の 12 元素をそれぞれ分析した。

遺物は完全な非破壊で分析するため、異形状試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それをもって産地を特定する指標とした。黒曜石では Ca/K, Ti/K, Mn/Zr, Fe/Zr, Rb/Zr, Sr/Zr, Y/Zr, Nb/Zr をそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州、の各地に黒曜石の原産地は分布する (図 1)。これで黒曜石原産地の殆ど全ての調査がつかされている。元素組成の上から、これら原石を分類すると 99 個の原石群に分かれる (表 1)。

結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水和層の影響は、軽元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんどみられない。Ca/K, Ti/K 両軽元素比を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合同定される原産地に差はない。他の元素比についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。今回分析した沢田 I 遺跡の黒曜石製遺物の分析結果を表 2 に示した。石器の元素組成の分析結果から石材産地を特定するために原石群との比較を相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングの T 検定である。産地の同定結果は 1 個の遺物に対して、黒曜石製では 99 個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記人を省略し、高い確率で同定された産地のみを結果を表 3 に記入した。今回分析した沢田 I 遺跡で使用された黒曜石製遺物の同定結果で、判定の信頼限界としている 0.1% に達しない原石群を消去していくと残る原石群は、雫石、花泉、折居、高原山の各原産地に同定され、これら原産地の中の 1 つ所に特定できず最も原石が密集して採取された雫石と判定したが、花泉、折居の可能性も否定できないが、今回分析した遺物を肉眼観察で高原山と雫石系原石に比較した場合雫石系原石に酷似し、高原山原石の可能は推定確率と同じく低いと推定した。また、雫石系の黒曜石製遺物は非破壊分析で水和層が明確に測定できるため、測定を試みた結果 1.3~1.28 ミクロンで、雫石系遺物の縄文時代後期・晩期で約 1.8 ミクロンから推測すると、縄文時代晩期が推測される。

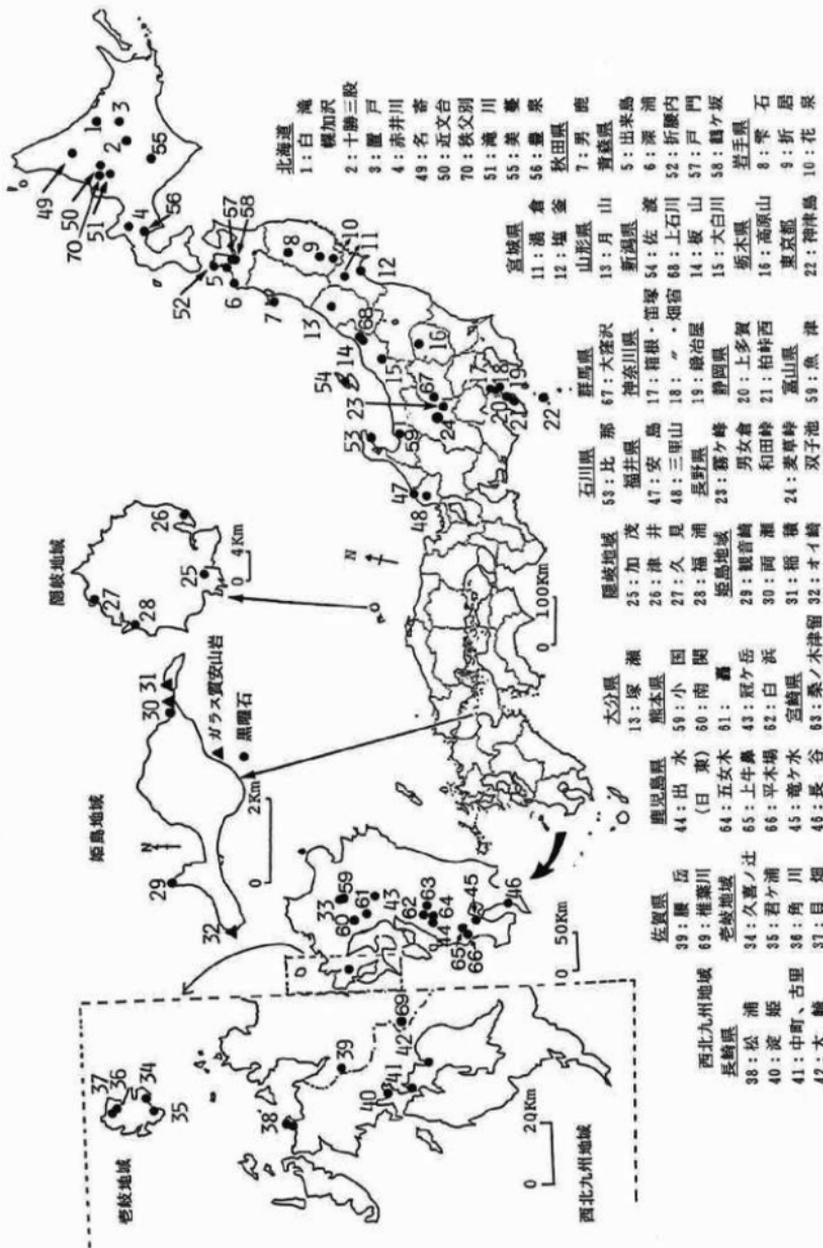


図1 黒曜石産地

表1-1 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

原産地	分析回数	Cs/K X±σ	Rb/K X±σ	Th/K X±σ	Mn/Zr X±σ	Fe/Zr X±σ	Ca/Zr X±σ	U/Zr X±σ	Pa/Zr X±σ	Sr/Zr X±σ	Y/Zr X±σ	Nb/Zr X±σ	Al/K X±σ	Si/K X±σ	
北嶺	114 名瀬一	0.121±0.005	0.035±0.007	2.011±0.063	0.014±0.032	0.574±0.022	0.120±0.017	0.054±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010	0.038±0.002	0.033±0.002	0.451±0.010	0.451±0.010	
	12 名瀬二	0.135±0.011	0.06±0.003	1.790±0.070	0.092±0.043	0.265±0.017	0.293±0.018	0.059±0.020	0.029±0.002	0.371±0.010	0.029±0.002	0.029±0.002	0.371±0.010	0.371±0.010	
	130 白滝	0.179±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	1.340±0.059	0.283±0.019	0.341±0.030	0.073±0.026	0.028±0.002	0.470±0.010	0.073±0.026	0.028±0.002	0.470±0.010	0.470±0.010
	20 白滝一	0.139±0.009	0.023±0.001	0.099±0.015	2.976±0.102	1.794±0.037	0.104±0.010	0.470±0.037	0.103±0.027	0.027±0.002	0.107±0.019	0.103±0.027	0.027±0.002	0.107±0.019	0.107±0.019
	27 白滝二	0.138±0.004	0.021±0.002	0.102±0.015	3.049±0.181	1.850±0.085	0.091±0.016	0.482±0.039	0.107±0.039	0.032±0.002	0.157±0.008	0.107±0.039	0.032±0.002	0.157±0.008	0.157±0.008
	30 白滝三	0.181±0.013	0.165±0.006	0.081±0.010	3.206±0.117	0.604±0.031	0.091±0.030	0.165±0.030	0.059±0.019	0.035±0.002	0.045±0.008	0.059±0.019	0.035±0.002	0.045±0.008	0.045±0.008
	107 白滝四	0.0517±0.0011	0.009±0.000	0.067±0.009	2.773±0.097	0.813±0.037	0.018±0.004	0.197±0.034	0.041±0.019	0.024±0.002	0.448±0.009	0.041±0.019	0.024±0.002	0.448±0.009	0.448±0.009
	13 名瀬	0.124±0.012	0.098±0.005	0.066±0.014	2.765±0.125	0.813±0.037	0.018±0.004	0.199±0.039	0.078±0.008	0.024±0.002	0.434±0.011	0.078±0.008	0.024±0.002	0.434±0.011	0.434±0.011
	51 秋田	0.249±0.017	0.122±0.006	0.070±0.011	1.614±0.068	0.995±0.042	0.068±0.032	0.285±0.021	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.371±0.010
	25 秋田	0.063±0.016	0.098±0.006	0.079±0.011	2.750±0.099	0.809±0.037	0.068±0.032	0.197±0.026	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.371±0.010
31 秋田	0.153±0.015	0.098±0.005	0.077±0.009	1.618±0.090	1.01±0.045	0.068±0.032	0.197±0.026	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.371±0.010	
15 秋田	0.036±0.008	0.128±0.005	0.096±0.008	2.740±0.072	0.824±0.044	0.068±0.032	0.197±0.026	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.371±0.010	
65 秋田	0.256±0.018	0.074±0.005	0.069±0.010	2.821±0.087	0.924±0.065	0.068±0.032	0.197±0.026	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.371±0.010	
40 秋田	0.069±0.029	0.174±0.007	0.052±0.010	3.028±0.181	0.909±0.065	0.068±0.032	0.197±0.026	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.371±0.010	
28 秋田	0.085±0.039	0.14±0.012	0.052±0.010	3.028±0.251	0.765±0.040	0.068±0.032	0.197±0.026	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.371±0.010	
28 秋田	0.073±0.039	0.14±0.012	0.052±0.010	3.028±0.251	0.765±0.040	0.068±0.032	0.197±0.026	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.371±0.010	
28 秋田	0.073±0.039	0.14±0.012	0.052±0.010	3.028±0.251	0.765±0.040	0.068±0.032	0.197±0.026	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.371±0.010	
75 秋田	0.073±0.039	0.14±0.012	0.052±0.010	3.028±0.251	0.765±0.040	0.068±0.032	0.197±0.026	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.025±0.001	0.025±0.001	0.371±0.010	0.371±0.010	
青森	25 折尾	0.190±0.015	0.075±0.003	0.040±0.008	1.575±0.066	1.241±0.046	0.318±0.014	0.141±0.033	0.076±0.021	0.221±0.002	0.076±0.021	0.076±0.021	0.221±0.002	0.221±0.002	0.221±0.002
	37 折尾	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.268±0.085	0.853±0.044	1.106±0.056	0.399±0.038	0.179±0.031	0.038±0.003	0.179±0.031	0.038±0.003	0.179±0.031	0.179±0.031	0.179±0.031
	36 折尾	0.080±0.008	0.097±0.003	0.088±0.003	0.697±0.021	0.128±0.008	0.002±0.002	0.064±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.035±0.004	0.026±0.002	0.035±0.004	0.035±0.004	0.035±0.004
	28 折尾	0.250±0.024	0.069±0.003	0.088±0.012	2.338±0.027	1.188±0.062	0.521±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.277±0.065	0.277±0.065
秋田	35 鶴ヶ坂	0.284±0.006	0.104±0.004	0.013±0.002	0.691±0.021	0.129±0.006	0.002±0.002	0.069±0.010	0.033±0.005	0.025±0.002	0.033±0.005	0.025±0.002	0.033±0.005	0.033±0.005	0.033±0.005
	38 鶴ヶ坂	0.344±0.017	0.132±0.007	0.023±0.002	2.261±0.143	0.861±0.052	1.081±0.060	0.390±0.039	0.186±0.037	0.037±0.002	0.186±0.037	0.037±0.002	0.186±0.037	0.186±0.037	0.186±0.037
	43 鶴ヶ坂	0.293±0.007	0.087±0.004	0.223±0.015	1.637±0.072	1.512±0.082	0.920±0.064	0.287±0.042	0.125±0.031	0.027±0.002	0.125±0.031	0.027±0.002	0.125±0.031	0.125±0.031	0.125±0.031
岩手	25 新花	0.636±0.033	0.187±0.012	0.052±0.007	1.764±0.061	0.303±0.016	0.431±0.021	0.209±0.016	0.045±0.014	0.041±0.003	0.045±0.014	0.041±0.003	0.041±0.003	0.041±0.003	0.041±0.003
	22 新花	0.615±0.055	0.180±0.016	0.058±0.007	1.751±0.062	0.306±0.033	0.421±0.051	0.222±0.079	0.045±0.011	0.041±0.003	0.045±0.011	0.041±0.003	0.041±0.003	0.041±0.003	0.041±0.003
	30 新花	0.596±0.046	0.177±0.018	0.056±0.008	1.749±0.072	0.314±0.019	0.420±0.025	0.220±0.016	0.044±0.013	0.041±0.003	0.044±0.013	0.041±0.003	0.041±0.003	0.041±0.003	0.041±0.003
山形	44 山形	0.263±0.021	0.182±0.016	1.906±0.096	0.966±0.089	1.022±0.021	0.171±0.036	0.119±0.033	0.033±0.002	0.448±0.014	0.033±0.002	0.033±0.002	0.448±0.014	0.448±0.014	0.448±0.014
	34 山形	0.228±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.496±0.079	0.821±0.047	0.268±0.018	0.142±0.018	0.049±0.017	0.021±0.004	0.049±0.017	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004
	12 山形	0.263±0.032	0.097±0.018	0.063±0.008	1.501±0.053	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	0.046±0.015	0.026±0.002	0.026±0.002	0.026±0.002	0.026±0.002
	45 山形	0.312±0.008	0.072±0.003	0.060±0.008	1.900±0.070	0.988±0.050	0.758±0.034	0.186±0.024	0.035±0.004	0.018±0.002	0.035±0.004	0.018±0.002	0.035±0.004	0.035±0.004	0.035±0.004
宮城	44 大板	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	2.178±0.110	1.772±0.098	0.374±0.047	0.154±0.034	0.059±0.009	0.353±0.009	0.154±0.034	0.059±0.009	0.353±0.009	0.353±0.009	0.353±0.009
	22 大板	0.569±0.012	0.142±0.007	0.033±0.005	1.608±0.049	0.261±0.012	0.332±0.011	0.130±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	0.033±0.011	0.036±0.003	0.033±0.011	0.036±0.003	0.036±0.003
宮城	21 新坂	2.174±0.068	0.349±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.073±0.003	0.073±0.003
	37 新坂	4.828±3.395	1.630±0.104	0.178±0.017	11.362±1.150	0.168±0.018	1.298±1.063	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.077±0.002	0.077±0.002

表1-2 各黒曜石の原産地における輝石群の元素比の平均値と標準偏差

原産地 輝石群名	分析 個数	Ca/K $\bar{X} \pm \sigma$	Ti/K $\bar{X} \pm \sigma$	Mn/Zr $\bar{X} \pm \sigma$	Fe/Zr $\bar{X} \pm \sigma$	Rb/Zr $\bar{X} \pm \sigma$	Str/Zr $\bar{X} \pm \sigma$	Y/Zr $\bar{X} \pm \sigma$	Nb/Zr $\bar{X} \pm \sigma$	Al/K $\bar{X} \pm \sigma$	Si/K $\bar{X} \pm \sigma$
栃木県 高麗山	40	0.738±0.067	0.200±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.025	0.302±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.036±0.002	0.516±0.012
東京都 神奈川群 *第一	56	0.381±0.014	0.136±0.005	0.102±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.089±0.037	0.247±0.021	0.090±0.026	0.036±0.003	0.501±0.012
東京都 神奈川群 *第二	23	0.317±0.016	0.120±0.008	0.114±0.014	1.833±0.069	0.615±0.029	0.059±0.050	0.303±0.034	0.107±0.026	0.033±0.002	0.471±0.019
神奈川県 津島川群 *第一	30	0.765±0.254	2.219±0.057	0.228±0.019	9.282±0.622	0.49±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.008	1.528±0.046
神奈川県 津島川群 *第二	41	2.036±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.067±0.007	0.080±0.029	0.202±0.011	0.011±0.010	0.080±0.005	1.126±0.031
鹿児島県 龍治群	31	1.663±0.071	0.381±0.019	0.056±0.007	2.139±0.097	0.073±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.011±0.009	0.067±0.005	0.904±0.020
静岡県 上多賀 群	31	1.329±0.078	0.294±0.018	0.041±0.006	1.697±0.068	0.087±0.009	0.551±0.023	0.138±0.011	0.010±0.009	0.059±0.004	0.856±0.018
静岡県 相模群	35	1.213±0.164	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.009±0.009	0.047±0.004	0.662±0.020
富山県 魚津	12	0.270±0.013	0.085±0.004	0.064±0.008	2.084±0.095	0.908±0.057	0.941±0.046	0.194±0.014	0.102±0.021	0.027±0.002	0.372±0.009
石川県 比呂	17	0.370±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	2.699±0.167	0.639±0.028	0.534±0.023	0.172±0.028	0.052±0.018	0.032±0.002	0.396±0.017
福井県 安曇	21	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.051	0.643±0.041	0.575±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.032±0.002	0.450±0.010
福井県 安曇	21	0.350±0.018	0.123±0.008	0.036±0.006	1.561±0.091	0.608±0.026	0.795±0.039	0.069±0.020	0.062±0.013	0.028±0.002	0.381±0.008
群馬県 大窪沢	42	1.481±0.117	0.466±0.021	0.042±0.006	2.005±0.135	0.182±0.011	0.841±0.044	0.105±0.010	0.009±0.008	0.033±0.005	0.459±0.012
長野県 藤子 群	171	0.138±0.009	0.066±0.003	0.104±0.011	1.339±0.057	1.076±0.047	0.260±0.023	0.275±0.030	0.112±0.023	0.026±0.002	0.361±0.013
長野県 藤子 群	143	0.167±0.028	0.079±0.008	0.117±0.011	1.346±0.085	1.853±0.124	0.112±0.066	0.469±0.048	0.139±0.026	0.025±0.002	0.353±0.016
長野県 藤子 群	17	0.146±0.003	0.032±0.003	0.151±0.010	1.461±0.039	2.449±0.135	0.036±0.012	0.517±0.034	0.186±0.025	0.027±0.002	0.368±0.007
長野県 藤子 群	62	0.216±0.018	0.064±0.012	0.114±0.011	1.520±0.182	1.679±0.140	0.274±0.104	0.374±0.048	0.122±0.054	0.023±0.003	0.348±0.017
長野県 藤子 群	37	0.174±0.017	0.063±0.004	0.094±0.009	1.373±0.085	1.811±0.057	0.206±0.030	0.263±0.038	0.090±0.022	0.023±0.002	0.331±0.019
長野県 藤子 群	53	0.156±0.019	0.079±0.015	0.095±0.011	1.283±0.046	1.693±0.196	0.273±0.098	0.194±0.042	0.066±0.023	0.021±0.002	0.309±0.013
長野県 藤子 群	53	0.198±0.004	0.039±0.002	0.123±0.012	1.253±0.034	1.628±0.095	0.143±0.031	0.279±0.039	0.110±0.017	0.026±0.002	0.318±0.012
長野県 藤子 群	119	0.223±0.026	0.102±0.010	0.059±0.008	1.694±0.081	0.701±0.109	0.409±0.052	0.128±0.024	0.053±0.016	0.026±0.002	0.353±0.008
長野県 藤子 群	68	0.263±0.020	0.139±0.011	0.049±0.008	1.403±0.060	0.120±0.040	0.764±0.031	0.101±0.014	0.056±0.016	0.029±0.002	0.301±0.017
長野県 藤子 群	84	0.246±0.035	0.136±0.010	0.054±0.009	1.486±0.154	0.665±0.056	0.782±0.071	0.116±0.023	0.037±0.026	0.018±0.004	0.291±0.017
島根県 加茂 群	20	0.154±0.008	0.092±0.009	0.018±0.003	0.943±0.029	0.920±0.016	0.006±0.003	0.047±0.010	0.144±0.019	0.022±0.001	0.268±0.017
島根県 加茂 群	31	0.150±0.008	0.100±0.003	0.015±0.002	0.914±0.033	0.903±0.013	0.013±0.003	0.046±0.013	0.132±0.007	0.022±0.001	0.259±0.006
島根県 加茂 群	31	0.142±0.004	0.061±0.002	0.030±0.003	0.981±0.018	0.398±0.013	0.001±0.002	0.093±0.015	0.229±0.010	0.023±0.002	0.317±0.006
大分県 新井 群	41	0.216±0.017	0.045±0.003	0.428±0.057	6.897±0.868	1.829±0.220	1.572±0.180	0.325±0.088	0.622±0.099	0.035±0.002	0.418±0.011
大分県 新井 群	33	0.221±0.021	0.045±0.003	0.450±0.061	7.248±1.006	1.917±0.194	1.600±0.173	0.365±0.057	0.669±0.105	0.035±0.002	0.418±0.009
大分県 新井 群	32	0.634±0.047	0.140±0.013	0.194±0.026	4.399±0.322	0.614±0.077	3.162±0.189	0.144±0.021	0.240±0.041	0.038±0.002	0.481±0.011
大分県 新井 群	29	0.174±0.010	0.224±0.016	0.126±0.012	3.491±0.231	0.303±0.057	4.092±0.174	0.109±0.028	0.347±0.028	0.040±0.004	0.471±0.017
大分県 新井 群	25	0.653±0.056	0.189±0.030	0.189±0.030	4.398±0.425	0.602±0.096	4.010±0.222	0.101±0.022	0.133±0.025	0.040±0.003	0.468±0.015
大分県 新井 群	30	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.600±0.051	0.886±0.082	0.175±0.018	0.102±0.020	0.028±0.002	0.371±0.009

表 2 沢田 J 遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果

分析番号	元 素 比									
	Cu/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
39059	0.289	0.093	0.234	1.564	1.575	0.931	0.249	0.117	0.023	0.291
JG-1	0.737	0.225	0.064	3.560	0.956	1.298	0.232	0.064	0.018	0.247

JG 1: 標準試料-Ando,A, Kurasawa,J,I, Ohmori,T, & Takeda,E.1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal vol.8 175-192 (1974)

表 3 沢田 J 遺跡出土の黒曜石遺物の原材産地推定結果
(岩手県下閉伊郡山田町)

分析番号	試料番号、遺物出土区、層位	時代(伴出土物)	原 石 産 地 (確 率)	判定	水和層厚さ (μm)	遺物品名 (備考)
39058	1, 2A-16, III	縄文～平安時代	雲台(58%), 花泉(38%), 折原(20%), 高原山(4%)	雲石	1.30～1.28	剥片

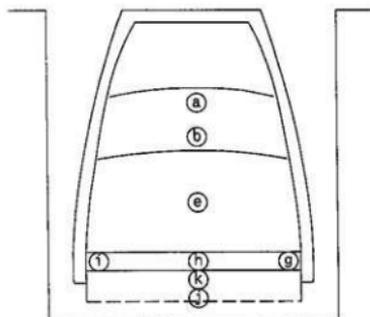
5-2 岩手県沢田 I 遺跡の自然科学的研究 (倒立壱棺RA164内土壌の残留リン酸濃度分析)

八戸工業高等専門学校 教授 大久保 憲
技官 千葉 憲一

1. はじめに

土壌墓の判定には残留リン酸分析、残留脂質成分組成分析が有効である。今回の調査は残留リン酸分析のみで墓の判定が可能であるとわかったため、その手法を用いてリン酸濃度を分析し、土壌墓判定を検討をする。分析に用いた土壌試料は岩手県沢田 I 遺跡の倒立壱棺RA164内土壌 8ヶ所 (a、b、e、g、h、i、j、k) である。土壌採取位置を図 1 に示す。

壱棺の大きさは全高49cm、底部15cm、胴部39cm、口縁部30cmである。



トレンチ

図 1 岩手県沢田 I 遺跡
(RA164埋設壱棺)土壌採取位置

2. 分析法

リン (P) およびリン酸 (H_2PO_4) は、生物体のすべての組織や細胞に不可欠な構成要素であり、その生理機構や生命活動の中で大切な役割を果たしている物質である。特にリン酸成分はカルシウム (Ca) やマグネシウム (Mg) と結合し、水酸化アパタイト (hydroxyapatite, $Ca_{10}(PO_4)_6(OH)_2$) など脊椎動物の骨や歯の主成分として大切な役割を担う物質である。また土壌に含まれる無機リン酸は、リン灰石 (apatite) を含む各種岩石の風化分解や、動植物遺体の生体有機リン酸成分の無機リン酸への変化などによって生成し、土壌中のカルシウムイオン、アルミニウムイオン、鉄イオンなどの金属イオンや粘土などの土壌鉱物と結合して土壌中に残留する。従来、各土壌試料 1g から 2g を 4N 塩酸で煮沸溶解した無機リン酸をモリブデン酸法で比色分析したが複雑な手法と分析時間を要した。最近は各土壌の残留リン酸濃度の分析に蛍光 X 線分析法を用いた簡易分析が可能になった。

今回の測定は蛍光 X 線分析装置 (照射ロジウム (Rh) X 線発生管および軽元素蛍光 X 線スペクトル用分光結晶・PET) を使い、 $2\theta = 89.47^\circ$ のリン (P) の軽元素蛍光 X 線強度から直接定量分析を行った。土壌試料を 100°C で乾燥し、乳鉢で粒径を均一にした土壌試料 1g を秤量し、無水炭酸ナトリウム (Na_2CO_3) と共に均一な厚さに圧縮ペレット状にし、その蛍光 X 線強度を測定する。リン酸三カルシウム ($Ca_3(PO_4)_2$) を用いて標準添加法により検量線を作成し、その土壌中のリン (P) 成分を残留リン酸濃度 (P_2O_5 mg/100g 土壌) に換算して求める。しかも同じ土壌試料を 5 回測定し、各土壌の残留リン酸濃度 (P_2O_5 mg/100g 土壌) (以下 P_2O_5 mg/100g 土壌) の平均値と標準偏差を求める。

表1 沢田I遺跡倒立墓棺(RA164)内土壌のリン酸含有量

	リン酸含有量 (P ₂ O ₅ mg/100g土壌)					平均	標準偏差
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目		
a	268	264	269	269	267	267	1.6
b	266	267	265	267	268	267	0.9
c	370	366	364	372	366	368	2.9
g	331	329	327	326	329	328	2.0
h	320	321	323	321	317	320	2.0
i	263	266	267	264	264	265	1.6
j	447	451	446	440	441	445	3.9
k	359	360	363	373	369	365	5.5

3. 結果について

測定結果を表1、図2に示す。

沢田I遺跡の残留リン酸濃度は、一般的な土壌のリン酸濃度約100mg (P₂O₅mg/100g土壌)を大きく上回る高濃度のリン酸濃度であった。これはこの土壌が非常に肥沃であることを示している。その中でも図2のグラフに示す波線部（これは8箇所のデータの平均値を示し、値は316mgP₂O₅mg/100g土壌であった）より上部（サンプルNo.e、g、j、k）が非常に高いリン酸濃度を示している。図1に示す採取図と対比すると高いリン酸濃度を与えるサンプルが土器内部の下方土壌であることがわかる。このことは生体の成分の一部であるリン酸が土壌中に残留していたことを示し、この埋設土器内に遺体を埋葬したことを示唆すると思われる。

また下方部分に高いリン酸濃度が検出されたことは甕棺が倒立されて、さらに上部（甕棺の底部分）が壊れていたために長い年月とともに微生物等により腐朽分解し、雨水等の影響で下方へ流れ落ちたと推察される。

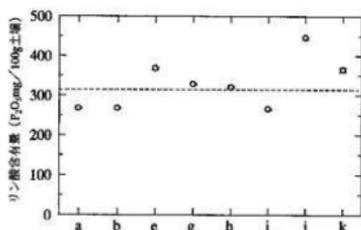


図2 沢田I遺跡 倒立墓棺RA164 リン酸含有量

5-3 岩手県、沢田 I 遺跡火山灰分析

株式会社 占環境研究所

1. はじめに

東北地方北部の後期更新世以降に形成された土壌など地層の中には、十和田火山、岩手火山、秋田駒ヶ岳火山などの東北地方北部に分布する火山のほか、九州地方の姶良火山や阿蘇火山、さらに中国・北朝鮮の国境に位置する白頭山（長白山）などの火山から噴出したテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く分布している。これらのテフラの中には、理化学的な年代測定をはじめとする多くの手法により噴出年代が明らかにされた示標テフラがある。そこで、これらを過去の時間と空間の軸として編年を行う火山灰編年学（テフrokronology, tephrochronology）を利用することによって、遺物包含層の堆積年代や遺構の構築年代を知ることができるようになってきている。

そこで、沢田 I 遺跡において採取されたテフラ試料についても、火山ガラス比分析、重鉱物組成分析、屈折率測定を行って、示標テフラとの同定を行うことになった。分析測定の対象は、RA145、RA147、RA182、RA183、RA186、RA201の6試料である。

2. 火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

試料中に含まれる火山ガラスの形態別比率を求めるために、火山ガラス比分析を行うことになった。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄と水洗を繰り返し、泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 分析篩により1/4-1/8mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの形態別比率を求める。

(2) 分析結果

火山ガラス比分析の結果をダイヤグラムにして図1に、その内訳を表1に示す。RA145には、スポンジ状や繊維束状に発泡した軽石型ガラス（8.4%）のほかに、分厚い中間型ガラス（2.0%）が含まれている。RA147には、スポンジ状や繊維束状に発泡した軽石型ガラス（4.0%）のほかに、分厚い中間型ガラス（1.2%）が含まれている。RA182には、スポンジ状や繊維束状に発泡した軽石型ガラス（20.4%）のほかに、分厚い中間型ガラス（3.2%）が含まれている。RA183には、スポンジ状や繊維束状に発泡した軽石型ガラス（15.6%）のほかに、分厚い中間型ガラス（2.0%）が含まれている。RA186には、スポンジ状や繊維束状に発泡した軽石型ガラス（7.6%）のほかに、分厚い中間型ガラス（2.0%）バブル型ガラス（0.4%）が含まれている。RA201では、スポンジ状や繊維束状に発泡した軽石型ガラス（10.0%）のほかに、分厚い中間型ガラス（1.2%）が含まれている。

3. 重鉱物組成分析

(1) 分析試料と分析方法

試料中に含まれる重鉱物組成上の特徴を調べるために、重鉱物組成分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄と水洗を繰り返し、泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 分析篩により1/4-1/8mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を求める。

(2) 分析結果

重鉱物組成分析の結果をダイヤグラムにして図2に、その内訳を表2に示す。RA145には、量の多い順に斜方輝石(50.8%)、単斜輝石(32.8%)、磁鉄鉱(1.2%)、角閃石(4.4%)が含まれている。RA147には、量の多い順に斜方輝石(33.6%)、磁鉄鉱(18.8%)、角閃石(19.2%)、単斜輝石(0.8%)が含まれている。RA182には、量の多い順に斜方輝石(44.4%)、単斜輝石(34.0%)、磁鉄鉱(28.4%)、角閃石(1.6%)が含まれている。RA183には、量の多い順に斜方輝石(43.6%)、磁鉄鉱(28.4%)、単斜輝石(27.6%)が含まれている。RA186には、量の多い順に斜方輝石(40.4%)、磁鉄鉱(26.4%)、単斜輝石(23.6%)、角閃石(9.6%)、黒雲母(0.4%)が含まれている。RA201には、量の多い順に斜方輝石(46.8%)、単斜輝石(26.4%)と磁鉄鉱(26.4%)が含まれている。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

調査分析の対象となった試料について、示標テフラとの同定精度を向上させるために、位相差法(新井、1972)により屈折率の測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率の測定結果を表3に示す。RA145に含まれる火山ガラス(n)と斜方輝石(γ)の屈折率は、各々1.508-1.514と1.705-1.709である。RA147に含まれる火山ガラス(n)と斜方輝石(γ)の屈折率は、各々1.510-1.514と1.707-1.708である。RA182に含まれる火山ガラス(n)と斜方輝石(γ)の屈折率は、各々1.510-1.514と1.707±である。RA183に含まれる火山ガラス(n)と斜方輝石(γ)の屈折率は、各々1.510-1.515と1.707-1.708である。RA186に含まれる火山ガラス(n)と斜方輝石(γ)の屈折率は、各々1.510-1.514と1.707-1.708である。さらに、RA201に含まれる火山ガラス(n)と斜方輝石(γ)の屈折率は、各々1.510-1.514と1.707-1.708である。

5. 考察-示標テフラと同定

分析の対象となった試料の多くには、軽石型や中間型の火山ガラスが比較的多く含まれている。また重鉱物としては、量の多い順に斜方輝石や単斜輝石が多く含まれている。火山ガラスや斜方輝石の屈折率を合わせて考慮すると、これらの試料には、5,500年前に十和田火山から噴出したと考えられている十和田中帯テフラ(To-Cu、大池ほか、1966、早川、1983、町田ほか、1992)に由来するテフラ粒子が多く含まれていると考えられる。ただし、試料の分析のみではテフラの一次堆積層か否かの判断は不可能である。火山灰編年学では、テフラの一次堆積層を利用することが理想的であることから、今後は分析に先だってテフラ分析者による遺跡の土層断面の観察の行われることが期待される。

6. まとめ

沢田 I 遺跡において採取されたテフラ試料について、火山ガラス比分析、重鉱物組成分析、屈折率測定を行った。その結果、いずれの試料にも十和田火山から噴出した十和田中掘テフラ (To-Cu, 5,500年前) に由来するテフラ粒子の多く含まれている可能性の高いことが明らかになった。

文 献

新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.

早川由紀夫 (1983) 十和田火山中掘テフラ層の分布、粒度組成、年代。火山, 28, p.236-273.

町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.

大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 (1996) 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰。第四紀研究, 5, p.29-35.

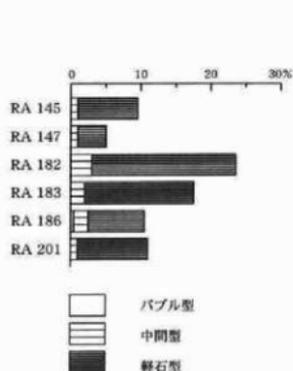


図1 沢田 I 遺跡の火山ガラス比ダイアグラム

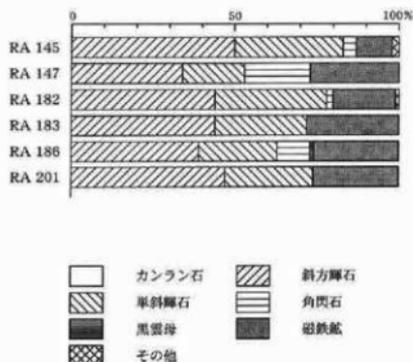


図2 沢田 I 遺跡の重鉱物組成ダイアグラム

表1 沢田 I 遺跡における火山ガラス比分析結果

試料	bw	md	pm	その他	合計
RA145	0	5	21	224	250
RA147	0	3	10	237	250
RA182	0	8	51	191	250
RA183	0	5	39	206	250
RA186	1	5	19	225	250
RA201	0	3	25	222	250

数字は粒子数。bw：バブル型、md：中間型、pm：軽石型。

表2 沢田 I 遺跡における重鉱物組成分析結果

試料	ol	opx	cpx	ho	bi	mt	その他	合計
RA145	0	126	82	11	0	28	3	250
RA147	0	84	47	49	0	68	2	250
RA182	0	111	85	4	0	48	2	250
RA183	0	109	69	0	0	71	1	250
RA186	0	101	59	24	1	64	1	250
RA201	0	117	66	0	0	66	1	250

数字は粒子数。ol：カンラン石、opx：斜方輝石、cpx：単斜輝石、ho：角閃石、bi：黒雲母。

表3 沢田 I 遺跡における屈折率測定結果

試料	火山ガラス屈折率 (n)	斜方輝石 (γ) の屈折率
RA145	1.508-1.514	1.705-1.709
RA147	1.510-1.514	1.707-1.708
RA182	1.510-1.514	1.707±
RA183	1.510-1.515	1.707-1.708
RA186	1.510-1.514	1.707-1.708
RA201	1.510-1.514	1.707-1.708

屈折率の測定は、位相差法（新井、1972）による。

5-4 沢田 I 遺跡出土炭化材の樹種

高橋 利彦 (木工会「ゆい」)

1. 試料

試料はNo.1～5の5点で、古代のものとするRA536住居跡 (No.1)、および縄文時代のものとするRA192 (No.2)・RA149 (No.3・4・5) 住居跡から検出された炭化材である。

2. 方法

試料を室内で自然乾燥させた木口・柾目・板目の3断面を作製、実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡 (無蒸着、加速電圧10kv) で観察・同定した。同時に電子顕微鏡写真図版 (図版1) も作製した。良好な破断面が得られなかったため図版の中には仕上がりの悪いものがあることをお断りしておく。電子顕微鏡観察に当たっては (株) ニッテツ・ファイン・プロダクツ釜石試験分析センターのご協力をいただいた。記して感謝致します。なお、ネガ・フィルムと残った炭化材は木上舎「ゆい」に保管されている。

3. 結果

No.1はトリネコ属の一種に、No.2～5の4点はいずれもクリに同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。

・クリ (*Castanea crenata*) ブナ科 No.2, 3, 4, 5

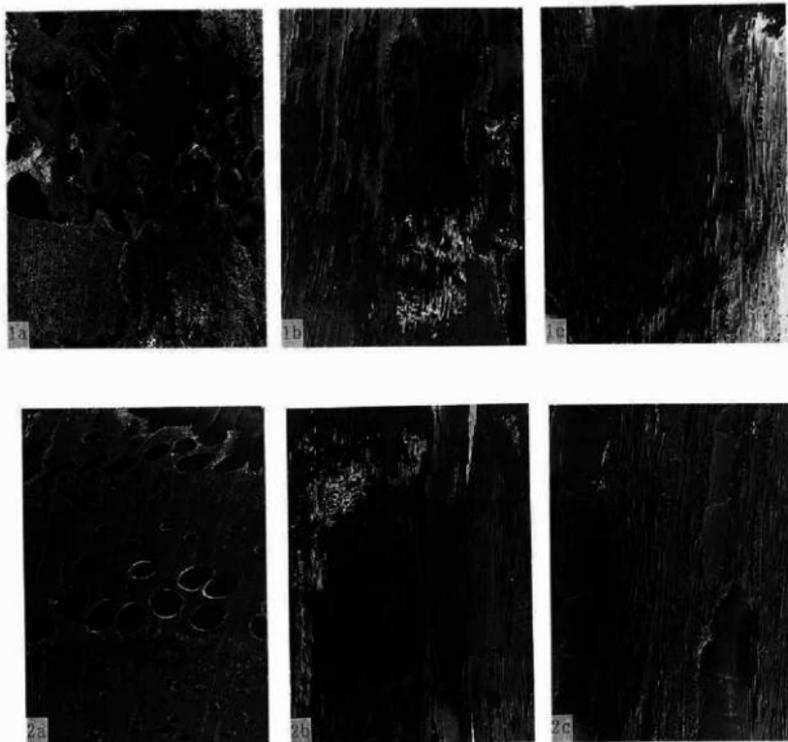
環孔材で孔部は多列、孔部外でやや急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では楕円形、小道管は単独および2～3個が斜 (放射) 方向に複合、横断面では角張った楕円形～多角形、単穿孔をもつ。放射組織は同性、単 (～2) 列、10細胞高前後。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道西南部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、楢木や海苔粗朶などの用途が知られている。

・トネリコ属の一種 (*Fraxinus* sp.) モクセイ科 No.1

環孔材で孔部は2～3列、孔部外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管は横断面では円形～楕円形、単独または2個が複合、単穿孔をもつ。放射組織は同性、1～3細胞幅、細胞高は高くはないが外形は大きい。柔組織は周囲状およびターミナル状。年輪界は明瞭。

トネリコ属には、シオジ (*Fraxinus platypoda*) トネリコ (*F. japonica*)、ケアオダモ (*F. langinesa*) など9種が自生する。このうちヤマトアオダモ (*F. longicuspis*) は本州・四国・九州に、マルバアオダモ (*F. sieboldiana*)・ケアオダモは北海道・本州・四国・九州に、ヤチダモ (*F. mandshurica* var. *japonica*) は北海道・本州に、トネリコは本州 (中部地方以北) に、シオジは本州 (関東地方以西)・四国・九州に分布する。いずれも落葉高木である。材の性質は種によって異なるが、一般には中庸～やや重硬で、韧性があり、加工は容易で、建築・器具・家具・旋作・薪炭材などの用途が知られる。



図版1 1, クリ No.5

2, トネリコ属の一種 No.1

a:木口 ×40 b:径目 ×100 c:板目 ×100

5-5 山田町内遺跡出土土器の蛍光X線分析

奈良教育大学 三辻 利一

(1) はじめに

全国各地の窯跡出土須恵器を分析した結果、K、Ca、Rb、Srの4元素が特に有効に地域差を示すことがわかった。これら4元素を中心に、遺跡出土須恵器を窯または窯群に結びつけて産地推定を行うのであるが、実際に産地推定を行うとなると、そんなに単純ではない。初期須恵器の場合には窯跡はそれほど多く発見されていないし、また、初期須恵器のもつ性格の特殊性もあって、地元窯か大阪陶器産かの2群間判別分析法を適用することによって産地問題が解決できる場合が多い。6世紀代の須恵器の産地推定もほぼ、同じ手法で行われる。7世紀代の須恵器についてはどのような手法を適用したらよいのか未だよくわからない。7世紀代の須恵器の分析例が少ないからである。8～9世紀代になると、須恵器自体が日常生活の道具となり、需要が増えるとともに、須恵器生産が各地で行われることになり、伝播の様相も複雑になる。当然、遺跡の性格によってもデータ解析法は異なってくる。例えば、分析対象が官衙である場合、須恵器はあちこちから持ち込まれている可能性があり、データ解析も一筋縄ではいなくなる。このような場合、考古学的な土器観察で大まかな分類をした上で、蛍光X線分析のデータを重ねて解析していくこともできるし、官衙に主として須恵器を供給している生産地にしばって、その産地を追求することもできる。いずれにしても、1遺跡から出土する須恵器をかなり組織的に分析していくが必要になる。それが数点だけの場合はかなり、データの読みが難しくなる。

他方、土師器の生産地である窯跡はほとんど見つかっていない。生産地側のデータはなく、供給先の遺跡出土土器の分析データの解釈から入る。この場合には、まず、遺跡出土土器を多数分析し、K-Ca分布図とRb-Sr分布図状でグルーピングを行う。クラスター分析で分類する場合もあるが、筆者は試料数が少ないときは分布図状で分類してしまう。このようにして、目下、土師器の分析データを集積中である。

本報告では山田町内の遺跡から出土した須恵器、土師器、縄文土器、炉壁などの蛍光X線分析の結果について報告する。

(2) 分析結果

表1には土器の分析地をまとめてある。すべての分析値は岩石標準試料JG-1の各元素の蛍光X線強度を使って標準化した値で示している。

はじめに、土師器の分析データから見てみる。なぜならば、沢田Ⅰ、Ⅱ、房の沢田遺跡に共通して土師器を分析しているからである。これらの土師器胎土が同じであるのか、それとも、幾種類かに分類できるかが焦点となる。主成分元素K、Caからみてみよう。図1、2、3には沢田Ⅰ遺跡、沢田Ⅱ遺跡、房の沢田遺跡出土土器のK-Ca分布図を示す。これらの3遺跡のすべての土師器を包含するようにして土師器領域を描いてある。定性的にしか限界を示さない領域ではあるが、各遺跡の土師器胎土を比較する上には役に立つ。図1～3を比較すると、遺跡によって土師器の分布位置が土師器領域内で異なっており、必ずしも、胎土は同じでないことを示している。

次に、これらの遺跡の土師器のRb-Sr分布図を図4～6に示す。通常、K-Ca分布図に比べて、Rb-Sr分布図の方が特に、横軸方向に広がりが大きく、見易いのが普通である。そのため、土師器をすべて包含する領域をつくると、かなり広い領域になる。図4～6を比較すると、K-Ca分布図と同様、遺跡ごとに、

表1 山田町内遺跡出土土器の分析値

遺跡名	分析No.	受取No.	試料名	出 土 地	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
沢田Ⅱ遺跡	8-4551	1	羽口片	RF02	0.288	0.311	4.27	0.436	0.523	0.111
	8-4552	2	羽口片	RF02	0.300	0.299	4.31	0.415	0.541	0.109
	8-4553	3	羽口片	RF03	0.347	0.285	3.27	0.289	0.823	0.247
	8-4554	4	羽口片	RF03	0.440	0.456	3.13	0.319	1.03	0.474
	8-4555	5	羽口片	RF05	0.280	0.223	4.31	0.341	0.464	0.143
	8-4556	6	羽口片	RF05	0.301	0.307	4.87	0.308	0.479	0.102
	8-4557	7	伊底片	RF06	0.401	0.184	3.02	0.266	0.988	0.267
	8-4558	8	羽口片	RF07	0.311	0.189	4.89	0.272	0.378	0.107
	8-4559	9	羽口片	RF08	0.393	0.677	1.35	0.293	2.01	0.655
	8-4560	10	須恵器	N13-II	0.409	0.211	1.63	0.129	0.406	0.381
	8-4561	11	須恵器	N13-II						
	8-4562	12	須恵器	L13 IV						
	8-4563	13	土師器	L51-II	0.402	0.326	2.67	0.395	0.757	0.266
	8-4564	14	土師器	L49-II	0.458	0.292	2.70	0.431	0.585	0.273
	8-4565	15	土師器	K47-II	0.438	0.400	2.19	0.402	0.811	0.341
	8-4566	16	土師器	L19-II	0.437	0.339	2.22	0.421	0.825	0.297
	8-4567	17	土師器	K48-II	0.433	0.356	1.93	0.402	0.578	0.319
	8-4568	18	土師器	K47-II	0.435	0.237	2.32	0.134	0.519	0.275
	8-4569	19	縄文土器	L19-II	0.647	0.217	3.36	1.15	0.592	0.226
	8-4570	20	縄文土器	K50-II	0.526	0.220	2.91	0.347	1.10	0.267
沢田Ⅰ遺跡	8-4571	21	伊底片	N13-III	0.514	0.287	3.43	0.275	0.719	0.288
	8-4572	22	土師器	RA523埋	0.363	0.307	1.78	0.252	0.502	0.218
	8-4573	23	土師器	RA135床	0.371	0.346	1.87	0.336	0.801	0.294
	8-4574	24	土師器	RA523カマ下	0.409	0.449	1.86	0.385	0.942	0.350
	8-4575	25	縄文土器	RA134埋	0.391	0.463	3.63	0.475	0.625	0.282
隣の沢Ⅳ遺跡	8-4576	26	土師器	RT09周濠	0.374	0.353	2.14	0.297	0.777	0.271
	8-4577	27	土師器	RT09周濠	0.321	0.244	1.93	0.323	0.382	0.227
	8-4578	28	土師器	RT09周濠	0.330	0.148	3.39	0.329	0.292	0.243
	8-4579	29	土師器	RT05周濠	0.319	0.272	1.86	0.307	0.609	0.208
	8-4580	30	土師器	RT09周濠						
	8-4581	31	土師器	RT06周濠						
	8-4582	32	土師器	RT21周濠	0.415	0.375	2.08	0.261	0.355	0.280
	8-4583	33	土師器	RT20周濠						
	8-4584	34	土師器	RT74周濠						
	8-4585	35	土師器	RT04周濠						
	8-4586	36	土師器	RT04周濠						
	8-4587	37	軽石	RT04周濠	0.281	0.528	2.47	0.256	1.46	0.208
	8-4588	38	土師器	RT20周濠						
	8-4589	39	土師器	RT20周濠						
	8-4590	40	土師器	RT14周濠						
8-4591	41	須恵器	RT01	0.143	0.245	1.57	0.148	0.323	0.233	
8-4592	42	須恵器	RT01	0.168	0.338	1.36	0.157	0.375	0.288	
8-4593	43	須恵器	遺構外	0.319	0.103	1.31	0.382	0.292	0.114	
8-4594	44	須恵器	遺構外32	0.185	0.293	1.55	0.163	0.319	0.257	
8-4595	45	須恵器	遺構外45							

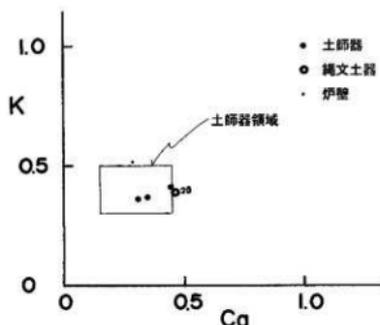


図2 沢田I遺跡出土土器のK-Ca分布図

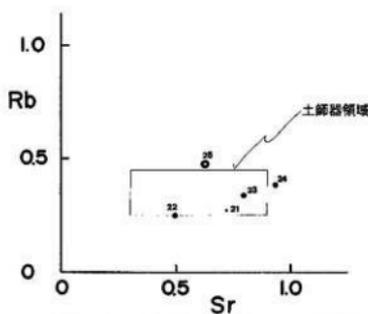


図5 沢田I遺跡出土土器のRb-Sr分布図

土師器領域内の異なった位置に分布することがわかる。これらのことは各遺跡の土師器はそれぞれ、別々のところで作られたことを示唆している。つまり、土師器の生産センターは存在せず、各遺跡で手軽に土師器を作った可能性があることがわかる。さらに詳細にみると、図4の沢田II遺跡では№14、17、18の3点は同じ胎土であり、また、№13、15、16も同じ胎土の土師器であるといえる。したがって、沢田II遺跡では2種類の胎土をもつ土師器があることになる。図5の沢田I遺跡でも、№23、24と№22の2種類の胎土があり、房の沢IV遺跡でも№27、28、32と№26、29の2グループの胎土があることがわかる。これらの胎土の違いは土師器の器種によるものだろうか、それとも、同じ甕でも胎土が異なるものがあるのだろうか。この点の問題も興味のあるところである。そして、場合によってはこれら3遺跡の土師器胎土を総合すると、Sr量の少ない№14、17、8、22、27、28、32と逆にSr量の多い№13、15、16、23、24、26、29の2グループに分類することも可能なのかもしれない。このことについては考古学的な条件も考慮に入れる必要があり、元素分析のデータだけの結論を差し控えておく。

次に、須恵器の分析結果をみてみよう。今回分析できた須恵器は沢田II遺跡の№10と房の沢IV遺跡の№41、42、43、44の5点である。図3、6を比較すると、房の沢IV遺跡の須恵器胎土は№41、42、44と№43の2グループに分類される。これらは別々の産地の製品である。さらに、図1、4と比較すると、№43は沢田II遺跡の№10と同じ胎土である可能性もつことがわかる。これら2グループの須恵器はいずれも、K、Rb量が少なく、東北地方太平洋沿岸側の製品と推定される。

次に、沢田II、I遺跡の羽口片と伊壁の分析結果をみてみる。沢田II遺跡のものについては図1、4を比較すると、№1、2、5、6、8の5点の羽口は同じ胎土であり、№4の羽口と№7の伊壁も同じ胎土である。№3、9はそれぞれずれており、何かの混入物でもあったのだろうか、このままでは解釈がつかない。これに対して、沢田I遺跡の伊壁№21は沢田II遺跡の伊壁とはまったく対応しない。

最後に縄文土器であるが、これまでのところ、縄文土器の胎土を組織的に研究した例は全くない。したがって、胎土分析から産地を推定するのも難しい現状である。まず、沢田遺跡の縄文土器の胎土を図1、4で比較すると、№19と№20は全く別胎土の縄文土器である。さらに、沢田I遺跡の縄文土器№25と比較すると、№25は沢田II遺跡の№10の縄文土器の胎土に比較的近いが、同質であると判断するには縄文土器胎土の組織的研究が必要である。

(※図1・図4は沢田II遺跡報告書、図3・図5は房の沢IV遺跡の報告書に掲載)

5-6 岩手県沢田 I 遺跡から出土したアスファルトの成分分析

北海道大学高等教育機能開発総合センター 小笠原正明

アスファルトは炭化水素を主成分とする複雑な化学構造を持つ有機化合物の混合体であるが、液体クロマトグラフィーなどによってパラフィン類を分離したあと、質量（マス）スペクトルを測定すれば、原料アスファルトを大まかに分類することができる（小笠原1998）。この報告では、岩手県三陸沿岸の山田町沢田 I 遺跡から出土したアスファルトを分析して、他の遺跡から出土した試料の結果と比較して検討した。

試料

出土アスファルト試料は2点送られてきた。一つは黒褐色の均一な粉末で、もう一つは黒褐色にやや白っぽいまだら模様のある固体であった。ここでは、粉末試料を試料1、固体試料を試料2と呼ぶことにした。

実験

試料の一部をとって元素分析を行った。他の一部をベンゼン-メタノール混合溶媒で抽出し、可溶分の溶媒部分を減圧蒸留で除いて乾燥したあと、*n*-ヘキサンで抽出した。ヘキサン可溶分をオイル分、不溶分をアスファルテンと呼ぶ。オイル分に含まれている溶媒を減圧蒸留で除いたあと、高速液体クロマトグラフィー（HPLC）にかけて、飽和炭化水素（パラフィン）成分、1環芳香族成分、2環芳香族成分、極性成分などに分割した。このようにして分離したパラフィン成分のFI-マスマスペクトルを測定した。

HPLC分析には、島津製作所製の高速度液体クロマトグラフ装置（LC-8A、RID-10A、SPD-10A、C-R6A）にZOBAX-BP-NH₂カラム（内径10mm、長さ250mm）を装置したものをを用いた。移動相溶媒としては、パラフィン成分、1環芳香族成分、および2環芳香族成分についてはクロマトグラフィー用*n*-ヘキサン（和光純薬製）を超音波脱気したものを用いた。極性成分は、それ以外の成分を分離したのち、超音波脱気したクロロフォルムを移動相溶媒として用いてカラムから溶出させた。

元素分析は、北海道大学機器分析センターに依頼して行った。

FI-マスマスペクトルの測定は、北海道大学農学部共同利用GC-MS・NMR室設置の日本電子製JMS-01SG-2型質量分析計を用いて測定した。

結果と考察

元素分析の結果を表1に示した。主成分は炭素と水素で、H/Cが約1.3と典型的なアスファルトの値を示した（小笠原1994）。残滓が約28%もあるが、これは上などの不純物によるものであろう。硫黄含有量は0.6%であり、不純物残滓の影響を補正しても日本産出のアスファルトの中では硫黄分の少ない部類に属す

表1 沢田 I 遺跡出土アスファルトの
元素分析結果（重量%）

元素	試料1	試料2
C	63.29	56.08
H	7.09	6.36
N	1.03	0.91
S	0.62	0.57
残	27.97	36.08

表2 沢田 I 遺跡出土アスファルトの
溶媒分割の結果（重量%）

成分	試料1	試料2
B-M不溶分	49	50
アスファルテン	29	20
オイル分	22	30

B-M不溶分はベンゼン-メタノール混合溶媒で抽出したときに残った部分、アスファルテンはB-M可溶分の溶媒部分を減圧蒸留で除いて乾燥したあと、*n*-ヘキサンで抽出された成分、オイル分は*n*-ヘキサン可溶分を指す。

る。溶媒分割の結果を表2に示す。いずれの試料にもベンゼン-メタノール不溶分が約50%も含まれている。その多くは上に述べたように土や砂などの不純物であろう。

図1と2、試料1と2のオイル分のパラフィン成分のFI-マススペクトルを示した。2つのスペクトルは非常に良く似ており、この2つの試料が同一の固体から得られたものとなれば、実験の再現性には問題が無いことがわかる。 $m/z=400$ 付近にホパンまたはステランなどのバイオマーカーのピークがはっきり現れている。これらの化合物より高質量側ではスペクトルは単調に減少し、 $m/z>800$ まで長い裾を引いている。

このスペクトルのZ数分析を行って、他の試料と比較した。Z数とは、炭化水素の環の構造をあらわす指標で、不飽和結合や芳香環を含まない化合物では次のように定義されている。

$$Z=2-2C$$

ここでCは飽和炭化水素環の数である。Z数は理論的には-2から-8の整数値を取り得るが、マススペクトルの $300<m/e<600$ の範囲だけを対象にすれば、 $Z=-6$ と $Z=-8$ の理論スペクトルの組み合わせだけでスペクトルが解析できる(小笠原1999)。そこで、 $Z=-8$ の成分スペクトルの強度を $Z=-6$ の成分スペクトルの強度を割って得られた値Rを指標として、他の遺跡やアスファルト原産地から得られた試料と比較した。

秋田県米代川流域の二ツ井の露頭から得られるアスファルトのR値の平均値は、最近の研究により 0.632 ± 0.036 と求められている(小笠原1999)。他地域から出土したアスファルトのR値から参照試料の二ツ井産のアスファルトのR値を引いて得られた値を標準偏差で割って「相対偏差」を求めた。相対偏差が小さいほどより近い関係にある。定量的には、この値が3より大きければ標準試料と同じ系統のものである確率は1%以下と非常に低くなる。秋田県米代川流域および岩手県馬淵川流域の6カ所の遺跡から出土した試料の相対偏差はすべて2.2以下と小さく、アスファルト試料の経年変化とスペクトル分析の精度を考慮すれば同じ系統に属する試料と結論しても矛盾はないであろう。本実験で分析した沢田1遺跡出土アスファルトのR値は0.646であった。この値は二ツ井産のものと誤差の範囲で一致しており、当然のことながら相対偏差も0.399と極めて小さい。すなわち、現在までに得られた知見から判断する限り、沢田1遺跡出土の2点の試料は、いずれも米代川流域および馬淵川流域で縄文時代に流通したアスファルトと同じ系統に属するものと推定してよい。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり、北海道大学院工学研究科修士課程の浅野克彦氏、同工学部の伊東潤氏の協力をいただきました。ここに記して感謝いたします。

注

1. マススペクトルの $300<m/e<600$ の範囲だけを解析の対象とした理由は次のとおりである。まず、 $300>m/e$ の領域の強度は一般に再現性が悪い。これは、おそらく低分子量の成分が長い間大気中にさらされている間にゆっくり蒸発して失われるためであろう。一方、 $m/e>600$ のスペクトルの強度は一般に弱く、解析の結果にあまり影響をあたえないことがわかっている。

文 献

小笠原正明、阿部千春、前川靖明、横山 晋「豊崎N遺跡出土の天然アスファルト塊」『考古学ジャーナル』373号、25-29頁、1994

小笠原正明, 浅野克彦「北日本の縄文遺跡出土アスファルトの質量スペクトル分析による産地の同定」『文化財科学会第15回大会研究発表要旨』30-31頁, 1998

小笠原正明「伊勢堂岱遺跡出土アスファルトの産地同定」『伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書』, 秋田県埋蔵文化財センター、印刷中, 1999

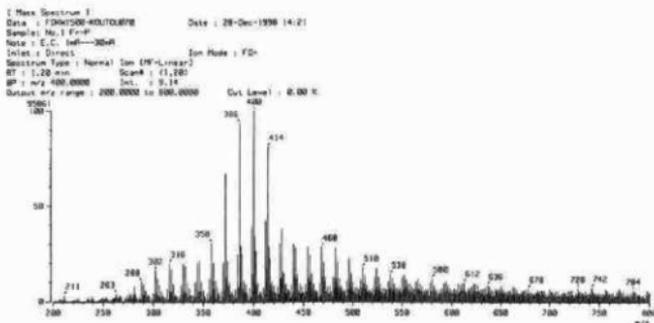


図1 沢田Ⅰ遺跡出土アスファルトのバラフィン成分のFt-マススペクトル (試料1)

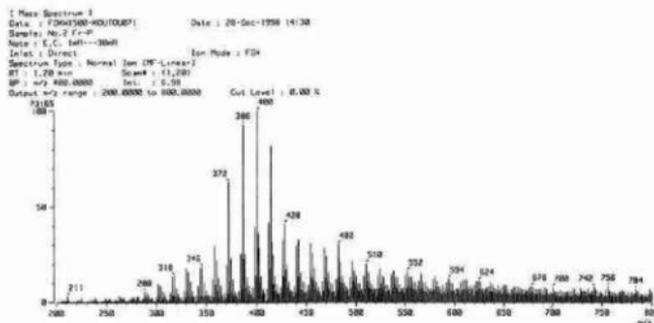


図2 沢田Ⅰ遺跡出土アスファルトのバラフィン成分のFt-マススペクトル (試料2)

写 真 图 版





遺跡全景



北区

写真図版141 遺跡全景 (1)



南区



写真图版142 遺跡全景 (2)



RA140 全景

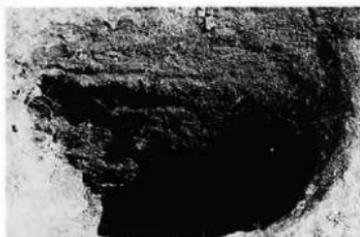


RA140 埋土断面

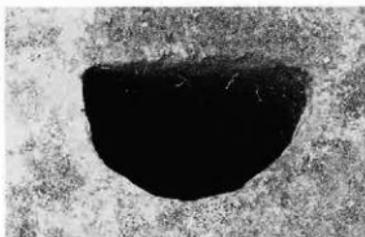


RA140 埋土断面

写真図版143 RA140住居跡



RA140 柱穴断面



RA140 柱穴断面



RA140 柱穴断面



RA141 全景

写真図版144 RA140・141住居跡



RA141 煙土断面



RA141 地床炉



RA142 全景

写真図版145 RA141・142住居跡



RA142 埋土断面



RA142 埋土断面



RA142 炉断面



RA142 炉断面

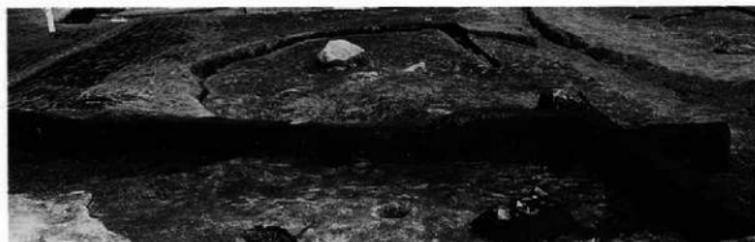
写真図版146 RA142住居跡



RA143 全景



RA143 埋土断面



RA143 埋土断面

写真図版147 RA143住居跡



RA143 伊断面



RA143 伊断面

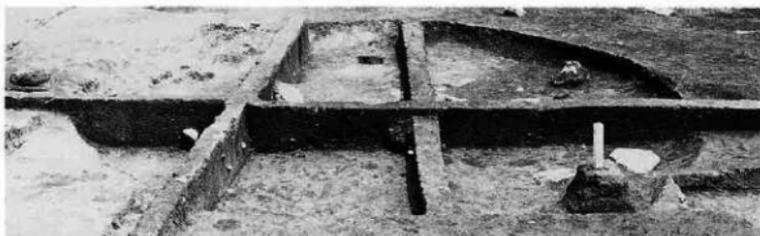


RA143 土器出土状況



RA144 全景

写真図版148 RA143・144住居跡



RA144 埋土断面



RA144 埋土断面



RA144 伊断面



RA144 伊断面

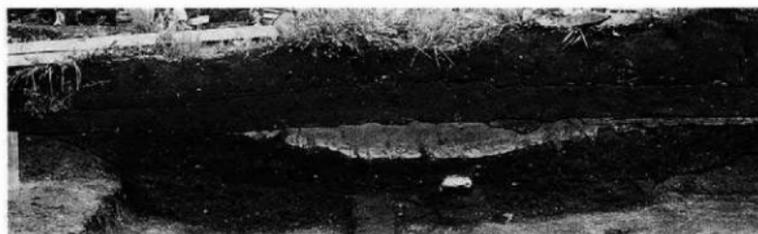


RA144 伊断面

写真图版149 RA144住居跡



RA145 全景



RA145 埋土断面



RA145 埋土断面

写真図版150 RA145住居跡



RA146 全景



RA146 埋土断面

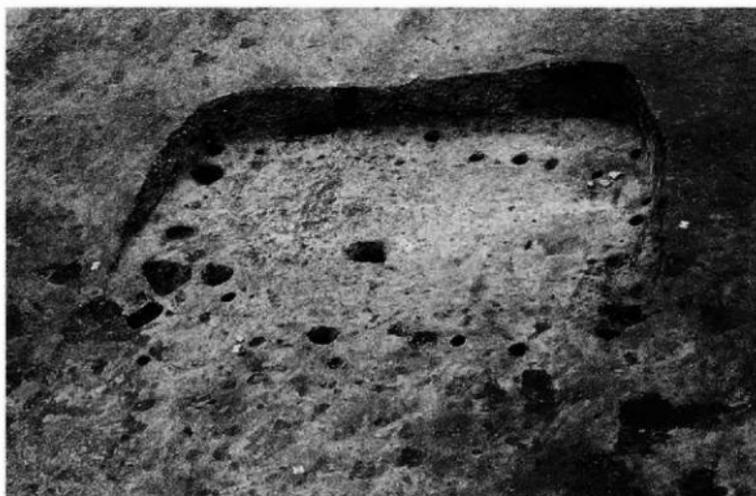


RA146 埋土断面

写真图版151 RA146住居跡



RA146 石製炉断面



RA147 全貌



RA147 埋土断面

写真図版152 RA146・147住居跡



RA147 埋土断面



RA148 全景



RA149 全景



RA149 埋土断面



RA149 埋土断面

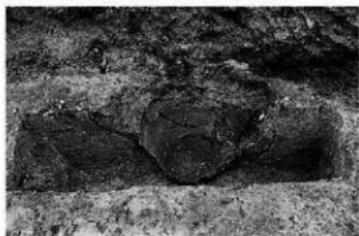
写真図版154 RA149住居跡



RA149 炉断面



RA149 炉断面



RA149 埴轮土器出土状况



RA149 炭化材出土状况

写真图版155 RA149住居跡



RA150 全景



RA150 埋土断面



RA150 埋土断面

写真図版156 RA150住居跡



RA151 全景



RA151 埋土断面



RA151 埋土断面

写真図版157 RA151住居跡



RA151 石画炉断面



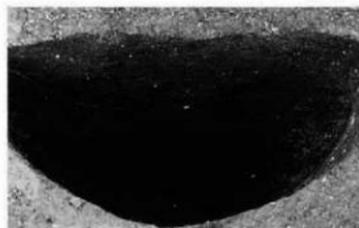
RA151 柱穴断面



RA151 柱穴断面



RA151 柱穴断面



RA151 柱穴断面



RA151 柱穴断面



RA151 柱穴断面



RA151 柱穴断面

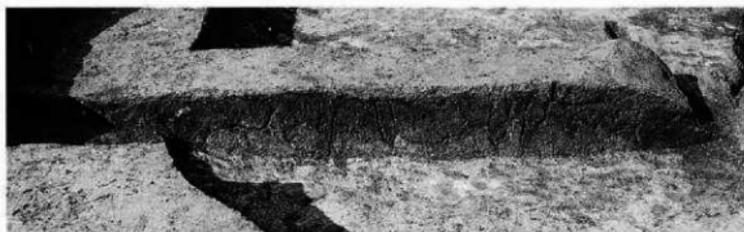


RA152 全景



RA153 全景

写真図版159 RA152・153住居跡



RA153 埋土断面



RA154 全景



RA154 埋土断面

写真図版180 RA153・154住居跡



RA154 埋土断面



RA155 全景



RA155 埋土断面

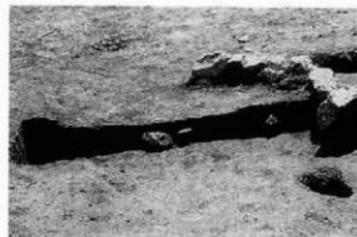
写真図版161 RA154・155住居跡



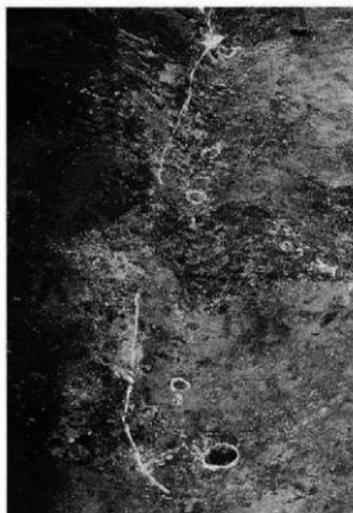
RA156 全景



RA156 埋土断面



RA156 埋土断面



RA157 全景

写真図版162 RA156・157住居跡



RA158 全景



RA158 埋土断面



RA158 埋土断面

写真図版163 RA158住居跡



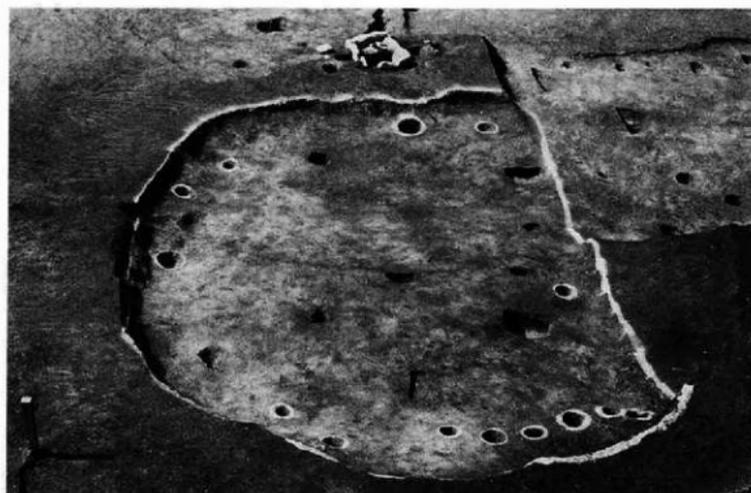
RA158 柱穴断面



RA158 伊跡検出状況



RA158 土器出土状況



RA159 全景

写真図版164 RA158・159住居跡



RA159 埋土断面

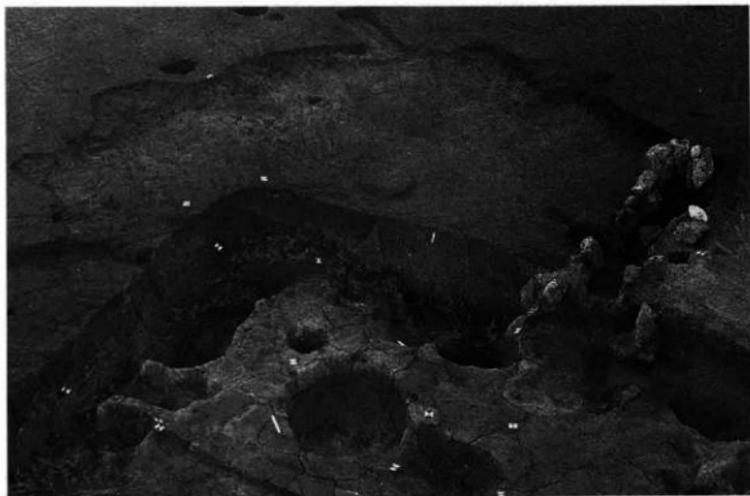


RA160 全景



RA160 埋土断面

写真図版165 RA159・160住居跡



RA161 全景



RA161 埋土断面



RA161 埋土断面

写真図版166 RA161住居跡



RA162 全景



RA162 埋土断面



RA162 埋土断面

写真図版167 RA162住居跡



RA163 全景

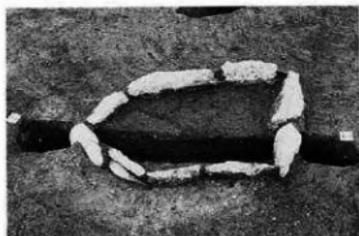


RA163 埋土断面



RA163 埋土断面

写真図版168 RA163住居跡



RA163 1号炉断面



RA163 2号炉断面



RA164 全景



RA164 埋土断面

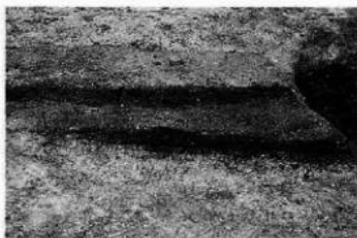
写真図版169 RA163・164住居跡



RA164 埋土断面



RA164 石圈伊断面



RA164 伊断面



RA164 埋壘



RA164 埋壘内堆積土断面

写真図版170 RA164住居跡



RA164 柱穴断面



RA164 柱穴断面



RA164 全景 (二期阶目)



RA164 炉断面

写真图版171 RA164住居跡



RA165 全景



RA165 埋土断面



RA165 埋土断面

写真図版172 RA165住居跡



RA166 全景



RA166 埋土断面

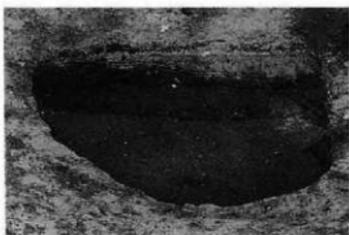


RA166 埋土断面

写真図版173 RA166住居跡



RA166 埋土断面



RA166 炉断面



RA167 全景

写真図版174 RA166・167住居跡



RA167 埋土断面



RA167 埋土断面



RA167 石窑断面



RA167 土器出土状況

写真図版175 RA167住居跡



RA168 全景



RA168 埋土断面



RA168 埋土断面

写真図版176 RA168住居跡



RA168 石窑炉



RA169 全景



RA189 埋土断面

写真図版177 RA168・169住居跡



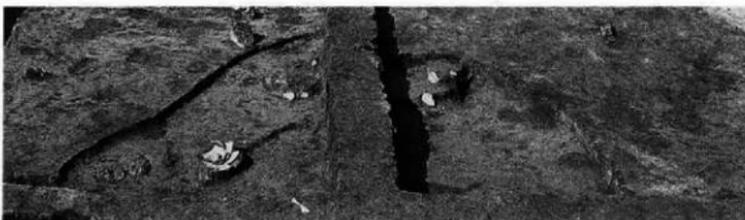
RA169 埋土断面



RA169 石圍炉断面



RA169 アスファルト塊検出状況



RA169 土器出土状況

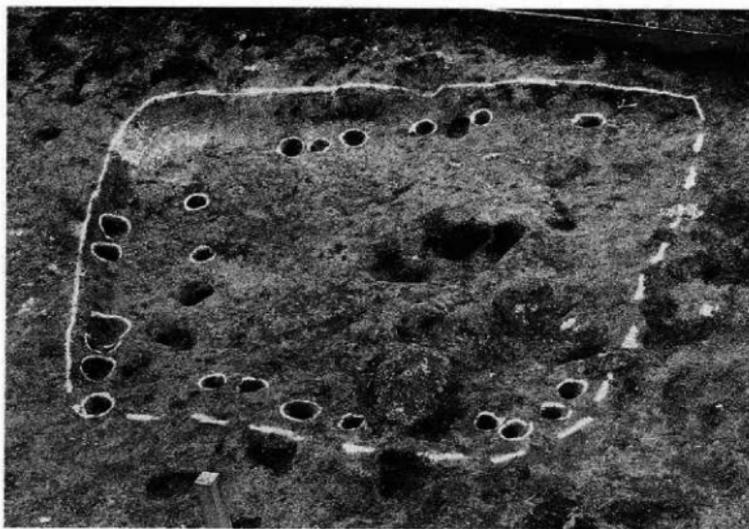


RA169 一括土器出土状況

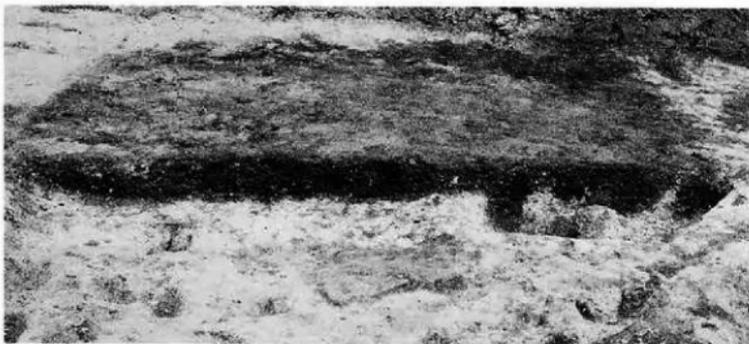


RA169 獣骨出土状況

写真図版178 RA169住居跡

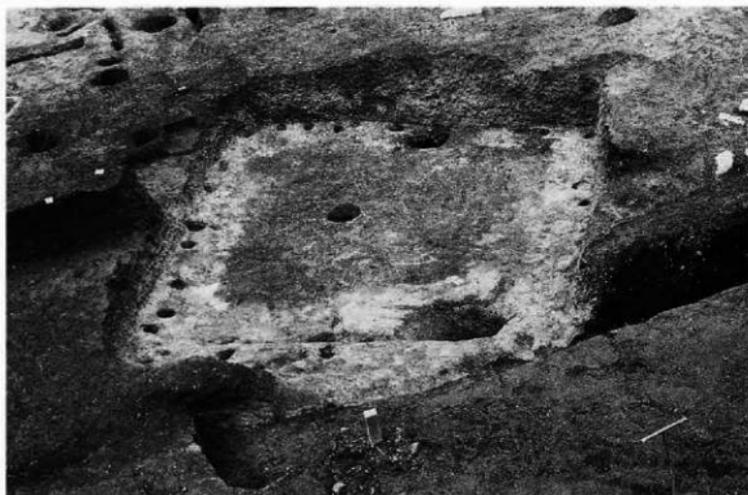


RA173 全景



RA173 埋土断面

写真図版179 RA173住居跡



RA180 全景



RA180 埋土断面



RA180 埋土断面

写真図版180 RA180住居跡



RA180 柱穴断面



RA181 全景 (1号・2号)

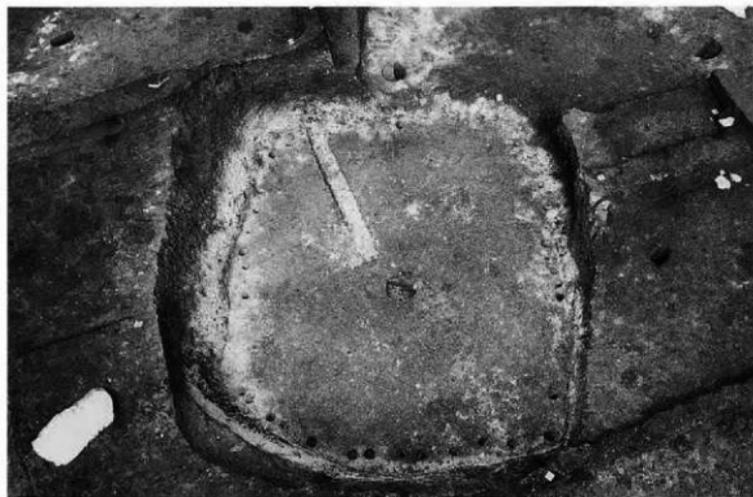


RA181 埋土断面

写真図版181 RA180・181住居跡



RA181 埋土断面



RA182 全景

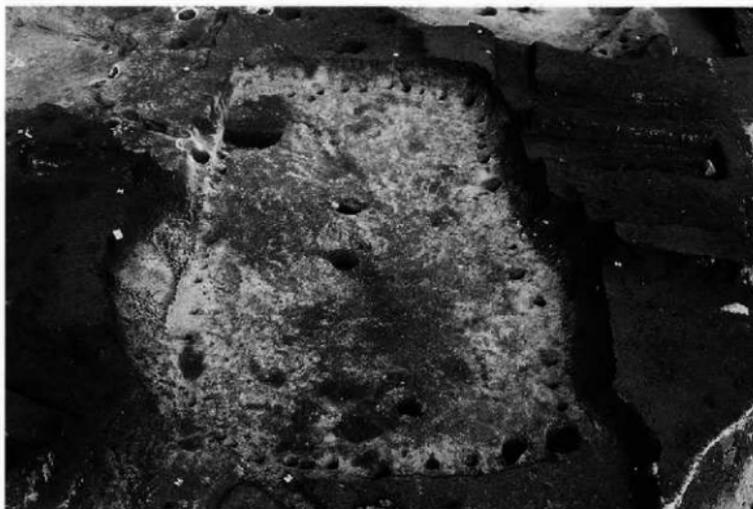


RA182 埋土断面

写真図版182 RA181・182住居跡



RA182 埋土断面



RA183 全景

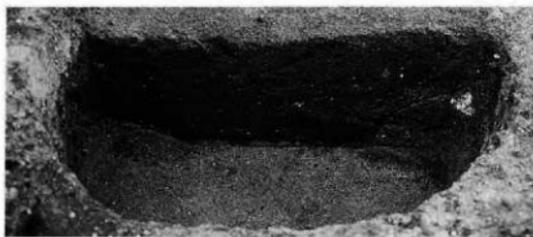


RA183 埋土断面

写真図版183 RA182・183住居跡



RA183 埋土断面



RA183 柱穴断面



RA184 全景

写真図版184 RA183・184住居跡



RA184 埋土断面



RA185 全景

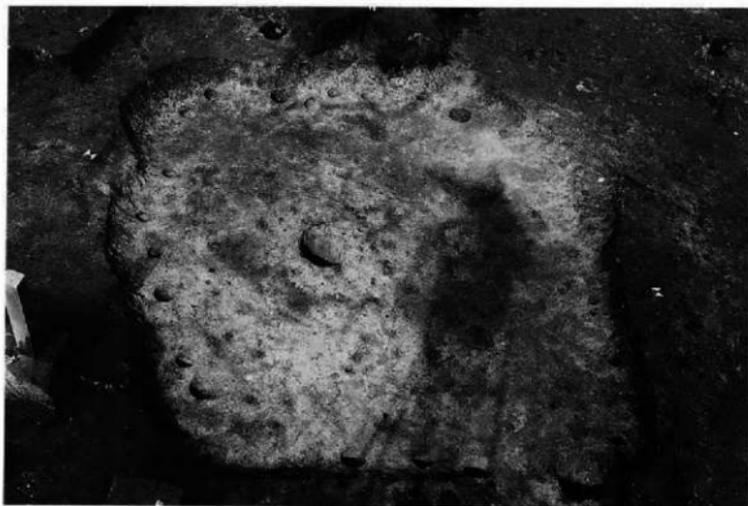


RA185 埋土断面

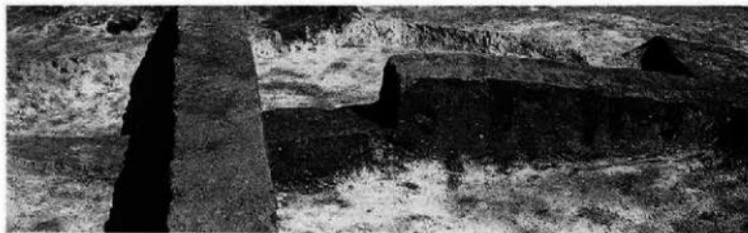
写真図版185 RA184・185住居跡



RA185 石窑炉断面

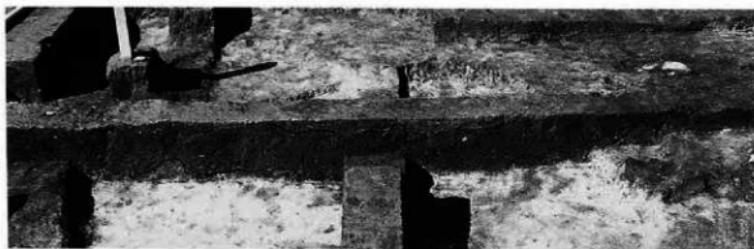


RA191 全景



RA191 埋土断面

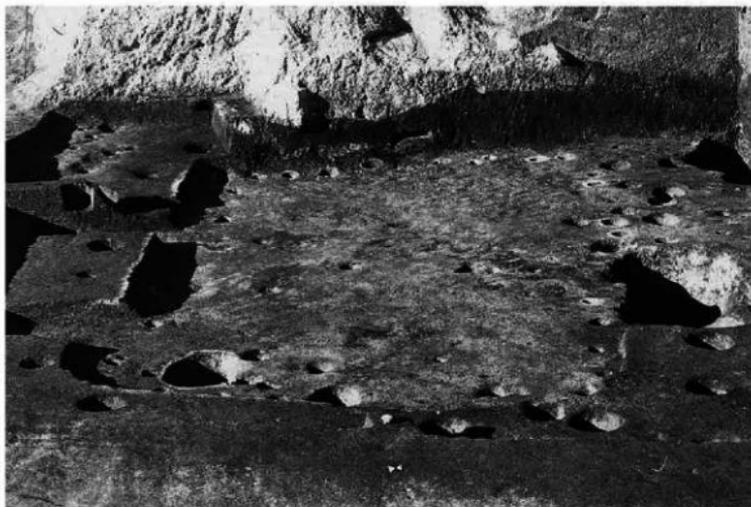
写真図版186 RA185・191住居跡



RA191 埋土断面



RA192 全景



RA193 全景



RA194 全景

写真図版188 RA193・194住居跡



RA195 全景

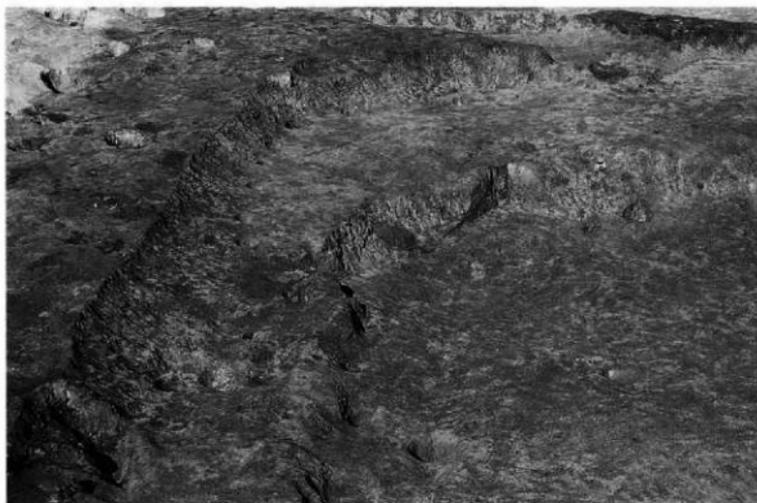


RA192~195 埋土断面



RA192~195 埋土断面

写真図版189 RA195住居跡

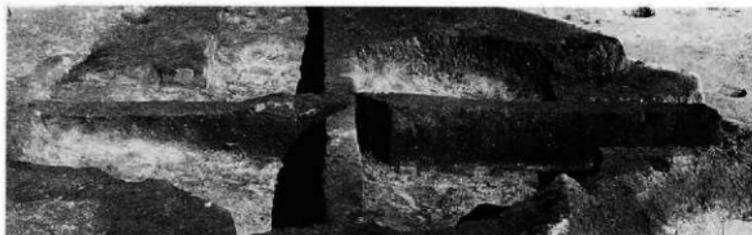


RA212 全景



RA213 全景

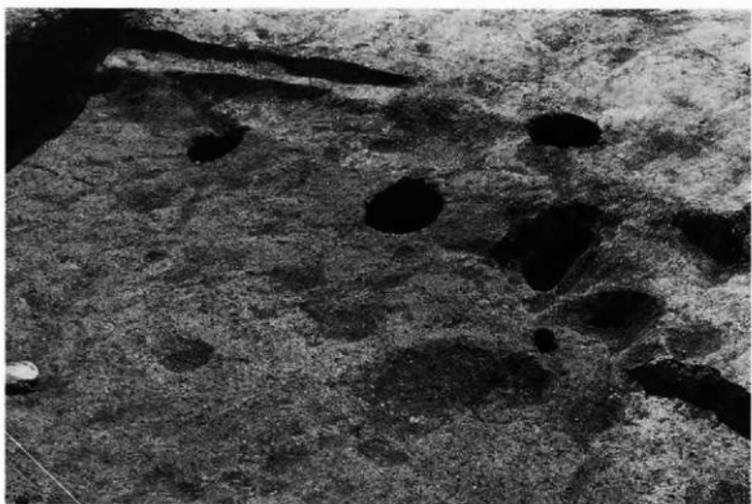
写真図版190 RA212・213住居跡



RA213 埋土断面



RA213 埋土断面



RE06 全景

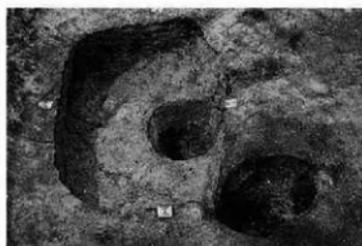
写真図版191 RA213住居跡、RE06竪穴状遺構



RE08 全景



RE08 埋土全景



RD70 全景



RD70 埋土断面



RD70 埋土断面

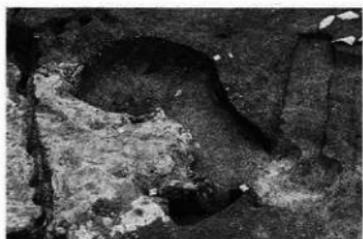
写真図版192 RE08雙穴状遺構、RD70土坑



RD83 全景



RD83 埋土断面



RD84 全景



RD84 埋土断面



RD88 全景



RD88 埋土断面



RD103 全景



RD103 埋土断面

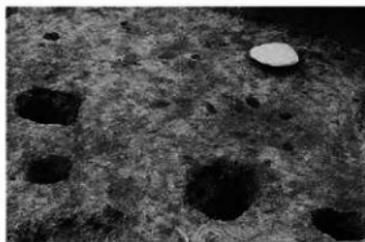
写真图版193 RD83·84·88·103土坑



RD109 全景



RD109 埋土断面



RF23 全景



RF23 断面



RA526 全景

写真図版194 RD109土坑、RF23焼土遺構、RA526住居跡



RA526 埋土断面



RA526 埋土断面



RA526 カマド全景



RA526 煙道断面



RA526 柱穴断面



RA526 柱穴断面

写真図版195 RA526住居跡



RA527 全景



RA527 煙道断面

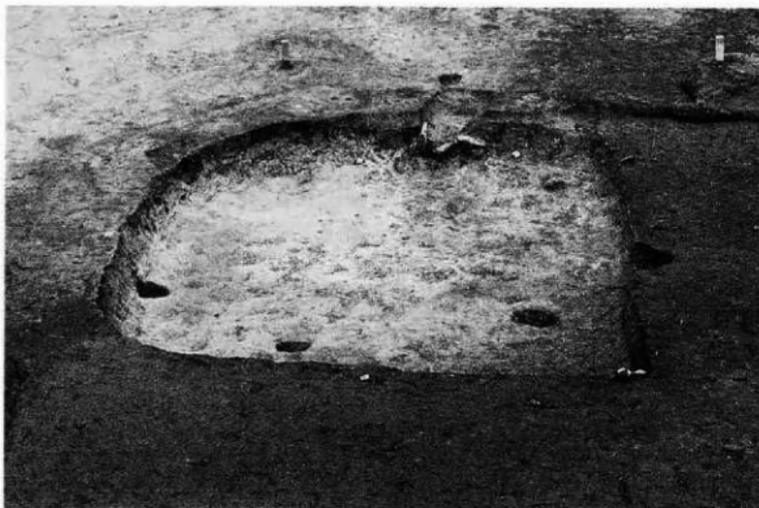


RA527 盤梯断面



RA527

写真図版196 RA527住居跡



RA528 全景



RA528 横土断面



RA528 横土断面

写真図版197 RA528住居跡



RA528 カマド煙道部



RA528 カマド燃焼部



RA529 全景



RA529 埋土断面

写真図版198 RA528・529住居跡



RA529 埋土断面



RA529 煙道断面



RA529 カマド断面



RA529 カマド断面



RA529 柱穴断面



RA529 柱穴断面

写真図版199 RA529住居跡



RA529 須重器出土状況



RA530 全景



RA530 埋土断面

写真図版200 RA529・530住居跡



RA530 埋土断面



RA530 カマド煙道部断面



RA530 カマド断面



RA530 焼土検出状況

写真図版201 RA530住居跡



RA531 全景



RA531 埋土断面



RA531 カマド煙道部

写真図版202 RA531住居跡



RA531 カマド煙道部断面



RA531 カマド断面



RA544 全景



RA544 煙道部

写真図版203 RA531・544住居跡



RA544 カマド断面



RE10 全景

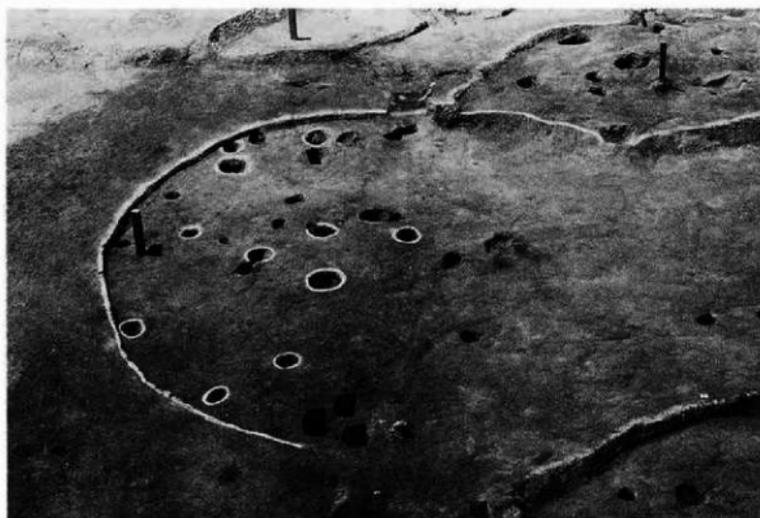


RE10 埋土断面

写真図版204 RA544住居跡、RE10竅穴状遺構



RE11 全景



RE12 全景

写真図版205 RE11・12竪穴状遺構



RE12 埋土断面



RD60 全景



RD60 埋土断面



RD61 全景



RD61 埋土断面



RD62 全景



RD62 埋土断面

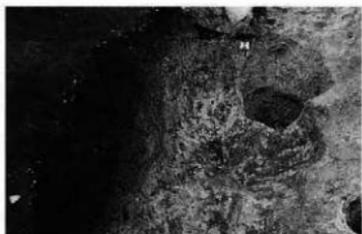
写真図版206 RE12竪穴状遺構、RD60～62土坑



RD63 全景



RD63 埋土断面



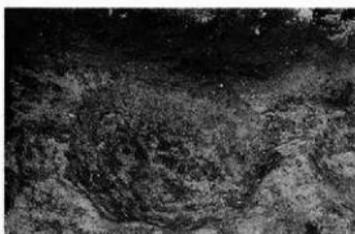
RD65・66全景



RD64・68全景



RD67 全景



RD69 全景



RD73 全景



RD73 埋土断面

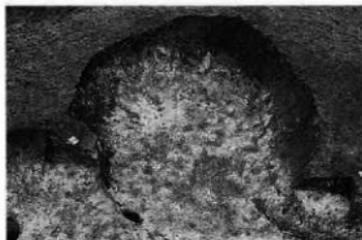
写真図版207 RD63~69・73土坑



RD76 全景



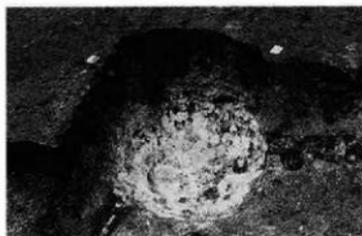
RD76 埋土断面



RD85 全景



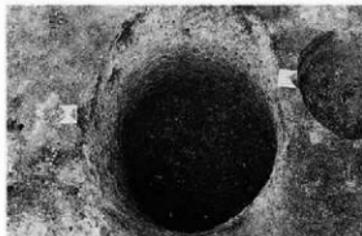
RD85 埋土断面



RD94 全景



RD94 埋土断面



RD105 全景



RD105 埋土断面

写真图版208 RD76·85·94·105土坑



RG03 全景



RG03 埋土断面

写真図版209 RG03溝跡



RA170 全景



RA170 埋土断面

写真図版210 RA170住居跡



RA171 全景



RA171 石圈炉断面



RA171 柱穴断面



RA171 柱穴断面

写真図版211 RA171住居跡



RA172 全景

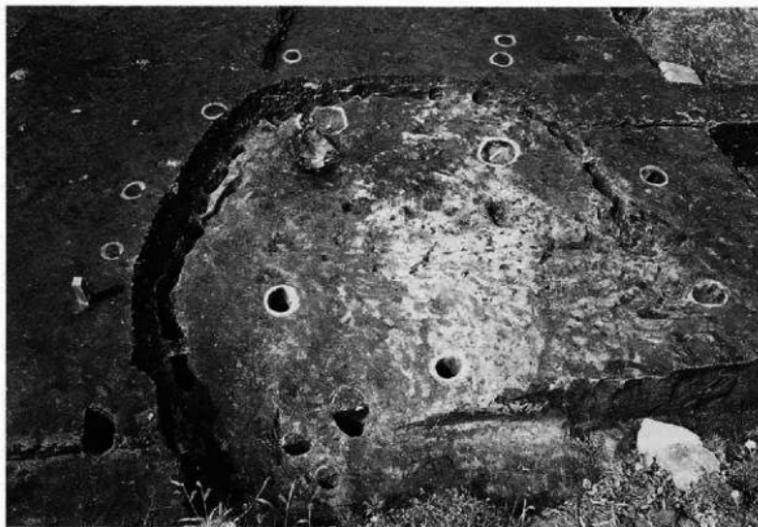


RA172 埋土断面



RA172 埋土断面

写真図版212 RA172住居跡

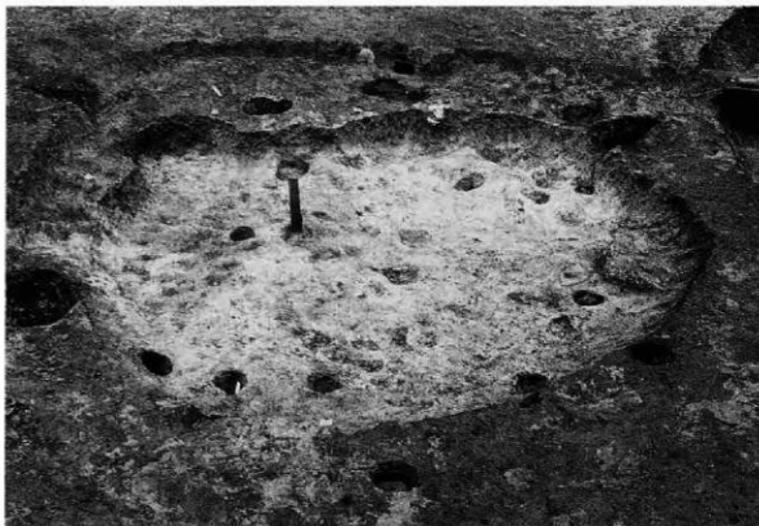


RA175 全景



RA175 埋土断面

写真図版213 RA175住居跡

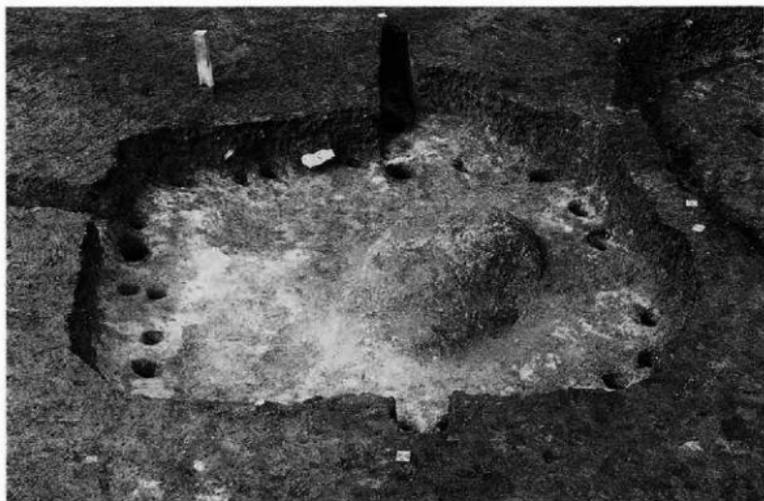


RA176 全景



RA176 埋土断面

写真図版214 RA176住居跡



RA186 全景



RA186 埋土断面



RA186 埋土断面

写真図版215 RA186住居跡



RA188 全景

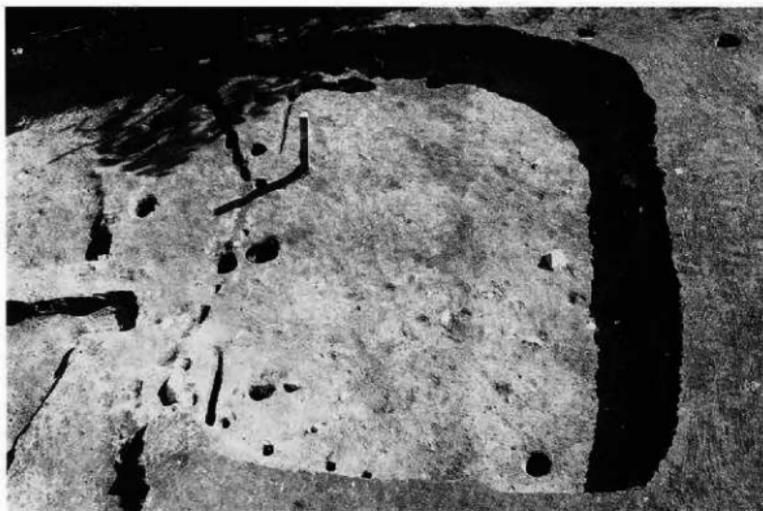


RA188 埋土断面



RA188 埋土断面

写真図版216 RA188住居跡



RA189 全景



RA189 埋土断面



RA189 埋土断面

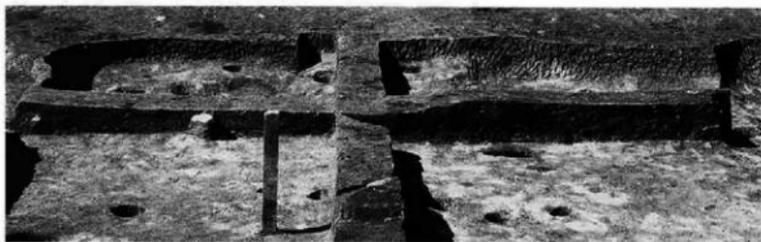
写真図版217 RA189住居跡



RA190 全景



RA190 埋土断面



RA190 埋土断面

写真図版218 RA190住居跡



RA197 全景



RA197 埋土断面



RA197 石圈炉断面

写真图版219 RA197住居跡



RA198・203 全景



RA198 埋土断面



RA198 伊断面



RA198 石囲伊断面

写真図版220 RA198・203住居跡



RA199 全景



RA199 埋土断面



RA199 埋土断面

写真図版221 RA199住居跡



RA201 全景



RA201 埋土断面



写真図版222 RA201住居跡



RA202 全景



RA202 埋土断面



RA202 尖頭器出土状況



RA202 遺物出土状況

写真図版223 RA202住居跡



RA204・208全景



RA204・205埋土断面

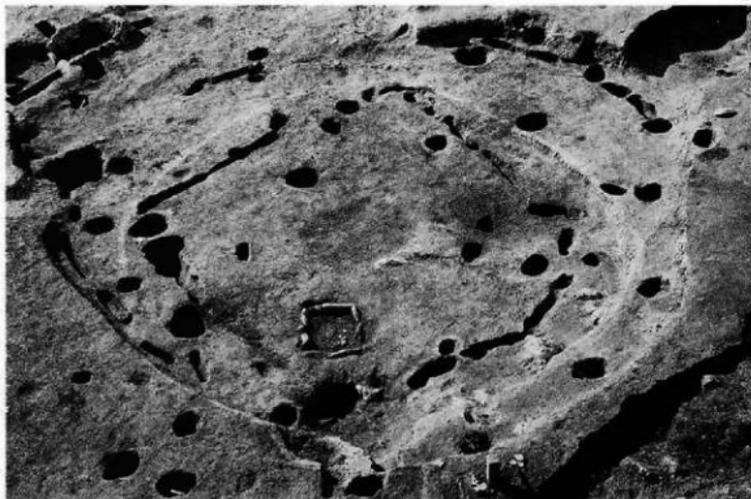


RA204 埋土断面

写真図版224 RA204・205・208住居跡



RA204 伊断面



RA205 全景

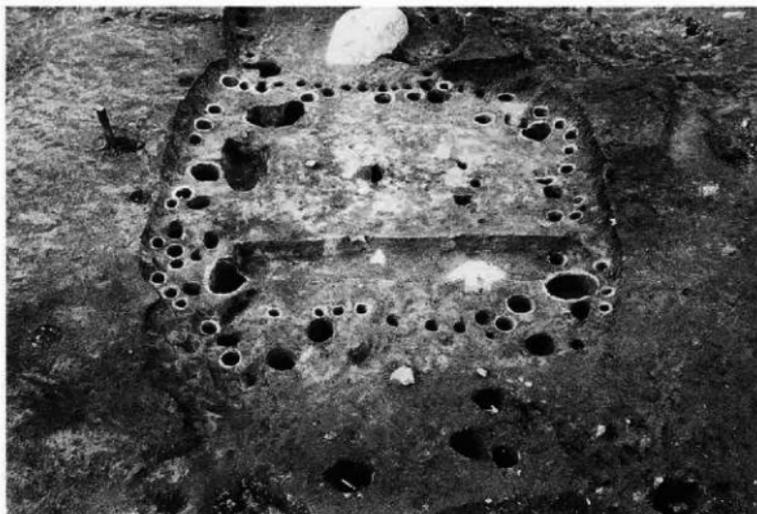


RA205 石圈伊断面



RA205 石圈伊断面

写真图版225 RA204·205住居跡



RA206 全景

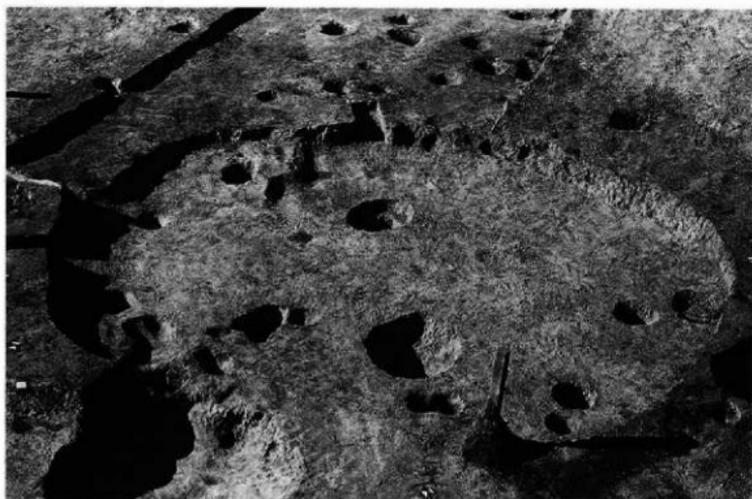


RA207 全景

写真図版226 RA206・207住居跡



RA207 石圓炉断面



RA209 全景



RA209 埋土断面

写真図版227 RA207・209住居跡



RA209 埋土断面



RA210 全景



RA210 埋土断面

写真図版228 RA209・210住居跡



RA211 全景



RA211 埋土断面



RA211 埋土断面

写真図版229 RA211住居跡



RA211 壁溝断面

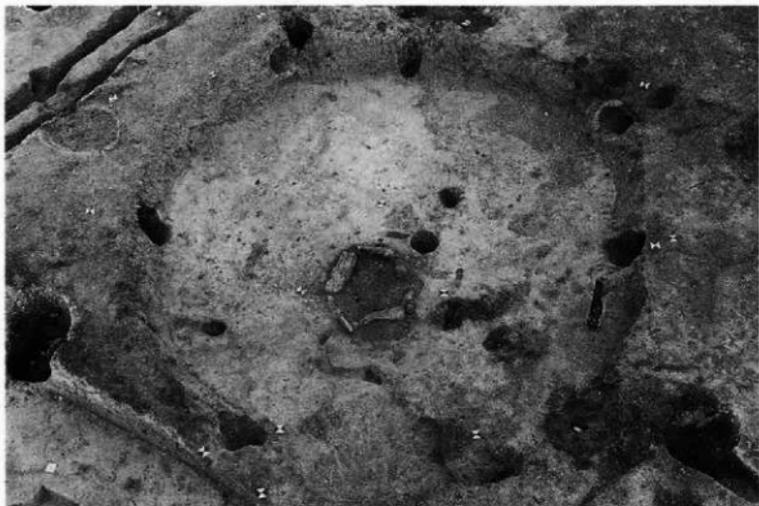


RA214 (1号~3号) 全景



RA214 壕土断面

写真図版230 RA211・214住居跡



RA215 全景

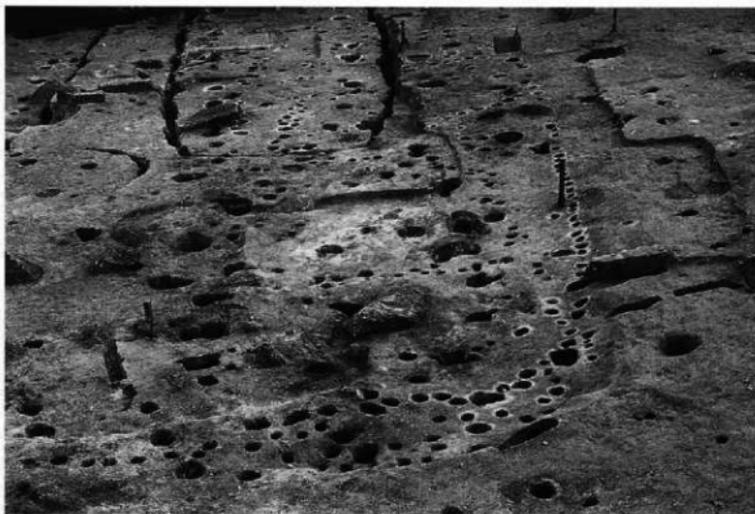


RA215 壕土断面

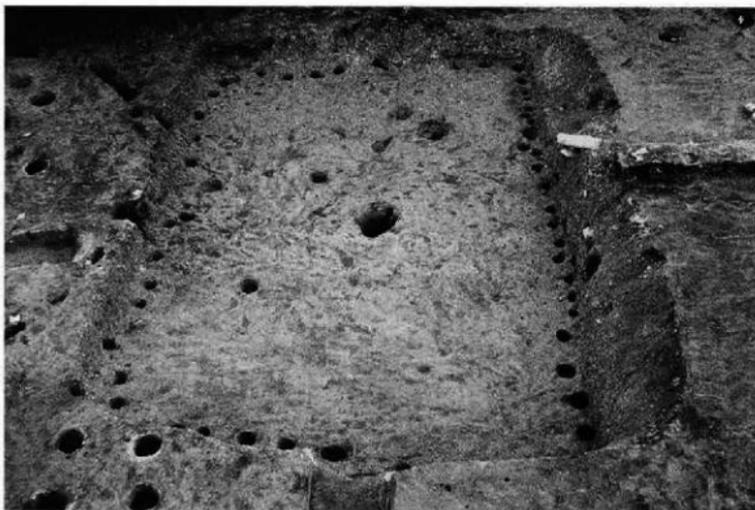


RA215 壕土断面

写真図版231 RA215住居跡



RA216・219 全景



RA217 全景

写真図版232 RA216・217・219住居跡



RA217 埋土断面



RA218 全景

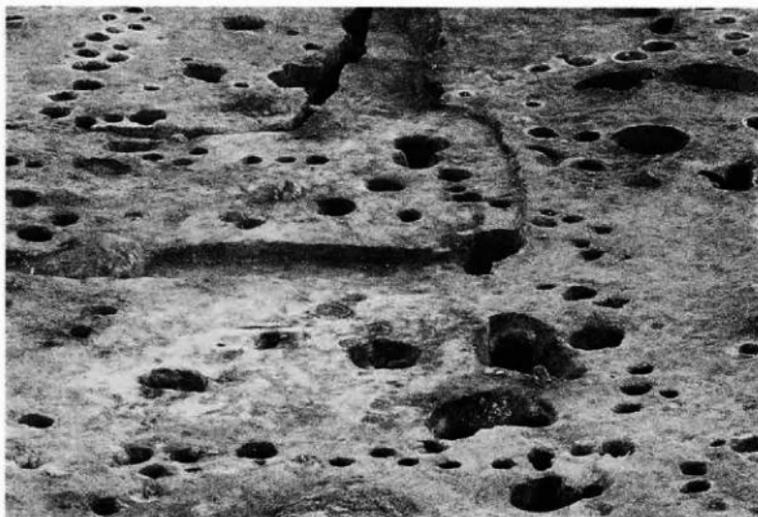


RA220 全景



RA221 全景

写真図版234 RA220・221住居跡



RA222 全景



RA223 全景

写真図版235 RA222・223住居跡



RA224 全景



RA224 埋土断面



RA225 全景

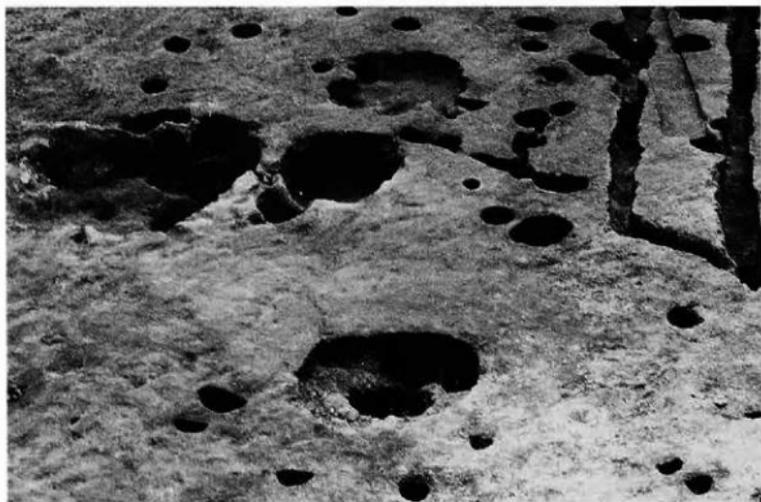


RA225 埋土断面

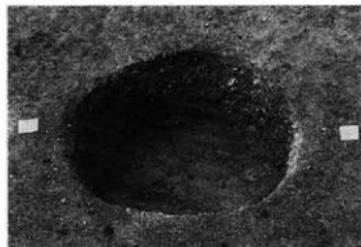


RA225 埋土断面

写真図版237 RA225住居跡



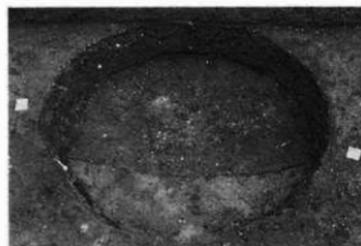
RA226 全景



RD81 全景



RD81 埋土断面



RD82 全景



RD82 埋土断面

写真図版238 RA226住居跡、RD81・82土坑



RD87 全景



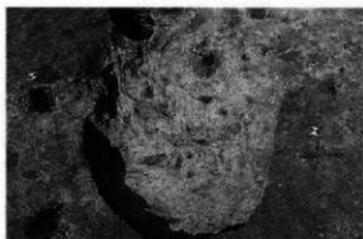
RD87 埋土断面



RD104 全景



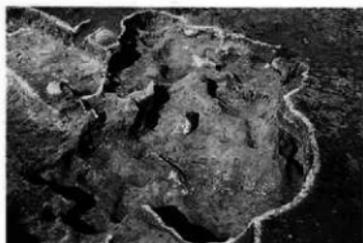
RD104 埋土断面



RD111 全景



RD111 埋土断面

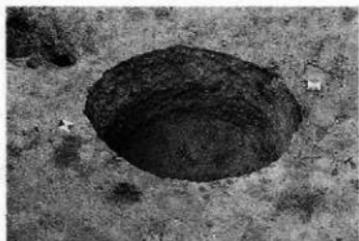


RD112 全景



RD112 埋土断面

写真図版239 RD87・104・111・112土坑



RD113 全景



RD113 埋土断面



RD114 全景



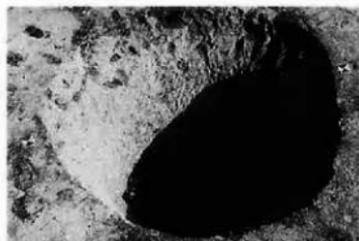
RD114 埋土断面



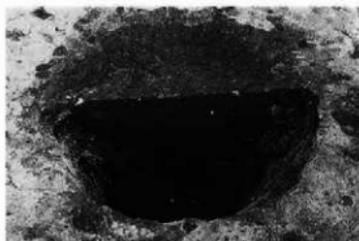
RD115 全景



RD115 埋土断面



RD116 全景

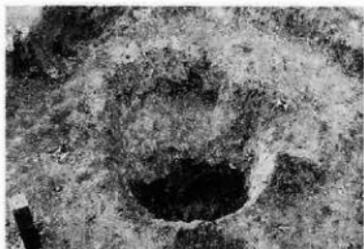


RD116 埋土断面

写真图版240 RD113~116土坑



RD117 埋土断面



RD119 全景

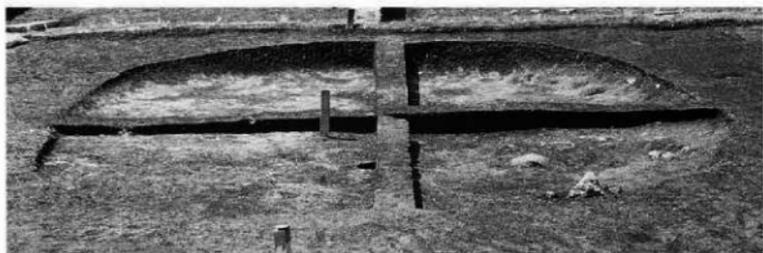


RD119 埋土断面

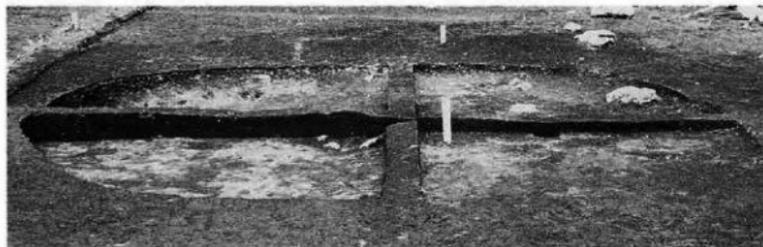


RA174 住居跡

写真図版241 RD117・119土坑、RA174住居跡



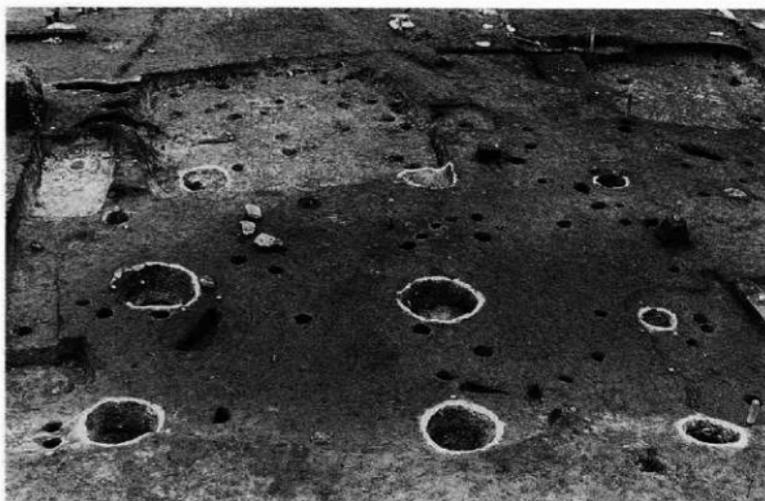
RA174 埋土断面



RA174 埋土断面



RA174 石圈炉断面



RA177 - 178 - 179 全景



RA177 石圈炉断面

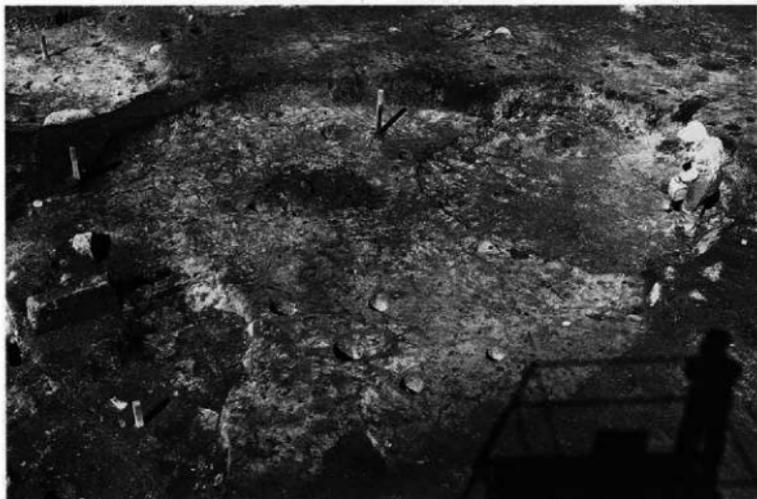


RA178 炉断面



RA179 石圈炉断面

写真图版243 RA177~179住居跡



RA187 全景



RA187 埋土断面



RA187 埋土断面

写真図版244 RA187住居跡



RA187 石圈炉断面

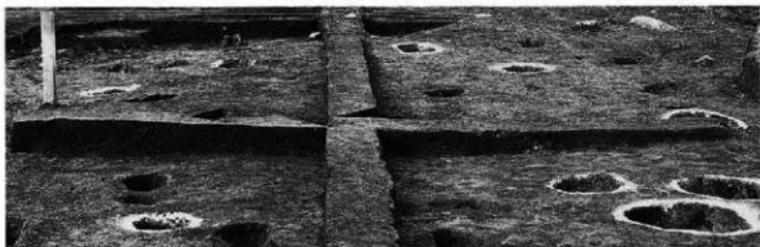


RA196 全景



RA196 埋土断面

写真図版245 RA187・196住居跡



RA196 埋土断面



RA200 全景



RA200 埋土断面

写真図版246 RA196・200住居跡



RA200 埋土断面



RA200 石圍炉断面



RA532 全景

写真図版247 RA200・532住居跡



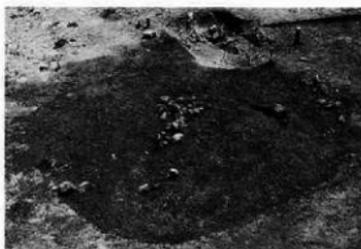
RA532 埋土断面



RA532 埋土断面



RA532 カマド断面



RA532 屋根石? 黄土状況



RA533 全景



RA533 埋土断面



RA533 カマド煙道部断面

写真図版249 RA533住居跡



RA533 カマド全景



RA533 カマド燃焼部



RA533 住居内土坑1号



RA533 カマド煙道部断面



RA533 炭化材検出状況

写真図版250 RA533住居跡



RA534 全景



RA534 埋土断面

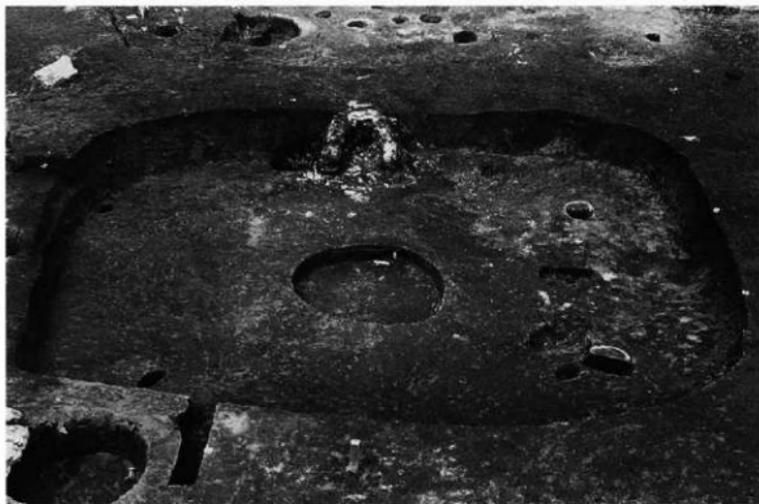


RA534 カマド断面

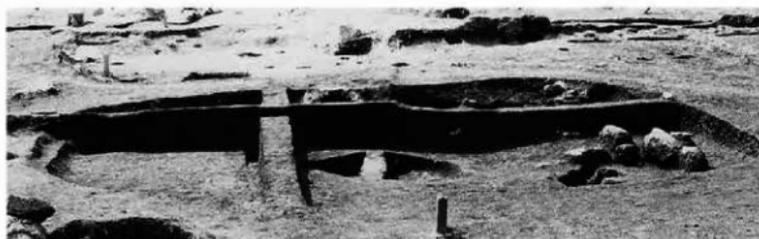


RA534 カマド断面

写真図版251 RA534住居跡



RA535 全景



RA535 埋土断面



RA535 埋土断面

写真図版252 RA535住居跡



RA535 カマド全景



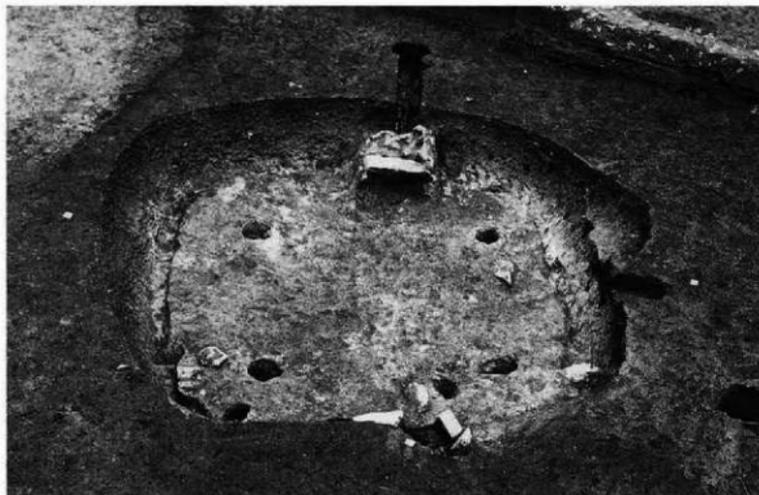
RA535 煙道部断面



RA535 煙道部断面



RA535 カマド断面



RA536 全景

写真図版253 RA535・536住居跡



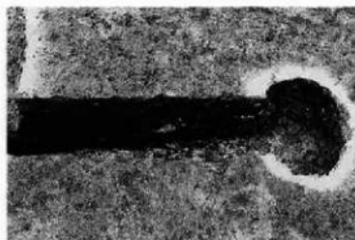
RA536 埋土断面



RA536 埋土断面



RA536 カマド全景



RA536 カマド煙道部断面



RA536 入口施設断面



RA536 カマド石組

写真図版254 RA536住居跡



RA537 全景



RA537 埋土断面



RA537 埋土断面

写真図版255 RA537住居跡



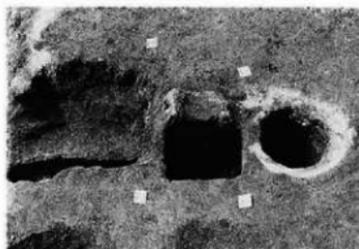
RA537 カマド (新・旧) 全景



RA537 カマド (新) 煙道部断面



RA537 カマド (新) 断面



RA537 カマド (旧) 煙道部断面

写真図版256 RA537住居跡



RA538 全景



RA538 カマド断面

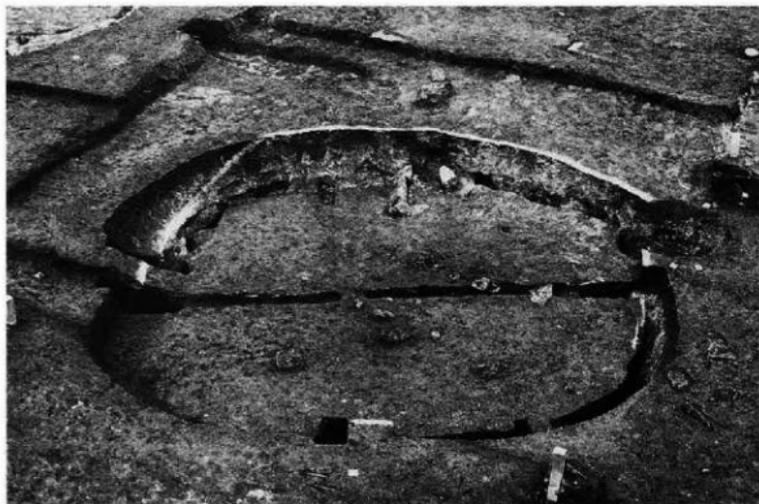


RA538 カマド断面



RA538 カマド断面

写真図版257 RA538住居跡



RA539 全景



RA539 埋土断面



RA539 埋土断面

写真図版258 RA539住居跡



RA539 カマド煙道部断面



RA539 カマド断面



RA539 カマド断面



RA539 全景 (周溝のみ)

写真図版259 RA539住居跡

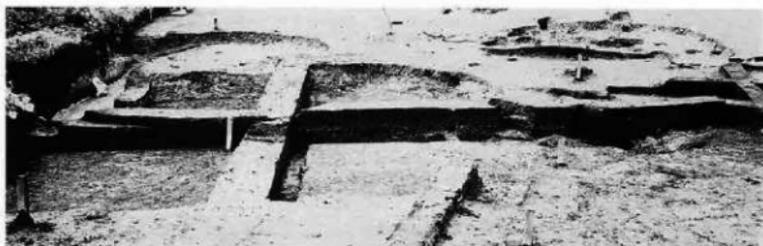


RA540 全景



RA540 埋土断面

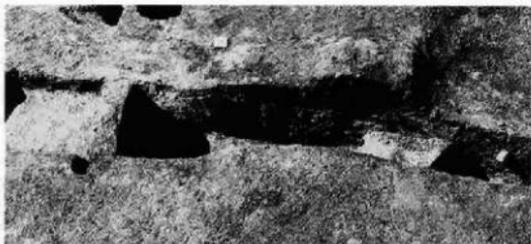
写真図版260 RA540住居跡



RA540 埋土断面



RA540 カマド断面



RA540 焼土断面



RA540 カマド全景



RA540 土器出土状況

写真図版261 RA540住居跡



RA541 全景



RA541 埋土断面



RA541 埋土断面

写真図版262 RA541住居跡



RA542 全景

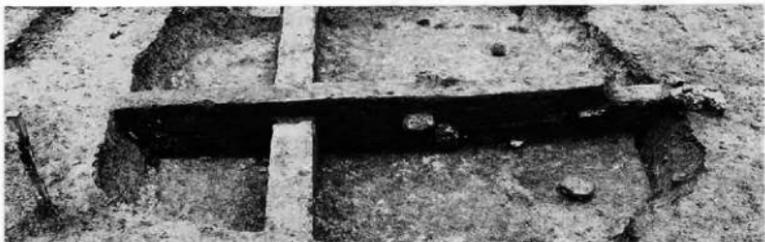


RA543 全景

写真図版263 RA542・543住居跡



RA543 埋土断面



RA543 埋土断面



RA543 カマド全景



RA543 カマド断面



RA543 カマド煙道部



RA543 柱穴断面

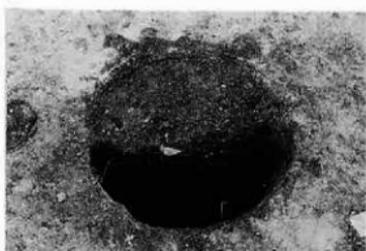
写真図版264 RA543住居跡



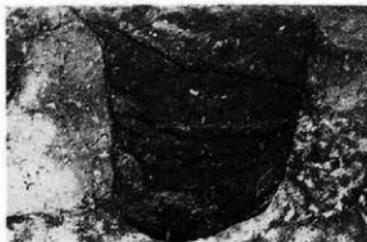
RB01 全景



RB01 柱穴断面



RB01 柱穴断面

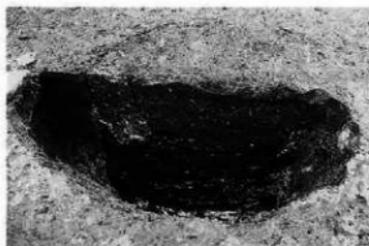


RB01 柱穴断面



RB01 柱穴断面

写真图版265 RB01建物跡



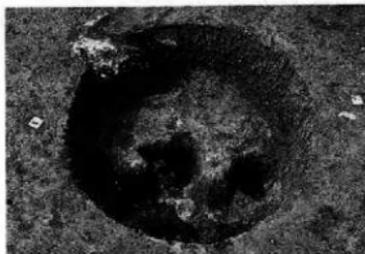
写真図版266 RB01建物跡柱穴断面



RD77 全景



RD77 埋土断面



RD78 全景



RD78 埋土断面



RD88 埋土断面



RD92 全景



RD92 埋土断面

写真図版267 RD77・78・86・92土坑



RD108 全景



RD108 埋土断面



RD120 全景



RE09 全景

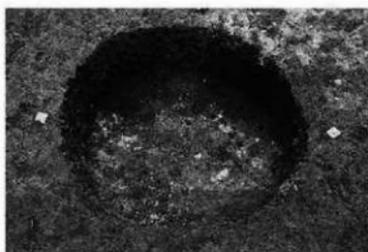
写真図版268 RD108・120土坑、RE09竪穴状遺構



RE09 埋土断面



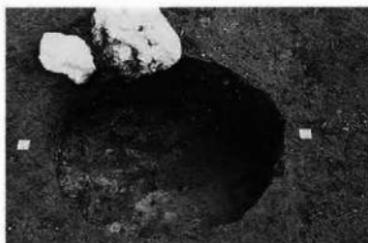
RE09 埋土断面



RD79 全景



RD79 埋土断面

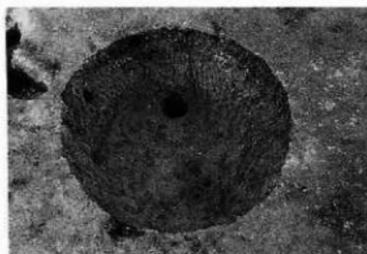


RD80 全景



RD80 埋土断面

写真図版269 RE09竪穴状遺構、RD79・80土坑



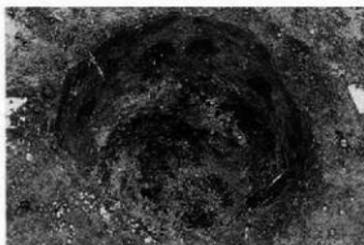
RD89 全景



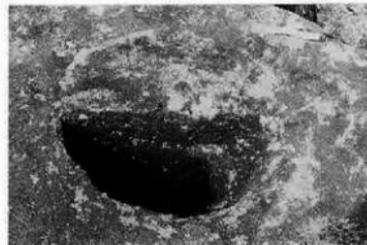
RD90 全景



RD90 埋土断面



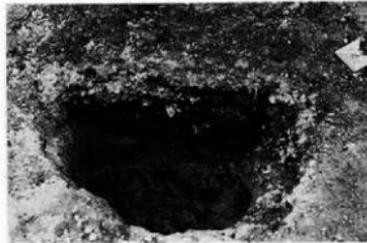
RD91 全景



RD91 埋土断面



RD93 全景



RD93 埋土断面

写真図版270 RD89~91・93土坑



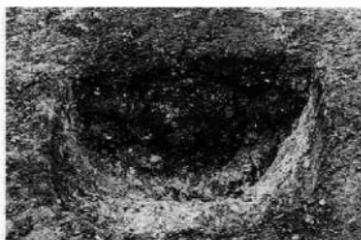
RD97 全景



RD97 埋土断面



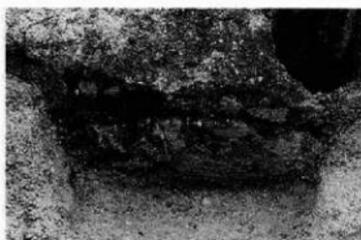
RD98 全景



RD98 埋土断面



RD99 全景



RD99 埋土断面

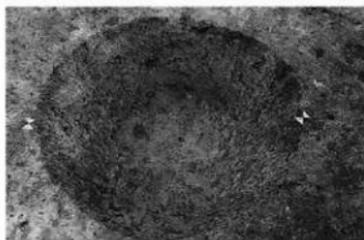


RD100 全景



RD100 埋土断面

写真图版271 RD97~100土坑



RD101 全景



RD101 埋土断面



RD102 全景



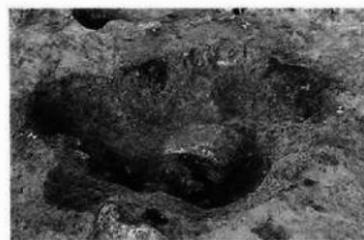
RD102 埋土断面



RD106 全景



RD106 埋土断面



RD107 全景

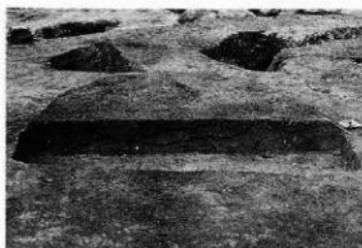


RD107 埋土断面

写真図版272 RD101・102・106・107土坑



RD110 埋土断面



RF21 断面



RF22 断面



RZ21 全景



RZ21 埋土断面

写真図版273 RD110土坑、RF21・22焼土遺構、RZ21落とし穴



RD71 全景



RD71 埋土断面



RD71 埋土断面



RD72 全景

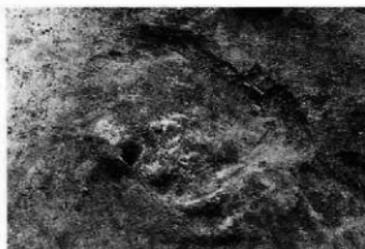


RD72 埋土断面



RD72 埋土断面

写真图版274 RD71·72土坑



RF20 全景



RF20 断面

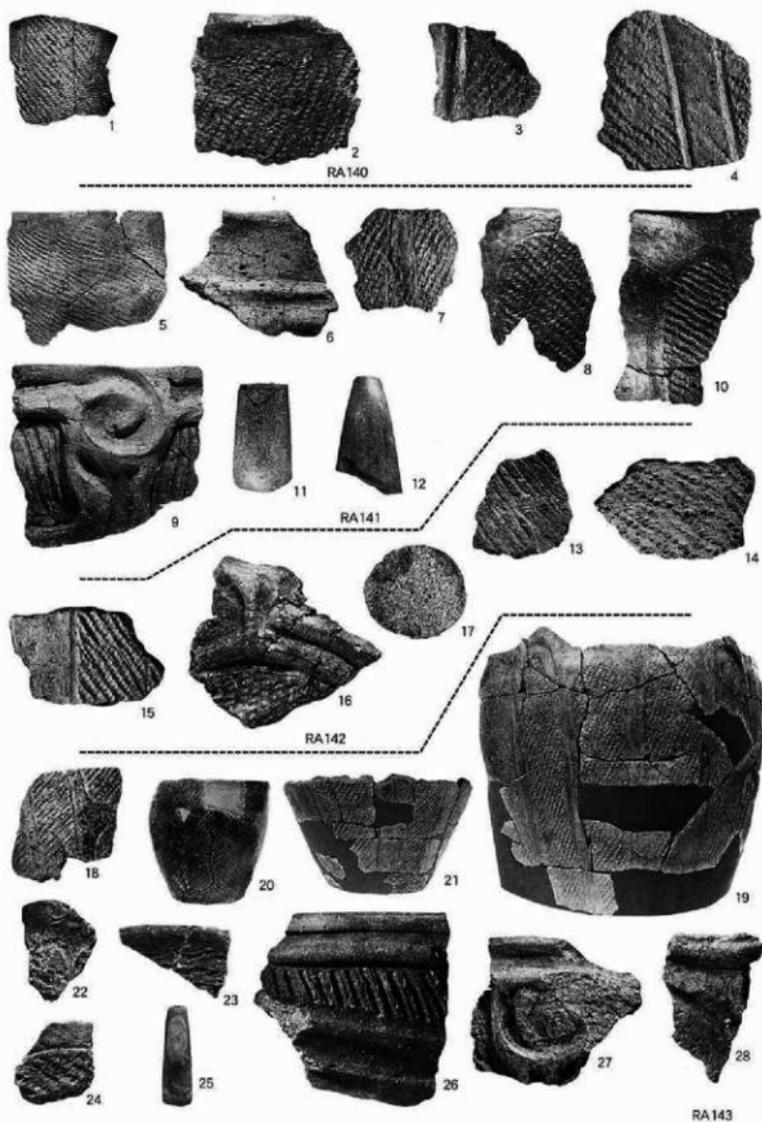


RD74 全景

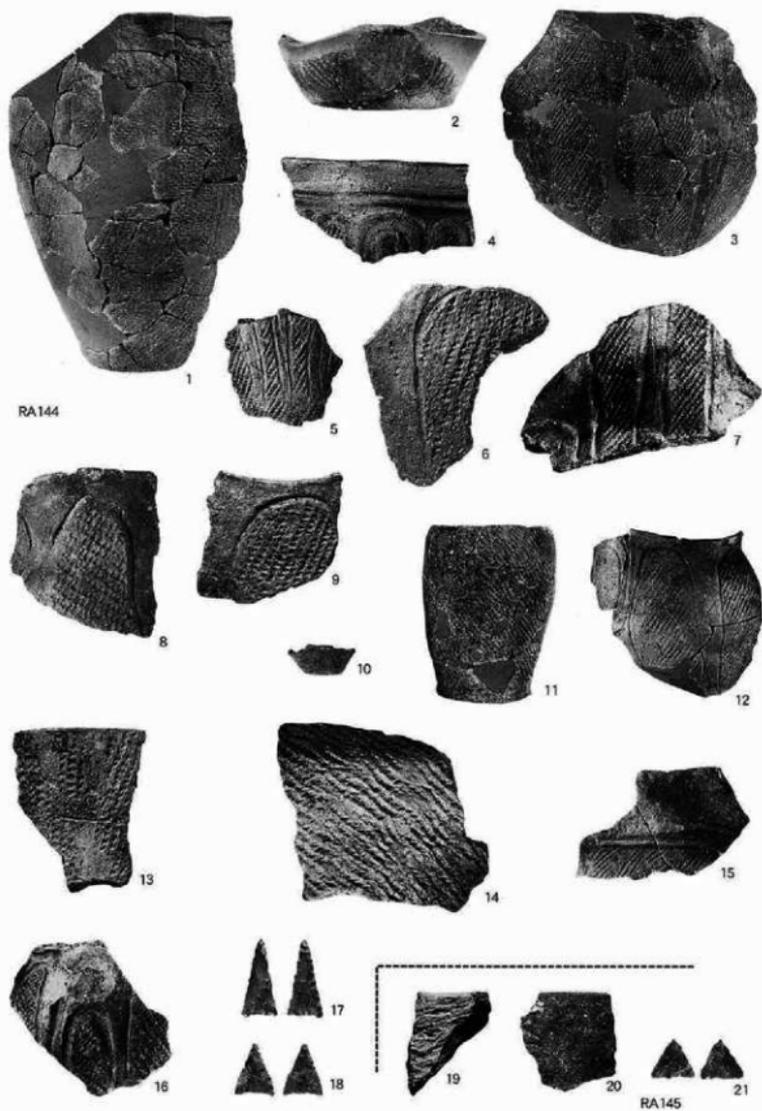


RD74 埋土断面

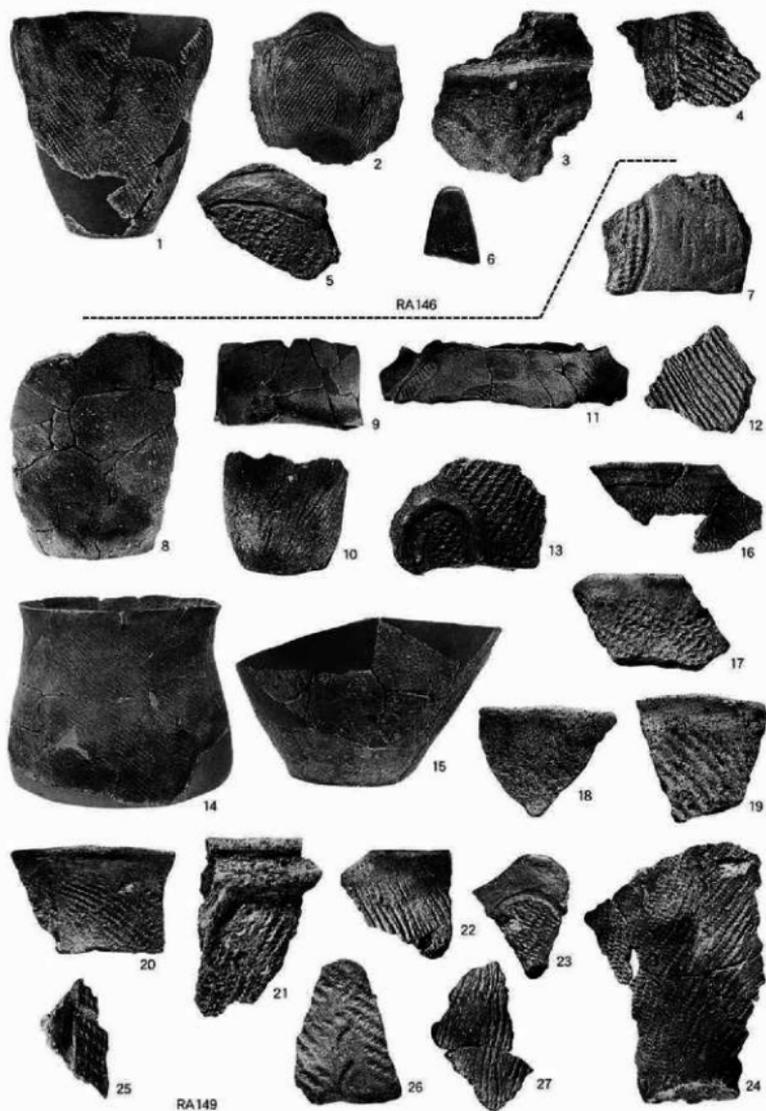
写真図版275 RF20焼土遺構、RD74土坑



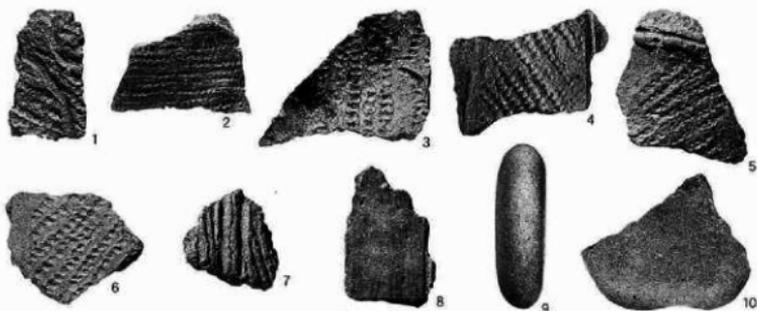
写真図版276 RA140~143住居跡出土遺物



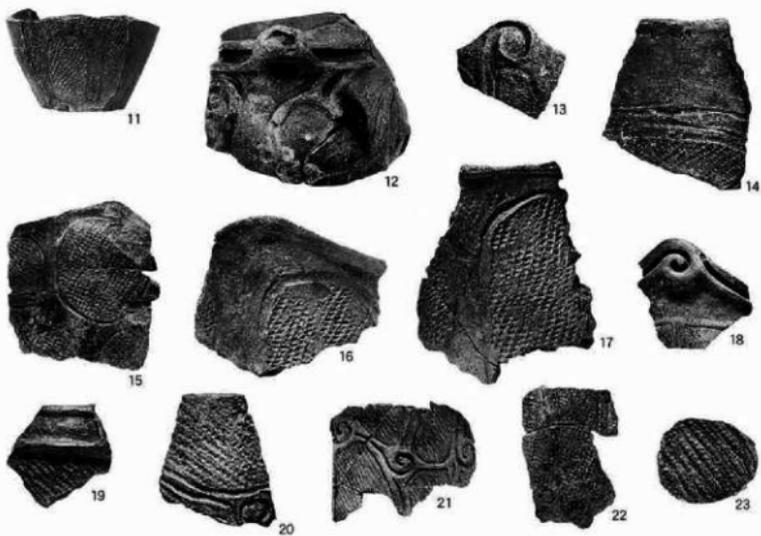
写真図版277 RA144・145住居跡出土遺物



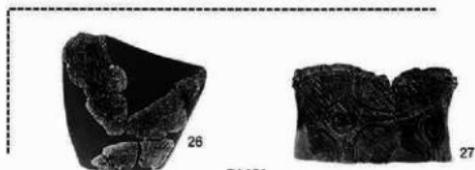
写真図版278 RA146・149住居跡出土遺物



RA149

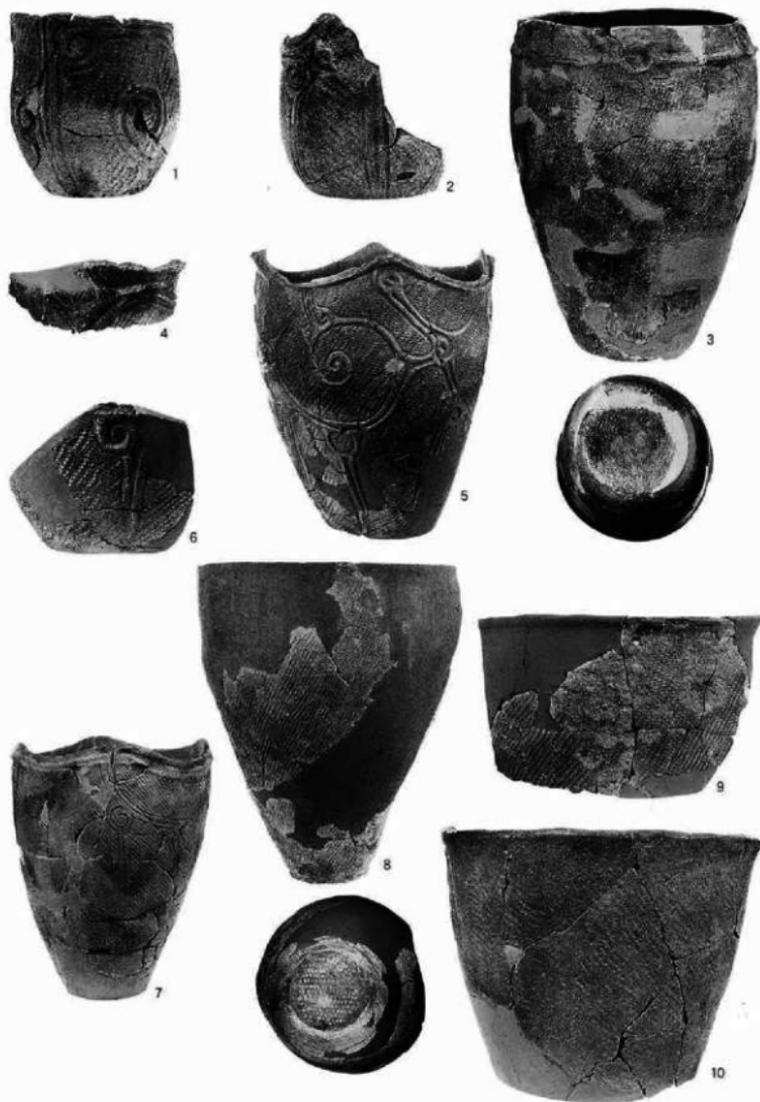


RA150



RA151

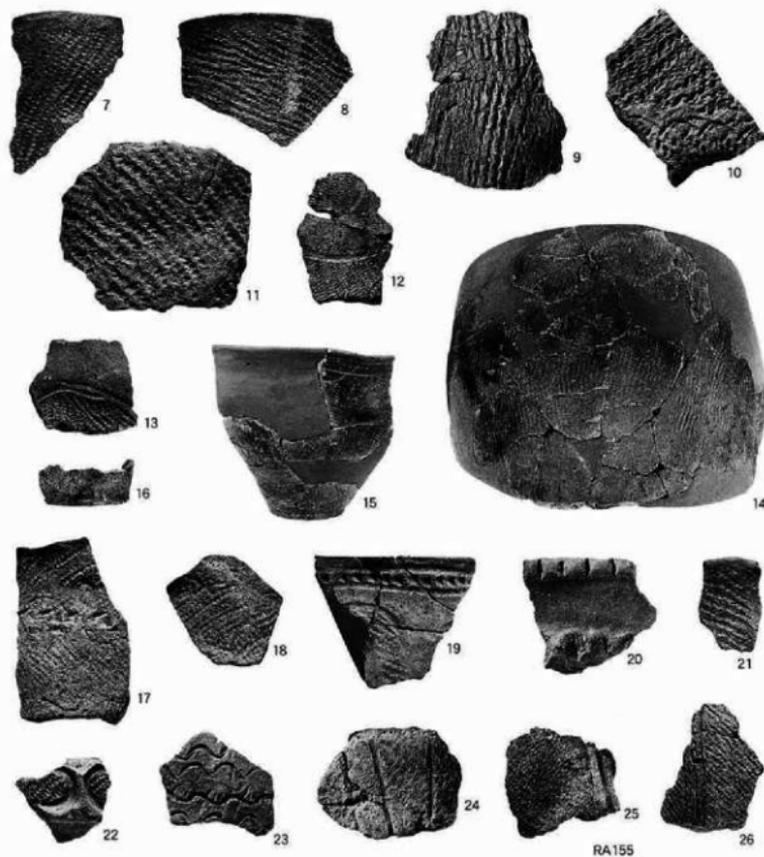
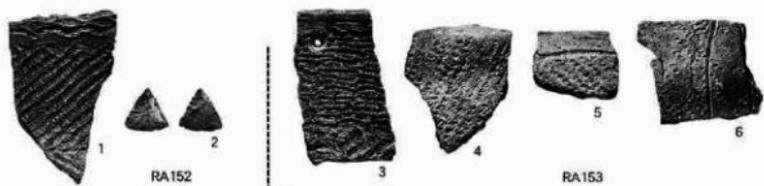
写真図版279 RA149~151住居跡出土遺物



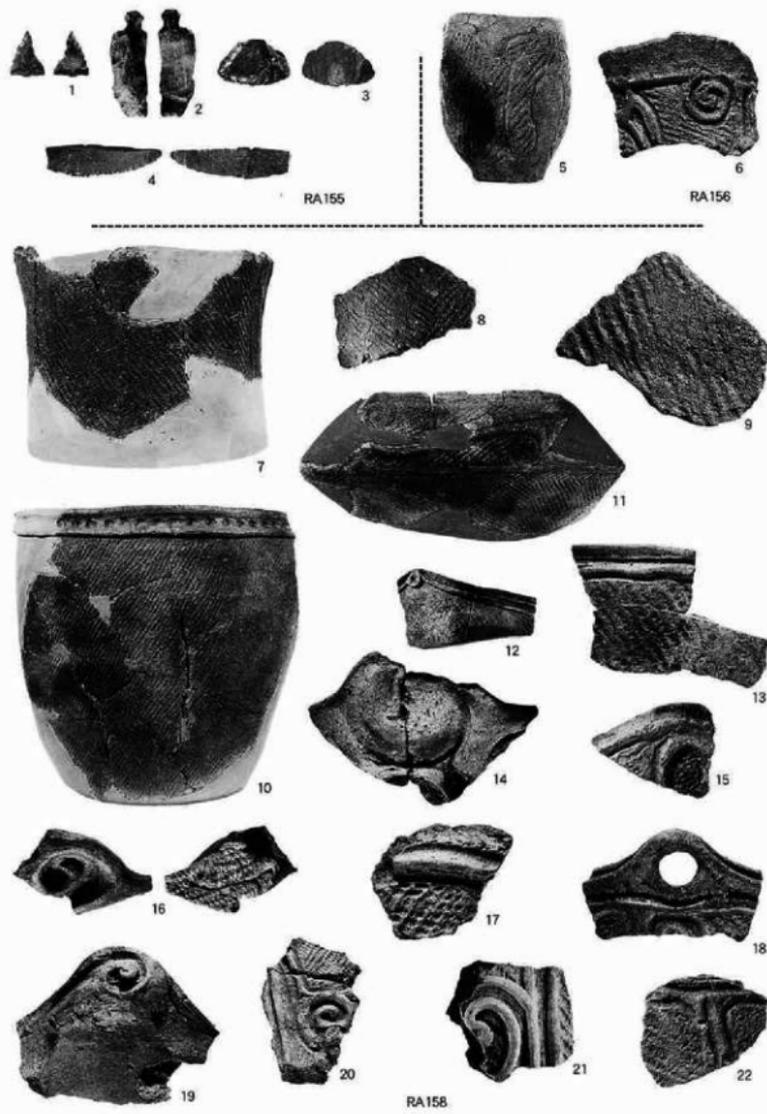
写真図版280 RA151住居跡出土遺物



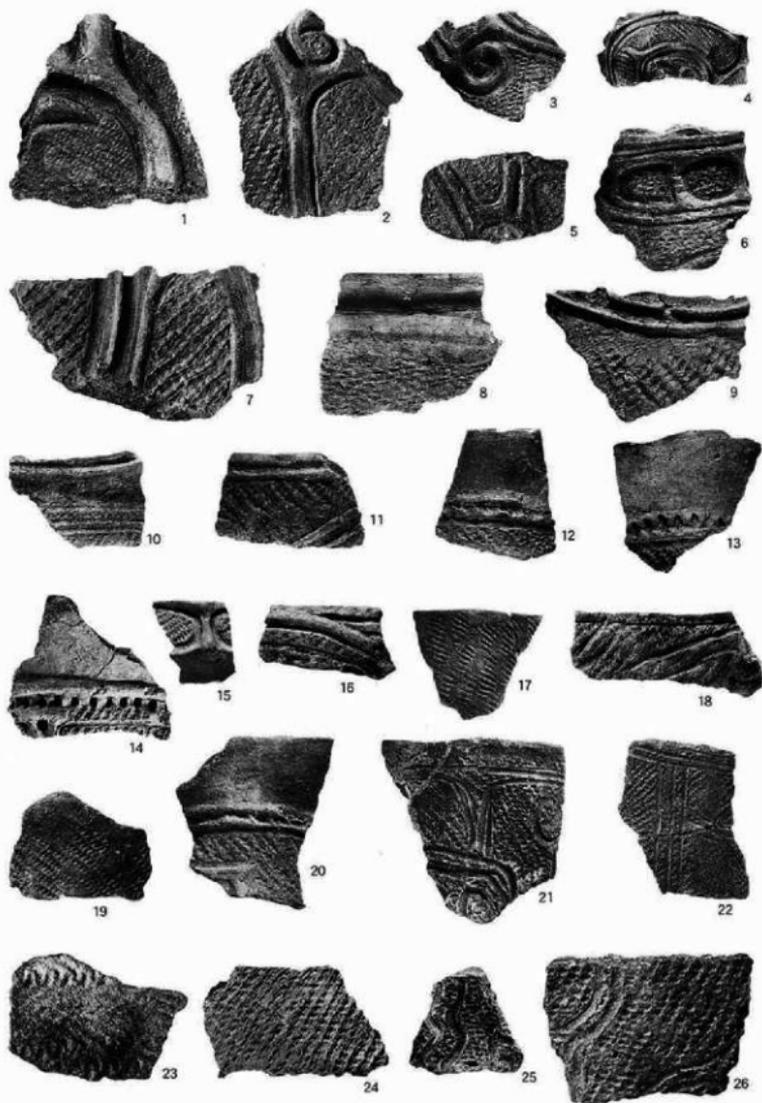
写真図版281 RA151住居跡出土遺物



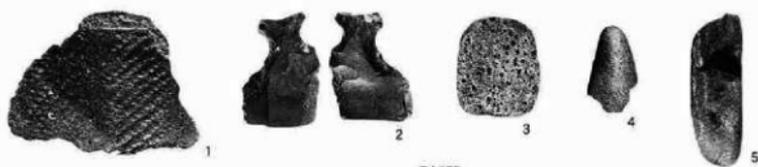
写真図版282 RA152・153・155住居跡出土遺物



写真図版283 RA155・156・158住居跡出土遺物



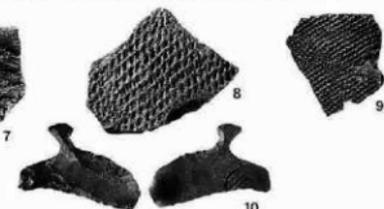
写真図版284 RA158住居跡出土遺物



RA158



RA160



RA161



11



12



13



14



15

RA162



16



18



19



17



20

RA163

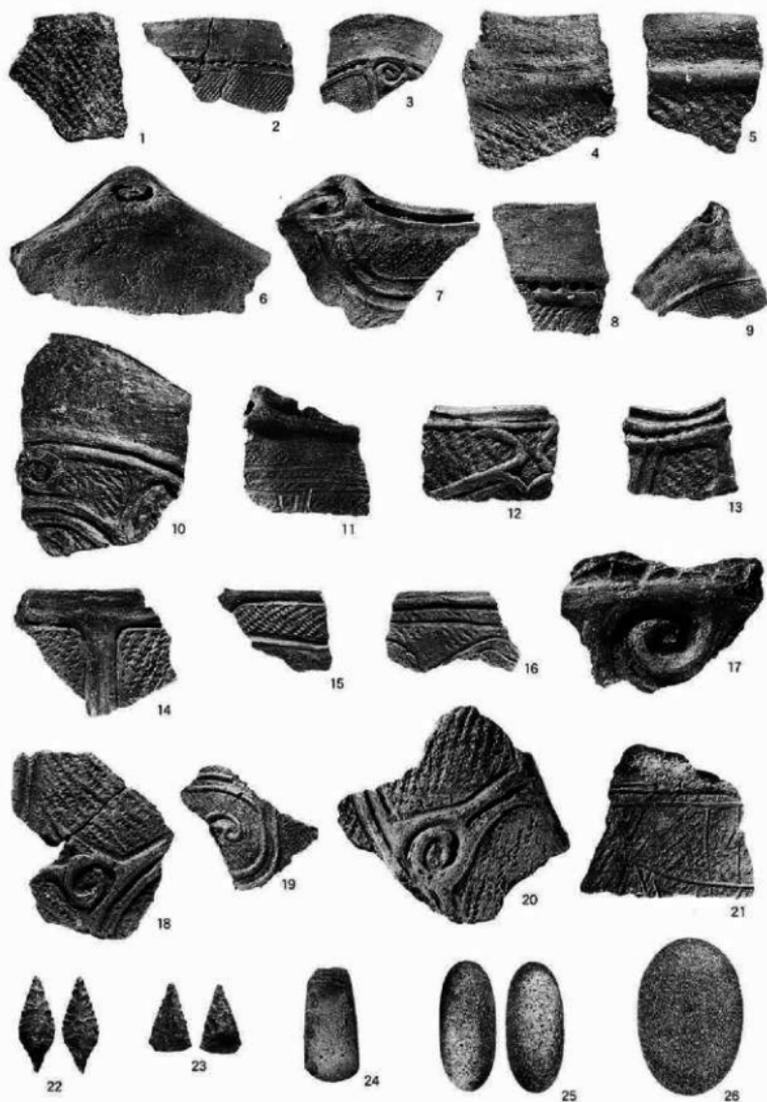


21



22

写真図版285 RA158・160～163住居跡出土遺物



写真图版286 RA163住居跡出土遺物



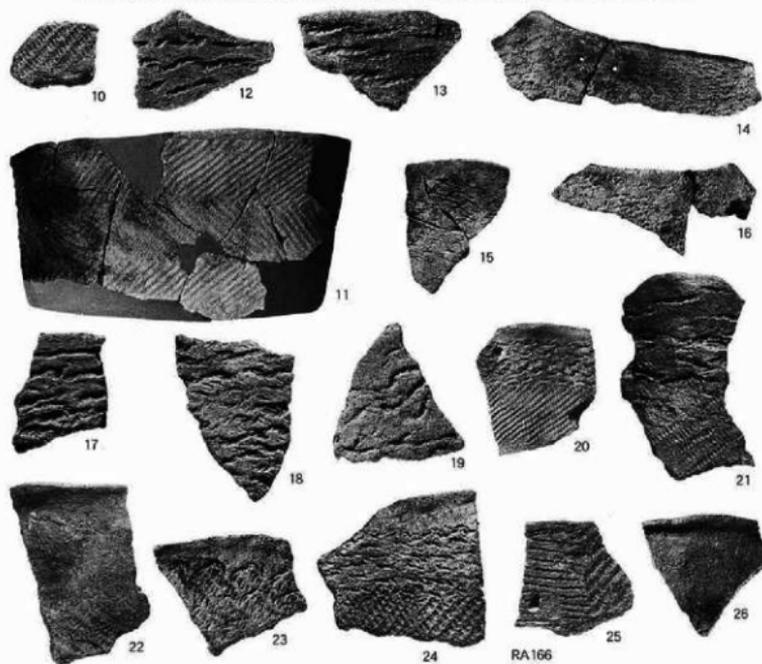
写真図版287 RA164住居跡出土遺物



RA164

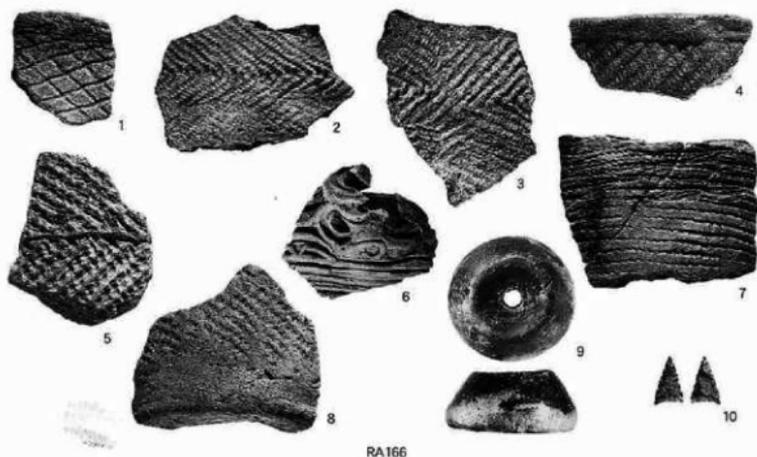


RA165

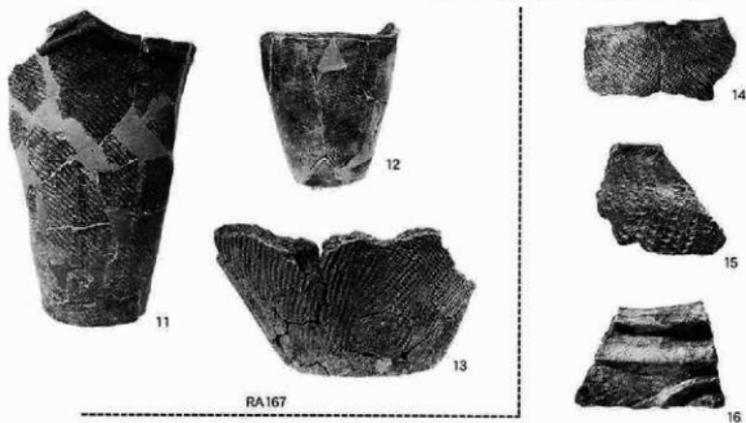


RA166

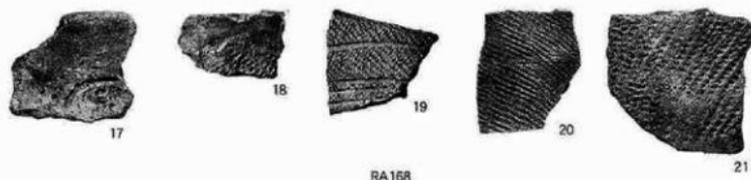
写真図版288 RA164~166住居跡出土遺物



RA166

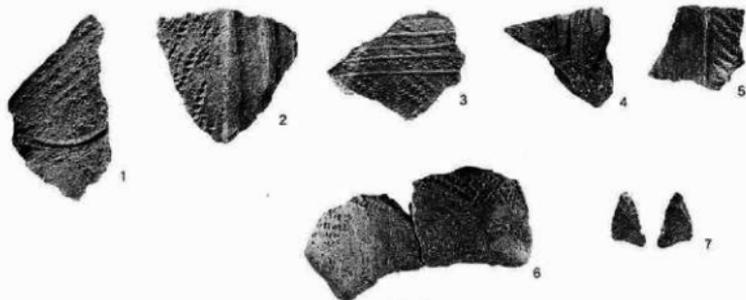


RA167

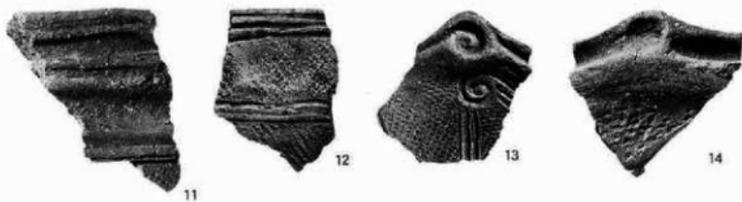


RA168

写真図版289 RA166~168住居跡出土遺物

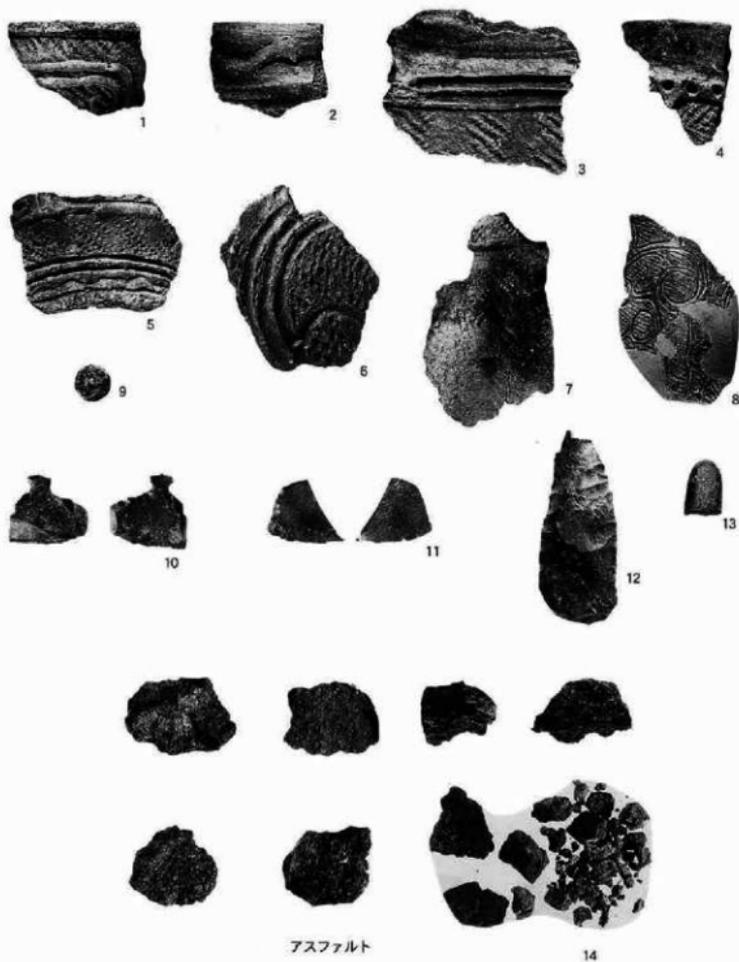


RA168

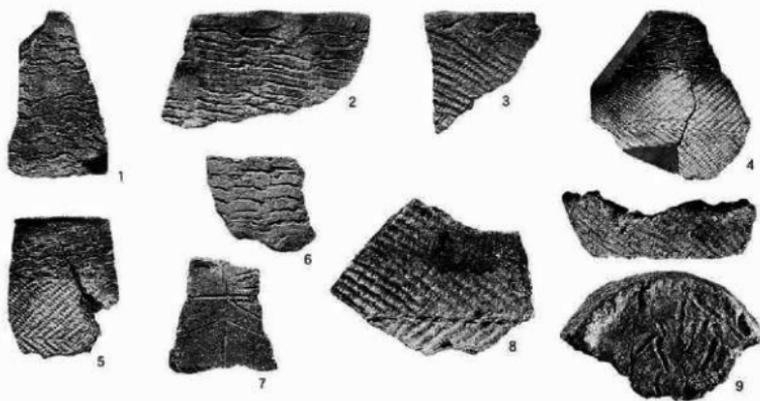


RA169

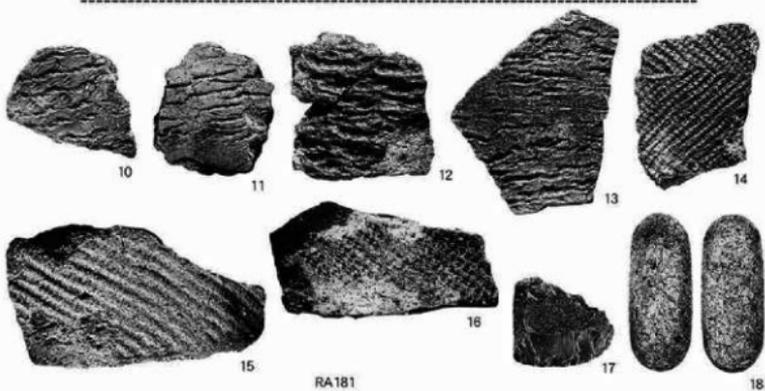
写真図版290 RA168・169住居跡出土遺物



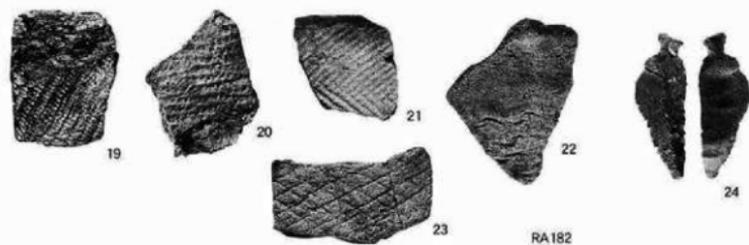
写真図版291 RA169住居跡出土遺物



RA180

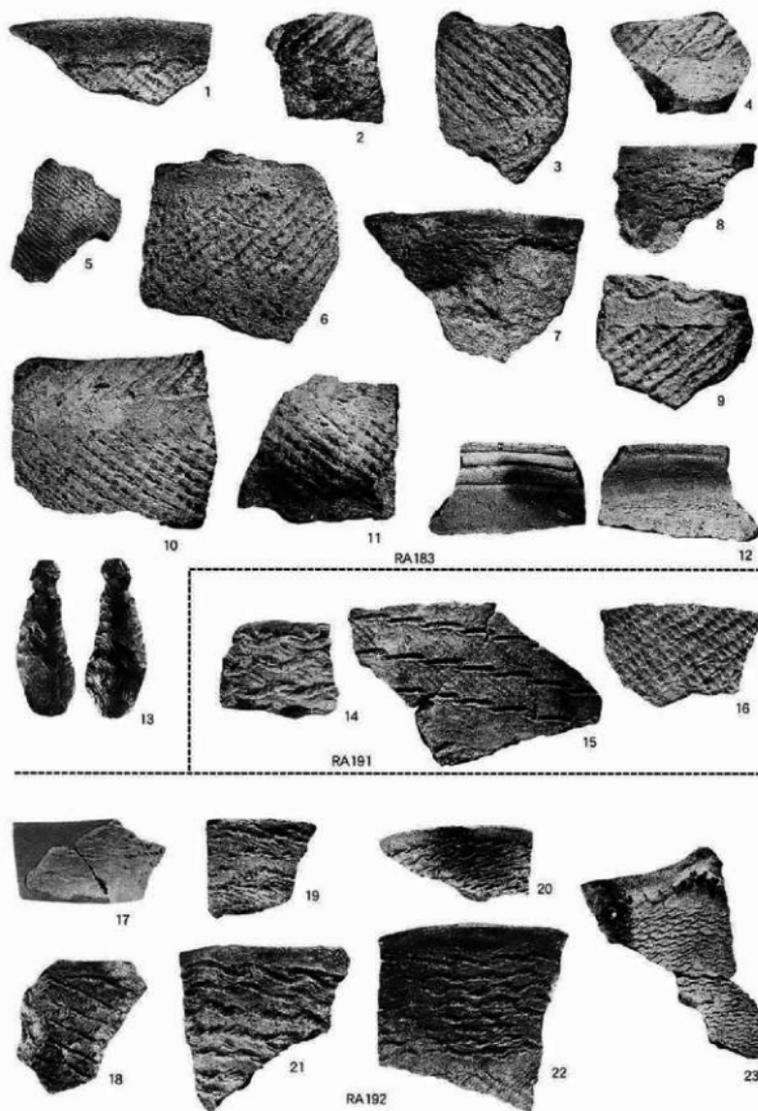


RA181

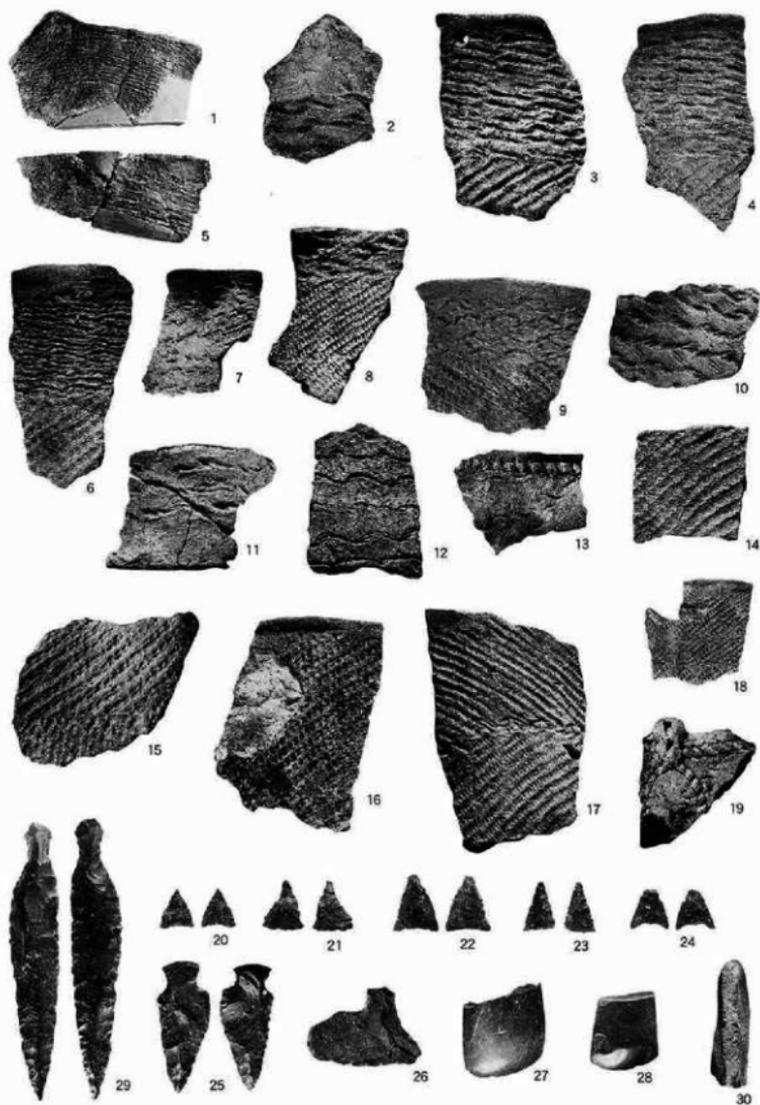


RA182

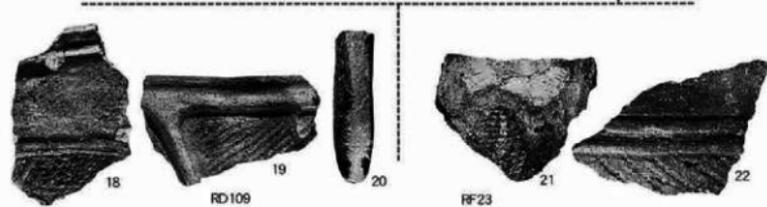
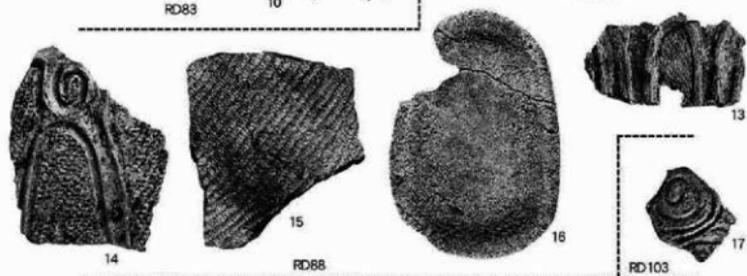
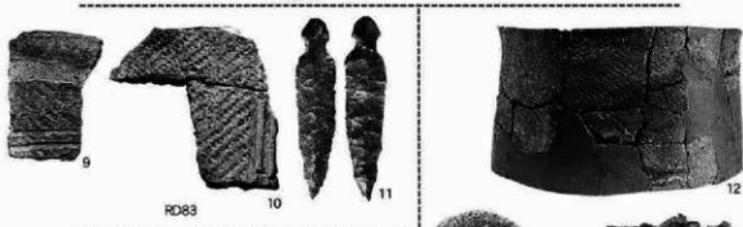
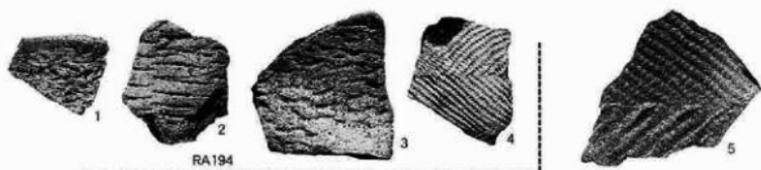
写真図版292 RA180~182住居跡出土遺物



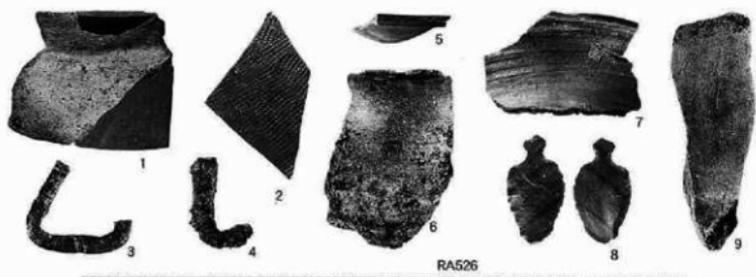
写真図版293 RA183・191・192住居跡出土遺物



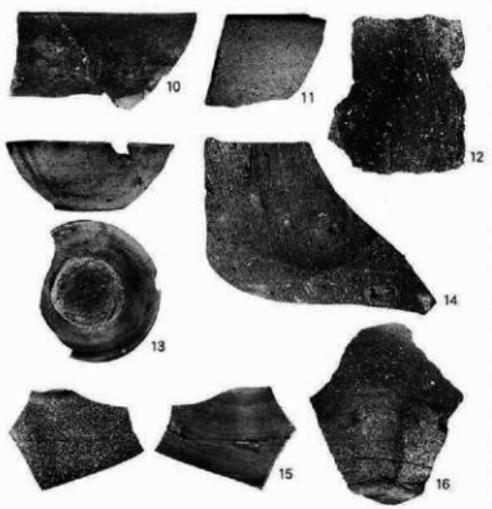
写真图版294 RA192住居跡出土遺物



写真図版295 RA194・213住居跡・RD83・88・103・109土坑・RF23焼土出土遺物



RA526

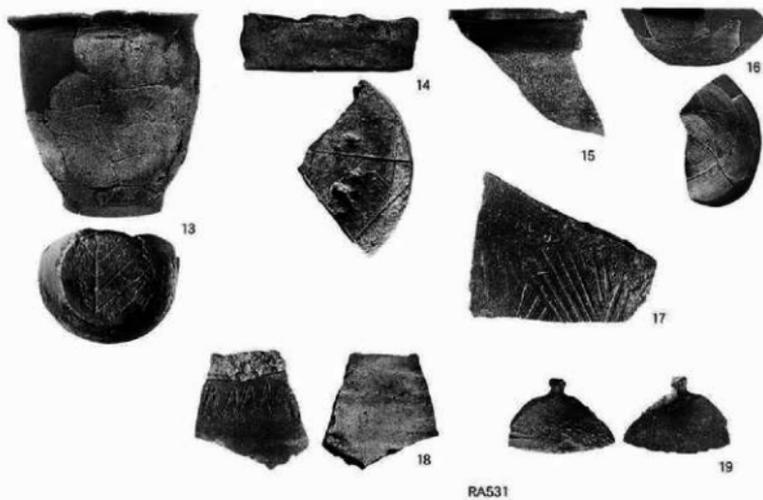
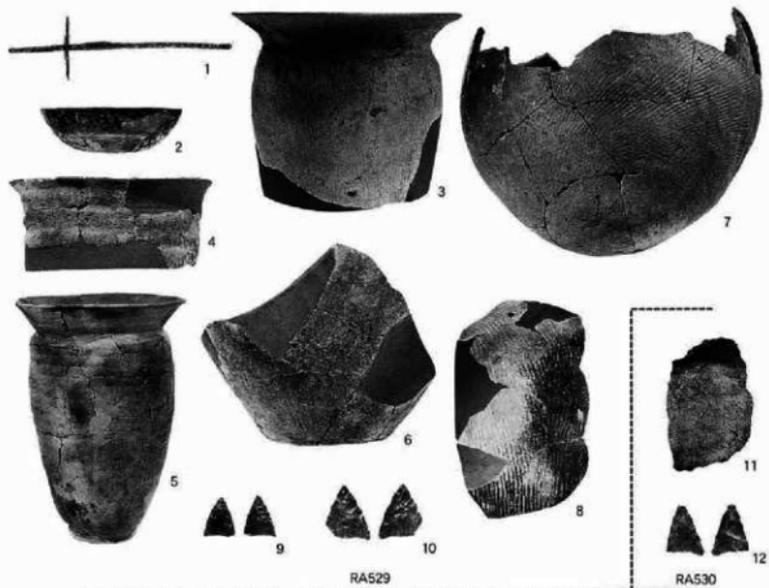


RA527

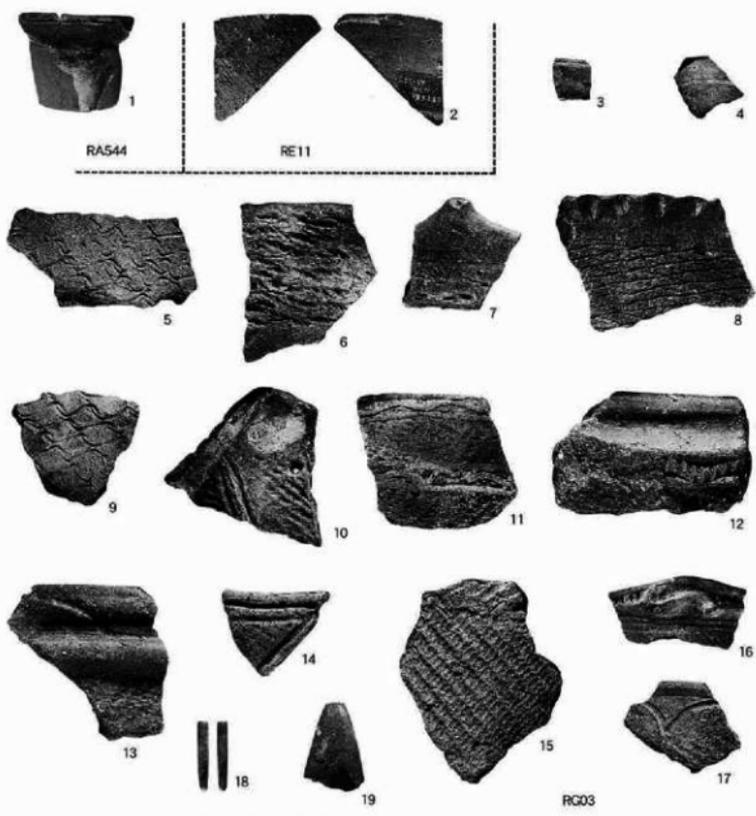


RA528

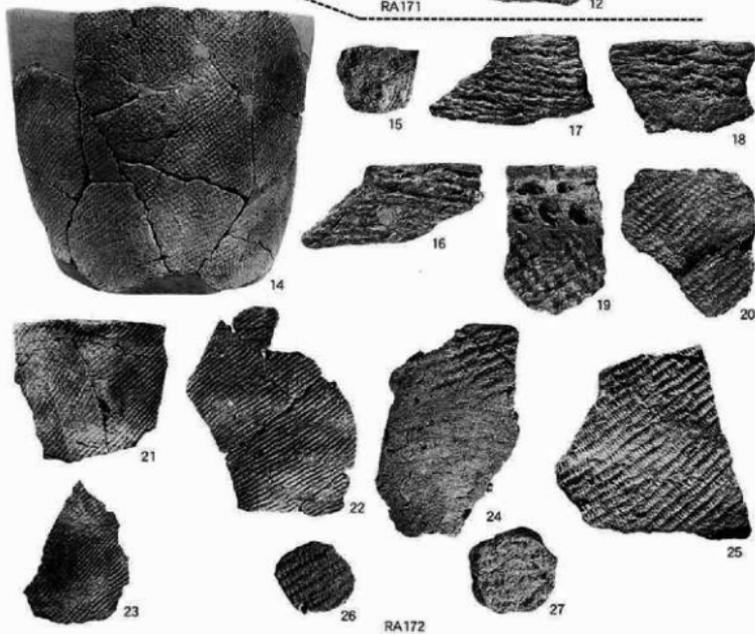
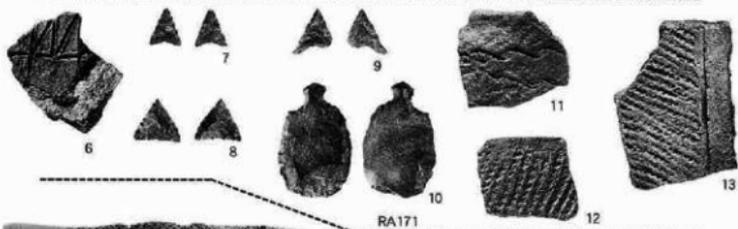
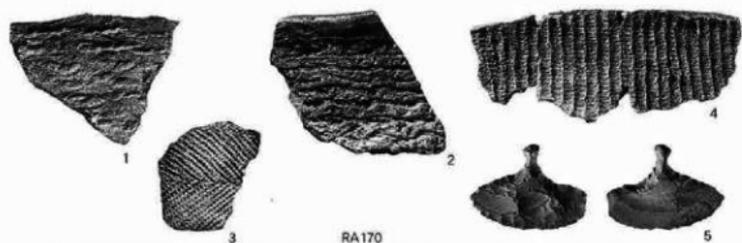
写真図版296 RA526~528住居跡出土遺物



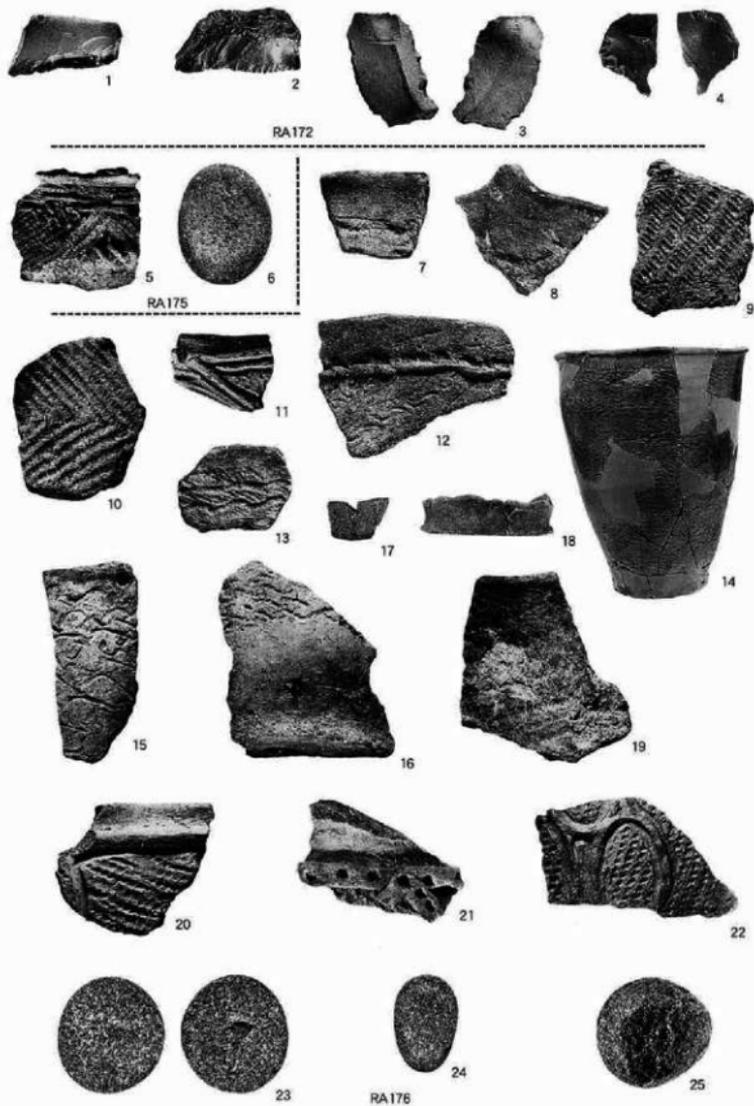
写真図版297 RA529~531住居跡出土遺物



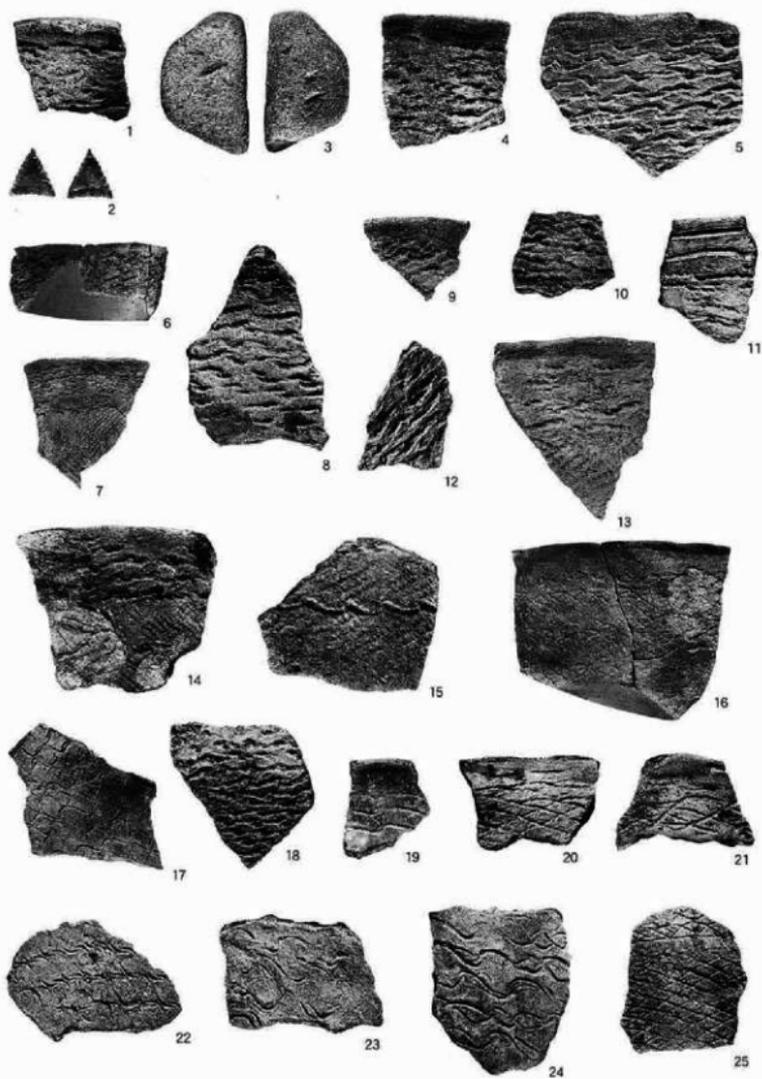
写真図版298 RA544住居跡・RE11竪穴状遺構・RG03溝跡出土遺物



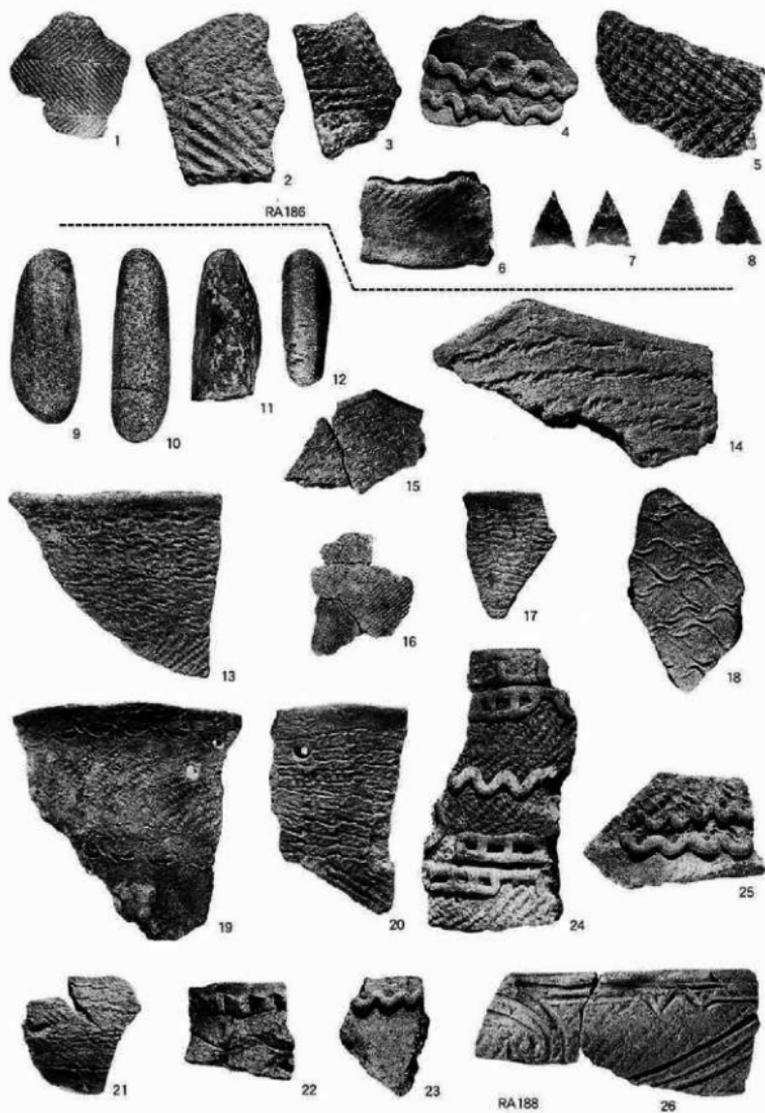
写真図版299 RA170~172住居跡出土遺物



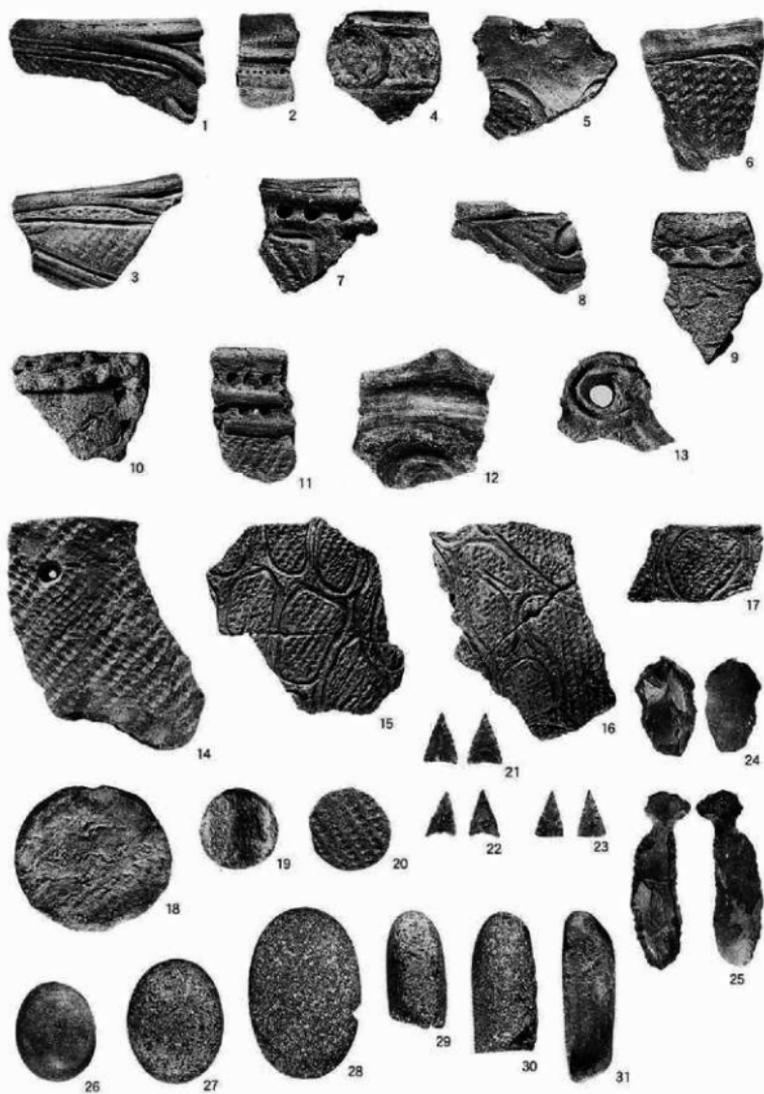
写真図版300 RA172・175・176住居跡出土遺物



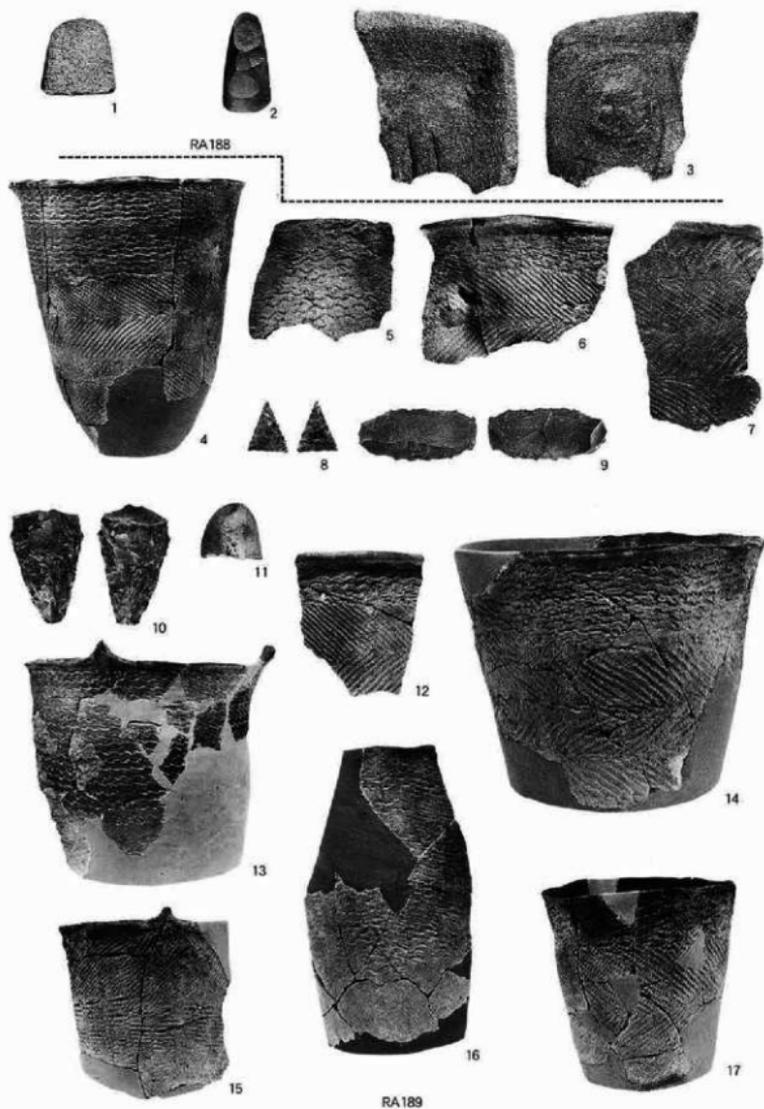
写真図版301 RA186住居跡出土遺物



写真図版302 RA186・188住居跡出土遺物



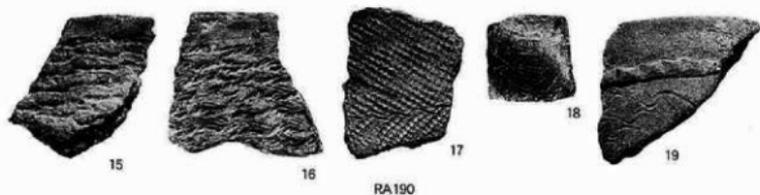
写真図版303 RA188住居跡出土遺物



写真図版304 RA188・189住居跡出土遺物

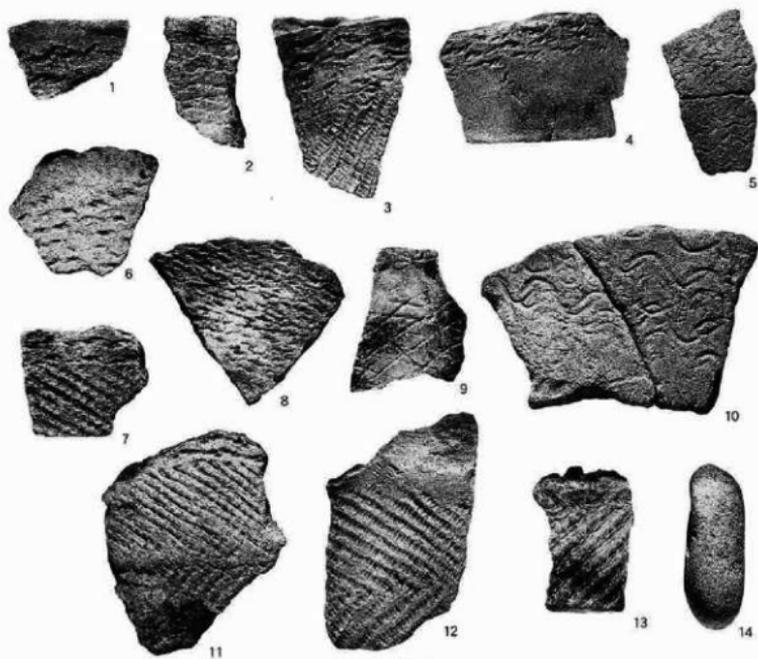


RA 189

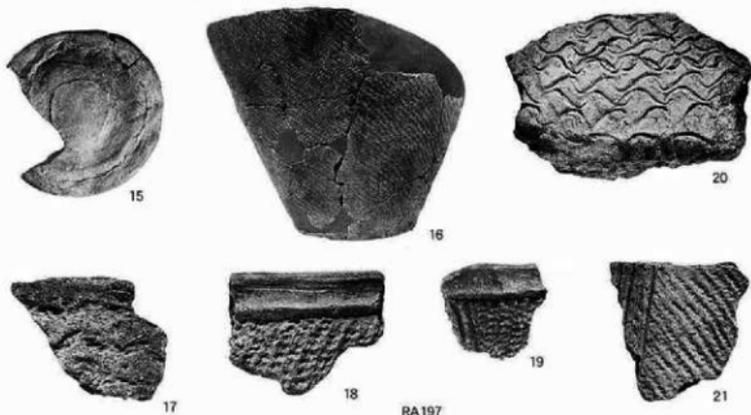


RA 190

写真図版305 RA 189・190住居跡出土遺物

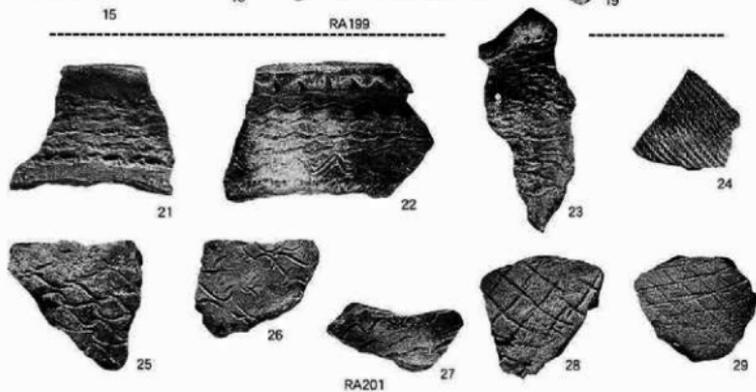
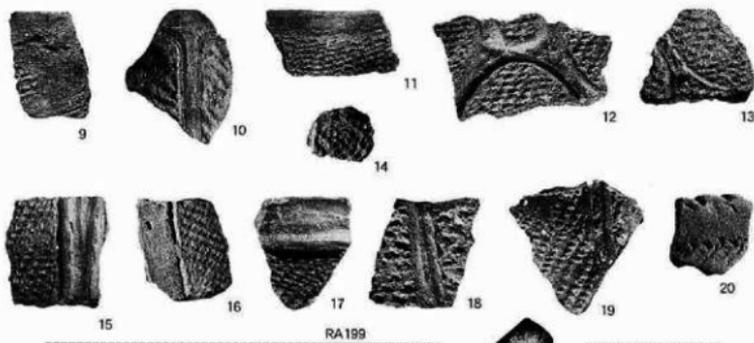
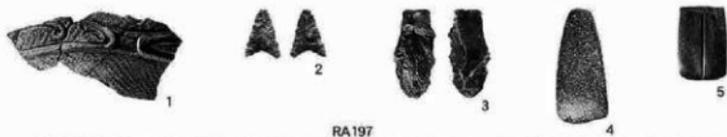


RA190

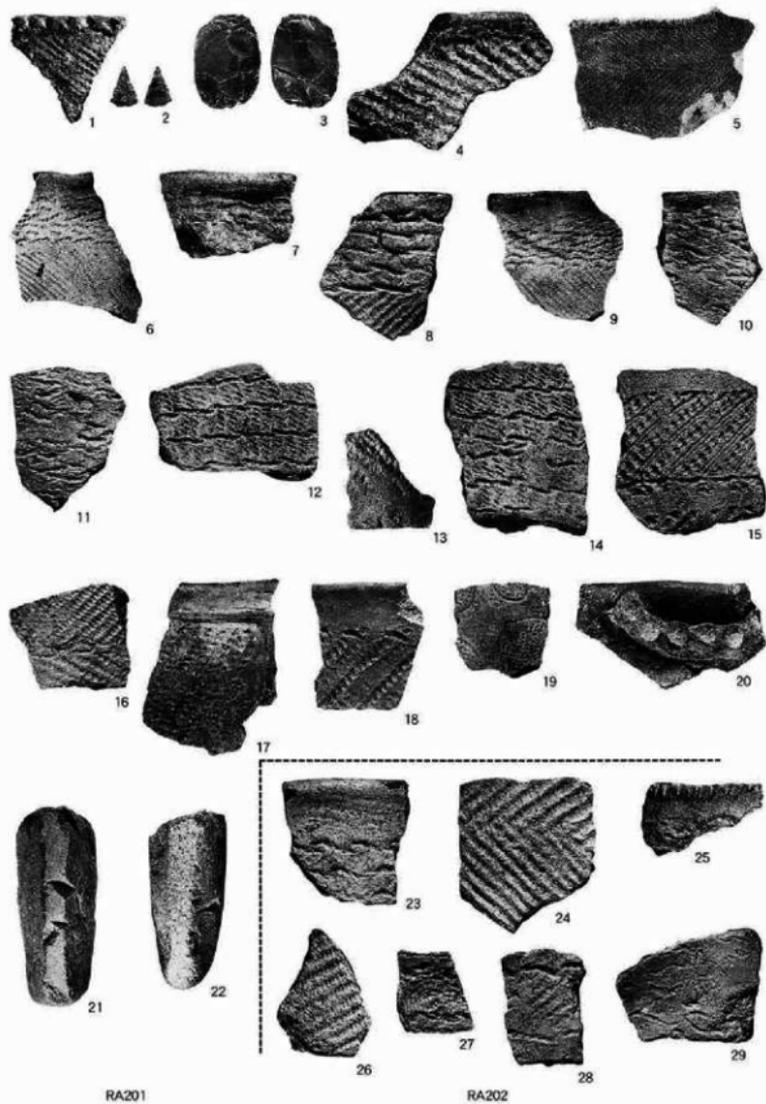


RA197

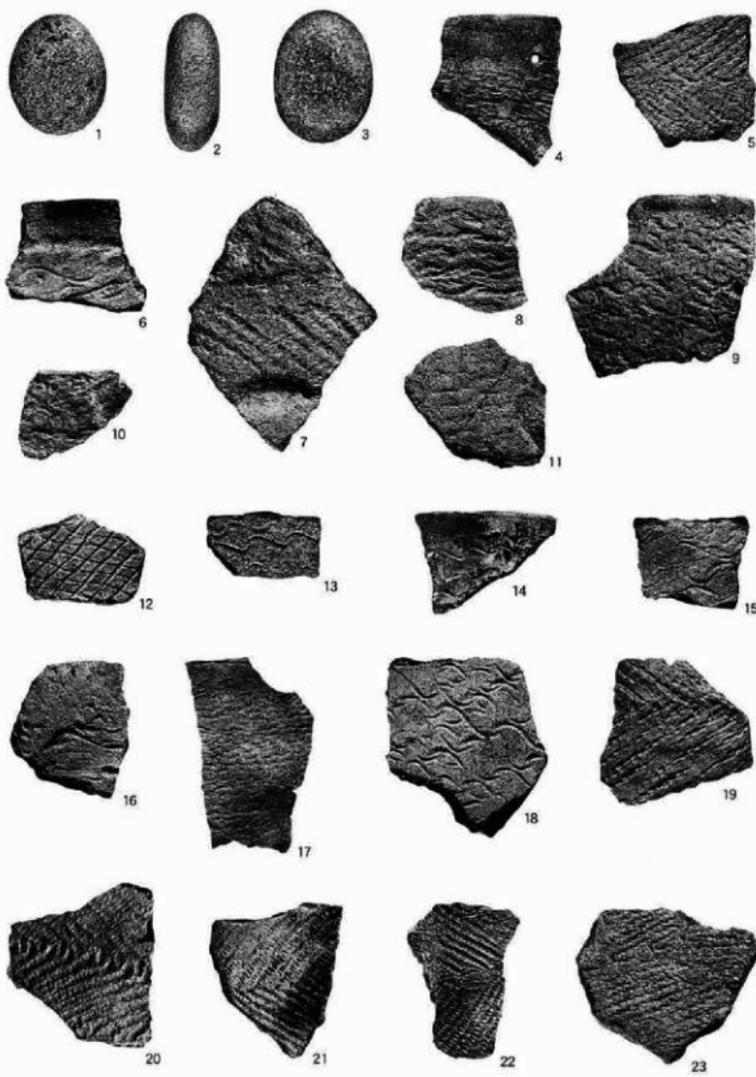
写真図版306 RA190・197住居跡出土遺物



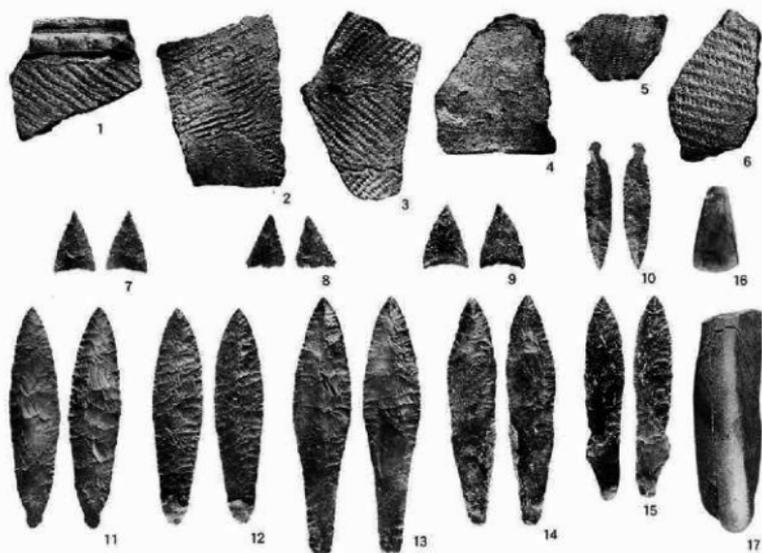
写真図版307 RA197~199・201住居跡出土遺物



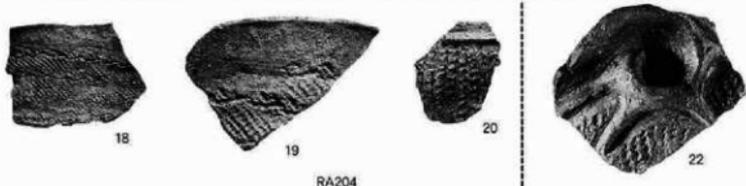
写真図版308 RA201・202住居跡出土遺物



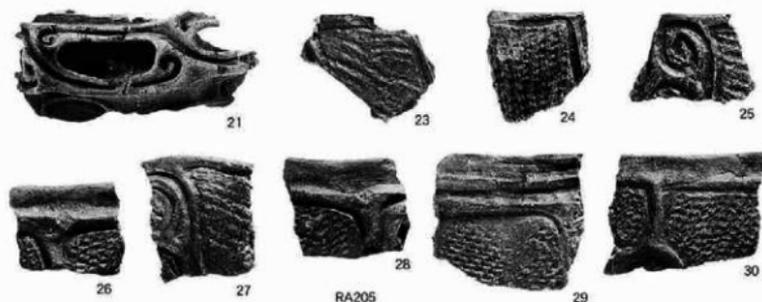
写真図版309 RA202住居跡出土遺物



RA202

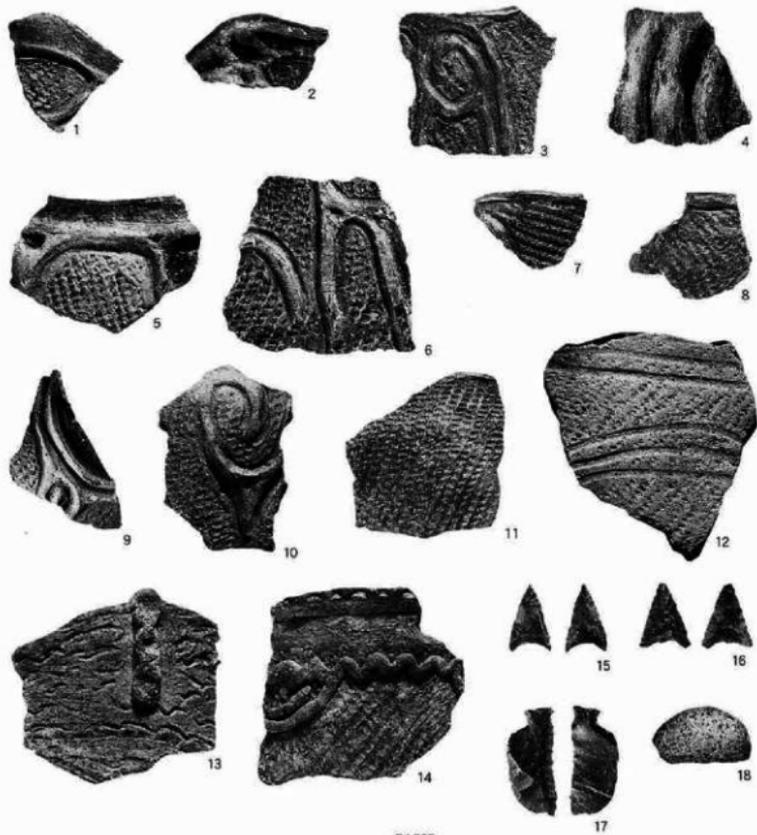


RA204



RA205

写真図版310 RA202・204・205住居跡出土遺物

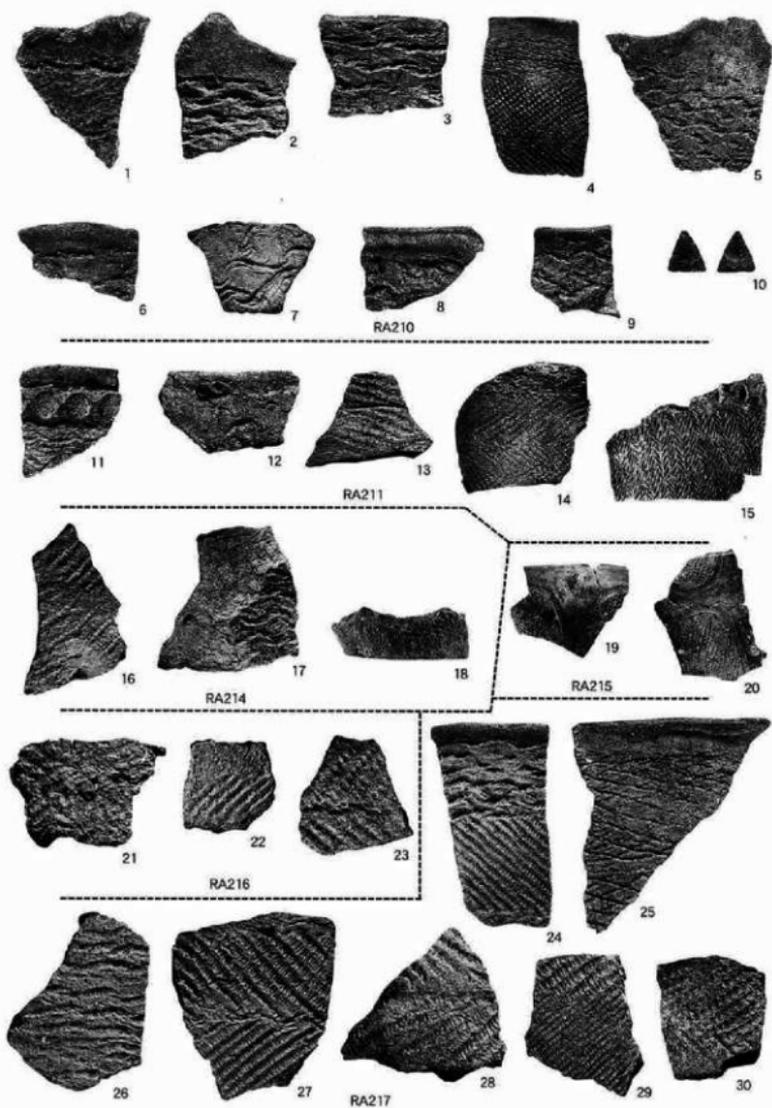


RA205

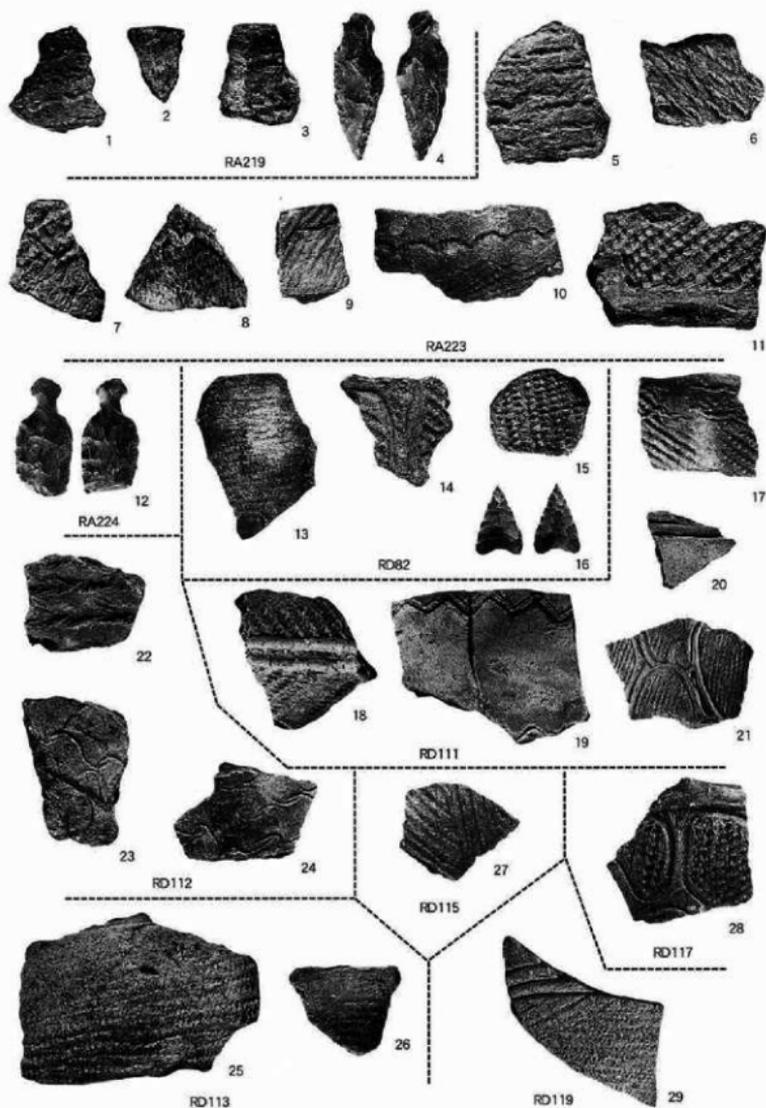


RA206

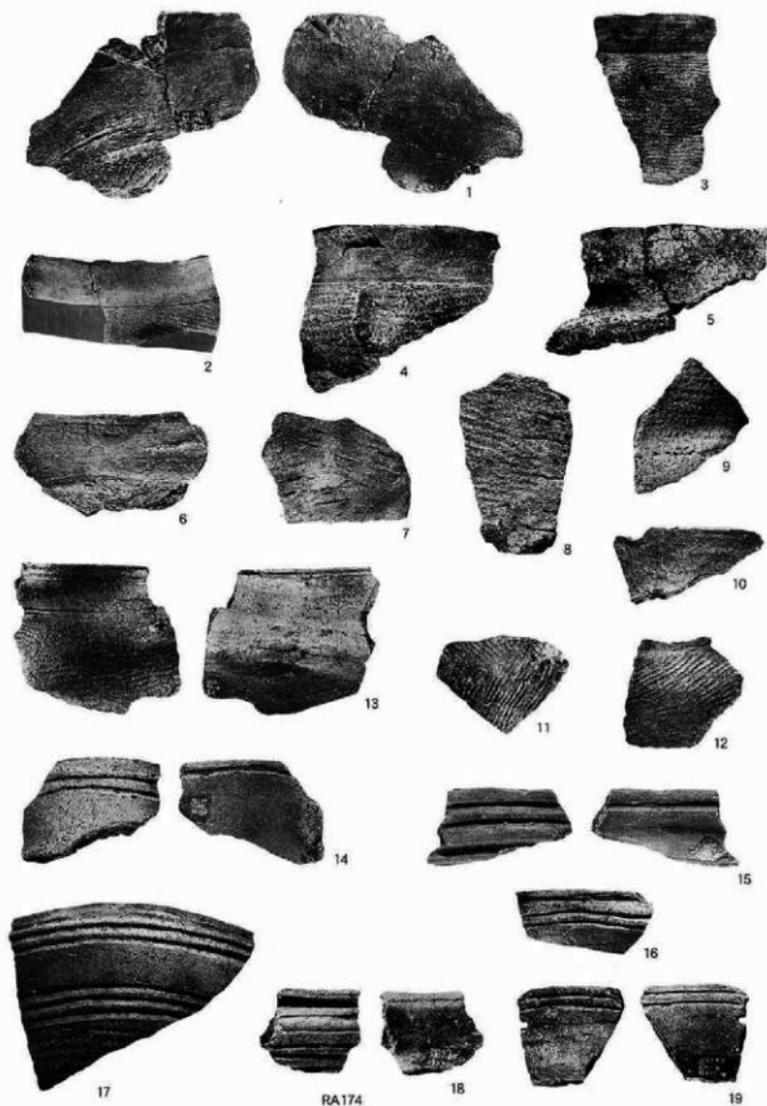
写真図版311 RA205・206住居跡出土遺物



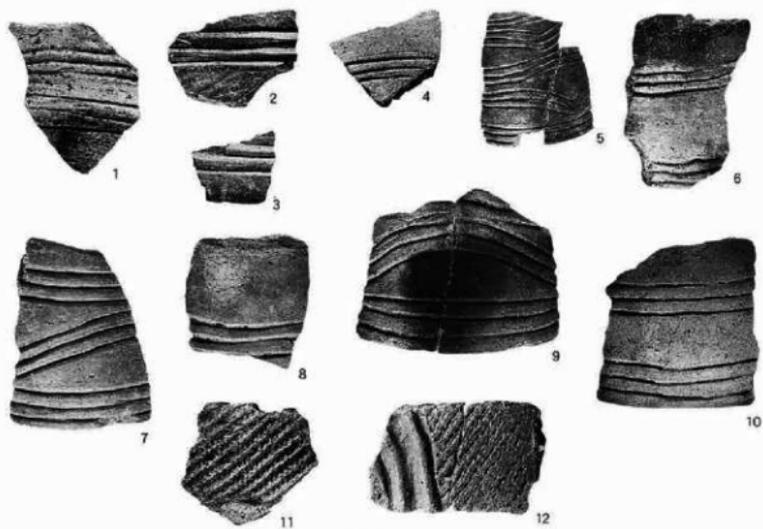
写真図版312 RA210・211・214～217住居跡出土遺物



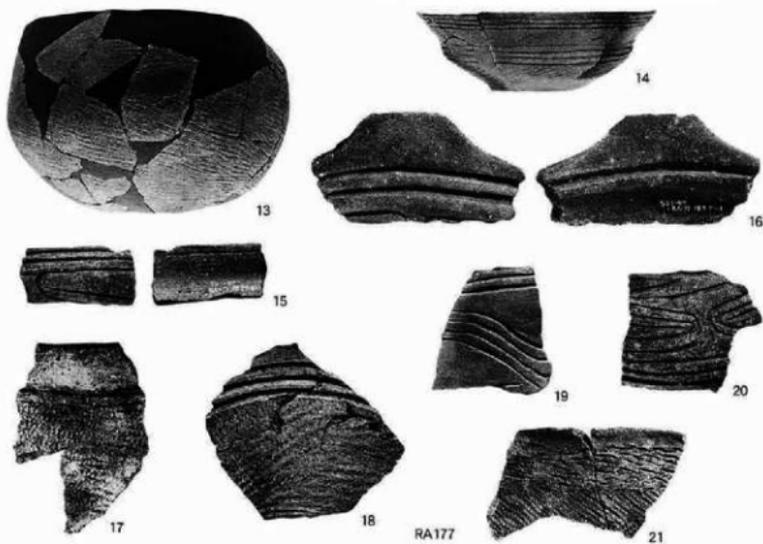
写真図版313 RA219・223・224住居跡、RD82・111~113・115・117・119土坑出土遺物



写真図版314 RA174住居跡出土遺物

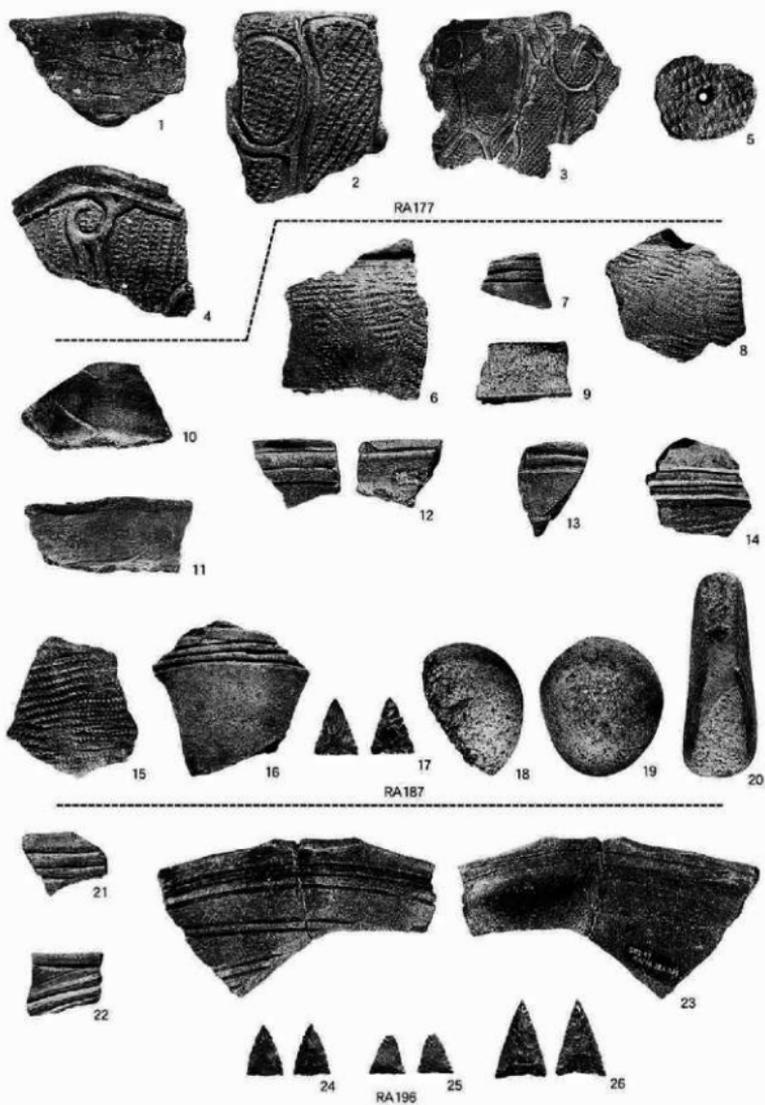


RA174

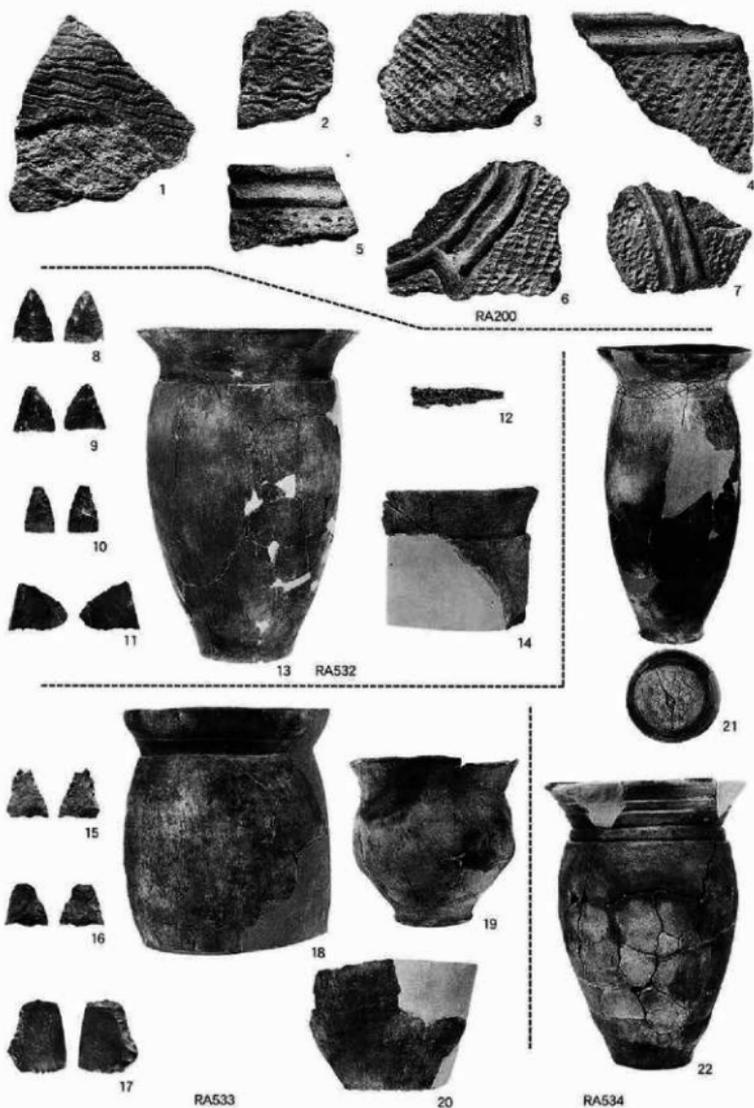


RA177

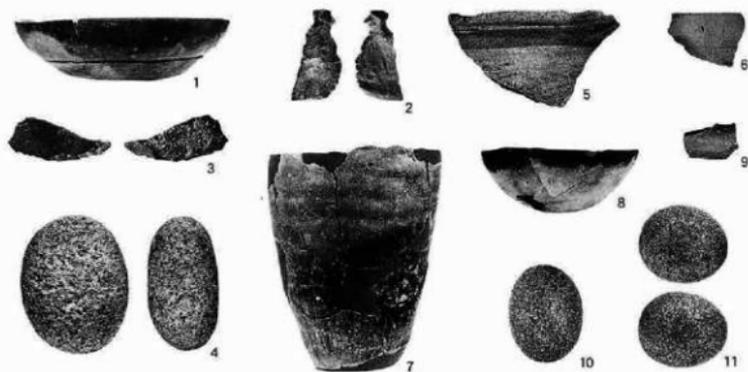
写真図版315 RA174・177住居跡出土遺物



写真図版316 RA177・187・196住居跡出土遺物



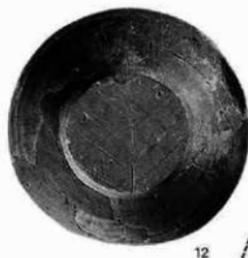
写真図版317 RA200・532～534住居跡出土遺物



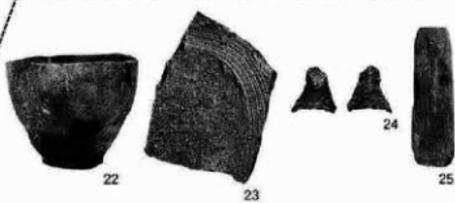
RA534



RA535



12



22

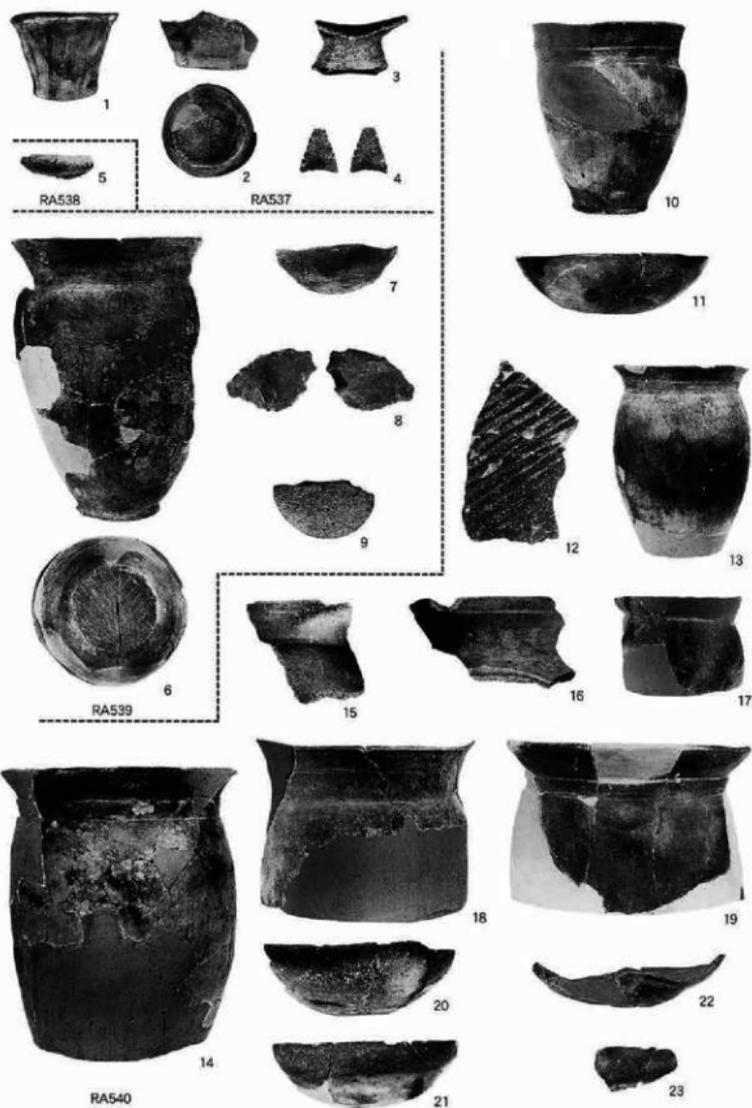
23

24

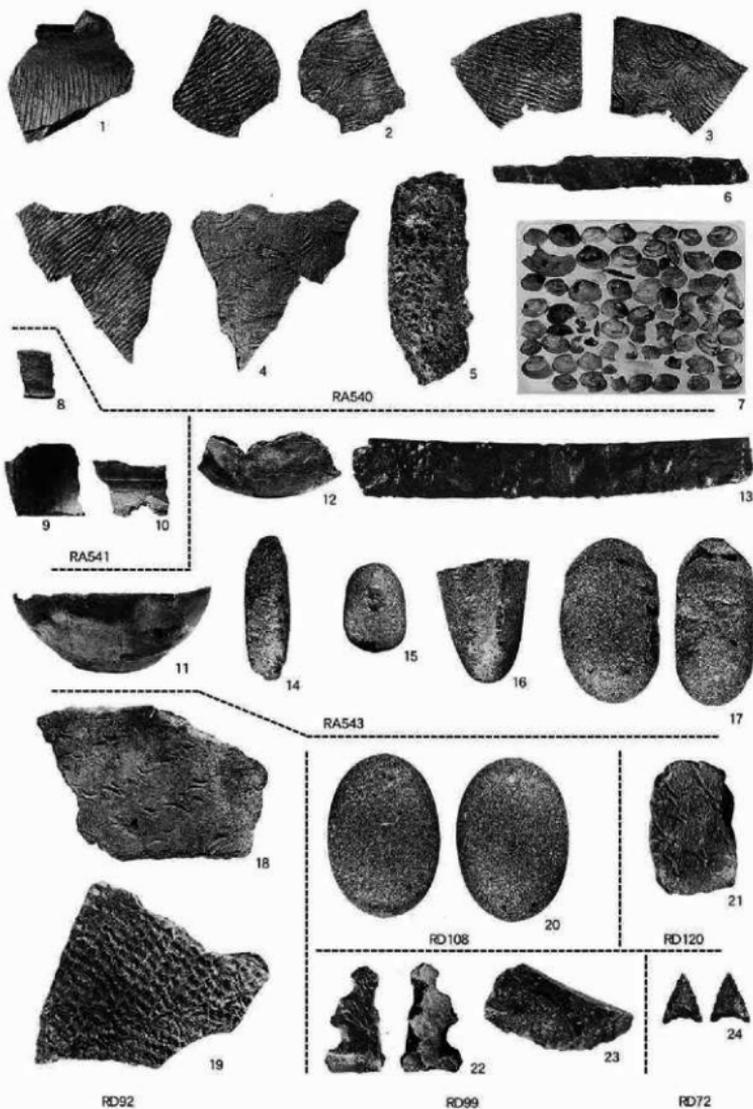
25

RA536

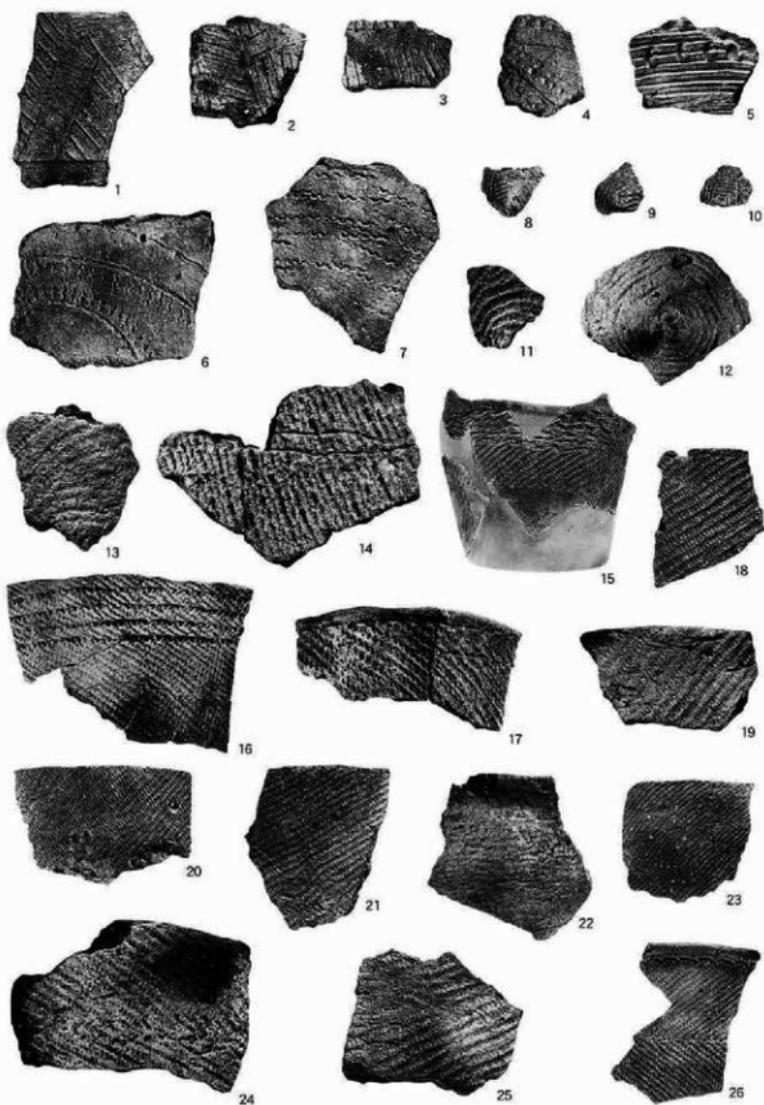
写真図版318 RA534~536住居跡出土遺物



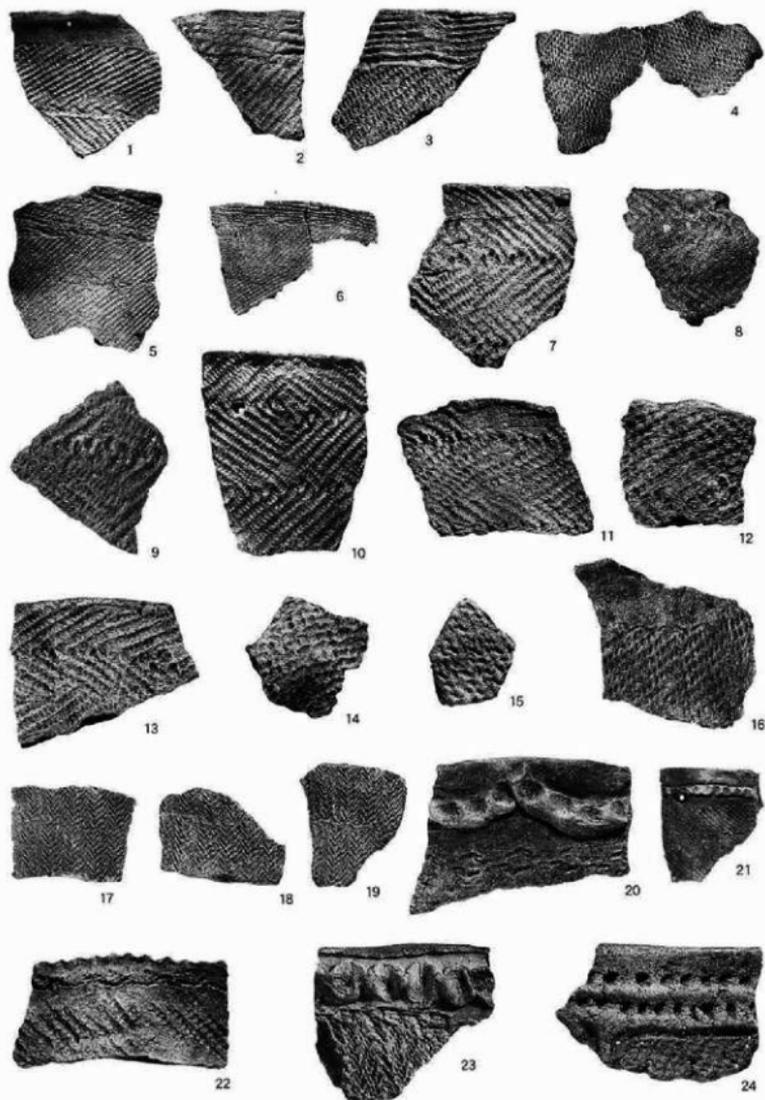
写真図版319 RA537~540住居跡出土遺物



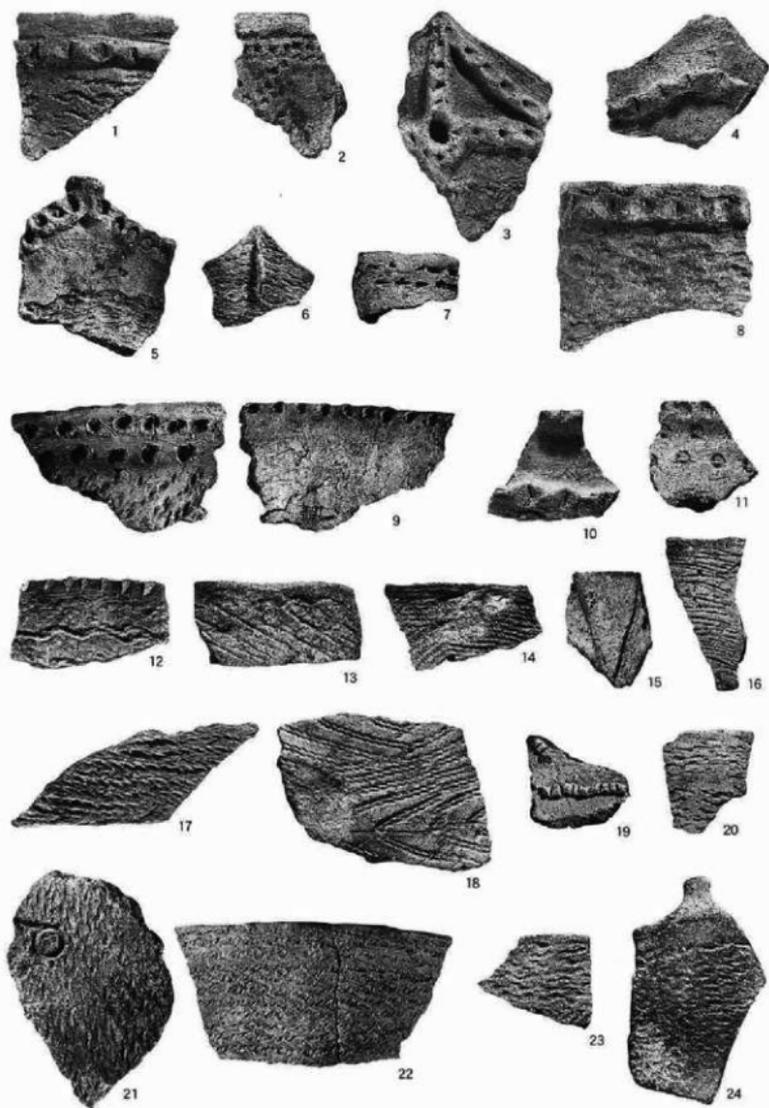
写真図版320 RA540・541・543住居跡、RD92・108・120・99・72土坑出土遺物



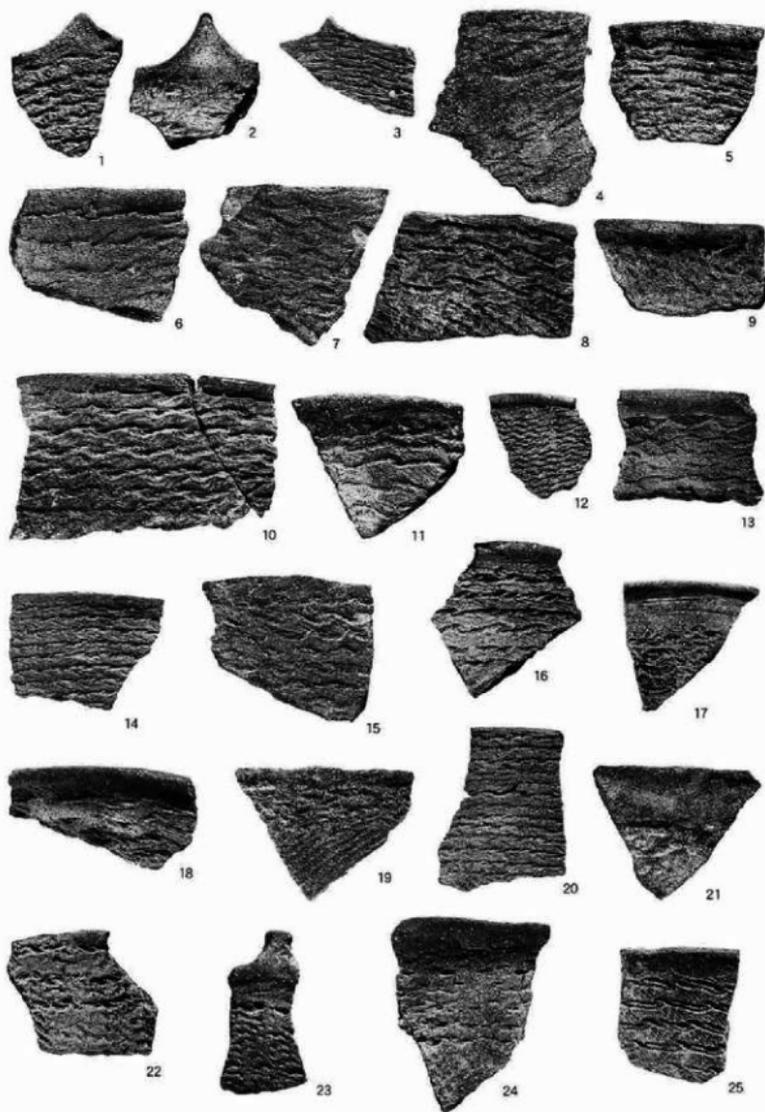
写真図版321 遺構外出土遺物（土器 1）



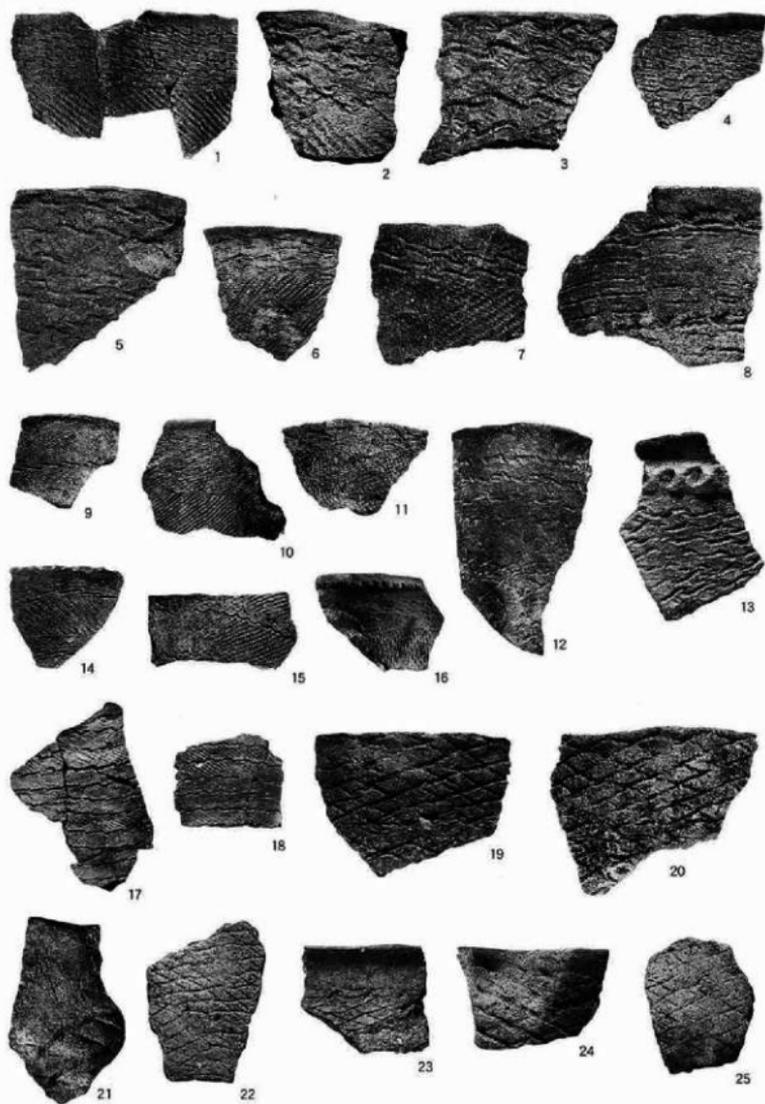
写真図版322 遺構外出土遺物（土器2）



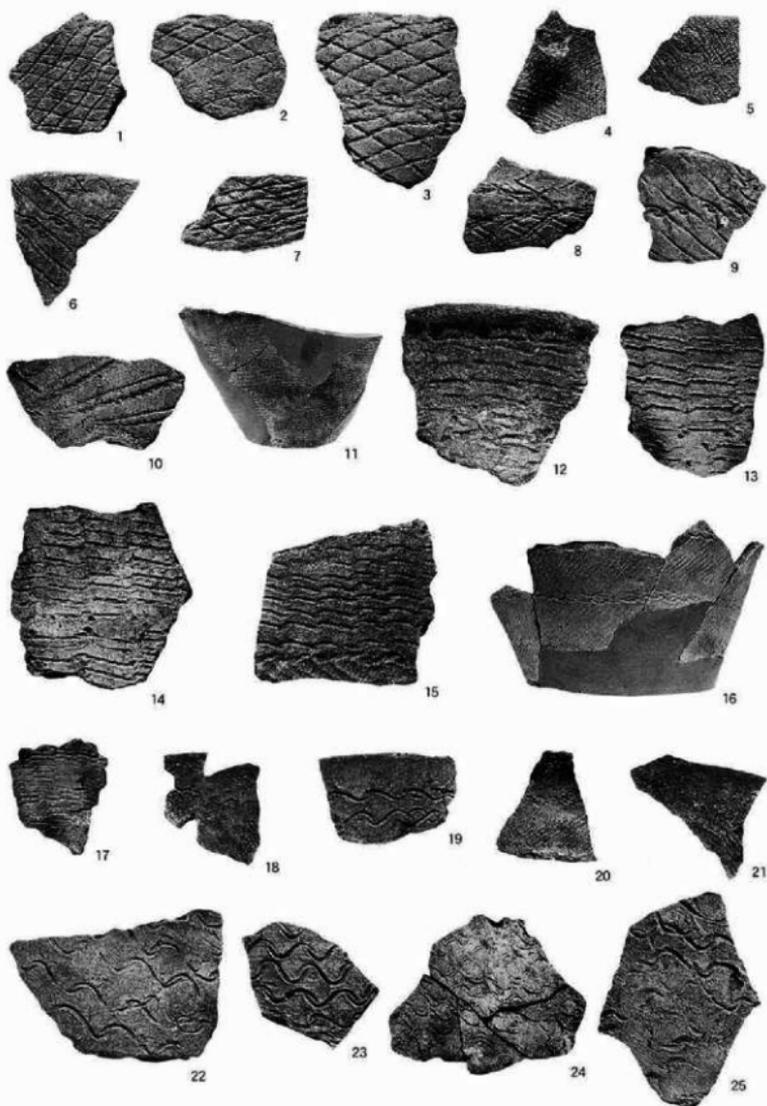
写真图版323 遺構外出土遺物（土器3）



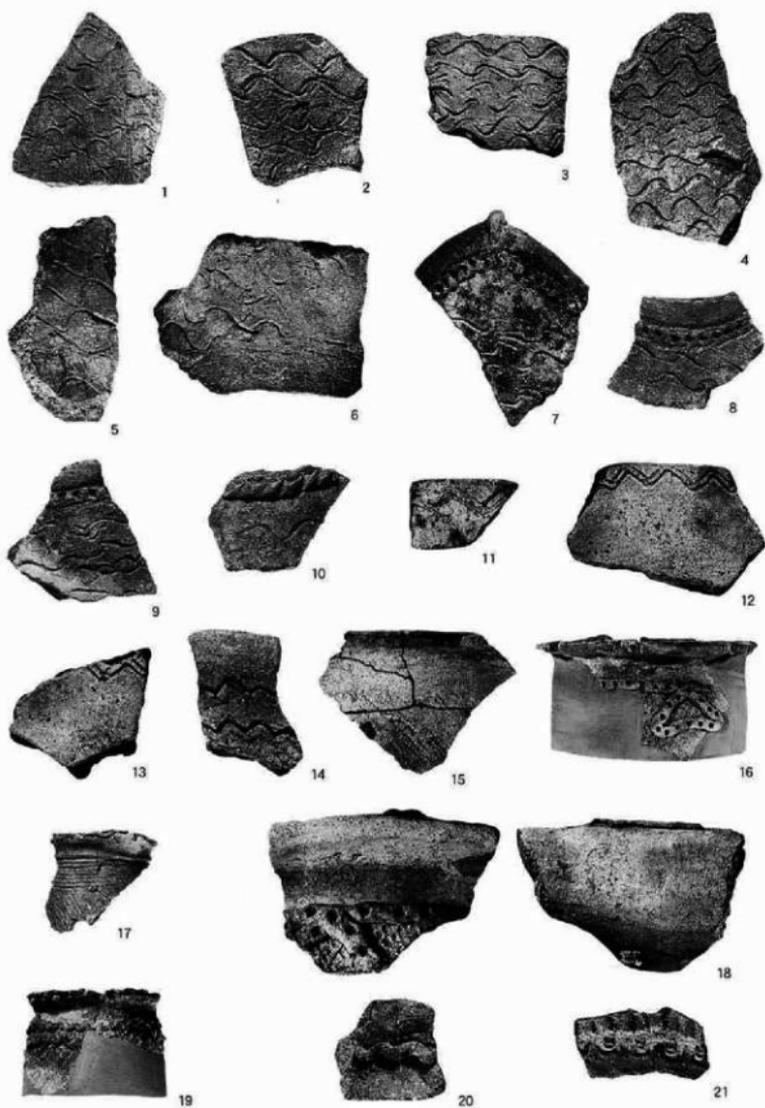
写真図版324 遺構外出土遺物（土器4）



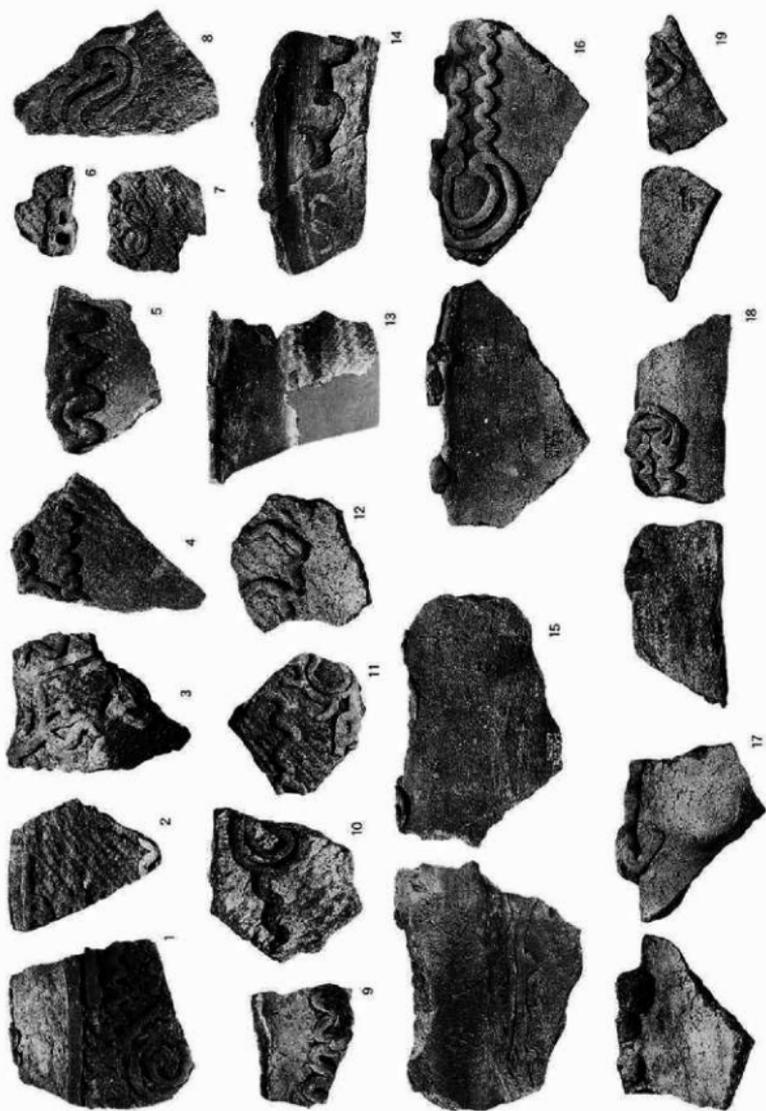
写真図版325 遺構外出土遺物（土器5）



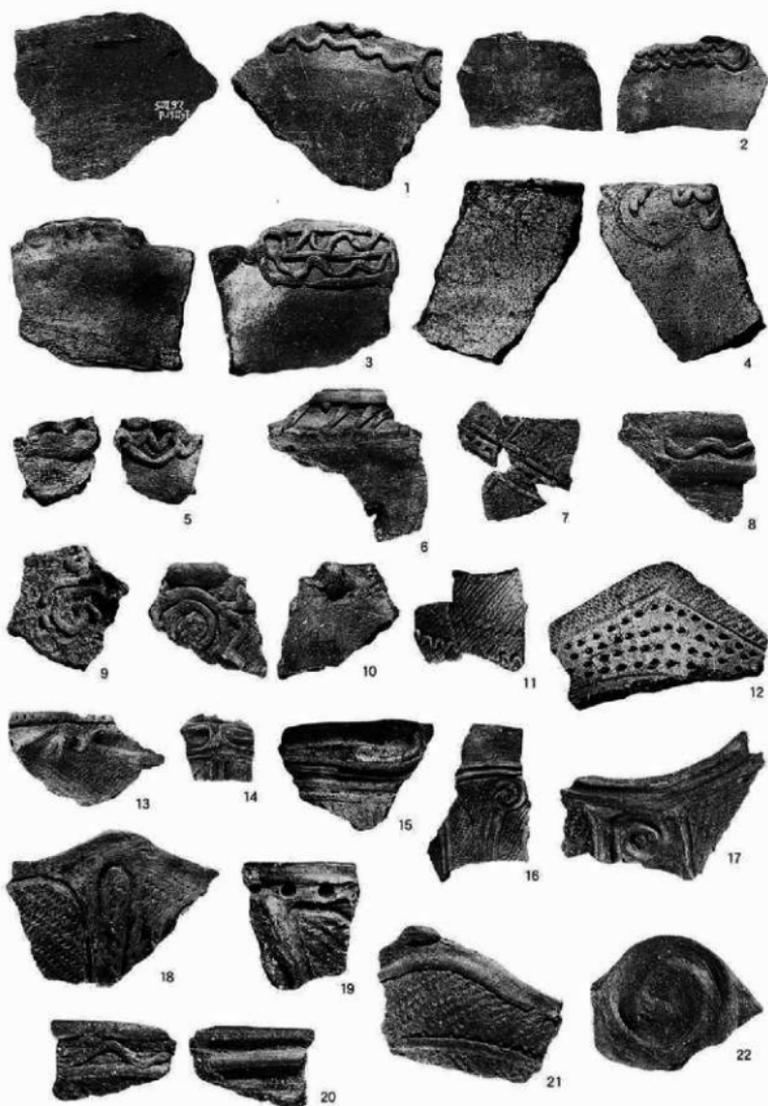
写真図版326 遺構外出土遺物（土器6）



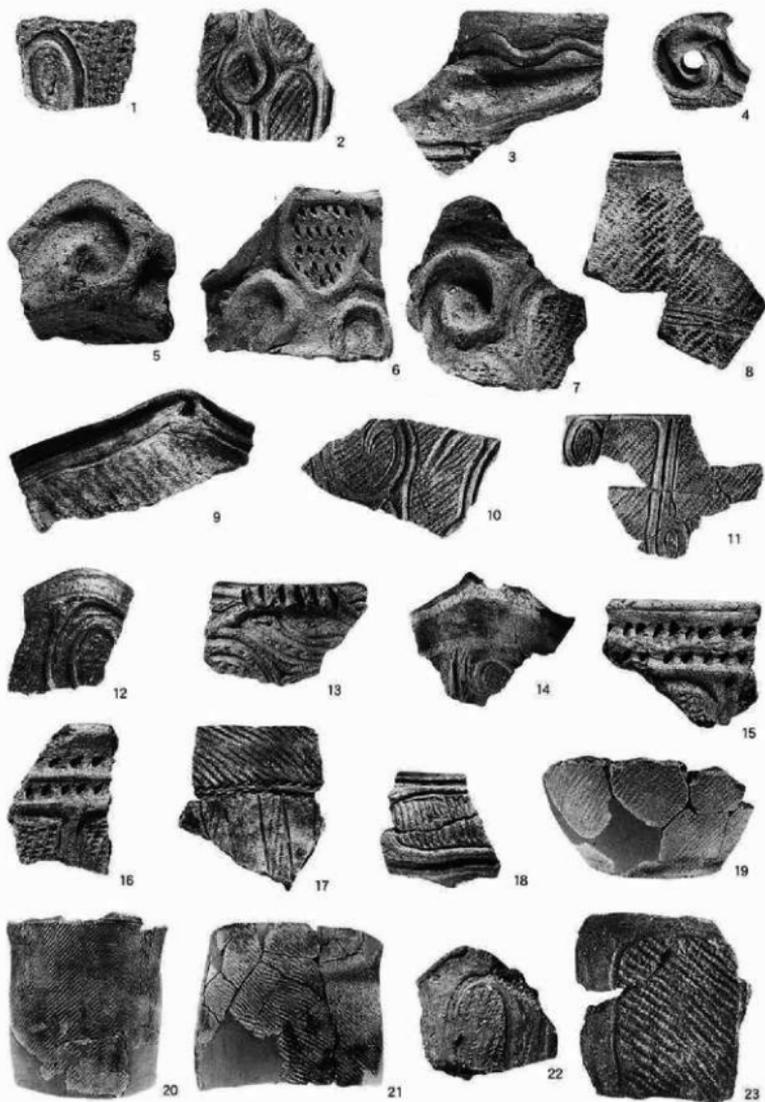
写真図版327 遺構外出土遺物（土器7）



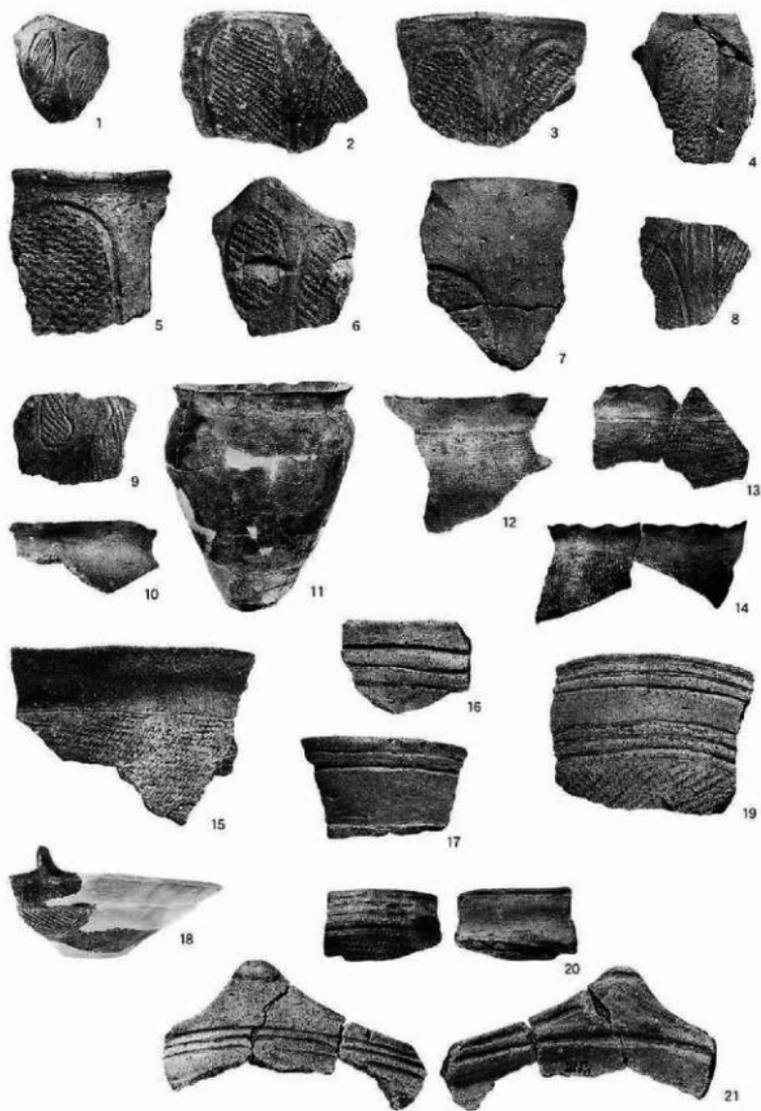
写真图版328 遼東外出土遺物(土器8)



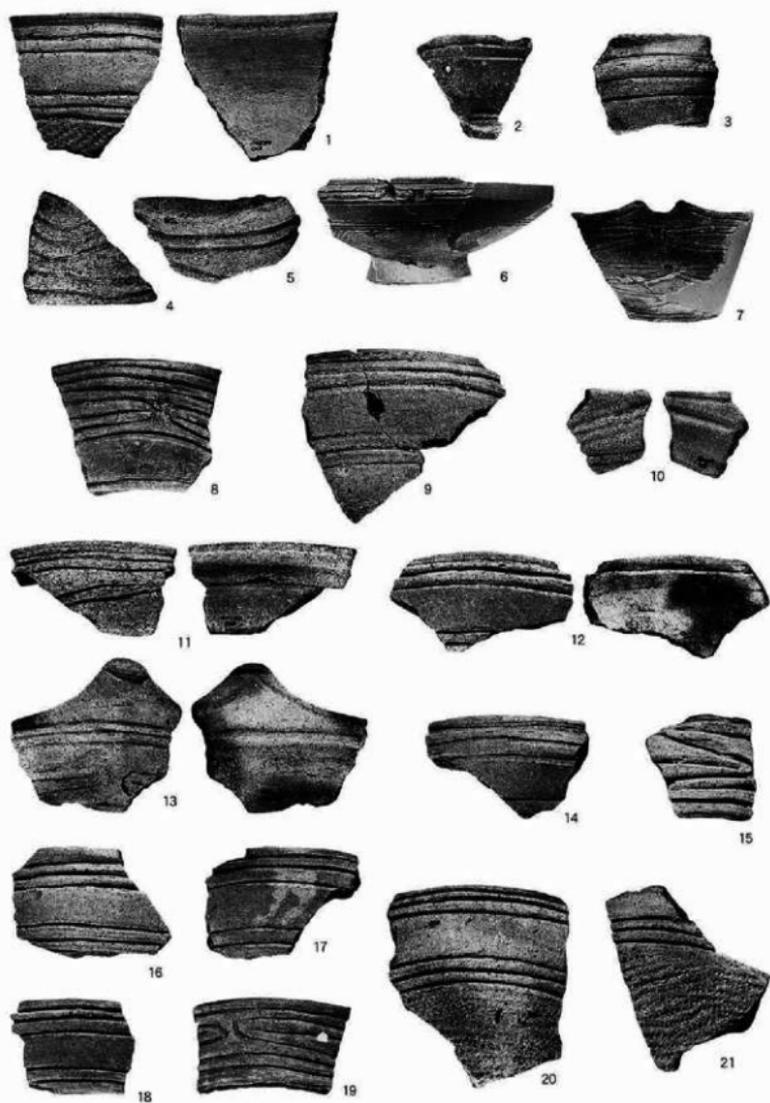
写真図版329 遠構外出土遺物（土器9）



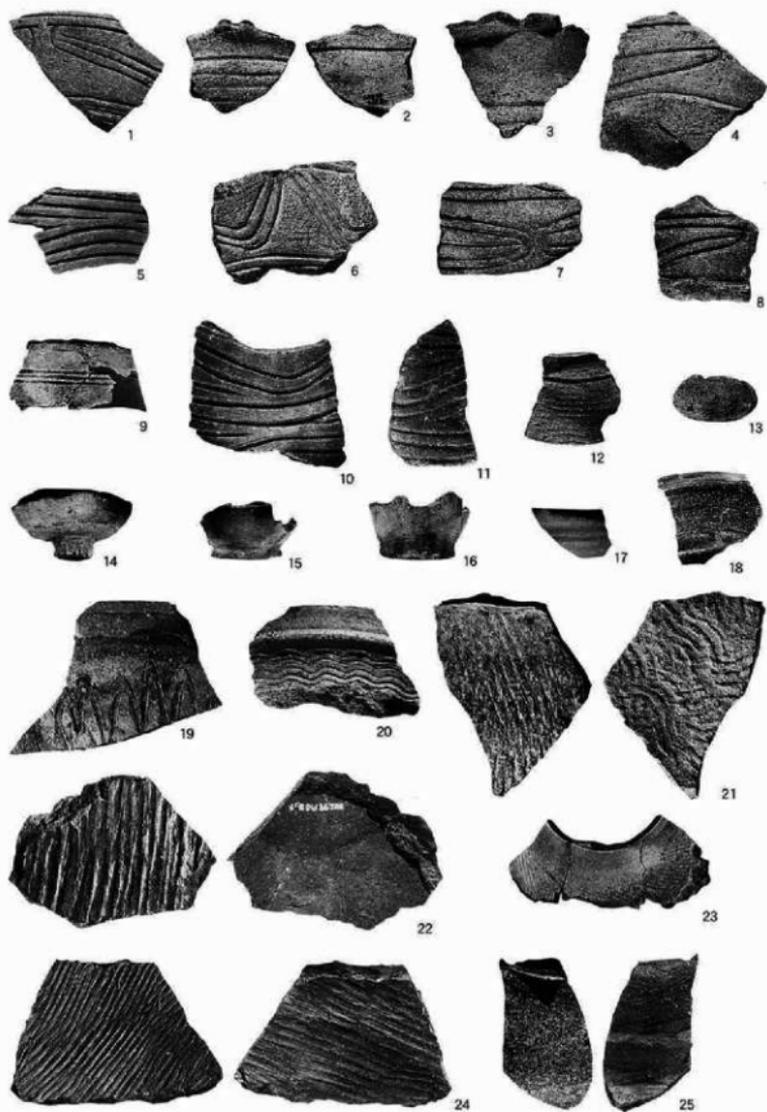
写真図版330 遺構外出土遺物（土器10）



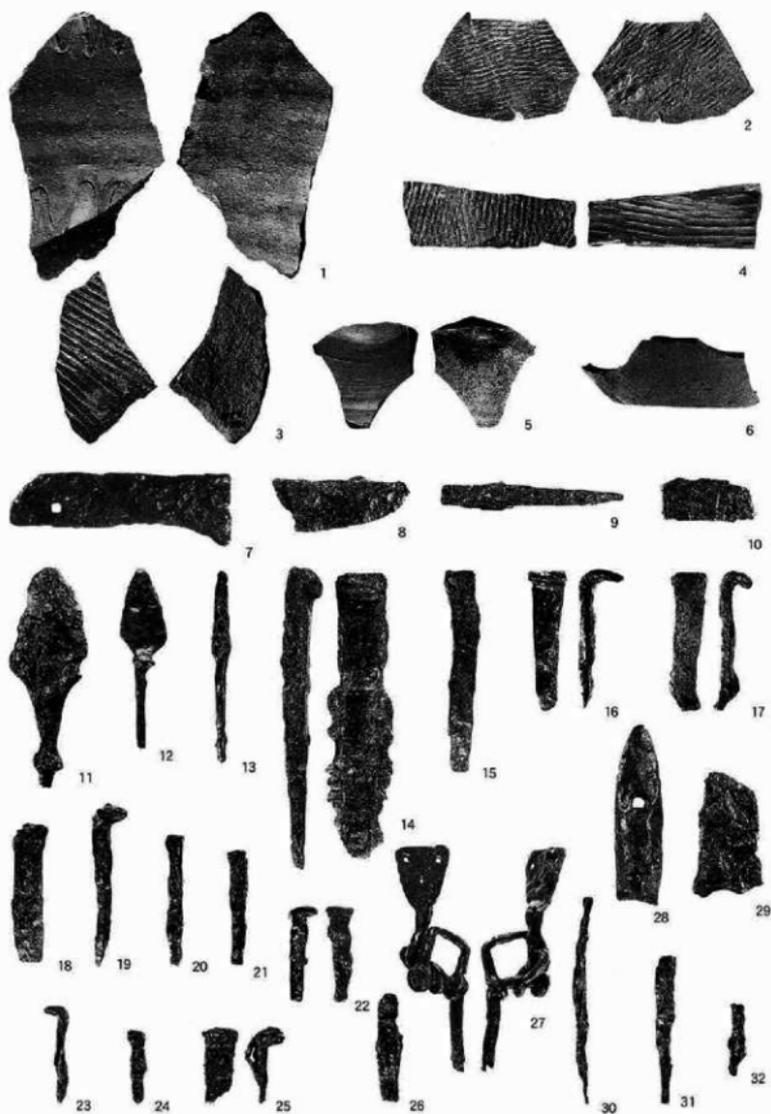
写真図版331 遺構外出土遺物（土器11）



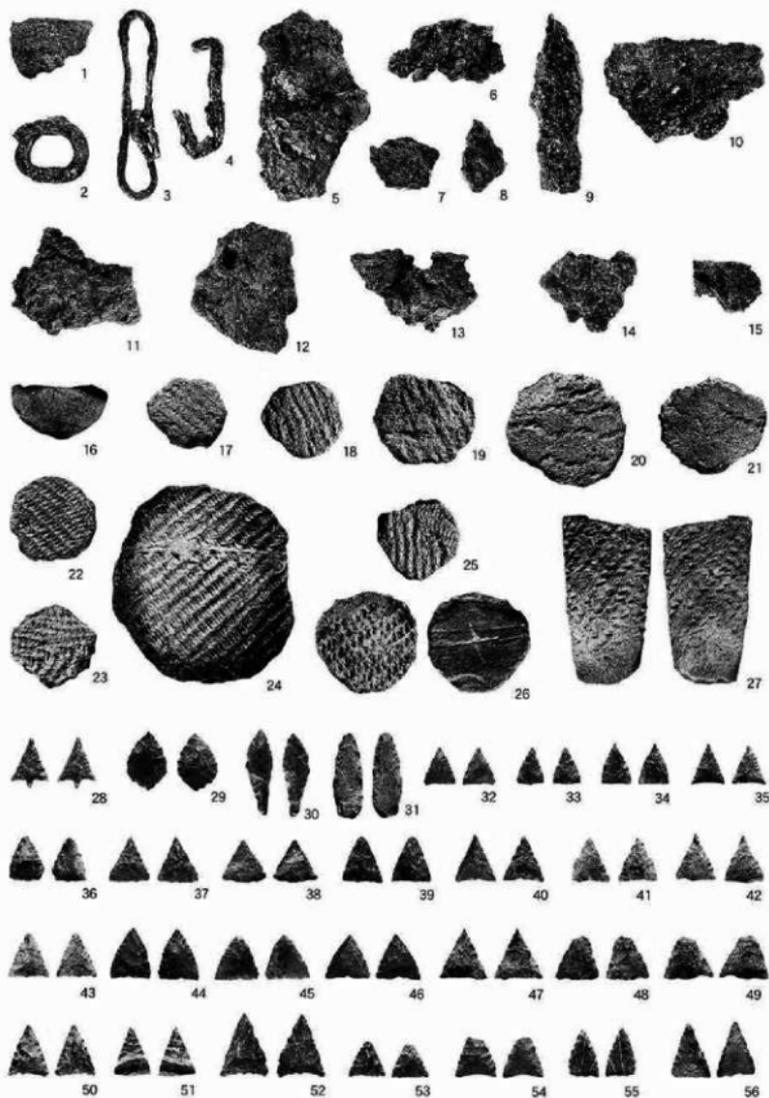
写真図版332 遺構外出土遺物 (土器12)



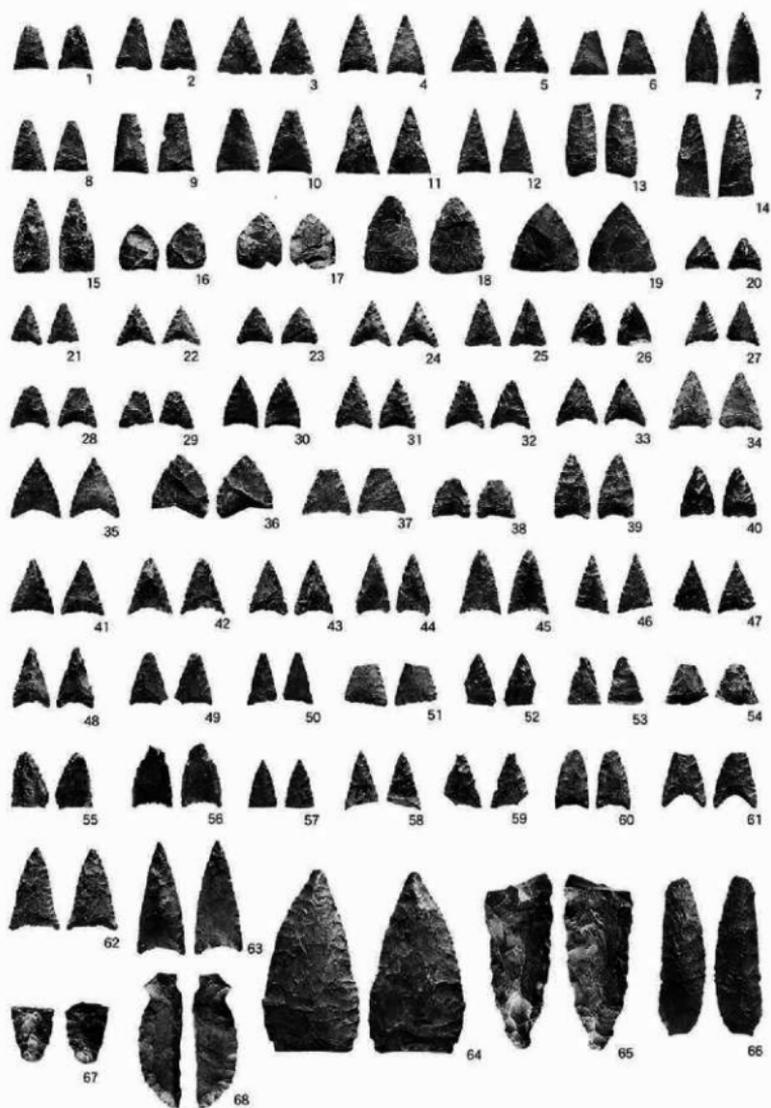
写真図版333 遺構外出土遺物 (土器13)



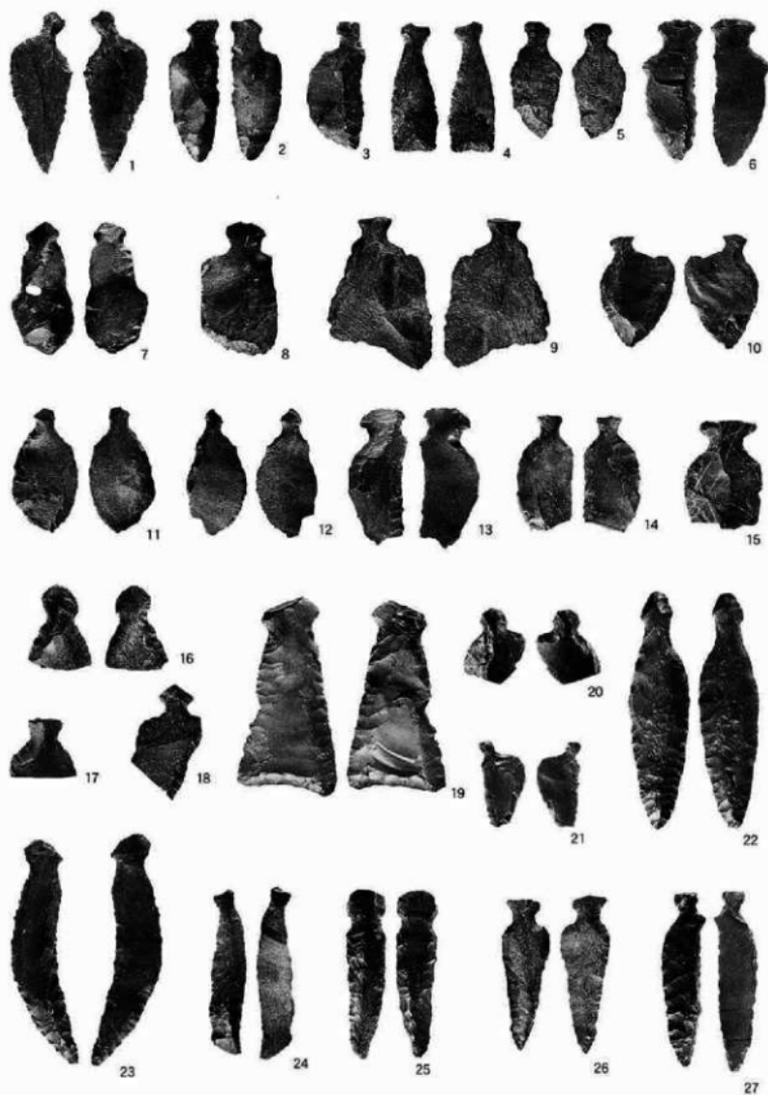
写真図版334 遺構外出土遺物（土器14・鉄製品1）



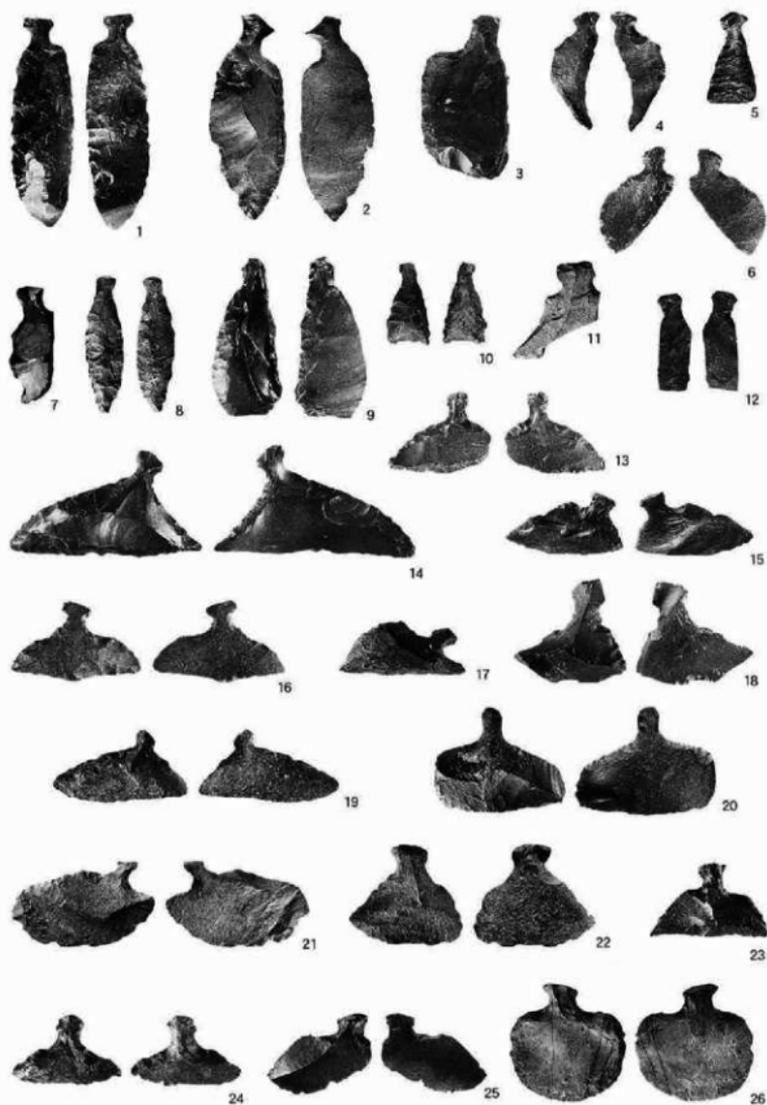
写真図版335 遺構外出土遺物（鉄製品2・土製品・石器1）



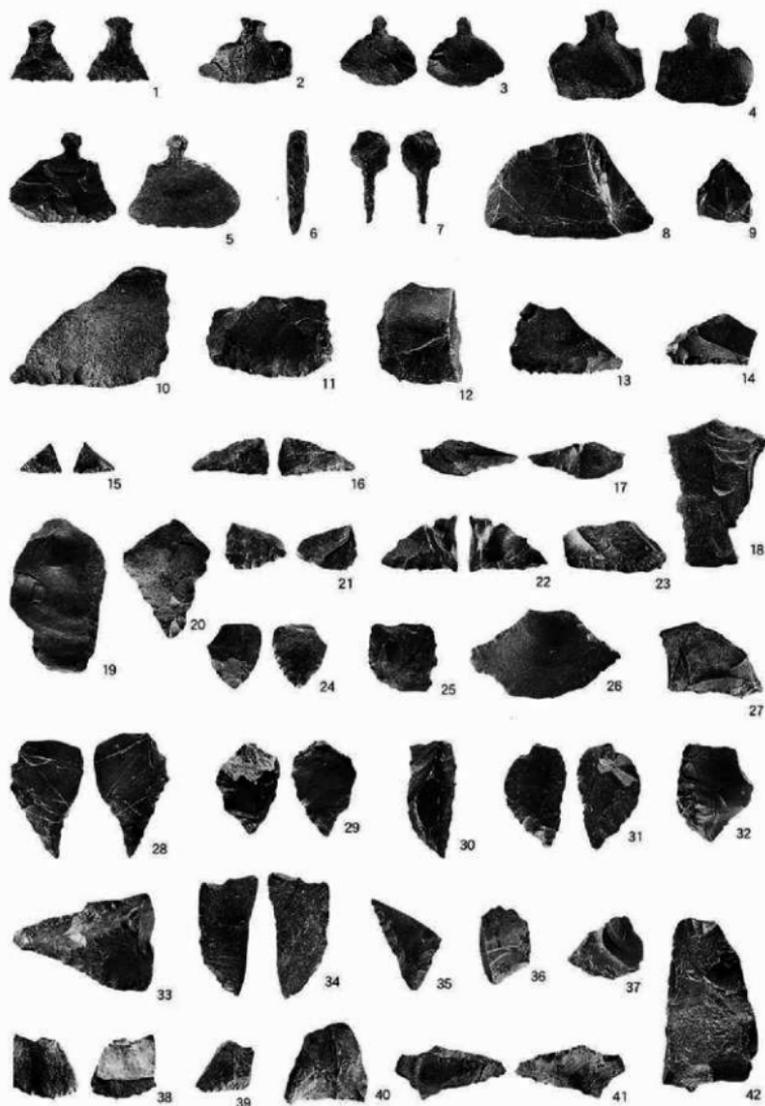
写真図版336 遺構外出土遺物（石器2）



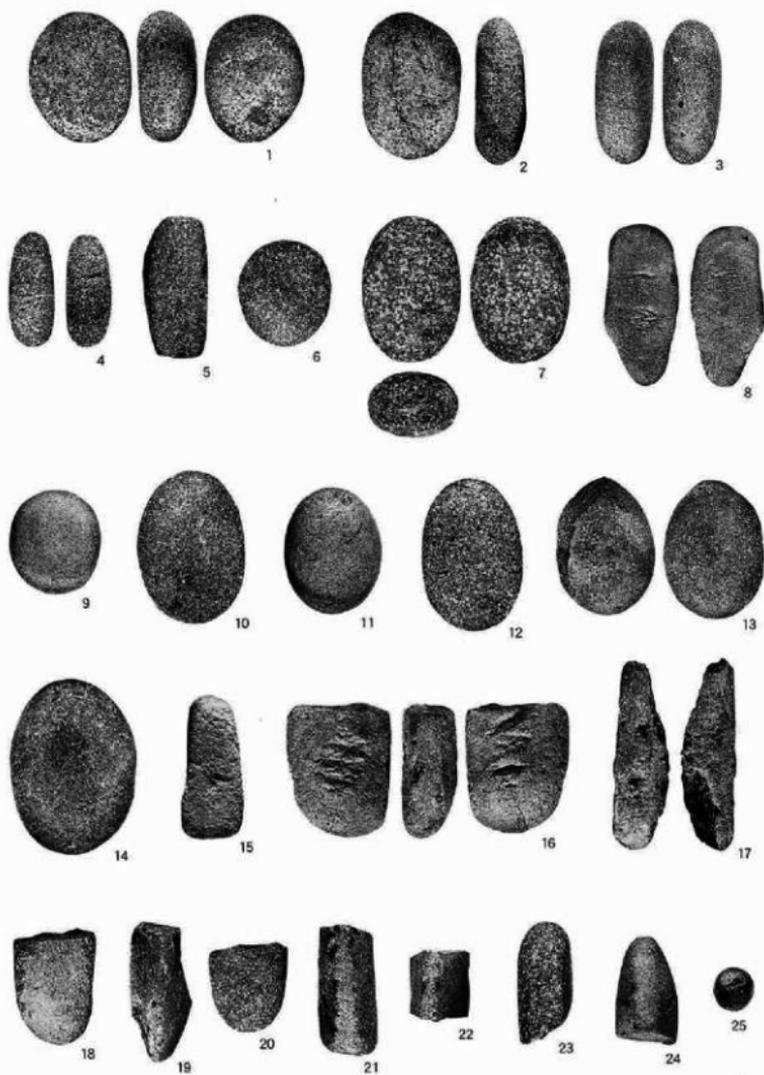
写真図版337 遺構外出土遺物（石器3）



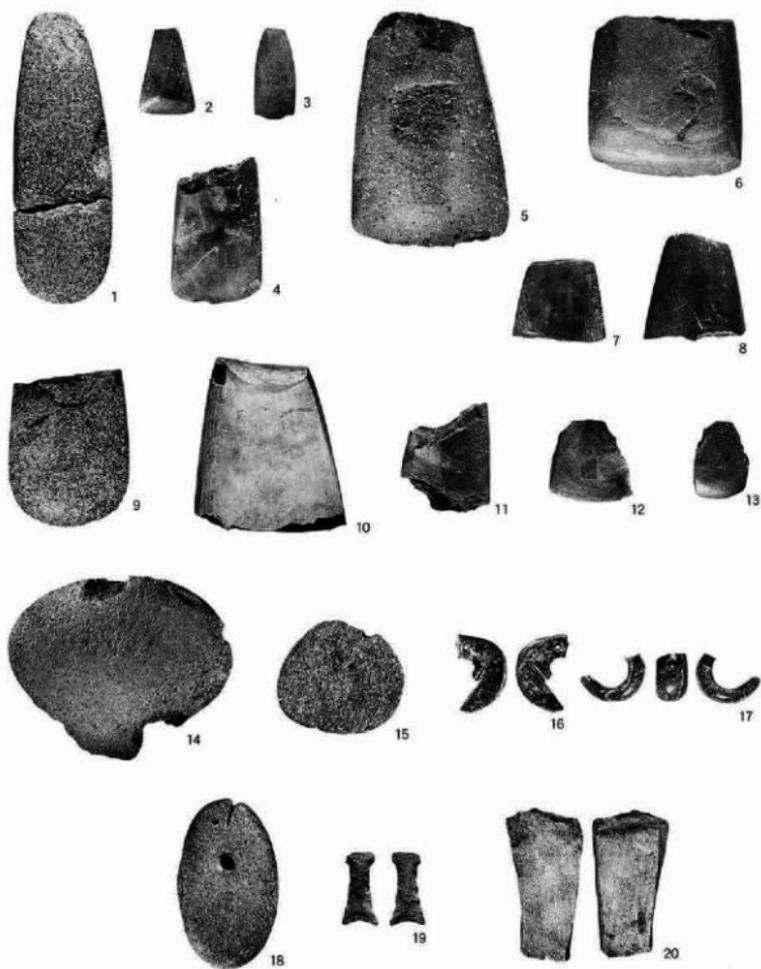
写真図版338 遺構外出土遺物(石器4)



写真図版339 遠構外出土遺物（石器5）



写真図版340 遠構外出土遺物（石器6）



写真図版341 遺横外出土遺物（石器7）



報告書抄録

ふりがな 書名 副書名 巻次 シリーズ名 シリーズ番号 編著者名 編集機関 所在地 発行年月日	さわだいちいせきちょうさほうこくしょ 沢田 I IV 遺跡調査報告書 三陸自動車道（山田道路）関連遺跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第318集 佐々木清文 千葉正彦 星 雅之 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL 019-638-9001 FAX 019-638-8563 2000年3月31日				
ふりがな 所収遺跡名 ふりがな 所在地 コード 北緯 東経 調査期間 調査面積 調査原因	さわだいちいせき 沢田 I 遺跡 いわてけんしもへいぐんやまだちょうやまだ 岩手県下閉伊郡山田町山田4地割り10ほか 市町村 03482 39°28'39" 141°57'9" 19940801~19941111, 19950615~19950804, 19960801~19960830, 19970407~19971113 11,680m ² 道路建設にかかる事前調査				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沢田 I 遺跡	集落	縄文 弥生 奈良 平安	縄文住居 120 弥生住居 7 古代住居 44 土坑 132 落し穴 3 焼土 23 木炭窯 2 溝跡 3 鍛冶工房 1	縄文土器 63箱 石器 835点 土師器・須恵器 30箱 鉄製品 50点 鉄滓 30kg 羽口 20点	縄文時代前期 ~平安時代の 遺構が重複

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所長	佐藤基
副所長	伊藤直司
〔管理課〕	
課長	川浪清徳
主任	立花多加志
主事	日影睦人
〔調査第一課〕	
課長	小田野哲憲
課長補佐	佐々木清文
主任文化財	酒井宗孝
専門調査員	小山内透
文化財	中田速
専門調査員	吉田充
	鎌田勉
	小笠原健一郎
	烏居達人
	濱田宏
	佐々木進悦
	安藤由紀夫
	木戸口俊子
	小野寺正之
	阿部勝則
	千葉正彦
	羽柴直人
	高木晃
	佐藤淳一
	菅原靖男
	半澤武彦
	朝倉雄大
	菊池貴広
	村本多郎
	中村直美
	丸山浩治
期	佐藤綾子
専	平めぐみ
	北出勲
	江藤敦
	小林弘卓
	小原広幸

嘱託	藤島忠子
	新田トヨ
	佐々木光重
〔調査第二課〕	
課長	高橋 與右衛門
課長補佐	中川重義
主任文化財	高橋 貞介
専門調査員	古館 貞身
	阿部 眞澄
	松尾 芳幸
	小原 眞一
	上藤 徹
	前田 佐知子
	金子 計
	岩沢 悟
	早坂 務
	佐々木 光
	晴山 雅雅
	星 雅
	佐々木 琢
	杉沢 昭太郎
	溜 浩二郎
	北村 忠昭
	金子 昭彦
期	鈴木 香彦
専	平澤 義彦
	布谷 義規
	山熊 住里
	古藤 田里
	古川 徳徽

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第318集

沢田1遺跡発掘調査報告書第二分冊

三陸縦貫自動車道関連発掘調査

印刷 平成12年3月27日

発行 平成12年3月31日

発行(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

電話 (019) 638-9001

FAX (019) 638-8563

印刷 株式会社 陵印刷

〒020-0122 盛岡市みたけ二丁目22-50

電話 (019) 641-8000

FAX (019) 641-8085

